

授業科目名	<b>基礎演習1（再履修）／基礎演習a（再履修）</b>				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

大学における研究活動の基礎として

- (1) 学科・コース別学修では、所属の学科・コースの指導により、設定された学習内容に基づき授業を展開します。
- (2) グループ学修では、グループで協働して目的を達成するために必要なことはなにかを体験から学ぶと同時に、様々な学習に対応できる汎用的技能の習得を目指します。
- (3) 今後の学修活動に必須となる文章作成能力について、授業時間外の活動を中心にしっかりと実践し、論文・レポートの執筆に必要な文章能力を身に付けます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

大学生活における研究活動の基本を体験します。

#### 目標：

各所属の専門導入にあたる活動やグループ活動の実践を通じて、自己の理解を深めるとともに、積極的行動をとれるようになる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP9. 役割理解・連携行動
- 3 . DP8. 意思疎通

積極的行動を取ることができるようになる  
グループ活動の実践を通じて、自己の役割について考え、経験を積む。  
グループでの活動をスムーズに行えるコミュニケーション能力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度・積極性	50%	： 与えられた課題に積極的に取り組んでいるか グループ活動においてきちんと共同することができたか
提出物	30%	： 提出物がきちんと期限内に提出できているか 活動に際して、活動記録や観察などができているか レポートについてはルーブリックによる評価
試験（レポート）	20%	： 期末に課す活動報告レポートにより評価

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献等は、適宜授業中に紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 西館3階研究室  
備考・注意事項： nakai-hi@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

回数	内容	到達目標	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス 学びの目的の理解</b> 授業の進め方や成績評価などについて説明をします。	成長目標と実現のための計画	4時間
第2回	<b>専門導入学修 学びの目標設定</b> 所属の学科・コースの学びについて考える	専門導入学修の行動計画	4時間
第3回	<b>専門導入学修 学びの体験</b> コースの学びの実践	専門導入学修の記録	4時間
第4回	<b>専門導入学修 学修におけるPDCA</b> 実践内容の改善	専門導入学修改善の記録	4時間

第5回	<b>専門導入学修 学びのふりかえり</b> 実践内容の省察	専門導入学修のふりかえり	4時間
第6回	<b>専門導入学修 発表</b> コース学修のふりかえりと報告	発表のふりかえり	4時間
第7回	<b>グループ活動の説明と実践</b> 本格的なグループ活動を行うに当たっての基本説明とグループの役割分担についての説明及び取組課題についての事前説明を行います。	グループ活動の計画	4時間
第8回	<b>課題学修① 新聞の作り方</b> 新聞記事の構成について学び、文章の書き方やまとめ方についての理解を深める	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第9回	<b>課題学修② コンセプト設計</b> 自分達で新聞を作成することを想定してグループで作成する際のコンセプトについて検討する。	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第10回	<b>課題学修③ 取材内容の検討</b> 検討したコンセプトをもとに、取材内容の検討を行う。取材の際には、十分な事前調査が必要であり、そうした事前準備の重要性を学ぶと同時に、実際に準備活動を行う。	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第11回	<b>課題学修④ 現地調査の実施</b> 他人とのコミュニケーションの取り方や、質問の仕方について工夫をする	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第12回	<b>課題学修⑤ 記事の編集</b> インタビューした内容の記事として文章にする。文章の技法だけでなく、文字数の制約なども踏まえた記事の書き方を学ぶ	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第13回	<b>課題学修⑥ 報告と評価の準備</b> 作成した新聞と作成の活動に際しての様々な体験をグループで報告を行うための準備を行う	報告内容の確認と発表練習	4時間
第14回	<b>グループ活動の省察</b> これまでの活動を通して出来上がった資料を使って報告会を実施します。また、グループ活動における、グループ（組織）の評価と個人の成果についてのふりかえりを実施します	ふりかえり結果の検証	4時間
第15回	<b>まとめと復習</b> 学年全体で集合して授業のまとめをした後、ゼミクラスに別れての学習です。この授業だけではなく、また授業だけでもなく、前期の大学生活についても話し合ってみる予定です。	これまでの学修の総復習	4時間

授業科目名	<b>基礎演習 2 / 基礎演習 b (再履修)</b>				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

大学における研究活動の基礎として

- (1) 学科・コース別学修では、所属の学科・コースの指導により、設定された学修内容に基づき授業を展開します。
- (2) グループ学修では、グループで協働して目的を達成するために必要なことはなにかを体験から学ぶと同時に、様々な学修に対応できる汎用的技能の習得を目指します。
- (3) 今後の学修活動に必須となる文章作成能力について、授業時間外の活動を中心にしっかりと実践し、論文・レポートの執筆に必要な文章能力を身に付けます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP9. 役割理解・連携行動
- 3 . DP8. 意思疎通

#### 具体的内容：

大学生活における研究活動の基本を体験します。

#### 目標：

各所属の専門導入にあたる活動やグループ活動の実践を通じて、自己の理解を深めるとともに、積極的行動をとれるようになる。

積極的行動を取ることができるようになる

グループ活動の実践を通じて、自己の役割について考え、経験を積む。

グループでの活動をスムーズに行えるコミュニケーション能力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度・積極性	50%	： 与えられた課題に積極的に取り組んでいるか グループ活動においてきちんと共同することができたか
提出物	30%	： 提出物がきちんと期限内に提出できているか 活動に際して、活動記録や観察などができているか レポートについてはルーブリックによる評価
試験 (レポート)	20%	： 期末に課すレポートにより評価

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献等は、適宜授業中に紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

必ず履修してください。  
授業内容や順序を変更することがあります。  
欠席時には必ず担当教員に連絡をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 3限  
場所： 西館 3階研究室  
備考・注意事項： 遅刻・欠席時には必ず連絡を行うこと  
nakai-hi@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

回数	内容	前期の学修計画の確認と実践方法の検討	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス 学びの目的の理解</b> 授業の進め方や成績評価などについて説明をします。	前期の学修計画の確認と実践方法の検討	4時間
第2回	<b>専門導入学修 目標設定</b> 専門導入の学びを考える	専門導入学修の行動計画	4時間
第3回	<b>専門導入学修 学びの体験</b> 専門導入の学びの実践	専門導入学修の記録	4時間

第4回	<b>専門導入学修 学修におけるPDCA</b> 実践内容の改善	専門導入学修改善の記録	4時間
第5回	<b>専門導入学修 学びのふりかえり</b> 実践内容の省察	専門導入学修のふりかえり	4時間
第6回	<b>専門導入学修 発表</b> コース学習のふりかえりと報告	発表のふりかえり	4時間
第7回	<b>アンケート調査の確認と実施テーマ検討</b> アンケートの目的と作り方 実施テーマの検討	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第8回	<b>アンケート調査票の作成</b> 実施テーマにおける仮説と検証方法の検討 アンケート項目の作成	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第9回	<b>アンケート調査の実施</b> アンケート調査の実施	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第10回	<b>アンケート調査の集計作業</b> アンケート調査の実施と集計準備	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第11回	<b>アンケート調査結果の分析</b> アンケート結果の分析	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第12回	<b>アンケート調査における仮説の検証</b> アンケート結果の詳細分析、仮説の検証	グループ活動の個人課題の実施	4時間
第13回	<b>アンケート調査報告の準備</b> データ分析と報告準備	報告内容の確認と発表練習	4時間
第14回	<b>アンケート調査報告</b> 報告会の実施	報告内容のふりかえり	4時間
第15回	<b>まとめと復習</b> 学年全体で集合して授業のまとめをした後、ゼミクラスに別れての学習です。この授業だけではなく、また授業だけでなく、前期の大学生活についても話し合ってみる予定です。	これまでの学修の総復習	4時間

授業科目名	<b>経営学入門/マネジメント入門</b>				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

まず「マネジメント」とは何かについて基本的な理解をする。その上で、現代の企業経営の様々な活動の特徴とその裏にある仕組みについての基礎知識を習得していく。その際、現代的な事例を取り扱うが、あくまで今まで発展してきた経営学の流れに沿って行う（経営理念、経営組織、経営戦略、マーケティング、生産、労働、日本の経営、ベンチャー・中小企業、イノベーション、サステナビリティ経営、ソーシャルビジネス等）。現代における企業や社会が直面する諸課題をマネジメント的に解決していく可能性について理解を深める。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

#### 具体的内容：

企業経営の具体的事例を通じての様々な動態の理解。

#### 目標：

経営事象を考察する際に必要な基本的素養の習得。

組織活動で生じる様々な矛盾とその解決。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 問答法・コメントを求める
- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業レポート	45%	： 授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。
課題レポート	15%	： 論者の内容把握と授業目的との関連付けで評価する。
試験（筆記）	30%	： 授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、その都度紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日以外の昼休み  
 場所： 担当教員の研究室  
 備考・注意事項： メールアドレスは次の通り。koyama\_t@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションー大阪成蹊大学で経営学/マネジメントを学ぶ意義について</b> 「大阪」「成蹊」「大学」「経営学/マネジメント」のそれぞれの意味を理解し、この大学で経営学/マネジメントを学ぶ意義について確認する。	日独米での「経営学」の始まりについて調べ整理する。 4時間
第2回	<b>経営哲学・経営理念</b> 何のための企業経営かを考える。	「経営」と「経済」の違いを調べ明確にできる。 4時間
第3回	<b>経営組織</b> 企業での組織のあり方を事例を通して学ぶ。	「経営組織論」の歴史と特徴を調べ整理する。 4時間
第4回	<b>経営戦略</b> 企業戦略や事業戦略について事例を通して学ぶ。	ある業界の有名企業の経営戦略について調べ違いに応じて整理する。 4時間
第5回	<b>ベンチャー・ビジネス</b> 「起業家精神」について事例を通して学ぶ。	有名企業の創業について調べ整理する。 4時間
第6回	<b>人的資源管理</b> 企業での人材活用について事例を通して学ぶ。	「管理（論）」の歴史を調べ整理する。 4時間
第7回	<b>マーケティング</b>	「マーケティング」の定義について調べ整理する。 4時間

	開発商品がスムーズに売れて顧客を満足させる仕組みづくりを事例を通じて学ぶ。		
第8回	<b>管理会計</b> 企業の資金調達から経営計画策定、目標達成のコントロールに至る仕組みを事例を通じて学ぶ。	「ガバナンス」の仕組みについて調べ特徴を把握する。	4時間
第9回	<b>生産管理</b> 技術革新や生産方式、市場ニーズに応じて発展してきた生産管理を事例を通じて学ぶ。	「ジャストインタイム」方式について歴史を調べ特徴を把握する。	4時間
第10回	<b>情報管理</b> 情報ネットワークのあり方を、ICTやAI、IoTなどの近年の発展を踏まえ事例を通じて学ぶ。	ICTやAI、IoTの最新事例を調べ整理する。	4時間
第11回	<b>CSR・サステナビリティ経営</b> 企業の社会的責任を確認し、企業と社会が持続的に発展していくための条件を事例を通じて学ぶ。	有名企業の謳う社会貢献について調べ整理する。	4時間
第12回	<b>国際経営</b> 経営のグローバル化の歴史と現在の展開について事例を通じて学ぶ。	日本企業のアジアシフトの歴史と現在について調べ整理する。	4時間
第13回	<b>イノベーション</b> 革新的な技術・デザインによる商品開発について事例を通じて学ぶ。	ユニークな技術やデザインによるヒット製品について調べ分野ごとに整理する。	4時間
第14回	<b>ソーシャルビジネス</b> 社会問題をビジネス的手法で解決する企業・事業のアプローチについて事例を通じて学ぶ。	有名な社会起業家について調べ分野ごとに整理する。	4時間
第15回	<b>地方活性化</b> 地方消滅と言われる日本で、地方を「元気」にする企業・団体のあり方について事例を通じて学ぶ。	「地方消滅」予測について調べ、その要因を整理する。	4時間

授業科目名	<b>経営学入門/マネジメント入門</b>				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

## 授業概要

「マネジメント」とは何か、企業経営の全体像についての理解を行い、その上で、経営学とはどのような学問かについて考えます。次いで、経営学の基礎的な概念・知識として、企業・会社の種類や特徴・機能、企業と資本・労働の関わり、企業と製品・サービス市場の関わり、競争戦略、多角化、国際化、組織やリーダーシップなどの重要事項について、その基本を理解します。本講義の中で、現代において企業が果たしている役割と課題について考え、理解を深めます。講義の中では、具体的な企業の事例や最新の動向等を解説するとともに質問も行います。

## 養うべき力と到達目標

### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

### 具体的内容：

マネジメントや企業経営に関する基本的な知識・理論の理解

### 目標：

マネジメントや企業経営に関する基本的な事項や問題について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。

マネジメントや企業経営に関わる重要な問題を、自分なりの見方やアイデアで発見し、その解決案等を考えることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

### 成績評価の方法・評価の割合

小レポート（授業時間内）

### 評価の基準

： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述の場合は0点とします。

30%

期末試験

： マネジメントや企業経営に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていないかを基準にして評価します。

70%

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

藤田誠（2017）『経営学入門』中央経済社  
 片岡信之・齋藤毅憲他（2015）『はじめて学ぶ人のための経営学 ver. 3』文真堂  
 榎原清則（2013）『経営学入門（上）』日本経済新聞出版社  
 榎原清則（2013）『経営学入門（下）』日本経済新聞出版社  
 高橋伸夫（2007）『コア・テキスト経営学入門』新世社

その他は適宜紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日1・2限（9：00～12：00）

場所： 授業教室の予定

備考・注意事項： オフィスアワーに限らず、いつでも訪問可能です。

## 授業計画

回数	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス、マネジメントと企業経営の全体像</b>	教科書の第1章を読んで、自分なりに、企業や経営のイメージを考え、興味・関心のある点や疑問点をノートに書いて授業に臨んでください。	4時間
		マネジメントとは何か、企業やその経営とは何かにつき、日常生活の中で身近な企業の例も含めて考え、学びます。	
第2回	<b>経営学の全体像</b>	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、経営学とはどんな学問かに関する理解を深めます。	4時間
		経営学とはどのような学問か、その研究の対象、経済学や会計学との違いや関係について学びます。	
第3回	<b>企業と会社</b>	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、会社とその種類・機能などに関する理解を深めます。	4時間
		会社とは何か、その歴史、会社の種類、株式会社の特徴や重要点などについて学びます。	

第4回	<b>企業と金融資本・労働市場との関わり</b>  企業にとっての金融資本との関わり（借金や株式の上場など）、労働市場との関わり（採用・雇用・労働条件など）、それらの日本的な特徴点などについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、企業と資本や労働に関する理解を深めます。最近、話題となっている「働き方改革」について調べることも興味深いと思います。	4時間
第5回	<b>企業と製品・サービス市場との関わり</b>  経営戦略とは何か、事業レベルの戦略と全社レベルの戦略の違い、経営戦略の実行とは何かについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、経営戦略に関する理解を深めます。	4時間
第6回	<b>競争戦略のマネジメント（基本的な考え方）</b>  競争戦略とは何か、他社との違いの意義、自社にとって有利な違いをどうやって作るかなどの事項を学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、競争戦略に関する理解を深めます。	4時間
第7回	<b>競争戦略のマネジメント（3つの基本戦略）</b>  競争戦略の代表的な3つである、コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略のそれぞれについての特徴や重要点を学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、上記3つの基本戦略に関する理解を深めます。	4時間
第8回	<b>多角化戦略のマネジメント</b>  多角化とは何か、M&A（合併・買収）と戦略的提携の基本事項や重要点について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、多角化・M&A・戦略的提携に関する理解を深めます。	4時間
第9回	<b>国際化のマネジメント</b>  企業活動の国際化とは何か、なぜ国際化するのか、国際経営の重要点・課題などについて、典型的な国際企業の事例も挙げつつ学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際化や国際経営に関する理解を深めます。	4時間
第10回	<b>マクロ組織のマネジメント</b>  組織の構造の考え方と種類、特別な種類の組織（タスクフォース、戦略的ビジネスユニット（SBU）、社内ベンチャーなど）についての特徴と重要点を学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、組織の構造や種類に関する理解を深めます。	4時間
第11回	<b>ミクロ組織のマネジメント</b>  組織のメンバーの欲求とインセンティブ（報酬）、リーダーシップやリーダーのあり方などについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、欲求とインセンティブ、リーダーシップに関する理解を深めます。	4時間
第12回	<b>キャリアデザイン</b>  キャリアデザインとは何か、採用・就職・転職などについて重要点を学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、キャリアデザインに関する理解を深めます。	4時間
第13回	<b>ファミリービジネスのマネジメント</b>  ファミリービジネスとは何か、その概況、特徴、長所や課題などについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、ファミリービジネスに関する理解を深めます。	4時間
第14回	<b>非営利組織のマネジメント</b>  企業とは異なる「非営利組織」とは何か、病院などを事例としてその組織の特徴や重要点を学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、非営利組織に関する理解を深めます。	4時間
第15回	<b>本講義のまとめ（マネジメントに関する重要事項の復習）</b>  本講義で取り上げた重要項目につき、教科書の各章を振り返りながら、特に重要な点を再度解説し学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、マネジメントに関する重要点について理解を深めます。	4時間

授業科目名	<b>経営学入門/マネジメント入門</b>				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

ニュースや新聞などで見聞きする我々の身の回りで起きている現象の多くには企業や組織がからみ、ほとんどの問題は経営の問題として読み解くことができる。現代社会において極めて重要な役割を果たしている企業と、それを取り巻く様々な利害関係者の関係を取り上げる。経営学では、企業の経営資源や諸機能をどのようにしてマネジメントするのかという企業活動での事実の見方を学ぶ。本講義では、経営学の基本的な考え方と仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	経営学に関する知識	経営学の諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	経営学に関する知識の応用	企業経営の現況を説明できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。
2．DP8. 意思疎通		集団内のメンバーの行動に影響を与えることで集団の目標達成を促すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末試験	： 講義内容の理解度を評価する。 50%
課題レポート	： 課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。 20%
小テスト	： 講義内容の理解度を評価する。 10%
授業への参加意欲	： コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。 20%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田誠	・ 経営学入門	・ 中央経済社	・ 2015年

### 参考文献等

適宜、講義中に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日4限
場所：	研究室
備考・注意事項：	・上記以外の場合、申し出て下さい。 ・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。 ・講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。

### 授業計画

第1回	イントロダクション 講義の進め方の説明と経営学を学ぶ意義	【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】経営学入門/マネジメント入門の講義概要を確認すること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「経営学」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学の位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。		4時間

第2回	<b>経営学の全体像</b>  主として「企業」を研究対象とする経営学とはどのような学問であるのか、キーワードをもとに考え、企業の諸活動を概観する。	【予習】教科書の第1章(pp. 1-32)について読んでおくこと。【復習】第2回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第3回	<b>制度の選択 (1) 企業と会社の制度的な特徴</b>  現代社会を代表する会社形態である株式会社に焦点を当て、その特徴を考える。	【予習】教科書の第2章(pp. 33-47)について読んでおくこと。【復習】第3回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第4回	<b>制度の選択 (2) コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任</b>  企業・会社は誰のものか、企業・会社はどのように統治されているのか、あるいは統治されるべきであるのかといった問題について、企業を取り巻く多様な利害関係者の存在や企業の社会的責任に関する考え方をもちに検討する。	【予習】教科書の第3章(pp. 48-74)について読んでおくこと。【復習】第4回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第5回	<b>戦略の形成 (1) 経営理念、目的と戦略</b>  経営理念、ビジョン、経営哲学など経営を行うための考え方、価値観、規範に関して学習する。	【予習】教科書の第4章(pp. 75-95)について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第6回	<b>戦略の形成 (2) 企業戦略</b>  「経営組織における戦略とはどのような概念であるのか」ということについて、基礎的事項を学習する。	【予習】教科書の第5章(pp. 96-113)について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第7回	<b>戦略の形成 (3) 競争戦略と事業システム</b>  個々の事業分野での競争に勝ち抜いていくための戦略について基礎的事項を学習する。	【予習】教科書の第6章(pp. 114-129)について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第8回	<b>組織の枠組み作り (1) 組織構造</b>  組織における行動について、組織全体のルールや仕組みといった構造的な側面から考える。	【予習】教科書の第7章(pp. 131-154)について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第9回	<b>組織の枠組み作り (2) 組織文化、コンフリクトのマネジメント</b>  組織の中における個人と個人の間の争いと部門と部門の間の争いが発生する原因とその対処方法、組織変革に関する考え方を学習する。	【予習】教科書の第8章と第9章(pp. 155-192)について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第10回	<b>国際経営 海外進出企業の組織形態</b>  複数の国にまたがって行われる経営について学習する。	【予習】日本企業の海外進出事例について調べてくること。【復習】第10回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第11回	<b>組織における人間への対応 (1) リーダーシップ</b>  企業の目標達成に向けた行動について、個人と組織の視点から考える。	【予習】教科書の第10章(pp. 193-214)について読んでおくこと。【復習】第11回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第12回	<b>組織における人間への対応 (2) モチベーション</b>  「企業という組織の中で、人はなぜ働くのか」ということについて心理的側面から考える。	【予習】教科書の第11章(pp. 215-234)について読んでおくこと。【復習】第12回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第13回	<b>人的資源管理の仕組み</b>  組織と個人の関係の変化について検討し、キャリアとは何かを考えるとともに、自律的なキャリア形成のために企業が実施している仕組みについて考える。	【予習】身近にある人材育成の方法について調べてくること。【復習】第13回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第14回	<b>プロジェクトマネジメント</b>  プロジェクトやチームの意義を理解し、どのように構築するか、運営方法について学習する。	【予習】身近にあるチームについて考えてくること。【復習】第14回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第15回	<b>まとめ 経営学の展望</b>  これまでの講義で学習した内容を振り返り、経営学を学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、経営学の理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらう。自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。	【予習】教科書の第12章(pp. 235-251)について読んでおくこと。【復習】講義内容について見直しをすること。	4時間

授業科目名	マネジメントインフォメーション				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	2年以上	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

企業における情報化の進展は著しく、もはや情報や情報通信技術（ICT）なくしてはビジネスが成り立たない時代となっています。また、近年では様々なモノがインターネットとつながることで新たなサービスの可能性が広がっています。そうした背景を踏まえ、本授業では企業経営の中にどのように情報やICTが導入されていったかという歴史的経緯を振り返るとともに、ネット・ビジネスやイノベーション、ビッグデータなどの今日的なキーワードを取り上げることで、経営と情報の関係性について概略的に理解することを目的とします。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	<b>具体的内容：</b> 経営情報の基礎知識	<b>目標：</b> 経営と情報の関係を理解し、ビジネスにおける情報とICTの役割について概略的に説明できる
<b>汎用的な力</b> 1 . DP4. 課題発見		物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

毎回の課題	30%	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とする。授業内容に関係のない記述の場合は0点となる。
期末試験	70%	： ビジネスにおける情報やICTの利活用に関する問題を出題し、「経営情報の基礎的内容を理解しているか」、「出題内容に関して論理的かつ簡潔に記述できているか」の2点から評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

遠山 暁・村田 潔・岸 真理子著『経営情報論 新版』有斐閣アルマ。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目  
 場所： 西館3階45研究室  
 備考・注意事項： 連絡を取りたい場合はメールでも可（inamura@osaka-seikei.ac.jp）

### 授業計画

回	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスー経営情報とは？ー</b>	今日の社会で求められる情報化人材、イノベーション人材とはどのような人材か、いくつかのポイントを抽出します 経営情報の学問的特徴と、経営情報を学ぶ意義について考えます。	4時間
第2回	<b>情報社会とは？</b>	産業構造の変化とソフト化率の向上が社会の情報化とどのように関わっているのか整理します 社会の情報化を示すいくつかのデータや現象から「なぜいま情報社会というのか」という疑問を解決します。	4時間
第3回	<b>情報の特質</b>	モノと比較することで情報の特質を浮き彫りにするとともに、その特質が企業経営に与えるインパクトについて考えます。 無形資産や知的財産が現在の企業経営にとってどのような意味を持つのか整理します	4時間
第4回	<b>経営情報の基礎理論①ー情報と意思決定ー</b>	組織の意思決定とは何か、意思決定における情報の役割とは何か整理します 情報や情報システムが経営資源の1つとしてその重要性を高めた理由について、経営学の理論の1つである意思決定論との関わりから考えます。	4時間
第5回	<b>経営情報の基礎理論②ー情報と企業進化ー</b>	企業が進化するとはどういうことか、そこでの情報の役割とは何か整理します 生物学の考え方を取り入れることで、企業が情報や情報システムを必要としているという根拠を探ります。	4時間
第6回	<b>企業活動と情報</b>	企業における情報の流れとそれぞれの情報の業務上の役割について整理します	4時間

	企業の活動をシンプルにモデル化するとともに、情報の役割を関連付けることで、企業経営と情報の関係を概略的に理解します。		
第7回	<b>経営情報システムの変遷①ーEDPSとMISー</b>  コンピュータが企業経営に導入されて半世紀が経過しようとしています。今回は、初期の情報システムに期待された役割について学びます。	組織（企業）の管理階層における情報ニーズの違いと経営情報システムに期待される役割について整理します	4時間
第8回	<b>経営情報システムの変遷②ーDSSー</b>  管理者（マネジャー）に適切な情報を提供し、彼らの意思決定を支援するためのシステムとして開発された意思決定支援システムについて理解します。	組織における意思決定の類型とDSSが支援すべき意思決定について整理します	4時間
第9回	<b>経営情報システムの変遷③ーオフィス情報システムー</b>  オフィスにおける情報化が進化した背景について理解するとともに、実際に活用されているオフィスツールについて学びます。	オフィスにおける様々な支援ツールの役割と働き方の変化について整理します	4時間
第10回	<b>ネット・ビジネス</b>  今日の経済の1つの牽引役ともなっているネット・ビジネスについて、その経済的効果と課題について学びます。	ネット・ビジネス特有のビジネスモデルのあり方と今後のネット・ビジネスの課題について整理します	4時間
第11回	<b>ビッグ・データ</b>  インターネット上に蓄積されている大量のデータを社会・経済の問題解決に役立てることを目的とする「ビッグ・データ」について理解します。	ビッグ・データの特徴とビジネス利用の可能性について整理します	4時間
第12回	<b>ICTとイノベーション戦略</b>  今日のインターネット環境が企業のイノベーション戦略に与える影響について学びます。	日本的な閉じた関係性の中で行われる製品開発と欧米を中心としたオープンな関係性の中で行われる製品開発の違いについて整理します	4時間
第13回	<b>オープンイノベーションとモジュール化</b>  製品の構造に起きているモジュール化という変化と前回学んだオープン・イノベーションとの関連について理解します。	企業間のオープンな関係性を構築するうえでキーワードとなっているモジュール化とはどのような考え方を整理します	4時間
第14回	<b>モジュール化がもたらすビジネスへの影響</b>  コンピュータ業界で起きた実際の出来事を基にモジュール化が与えるビジネスへのインパクトについて理解します。	家電業界を中心に進展しているモジュール化の波がビジネスにどのような影響を与えるのか、競争のあり方の変化を中心に整理します	4時間
第15回	<b>IoTと企業変革</b>  様々な製品（モノ）とインターネットがつながる世界（Internet of Things）において企業が提供する製品やサービスがどのように変化するか理解します。	自動車業界に起きている大きな変化についてIoTとのかかわりから分析します。	4時間

授業科目名	<b>ビジネス会計I／簿記I</b>				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

簿記とは、企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のことを指す。簿記の目的は、企業の経済活動を記録することおよび企業の財政状態および経営成績を明らかにすることである。簿記システムから得られた情報は、企業経営者が経営管理を行う場合、債権者が企業への融資を判断する場合等、様々な場面で利用され、利害関係者が意思決定を行う際に非常に重要な役割を果たしている。従って、このように重要な情報がどのような仕組みを通して作成されているのかを本講義では学習していく

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	<b>具体的内容：</b> それぞれの取引を適切に仕訳し、試算表、精算表および財務諸表の流れまで理解する。	<b>目標：</b> 企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP6. 行動・実践		与えられた課題をやり遂げる力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

課題は主として問題集からページを指定して与えます。授業時間内に巡回し、個人の進捗を確認します。また、授業中に確認テストも行います。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への積極的参加	40%	： 授業内の演習や書き込み等の指示に対する的確な対応、問いかけへの積極的発言、および知識習得への強い意欲の有無により評価を行う。
課題の期限内提出	30%	： 課題の期限内の提出とその内容により評価を行う。
期末テスト	30%	： 企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができるかどうかを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著・	『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 商業簿記Ver. 10. 0』	・ TAC株式会社 出版事業部	・ 2019年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著・	『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 商業簿記Ver. 10. 0』	・ TAC株式会社 出版事業部	・ 2019年

### 参考文献等

滝澤ななみ『みんなが欲しかったシリーズ みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第6版』TAC株式会社 出版事業部、2018年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限目  
 場所： 個人研究室（西館2F）  
 備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<b>オリエンテーション、簿記の目的、貸借対照表と損益計算書の役割と簿記一巡の概要</b>  会計の原理および簿記の仕組みについて理解する。	貸借対照表と損益計算書の役割、ひな形を覚える。勘定科目とグループを理解し、暗記する。テキストおよびトレーニングのテーマ1を読み、問題を解く。	4時間
第2回	<b>記帳のルール、商品売買I（三分法）</b>  簿記上の取引を理解し、仕訳ができるようにする。総勘定元帳への転記と試算表、貸借対照表と損益計算書の作成までの簿記の一巡の手続きを理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ2～4を読み、問題を解く。	4時間

第3回	<b>商品売買Ⅰ（分記法、三分法、現金、掛取引、クレジット売掛金、人名勘定）</b> 仕訳を確実に身に付け、三分法による様々な商品売買の仕訳と分記法との違い、現金取引と掛取引を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ4および5を読み、問題を解く。	4時間
第4回	<b>商品売買Ⅱ（電子債権・債務、複数預金、手付金や内金の処理）</b> 電子債権・債務、複数預金についての処理を理解し、仕訳ができるようにする。手付金と内金の支払い、受取時の処理を区別して理解し、仕訳ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ5を読み、問題を解く。	4時間
第5回	<b>商品売買Ⅲ（返品、当座取引、手形）</b> 返品時の処理を理解する。当座取引については当座借越の処理を理解し、仕訳ができるようにする。手形は債権・債務を意識して基本処理と仕訳を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ6～8を読み、問題を解く。	4時間
第6回	<b>商品売買Ⅳ（諸掛、小口現金）</b> 商品売買時の諸掛についての処理と手続きを理解する。売上側、仕入側、自己負担、先方負担による処理の違いを理解し暗記する。小口現金は帳簿のつけ方とタイミングまで理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ9および11を読み、問題を解く。	4時間
第7回	<b>商品売買Ⅴ（帳簿）</b> 帳簿組織から様々な帳簿の記帳方法を学習する。特に商品有高帳は各種払い出し方法による違いを理解しながら売上総利益の計算まで学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ10を読み、問題を解く。	4時間
第8回	<b>会社会計</b> 株式会社の設立・増資、当期純損益の繰越利益剰余金への振替え、利益（繰越利益剰余金）配当と利益準備金の積立てまでを理解し仕訳できるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ17を読み、問題を解く。	4時間
第9回	<b>その他の取引Ⅰ（貸し付け・借入れ等）</b> 金銭の貸し付けと借入、利息、差し入れ保証金について理解し、仕訳ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ12および13を読み、問題を解く。	4時間
第10回	<b>その他の取引Ⅱ（給料、税金）</b> 従業員の雇用に関する給料の支払い、各種預かりと立替え、法定福利費について理解する。税金の種類と支払について理解し、仕訳できるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ14を読み、問題を解く。	4時間
第11回	<b>その他の取引Ⅲ（固定資産・固定資産台帳）</b> 固定資産の意義、商品以外の代金の後払いと受取り、固定資産税について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ15を読み、問題を解く。	4時間
第12回	<b>その他の取引Ⅳ（訂正、伝票会計）</b> 訂正仕訳の様々なパターンを学習し、仕訳ができるようにする。伝票会計の理解と集計ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ18および30を読み、問題を解く。	4時間
第13回	<b>試算表①（合計残高試算表）</b> 基本的な期中取引を試算表に集計できるように学習する。期中取引を総復習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ19を読み、問題を解く。	4時間
第14回	<b>試算表Ⅱ（合計試算表と残高試算表）</b> 取引形態別の出題による試算表を練習し、理解する。日商簿記検定過去問レベルの試算表を練習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ19を読み、問題を解く。	4時間
第15回	<b>主要な財務指標の種類と使い方</b> 財務諸表の基本と読み方、および流動比率、当座比率、自己資本比率等の主要な財務指標の種類と使い方について学習する。	配布資料の復習を行う。	4時間

授業科目名	ビジネス会計Ⅰ				
担当教員名	中田彩				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	税理士事務所において顧問先企業の収支計画書を含む事業計画書の作成と各種会計処理経験。15回				

### 授業概要

日商簿記検定3級レベルの簿記知識を習得する。中小企業や個人商店の経理事務に役立つ基本的な商業簿記を学び、その目的を理解して処理方法を身に付ける。簿記は原価意識の向上や経営戦略、経営上の意思決定や財務分析にも繋がるビジネスの必須知識であり、経理・財務担当以外でも職種に関わらず必要とされる。本クラスでは、上級へのステップアップを意識しながら、基盤となる日商簿記3級の合格を目指す。経理関連書類の適切な処理や青色申告書類の作成など、初歩的な実務がある程度できるレベルに到達することを目標とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	中小企業をモデルとした商業簿記期中処理	日商簿記検定3級相当の簿記の期中処理を習得する
汎用的な力		経理関連書類の期中処理について名称・目的を理解し、適切な処理を行う初歩的な実務ができる
1 . DP6. 行動・実践		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)  
適宜復習テストを行い、コメントをつけて返却する。  
授業時間内の巡回によりトレーニング(問題集)の進捗について確認する。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします  
ほとんどの課題は問題集(トレーニング)からページを指定して与えます。授業時間内に巡回により個人の進捗を確認します。適宜配布プリントによる課題を与え、コメントをつけて返却します。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

参加姿勢	40%	: 授業内の演習や書き込み等の指示に対する的確に対応しているか、問いかけへの積極的発言があるか、知識習得への強い意欲があるかを基準に5段階で評価します。
課題の期限内提出	30%	: 課題の期限内提出とその内容を5段階で評価します。
期末試験	30%	: 50点以上を5段階に評価します。(10点刻みに100点までを5段階評価)

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社	よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級商業簿記Ver.10	TAC株式会社 出版事業部	2019年
TAC株式会社	よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング日商簿記3級商業簿記Ver.10	TAC株式会社 出版事業部	2019年

### 参考文献等

特になし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

中小企業をモデルとし、会社会計の期中に起こる処理の基本を学習します。初めて学習される方には覚えることも多く最初は大変に感じるかもしれませんが、しっかりと学習すれば必ず習得することができます。本クラスは日商簿記検定3級レベルの、ビジネスパーソンの必須知識を習得することが目的です。授業時間でインプットし、課題でアウトプット、毎回の聞き取りでフィードバックします。専門知識習得のため、自宅学習が必須になります。一連の物語のように積み重ねて目的に向かうため、欠席は避けて課題を徹底して下さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜4限
場所：	非常勤講師控室

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、簿記の目的、貸借対照表と損益計算書の役割と簿記一巡の概要</b> 簿記の資格概要と学習方法を知り、簿記一巡の手続きを確認しながらその目的を理解する。貸借対照表と損益計算書の役割と書式、簿記の5要素の性質を覚える。	1時間
第2回	<b>記帳のルール、商品売買Ⅰ(三分法)テキストP18まで</b>	1時間

	簿記上の取引を理解し、仕訳と総勘定元帳への転記を理解し一人でできるようにする。仕訳を行う際には簿記の5要素の増減、発生と消滅を正確に理解しながら進めることができるよう意識する。		
第3回	<b>日常の手続き④合計・残高（テキストP19）から商品売買Ⅰ（分配法、三分法、掛取引、人名勘定）テキストP39まで</b> 仕訳を確実に身に付け、三分法による様々な商品売買の仕訳と分配法との違い、掛取引について理解する。売掛金、買掛金を仕訳する際には5要素の発生・消滅に気を付ける。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを3-5まで解く。	1時間
第4回	<b>商品売買Ⅰ（テキストP40手付金や内金の処理）から（返品、諸掛の処理）テキストP52まで</b> 返品、諸掛、掛元帳についての処理を理解し仕訳ができるようにする。手付金、内金の処理については仕入、売上のタイミングを捉えながら問題文の言い回しに慣れる。諸掛については自己負担、先方負担、商品引取側、発送側をしっかりと意識して問題を解く。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを4-7まで解く。	2時間
第5回	<b>商品売買Ⅱ（テキストP53掛元帳）から商品有高帳、現金・預金の①現金（テキストP63）まで</b> 掛元帳の役割と記入方法を学習する。商品有高帳（先入先出法、移動平均法）の記載方法を習得する。現金については通貨代用証券と他人振出小切手の取り扱い方法を習得する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを5-1までを解く。	2時間
第6回	<b>現金・預金②当座預金（テキストP64）からクレジット売掛金（テキストP77）まで</b> 当座預金については自己振出小切手と当座借越の処理を仕組みから理解し仕訳ができるようにする。小口現金は記帳担当とタイミング、仕訳をする経理担当との違いを理解しながら学習する。クレジット売掛金は手数料の発生タイミングを読み取りながら仕訳の完成を目指す。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを7-2まで解く。	2時間
第7回	<b>手形取引（テキストP78）から様々な帳簿の関係（テキストP95）までを学習する。</b> 手形取引は商品売買取引に用いるものと金銭の貸し借りに用いるものを区別して理解する。過去問題の言い回しを確認し、混同しないように気を付ける。帳簿組織から様々な帳簿の記帳方法を学習する。特に各種帳簿の関係性をよく理解する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを9-10まで解く。	2時間
第8回	<b>電子記録債権・債務（テキストP96）からその他の取引Ⅰ（貸付金、借入金）その他の取引Ⅱ（有形固定資産）テキストP112まで</b> 電子債権・債務は内容の理解をしながら仕訳を確実に見につける。貸付金、借入金は利息との関係性と計算まで理解する。日商簿記検定では第1問に頻出するので、過去問題の形式を見て確認する。有形固定資産は取得、売却、賃貸、修繕までの各種パターンの仕訳を完全に覚える。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを12-6まで解く。	2時間
第9回	<b>その他の取引Ⅲ仮払金、仮受金、給与について（テキストP114）から訂正仕訳（テキストP124）まで</b> 仮払金、仮受金の処理について習得する。給与については社会保険料や税金のシステム、会計処理についてよく理解する。訂正仕訳は過去問題レベルが解答できるよう演習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを14-2まで解く。	2時間
第10回	<b>証券と伝票 テキストP252-270まで</b> 証券と伝票の名称とシステムについて理解し、特に一部現金取引の起票を習得する。仕訳日計表の作成を完成する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを解く。	2時間
第11回	<b>試算表Ⅰ テキストP126から141まで</b> 試算表の意義、種類を学習し、テキストの基本例題28-30まで完成させる。トレーニング15-1から15-2までが自力でできるよう理解を進める。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを15-2まで解く。	2時間
第12回	<b>試算表Ⅱ（合計残高試算表）</b> トレーニング15-3から15-6までを用い、日付順に出題される合計残高試算表の作成を行う。（掛元帳作成を含む）合計試算表と残高試算表の違いを確認する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを15-6まで解く。	2時間
第13回	<b>試算表Ⅲ（取引形態別に出題される試算表）</b> トレーニング15-7と過去問題を用い、取引形態別に出題される試算表を学習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニング15-7と過去問題を解く。	2時間
第14回	<b>期中処理総復習。日商簿記3級第1問仕訳問題（範囲改定箇所と現金過不足等を除く）</b> 期中取引の総復習を行う。日商簿記3級仕訳問題を用い、全範囲の演習を行う。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを85ページまで完成させる。	2時間
第15回	<b>期中処理総復習。日商簿記3級第1問仕訳サンプル問題と第3問試算表演習</b> 期中仕訳の総復習を行い、日商簿記検定改定にかかわるサンプル問題の学習を行う。試算表の総復習を行う。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングをP85まで完成させる。	2時間

授業科目名	ビジネス会計応用Ⅰ／簿記応用Ⅰ				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

簿記とは、「企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のこと」を指す。本講義では、仕訳、総勘定元帳への転記、試算表および財務諸表作成という簿記の一巡の手続きについて学んだ上で、簿記システムから得られる情報を読み解く力を養うことを目的としている。また、本講義は応用クラスであることから、「ビジネス会計Ⅰ/簿記Ⅰ」よりも深い理解度を必要とする演習を行うこととする。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	<b>具体的内容：</b> 会計・簿記の知識	<b>目標：</b> 企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP6. 行動・実践		与えられた課題をやり遂げる力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小テスト	50%	： 授業内容の理解度を評価する。
期末テスト	50%	： 企業の経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができているかを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
関西学院大学会計学研究室編	『新版 基本簿記論 第4版』	中央経済社	2019年

### 参考文献等

TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 商業簿記Ver. 10. 0』TAC株式会社 出版事業部、2019年。  
 TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 商業簿記Ver. 10. 0』TAC株式会社 出版事業部、2019年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

ビジネス会計Ⅰ/簿記Ⅰをともに履修するか、単位を取得していることが履修条件である。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜3限目
場所：	個人研究室（西館2F）
備考・注意事項：	質問はメールでも受け付けます。 メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

### 授業計画

回数	内容	復習および次回講義内容のテキスト予習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>簿記の意義としくみ</b> 簿記の意義 貸借対照表 損益計算書 貸借対照表と損益計算書の関係	テキスト第1章「簿記の意義としくみ」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第2回	<b>商品売上の処理（1）分配法、三分法</b> 商品売とは 分配法 三分法 仕入諸掛 売上諸掛	テキスト第8章「商品売上の処理（その1）」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第3回	<b>商品売上の処理（2）商品有高帳</b> 仕入帳 売上帳 商品有高帳 売掛金元帳 買掛金元帳	テキスト第9章「商品売上の処理（その2）」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間

第4回	<b>現金・預金の処理</b> 現金・現金過不足勘定 当座預金・当座借越勘定 小口現金勘定・小口現金出納帳	テキスト第10章「現金・預金の処理」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第5回	<b>手形の処理</b> 手形とは 手形の裏書 手形の割引 受取手形と支払手形	テキスト第11章「手形の処理」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第6回	<b>その他の債権・債務の処理</b>  貸付金・借入金 未収入金・未払金 前払金・前受金 立替金・預り金 仮払金・仮受金 商品券・他店商品券	テキスト第12章「その他の債権・債務の処理」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第7回	<b>有価証券の処理</b> 有価証券とは 有価証券の購入と売却 有価証券利息・受取配当金	テキスト第13章「有価証券の処理」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第8回	<b>固定資産の処理</b> 固定資産の取得 減価償却 固定資産の売却	テキスト第14章「固定資産の処理」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第9回	<b>その他の処理</b>  資本金 営業費 訂正仕訳 税金	テキスト第15章「その他（資本金・営業費・訂正仕訳・税金）の処理」第3節および第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第10回	<b>決算（1）現金過不足・売上原価の計算</b>  現金過不足勘定の整理 売上原価の計算	テキスト第16章「決算1（概要と現金過不足・売上原価の計算）」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第11回	<b>決算（2）貸倒・減価償却</b>  貸倒損失・貸倒引当金 減価償却の計算方法と記帳法	テキスト第17章「決算2（貸倒・減価償却）」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第12回	<b>決算（3）損益の整理・消耗品</b>  見越・繰延勘定 消耗品費と消耗品	テキスト第18章「決算3（経過勘定・消耗品）」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第13回	<b>精算表</b> 決算整理事項等と精算表の作成手順	テキスト第19章「精算表」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第14回	<b>伝票会計</b> 伝票会計制度 単一伝票制度と複合伝票制度 仕訳集計表	テキスト第21章「伝票会計」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第15回	<b>総まとめ（1）第1～14回の復習</b> 第1回～第14回までの授業内容について復習を行う。	総まとめ問題	4時間

授業科目名	ビジネス会計II／簿記II				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1・2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

簿記とは、企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のことを指す。簿記の目的は、企業の経済活動を記録することおよび企業の財政状態および経営成績を明らかにすることである。本講義では、ビジネス会計I/簿記Iで学習したことを踏まえて、特に決算において必要となる取引の仕訳、および精算表および財務諸表の作成方法について学んでいくことにより、簿記システムから得られる情報についてより理解を深めていく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

中小企業をモデルとした商業簿記期中処理復習から決算処理

#### 目標：

日商簿記検定3級相当の簿記の全処理を習得する。

#### 汎用的な力

- DP6. 行動・実践

経理関連書類について名称・目的を理解し、適切な処理を行う初歩の実務ができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
  - 問答法・コメントを求める
  - 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- 適宜確認テストを行う。授業時間内の巡回によりトレーニング(問題集)の進捗について確認する。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

課題は主として問題集(トレーニング)からページを指定して与える。授業時間内の巡回により個人の進捗を確認する。適宜配布プリントによる課題を与える。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への積極的参加	40%	： 授業内の演習や書き込み等の指示に対する的確な対応、問いかけへの積極的発言、および知識習得への強い意欲の有無により評価を行う。
課題の提出	30%	： 課題の期限内提出とその内容を評価する。
定期テスト	30%	： 企業の経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができているかを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社(簿記検定講座) 編著・	『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 商業簿記Ver. 10. 0』	・ TAC株式会社 出版事業部	・ 2019年
TAC株式会社(簿記検定講座) 編著・	『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 商業簿記Ver. 10. 0』	・ TAC株式会社 出版事業部	・ 2019年

### 参考文献等

滝澤ななみ『みんなが欲しかったシリーズ みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第6版』TAC株式会社 出版事業部、2018年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

ビジネス会計I/簿記Iの内容を理解している、もしくは単位取得者が履修条件である。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限目  
 場所： 個人研究室(西館2F)  
 備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

### 授業計画

回	内容	配布プリントの完成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、期中処理の復習(仕訳)</b> 授業全体の流れを理解し、目標を設定する。期中処理の復習を行い、全仕訳について完全理解する。	配布プリントの完成	4時間
第2回	<b>期中処理の復習、試算表</b> 期中処理仕訳の総復習を行い、試算表を作成する。	配布プリントの完成	4時間
第3回	<b>期中処理の復習、仕訳と試算表</b>	配布プリントの完成	4時間

	各種試算表について演習を行い、期中処理の完成を目指す。決算整理前試算表と決算整理後試算表の違いを理解する。		
第4回	<b>決算処理Ⅰ（決算とは、決算整理と未処理事項、精算表、現金過不足の決算処理）</b> 決算の意義を理解し、精算表の基本を演習する。現金過不足の決算整理について理解し、仕訳ができるように演習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ20および21を読み、問題を解く。	4時間
第5回	<b>決算処理Ⅱ（消耗品と売上原価①）</b> 消耗品の決算整理を理解し、精算表を用いて仕訳ができるように演習する。売上原価の定義と仕入勘定を用いて売上原価を算定する方法の決算整理仕訳を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ22および23を読み、問題を解く。	4時間
第6回	<b>決算処理Ⅲ（売上原価②、貸倒れ①）</b> 売上原価勘定で売上原価を算定する方法による手続きの内容を理解し、精算表を用いて仕訳解答ができるように演習する。貸倒れの概要と処理について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ23および24を読み、問題を解く。	4時間
第7回	<b>決算処理Ⅳ（貸倒れ②、減価償却）</b> 期中貸倒処理、差額補充法による貸倒引当金の設定について過去問レベルの演習を行う。間接法による減価償却費の計上について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ24および25を読み、問題を解く。	4時間
第8回	<b>決算処理Ⅴ（減価償却・固定資産の売却）</b> 固定資産の売却時における減価償却の計算方法、処理方法について学習し、タイムテーブルを用いて理解、解答できるよう学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ25を読み、問題を解く。	4時間
第9回	<b>決算処理Ⅵ（費用、収益の決算整理①）</b> 費用、収益の決算整理について基本から学び、仕訳のパターンと5要素の増減について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ26を読み、問題を解く。	4時間
第10回	<b>決算処理Ⅶ（費用、収益の決算整理②、伝票会計）</b> 精算表を通して費用、収益の決算整理の仕訳を完全理解し、応用問題に対応する。伝票会計の処理から仕訳日計表について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ26および30を読み、問題を解く。	4時間
第11回	<b>仕訳日計表、帳簿の締め切り</b> 仕訳日計表を最終確認する。演習を通して帳簿の締め切りを学習し、総勘定元帳の各勘定全体概要を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ28および30を読み、問題を解く。	4時間
第12回	<b>精算表①</b> 決算整理仕訳の総復習を行い、理解しながら基本的な精算表を演習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ27を読み、問題を解く。	4時間
第13回	<b>精算表②、損益計算書と貸借対照表①</b> 日商簿記検定3級過去問題レベルの精算表を演習し、完全理解を目指す。基本的な損益計算書と貸借対照表を作成する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ27および29を読み、問題を解く。	4時間
第14回	<b>損益計算書と貸借対照表②</b> 日商簿記検定3級過去問題レベルの損益計算書と貸借対照表を演習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ29を読み、問題を解く。	4時間
第15回	<b>総復習</b> 第1回～第14回までの授業内容を総復習する。	配布プリントにおける問題を解く。	4時間

授業科目名	ビジネス会計Ⅱ				
担当教員名	中田彩				
学年・コース等	1年生	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	税理士事務所において顧問先企業の収支計画書を含む事業計画書の作成と各種会計処理経験。15回				

### 授業概要

日商簿記検定3級レベルの簿記知識の期中処理を復習し、決算処理を習得する。中小企業の経理事務に役立つ基本的な商業簿記全般を学び、処理方法を身に付ける。簿記は原価意識の向上や経営戦略、経営上の意思決定や財務分析にも繋がるビジネスの必須知識であり、経理・財務担当以外でも職種に関わらず必要とされる。本講義では、これらを習得することができる上級へのステップアップを意識しながら基盤となる日商簿記3級の合格を目指す。経理関連書類の適切な処理を含めた初歩的な実務がある程度できるレベルに到達することを目標とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	中小企業をモデルとした商業簿記期中処理復習から決算処理	日商簿記検定3級相当の簿記の全処理を習得する
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		経理関連書類について名称・目的を理解し、適切な処理を行う初歩的な実務ができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
  - ・問答法・コメントを求める
  - ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- 適宜復習テストを行い、コメントをつけて返却する。授業時間内の巡回によりトレーニング(問題集)の進捗について確認する。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
  - ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
  - ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ほとんどの課題は問題集(トレーニング)からページを指定して与えます。授業時間内に巡回により個人の進捗を確認します。適宜配布プリントによる課題を与え、コメントをつけて返却します。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

参加姿勢	40%	: 授業内の演習や書き込み等の指示に対して的確に対応しているか、問いかけへの積極的発言があるか、知識習得への強い意欲があるかを基準に5段階で評価します。
課題の期限内提出	30%	: 課題の期限内提出とその内容を5段階で評価します。
期末試験	30%	: 50点以上を5段階に評価します。(10点刻みに100点までを5段階評価)

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社	よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級商業簿記Ver.10	TAC株式会社 出版事業部	2019年
TAC株式会社	よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング日商簿記3級商業簿記Ver.10	TAC株式会社 出版事業部	2019年

### 参考文献等

ビジネス会計Ⅰと同じ

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本クラスでは中初期企業をモデルとした会社会計の期中処理を学んだ方を対象に、その決算処理を中心に学習します。日商簿記検定3級レベルの、ビジネスパーソンの必須知識を習得することを目的とします。授業時間でインプットし、課題でアウトプット、毎回の聞き取りでフィードバックします。専門知識習得のため、自宅学習が必須になります。一連の物語のように積み重ねて目的に向かうため、欠席は避けて課題を徹底して下さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業時間の前後の時間帯
場所：	授業教室

### 授業計画

回	内容	日商簿記検定3級の第一問対策プリントの完成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、期中処理の復習(仕訳)</b> 授業全体の流れを理解し、目標を設定する。期中処理の復習を行い、全仕訳について完全理解する。	日商簿記検定3級の第一問対策プリントの完成	2時間
第2回	<b>期中処理の復習、試算表</b> 期中処理仕訳の総復習を行い、試算表を作成する。	日商簿記検定第三問対策プリントの完成、トレーニング15-7までの完成。	2時間
第3回	<b>決算(テキストP142)から財務諸表の作成(テキストP148)まで</b>	トレーニング16-1から16-5まで解く。	2時間

	決算の流れと意義を理解する。決算整理前試算表と決算整理後試算表の違いと8桁清算表を理解する。		
第4回	<b>決算Ⅰ現金過不足（テキストP150）から決算Ⅱ貯蔵品・当座借越（テキストP160）までの決算処理</b> 現金過不足と貯蔵品・当座借越の期中処理から決算整理について理解し、清算表からのデータ読み取りと仕訳ができるように演習する。	トレーニング17-1から18-9までを解く。	2時間
第5回	<b>決算処理Ⅲ売上原価（テキストP162から168まで）</b> 売上原価の定義と仕入勘定を用いて売上原価を算定する方法の決算整理仕訳を理解する。売上高、売上原価、売上総利益の関係性を理解する。「売上原価を仕入勘定で算定する方法」「売上原価を売上原価勘定で算定する方法」のどちらでも清算表を読み取り、算定の仕訳ができるようにする。	トレーニング19-1から19-4までを解く。	2時間
第6回	<b>決算整理Ⅳ貸倒れ、減価償却決算整理まで（テキストP170から180まで）</b> 貸倒れの概要と処理について学習し、様々な貸し倒れの期中処理仕訳と決算整理仕訳ができるようにする。減価償却の定額法による決算整理を学び、仕訳ができるようにする。	トレーニング20-1から21-6までを解く。	2時間
第7回	<b>決算処理Ⅴ減価償却している有形固定資産の売却（テキストP181から184）、固定資産台帳の演習</b> 減価償却している固定資産の売却について、期首売却から期中売却まで理解する。固定資産台帳の問題が解けるようタイムテーブルを用いて各種固定資産の減価償却の流れをつかむ。	トレーニング21-7から21-11までを解く。	2時間
第8回	<b>決算整理Ⅵ経過勘定項目（テキストP186から206まで）</b> 経過勘定項目について、決算整理仕訳を行う意義と目的を理解しながら演習する。清算表を用い全てのパターンについて迷いなく仕訳ができるよう理解する。	トレーニング22-1から22-18までを解く。	2時間
第9回	<b>決算整理後試算表と清算表（テキストP208から217）</b> 決算整理前試算表から決算整理仕訳、決算整理後試算表の流れを理解し問題演習を行う。意味を理解しながら清算表を解く。	トレーニング23-1から23-5までを解く。	2時間
第10回	<b>清算表</b> 清算表の各種欄の意味を理解し、勘定科目の5要素を確認しながら確実に解答できるようにする。	トレーニング24-1から24-7まで解く。	2時間
第11回	<b>帳簿の締め切り、英米式決算（テキストP218から228）</b> 勘定の締め切りと損益振替、資本への振り替えを理解し仕訳ができるようにする。日商簿記3級試験に頻出する勘定記入の問題が解けるよう、内容を理解しながら問題演習を行う。	トレーニング25-1から25-7までを解く。	2時間
第12回	<b>損益計算書と貸借対照表（テキストP230から235）</b> 決算整理仕訳の総復習を行い、完全理解しながら基本的な清算表を財務諸表作成を行う。	トレーニング26-1から26-7を解く。	2時間
第13回	<b>株式の発行、剰余金の配当と処分、税金（テキストP236から251まで）</b> 日商簿記検定3級改定箇所である新範囲を学習する。難易度が高く、実務上重要な項目であるため内容理解を深めて仕訳に対応できるようにする。	トレーニング27-1から29-5までを解く。	2時間
第14回	<b>総復習、日商簿記検定3級レベル問題</b> 日商簿記検定3級過去問題レベルの演習を行う。	トレーニングP216から225を解く。	2時間
第15回	<b>日商簿記検定3級予想問題演習</b> 日商簿記検定3級に予想される問題を演習し、ビジネス会計の知識習得を完成させる。	予想問題（配布プリント）を複数回演習し満点を目指す。	2時間

授業科目名	ビジネス会計応用ⅠⅠ/簿記応用ⅠⅠ				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

簿記とは、「企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のこと」を指す。本講義では、仕訳、総勘定元帳への転記、試算表および財務諸表作成という簿記の一巡の手続きについて学んだ上で、簿記システムから得られる情報を読み解く力を養うことを目的としている。また、本講義は応用クラスであることから、「ビジネス会計II/簿記II」よりも深い理解度を必要とする演習を行うこととする。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	<b>具体的内容：</b> 会計・簿記の知識	<b>目標：</b> 企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP6. 行動・実践		与えられた課題をやり遂げる力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

小テスト

50%

期末テスト

50%

#### 評価の基準

： 授業内容の理解度を評価する。

： 企業の経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができているかを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著・	『2018年度版 日商簿記3級 網羅 型完全予想問題集』	TAC株式会社 出版事業部	2019年

### 参考文献等

TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 商業簿記Ver. 10. 0』TAC出版、2019年。  
 TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 商業簿記Ver. 10. 0』TAC出版、2019年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は応用クラスであるため、ビジネス会計Ⅰ/簿記Ⅰの単位取得者であり、ビジネス会計ⅠⅠ/簿記ⅠⅠについても単位を取得しているか、ともに履修していることが履修条件である。  
 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限目

場所： 個人研究室（西館2F）

備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。アドレスは第1回目の授業時に連絡します。

### 授業計画

回数	授業内容	配布資料の復習および次回講義内容のテキスト予習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ビジネス会計応用Ⅰ/簿記応用Ⅰの復習</b> ビジネス会計応用Ⅰ/簿記応用Ⅰで学んだ仕訳から財務諸表の作成までの簿記の一連の流れについての復習。	配布資料の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第2回	<b>決算（1）未処理事項等</b> 決算日までに判明した未処理事項等の処理	配布資料「決算（1）」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第3回	<b>決算（2）現金過不足・売上原価の計算</b> 現金過不足の処理 繰越商品の整理と売上原価の計算	配布資料「決算（2）」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第3回	<b>決算（3）貸倒・有価証券</b> 貸倒損失・貸倒引当金 有価証券	配布資料「決算（3）」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第4回	<b>決算（4）減価償却・見越勘定・繰延勘定</b> 減価償却の計算方法と記帳法 前払費用・前受収益 未収収益・未払費用	配布資料「決算（4）」の復習および次回講義内容の予習	4時間

第6回	<b>決算（５）消耗品および消耗品費・訂正仕訳</b> 消耗品・消耗品費 訂正仕訳	配布資料「決算（５）」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第7回	<b>精算表（１）基本</b> 決算整理事項等の処理と精算表の作成	配布資料「精算表（１）基本」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第8回	<b>精算表（２）応用</b> 精算表の応用問題	配布資料「精算表（２）応用」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第9回	<b>合計試算表</b> 試算表の作成方法 合計試算表の応用問題	配布資料「合計試算表」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第10回	<b>残高試算表</b> 残高試算表の応用問題	配布資料「残高試算表」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第11回	<b>合計残高試算表</b> 合計残高試算表の応用問題	配布資料「合計残高試算表」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第12回	<b>財務諸表の作成（１）基本</b> 貸借対照表および損益計算書の仕組み 貸借対照表および損益計算書の作成方法	配布資料「財務諸表（１）基本」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第13回	<b>財務諸表の作成（２）応用</b> 財務諸表の応用問題	配布資料「財務諸表（２）応用」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第14回	<b>伝票</b> 3伝票制 伝票から帳簿への記入 仕訳集計表の作成方法 仕訳集計表から総勘定元帳への転記	配布資料「伝票」の復習および次回講義内容の予習	4時間
第15回	<b>総まとめ</b> 第1回～第14回までの授業内容の復習	総まとめ問題	4時間

授業科目名	<b>経営情報入門/ICT基礎 I</b>				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	1年	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	反転学習（予習、講義・演習、復習）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業の委託を受けて、ネットワークサーバの構築及び社内LANの構築を行った経験があり、実際の企業現場での情報活用に関するノウハウを事例として授業内容に加える。15回				

### 授業概要

現代社会においては、日常生活のみならず企業活動においてのICTの利活用は必須のものとなっており、企業においてはこれらの活用如何で経営に大きな影響を与える要素となっており、今や「情報」が企業の第4の経営資源となっている。本講義では、ICTの利活用技術だけではなく、仕組みなどの理解を深めることで、現在の利活用水準の向上だけでなく、今後の変化への対応も可能とすることを目指す。また、経済産業省認定国家資格のITパスポート試験の合格の支援を行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	コンピュータの基本的構成や動作原理、デジタル情報の取り扱いについて	コンピュータの基礎的構成の理解（五大装置の仕組みと役割の理解） 情報表現の理解（情報の標準化や表現方法に関する理解）
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	社会での情報技術の活用について	社会で活用されているIoTやAIについての理解を
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		授業計画に則り、しっかりと予習・復習を行う計画性を身に付ける
2．DP7. 完遂		反転学習における予習のプロセスを毎回しっかりとやり遂げる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・eラーニング、反転授業

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
予習・復習に対する確認の演習問題	: 演習問題の正答率 45%
履修態度及び平常点	: 講義内にて口頭質問や小テストを実施し、その回答内容で評価 15%
定期試験	: 学期末の定期試験の正答率 40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考書：寺島廣克他(2016)「はじめて学ぶコンピュータ概論」、コロナ社  
その他、別途資料の配布または提示を行う。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 3限  
場所： 中井研究室（西館 3階）  
備考・注意事項： メールで質問するか、研究室に来てください。  
nakai-hi@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

回数	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス、経営と情報</b>	社会でのICTの利活用について新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習1章 授業ガイダンスとしてシラバスの説明を実施。経営における情報についての概要を説明	4時間
第2回	<b>企業における情報</b>	企業での情報システム利用について新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習2章 企業における情報の活用とその効果について、事例を紹介し、理解を深める。	4時間
第3回	<b>情報システムの活用</b>	ERP/SCM/BIに関する新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習3章 情報活用と情報システムについての理解を深め、情報システム構築に関する基本技術について紹介する	4時間
第4回	<b>情報の標準化と情報処理</b>	e-learningによる自己学習4章 情報の表現方法としてのデジタル情報に関する理解を深める。基本的な2進数について	4時間
第5回	<b>デジタルデータ</b>	デジタルデータについて新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習5章	4時間

	画像・音声・動画などのデジタル情報の処理に関する理解を深める		
第6回	<b>データ処理とコンピュータ</b> データ処理を行うためのコンピュータの仕組みについての説明を行う。	e-learningによる自己学習6章	4時間
第7回	<b>情報システムのインターフェース</b> 入出力の仕組みや様々なインターフェースについて紹介する	CUI/GUIについて新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習7章	4時間
第8回	<b>ソフトウェア</b> コンピュータにおけるソフトウェアの概念について紹介する	プログラミングについて新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習8章	4時間
第9回	<b>ネットワークと情報処理</b> 情報共有を行うための情報ネットワークについての基本を説明する	ネットワークについて新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習9章	4時間
第10回	<b>インターネット</b> ネットワークの代表的な技術としてインターネットの紹介を行う	WWW/電子メール等について新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習10章	4時間
第11回	<b>データベースと情報処理</b> 情報処置における基盤技術であるデータベースについての紹介を行い、知識管理やビッグデータについても簡単に紹介する	データベースについて新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習11章	4時間
第12回	<b>Society5.0とは</b> サイバー空間とフィジカル空間の融合によって訪れる第5の社会の在り方について紹介する	Society5.0について新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習12章	4時間
第13回	<b>IoTと社会</b> Society5.0において、キーテクノロジーとなるIoTについて紹介する	IoTについて新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習13章	4時間
第14回	<b>AIと社会</b> Society5.0において、キーテクノロジーとなるAIについて紹介する	AIについて新聞記事などの確認。e-learningによる自己学習14章	4時間
第15回	<b>まとめと振り返り</b> これまでの学習内容を体系図として確認し、全体像と各論に関する関係を確認する	これまでの該当箇所の復習、e-learningによる自己学習1~14章	4時間

授業科目名	ビジネスマネジメント				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

経営管理とは「組織がある目的を達成するために、資源を統合し、諸活動を調整する過程（プロセス）」と定義されます。つまり、組織が持つ資源・能力を環境との間で戦略的に適合させながら、目的達成に向けて効率的に人、モノ、カネ、情報を動かす行為が経営管理です。ですから、経営管理はすべての企業にとって不可欠なものであり、企業経営の本質といっても過言ではありません。本授業では、経営管理の進展過程で登場した主要な論者の理論を踏まえながら、企業における管理（マネジメント）の現実について理解することを目的とします。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	<b>具体的内容：</b> 経営管理の基礎知識	<b>目標：</b> 経営管理の諸理論について理解し、マネジメントの現場への適用について概略的に説明できる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP4. 課題発見		物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

毎回の課題	30%	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とする。授業内容に関係のない記述の場合は0点となる。
期末試験	70%	： ビジネスにおける経営資源の管理とその利活用に関する問題を出題し「経営管理の基礎的内容を理解しているか」、「出題内容に関して論理的かつ簡潔に記述できているか」の2点を基準に評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男著（2009）『経営管理 新版』有斐閣アルマ。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日3時間目
場所：	西館3階45研究室
備考・注意事項：	連絡を取りたい場合はメールでも可（inamura@osaka-seikei.ac.jp）

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>経営管理とは？－経営資源の管理と活用－</b>  日々変化するビジネス環境とそれに対処するための経営管理（マネジメント）のあり方について学びます。	4時間
第2回	<b>経済的豊かさとは？－企業と社会－</b>  今日の日本の経済的豊かさはどこからもたらされたのだろうか？企業におけるマネジメントとの関係から考えます。	4時間
第3回	<b>会社の種類と専門経営者の登場</b>  会社の種類について考えるとともに、現代企業における経営の担い手である専門経営者がどのように誕生したのか、その背景について考察します。	4時間
第4回	<b>テーラーの科学的経営</b>  企業経営に初めて科学的要素を取り入れ、現代マネジメントの基礎を築いた科学的経営の考え方について学びます。	4時間
第5回	<b>人間関係論－人間的側面を重視する管理－</b>  非合理的な人間的側面を重視する管理を主張する人間関係論について、その基本的考え方について学びます。	4時間

第6回	<b>バーナードの管理論</b> 組織の成立と存続に焦点を当てた管理論を展開するバーナードの考え方について学びます。	組織の成立と存続の要件とは何か整理します。	4時間
第7回	<b>モチベーション論の展開</b> 仕事の現場で人間の能力を最大限に活かそうとするマネジメントのあり方について学びます。	マグレガーやハーズバーグの理論に共通している動機づけに必要な要件について整理します。	4時間
第8回	<b>リーダーシップ</b> 組織（仕事）の成果を高めるためのリーダーのあり方について考えます。	様々な実験を通して明らかになったリーダーシップの一般理論について整理します。	4時間
第9回	<b>ミドルとトップのリーダーシップ</b> 管理職と呼ばれる人たちのリーダーとしての役割について考えます。	日本において特徴的なミドルマネジメントの役割とその育成方法について整理します。	4時間
第10回	<b>組織デザインー機能別組織と事業部制組織ー</b> 組織の基本形としての機能別組織の基本原理とその限界について考えるとともに、事業部制組織への移行の背景について学びます。	機能別組織の有効性と限界、そして事業部制組織の特徴について整理します。	4時間
第11回	<b>経営戦略（経営理念に基づく企業目標の達成）</b> 企業が他社との競争に対処し、安定的に成長するための指針となる経営戦略について学びます。	競争戦略と成長戦略の代表的な理論とその考え方について整理します。	4時間
第12回	<b>グローバル戦略</b> 日本企業の国際化プロセスを理解するとともに、グローバルに事業展開する際に重要となる課題について学びます。	ローカライゼーションとグローバルイゼーションという2つの課題について整理します。	4時間
第13回	<b>見えざる秩序としての企業文化</b> 経営に独自性を生み出すといわれる企業文化の醸成とその役割について考えます。	企業文化の形成プロセスおよび文化と企業の強みとの関連について整理します。	4時間
第14回	<b>組織間関係のマネジメント</b> 企業が自社のビジネスを完結させるために他社との関係をどのようにマネジメントしているのか考えます。	取引コスト理論から導かれる企業間関係のあり方について整理する。	4時間
第15回	<b>日本と経営管理</b> 日本的経営論を踏まえ、日本の経営管理の特徴とそのメリット、デメリットについて理解します。	年功制の是非について海外との比較から考えます。	4時間

授業科目名	ビジネスマネジメント				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業および傘下の生保企業、格付会社にて、本授業に関連する経営企画、経営戦略、総務、法務、広報、商品開発、マーケティング、IT、企業分析等の業務を担当（全15回）。				

### 授業概要

経営管理は、企業を代表とする組織の管理運営に関わる学問です。最初に、経営管理とは何か、企業とは何かを考え、その全体像を理解します。次いで、組織の内部の管理、組織と外部環境との関わり、日本企業の経営管理の特徴・課題などについて学び理解します。講義の中では、具体的な企業の事例や最新の動向等を解説するとともに質問を行います。また、映像資料や講師のビジネス経験等の紹介も通じて企業やマネジメントに関するダイナミックな動きを感じていただきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	企業の経営管理に関する重要な知識・理論の理解	企業の経営管理に関する重要な知識・理論について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		企業活動に関する重要な機能・役割について、その内容、特徴や課題を発見・指摘できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意しますが、それでも改善が見られない場合はイエローカードを渡し減点（1点/枚）対象とすることがあります。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小レポート（授業時間内）	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述の場合は0点とします。	30%
期末試験	： 経営管理に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていないかを基準にして評価します。	70%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
上野恭裕・馬場大治	・ 経営管理論	・ 中央経済社	・ 2016年

### 参考文献等

高松朋史・具承恒（2009）『コア・テキスト経営管理』新世社  
塩次喜代明・小林敏男・高橋伸夫（2009）『経営管理』有斐閣  
伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社

その他は適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業時間内にも伝達しますが、授業に関連する資料は、原則として、各回の授業日の前日までにLドライブの講師名・科目名のフォルダーに掲示しますので、それを参照したり適宜印刷して予習・復習を行ってください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日 3 限
場所：	44研究室（西館 3 階）

### 授業計画

第1回	ガイダンス、経営管理とは何か	教科書の第1章を読んで、経営管理に関する自分なりのイメージを考え、興味を感じた点や疑問点などをノートに書きとめて、授業に参加してください。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	経営管理とは何か、経営管理の目的は何か、経営管理を行う人は誰か、経営管理論の歴史などについて学びます。		4時間
第2回	企業とはどのような存在か	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、会社とは何か、企業の種類、株式会社に関する理解を深めます。	4時間
	会社とは何か、企業の種類、代表的な企業の形態である株式会社の特徴・機能・株主の権利などについて学びます。		
第3回	マネジメントの誕生	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、科学的管理法、人間関係論に関する理解を深めます。	4時間
	マネジメントの考え方の歴史的な変遷について、初期の代表的な理論(科学的管理法、人間関係論)について学びます。		

第4回	<b>組織マネジメントの展開</b>  組織とは何か、組織の継続に必要な条件は何か、人間の行動や意思決定の性質・特徴、意思決定論の考え方を学びます。	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、組織や意思決定などに関する理解を深めます。	4時間
第5回	<b>モチベーション（動機付け）論</b>  仕事や勉強、クラブ活動などで意欲の高い人と低い人の違いを生んだり、人の意欲を高める上で重要なモチベーション（動機付け）とはどのようなものか、それを向上させるために必要な要因は何かについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、モチベーション（動機付け）に関する理解を深めます。	4時間
第6回	<b>リーダーシップ論</b>  リーダーシップとは何か、リーダーシップを発揮するための要件、組織のトップやミドル（中堅の人々）にとつてのリーダーシップのあり方について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、リーダーシップに関する様々な観点に関する理解を深めます。	4時間
第7回	<b>組織構造のマネジメント</b>  組織とは何か、その目的、組織の種類や構造、組織の変化などについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、組織に関する重要点に関する理解を深めます。	4時間
第8回	<b>組織文化のマネジメント</b>  同じような目的・機能の組織でも、仕事の進め方や考え方、雰囲気などに違いがあります。そのような違いに関して重要な役割を果たす組織文化について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、組織文化に関する理解を深めます。	4時間
第9回	<b>企業事例の学習（組織文化）</b>  組織文化に関する具体的な企業事例を分析しつつ学び理解を深めます。	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、組織文化をより深く理解します。	4時間
第10回	<b>組織と環境</b>  組織と環境はどのような関係があるのか、最適な経営を行うために、組織は環境の変化にどのように適応すべきなのかといった内容について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、組織と環境に関する理解を深めます。	4時間
第11回	<b>企業事例の学習（組織と環境）</b>  企業についての組織と環境に関する具体的な企業事例を分析しつつ学び理解を深めます。	講義の内容を、教科書や講義内容、参考資料で復習し、組織と環境に関する理解をより深めます	4時間
第12回	<b>日本企業のマネジメント</b>  日本企業に特徴的とされ「日本的経営」とも呼ばれる、人材のマネジメント、生産管理の特徴や強みと課題などについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、「日本的経営」の重要性に関する理解を深めます。	4時間
第13回	<b>企業事例の学習（日本企業のマネジメント）</b>  日本的経営について具体的な企業事例を分析しつつ学び理解を深めます。	講義の内容を、教科書や講義内容、参考資料で復習し、日本的経営をより深く理解します。	4時間
第14回	<b>財務管理とコーポレートガバナンス</b>  財務管理（企業のお金に関する管理）とは何か・その重要点、会社は誰のものかという考え方（コーポレートガバナンス）の重要な論点について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、財務管理とコーポレートガバナンスの重要性に関する理解を深めます。	4時間
第15回	<b>本講義のまとめ（経営管理に関する重要事項の復習）</b>  本講義で取り上げた重要項目につき、教科書の各章を振り返りながら、特に重要な点を再度解説し学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、経営管理に関する重要点について理解を深めます。	4時間

授業科目名	ビジネスマネジメント				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

企業は組織としての目的を達成するために、研究開発、生産、財務、販売など諸機能の内容と機能間の関連を分析し、見いだした特性にそって独自のビジネスシステムを構築する必要がある。経営管理とは、それらの機能を全体的に統括する活動である。社会における企業のあり方、また企業がいかにして社会との関係を築きながら経営を行っているのかということについて組織と個人の関わり合いから考え、経営管理の基本的な仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	経営管理に関する知識	経営管理の諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	経営管理に関する知識の応用	企業の経営管理の現況を説明できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。
2．DP8. 意思疎通		集団内のメンバーの行動に影響を与えることで集団の目標達成を促すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末試験	50%	： 講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20%	： 課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10%	： 講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20%	： コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高橋伸夫編著	よくわかる経営管理	・ ミネルヴァ書房	・ 2011年

### 参考文献等

適宜、講義中に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日4限
場所：	研究室
備考・注意事項：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記以外の場合、申し出て下さい。</li> <li>・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。</li> <li>・講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。</li> </ul>

### 授業計画

第1回	イントロダクション 講義の進め方の説明とビジネスマネジメントを学ぶ意義	【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】ビジネスマネジメントの講義概要を確認すること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「ビジネスマネジメント」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学における経営管理の位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。		4時間

第2回	<b>経営管理の役割 企業の発展と経営管理</b>  企業経営における経営管理の位置づけと諸機能について学習する。	【予習】教科書の序章(pp. 1-11)について読んでおくこと。【復習】第2回講義の内容を見直すこと。	4時間
第3回	<b>経営戦略論の基礎 経営戦略の概念と体系、戦略策定のプロセス</b>  「経営組織における戦略とはどのような概念であるのか」ということについて、基礎的事項を学習する。	【予習】教科書のI章(pp. 12-32)について読んでおくこと。【復習】第3回講義の内容を見直すこと。	4時間
第4回	<b>全社戦略論 (1) 事業の定義と企業ドメイン</b>  企業のビジョンを実現するための事業領域の選択について学習する。	【予習】教科書のII章(pp. 33-54)について読んでおくこと。【復習】第4回講義の内容を見直すこと。	4時間
第5回	<b>全社戦略論 (2) 多角化戦略</b>  企業が従来からの事業領域を超えて、事業領域を拡大していく活動について学習する。	【予習】教科書のII章(pp. 33-54)について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直すこと。	4時間
第6回	<b>事業戦略論 (1) 戦略の立案</b>  戦略の策定がどのように行われていくのかということについて考える。	【予習】教科書のIV章(pp. 77-98)について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直すこと。	4時間
第7回	<b>事業戦略論 (2) ポジショニング戦略</b>  競合企業より高い収益を得るための戦略上の地位に、いかにして自社を位置づけるかというポジショニングの考え方について学習する。	教科書のIV章(pp. 77-98)について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直すこと。	4時間
第8回	<b>事業戦略論 (3) 資源ベース戦略</b>  持続的な競争優位を獲得するために、いかにして独自の経営資源を蓄積するかをもとに戦略を策定することを目指す資源ベースの考え方について学習する。	【予習】教科書のIV章(pp. 77-98)について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直すこと。	4時間
第9回	<b>経営組織論の基礎 マクロ組織論とミクロ組織論</b>  組織の構造やデザインに注目する組織理論と組織のメンバーの行動に焦点を当てる組織行動論について学習する。	【予習】教科書のVIII章(pp. 166-186)について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直すこと。	4時間
第10回	<b>製品開発論 アーキテクチャ論</b>  企業において、技術と市場をつなぐ流れを生み出す活動について学習する。	【予習】教科書のVI章(pp. 121-142)について読んでおくこと。【復習】第10回講義の内容を見直すこと。	4時間
第11回	<b>イノベーション論 (1) イノベーションとそのタイプ</b>  顧客に新しい価値をもたらす、新規需要を創出するイノベーションのマネジメントについて学習する。	【予習】教科書のVII章(pp. 143-164)について読んでおくこと。【復習】第11回講義の内容を見直すこと。	4時間
第12回	<b>イノベーション論 (2) イノベーションの普及</b>  イノベーションが何をきっかけにして生まれ、どのような段階を経て普及し、どうやって最終的な成果獲得に結びついていくのかというプロセスについて解説。	【予習】教科書のVII章(pp. 143-164)について読んでおくこと。【復習】第12回講義の内容を見直すこと。	4時間
第13回	<b>イノベーション論 (3) オープン・イノベーション</b>  広く世の中にある技術を活用し、企業内部と外部のアイデアを有機的に結合させ、新たな価値を創造するという「オープン・イノベーション」の考え方についてアウトサイドイン型とインサイドアウト型の側面から学習する。	【予習】教科書のVII章(pp. 143-164)について読んでおくこと。【復習】第13回講義の内容を見直すこと。	4時間
第14回	<b>国際経営論 海外進出企業の組織形態</b>  複数の国にまたがって行われる経営について学習する。	【予習】教科書のIII章(pp. 55-76)について読んでおくこと。【復習】第14回講義の内容を見直すこと。	4時間
第15回	<b>まとめ ビジネスマネジメントの展望</b>  これまでの講義で学習した内容を振り返り、ビジネスマネジメントを学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、経営管理の理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらい、自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。	講義内容について見直しをすること。	4時間

授業科目名	会計学入門/会計学				
担当教員名	笠岡恵理子／豊岡司				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

企業は、株主・債権者を含む利害関係者に対して、財務諸表を通し、自社の財政状態や経営成績の報告を行っている。また、利害関係者は、この財務諸表を用いて、投資や融資を含む企業に関する様々な意思決定を行っている。従って、財務諸表における情報を読み取り、その内容を理解することは、企業の状態を知る際に非常に重要とされる。本講義は、財務諸表を構成する貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書の意義および仕組みを理解し、これらの分析手法について学習および理解することを目的としている。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	会計学の基本知識	財務諸表の内容を理解し、分析することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		企業の財務諸表から財政状態や経営成績を読み取り、問題点を発見できる。
2 . DP8. 意思疎通		与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小テスト	30%	： 授業内容の理解度を評価する。
課外提出物	30%	： 学習内容を理解し、課題の発見ができていないかを確認する。
期末テスト	40%	： 授業で得た会計学の基本知識である財務諸表の内容とその分析方法の理解度を確認する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪商工会議所編	『ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級 (第3版)』	中央経済社	2016年

### 参考文献等

谷武幸、桜井久勝編著『1からの会計』碩学舎、2009年。  
桜井久勝『財務諸表分析 (第7版)』中央経済社、2017年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限目  
場所： 個人研究室（西館2F）  
備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。アドレスは第1回目の授業時に連絡します。

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>財務諸表とは</b> 講義の進め方に関する説明 財務諸表の意義 財務諸表の役割と種類	4時間 テキスト第1章「財務諸表」とは」の復習および次回講義内容のテキスト予習
第2回	<b>貸借対照表 (1) 貸借対照表のしくみ</b> 貸借対照表とは 貸借対照表の様式および表示	4時間 テキスト第2章「貸借対照表」第1節の復習および次回講義内容のテキスト予習
第3回	<b>貸借対照表 (2) 資産</b> 資産の概念と分類 資産の金額 流動資産、固定資産および繰延資産	4時間 テキスト第2章「貸借対照表」第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習
第4回	<b>貸借対照表 (3) 負債</b>	4時間 テキスト第2章「貸借対照表」第3節の復習および次回講義内容のテキスト予習

	負債の概念と分類 流動負債および固定負債		
第5回	<b>貸借対照表 (4) 純資産</b> 純資産の概念と分類 株主資本、評価・換算差額等および新株予約権	テキスト第3章「貸借対照表」第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第6回	<b>損益計算書 (1) 損益計算書のしくみ</b> 損益計算書とは 損益計算書の5つの利益 損益計算書の様式 損益計算の3つのルール	テキスト第3章「損益計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第7回	<b>損益計算書 (2) 5つの利益</b> 売上総利益 営業利益 経常利益 税引前当期純利益 当期純利益	テキスト第3章「損益計算書」第3節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第8回	<b>キャッシュ・フロー計算書 (1) キャッシュ・フロー計算書とは</b> キャッシュ・フロー計算書とは キャッシュ・フロー計算書と貸借対照表・損益計算書との関係	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第9回	<b>キャッシュ・フロー計算書 (2) キャッシュ・フロー計算書のしくみ</b> キャッシュ・フロー計算書のしくみおよび読み方	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第3節および第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第10回	<b>財務諸表分析 (1) 財務諸表分析とは</b> 財務諸表分析の関係者と対象情報 財務諸表分析の基本体系 分析結果の判断のための基準	テキスト第5章「財務諸表分析」第1節～第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第11回	<b>財務諸表分析 (2) 百分比財務諸表分析・成長性分析</b> 百分比財務諸表分析 成長性および伸び率の分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第5節および第6節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第12回	<b>財務諸表分析 (3) 安全性分析</b> 流動比率 正味運転資本 当座比率 自己資本比率	テキスト第5章「財務諸表分析」第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第13回	<b>財務諸表分析 (4) 収益性分析</b> 資本利益率 総資本経常利益率 自己資本利益率	テキスト第5章「財務諸表分析」第9節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第14回	<b>財務諸表分析 (5) 1株当たり分析</b> 1株当たり当期純利益 株価収益率 1株当たり純資産 株価純資産倍率	テキスト第5章「財務諸表分析」第10節および第11節の復習	4時間
第15回	<b>まとめ</b> 貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の内容および財務諸表分析の復習	総まとめ問題	4時間

授業科目名	<b>経営戦略論</b>				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

今日のような激しく変化するビジネス環境において、企業が生存していくことは容易なことではありません。そこで、1つのカギとなるのが経営戦略です。企業の戦略的行動は動植物が環境の変化に合わせて進化を繰り返しながら生存競争してきたことにたとえられます。本授業では、経営戦略の諸理論について学ぶとともに、さまざまな事例を通して経営戦略がビジネスの現場でどのように展開されているかを理解します。そして、それらの知識を基に現実の企業の行動の裏側にある戦略的意味について認識できるようになることを目的とします。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	経営戦略の基礎知識	経営戦略の諸理論について理解し、ビジネスとのかかわりにおいてその適応方法を概略的に説明できる。
汎用的な力		物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる。
1 . DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

毎回の課題	30%	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とする。授業内容に関係のない記述の場合は0点となる。
期末試験	70%	： ビジネスにおける経営戦略の役割や重要性を問う問題を出題し「経営戦略の基礎的内容を理解しているか」、「出題内容に関して論理的かつ簡潔に記述できているか」の2点を基準に評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
遠藤功	経営戦略の教科書	光文社新書	2011年

### 参考文献等

適宜、指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日3時間目
場所：	西館3階45研究室
備考・注意事項：	連絡を取りたい場合はメールでも可 (inamura@osaka-seikei.ac.jp)

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスー経営戦略とは何かー</b> 企業経営における経営戦略の意義と重要性について学びます。	4時間
第2回	<b>「ゲームのルール」を理解する</b> 戦略の策定は業界の競争のあり方を理解することから始まります。今回は業界における「ゲームのルール」の理解の仕方を学びます。	4時間
第3回	<b>グローバル競争と経営戦略</b> グローバル規模でダイナミックに変化する「ゲームのルール」とそれに対処すべき企業の経営戦略のあり方について学びます。	4時間
第4回	<b>「選択と集中」という考え方</b> 戦略の基本は、他社と違う何かを実行することです。このために必要となる「選択と集中」という考え方について学びます。	4時間
第5回	<b>戦略代替案の考え方</b> 企業が採用できる3つの基本戦略のあり方について学びます。	4時間

第6回	<b>リーダーの戦略</b> 質、量ともに豊富な資源を持ち、大きなマーケットを対象にビジネスを展開するリーダー企業の戦略について学びます。	リーダー企業の典型的な戦略のあり方についてトヨタや花王を例に整理します。	4時間
第7回	<b>チャレンジャーの戦略</b> 業界のリーダーに果敢に勝負を挑み、新たなリーダーを目指すチャレンジャーの戦略について学びます。	リーダー企業を脅かすチャレンジャー企業の戦略についてアサヒビールを例に整理します。	4時間
第8回	<b>ニッチャーの戦略</b> リーダーが参入してこない「隙間市場（ニッチ）」を探し出し、その限られた「土俵」で圧倒的な存在になることを目指すニッチャーの戦略について学びます。	ニッチャーといわれる企業がなぜ高付加価値経営に基づく高収益を上げているのかその理由を整理します。	4時間
第9回	<b>成長と経営戦略①ーアンソフの成長マトリクスー</b> 企業にとってどのような成長が望ましいだろうか。また、どのような成長の方向性があるだろうか。今回は企業の成長戦略について学びます。	アンソフの製品・市場マトリクスに基づく4つの成長の方向性について整理します。	4時間
第10回	<b>成長と経営戦略②ー資源配分戦略ー</b> 企業の成長を鈍化させないための複数の事業や製品に対する合理的な資金配分の仕方について学びます。	複数事業に対する効率的な資金配分を可能にするPPMの考え方について整理します。	4時間
第11回	<b>M&amp;Aと経営戦略</b> 企業の成長戦略の1つとして、近年、世界規模で展開されているM&A（合併買収）について、その有効性と課題について学びます。	企業が成長するために用いる手法としてM&Aの合理性について整理します。	4時間
第12回	<b>現場起点の経営戦略</b> 経営戦略の芽は現場にあるといわれます。今回は、よい経営戦略の立案には現場起点の発想が不可欠であることを学びます。	経営戦略において現場主導の帰納的な発想がなぜ必要なのか整理します。	4時間
第13回	<b>起業と経営戦略</b> 綿密な経営戦略がなければ起業できないだろうか？今回は、起業の際の経営戦略の役割について学びます。	起業の際に最も必要となるものは何か、また経営戦略が重要となるのはどの段階か整理します。	4時間
第14回	<b>破壊と創造</b> 企業は時として「過去の成功体験を捨てる」ことが必要となる。今回は、企業が進化するための破壊と創造について学びます。	企業にとってリストラクチャリングとは何をすることをいうのか、IBMの再生物語を例に整理します。	4時間
第15回	<b>日本企業の戦略的課題</b> 家電や自動車といった日本を代表するモノづくり産業が直面する戦略的課題について理解します。	日本の産業界にとって必要な破壊と創造について考えます。	4時間

授業科目名	<b>経営戦略論</b>				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業および傘下生保企業、格付会社にて、本授業に関連する経営企画、経営戦略、総務、法務、広報、商品開発、マーケティング、IT、企業分析等の業務を担当（全15回）。				

### 授業概要

本講義は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的な講義です。まず、経営戦略とは何かについて考えます。次いで経営戦略論の基本的な理論や概念（成長戦略・競争戦略や戦略の実行・評価等）を理解するとともに、併せて具体的な企業の事例も紹介し、現実の企業行動における戦略の策定や実行、課題などを学び、考えることを通じて、企業の戦略的行動を理解することを目指します。講義中は講師からの解説だけでなく質問を数多く行います。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	<b>具体的内容：</b> 経営戦略に関する重要な知識・理論の理解	<b>目標：</b> 経営戦略に関する重要な知識・理論について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP4. 課題発見		企業の経営戦略に関する重要な機能・役割について、その内容、特徴や課題を発見・指摘できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意しますが、それでも改善が見られない場合はイエローカードを渡し減点（2点/枚）対象とすることがあります。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小レポート（授業時間内）	30%	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述の場合は0点とします。
期末試験	70%	： 経営戦略に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていないかを基準にして評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎	1からの戦略論（第2版）	硯学社	2016年

### 参考文献等

井上善海・大杉奉代・森宗一(2015)『経営戦略入門』中央経済社  
 ヘンリー ミンツバーグ・ブルースアルストランド・ジョセフ ランペル（齋藤嘉則訳）(2012)『戦略サファリ 第2版 -戦略マネジメント・コンプリート・ガイドブック』東洋経済新報社  
 網倉久永・新宅純二郎（2011）『マネジメント・テキスト経営戦略入門』日本経済新聞出版社  
 ジェイ・B・バーニー（岡田正大訳）(2003)『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社  
 マイケル・E. ポーター（竹内弘高訳）(1999)『競争戦略論（1・2）』ダイヤモンド社

その他は適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業時間内にも伝達しますが、授業に関連する資料は、原則として、各回の授業日の前日までにLドライブの講師名・科目名のフォルダーに掲示しますので、それを参照したり適宜印刷して予習・復習を行ってください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限
場所：	44研究室（西館3階）

### 授業計画

回数	タイトル	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス、経営戦略とは何か</b>	経営戦略についての基本事項に注目して、教科書の序章を読んで予習し、興味を持った点や疑問点などをノートに書き出して授業に参加してください。	4時間
		経営戦略とは何か、経営戦略の考え方の種類や違い、歴史的な変遷、経営戦略を構成する重要な要素などの基本を学びます。	
第2回	<b>業界の構造</b>	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、業界の構造について理解を深めます。	4時間
		戦略にとって重要な要素である業界の構造について理解を深めます。	
第3回	<b>企業を取り巻く環境</b>	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、企業を取り巻く環境について理解を深めます。	4時間

	企業を取り巻く様々な環境についての重要点を学びます。		
第4回	<b>基本戦略</b>  企業の基本戦略についての概念や種類などについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、基本戦略についての概念や種類などに関する理解を深めます。	4時間
第5回	<b>製品ライフサイクル別戦略</b>  製品とそのライフサイクル別の戦略について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、製品ライフサイクル別戦略について理解を深めます。	4時間
第6回	<b>市場地位別戦略</b>  企業の業界における地位別の戦略について、リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーの立場における戦略などについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、地位別の戦略とその重要点について理解を深めます。	4時間
第7回	<b>リソース・ベースド・ビュー</b>  資源ベース (RBV)の戦略の概念とその重要点について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、資源ベースの戦略について理解を深める。	4時間
第8回	<b>事業システム</b>  事業システム、価値連鎖、競争優位を生み出すメカニズム等について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、事業システムについて理解を深めます。	4時間
第9回	<b>事業領域</b>  企業の事業領域やドメインについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、事業領域やドメインについて理解を深めます。	4時間
第10回	<b>成長戦略</b>  企業における成長戦略、多角化とシナジーなどについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、成長戦略について理解を深めます。	4時間
第11回	<b>資源展開</b>  資源展開とは何か、PPMの概念などを学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、資源展開とPPMなどについて理解を深めます。	4時間
第12回	<b>戦略の社会的側面</b>  環境との調和や企業の社会的責任などの考え方を学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、環境との調和や企業の社会的責任などについて理解を深めます。	4時間
第13回	<b>組織構造</b>  経営戦略を策定するために必要・有効な組織の構造について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、戦略の策定に必要・有効な組織の構造について理解を深めます。	4時間
第14回	<b>組織文化と企業変革</b>  経営戦略と組織文化、企業変革についての重要な要素やポイントについて理解し考え、学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、戦略と組織文化、企業変革について理解を深めます。	4時間
第15回	<b>講義まとめ(経営戦略に関する重要事項の復習)</b>  本講義で取り上げた重要項目につき、教科書の各章を振り返りながら、特に重要な点を再度解説し学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、経営戦略に関する重要点について理解を深めます。	4時間

授業科目名	<b>経営戦略論</b>				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本講義では、企業が環境との間で競争と協調を図りながら成長を追求している姿を深く検討し、「我々が『経営戦略』という時に、どのような視点から何を考慮に入れるべきであるのか」ということについて理解を深めることを目的とする。企業が効果的な戦略を実現するために必要な戦略の本質、戦略が機能する論理、戦略形成の方法論を学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	経営戦略論に関する知識	経営戦略論の諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	経営戦略論に関する知識の応用	企業の経営戦略の現況を説明できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。
2．DP8. 意思疎通		集団内のメンバーの行動に影響を与えることで集団の目標達成を促すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求め
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末試験	50% : 講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20% : 課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10% : 講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20% : コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
浅羽茂・牛島辰男	・ 経営戦略をつかむ	・ 有斐閣	・ 2010年

### 参考文献等

適宜、講義中に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日4限
場所：	研究室
備考・注意事項：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記以外の場合、申し出て下さい。</li> <li>・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。</li> <li>・講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。</li> </ul>

### 授業計画

第1回	イントロダクション 講義の進め方の説明と経営戦略論を学ぶ意義	【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】経営戦略論の講義概要を確認すること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
			4時間

	<p>本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「経営戦略」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学における経営戦略論の位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。</p> <p>経営戦略とは、「企業の将来像とそれを達成するための道筋」のことを意味する。企業全体の発展方向とそれに必要な経営資源の配分を決める「全社戦略（企業戦略）」、それぞれの事業で他の企業とどのような形で競争するかを明らかにする「事業戦略（競争戦略）」に大別できる。この2者について概説する。</p>		
第2回	<p><b>経営学の基礎 経営組織の全体像</b></p> <p>知識や技術が高度化するほど、多様な人々の協働を必要とする問題が多くなる。我々が生活する現代社会には様々な組織が存在する。組織について視覚的に理解できる設計図としての組織構造のモデルを示すことで企業に共通して認識できる活動の具体的なイメージをつかむ。そして、「戦略」と「組織」の関係について考える。</p>	<p>【予習】興味深いと思う企業を調べてくること。【復習】第2回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第3回	<p><b>経営戦略論の基礎 (1) 経営戦略の概念と体系</b></p> <p>経営組織における戦略とは、どのような概念であるのか、組織のレベルに対応した戦略の階層構造、戦略は計画的に策定されると同時に創発的に形成されるという特性から経営戦略論の視点について身近な事例を基に解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第1章unit1とunit2(pp. 1-21)について読んでおくこと。【復習】第3回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第4回	<p><b>経営戦略論の基礎 (2) 戦略策定のプロセス</b></p> <p>通常、戦略の策定は企業戦略から事業戦略の順に行われ、企業理念のもとで、長期的・全社的視点から企業の発展方向を示す基本方針が経営戦略として具体化されていく。戦略の策定がどのように行われていくのかということSWOT分析等について言及し解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章unit4(pp. 33-47)について読んでおくこと。【復習】第4回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第5回	<p><b>全社戦略論 (1) 事業の定義と企業ドメイン</b></p> <p>ドメインを定義するということは、競争相手と戦う範囲を特定することであると同時に、企業のアイデンティティを規定することでもある。企業がどのような事業領域を選択するか、組織が活動し生存していくための展開領域をいかにして定義するかということについて学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第4章unit14(pp. 153-167)について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第6回	<p><b>全社戦略論 (2) 多角化</b></p> <p>企業が従来からの事業領域を超えて事業領域を拡大していく活動である「多角化」について学習する。多角化は、本業に集中している程度、本業とそれ以外の事業との関連に応じていくつかのタイプに分類でき、事業展開の方向を加味することで経営成果が異なる。また、多角化を行う企業の動機等についても理解を深める。</p>	<p>【予習】教科書の第4章unit16とunit17(pp. 181-202)について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第7回	<p><b>全社戦略論 (3) 多角化のマネジメント</b></p> <p>多角化した企業は、複数の事業の間でいかに資源配分するか、どのような優先順位をつけるか、それぞれにどのような課題・役割を与えるかといった問題を考えなければならない。また、企業全体の業績向上に資するように各事業が経営されるような制度を設計しなければならない。多角化した事業をいかに管理するかが重要であり、1つの解を与える手法として「PPM (Product Portfolio Management)」を用いて考える。</p>	<p>【予習】教科書の第4章unit18(pp. 203-213)について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第8回	<p><b>全社戦略論 (4) 国際企業戦略の類型</b></p> <p>研究開発、生産、販売など様々な活動の場が国境を越えて海外に展開する国際化において、複数ある各国拠点をどのようにマネジメントするかという問題に対して統合と適応という視点から考え、国際企業戦略のタイプを学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第4章unit19(pp. 214-225)について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第9回	<p><b>事業戦略論 (1) ポジショニング戦略</b></p> <p>魅力的な産業を事業分野として選択し、様々な戦略を駆使して、競合企業からの競争圧力やそれ以外の脅威に対処できるような戦略上の地位に、いかにして自社を位置づけるかというポジショニングの考え方について学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章unit5(pp. 48-58)について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第10回	<p><b>事業戦略論 (2) 資源ベース戦略</b></p> <p>経営資源や組織能力という視点から企業の強みを捉え、持続的な競争優位を獲得するために、いかにして独自の経営資源を蓄積するかという視点をもとに戦略を策定することを目指す資源ベースの考え方について学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章unit6(pp. 59-68)について読んでおくこと。【復習】第10回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第11回	<p><b>事業戦略論 (3) 競争戦略の基本類型Ⅰ：コスト・リーダーシップ戦略</b></p> <p>業界内で最も低いコスト構造を実現することで、競争優位の確立を目指す戦略について学習する。また、絞り込んだ事業領域に企業の資源を集中することで低コストの優位性を図る「コスト集中戦略」についても解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章unit7とunit8(pp. 69-88)について読んでおくこと。【復習】第11回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第12回	<p><b>事業戦略論 (4) 競争戦略の基本類型Ⅱ：差別化戦略</b></p> <p>自社の製品やサービスを差別化し、業界の中でも独自性や特異性といった「違い」があるとして顧客に認識される価値を創造する戦略について学習する。また、絞り込んだ事業領域に企業の資源を集中することで差別化を図る「差別化集中戦略」についても解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章unit9(pp. 89-99)について読んでおくこと。【復習】第12回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第13回	<p><b>経営戦略と技術 業界標準をめぐる競争</b></p> <p>業界標準をめぐる競争においては、売れた物がより売れ、大きなシェアを獲得できる。「ネットワーク外部性」が及ぼす影響をキーワードとして、事実上の業界標準であるデファクト・スタンダードをいかにして獲得するかということについて考える。</p>	<p>【予習】教科書の第3章unit11(pp. 115-126)について読んでおくこと。【復習】第13回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間

第14回	<b>戦略論の歴史 戦略論の萌芽、戦略の体系化、RBVの発展</b>	<b>【予習】</b> 教科書の第1章unit3(pp. 22-31)について読んでおくこと。 <b>【復習】</b> 第14回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第15回	<b>まとめ 経営戦略論の展望</b> これまでの講義で学習した内容を振り返り、経営戦略論を学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、経営戦略の理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらおう。自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。	講義内容について見直しをすること。	4時間

授業科目名	<b>マーケティング論</b>				
担当教員名	李美花・田村匡				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義形式で進める。さらに、理解度を高めるために、配布プリント、DVD映像、写真、新聞、雑誌などのビジュアル資料も併用する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本講義では、学生が知っておくべき企業の諸活動を中心にマーケティングの原理を理解するための基本的な枠組みと理論について講義する。主に製品(Product)、価格(Price)、流通(Place)、プロモーション(Promotion)の4つのPに沿って、実際にビジネス現場で活用されているトピックスを用いて進める。なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	マーケティング概念や知識を学習する	4Psの応用能力を身に付ける
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	身の回りの事例を通じてマーケティング思考能力を身に付ける	マーケティング視点から論理的な思考力が養える
汎用的な力		身近な物事の変化について論理的な理解ができる
1．DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。  
期末筆記テスト、課題レポート、平常点、の組み合わせによって、授業内容をきちんと理解できているか、総合的に評価を行い、設定した尺度を超えた場合、合格以上とする。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末テスト 40%	: 定期試験の期末筆記テスト(授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価)
課題レポート 30%	: 課題レポート(自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価)
平常点 30%	: 授業内での小テスト、発言、課題、コメントカードの内容など積極的な授業への参加は高く評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
弘兼憲史	・ 知識ゼロからのマーケティング入門	・ 幻冬舎	・ 2008年

### 参考文献等

【参考書】講義中に適宜紹介する。  
恩蔵直人『マーケティング』(日経文庫)、日本経済新聞出版社、2010年(13刷)。  
池尾 恭一(共著)『マーケティング』有斐閣、2010年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ★田村担当の受講生は、指定教科書を購入すること。李担当の受講生は指定教科書の購入は必須ではない。
- ★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート(手書き、A4、1枚以内)を事後に提出すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 李(月、2時限)、田村(水、1時限)  
場所： 李(西館2階)、田村(西館3階)  
備考・注意事項： 注) 指定している使用教科書はスポマネのみが対象。

### 授業計画

回	内容	授業のまとめ、マーケティング・コンセプトについて調べる	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス、自己紹介：マーケティングとは何か</b> マーケティングとは何か 人が、「なぜ買うのか」また「なぜ買わないのか」、商品やサービスを選んだり、買ったりするのはマーケティングの一つの大きな命題	授業のまとめ、マーケティング・コンセプトについて調べる	4時間
第2回	<b>マーケティングの基礎概念</b> マーケティング・コンセプトの変遷をはじめ、欲求、需要、市場、製品について学習する	授業のまとめ、五感マーケティングについて調べる	4時間
第3回	<b>マーケティング事例#Case study：五感マーケティング</b> 郷愁を誘うノスタルジア(nostalgia)消費について理解を深め、身近な小売店の五感マーケティング事例を取りあげながら五感マーケティングの有効性について学習する	授業のまとめ、ストーリーテリングについて調べる	4時間

第4回	<b>マーケティング演習：「ストーリーテリング(story telling)」</b> ストーリーを活用した「レオパレス21」のケースを通じて、人の心を動かせる有効な最新マーケティング手法である「ストーリーテリング」について学ぶ 具体的には、どんなストーリーを用いて消費者に伝達し、結果的にはどんな効果をもたらすのかについて学習する	授業のまとめ、ペルソナについて調べる	4時間
第5回	<b>マーケティング演習：ペルソナ作り</b> ペルソナ（英：persona）とは、カール・グスタフ・ユングの概念。ペルソナという言葉は、元来、古典劇において役者が用いた仮面のことであるが、ユングは人間の外的側面をペルソナと呼んだ。	授業のまとめ、セグメンテーション、ターゲティングについて調べる	4時間
第6回	<b>マーケティング演習：マーケティング実務（STP）</b> セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング セグメンテーションの意義&目的、同質化からの脱皮して差別化を図るためのセグメントを対象にターゲットを設定した事例を学習する	授業のまとめ、マーケターについて調べる	4時間
第7回	<b>マーケティング事例#Case study：マーケターの仕事</b> USJを3年で復活させた日本を代表とするスゴ腕マーケター「森岡毅」の事例を通じて、マーケティングの重要性について学習する マーケターとは、マーケティング理論や調査に専門的な知識を持つマーケティング戦略立案者	授業のまとめ、リフォームの「ホームプロ」について調べる	4時間
第8回	<b>（予定）ゲストスピーカー「実践マーケティングを学ぶ」</b> 社内起業の舞台裏 NO.1リフォーム仲介サイト『ホームプロ』 特別授業開催：大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所（CEL）主席研究員の鈴木 隆先生をお招きして実践マーケティングについて講演をいただく（日程は変更可能性がある）	授業のまとめ、消費者行動について調べる	4時間
第9回	<b>マーケティング演習：購買者行動とマーケティングリサーチ</b> 購買する動機と背景など、社会現象からマーケティングの重要性を学ぶ 購買意思決定プロセス（Consumer Information Processing）：消費者が外部要因や内部要因の影響を受けて購買意思決定に至る心理的プロセス「購買意思決定プロセス（Consumer Information Processing）」について学習する	授業のまとめ、ホームセンターについて調べる	4時間
第10回	<b>マーケティング事例#Case study：「ホームセンター」</b> 「百貨店や雑貨専門店に行くような30代～40代の女性」に絞った「ビバホーム」のターゲットについて学習する	授業のまとめ、好きなブランド一つを選び、そのブランドについて調べる	4時間
第11回	<b>ブランドマーケティング#Case Study：ブランドエクイティ</b> ブランドマーケティングの概念の理解及びブランドエクイティ・ブランド連想について学習する	授業のまとめ、4Psのうち、製品について調べる	4時間
第12回	<b>マーケティング・ミックス4Ps：#Case study（製品）</b> 製品ライフサイクル理論、「売れる仕組み」を作る事例として「俺のフレンチ」の事例を取りあげ製品の特長について学習する（前半）	授業のまとめ、4Psのうち、価格とは何かについて調べる	4時間
第13回	<b>マーケティング・ミックス4Ps：#Case study（価格）</b> 消費者満足に関する仮説「期待・パフォーマンス仮説」をはじめ、価格戦略について学習する	授業のまとめ、4Psのうち、立地について調べる	4時間
第14回	<b>マーケティング・ミックス4Ps：#Case study（立地）</b> プレイスの概念、流通チャネルを自ら統率する流通経路の「系列化」について学習する	授業のまとめ、4Psのうち、販促について調べる	4時間
第15回	<b>マーケティング・ミックス4Ps：#Case study（販促）</b> 4Ps最後の「ツメ」であるプロモーションについて学習する	授業のまとめ、これまでの授業内容を振り返ってみる	4時間

授業科目名	マーケティング入門				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本講義では、マーケティングの基礎概念を中心に企業の諸活動を紹介していく。製品(Product)、価格(Price)、流通(Place)、プロモーション(Promotion)の4つのPに沿って、実際にビジネス現場で活用されている最近のトピックスを用いて講義を進める。なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル 2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	マーケティング概念や知識を学習する 身の回りの事例を通じてマーケティング思考能力を身に付ける	4Psの応用能力を身に付ける マーケティング視点から論理的な思考力が養える
汎用的な力 1 . DP4. 課題発見		身近な物事の変化について論理的な理解ができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。  
 期末筆記テスト、課題レポート(2回)、平常点、の組み合わせによって、授業内容をきちんと理解できているか、総合的に評価を行い、設定した尺度を超えた場合、合格以上とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末テスト	40%	: 定期試験の期末筆記テスト(授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価)
期中課題レポート	20%	: 7回目～8回目の授業に提出する、期中レポート(自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価)
期末課題レポート	20%	: 最後の授業日に提出する、期末レポート(自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価)
平常点	20%	: 授業内での小テスト、発言、宿題、発表、コメントカードの内容など積極的な授業への参加は高く評価する

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考書】講義中に適宜紹介する。  
 恩蔵直人『マーケティング』(日経文庫)、日本経済新聞出版社、2010年(13刷)。  
 池尾 恭一(共著)『マーケティング』有斐閣、2010年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート(手書き、A4、1枚以内)を事後に提出すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、2時限  
 場所： 研究室、西館2階

### 授業計画

回	内容	授業のまとめ、マーケティング・コンセプトについて調べる	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス、自己紹介：マーケティングとは何か</b> 人が、「なぜ買うのか」また「なぜ買わないのか」、商品やサービスを選んだり、買ったりするのはマーケティングの一つの大きな命題	授業のまとめ、マーケティング・コンセプトについて調べる	4時間
第2回	<b>マーケティングの基礎概念</b> マーケティング・コンセプトの変遷をはじめ、欲求、需要、市場、製品について学習する	授業のまとめ、五感マーケティングについて調べる	4時間
第3回	<b>マーケティング事例#Case study：五感マーケティング</b> 郷愁を誘うノスタルジア(nostalgia)消費について理解を深め、身近な小売店の五感マーケティング事例を取りあげながら五感マーケティングの有効性について学習する	授業のまとめ、ストーリーテリングについて調べる	4時間
第4回	<b>マーケティング演習：「ストーリーテリング(story telling)」</b>	授業のまとめ、ペルソナについて調べる	4時間

	ストーリーを活用した「レオパレス21」のケースを通じて、人の心を動かせる有効な最新マーケティング手法である「ストーリーテリング」について学ぶ 具体的には、どんなストーリーを用いて消費者に伝達し、結果的にはどんな効果をもたらすのかについて学習する		
第5回	<b>マーケティング演習：ペルソナ作り</b> ペルソナ（英：persona）とは、カール・グスタフ・ユングの概念。ペルソナという言葉は、元来、古典劇において役者が用いた仮面のことであるが、ユングは人間の外的側面をペルソナと呼んだ	授業のまとめ、セグメンテーション、ターゲティングについて調べる	4時間
第6回	<b>マーケティング演習：マーケティング実務（STP）</b> セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング セグメンテーションの意義&目的、同質化からの脱皮して差別化を図るためのセグメントを対象にターゲットを設定した事例を学習する	授業のまとめ、マーケティングについて調べる	4時間
第7回	<b>マーケティング事例#Case study：マーケターの仕事</b> USJを3年で復活させた日本を代表とするスゴ腕マーケター「森岡毅」の事例を通じて、マーケティングの重要性について学習する マーケターとは、マーケティング理論や調査に専門的な知識を持つマーケティング戦略立案者	授業のまとめ、リフォームの「ホームプロ」について調べる	4時間
第8回	<b>（予定）ゲストスピーカー「実践マーケティングを学ぶ」</b> 特別授業開催：ゲストスピーカーをお招きして実践マーケティングについて講演をいただく（日程は変更可能性がある）	授業のまとめ、消費者行動について調べる	4時間
第9回	<b>マーケティング演習：購買者行動とマーケティングリサーチ</b> 購買する動機と背景など、社会現象からマーケティングの重要性を学ぶ 購買意思決定プロセス（Consumer Information Processing）：消費者が外部要因や内部要因の影響を受けて購買意思決定に至る心理的プロセス「購買意思決定プロセス（Consumer Information Processing）」について学習する	授業のまとめ、ホームセンターについて調べる	4時間
第10回	<b>マーケティング事例#Case study：「ホームセンター」</b> 「百貨店や雑貨専門店に行くような30代～40代の女性」に絞った「ビバホーム」のターゲットについて学習する	授業のまとめ、好きなブランド一つを選び、そのブランドについて調べる	4時間
第11回	<b>ブランドマーケティング#Case Study：ブランドエクイティ</b> ブランドマーケティングの概念の理解及びブランドエクイティ・ブランド連想について学習する	授業のまとめ、4Psのうち、製品について調べる	4時間
第12回	<b>マーケティング・ミックス4Ps：#Case study（製品）</b> 製品ライフサイクル理論、「売れる仕組み」を作る事例として「俺のフレンチ」の事例を取りあげ製品の特長について学習する（前半）	授業のまとめ、4Psのうち、販促とは何かについて調べる	4時間
第13回	<b>マーケティング・ミックス4Ps：#Case study（販促）</b> 4Ps最後の「ツメ」であるプロモーションについて学習する	授業のまとめ、4Psのうち、価格とは何かについて調べる	4時間
第14回	<b>マーケティング・ミックス4Ps：#Case study（立地）</b> プレイスの概念、流通チャネルを自ら統率する流通経路の「系列化」について学習する	授業のまとめ、4Psのうち、販促について調べる	4時間
第15回	<b>マーケティング・ミックス4Ps：#Case study（販促）</b> 4Ps最後の「ツメ」であるプロモーションについて学習する	これまでの授業内容を振り返ってみる	4時間

授業科目名	<b>経営組織論</b>				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地域総合経済団体にて10年間、人事労務管理全般に関するコンサルティング業務（人事制度改定、採用、育成等）を担当（全15回）。				

### 授業概要

現代社会の中で「組織」はさまざまな形で存在しています。経営組織論では、これら組織の中でも私たちの生活と密接に関連している企業組織を主な研究の対象としています。そこで本講義では、組織目標を達成するため、組織構造や環境適応といった組織と環境の関わりからの視点であるマクロ組織論と組織内部で働く個人や集団を対象にリーダーシップやモチベーションといった組織内のメンバーへの関わりからの視点であるミクロ組織論を学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	経営組織	経営組織の基礎知識を習得するとともに、現代社会における経営組織の各種課題についての理解を深める。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		課題レポート作成を通して、講義で得られた知識をベースに自らの考えをまとめる。
2．DP8. 意思疎通		読み手に理解を促すわかりやすい文書を作成する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

平常点	10%	： 授業内での発言、課題、コメントカードの内容など積極的な授業への参加を評価する。
課題レポートへの取り組み状況	20%	： 各回2～10点で評価し、合計20点満点とする。・授業内容を踏まえた論述ができていれば5点とし、誤字・脱字・文法の間違いがなければ2点を加点、さらに独自の視点や見解が示されておれば3点を加点する。
小テスト	20%	： 原則、毎授業、小テストを実施する。全ての小テストの結果を20点満点で評価する。
期末試験	50%	： 経営組織に関する基礎知識およびその課題について、自らの考えを問う小論文問題を出題し、以下の観点から評価する。1. 基礎知識を正しく理解しているか 2. 自分の独自の考えを提示できているか

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

高橋正泰・山口善昭・磯山優・文智彦『経営組織論の基礎』（中央経済社・1998年）など。  
その他の参考文献は、適宜、授業時に紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日2限
場所：	西館2階研究室
備考・注意事項：	金曜日2限をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。(yamasaki-t@osaka-seikei.ac.jp) Eメール件名としては「人事管理について(氏名、学籍番号、グループNO)」とすること。

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス：経営組織論とは</b> 授業のガイダンスとして、企業経営における経営組織論の意義と重要性について解説します。	4時間
第2回	<b>組織の定義と組織論の展開</b> まず組織とは何か、そして組織論の成立と展開について解説します。 ・マクロ組織論の視点 ・ミクロ組織論の視点 ・前回の振り返り、各種質問への回答	4時間

第3回	<b>管理組織の基本構造</b>  管理組織の基本構造の特徴と問題点を解説します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン組織</li> <li>・ファンクショナル組織</li> <li>・ライン&amp;スタッフ組織</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。身近な組織の組織構造について調べる。	4時間
第4回	<b>管理組織の形態（1）職能別組織</b>  企業管理組織の具体的な形態の1つである「職能別組織」の特徴と問題点を解説します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。具体的な職能別組織の企業事例を調べる。	4時間
第5回	<b>管理組織の形態（2）事業部制組織</b>  企業管理組織の具体的な形態の1つである「事業部制組織」の特徴と問題点を解説します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。具体的な事業部制組織の企業事例を調べる。	4時間
第6回	<b>管理組織の形態（3）マトリックス組織など</b>  企業管理組織の具体的な形態の1つである「マトリックス組織」およびチーム制組織などの特徴と問題点を解説します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。具体的なマトリックス組織の企業事例を調べる。第1回課題レポートの作成	4時間
第7回	<b>組織の環境適応</b>  企業組織の環境適応の問題を組織のコンティンジェンシー理論の考え方から考えます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。身近な組織が環境とどのような関係になっているかを調べる。	4時間
第8回	<b>組織文化</b>  組織文化はどのように形成されるのか、組織「風土」「文化」は違うのかを考えます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織文化の形成</li> <li>・組織文化の機能と逆機能</li> <li>・グループワーク</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。身近な組織の組織文化がどのようなものかを調べる。	4時間
第9回	<b>科学的管理法から人間関係論へ</b>  テイラーの科学的管理法から人間関係論の登場に至るまでの理論的経緯を解説します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第10回	<b>モチベーション</b>  人は何によって意欲が生まれるのか、組織の中の個人に焦点を当てたモチベーションに関する理論を解説します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・欲求階層説</li> <li>・動機付け衛生理論</li> <li>・内発的動機付け</li> <li>・期待理論</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第11回	<b>リーダーシップ</b>  リーダーシップはどのように発揮されるのか、リーダーシップの種類などに関する諸理論を解説します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・SL理論</li> <li>・PM理論</li> <li>・トップとミドルのリーダーシップ</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。身近なリーダーシップの事例からどのようなリーダーシップスタイルであったかを調べる。第2回課題レポート作成	4時間
第12回	<b>組織における行動変容</b>  組織における行動変容を促すために必要な行動理論的アプローチについて解説する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動の強化</li> <li>・行動の弱化</li> <li>・グループワーク</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第13回	<b>組織構造と戦略</b>  「組織は戦略に従う」チャンドラーの戦略論をベースにした組織論を解説する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略の定義</li> <li>・戦略と組織の関係</li> <li>・グループワーク</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第14回	<b>組織学習と組織活性化</b>  組織が発展するための「組織学習」の基本的なメカニズムおよび学習サイクルについて解説する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シングル・ループ学習</li> <li>・ダブル・ループ学習</li> <li>・組織学習を促す要因と阻む要因</li> <li>・前回の振り返り、各種質問への回答</li> </ul>	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第15回	<b>まとめ：重要内容への全体的補足・補充説明</b> 15回の講義全体のふりかえりと必要に応じた補足・補充説明を行います。	定期試験準備のための全体的な復習と学習	4時間

授業科目名	<b>組織とコミュニケーション</b>				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地域総合経済団体にて10年間、人事労務管理全般に関するコンサルティング業務（人事制度改定、採用、育成等）を担当（全15回）。				

### 授業概要

組織において円滑に業務を遂行するためには、組織構成員同士における適切なコミュニケーションが不可欠である。そこで本講義の目的は、組織におけるコミュニケーション活動に焦点をあて、組織コミュニケーション論の基本的な概念を学ぶとともに、自身が所属する組織に応用できる力を身に付けることである。本講義ではコミュニケーションに関わる理論的視点と実践的視点の2つから構成する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

コミュニケーション力の向上

#### 目標：

- ・傾聴力：他者の発言を聴き、その意図や主張を正確に把握することができる。
- ・伝える力：自分の意図や主張を、上手く正確に伝えることができる。
- ・社会や組織の問題を、自らの問題として受け止め、自ら関わろうとする態度。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

行動力

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通

課題レポート作成を通して、講義で得られた知識をベースに自らの考えをまとめる。

読み手に理解を促すわかりやすい文書を作る

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

平常点	10%	： 授業内での発言、課題、コメントカードの内容およびグループ演習における積極性を評価する。
課題レポートへの取り組み状況	20%	： 各回2～10点で評価し、合計20点満点とする。・授業内容を踏まえた論述ができていれば5点とし、誤字・脱字・文法の間違いがなければ2点を加点、さらに独自の視点や見解が示されておれば3点を加点する。
小テスト	20%	： 原則、毎授業、小テストを実施する。全ての小テストの結果を20点満点で評価する。
期末試験	50%	： 講義内容に関する基礎知識問題とその分野の課題に関する自らの考えを問う小論文問題を出題し、以下の観点から評価する。 1. 基礎知識を正しく理解しているか 2. 自分の独自の考えを提示できているか

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- 授業時にレジュメを配布します。
- ・狩俣正雄『組織のコミュニケーション論』（中央経済社・1992年）
  - ・奥林康司『入門人的資源管理（第2版）』（中央経済社・2010年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。原則として、毎回の授業で小テストを実施する。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 2限

場所： 西館2階研究室

備考・注意事項： 金曜日2限をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。(yamasaki-t@osaka-seikei.ac.jp) Eメール件名としては「組織とコミュニケーションについて（氏名、学籍番号、グループNO）」とすること。

### 授業計画

第1回

#### ガイダンス

コミュニケーションの重要性ならびに、コミュニケーション能力とコミュニケーションスキルの違いを解説します。

配布された参考資料等の復習と予習コミュニケーションについて自分にとっての課題を整理しておく。

#### 授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<b>組織の定義とコミュニケーションの定義</b>  組織とは何か、コミュニケーションとは何か、組織におけるコミュニケーションとは何かについて解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習身近な組織において、どのようなコミュニケーションがとられているかを整理する。	4時間
第3回	<b>組織コミュニケーションの理論（科学的管理法）</b>  テイラーの科学的管理法とはどのような仕組みだったのか、何のためにテイラーは科学的管理法を考えたのかを解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習	4時間
第4回	<b>組織コミュニケーションの理論（人間関係理論）</b>  人間関係論はどのように誕生したのか、科学的管理法とどのような点が異なるのかを解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習	4時間
第5回	<b>組織コミュニケーションの理論（行動科学研究①：マズロー・マグレガー）</b>  行動科学論はどのように誕生したのか、人間関係論とどのような点が異なるのか、代表的な論者から解説します。（マズローおよびマグレガー）	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習	4時間
第6回	<b>組織コミュニケーションの理論（行動科学研究②アージリス・ハズバーク）</b>  行動科学論はどのように誕生したのか、人間関係論とどのような点が異なるのか、代表的な論者から解説します。（アージリスおよびハズバーク）	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。第1回課題レポートの作成	4時間
第7回	<b>組織コミュニケーションの理論（組織文化）</b>  組織が異なると意思決定のあり方などが大きく異なります。組織文化が組織コミュニケーションに与える影響について解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第8回	<b>リーダーシップとフォロワーシップの理解</b>  リーダーシップに加え、フォロワーシップの重要性を解説します。またグループワークを通じてリーダーシップとフォロワーシップの重要性を理解します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。自身がこれまで行ってきたリーダーシップ体験について整理する。	4時間
第9回	<b>ファシリテーション (Facilitation) やアサーション (Assertion) の基礎理論</b>  組織を円滑に運用するために必要なファシリテーションとアサーションについて解説します。またグループワークを通じて適切な自己表現法を理解します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。自身のこれまでの自己表現方法と学びを通じて得た自己表現方法の差異を整理する。	4時間
第10回	<b>適切な聞き方と聴き方（傾聴法の理解）</b>  他人とコミュニケーションをとる上で、重要な訊く（質問すること）と聴く（傾聴すること）の重要性について解説します。またグループワークで適切な聞き方や聴き方による効果も体験します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。第2回課題レポートの作成	4時間
第11回	<b>組織コミュニケーションと感情のコントロール</b>  組織を構成する人々には、それぞれ感情があります。組織内において物事を進めていく際に、時には自身の感情をうまくコントロールし、合意形成を構築していく必要があります。そこで感情のコントロールの重要性とコントロール法について解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト）と予習	4時間
第12回	<b>組織コミュニケーションと行動変容</b>  これまで講義まで学んだコミュニケーションの技法を踏まえ、組織（チーム）がより適切に行動するための技法（心理学）を解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第13回	<b>組織におけるメンタルヘルス</b>  組織・企業におけるメンタルヘルス対応の実態および自身の心身の健康の保持増進（セルフケア）の重要性について解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第14回	<b>組織におけるハラスメント</b>  現在、企業に対するパワハラ対策の義務化が検討されています。ハラスメントとは何なのかなど、組織人として知っておくべき基礎知識を解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第15回	<b>まとめ：重要内容への全体的補足・補充説明</b> 15回の講義全体のふりかえりと必要に応じた補足・補充説明を行います。	定期試験準備のための全体的な復習と学習	4時間

授業科目名	<b>サービスマネジメント</b>				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

サービス (service) とは、人のために力を尽くす・奉仕という意味を持つ。これが商売では顧客のためになされる種々の奉仕など多様な意味を持ち、広く使われている。本講義では、まずサービスの本質及び特徴を理解してもらい、サービスをマネジメントするためにはいかなる手法があるのか様々な事例を通じて学習する。なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	サービスマネジメントの様々な手法について学習する	サービスをマネジメントする応用能力を身に付ける
汎用的な力		身の回りの事例を通じてサービス視点が鍛えられる
1 . DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。期末筆記テスト、課題レポート(2回)、平常点、の組み合わせによって、授業内容をきちんと理解できているか、総合的に評価を行い、設定した尺度を超えた場合、合格以上とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末筆記テスト	40%	: 定期試験の期末筆記テスト(授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価)
期中レポート	20%	: 7回目～8回目の授業に提出する、期中レポート(自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価)
期末レポート	20%	: 最後の授業日に提出する、期末レポート(自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価)
平常点	20%	: 授業内での小テスト、発言、宿題、発表、コメントカードの内容など積極的な授業への参加は高く評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考書】  
 近藤 隆雄 (2007) 『サービスマネジメント入門ーものづくりから価値づくりの視点へ』生産性出版(第3版)。  
 佐藤 知恭 (2000) 『顧客ロイヤルティの経営ーCSを超えるサービス・マネジメント』日本経済新聞社。  
 講義中に適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート(手書き、A4、1枚以内)を事後に提出すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限  
 場所： 研究室、西館2階  
 備考・注意事項： 研究室 西館2階

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス：自己紹介、講義の目標、授業スケジュール、成績評価</b> サービスの語源、サービス派生語、サービス産業について学習する	授業のまとめ、サービスとホスピタリティの違いについて調べる 4時間
第2回	<b>サービスとホスピタリティ、おもてなし</b> サービスとは？顧客に便宜性や肉体的・心理的な満足感を与えること。ホスピタリティとは、語源は、ラテン語のhospics。その起源は、共同体外からの来訪者を歓待し宿舎や食事・衣類を提供する異人歓待という風習に遡る。共飲共食、宿舎・食事の提供、家族と接するように、表裏の無い心で見返りを求めない自然発生的な対応	授業のまとめ、メートル・ドテルについて調べる 4時間
第3回	<b>サービスとマーケティング【Case Study#】世界一のサービスマン「宮崎辰」</b>	授業のまとめ、予習として、参考書(サービスマネジメント) p48～p52をまとめる 4時間

	「世界一のおもてなし」をする男メートル・ドテル「宮崎辰」のサービス精神について学習する		
第4回	<b>サービスマーケティング・ミックスサービス&amp;サービスの特徴</b> サービスマーケティング・ミックス サービスの特徴（モノとサービスの融合：参考書「サービスマネジメント」p48～p52）&サービス構成要素、サービスの本質について学習する	授業のまとめ、モノとサービスの違いとは何かについて調べる	4時間
第5回	<b>利用コスト&amp;感動サービス【Case Study#】感動のサービスが客を呼ぶ</b> 顧客価値の創造、顧客ロイヤリティの重要性について学習する。 #参考映像資料：TSUTAYA、カンタレストラン	授業のまとめ、サービス業において利益とは何かについて調べる	4時間
第6回	<b>サービスマネジメントシステム&amp;サービスの利益方程式</b> 最適なサービス生産システムを設計する上で、どんな要素に注目し、どのようにそれらを組み立てたらよいかを教えてくれるフレームワーク「サービスマネジメントシステム」について学習する。 顧客価値の創造において製造業とは違う利益方程式を理解する	授業のまとめ、顧客ロイヤリティとは何かについて調べる	4時間
第7回	<b>サービスとマーケティング【Case Study#】加賀屋</b> 『プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選』（主催：旅行新聞新社）で3年連続の日本一に輝く石川県和倉温泉にある「加賀屋」のサービスマネジメントについて学習する	授業のまとめ、CRMとは何かについて調べる	4時間
第8回	<b>顧客価値、CRM、サービス品質要素&amp;中間テスト</b> 顧客関係管理（CRM：Customer Relationship Management）：顧客満足度を向上させるための顧客との関係を構築する手法について学習する。顧客階層、サービス品質、顧客の生涯価値、顧客満足、顧客ロイヤリティ	授業のまとめ、地域密着型サービスとは何かについて調べる	4時間
第9回	<b>サービスマネジメント実践【Case Study#】中央タクシー</b> 長野市民から圧倒的な支持を得るタクシー会社「中央タクシー」の地域密着型サービスについて学習する	授業のまとめ、サービス場面におけるMOTとは何かについて調べる	4時間
第10回	<b>真実の瞬間と人の役割</b> 顧客接点で顧客の抱く印象「決定的瞬間」について学習する。サービス・エンカウンター設計	授業のまとめ、我々の生活の中で不便だと感じることにについて調べる	4時間
第11回	<b>サービスマネジメント実践【Case Study#】不便を便利に商機あり～暮らしを変える新サービス～</b> 不便を便利にするサービスを提供し、我々の暮らしを変える新サービス事例として①「地方の人気スーパー：平和堂」、②「タクシーの意外なサービス：ANZENタクシー」、③「高齢者向けの婦人服：マダムトモコ」について学習する	授業のまとめ、サービス企業1社を選び、サービスマネジメントシステム分析を行う	4時間
第12回	<b>「サービス・マネジメント・システム」の5つの要素</b> 特別授業開催：がんこフードサービス株式会社の道藤圭一さんをお招きして外食産業におけるサービスマネジメントについて講演していただく（予定）	授業のまとめ、リピーターの重要性について調べる	4時間
第13回	<b>サービスマネジメント実践【Case Study#】「ラッキーピエロ」&amp;「スノーピーク」</b> 熱狂的ファンに愛される異色ハンバーガーチェーン「ラッキーピエロ」のリピーター重視の戦略を通じて顧客を育てることとは何かについて考察する	授業のまとめ、喫茶店業界の現況について調べる	4時間
第14回	<b>サービスマネジメント実践【Case Study#】居心地のよい喫茶店「コメダ珈琲店」</b> コメダが儲かる理由、人気の理由について学習する	授業のまとめ、AI、ロボット、AR、VRについて調べる	4時間
第15回	<b>サービス業におけるAI活用&amp;まとめ</b> スマートフォンの普及と位置情報を正確に捕捉(ほそく)する技術の進展により、AR・VRを企業のプロモーションやキャンペーン、課題解決に活用しようとする様々な取組み事例が見られている。さらにサービス業におけるAI、ロボット技術の導入が増加しつつある	これまでの授業内容を振り返ってみる	4時間

授業科目名	リスクマネジメント				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

経営学的なアプローチから、リスク・マネジメントについて学ぶ。企業は、かつて無いほど、様々なリスクに取り囲まれており、リスク・マネジメントは、いまや避けることのできない経営課題となっています。しかしながら、多くの日本企業においては、リスク・マネジメントの共通認識や共通言語が無いのが現状です。この授業では、経営学の観点からリスク・マネジメントの枠組みとプロセス、更に国内外の企業の先進的な事例について学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

代表的なリスクの概念とリスク・マネジメントのプロセスの理解

#### 目標：

企業がどのような論理や思考でリスク・マネジメントを実施しているか理解できる。そのためにリスクの特徴を理解すると共に、リスクを克服した企業の事例を学び、復元力のある企業の共通特性が説明できるようになる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

企業のリスク・マネジメントの仕組みを考察することにより、リスク・マネジメントにおける問題点を抽出することができる。

ゲーミフィケーションによる実践的学びを通じて、グループメンバーと協力してリスク・コミュニケーションの意義について理解できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

<評価基準（定期試験・課題レポート）>  
 S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。  
 A評価：到達目標を十分に達成している。  
 B評価：到達目標を達成している。  
 C評価：到達目標を最低限達成している。  
 D評価：到達目標を達成していない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	60%	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
課題レポート（3回分）	30%	： レポート課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10%	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

教科書は使用せず、毎回、レジメを配布します。

①亀井克之『経営学とリスクマネジメントを学ぶ：生活から経営戦略まで』（法律文化社、2014年）、②吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉編著『クロスロード・ネクスト 続：ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション』（ナカニシヤ出版、2013年）、③矢守克也・吉川肇子・網代剛編著『防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション クロスロードへの招待』（ナカニシヤ出版、2013年）、④勝俣良介『世界一わかりやすい、リスクマネジメント集中講座』（オーム社、2017年）、⑤赤松育子『不正リスクマネジメント』（産業能率大学出版部、2017年）、⑥西澤真理子『リスクを伝えるハンドブック』（エネルギーフォーラム、2018年）。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 ・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。  
 ・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜5時限目  
 場所： 西館3階個人研究室  
 備考・注意事項： メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>オリエンテーション：リスクマネジメントとは</b>  ・リスクマネジメントの基本的意義を理解する。	「企業経営にとって、なぜリスクマネジメントは必要なのか」について、自分の考えをまとめておこう。	4時間
第2回 <b>リスクとは</b>  ・リスクとは何か ・純粋リスクと投機的リスクの違いは何か	「純粋リスクと投機的リスクの違い」について、自分の考えをまとめておこう。	4時間
第3回 <b>リスクマネジメント、リスクマネジメントのルーツと発展</b>  ・現代的なリスクマネジメントの意義とは何か ・リスクとマネジメントの結合モデルとは何か ・リスクマネジメントの考え方はどのように変遷してきたか	リスクマネジメントの考え方が変遷してきた経緯について調べておこう。	4時間
第4回 <b>リスクマネジメントの枠組みとプロセス、リスクの調査・確認</b>  ・リスクマネジメントをマネジメントサイクル（PDCA）にあてはめると、どのようになるか ・リスクマネジメント・サイクルとは何か ・リスクの調査・確認の原則とは何か	「リスクの調査・確認」とは、どのような作業であるのか調べておこう。	4時間
第5回 <b>リスクの評価・分析</b>  ・リスクの評価・分析とは何か ・フィクスの危機予測論に基づくリスクアセスメントとは何か ・リスクの評価・分析の原則とは何か	「リスクの評価・分析」とは、どのような作業であるのか調べておこう。	4時間
第6回 <b>リスク・トリートメント（リスク対応）</b>  ・リスク対応（リスク・トリートメント）とは何か ・リスク処理手段の選択の原則とは何か	「リスク対応」とは、どのような作業であるのか調べておこう。	4時間
第7回 <b>リスク・コントロール、リスク・ファイナンス</b>  ・リスク・コントロールとは何か ・リスク・コントロールの原則とは何か ・リスク・ファイナンスとは何か ・リスク・ファイナンスには、どのような手法があるか	「リスク・コントロール」および「リスク・ファイナンス」とは、どのような作業であるのか調べておこう。	4時間
第8回 <b>リスクマネジメントの組織</b>  ・リスクマネジメントの組織体制には、どのような形態があるか ・リスクマネジメントの組織体制を作る意義は何か ・リスクマネジメントの組織体制における調整機能とは何か	企業におけるリスクマネジメントの組織体制には、どのような特徴があるのか調べておこう。	4時間
第9回 <b>リスク・コミュニケーション①（リスク・コミュニケーションはなぜ重要なのか）</b>  ・リスク・コミュニケーションとは何か ・リスク情報の開示とは何か ・「やばいこと」が伝わりづらくなった現代日本	リスク・コミュニケーションの重要性について、身近な例を取り上げて自分の考えをまとめておこう。	4時間
第10回 <b>リスク・コミュニケーション②（「やばいこと」ほど伝えたいのに伝わらない!）</b>  リスク・コミュニケーションに関する実践的学び（ゲームフィクション）を通じて、リスク・コミュニケーションの重要性について学ぶ。 ・不都合な事実はたいてい上手く伝わらない ・伝えづらいのは「リスク」の正体がかみづらいから ・伝わらない原因は「安全安心」にある	リスク・コミュニケーションの重要性を、ゲームフィクションを通じて学ぶことの重要性について自分の考えをまとめておこう。	4時間
第11回 <b>リスク・コミュニケーション③（「やばいこと」を共有する場と空気をつくる）</b>  リスク・コミュニケーションに関する実践的学び（ロールプレイング）を通じて、リスク・コミュニケーションの重要性について学ぶ。 ・「相手は自分とは違う人」という地点からスタートする ・言葉よりもイメージと感情が先に伝わる頭の仕組み ・人には受け入れづらいリスクがある ・リスクのイメージを変えてしまうマスコミとクチコミ	リスク・コミュニケーションの重要性を、ロールプレイングを通じて学ぶことの重要性について自分の考えをまとめておこう。	4時間
第12回 <b>経営者とリスクテイク：リスク感性</b>  ・意思決定とリスクテイクの二つのアプローチとは何か ・リスク感性とは何か ・リスク感性は、どのようにすれば向上するか	「リスク感性」を向上させる方法として、どのようなものがあるかについて調べておこう。	4時間
第13回 <b>中小企業とリスクマネジメント</b>  ・中小企業のリスクマネジメントの特徴は何か ・中小企業の事業承継に関するリスクには、どのような特徴があるか ・事業承継問題をめぐる状況を改善するためには何が必要か	「中小企業の事業承継問題」について調べておこう。	4時間
第14回 <b>不正を予防するためのリスクマネジメント</b>  ・不正リスクの評価 ・内部統制と不正リスクマネジメント ・不正リスクマネジメントの5原則	企業経営における「不正リスク」には、どのようなものがあるかについて調べておこう。	4時間
第15回 <b>リスクと安全文化</b>  ・リスク・アセスメントと安全・安心文化 ・リスク・コミュニケーションと安全・安心文化	「リスクと安全・安心概念の関係」について、自分の考えをまとめておこう。	4時間

授業科目名	<b>スポーツマンシップ論</b>				
担当教員名	植田真司				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	桜宮高校の体罰問題後のサポート等学生及び教員への指導経験（全15回）				

### 授業概要

スポーツマンシップとは何か学ぶとともに、これからの人生で何が大切かを考え、自分の能力に気づき、夢や目標を持ち、仲間を尊重し助け合うことの大切さを一緒に考えます。  
また、あいさつや感謝の気持ちの大切さ、ルールやマナーを守ることの意味、自己の持っている力の出し方(ピークパフォーマンス)、感情をマネジメントする方法、ライフスキル(社会での生き方)などに気づき、教育の基本である「知育・徳育・体育」の「徳育」を中心に、社会人として基礎力、大学の行動指針である「忠恕」の精神を養うことを目標とします。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1．DP1. 幅広い教養やスキル	人の立場になって考え行動する	仲間を尊重し思いやることを養う
<b>汎用的な力</b>		
1．DP10. 忠恕の心		大学の行動指針である「忠恕」の精神を養う

### 学外連携学修

有り（連携先：吉田良治）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への取り組み、受講態度	30% : 15回 質問など積極的な受講態度2点 私語、居眠りは0点
授業内小レポート	45% : 15回 自分の考えが書けている3点
期末課題レポート	25% : スポーツマンシップの意味を理解しているか？

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考文献】必要に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 5限 16：20～17：50  
場所： 研究室 西館3F  
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも、質問に対応します。

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スポーツマンシップとは何か？</b> スポーツマンシップの事例を紹介	4時間
第2回	<b>自分を知る 自分を振り返る。</b> ライフラインを作成し、過去を振り返る。	4時間
第3回	<b>成功者に学ぶ 1、一流アスリートの秘訣</b> 成功しているアスリートの考え方や習慣を学ぶ。	4時間
第4回	<b>成功者に学ぶ 2、人生の目標と目的 願望は実現する。</b> アスリート以外で成功している人の考え方や習慣を学ぶ。	4時間
第5回	<b>徳を考える 1、映画で学ぶ（前半）</b> 映画の説明を、見所を聞く。	4時間
第6回	<b>徳を考える 2、映画で学ぶ（後半）</b> 映画から学んだことを共有する。	4時間
第7回	<b>アメリカの大学スポーツから学ぶライフスキル その歴史</b> 外部講師より、ライフスキルの歴史とライフスキルについて学ぶ。	4時間
第8回	<b>アメリカの大学スポーツから学ぶライフスキル 学生のあり方</b>	4時間

	外部講師より、アメリカにおける大学スポーツを事例に、大学生のあり方を学ぶ。 勉強が一番、スポーツ2番以降		
第9回	<b>アメリカの大学スポーツから学ぶライフスキル その効果</b> 外部講師より、ライフスキルの効果について学ぶ。	ライフスキルを実践してみる。	4時間
第10回	<b>能力を引き出す生活習慣に変える 挨拶と感謝の気持ち</b> 人間力を育てる7つの生活習慣 ①あいさつ ②笑顔 ③感謝 ④姿勢 の大切さを学ぶ。	人間力を育てる7つの生活習慣を実践する。	4時間
第11回	<b>能力を引き出す生活習慣に変える 1日1善</b> 人間力を育てる7つの生活習慣 ⑤早寝早起 ⑥整理整頓 ⑦1日1善 の大切さを学ぶ。	人間力を育てる7つの生活習慣を実践する。	4時間
第12回	<b>能力を引き出す生活習慣に変える 人生計画について</b> 時間の大切さについて学ぶ。 人生の計画	人生の計画を立てる。	4時間
第13回	<b>ピークパフォーマンス 感情のマネジメント</b> 自己の能力の引き出し方 ①感情をマネジメントする方法を学ぶ。	感情をマネジメントする練習を行う。	4時間
第14回	<b>ピークパフォーマンス 体調のマネジメント</b> ②体調をマネジメントする方法を学ぶ。	体調を整える行動を習慣化する。	4時間
第15回	<b>全体のまとめ</b> 14回の振り返り。	全体の復習する。	4時間

授業科目名	<b>現代産業論1／現代企業論</b>				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

企業は生産力を実現する経営主体として、営利追求のために経済財及びサービス生産、配給、販売を遂行する。本講義では、日本における産業別の特徴と現況、現代企業の仕組みを理解することを目標とする。特に、経済学・経営学の入門的な授業として、現代産業・企業をめぐる諸問題を中心に企業経営に関わる基礎知識を学んでいく。なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えておくだけで意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	日本の産業の現状及び現代企業の仕組みについて学習する	日本の産業構造と企業経営の仕組みが理解できる
汎用的な力		ビジネス発想能力が身につく
1 . DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。期末筆記テスト、課題レポート(2回)、平常点、の組み合わせによって、授業内容をきちんと理解できているか、総合的に評価を行い、設定した尺度を超えた場合、合格以上とする。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末筆記テスト 40%	: 定期試験の期末筆記テスト(授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価)
期中課題レポート 20%	: 7回目～8回目の授業に提出する、期中レポート(自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価)
期末課題レポート 20%	: 課題レポート(自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価)
平常点 20%	: 授業内での小テスト、発言、宿題、コメントカードの内容など積極的な授業への参加は高く評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考書】  
井原 久光 (2008) 『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで』 ミネルヴァ書  
小樽商科大学・高大連携チーム (2005) 『わかる経営学 (15歳からの大学入門)』 日本経済評論社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート(手書き、A4、1枚以内)事後に提出を求める。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日、2時限
場所：	研究室、西館2階

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス：授業スケジュール、成績評価、ビジネス(Business)とは何か？</b> ビジネス(Business)とは何か？ビジネスからイメージできることについて学習する	授業のまとめ、取引と貿易(経済学)について調べる 4時間
第2回	<b>産業論の基礎理論(経済学：取引と貿易)&amp;企業の存在意義</b> 貿易は、国内取引と違って、商品の授受と代金の支払いを同時に行うことは困難であり、時間差が生じる。その概念を理解していただき、なぜ企業(会社)が存在するのか意義についてその役割と、形について学習する。	授業のまとめ、需要と供給について調べる 4時間
第3回	<b>産業論の基礎理論(経済学：需要と供給)&amp;企業の特徴と役割</b> 競争市場では、需要と供給が一致することにより市場価格と取引数量が決定される。その需要と供給の基本概念を理解していただき、企業の特徴と役割について学習する。	授業のまとめ、日本にはどんな産業があるのか調べる 4時間
第4回	<b>経営の理解その1：ドラッカーのマネジメント論</b> ドラッカー『マネジメント——課題、責任、実践』について学習する。	授業のまとめ、もしドラのあらすじを調べる 4時間

第5回	<p><b>経営の理解その2：#参考映像「もしドラ」前半</b></p> <p>ドラッカー『マネジメント』を映画化した「もしドラ」を用い、マネジメントの仕事について学習する。 #参考映像「もしドラ」-前半-#映像：もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら</p>	授業のまとめ、もしドラで取り上げられているテーマをまとめる	4時間
第6回	<p><b>経営の理解その2：#参考映像「もしドラ」後半とドラッカーのマネジメントについてまとめ</b></p> <p>#参考映像「もしドラ」-後半-#映像：もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら</p> <p>チーム毎に分かれて、ドラッカーのマネジメントについてまとめて発表する</p>	授業のまとめ、分業とは何かについて調べる	4時間
第7回	<p><b>現代企業の形&amp;株式会社：分業の利益と組織としての企業</b></p> <p>所有と経営の分離の理解を深めるために、企業を取り巻く経営環境の事例として「後継者問題」を取りあげる。#参考映像：専門経営者</p>	授業のまとめ、旅行産業について調べる	4時間
第8回	<p><b>特別授業：「食と文化」（予定）</b></p> <p>特別授業開催：インバウンドと大阪の食文化（予定）。 株式会社：なぜ企業は存在するのか？&amp;中間テスト 現代は圧倒的に株式会社が多い。所有と経営の関係から株式会社の特徴と仕組みについて学習する</p>	企業経営における外部環境について調べる	4時間
第9回	<p><b>現代企業を取り巻く市場環境：少子高齢化・人口減少</b></p> <p>日本における急激な少子高齢化・人口減少は、今後の日本経済の成長性に複線的な影響を及ぼし続ける。この主要な担い手となる生産年齢人口（15～64歳人口）は、2005年からわずか25年の間に、約2割（1,700万人）も縮小する</p>	「M&A」とは何かについて調べる	4時間
第10回	<p><b>現代企業を取り巻く市場環境：後継者問題・M&amp;A</b></p> <p>M&amp;A（エムアンドエー）：Mergers（合併）and Acquisitions（買収）の意義、メリットデメリットについて事例を取りあげながら学習する。#参考映像</p>	企業の不祥事事例について調べる	4時間
第11回	<p><b>現代企業を取り巻く市場環境：コーポレートガバナンス・企業の不祥事・GMO</b></p> <p>遺伝子組換え作物（genetically modified organism）、企業の不祥事、コーポレートガバナンス（企業の統治）について学習する。一連の企業不祥事と企業倫理などのコーポレート・ガバナンスが問われる時代になった</p>	CSRとは何かについて調べる	4時間
第12回	<p><b>現代企業を取り巻く市場環境：CSR（Corporate Social Responsibility）</b></p> <p>CSRの理解を深めるために参考映像資料と企業のCSRレポートを用いて学習する。Corporate Social Responsibilityの和訳は「企業の社会的責任」である。一般的には、ボランティアや寄付活動、また法令順守や環境保護活動といったもので解釈される傾向があるが、企業を取り巻く顧客や従業員といった、ステークホルダーからの期待やニーズに答えるために、企業戦略として対応していくものである</p>	日本における小売業の歴史と現況について調べる	4時間
第13回	<p><b>産業別Case Study：小売業界の現況と展望</b></p> <p>多様な小売業形態が生じる要因についてレビューを行い、流通構造の存在意義、流通企業の経営戦略について学習する。#Case Study：小売業</p>	授業のまとめ、企業のローカライズとは何かについて調べる	4時間
第14回	<p><b>産業別Case Study：外食業界の現況：日本外食ブランドの海外進出</b></p> <p>外食チェーン企業の出店方式、経営戦略、企業文化、店舗運営管理、経営戦略について学習する。#Case Study：外食業</p>	授業のまとめ、企業のグローバル化とは何かについて調べる	4時間
第15回	<p><b>成熟経済における産業&amp;産業構造、企業と経営：第四次産業革命</b></p> <p>第四次産業革命（Fourth Industrial Revolution, 4IR）は、18世紀の産業革命以降の4番目の主要な産業時代を指す</p>	授業のまとめ、これまでの授業内容を振り返ってみる	4時間

授業科目名	ビジネス文化論				
担当教員名	児山俊行・李美花				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

ビジネスで重要になってきている企業側の経営理念や文化・風土、またユーザー側の生活上での文化の開発がどのように企業の業績やイノベーションと関わるかを理解する。担当教員の専門性に富む講義や受講生各自のワーク等を通じて、製品開発やサービスマネジメントの各分野の多様な事例を通じて、ビジネス上の現代的課題とその解決方法について学び、最終的にそれらを支える経営理念や文化・風土、ユーザー側の文化のあり方を見据えたイノベーションへの視野と理解を深めていく。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	各分野の基礎的素養を習得する。	企業事例に対して、感覚的ではなく論理的に分析しようとする。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	各分野の最先端の基本を理解する。	企業事例の発展・停滞の要因を抽出する。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		プロジェクトの問題点を発見する力を養う。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業中の演習・レポート	55%	： 授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。
試験（筆記）	35%	： 授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

各担当教員の授業での参考文献は、その都度指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 児山：火2限、李：月2限  
 場所： 研究室（児山：西館3F、李：西館2F）  
 備考・注意事項： 各担当教員ごとにオフィスアワーを設けていますので、質問のある受講生はその時間帯に研究室を訪ねてください。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：経営と文化の関連性について（李・児山）</b> オリエンテーションでは、ビジネス文化論の狙いと特徴、授業の進め方についての説明をします。	4時間
第2回	<b>グローバル化と日本製造業の競争力①（児山担当）</b> 「メイド・イン・ジャパン」と賞賛された日本製造業の競争力が、グローバル競争がいつそう激しくなる21世紀に入ってから、どのように変化してきたのかを見ながらその要因について考える。	4時間
第3回	<b>日本型の製品開発の発展と限界②（児山担当）</b> 日本の自動車・家電業界の発展を製品中心に見たあと、現在の製品開発の問題を考える。	4時間
第4回	<b>他国の新製品開発③（児山担当）</b> かつてのホンダや現在の韓国企業やアップル社、イタリア企業、深センの成長企業など通じて製品開発のあり方やそれを支える企業文化を見ながら、これからあるべき日本製造業のあり方を考える。	4時間
第5回	<b>製品開発は「文化開発」か？④（児山担当）</b> 最新技術なくとも、ユーザー側に新たな文化を開発することで革新的な製品を開発できる事例を通じて、現代では技術開発よりも文化開発が鍵になるケースがあることについて考察する。	4時間
第6回	<b>新たなメイド・イン・ジャパン⑤（児山担当）</b>	4時間

	日本の若き起業家による「一人メーカー」や途上国でのソーシャルビジネスの展開から新たなモノづくり文化を学ぶ。		
第7回	<b>観光資源としてフードビジネスを考える①（李担当）</b> 美食都市を目指す関西、フードツーリズム事例を通じてビジネスとの関連性について理解を深めていく。 食と文化：美食都市（Gastronomic City）	ガストロノミーの意味、食文化についてまとめをする	4時間
第8回	<b>日本の外食産業とチェーン企業#Case Study②（李担当）</b> フードビジネスの位置づけと変遷について外食産業について理解を深めていく。なお、チェーンの経営理念と企業文化について考察する。 外食チェーンのマーケティング事例を取りあげる。#参考映像	関西地域を拠点とする優秀な外食チェーンを調べる	4時間
第9回	<b>外食業界分析：FF、HMR、カフェ#Case Study③（李担当）</b> 業界分析：FF業界、HMR、カフェ業界 Case Studyモスバーガーその1：経営概念	各外食業界の現況をまとめる	4時間
第10回	<b>フードサービス企業の経営事例#Case Study④(李担当)</b> フードビジネスにおけるマーケティング事例を取りあげる。#参考映像	フードサービス企業の事例をまとめる	4時間
第11回	<b>日本の富7割を集めた天下の台所はどのようにしてつくりあげられたのか ①（特別授業）</b> 日本の富7割を集めた天下の台所はどのようにしてつくりあげられたのか 大阪ビジネスの本質となにか 天下の台所（てんかのだいどころ）とは、江戸時代に物流、商業の中心地であった大坂を指した異名として使われる用語。	授業のまとめ、天下の台所について整理する	4時間
第12回	<b>なぜ大坂は日本一の観光都市となったのか ②（特別授業）</b> 食い倒れと言われた食文化 観光都市とは観光による産業が主である都市を指す。	関西におけるインバウンドの現況をまとめる	4時間
第13回	<b>明治維新の前と後 ③（特別授業）</b> 大阪ビジネスはどのようにして復活できたのか 明治維新とは、明治時代初期の日本が行った大々的な一連の維新をいう。	明治維新についてまとめる	4時間
第14回	<b>日本一となった大大阪に、現代の私たちはなにを学ぶべきか④（特別授業）</b> 大大阪時代（たいおおさかじだい）は、大正後期から昭和初期にかけて、大阪市が大大阪と呼ばれていた時代のことである。	大大阪時代の特徴をまとめる	4時間
第15回	<b>大阪はなぜ世界で住みたい都市3位となったのか⑤（特別授業） および全体的総括(全教員)</b> 混じりあう都市・ビジネス文化「まとめ」 全担当教員がそれぞれ全体的総括と補足・補充説明を行ない、まとめとする。	各分野のエッセンスを復習する中で、大きなビジネス文化の流れを理解する。	4時間

授業科目名	<b>経営統計入門</b>				
担当教員名	海野大				
学年・コース等	1～2年	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

今日では、企業の活動や意思決定はデータに基づいて行われることが当たり前になっています。合理的な企業経営や意思決定を行うためには、データを適切に選択・加工し、必要な情報を抽出し、分析と解釈をしなければなりません。統計学はこの一連のプロセスを体系化した学問です。この授業では、統計的なものの考え方やデータの読み方、データの分布、分布を1つの数字で代表する方法、統計的な推測の方法、仮説検定の考え方について学んでいきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

統計的なものの見方

#### 目標：

データから情報や知見を得るための考え方や手法を修得する。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

データから統計的な手法を用いて課題を発見し、レポートにまとめることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業の理解度

50%

#### 評価の基準

： 第2回～第14回の講義中に実施する小テスト（計10回実施）により評価します。

期末試験

50%

： 講義内容に関する基礎知識問題と計算問題を出題し、全体的な理解度によって評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

福田(2016)『経営のための統計学入門』ミネルヴァ書房、栗木、綿森、田中(2016)『統計学基礎』共立出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組みことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。演習の計算が必要となるので、ルート付き電卓を必ず持参してください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 4 時間目

場所： 研究室

備考・注意事項： 授業開始時に通知します。

### 授業計画

回	授業内容	復習内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>イントロダクション～統計学への招待</b>  統計学とはどのような学問で、社会においてどのように活かせるのか学びます。 統計データにはどのようなものがあり、それらがどのように収集され作成されるのかについて学びます。	配布された資料の復習。総務省統計局のホームページで、公表されている統計データにどのようなものがあるか調べる。	4時間
第2回	<b>統計的なものの見方・考え方</b> 与えられたデータを理解し、解釈するための統計的な見方や考え方を学びます。	統計的なものの見方・考え方についての復習	4時間
第3回	<b>記述統計学（1）データの収集と読み方</b> データがどのように収集されるのか、データをどのように読み解けばよいかについて学びます。	データの収集と読み方についての復習	4時間
第4回	<b>記述統計学（2）データを可視化する</b> データを表やグラフによって可視化する方法を学びます。	データの可視化についての復習	4時間
第5回	<b>記述統計学（3）データの分布を見る</b> データの分布という考え方や分布をグラフで表現する方法について学びます。	データの分布①についての復習	4時間
第6回	<b>記述統計学（4）データの分布をまとめる</b> データの分布を一つの数字で代表する方法について学びます。	データの分布②についての復習	4時間
第7回	<b>記述統計学（5）データの関係を知る（相関関係と因果関係）</b> 2つ以上の変量の間の関連のしかたを捉える方法を学びます。	データの相関関係と因果関係についての復習	4時間

第8回	<b>記述統計のまとめと復習</b> 記述統計に関する講義全体を振り返るとともに、補足説明を行います。	記述統計についての復習	4時間
第9回	<b>推測統計（1）確からしさとは何か－確率の基礎</b> 推測統計を学ぶために必要な確率の考え方について学びます。	推測統計（確からしさ）についての復習	4時間
第10回	<b>推測統計（2）確率分布とは</b> 確率の考え方を基に、データを確率分布として捉える考え方と主要な確率分布を学びます。	推測統計（確率分布）についての復習	4時間
第11回	<b>推測統計（3）データの確率分布を推測する</b> データの分布を確率分布として推測するための標本調査について学びます。	推測統計（標本調査）についての復習	4時間
第12回	<b>推測統計（4）分布の平均を推測する</b> 標本調査からデータの分布の平均を推測する方法である区間推定について学びます。	推測統計（区間推定）についての復習	4時間
第13回	<b>推測統計（5）分布についての仮説を検証する：正規分布</b> ある出来事についての仮説の確からしさを判定する方法である仮説検定について学びます。	推測統計（仮説検定）についての復習	4時間
第14回	<b>推測統計（6）分布についての仮説を検証する：その他の分布</b> 正規分布以外の分布による検定を学びます。	推測統計（正規分布以外の分布による検定）についての復習	4時間
第15回	<b>推測統計のまとめと復習</b> 推測統計に関する講義全体を振り返るとともに、補足説明を行います。	推測統計のまとめについての復習	4時間

授業科目名	<b>情報倫理</b>				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

ネット上には無数の情報が飛び交い、それを鵜呑みにしてしまうことにより、誰もが簡単に被害者にも加害者にもなってしまいます。実際のキャッチボールは、ボールの大きさも相手が誰かということも分かりますが、情報のキャッチボールの場合は、ボールの大きさもスピードも様々で、相手も時には誰か分からないこともあるため、ネット社会を生き抜くスキルとしてメディア・リテラシーが必要になります。この授業では、情報との賢い付き合い方を、講義および様々なワークを通じて身につけることを目的とします。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方の基礎を身につけ、情報モラルについてより深く理解する。

#### 目標：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方の基礎を養い、情報モラルについてより深く理解できるようになる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。

他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

<評価基準(定期試験・授業中課題)>  
 S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。  
 A評価：到達目標を十分に達成している。  
 B評価：到達目標を達成している。  
 C評価：到達目標を最低限達成している。  
 D評価：到達目標を達成していない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

各授業回の提出課題	60%	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。各回の授業内容を踏まえたワークシートなどの課題について理解できていれば、合格レベルとする。
期末レポート	30%	： 講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えたレポートの内容を合格とする。単に講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10%	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。質疑応答、他の受講生とのグループ学習の参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格レベルとする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布します。

- ①岡本真一郎(著)『悪意の心理学 悪口、嘘、ヘイト・スピーチ』(中公新書・2016年)、②下村健一(著)『10代からの情報キャッチボール入門―使えるメディア・リテラシー―』(岩波書店・2015年)、③竹中功(著)『よい謝罪 仕事の危機を乗り切るための謝る技術』(日経BP社・2016年)、④戸田桂太・小玉美章子(監修)・山下玲子(編著)『ユーザーからのテレビ通信簿―テレビ採点サイトQuaeの挑戦』(学文社・2013年)、⑤山口明雄(著)『知識ゼロからの謝り方入門』(幻冬舎・2016年)。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 ・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。  
 ・授業中は、ディスカッションや質疑に積極的に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜5時限目  
 場所： 西館3階個人研究室  
 備考・注意事項： メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学習課題にかかる目安の時間
第1回	<b>「炎上」はなぜ起きるのか</b>  ネットに情報を発信することは世界中に情報を発信することであり、便利であると同時にリスクがあるが、「自分だけは大丈夫」という意識が働くのか、不適切なツイートはあとを絶たない。ツイッターを炎上する側及びさせる側の論理、ネット上で発信することのリスクについて、過去に発生した炎上事例を基に学ぶ。	インターネット上の「炎上」事例について調べ、どのように分類できるか考えをまとめておこう。	4時間
第2回	<b>「炎上」の構造と収め方—どうやって火が付き、どのように鎮火するのか—</b>  (1) 炎上はなぜ起きるのか (2) 炎上を引き起こす「不適切情報」とは (3) 炎上を収めるには (4) 炎上を予防するには	インターネット上の「炎上」を引き起こす「不適切情報」とは、どのようなものか自分の考えをまとめておこう。	4時間
第3回	<b>情報をしっかり受け取るための4つの「ギモン」</b>  (1) 4つのギモン①（結論を即断するな） (2) 4つのギモン②（意見か、印象か、ごっちゃにして鵜呑みにするな） (3) 4つのギモン③（一つの見方に偏るな） (4) 4つのギモン④（スポットライトの周囲を見よ）	情報を受信する場合において、特に気をつけなくてはならない事柄について自分の考えをまとめておこう。	4時間
第4回	<b>情報をしっかり届けるための4つの「ジモン」</b>  (1) 4つのジモン①（何を伝えたいのか—「明確さ」） (2) 4つのジモン②（キメつけてないかな？—「正確さ」） (3) 4つのジモン③（キズつけてないかな？—「優(やさ)しさ」） (4) 4つのジモン④（これで伝わるかな？—「易(やさ)しさ」）	情報を発信する場合において、特に気をつけなくてはならない事柄について自分の考えをまとめておこう。	4時間
第5回	<b>新聞は「中立」で「事実」を伝えているか？</b>  (1) 自分の世界を広げ、メディア・リテラシーを育てる (2) 新聞の社説を読み比べよう (3) 社説の読み方	新聞の社説を読み、その内容を「事実」と「意見」とに分けて分析しておこう。	4時間
第6回	<b>放送禁止用語</b>  (1) 「頑張れ」が放送禁止用語！？意外なNGワード候補 (2) 放送禁止用語はあくまでメディアの「自主規制」 (3) 放送禁止用語は言葉狩りか？ (4) 「盗んだバイクで走り出す」—CM曲が犯罪を助長？	過去に「放送禁止用語」として問題となった言葉には、どのようなものがあるかについて調べておこう。	4時間
第7回	<b>テレビ番組の質を量で測る？</b>  (1) BP0に対して視聴者から寄せられた意見 (2) 日本人のテレビ視聴時間、実はネットの7倍—実はパワフルなテレビ (3) テレビ番組の質を可視化する試み「Quae」 (4) 受講生による番組評価の実施と発表	様々なジャンルのテレビ番組を視聴し、「Quae」の基準に基づいて、その内容を分析・評価しよう。	4時間
第8回	<b>なぜ、あなたの言葉は伝わらないのか①（ヤバいことを伝える技術）</b>  (1) 修羅場を乗り越え、相手を動かすリスク・コミュニケーション (2) なぜ「ヤバいこと」を伝えるのは難しく、トラブルのか？ (3) 伝わらない原因は「安全安心」にある (4) 小さな「ヤバいこと」が許されない不寛容社会	現在の日本社会が「不寛容社会」と呼ばれるのは何故かについて、自分の考えをまとめておこう。	4時間
第9回	<b>なぜ、あなたの言葉は伝わらないのか②（伝え方の基本とコツをプロセスで考える）</b>  (1) 準備：相手の話を聴き、準備にかけるコストと時間をケチらない (2) 実行①：伝える姿勢を整える (3) 実行②：相手サイズの説明と言葉を選ぶ (4) 実行③：NG言葉・表現を使わない	炎上を引き起こさない情報の伝え方について、自分の考えをまとめておこう。	4時間
第10回	<b>なぜ、あなたの言葉は伝わらないのか③（謝罪会見の明と暗）</b>  (1) 一夜明ければ社会の敵に (2) 謝罪会見のOKとNG (3) 組織を守る「PPAP」とは (4) おおびりリースを書いてみよう	「失敗」事例と評価される謝罪会見について調べ、その失敗要因について分析しておこう。	4時間
第11回	<b>ソーシャルスキル・トレーニング①（感情をコントロールするスキル）</b>  (1) ネット危機に備える想定訓練 (2) アンガーマネジメント (3) 怒りの下にある気持ちとは (4) ソーシャルリスク予防のためのリテラシー	「アンガーマネジメント」の意味と意義について調べておこう。	4時間
第12回	<b>ソーシャルスキル・トレーニング②（質問するスキル）</b>  (1) 質問するスキルの効用（質問することで得られるもの） (2) 質問するスキルの要素 (3) 問いかけで「要求」を引き出す (4) 問いかけで「議論」を深める	様々な場面を想定し、どのように質問すれば、自分が求める答えが得られるのかについて、自分の考えをまとめておこう。	4時間
第13回	<b>謝罪の基本を知る</b>  (1) 「人が怒る」ということは？ (2) 炎上しない伝え方 (3) 謝罪の成功例と失敗例 (4) ピンチをチャンスに変える謝罪の秘訣	これまでの自分の人生を振り返り、謝罪の成功例と失敗例を取り上げ、その要因を分析しておこう。	4時間
第14回	<b>謝罪の手段を使い分ける</b>  (1) 相手に応じた謝り方 (2) 状況に応じた謝り方 (3) 謝罪を成功に導く6つのステップ	相手・状況に応じた謝罪方法とは、どのようなものかについて分析しておこう。	4時間
第15回	<b>深刻なトラブルにおける謝罪方法</b>  (1) 失言をしてしまったら (2) 謝罪シナリオを書く (3) グッド・コミュニケーションとは	失言をしてしまった場合を想定し、謝罪シナリオを書いてみよう。	4時間

授業科目名	グローバルビジネス入門				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

近年のグローバル化の流れの中で、企業活動は国を問わず、世界規模で展開されています。このような流れの中で、今後のビジネスを担う世代には、国際的なセンスを身に付けることが求められています。本講義では、初学者を対象にして、こうしたグローバルビジネスに関する基礎的な知識を身に付けることを目指します。講義では、「アウトバウンド」すなわち企業の海外展開、および「インバウンド」すなわち外国人旅行者をめぐるビジネス事情のケーススタディを通して、ビジネスのグローバル化について理解を深めていきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	身近な例を通してグローバル化について理解を深めるとともに、それに対応してビジネス環境がどのように変容しているのかを考える。	グローバル化に関する様々な諸相をきちんと理解する。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	企業の海外展開や外国人に対してどのような戦略が有効なのかを考える。	グローバル・ビジネスの世界で活躍する際に必要不可欠な知識・教養を身につける。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		グローバル経済における企業の試行錯誤や課題をきちんと把握することができる。
2．DP5. 計画・立案力		グローバル経済で企業が直面する問題についての解決策を考えることができる。
3．DP6. 行動・実践		実際にグローバルビジネスに携わる上での必要なテクニックや専門知識を身に付ける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末課題	70%	： グローバルビジネスに関する実地調査を含めたレポートの提出およびその内容の授業内発表を求めます。講義内容を踏まえてグローバルビジネスについての知識が課題の中できちんとまとめられているかを評価します。
小レポート	20%	： 原則、毎回の講義で提出を求めます。また、授業内容に関連したクイズを出題します。きちんと講義内容を踏まえた内容かどうかを評価します。
授業内でのディスカッション	10%	： 特定のテーマについて、受講生同志でのディスカッションを求めることがあります。積極的に自らの意見を表明しているか、議論に貢献しているのかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。本講義の内容を深く理解する上で、特に国際社会の動きに注意を払うことが必要不可欠です。スポーツ・映画・音楽・グルメ・ファッション等、何でもいので、取っ掛かりを見つけて海外に興味を持ってください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（水曜日3限）にて受け付けます。

### 授業計画

第1回	ガイダンス～本科目の学びについて～	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (グローバルビジネスを学ぶ意義について考える)	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
	講義に関するガイダンス、大学でグローバルビジネスを学ぶ意味について考えます。		

第2回	<b>グローバルビジネスの概要</b>  グローバル化という現象の本質をとらえ、企業活動の変化について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (グローバル化という現象の本質について理解を深める)	4時間
第3回	<b>アウトバウンドの概要</b>  企業活動の海外展開、すなわち「アウトバウンド」現象についてその歴史や背景について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (企業はなぜ海外に進出するのか、その要因について考える)	4時間
第4回	<b>アウトバウンドのケーススタディ～食品産業の事例～</b>  食品産業の海外展開の事例を通して、企業のグローバル化戦略について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本の大手食品メーカーのグローバル戦略について調べる)	4時間
第5回	<b>アウトバウンドのケーススタディ～外食産業の事例～</b>  外食産業の海外展開の事例を通して、企業のグローバル化戦略について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本の大手外食産業のグローバル戦略について調べる)	4時間
第6回	<b>アウトバウンドのケーススタディ～製造業の事例～</b>  製造業の海外展開の事例を通して、企業のグローバル化戦略について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本の大手製造業メーカーのグローバル戦略について調べる)	4時間
第7回	<b>アウトバウンドのケーススタディ～コンテンツ産業の事例～</b>  コンテンツ産業の海外展開の事例を通して、企業のグローバル化戦略について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本のコンテンツ産業のグローバル戦略について調べる)	4時間
第8回	<b>インバウンド・ビジネスの概要</b>  インバウンド現象についての概略を理解するとともに、その背景や要因、問題点について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (インバウンドブームの背景について考える)	4時間
第9回	<b>インバウンド・ビジネスと日本</b>  世界の中の日本という観点から、日本という国の魅力や特殊性について、事例研究を通して学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本におけるインバウンドビジネスの変遷について理解を深める)	4時間
第10回	<b>インバウンド戦略の概要</b>  日本政府のインバウンド促進戦略の内容について学ぶと共に、その効果について検証します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本政府のインバウンド誘致政策について調べる)	4時間
第11回	<b>インバウンドビジネスと日本の魅力</b>  「外国人から見た日本」について、映画鑑賞を通して理解を深め、「日本の魅力」がどのようなビジネスにつながるのかを考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本人と外国人の「日本のイメージ」の相違点について考える)	4時間
第12回	<b>外国人旅行者の消費パターン</b>  外国人旅行者が日本でどのような行動をするのか、またどのようなビジネスに需要があるのかを学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本において外国人が何を求めているのかを考える)	4時間
第13回	<b>外国人旅行者の宿泊事情</b>  インバウンドブームの中での観光・宿泊ビジネスに焦点を絞りながら、今後の展望について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (インバウンドブームにおける宿泊産業の諸問題について調べる)	4時間
第14回	<b>外国人旅行者をめぐる問題</b>  外国人旅行者をめぐるトラブルなどからグローバルビジネスの問題点を明らかにし、その解決策を考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (グローバル化の進展によって引き起こされる諸問題について理解を深める)	4時間
第15回	<b>まとめ</b>  半期の講義内容を復習しながらグローバルビジネスの今後の展望について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (講義の内容を振り返りつつ、その内容を自分のキャリアにどう生かすのかを考える)	4時間

授業科目名	販売マネジメント論/販売マネジメント基礎				
担当教員名	横山昌司				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小売の現場で社会人経験を積んだ後、経営コンサルタントとして小売業の活性化に取り組んでいます。 (全15回)				

### 授業概要

この講義は、日本商工会議所主催の「リテールマーケティング（販売士検定）」の3級に合格するレベル（2級合格の土台づくり）を目標とします。リテールマーケティング（販売士）は流通業界唯一の公的資格であり流通業での評価は非常に高い資格です。この講座を受講することで、販売・接客技術はもちろん、販売促進に向けた企画立案や在庫管理、マーケティングにいたるまで、幅広く実践的な専門知識を身に付けることができます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

小売業に関する知識

#### 目標：

小売業に従事するときに必要な知識を持ち、流通業界に就職することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

資格取得を目指すことで、一つの目標に対して行動することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末試験

： 授業中に提示した課題の中から期末テストを実施します。

70%

各授業における課題の提出状況

： 授業中に提出された課題についての提出状況により授業の理解について評価を実施します。

30%

### 使用教科書

指定する

#### 著者

日本商工会議所・全国商工会連合  
会

#### タイトル

販売士ハンドブック（基礎編）  
～販売士検定試験3級対応～

#### 出版社

株式会社キャリアック

#### 出版年

・ 2016年

### 参考文献等

特にありません。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の場所

備考・注意事項： 授業の前後に質問を受けます。  
メールの場合はtab02324@gmail.cimに送付ください。その際は、科目名・氏名・学籍番号は必ず入れてください。

### 授業計画

第1回	授業の進め方・試験ガイダンス、小売業の現状についての説明 検定制度・学習意義・学習方法・全体の概要・テキスト入手方法・A及びBの受講経験者については学習方法再確認。 小売業の現状について説明	小売業の現状について復習します。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
第2回	<b>小売業の類型 1. 流通における小売業の基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 小売業の役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	小売業の役割について復習します。	4時間
第3回	<b>小売業の類型 2. 業界別流通経路の基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 業界別流通経路について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	業界別流通経路について復習します。	4時間
第4回	<b>小売業の類型 3. 形態別小売業の基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 形態別小売業について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	形態別小売業について復習します。	4時間
第5回	<b>小売業の類型 4. 店舗形態別小売業の基本的役割①</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 店舗形態別小売業の役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	店舗形態別小売業の役割について復習します。	4時間
第6回	<b>小売業の類型 4. 店舗形態別小売業の基本的役割②</b>	店舗形態別小売業の役割について復習します。	4時間

	公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 店舗形態別小売業の役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。		
第7回	<b>小売業の類型 5. チェーンストアの基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 チェーンストアの役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	チェーンストアの役割について復習します。	4時間
第8回	<b>小売業の類型 6. 商業集積の基本的役割としくみ</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 商業集積について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	商業集積について復習します。	4時間
第9回	<b>マーチャンダイジング 1. 商品の基本知識</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 商品の基本知識について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	商品の基本知識について復習します。	4時間
第10回	<b>マーチャンダイジング 2. マーチャンダイジングの基本、3. 商品計画の基本</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 マーチャンダイジングと商品計画について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	マーチャンダイジングと商品計画について復習します。	4時間
第11回	<b>マーチャンダイジング 4. 販売計画および仕入計画の基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 販売計画および仕入計画の基本的役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	販売計画および仕入計画の基本的役割について復習します。	4時間
第12回	<b>マーチャンダイジング 5. 在庫管理の基本的役割、6. 販売管理の基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 在庫管理と販売管理について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	在庫管理と販売管理について復習します。	4時間
第13回	<b>マーチャンダイジング 7. 価格設定の基本的考え方</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 価格設定について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	価格設定について復習します。	4時間
第14回	<b>マーチャンダイジング 8. 利益追求の基本知識</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 利益追求の基本知識について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	利益追求の基本知識について復習します。	4時間
第15回	<b>小売業の類型・マーチャンダイジングの総復習等・仕上げ</b> 小売業の類型・マーチャンダイジングについて全体を再度説明します。	前期課題を通じて全体の復習を行います。	4時間

授業科目名	ソフトウェア演習（2015～）				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	1・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

近年のタブレットやスマートフォンの急速な普及により、画像、動画、音楽といったメディアコンテンツを扱うビジネスは拡大しています。また、企業のマーケティングにおいても、視覚的な効果、音の効果を巧みに利用することで消費者の購買心理に働きかける試みが加速しつつあり、こうしたスキルや知識を持つ人材に対する需要が高まっています。そこで本授業では、音や画像、動画をデジタル処理する基礎的な方法を学び、今日的なビジネスニーズに適応したスキルを身につけることを目的とします。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力  <b>汎用的な力</b> 1．DP5. 計画・立案力	<b>具体的内容：</b> 専門スキルの習得	<b>目標：</b> メディア機器を適切に操作できる  知識、スキルを使いイメージを具体的な形（画像や音楽）にできる
--	---------------------------	---

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

取組む姿勢	40%	： 「メディアの操作が適切であるか」、「取組み内容が適切であるか」を基準に評価します。
提出課題	30%	： 「提出課題（コンテンツ）に新規性はあるか」、「作品の表現に適正性はあるか」を基準に評価します。
試験（最終課題）	30%	： 「最終提出課題（コンテンツ）に新規性はあるか」、「作品の表現に適正性はあるか」を基準に評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日3時間目
場所：	西館3階45研究室
備考・注意事項：	メールでの連絡先： inamura@osaka-seikei.ac.jp(稲村)/nakai-hi@osaka-seikei.ac.jp(中井)

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスーメディア機器の発展とその活用ー</b> デジタル処理技術の可能性について考えます。	4時間
第2回	<b>ソフトウェア制御の基本</b> 身近なサービスの中にあるソフトウェアの役割の確認	4時間
第3回	<b>ソフトウェア制御技術体験</b> 身近に利用されているソフトウェア技術の一部の体験を行う	4時間
第4回	<b>基本的なソフトウェア</b> システム標準の機能を用いたソフトウェア利用体験と応用	4時間
第5回	<b>ソフトウェア利用の注意</b> 様々な無料アプリの確認とマルウェアの存在についての確認	4時間
第6回	<b>画像ソフトの利用1</b> 画像処理ソフトの基本的な操作説明	4時間
第7回	<b>画像ソフトの利用2</b> 画像処理ソフトの特徴をつかむための演習 各種ツールの利用と編集	4時間
第8回	<b>画像ソフトによる作品作成</b> コンセプト設計と作品の完成	4時間

	これまでの操作技術の確認と復習を兼ねて、作品作成を行う		
第9回	<b>中間発表</b> 作品発表を経て、評価する点や改善すべき点をまとめて、作業のふりかえりをします また、他者の作品を観察し、活用に関してのアイデアをまとめます	自作作品の批評を踏まえて、今後の課題への改善点をまとめる	4時間
第10回	<b>動画作成ソフトの利用 1</b> タイムラインの説明 アニメーションの作成	30フレームのアニメーション作品の作成	4時間
第11回	<b>動画作成ソフトの利用 2</b> 各種モーションの設定方法と効果の確認	アニメーション作品の完成	4時間
第12回	<b>アニメーション編集 1</b> スクリプトを使用した動画の制御	STOP, PLAYの動作の確認と作品作成	4時間
第13回	<b>アニメーション編集 2</b> 課題の完成及び完成度を高めます	トリガに関する確認と工夫	4時間
第14回	<b>画像処理系の技術を活用した作品作成</b> 作品発表を経て、評価する点や改善すべき点をまとめて、作業のふりかえりをします また、他者の作品を観察し、活用に関してのアイデアをまとめます	最終課題の動作確認とブラッシュアップ	4時間
第15回	<b>最終発表</b> 最終的な課題作品の提出と発表を行います	これまでの作品の確認などの復習	4時間

授業科目名	<b>メディアビジネス論</b>				
担当教員名	木下浩一				
学年・コース等	1・2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	テレビ番組のプロデューサーあるいはディレクターとして11年、制作に従事。またテレビ映像技術者を10年、インターネット関連を1年、それぞれ経験。起業家、就活セミナー講師も経験。（全15回）				

### 授業概要

ネットの普及によりメディアが急激に増加しています。放送などのオールドメディアに加え、facebook・Twitterなどのニューメディアが次々と誕生しています。これらのビジネスモデルを理解し、その新たな展開とビジネスの可能性を探求します。ビジネスモデルを理解するためには、概念を知る必要があります。概念やビジネスモデルを理解するためには、議論が欠かせません。受講生の皆さん自身が議論に参加することで、自らが興味のあるメディアビジネスを理解し、新たな興味関心を発見しましょう

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

新旧メディアのビジネスモデル

#### 目標：

ビジネスモデルを具体的に理解できる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

新旧のメディアビジネスのメリット・デメリットを見つめることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	50%	： 新旧のメディアビジネスのビジネスモデルを理解したか。
講義中の態度	50%	： ディスカッションなどに積極的に参加したか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考文献】  
特になし。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

皆さんのまわりには、多くのメディアが存在しています。普段は気にしていないと思いますが、一度思いをめぐらせてみてください。その上で、それらのメディアが、いかにしてビジネスたりえているかを一緒に考えましょう。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 原則として、コメントシートにて質問を行うようにしてください。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>授業の概要説明。「ビジネス」とは何か？</b> 「ビジネス」とは何か。 「メディア」とは何か。 基本的な概念を理解する。	身の回りのメディアを再確認する。 4時間
第2回	<b>「ビジネスモデル」とは？</b> すべての「ビジネス」は、ビジネスモデルとして理解可能です。 まずは、ビジネスモデルという概念を具体例を通じて理解する。	普段からビジネスモデルを意識する。 4時間
第3回	<b>「新聞」というメディアビジネス～初期から中期</b> 新聞というビジネスモデルが現代のような形になったのは、およそ100年前です。 それ以来、基本的なビジネスモデルは変わっていません。 初期から中期の新聞のビジネスモデルを理解しましょう。	新聞に接する。 4時間
第4回	<b>「新聞」というメディアビジネス～中期から現在まで</b> 第3回に続いて、新聞のビジネスモデルを理解しましょう。 新聞というビジネスが拡大し、そのビジネスモデルも変化していきます。 現代の新聞をどのような視覚からみるのかは、ジャーナリズムと商業性の関係を考えることでもあります。	普段から、新聞というビジネスモデルを意識する。 4時間
第5回	<b>「メディアビジネス」と「コンテンツビジネス」</b> メディアが伝えるのはコンテンツです。 コンテンツは、メディアがなければ伝達されません。 メディアとコンテンツは、どこがどのように違うのかを理解する。	身の回りのコンテンツを意識する。 4時間

第6回	<b>「テレビ」というメディアビジネス～ラジオ・出版との連続</b> テレビというビジネスモデルは、およそ60年前から変わっていません。 放送メディアという点においては、ラジオと連続しています。 テレビというビジネスモデルを理解する。	テレビというビジネスモデルを意識する。	4時間
第7回	<b>「テレビ」というメディアビジネス～普及期から現在まで</b> 第6回に続いて、テレビというビジネスモデルを理解しましょう。 現代において、テレビは唯一といっていいマス・メディアです。 一方でインターネットの普及により、変革を迫られています。 ビジネスモデルは、どのように変化しているのでしょうか。	地上波テレビ以外のビジネスモデルを意識する。	4時間
第8回	<b>「テレビ」の今後。オールドメディアの挑戦</b> テレビは今、変化の途上にあります。 最大の要因は「インターネット」の登場です。 「通信との融合」といってもいいでしょう。 テレビの将来を、ビジネスの観点から考えてみましょう。	身の回りのニューメディアを考える。	4時間
第9回	<b>「テレビ」の今後。オールドメディアの挑戦～メディア革新～</b> 第8回に続いて、テレビの今後を考えます。 皆さんなら、どのようなイノベーションを企図するでしょうか。 議論を通じて、テレビの将来を創造・発想してみましょう。	テレビは今後、どのように変化するかを考える。	4時間
第10回	<b>ニューメディア、そしてネットメディアについて～これまでの変容</b> ニューメディア、なかでもインターネット関連のニューメディアが迎ってきた変化・変容を概観します。	自らが接している「ニューメディア」は何かを考える。	4時間
第11回	<b>ニューメディア、そしてネットメディアについて～これからの変化</b> SNSなどのニューメディアのビジネスモデルを理解しましょう。 その上で、これからの変化を予測してみます。	自らが接しているネット系のメディアは変化しているかを考える。	4時間
第12回	<b>メディアビジネスを理解する概念～基本概念</b> メディアやビジネスを分析するのに必要な基本概念を学びましょう。	講義で知った概念を、身の回りのメディア環境の理解に適用して考える。	4時間
第13回	<b>メディアビジネスを理解する概念～分析概念</b> 第12回に続いて、より多くの概念を理解しましょう。	引き続き、概念を用いてみる。	4時間
第14回	<b>メディアビジネスを理解する概念～概念の適用</b> 第13回に続いて、メディアビジネスをより深く理解するために、具体的事例を通して分析を行います。	講義で知った以外のメディアビジネスのビジネスモデルを考えてみる。	4時間
第15回	<b>これまでのまとめ。そしてメディアビジネスの将来は？</b> これまでの14回を総評した上で、今後のメディアビジネスを予測してみる。	メディアの今後はどうなるか、考えてみる。	4時間

授業科目名	スポーツマネジメント基礎 I / スポーツマネジメント入門				
担当教員名	古川拓也・菅文彦				
学年・コース等	1年・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

スポーツをマネジメントするうえで、教養としてのスポーツ科学の知識が必要となる。スポーツ科学とは、スポーツに関連する様々な現象や動向を科学的に検証し、考察する学問分野である。本講義では、スポーツ科学が扱う分野を知り、各分野でどのようなことを学ぶのか、その概要について学ぶ。主な分野としてスポーツ史・スポーツ教育・スポーツ文化・健康スポーツ・スポーツコーチング・アスレティックトレーニングなどを取り扱っていく。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	アカデミックスキルの向上	スポーツに関する教養知識を学び、自身の言葉で説明することができる
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	専門的な力の修得	スポーツマネジメントへのスポーツ教養の応用について説明することができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		プレゼンテーションやディスカッションをおこなうことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

①予習レポート、②振り返りレポート、③グループワークへの関わり、④期末レポートで評価する。それぞれの点数配分と基準は以下のとおり、

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
①予習レポート 25%	: 独自のルーブリックを用いて評価します。
②振り返りレポート 25%	: 独自のルーブリックを用いて評価します。
③講義内グループ活動への関わり 25%	: グループへの貢献度について主観的・客観的な指標を用いて評価します。
④期末レポート 25%	: 独自のルーブリックを用いて評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・『図説スポーツの歴史 世界スポーツ史へのアプローチ』大修館書店
- ・寒川恒夫編著「よくわかるスポーツ人類学」ミネルヴァ書房
- ・井上俊・菊幸一編著「よくわかるスポーツ文化論」ミネルヴァ書房

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前30分  
場所： 研究室・教室  
備考・注意事項： 何か、質問があればいつでも研究室に来てください

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション～スポーツとは何か？～</b> 講義の実施方法について説明します。また、本科目を始めるにあたり、スポーツの本質的な意義やスポーツ観（スポーツ目的論・手段論）について学びます。	本講義を受講する目的意識を確認しておきましょう。 4時間
第2回	<b>人類の歴史とスポーツ（1）～古代から近世～</b> 古代ギリシャ・ローマ時代から中世までの歴史とスポーツの関わりを学びます。	高校の世界史・日本史の教科書・参考書を通読する。 4時間
第3回	<b>人類の歴史とスポーツ（2）～近代から現代～</b> 近代から現代までの歴史とスポーツの関わりを学びます。	高校の世界史・日本史の教科書・参考書を通読する。 4時間
第4回	<b>スポーツと文化</b>	自身の趣味（例：旅行、アニメ、食など）とスポーツの関わりについてまとめる。 4時間

	文化を「社会の成員が有する行動様式や生活様式全般」と捉え、スポーツの文化的な側面に着目した学びを深めます。		
第5回	<b>地域社会とスポーツ</b> 地域の住民の営みにおいてスポーツが果たしている意義や役割に触れます。地域における「スポーツライフ」の実現に寄与している様々な組織（総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、スポーツ少年団など）に関する学びも行います。	自分が住む地域の住民が日頃行っているスポーツについて調べる。	4時間
第6回	<b>スポーツ政策</b> 日本のスポーツ政策を概観します。国や地方自治体をはじめとして、公益に資する活動を行う非営利セクターを観察し、日本のスポーツ政策の現状と課題点を考察します。	第二期スポーツ基本計画を読み、自身が気になる政策領域について、疑問点や気になる点を挙げておくこと。	4時間
第7回	<b>スポーツと健康</b> キーワードは生涯スポーツ、健康寿命です。生涯、健康に過ごすためにスポーツをどの様に捉え、関わっていくことが必要なのか、考えていきます。	健康寿命の考え方を調べ、まとめておきましょう。	4時間
第8回	<b>スポーツと心理</b> スポーツを行う個人やチーム・組織が高いパフォーマンスを生み出す上で「心理」の影響は無視できません。スポーツ心理学の初歩的な学びを行います。	アスリートやチームなどで心理面が競技成績に影響を及ぼしたと思う事例を調べる。	4時間
第9回	<b>スポーツと教育</b> 歴史を辿ると、スポーツと教育は大いに関係してきました。スポーツが教育に用いられるようになった経緯や、スポーツによって期待される教育的効果について議論し、考えを深めます。	スポーツの教育的効果として期待されていることを考え、まとめておきましょう。	4時間
第10回	<b>子どものスポーツ</b> 子どもにとって望ましいスポーツの在り方について考察していきます。スポーツ少年団や部活動などの組織や制度のみならず、保護者の関わり方についても議論します。	第9回を振り返り、子どものスポーツと教育の関係性について自身の考えをまとめておきましょう。	4時間
第11回	<b>スポーツコーチング</b> 減少傾向にあるものの根強く残っている、日本のスポーツ指導現場の体罰問題。本講義では科学的根拠に基づいたコーチングやその在り方について学び、考察していきます。	自身の体験から、良いスポーツコーチングとはどのような指導か、自分なりに考えておきましょう。	4時間
第12回	<b>アスレティックトレーニング</b> 競技力向上や健康づくりに欠かせないトレーニングの知識について概観します。さらに、トレーニングに関連したスポーツビジネスについても触れていきます。	フィットネス産業において、どのようなトレーニングが現在流行しているか、概観しておきましょう。	4時間
第13回	<b>スポーツと科学技術</b> 科学技術の進歩・発展に伴い、スポーツのあり方や様相も変化を遂げています。科学技術とスポーツの関わりについて学びます。	最新の情報通信技術やAIを活用したスポーツの事例を調べる。	4時間
第14回	<b>スポーツの教養とスポーツマネジメント</b> スポーツに関する教養を学んだうえで、スポーツマネジメントへどの様に応用していくことが可能か、全体を振り返りながら振り返り、スポーツマネジメントの基本的な考え方を学びます。	本講義を振り返り、疑問点や確認しておきたい点をまとめておきましょう。	4時間
第15回	<b>まとめ</b> 本講義のまとめを行います。	14回分の講義を整理していただくこと	4時間

授業科目名	<b>スポーツマネジメント基礎Ⅱ</b>				
担当教員名	植田真司、坂中勇亮				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	体育教員やアスリート等へのスポーツマンシップについての指導経験（全8回） 体育協会の業務に従事（全7回）				

### 授業概要

「スポーツマネジメント基礎Ⅰ」に引続き、スポーツマネジメントに関連する基礎的な専門知識を修得するとともに、人間力や考える力を養うことを目的とする。前半は、人間力を養うために、徳育、スポーツマンシップ、人を思いやる心など、自己のマネジメントまたはチームのマネジメントについて学ぶ。後半は、スポーツファイナンスやスポーツ行政、障害者スポーツ、ボランティア、スポーツ団体などのマネジメントについて基礎を学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	人間力とアカデミックスキルの向上	自分の考えを論理的に整理し、文章にまとめることができる。
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	専門的な力の修得	スポーツマネジメントと共に思いやりの心をはぐくむ。
汎用的な力		社会の課題に気づく。
1．DP4.課題発見		人の気持ちが分かり、共感できる。
2．DP10.忠恕の心		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

- ①毎回のレポート、
  - ②毎回の授業への関わりと協調性
  - ③半期2回のレポート
  - ④最終レポート
- の4つで評価する。それぞれの点数と基準は以下のとおり。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

①毎回のレポート	45%	: 15回×3点（内容点） 自身の考えを論理的に記述できているかで評価する。
②毎回の授業の関わりの様子	15%	: 授業での積極的な態度、グループワーク等での協調性等を評価する。
③2回の中間課題レポート	20%	: 7回目以降提出レポート（10点）、14回目以降提出レポート（10点） 「講義の内容を理解し、自分の考えを論理的に整理し、文章にまとめることができているかで評価。
④期末課題レポート	20%	: 15回目以降提出「講義の内容を理解し、日常の課題に気づき、学んだことをどのように活かすのかを計画できているかで評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

毎回、講義の中で紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

【履修条件】  
必修であるので条件はないが、一定の基準をクリアしないと単位は取得できない。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜5限  
場所： 研究室  
備考・注意事項： 何か、質問があればいつでも研究室に来てください

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション～スポーツの役割～</b> スポーツの役割について、スポーツマネジメントとしての役割として基礎知識を学ぶ	4時間
第2回	<b>スポーツマンシップを考える</b> スポーツ事例を元に、アスリートの行動について議論し、スポーツマンシップがなぜ大切なのかを学ぶ	4時間
第3回	<b>スポーツ映画で学ぶ人間力①</b> 映画より、アメリカにおける学生スポーツにおける文武両道の必要性について学ぶ	4時間

第4回	<b>スポーツ映画で学ぶ人間力②</b> 映画より、徳の大切さ、人と人の信頼関係の大切さを学ぶ	他の映画を観て学ぶ	4時間
第5回	<b>セルフマネジメント</b> トップアスリートやビジネスの成功者の考え方や習慣など共通点と自己管理について学ぶ	悪い習慣を改め、良い習慣を増やす	4時間
第6回	<b>チームマネジメント</b> 組織における、リーダーとフォロワーの役割、リーダーシップの重要性について学ぶ	フォロワーシップを実践する	4時間
第7回	<b>体育会系スポーツとキャリア</b> 学生から社会人になるがスポーツを通じて何を学べばよいのか？ 企業はなぜ、体育会系人材を望むのか学ぶ	1回から7回までの課題レポートの作成	4時間
第8回	<b>スポーツファイナンス</b> スポーツ産業での事業活動に伴うファイナンスの領域とその内容の概略を学ぶ。 社会ニュースやトピックから、スポーツ産業のファイナンスの具体例を示し、その重要性を認識する	前の時間に課題を出すので、各人レポートを記入して持参	4時間
第9回	<b>スポーツ団体のファイナンス</b> スポーツ団体の活動資金について理解する、地域で活動するスポーツ団体の財源を紹介	スポーツ団体への補助金・助成金制度について調べる	4時間
第10回	<b>スポーツ行政①</b> スポーツ行政の仕組みを理解する 国及び地方自治体のスポーツ行政の実態を紹介	文献を読みスポーツ行政について理解を深める	4時間
第11回	<b>スポーツ行政②</b> 行政が実施するスポーツ事業について理解する 地方自治体における実際の業務内容等を紹介	行政が主催するスポーツ大会について調べる	4時間
第12回	<b>障がい者スポーツのマネジメント</b> 障がい者スポーツについて理解する パラリンピック大会を事例として紹介	文献を読み障害者スポーツが抱える課題について考える	4時間
第13回	<b>スポーツボランティアのマネジメント</b> スポーツボランティアについて理解する シティマラソン大会における活動を事例として紹介	どのようなスポーツボランティアが存在するか調べる	4時間
第14回	<b>スポーツ団体のマネジメント</b> 日本のスポーツ団体について理解する 日本スポーツ協会の活動を事例として紹介	8回から14回までの課題レポートの作成	4時間
第15回	<b>まとめ</b> 14回の振り返りとディスカッション	全体の課題レポートの作成	4時間

授業科目名	スポーツビジネス入門				
担当教員名	岡田功、村田正夫				
学年・コース等	スポーツマネジメン	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義、演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田：新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた。(第1～4回、6～9回、11～14回) 外部講師A：プロサッカー選手のエージェント。(第4回)				

### 授業概要

スポーツには、「する」「みる」「ささえる」など様々な関わり方がある。また、スポーツビジネスといっても、スポーツ用品の販売からプロスポーツリーグ・クラブの運営、スポーツイベントの開催、スポンサーシップ、eスポーツまで、裾野の広い商品やサービスを扱う。本講義ではスポーツへの多様な関わり方について理解をしつつ、スポーツビジネスに関する事例や理論を紹介しながら、スポーツビジネスについての基本的な考え方を修得することを目的とする

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

スポーツビジネスに関する基礎的な知識

#### 目標：

「する」「みる」「ささえる」スポーツのビジネスと基礎理論を理解するとともに、課題を把握することができる

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP9. 役割理解・連携行動

収集した資料から、スポーツビジネス業界の課題を検討できる  
グループワークとプレゼンテーションを通じて、役割分担とグループ内連携ができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。指定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への参加度	25%	： 授業での積極的な発言、プレゼンテーションの内容を独自の評価指標に基づいて評価します
レポートの提出	25%	： 授業で毎回出す課題についてのグループまたは個人のレポート、授業外学修の課題レポートについて独自の評価指標に基づいて評価します
期末テスト	50%	： 年間を通じてスポーツビジネスの講義内容を理解できていること

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、授業の中で指示します

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 岡田：水曜3限、村田：火曜2限  
場所： それぞれの研究室  
備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずいつでもどうぞ

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、スポーツビジネスのステークホルダー</b> 初めに講義概要について説明する。その後、スポーツの世界にあって、誰がステークホルダーにあたるのかについて考える	4時間
第2回	<b>リーグとは</b> スポーツリーグは、成績次第で降格もあり得る「欧州型」リーグと、チームが固定された「アメリカ型」リーグに大別される。それぞれのリーグの特徴や強みなどの理解を深める	4時間
第3回	<b>プロスポーツクラブとは</b> プロスポーツクラブはどのように稼ぎ、どのようにお金を使っているのか。また、プロスポーツクラブがお金を稼がなければならない理由はなにか。クラブの基本的な収入・支出構造について学ぶ	4時間

第4回	<p><b>外部講師による特別講義A（プレイヤーとエージェント）</b></p> <p>サッカーや野球など人気のあるスポーツでは、スター選手の年俵が高騰している。代理人（エージェント）が絡み、選手の移籍はビジネス化する一方で、年俵を上げたい選手側の取り組み（ストライキなど）と年俵を抑制したい経営側の動き（サラリーキャップ制導入など）が激しくぶつかる。外部講師の講義を聴きながら、選手に焦点を当てたビジネスについて考える</p>	ストライキ、選手のトレード、サラリーキャップ制、フリーエージェント制など選手に絡む問題を、あらかじめ自身で調べる	4時間
第5回	<p><b>スポーツのサポートスタッフ</b></p> <p>日本のスポーツ界におけるメディカル&amp;トレーニングスタッフの将来展望について考察する</p>	事前に各自が関心のあるスポーツサポートスタッフについて下調べをする	4時間
第6回	<p><b>スタジアム&amp;アリーナ</b></p> <p>「稼ぐ」スタジアムへ進化を遂げてきたスタジアムとアリーナの建設・運営について基本的な知識を習得する。また、スタジアム運営を自治体が外部団体に委託する指定管理者制度についても触れる</p>	好きなスタジアムの所有者、オペレーター、核テナントとなるスポーツクラブ、建設費などの基礎データを調べ、授業初めにレポートにして提出する	4時間
第7回	<p><b>スポンサーシップ</b></p> <p>企業マナーはプロスポーツクラブの経営にとどまらず、スポーツイベントの開催、スタジアム建設・運営などあらゆるシーンで欠かせない存在になっている。なぜ企業は巨額のお金を投じてまでスポンサーになろうとするのか。メリットはあるのか。スポンサーシップについての基本知識を学ぶ</p>	スポンサーシップの具体例について、事前に調べ、レポートとして提出する	4時間
第8回	<p><b>放映権ビジネス</b></p> <p>オリンピックなどのメガスポーツイベントでも、プロスポーツ界でも、今やテレビの放映権料はチケット収入よりも比重が高い。放映権ビジネスが巨大化した理由などについて考える</p>	オリンピックやプロスポーツリーグが得ている放映権料について調べる	4時間
第9回	<p><b>メガスポーツイベント</b></p> <p>オリンピックが商業化されたのは1984年ロサンゼルス五輪以降で、その歴史はまだ浅い。オリンピックが商業化を迫られた理由、その功罪について考える</p>	自身でオリンピックの商業化について調べる	4時間
第10回	<p><b>スポーツツーリズム</b></p> <p>世界で成長し続けているスポーツツーリズム産業。スポーツ庁は日本へのインバウンドをさらに掘り起こすために、「武道」に焦点を当てた「武道ツーリズム」を押し出そうとしている。海外でも愛好者が多く、発祥地である日本への関心・訪日意欲を喚起できるためだ。スポーツツーリズムの中でもここでは「武道ツーリズム」に焦点を当て、考察する</p>	学習課題 武道憲章を読み、「武道とは何か」について理解を深める	4時間
第11回	<p><b>企業スポーツ</b></p> <p>日本では、プロとアマチュアをつなぐ「社会人」「実業団」が存在し、企業がある面、スポーツを発展させてきた歴史がある。1990年代、バブル崩壊で支援を打ち切る企業が続出したが、近年になって再び企業スポーツや企業によるスリートと支援が脚光を浴びている。企業側の狙いとメリット、デメリットは何か、について考察する</p>	日本のスポーツ界を支えてきた企業スポーツ（社会人スポーツ）について自身で資料を調べる	4時間
第12回	<p><b>スポーツを取り巻く産業</b></p> <p>スポーツ用品メーカー、スポーツショップ店、フィットネスクラブ……。裾野の広いスポーツ産業について学ぶ</p>	「ささえる」スポーツを形作るスポーツを取り巻く産業について、具体的にはどのような仕事・業界があるのかを事前に調べる	4時間
第13回	<p><b>科学の発展とスポーツの関わり</b></p> <p>スポーツ記録の向上、プレースタイルへの影響、より魅力的な観戦（VR映像など）など、科学技術の進歩が果たした役割について学ぶ。また、eスポーツなど将来のスポーツについても展望する</p>	科学技術の発展とスポーツの関りについて自分で調べる	4時間
第14回	<p><b>外部講師による特別講義B（プロ野球ビジネスの現場）</b></p> <p>プロ野球パ・リーグが設立したマーケティング会社で働く人を特別講師に招き、プロ野球ビジネスについて講義をしてもらう</p>	プロ野球のパ・リーグが設立したマーケティング会社について自身で事前に調べる	4時間
第15回	<p><b>アスリートのセカンドキャリア</b></p> <p>日本におけるスポーツ選手の人気は根強いが、彼らが引退後にどのような環境に身を置くことになるのかはあまり知られていない。ここではアスリートのセカンドキャリアについて考察する</p>	授業テーマに関する新聞、書籍を探し、読んでおく	4時間

授業科目名	<b>スポーツ産業論</b>				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	資料を中心に講義形式で進める。その他、プリントを適宜配布する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ関連企業や団体のマーケティング支援、スポーツイベント企画・実施、スポーツ施設の設計施工・運営支援など。(全15回)				

### 授業概要

スポーツと現代社会の基本的な仕組みを学びながら、スポーツがどのように産業とかかわっているのかを理解する。スポーツ産業は、産業分類上の一項目として独立してあるものではなく、多くの産業項目のスポーツに関わる一部分として存在する。そのためスポーツ産業を理解することは、様々な産業を理解することにつながる。また、スポーツ産業の概要と構造を理解するのみならず、スポーツを通じた社会的課題の解決策等について考えることができるようになる。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

#### 具体的内容：

スポーツを通じた社会構造

#### 目標：

社会経済の仕組みを理解することができる。

世の中の課題を自ら発見できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

規定回数以上、出席すること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

小論文

40%

中間論文

30%

期末試験

30%

#### 評価の基準

：自分で考えていること。理解していること。授業内容に沿って、自分の経験等を踏まえて考え、記載されていると高得点が与えられる。

：授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。

：授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

日ごろからニュースや新聞記事等について注意しておいてください。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp。

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スポーツ産業を学ぶ意義</b> スポーツ産業は多くの産業の縮図であり、スポーツ産業を学ぶことを通じて社会のあり方を理解する。	4時間
第2回	<b>スポーツ産業と生活者（マーケット）</b> スポーツ産業全体の概要と、生活者、マーケットを通じた社会との関係。	4時間
第3回	<b>スポーツ用品産業</b> ミズノやアシックス、ナイキなどのスポーツ用品産業について学ぶ。	4時間
第4回	<b>スポーツサービス産業</b> スポーツに関連した多くのサービス産業があるが、その大枠を理解する。特にフィットネスクラブをとおしてマーケティングの一端を学ぶ。	4時間
第5回	<b>スポーツ施設産業</b> スポーツ施設を計画・建設・運営するにあたっての基礎知識を学ぶ。	4時間
第6回	<b>スポーツとイベント産業</b> オリンピックやFIFAワールドカップ等の大規模なスポーツイベントの構造等について理解する。	4時間
第7回	<b>中間まとめ</b> スポーツ産業の概要について復習する。	4時間

第8回	<b>スポーツとスポンサーシップ</b> スポーツイベントには欠かせない、スポンサーシップの概要について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	<b>スポーツイベントとメディア</b> スポーツイベントと表裏一体のテレビ業界について、その概要、仕組み等について学習する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	<b>代価簿スポーツイベントと放映権</b> 大規模スポーツイベントの放映権等について学習する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	<b>スポーツ団体（権利ビジネス）</b> スポーツ競技団体等について、その収入源である権利ビジネスについて学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	<b>スポーツと公的セクター</b> スポーツと非常に関係の深い公的セクターとの関係について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第13回	<b>スポーツツーリズム産業</b> 近年注目されているスポーツツーリズムやスポーツコミッションについて学習。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第14回	<b>スポーツと地域活性化</b> スポーツを通じた地域活性化が注目されている。経済波及効果を含めた活性化の仕組み等を学習。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第15回	<b>スポーツ産業論総括</b> これまでの授業を振り返って総括する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

授業科目名	スポーツファイナンス				
担当教員名	水野利昭				
学年・コース等	2・3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ミズノ株式会社にて財務・税務などファイナンス実務の職務経験あり。(全15回)				

### 授業概要

スポーツファイナンスでは、①金融論における資金調達・資金運用の観点から、スポーツ産業での事業活動に伴うファイナンスの基礎を習得し②スポーツ固有のファイナンスの領域についても現実問題から学びを深める。③スポーツビジネスでの財務問題やグローバルでのブランド・ライセンス展開などの問題についても学ぶ。社会ニュースも交えながら、産業特有のファイナンスの仕組みを理解し、課題を把握して、将来ビジネスで活用できることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP6. 行動・実践

#### 具体的内容：

スポーツビジネス遂行に伴う資金調達管理の実態と必要性の理解。  
多様なスポーツビジネスでのファイナンスの実践への応用。

#### 目標：

スポーツ固有のファイナンス領域の知識習得から現在の課題把握が出来る。  
オリンピック等イベント、スポーツブランド展開、グローバルでの生産消費、スポーツ施設などをファイナンスの側面から実践できる。

スポーツビジネスのファイナンス領域に問題意識を持ち、課題を発見することが出来る。  
現実社会で日々発生しているスポーツファイナンス課題に対し、自己の意見を述べる事ができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める
- その他(以下に概要を記述)  
レポート課題提出と専門家の特別講義

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

定期試験での成績を50%、それ以外の授業中での小テスト・小レポートなどを50%で評価を行う。  
課題レポートについては授業前に提出したもののみを評価対象とする。  
授業内の小テスト・小レポートについては内容に応じて不定期で行う。  
なお、課題レポート・テストなどは、日本語もしくは英語で提出すること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業での小テスト・レポート提出

50%

期末テスト

50%

#### 評価の基準

： 講義内容に関係した現実問題を発見し、自分の考えを述べること  
講義の内容を理解し、個人の考えを記述できていること

： 年間通じてのスポーツファイナンスの授業のポイントを理解できていること

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

講義によって分野を深めたい学生には参考文献の紹介をする。  
関心あるテーマに関しては、各自独習すること。

(一例)

- 吹田スタジアムの建設に関して
- スポーツ事業マネジメントの基礎知識 金森喜久男（著） 東邦出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
履修にあたっては簿記・会計などが履修済み、あるいは同時履修であれば内容理解の助けとなり好ましい。しかし、必須ではない。  
授業でのパワーポイントはLドライブにて授業後PDFにて公開している。  
授業中は必ずノートを取り、記述した内容を見直しながら授業のパワーポイントを使って復習し、一層の理解を深めてもらいたい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館3階）

備考・注意事項： オフィスアワーは水曜2限。  
それ以外でも研究室在室時であれば気軽に訪問してください。  
Eメールでの問い合わせにも応じます。(mizuno-t@osaka-seikei.ac.jp)氏名、学籍番号を明記のこと。

### 授業計画

第1回

#### ガイダンス＋「陸王」から学ぶスポーツファイナンス

スポーツファイナンスの領域と学修の意義をガイダンスで紹介する。

TVや書籍で話題となった「陸王」を取り上げ、その中で描かれているスポーツビジネスと、スポーツビジネスと切り離せない「ファイナンス」の重要性を理解する。

受講者は「陸王」を視聴するか読書して臨んでもらいたい

#### 授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<p><b>金利について</b></p> <p>ファイナンスの中でも重要な金利の概念と計算にフォーカスして、理解してもらおう。 小テストも行う。</p>	計算方法の内容を反復し、自分で計算できるようにしておく	4時間
第3回	<p><b>オリンピックとファイナンス</b></p> <p>ロスアンゼルス五輪が、五輪運営の歴史的転換と言われるが、ピーター・ユベロスの五輪のビジネス化の内容とスポーツファイナンス上での意義について学ぶ。</p>	オリンピックの歴史とビジネス化の経緯を復習する	4時間
第4回	<p><b>スポーツの組織と企業価値</b></p> <p>組織とファイナンスについて理解する。企業価値の概念と株式会社形態についても理解する。</p>	スポーツクラブ、スポーツメーカーなどの組織についても同様の視点で理解する	4時間
第5回	<p><b>スポーツ組織運営</b></p> <p>組織の業績を判断するための損益計算方法を理解する。具体例としてJリーグチームの公表されている業績の数字から、収入の内容を理解し、チームの成績と業績について考える。</p>	講義で取り上げなかったチーム・事例も各自調査しておく	4時間
第6回	<p><b>ブランドとは何か、ブランドはなぜ価値があるか</b></p> <p>グローバルブランドの と目を向ける、現実問題から国際金融を見ることで、グローバルファイナンスでの専門知識を学ぶ</p>	講義内容を参考に、ブランドの価値についてそれぞれ考える	4時間
第7回	<p><b>スポーツブランドのグローバル展開とライセンス</b></p> <p>スポーツブランドのグローバル展開の手法としてのライセンスビジネスについての専門的理解を行う。ライセンスビジネスは初期投資を自らで負担しなくてもよいファイナンスとして有効である。</p>	講義内容を参考に、現実社会でのグローバルブランド展開にも目を向ける	4時間
第8回	<p><b>外国為替の基本</b></p> <p>グローバルファイナンスへと目を向ける、現実問題から国際金融を見ることで、グローバルファイナンスの重要性を理解し、その中でも重要な外国為替の知識を学ぶ。 外国為替の変動が企業業績や商品価格に大きな影響を及ぼすことを理解し、実際に為替の計算が出来るようになる。</p>	外国通貨の変動による影響について、観光などでの通貨交換について再度考えておく	4時間
第9回	<p><b>投資家から見たスポーツビジネス</b></p> <p>資金運用のための投資家から見るスポーツビジネスはどうなっているのか、投資戦略としてスポーツ産業は魅力的なのか、特に日本のスポーツ産業はどうかを、財務の観点から理解する。投資家向けの各社の資料を具体例として、スポーツビジネスでの事業戦略を財務分析を学ぶ。</p>	財務資料と中長期方針から、各社の将来について自分なりに投資をするイメージをもって考察してみる。	4時間
第10回	<p><b>リスクマネジメント</b></p> <p>ファイナンスにはリスクがつきものである。 特に資金回収などが行われないことが、企業倒産などにも繋がってくる。 ビジネスリスクの内容についての理解から、リスクをマネジメントする手法に関して学ぶ。</p>	ビジネスリスクについて、今の日本社会・世界経済状況から再考する	4時間
第11回	<p><b>フィンテックとデリバティブについて</b></p> <p>ファイナンスにおいて近年耳にするようになってきているフィンテックと金融派生商品に関して学ぶ。 資金調達の高多様性や支払い決済などが進歩する中で、スポーツ産業での活用についても紹介する。</p>	新たな領域でのファイナンスの拡大に関して、ニュースなどの情報から学んでおく。	4時間
第12回	<p><b>スポーツ庁とスポーツ行政</b></p> <p>日本におけるスポーツ行政が今後どうなっていくかを、スポーツ庁の方針を取り上げて考えていく。</p>	政府の政策が自らの将来の仕事にどう影響するかを考える	4時間
第13回	<p><b>スポーツファイナンス授業のまとめ</b></p> <p>1年間学んだスポーツファイナンスの中から、主要テーマ復習をして重要項目を振り返る。 14-15回がスポーツ施設に関する授業になるため、これが年間のまとめになる。</p>	年間の振り返りとまとめから、講義内容を復習して期末試験に備える。	4時間
第14回	<p><b>スポーツ施設のファイナンス</b></p> <p>スポーツ施設投資にはファイナンスが必要である。どのような手法がなされてきたのか、現在特に注目されているコストセンターからプロフィットセンターに変化するスポーツ施設投資を学び、最終特別授業への導入とする。</p>	現代のスポーツ施設の利益を生む仕組みから、現実の施設例を考えてみる	4時間
第15回	<p><b>吹田スタジアム建設に関する特別講義</b></p> <p>2016年からガンバのホームスタジアムとして使用が開始された「パナソニック スタジアム 吹田」について、実際に募金活動から始めスタジアムの建設まで企画・推進を担われた元ガンバ大阪社長の金森喜久男先生に、特別講義をしていただく。</p>	小レポートを実施する。その内容をさらに深めて復習する。	4時間

授業科目名	<b>食ビジネス入門</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	1年・2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当。(全15回)				

### 授業概要

食ビジネスを取巻くグローバルな経営環境を理解し、食品企業のCSR活動を紹介したり、株主総会での決算報告を疑似体験しながら企業の社会的責任や経営戦略について学びます。川上(食品製造業)から川下(食品流通業)に至る食の幅広いフィールド、即ちフードチェーンについても理解を深め、将来のキャリアをイメージしつつ、食ビジネスによって人々の喜びと豊かさを実現するため「食のマネジメント力」を養う第一歩を踏み出します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通

#### 具体的内容：

食品企業の経営分析、CSR活動や決算報告を疑似体験しながら学びます。

#### 目標：

食の幅広いフィールドについてフードチェーンを通して理解を深めます。

自ら主体的に課題に取り組み、試行錯誤しながら実践します。

グループワークでは自己の主張を上手に伝え、相手の意見を引き出します。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： グループ内で自分の役割を理解し、その役割を果たすことができたかどうか、途中であきらめずに最後までベストを尽くすことができたかどうか評価します。
ポートフォリオ(学びの記録)	20%	： 提出物が何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
個人・グループ発表	40%	： 与えられた課題に対して、関連する情報を集め、論点を整理して提案することができたかどうか、グループで協力し成果をアピールできたかどうか評価します。
期末レポート	20%	： 指定された日時までに提出されたレポートについて、独自の視点から課題に対する効果的な解決策を提案できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

日本大学食品ビジネス学科編『人を幸せにする食品ビジネス学入門』（オーム社、2016年）  
 朝倉敏夫他『食科学入門-食の総合的理解のために-』（昭和堂、2018年）  
 必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習すること。

日頃からテレビ、新聞、雑誌、webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

回数	内容	講義内容を参考に将来のキャリアを考えてみてください。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションおよびコースカリキュラム紹介</b> 授業の進め方や評価方法などを説明します。食ビジネスコースのカリキュラムマップから体系的な分離融合の学びや将来のキャリアへ向けた活用について理解します。	講義内容を参考に将来のキャリアを考えてみてください。	4時間
第2回	<b>食品企業のCSR活動を紹介しよう①（課題提示）</b> 課題「食品企業のCSR活動を紹介しよう」の説明後、CSRランキング食品部門で上位にある食品企業の公式サイトを閲覧し、さまざまなCSR活動について学びます。	公式企業サイトでCSR活動を調べてください。	4時間
第3回	<b>食品企業のCSR活動を紹介しよう②（調査）</b> 自分が興味をもった食品企業のCSR活動を選び、背景・目的や取り組み内容・効果などについて詳しく調査します。	公式企業サイトでCSR活動を調べてください。	4時間

第4回	<b>食品企業のCSR活動を紹介しよう③（発表準備）</b> これまで調査した成果に基づき、興味をもった食品企業のCSR活動を紹介するため、発表用パワーポイントと発表原稿を作成し、プレゼンテーションの練習を行います。	各自で成果発表の準備を行ってください。	4時間
第5回	<b>食品企業のCSR活動を紹介しよう④（発表1回目）</b> 食品企業のCSR担当者になったつもりでプレゼンテーションを行います。また、クラスメイトの発表を聞いて評価を行います。	各自で成果発表の振り返りと改善を行ってください。	4時間
第6回	<b>食品企業のCSR活動を紹介しよう⑤（発表2回目）</b> 前回の反省点を改善して再度プレゼンテーションを行います。また、クラスメイトの発表を聞いて評価を行います。	各自で成果発表の振り返りを行ってください。	4時間
第7回	<b>食品企業のCSR活動を紹介しよう⑥（振り返り）</b> 自己評価とクラスメイトによる評価とのずれを確認し、この課題を通して学んだことを振り返りシートに記入します。	各自で振り返りレポートを作成してください。	4時間
第8回	<b>安全な食品の安定供給と調達</b> ゲストスピーカー（専門家）を招き特別授業を開催し、食ビジネスにおいて重要である安全な食品の安定供給と調達の仕組みや課題について学びます。	特別授業のレポートを作成してください。	4時間
第9回	<b>株主総会を疑似体験しよう①（課題提示）</b> 課題「株主総会を疑似体験しよう」の説明後、グループで売上高で上位にある食品企業の公式サイトを閲覧し、決算報告について学びます。	公式企業サイトで決算報告書を調べてください。	4時間
第10回	<b>株主総会を疑似体験しよう②（調査）</b> グループで選んだ企業の決算報告内容について、売上高、利益、経営環境分析、戦略などについて詳しく調査します。	公式企業サイトで決算報告書を調べてください。	4時間
第11回	<b>株主総会を疑似体験しよう③（発表準備）</b> これまで調査した成果に基づき、グループで選んだ企業の決算報告を疑似株主総会で発表するため、発表用パワーポイントと発表原稿を作成し、プレゼンテーションの練習を行います。	グループ毎に成果発表の準備を行ってください。	4時間
第12回	<b>株主総会を疑似体験しよう④（発表1回目）</b> 食品企業の経営者（社長、副社長、専務など）になったつもりでプレゼンテーションを行います。また、他グループの発表を聞いて評価を行います。	グループ毎に成果発表の振り返りと改善を行ってください。	4時間
第13回	<b>株主総会を疑似体験しよう⑤（発表2回目）</b> 前回の反省点を改善して再度プレゼンテーションを行います。また、他グループの発表を聞いて評価を行います。	グループ毎に成果発表の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	<b>株主総会を疑似体験しよう⑥（振り返り）</b> 自己評価とクラスメイトによる評価とのずれを確認し、この課題を通して学んだことを振り返りシートに記入します。	グループ毎に振り返りレポートを作成してください。	4時間
第15回	<b>食ビジネスの社会的責任と今後の課題</b> 食ビジネスにおいて最も大切な「食の安全・安心」と「食の持続性」について、身近な事例を交えながら学びます。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	期末レポートは指定された日時までに提出してください。この授業で学んだことの振り返りを行ってください。	4時間

授業科目名	<b>食品開発論 I (食品) /食品学</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

私たちが食品として利用している素材は、食塩を除いてすべて生物です。食品素材（水稲・野菜・果樹・園芸・畜産・水産物など）の構成成分の調理・加工時の変化、食品加工への利用のされ方、特用林産物の特性、生産の現状を中心に講義を行います。また、各自で流通現場のフィールド調査により、授業で学んだ食材の販売方法や、どのような加工品（食品の種類）が売られているか、またその加工食品を作っているメーカーごとの違いなど、実際に購入し試食等による比較検討を織り交ぜレポートを作成します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	食の商品開発力に役立つ専門知識	食品素材の種類や品種毎に含まれる成分の特性を理解し、食品素材個々の説明できる知識を栄養学や調理学そしてメニュー開発・食品開発に役立てられる
汎用的な力		多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料を引用しながら論理的にまとめられるようになる
1 . DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
  - ・問答法・コメントを求める
  - ・見学、フィールドワーク
  - ・その他(以下に概要を記述)
- ゲストスピーカーとして企業人を招き、さまざまな現状や最新の情報について学び、加工食品の試食などの演習を行う。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題レポート	50%	： 課題の内容に見合ってまとめられているか、指示された形式に従っているか、独自のルーブリックに従い3段階で評価します。
定期試験	50%	： 食品素材個々の特徴的な食品成分を説明できるか、人体に有害な成分がある場合、適切な処理の仕方が説明できるかを評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
渡邊智子 他著	・ 「食べ物と健康 I」食品学・食品機能学	・ 第一出版	・ 2017年
	・ NEW&VISUAL食品成分表	・ 教育図書	・ 2017年
日本フードコーディネーター協会編	・ フードコーディネーター教本3級試験対応テキスト	・ 柴田書店	・ 2017年

### 参考文献等

【参考書】喜多野宣子 他著 食べ物と健康II 化学同人

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

- ・教科書と成分表は毎時間持参すること
- ・レポート提出は次回の講義日に持参すること
- ・フィールド調査ではマナーを守る事
- ・フードコーディネーター教本3級試験対応テキストの該当するページをよく読み理解しておくこと
- ・授業の内容や順番を変更する場合がある

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時間目

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

第1回	食品素材の分類（食品の種類）	よく利用される食品を植物性食品と動物性食品とに分類。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	私たちが日常食べている食品素材（水稲・野菜・果樹・園芸・畜産・水産物など）の構成成分の調理・加工時の変化、食品加工への利用のされ方、特用林産物の特性、生産の現状について概要する。個々の生物体としての特徴とそれを構成している成分の特性を学び、食品素材の分類を理解する。		4時間

第2回	<b>穀類の特性とその加工食品</b> 穀類とは、植物の種子を食用とするイネ科とタデ科の植物の総称である。穀類の種類とその加工品について、またそれらに含まれる成分や特徴について学ぶ。	穀類の加工品を調べる。	4時間
第3回	<b>イモ類の特性とその加工品</b> イモ類は水分含量が高く、貯蔵性や輸送性に劣るが栽培が容易で収量が安定している特徴がある。イモ類の種類とその加工品について、またそれらに含まれる成分や特徴について学ぶ。	イモ類の加工品を調べる。	4時間
第4回	<b>種実類の特性とその加工品</b> 種実類は、いずれも水分が少なく、無機質、ビタミン、食物繊維を比較的多く含む。種実類の種類と成分構成による分類について、またそれらに含まれる成分や特徴について学ぶ。	種実類の加工品を調べる。	4時間
第5回	<b>豆類の特性とその加工品</b> 豆類はマメ科に属する草本の種子である。成熟した乾燥種子(豆)を加工品に利用することが多く、未熟な種子をサヤごと食べる場合野菜類に分類される。豆類とその加工品、さらに成分について学ぶ。	豆類の加工法・加工品を調べる。	4時間
第6回	<b>野菜類の特性とその加工品</b> 野菜はさまざまな色彩と特有の食感を持ち、健康を維持していくためにも、また彩りを添える食材としても重要である。野菜類とその分類およびその加工品について、さらに成分や特徴について学ぶ。	野菜類の加工品を調べる。	4時間
第7回	<b>果実類の特性とその加工品</b> 果実類は生食する事が多い植物性食品であり、特有の芳香や色、味などを持つ。果実類とその加工品について、またこれらの成分や特徴について学ぶ。	果実類の加工品を調べる。	4時間
第8回	<b>キノコ類の特性とその加工品</b> キノコ類は大型の胞子組織を形成する菌類である。毒性を持つ種類もあり食用とされるのは約100種類である。キノコ類とその加工品について、またこれらの成分や特徴について学ぶ。	キノコ類の加工品を調べる。	4時間
第9回	<b>藻類の特性とその加工品</b> 藻類は、胞子が水中で繁殖し成長する植物をいう。生のまま利用されるときもさまざまな食品に加工される。藻類とその加工品について、またこれらの成分や特徴について学ぶ。	藻類の加工品を調べる。	4時間
第10回	<b>魚介類の特性とその加工品</b> 魚介類とは、魚類、甲殻類、軟体動物、棘皮動物、棘胞動物、原索動物のうち食用にするものの総称である。魚介類とその分類および特性について、またこれらの加工品その加工技術について学ぶ。	魚介類の加工品を調べる。	4時間
第11回	<b>食肉類の特性とその加工品</b> 食肉とは食用に飼育されている家畜、家禽の食べられない部分を除いて処理した肉のことをいう。魚介類と並ぶ重要なタンパク質供給源である食肉類とその分類および特性、その加工品について学ぶ。	食肉類の加工品を調べる。	4時間
第12回	<b>卵類の特性とその加工品</b> 卵類とは一般に鶏卵をさすが他にウズラ卵、アヒル卵などが利用される。調理が簡単で栄養価が高い。卵類の構成成分の特徴を知り、その加工品について学ぶ。	卵類の加工品を調べる。	4時間
第13回	<b>乳類の特性とその加工品</b> 乳は哺乳動物が子どもを哺育するために乳腺から分泌するもので、栄養価が高くさらにカルシウムの供給源である。牛乳とその多様な加工品について学ぶ。	牛乳の加工品を調べる。	4時間
第14回	<b>食用油脂、調味料、香辛料、嗜好品</b> さまざまな加工食品（食用油脂、調味料、香辛料、嗜好品-非アルコール・アルコール飲料、菓子類-、微生物利用食品、バイオテクノロジー応用食品、新しい加工技術）について学ぶ。	さまざまな加工食品の内1つの加工食品を選びその特徴等を調べる。	4時間
第15回	<b>食品の保存と規格</b> 食品の保存方法、食品の規格基準、保健機能食品と特別用途食品について学ぶ。この分野は時代の動きにつれて変化しやすく、オーガニック食品など新規名称の食品についても理解する。	市販されている栄養機能食品について種類および機能について調べる。	4時間

授業科目名	<b>食品開発論Ⅱ（栄養）/栄養学</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

栄養学の基本となる五大栄養素、すなわち食べものとして摂取した、タンパク質、炭水化物（糖質・食物繊維）、脂質、ビタミン、ミネラルなどの消化吸収、および代謝とその調節、ならびに各栄養素の関連性や、エネルギー代謝について学びます。また、サプリメントとしてビタミンおよびミネラル等を摂取する場合に、特に問題となる過剰摂取の危険性について学び、多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料を引用しながら論理的に、サプリメント等の利用のメリットについて考えます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

食の商品開発に役立つ専門知識

#### 目標：

健康の保持増進・疾病の予防や治療における栄養の役割、摂取した食物の栄養成分がどのように代謝され、体の構成成分やエネルギーとしてどのように利用されるかが理解できる  
メニュー開発・食品開発の基礎となる

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料を引用しながら論理的にまとめられるようになる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

小テスト

#### 評価の基準

： 学期中に複数回行いキーワードや、各種反応の仕組みを理解出来ているかについて評価します。

20%

定期試験

： バランスの良い食事の具体例（料理名）があげられ、適切な1人分の食事内容が説明できるか、食品に含まれる各成分の機能が説明できるかを評価します。

80%

### 使用教科書

指定する

#### 著者

鈴木和春 他著

#### タイトル

・ サクセス管理栄養士講座「基礎栄養学」

#### 出版社

・ 第一出版

#### 出版年

・ 2017年

### 参考文献等

【参考書】 NEW&VISUAL食品成分表、教育図書

【参考書】 フードコーディネーター教本3級試験対応テキスト

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の内容や順番を変更する場合がある。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時間目

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

第1回	栄養とは	ヒトが生きていく為に必要な栄養素と呼ばれる物質を身体の中で作られるのか作られないのかを調べる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	栄養の本質を理解し、栄養素と呼ばれる物質と生物としてのヒトとのかわりを科学的観点から学ぶ。また疾患と栄養とのかわり、疾患がヒトにもたらす負の側面を社会的観点から理解する。		4時間
第2回	<b>栄養学のおゆみ</b> 古代から現代までの長い間に栄養学という学問が、どのように生まれ、発展し、体系化されてきたのかを学ぶ。	脚気および壊血病について調べる。	4時間
第3回	<b>栄養素とそのはたらき</b> 私達動物は食物（有機物）を摂取しなければ生きていく事はできない。摂取する食物にはいろいろな物質が含まれている。その中に生きる為に必要な物質である栄養素の種類とそのはたらきを学ぶ。	ヒトが成長し、成人になってからは維持・増進していくために、身体の中で行われてほしいはたらきを具体的に箇条書きで列記し、それらを3つのカテゴリーにまとめる。	4時間

第4回	<b>糖質</b> エネルギー源となる糖質の種類とその構造を学ぶ。また糖質の体内利用について学び糖尿病の病態について理解する。	糖質と食物繊維との違いを調べる。	4時間
第5回	<b>脂質</b> エネルギー源となる脂質の種類とその構造を学び、脂質の体内利用について、また脂質異常症の病態について理解する。	脂質の構造と種類を調べる。	4時間
第6回	<b>タンパク質</b> エネルギー源および身体の構成成分となるタンパク質の種類とその構造を学ぶ。またタンパク質の体内利用とくに栄養価の評価について理解する。	タンパク質の構造と種類を調べる。	4時間
第7回	<b>ミネラル（無機質）</b> 身体の構成成分および生理作用を調節するミネラルの種類とその体内利用について学ぶ。また、それらの不足および過剰症の病態について理解する。	骨を作る、血液をつくるのに関係の深い栄養素を調べる。	4時間
第8回	<b>ビタミン</b> 生理作用を調節するビタミンの種類とその構造について学ぶ。また、ビタミンの体内利用について学び、それらの不足および過剰症の病態について理解する。	ビタミンの特徴による分類とその機能について調べる。	4時間
第9回	<b>水と食物繊維</b> 食べ物の中には栄養素以外にもさまざまな成分が含まれており、その中には有用なものも含まれている。有用なものである機能的非栄養成分、特に食物繊維について学ぶ。	食物繊維の特徴による分類とその機能について調べる。	4時間
第10回	<b>栄養素の消化と吸収（消化のしくみ）</b> 摂取した食べ物が消化される過程では、多くの消化器系器官がかわり、栄養素は各器官においてさまざまな消化酵素の作用を受ける。各栄養素の特徴別にどのような成分まで消化されるかを学ぶ。	三大栄養素を消化する主要な消化酵素の名称を調べ、各栄養素毎に分類する。	4時間
第11回	<b>栄養素の消化と吸収（吸収のしくみ）</b> 摂取した食べ物が消化された各栄養素の特徴別にどのように吸収されるかを学ぶ。また、吸収後の体内での輸送経路とその利用のされ方について理解する。	三大栄養素が消化された最終の成分はその特徴によりどちら側の輸送経路を通るのかを調べる。	4時間
第12回	<b>エネルギー代謝</b> ヒトが食事から得る摂取エネルギーと代内で消費される消費エネルギーとの出納をエネルギー代謝といい、エネルギーの定義および自身のエネルギー消費量あるいは必要量の算出方法について学ぶ。	三大栄養素で代表される各食品の1gあたりのエネルギー量を調べ、自身の1日の食事でどれくらい摂取しているのかを算出する（食育バイキング）。	4時間
第13回	<b>摂食行動</b> ヒトはどのようにして空腹を感じると食事を開始し、ある程度満腹になると摂食が止まるのか、現在明らかになっている摂食調節について、また食物と味覚に関して栄養と関連させて学ぶ。	空腹であるのに食べたく無くなる要因について考察する。	4時間
第14回	<b>食事摂取基準</b> 健康な個人の健康の維持・増進および生活習慣病の予防を目的とした、エネルギーと栄養素の摂取量を理解し、現場で使用されている食事バランスガイドや食品群等の教材の考え方についても学ぶ。	食事摂取基準の概要の中に書かれている統計学的な考え方について説明する。	4時間
第15回	<b>食習慣と疾病</b> 食生活と健康が密接に関連していることは多くのヒトが認識しているところであるが、アジアと欧米では死亡原因となる疾病に大きな違いがある。考えられる食習慣の違いや遺伝的背景について学ぶ。	アジアと欧米の食習慣を調べ、そこから良く食べられている食品/調理方法を見つけ出し、その食品/調理方法に多く含まれていると考えられる栄養素を箇条書きする。	4時間

授業科目名	<b>食品開発論Ⅲ（調理）/調理学</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

調理とは食品材料を食べ物に変えることである。食品材料である動植物をそのまま食べるのではなく安全でおいしい食べ物に加工して食べる。食べやすい形（食べ物）に変えることが料理することであり、広い意味で食事を整える事全体をさして調理と言う。調理技術は昔から伝承されてきたものが多く、「技」として考えられがちであるが、この授業では実際の調理操作中に生じる諸現象を学び、おいしく調理する技術の裏にある理論を理解する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

食の商品開発に役立つ知識

#### 目標：

食環境に対応した食品素材の活かし方が理解でき、多くの情報の中から必要な情報を選び出し、論理的にまとめられる

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

調理実習の内容と関連付けて調理技術を理解し、メニュー開発・食品開発の基礎力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

レポート

#### 評価の基準

：内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて3段階で評価します。

30%

定期試験

：個々の食品素材をおいしくいただくために行う、適切な調理操作とその意義が説明できるかを評価します。

70%

### 使用教科書

指定する

#### 著者

渋川祥子 編著

#### タイトル

・エスカパーシク 食べ物と健康 調理学

#### 出版社

・同文書院

#### 出版年

・2017年

### 参考文献等

【参考書】 NEW&VISUAL食品成分表、教育図書

【参考書】 フードコーディネーター教本3級試験対応テキスト

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

実習中に知り得た知識や疑問をその日の内に整理するようにしてください。授業の内容や順番を変更する場合があります。

メニュー提案を8回行います。  
学外の見学に1回/15回あてます。  
食育演習が2回/15回あります。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時間目

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>調理の意義と食事計画</b> ヒトは食べ物を食べて生きていますが、自然界の中でヒトが食べる事の位置づけを知り、食事の意義、調理の目的を理解し、調理学を学ぶ意味を理解する。	4時間
第2回	<b>調理操作と調理機器①非加熱操作</b> 調理操作のうち非加熱操作は、下ごしらえや中間的な操作から仕上げまでの過程における複数の操作である。各技術の理論を学びその過程で生じる食品の形状・組織・物性・成分等の変化を理解する。	4時間

第3回	<b>調理操作と調理機器②湿式加熱</b> 食材を調理しておいしい食べ物にするには、適切な調理操作が求められる。加熱操作は調理の中心的役割を持つが、その中で湿式加熱の目的、特徴、方法について学ぶ。	湿式加熱の種類とそれに相当する具体的な調理名を調べる。	4時間
第4回	<b>調理操作と調理機器③乾式加熱</b> 加熱操作の中で、乾式加熱の目的、特徴、方法について学ぶ。連携先の施設を訪問し、調理中の熱の伝わり方をサーモグラフィにて確認する。	乾式加熱の種類とそれに相当する具体的な調理名を調べる。	4時間
第5回	<b>調理操作と調理機器④誘電・誘導加熱</b> 加熱操作の中で、誘電・誘導加熱の目的、特徴、方法について学ぶ。また、過熱水蒸気過熱および外食産業や大量調理を行う際の調理方法についても学ぶ。	誘電・誘導加熱の特徴を調べ、考えられる利点・欠点を考察する。	4時間
第6回	<b>調理操作と調理機器⑤器具・調理機器の理解</b> 非加熱・加熱調理操作に使用する器具・調理機器の機能や材質を理解し、料理にあった器具・加熱調理が選択できるように学ぶ。	加熱器具として重要な鍋についてその材質と特徴について調べ適する料理名をあげる。	4時間
第7回	<b>調理操作と調理機器⑥調味操作の理解</b> 調味操作は、調理の目的により調味する時期や方法が異なり、これらが、料理や風味の強さ、食品のテクスチャーにも影響を与え、料理のおいしさを左右する。適切な調味する時期、濃度を学ぶ。	日常よく食べる料理（5品）に使用されている調味料の種類と使用量（%）を調べる。	4時間
第8回	<b>食べ物の嗜好性と生体における役割①おいしさと健康</b> ヒトは食べ物を食べる時おいしさを感じる。食べ物はまずおいしい事が大切で、おいしいと感じると消化吸収能力が高まったり、生活に喜びを与える。食べ物のおいしさを形成する要因を理解する。	5基本味についてまとめ栄養学的に何を意味するかを調べる。	4時間
第9回	<b>食べ物の嗜好性と生体における役割②5基本味を呈する物質</b> 化学物質である5基本味を呈する物質の種類、構造、濃度との関係を学ぶ。	閾値、相乗効果、対比効果のことばの意味を調べる。	4時間
第10回	<b>食べ物の嗜好性と生体における役割③おいしさを形成する要因</b> おいしさは味覚で主に感じるが、嗅覚、触角、視覚、聴覚によっても感じられ、さらに種々の因子がおいしさに関与している。ここではテクスチャー、温度、色、音、香りの関与について学ぶ。	朝食を食べたくなるために必要な要因を考察する。	4時間
第11回	<b>官能評価</b> 官能評価とは、ヒトの感覚を用いて食品の品質特性や嗜好特性を評価し、結果を統計的手法により解析して、より客観的、普遍的な判断を得ようとするものである。この評価方法について学ぶ。	官能評価をしてみたいと思う事柄の一つを選び、官能評価の手法に見合った官能評価用紙を作成し、評価結果を推測する。	4時間
第12回	<b>調理と安全</b> 調理学の意義はおいしさの追求と栄養学的なバランスがとれ、さらに衛生的で安全な食物を摂取することである。安全な食物を摂取するにはどんな手段をとればよいかを考える。	どのような食品にトレーサビリティが導入されているかを調べる。	4時間
第13回	<b>食事設計と栄養</b> ヒトは健康の保持増進および疾病予防のために食事を喫食しているが、それはQOLを高めるものでなければならない。食文化や食習慣に配慮したバランスの良い日常の食事の献立作成について学ぶ。	自身の年齢、性別に見合った日常のある1日の献立を作成する。	4時間
第14回	<b>食品の調理性と生体利用性、調理による栄養効果</b> 食事の素材となる食品には、植物性食品、動物性食品、さらにこれらの食品から抽出された特殊成分がある。これらの調理性と代表的な調理について学ぶ。	日本人の食の原点とされる「米」と、現在消費量が増加中の「小麦」の調理性の違いについてまとめる。	4時間
第15回	<b>調理と環境</b> 毎日の食事における一連の過程において地球温暖化、廃棄物、水質汚濁などの地球環境問題と深くかかわっていることを捉える。	環境を考えた視点で自身の冷蔵庫の使用方法を評価する。	4時間

授業科目名	<b>食品流通論</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	1年・2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

この授業では、経済産業省の商業統計調査、経済新聞の記事、主要企業の公式サイト、実際の市場で売上が伸ばしている商品などの最新情報に基づき、食品流通の現状と今後の課題について学びます。食品消費の変化、マーケティング、食品小売業の各業態（食品スーパーマーケット、総合スーパーマーケット、コンビニエンスストア、百貨店、生活協同組合、電子商取引など）および卸売業と卸売市場の特徴や役割を学び、マクロ環境の変化に伴う今後の市場動向について理解を深めます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

食品小売業・卸売業の動向を把握する手段や食品小売業の各業態の特徴と課題などを学びます。

#### 目標：

食品小売業・卸売業の特徴と役割、市場動向や課題について理解を深めます。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

食品小売業・卸売業の各業態毎が抱えている課題を発見します。

グループワークでは自らの主張を上手に伝え、相手の意見を引き出します。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業での発言量・質	20%	: 授業内の発問への回答やグループワークに積極的に参加しているかどうか、発表内容が適正で分かりやすいかどうかを評価します。
レポート(4回)	40%	: 与えられた課題に対し、授業で学んだ正しい知識に基づき読み手に分かりやすく論述できているかどうかを評価します。
定期試験	40%	: 専門知識を問われる課題に対して、授業で学んだ正しい知識に基づき回答できているかどうかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

時山ひろみ他著『フードシステムの経済学 第5版』（医歯薬出版、2015年）  
藤島廣二他著『新版 食料・農産物流通論』（筑波書房、2012年）  
必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習すること。

日頃からテレビ、新聞、雑誌、webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションおよび食品流通の仕組み</b> 授業の進め方や評価方法などを説明します。「食品の物流」「食品の商流」「食品の情報流」などの仕組みについて学びます。また、最近の食品流通を取り巻く環境の変化をトピックスを交えて紹介します。	4時間
第2回	<b>消費者ニーズの変化（食の外部化）</b> 女性の社会進出や1人暮らし世帯の増加など、食の外部化要因について考えます。	4時間
第3回	<b>日本の食品流通の実態および業界再編の動向</b> 商業統計調査による卸売業・小売業の実態および、小売業界再編の動向について学びます。	4時間

第4回	<b>食品小売業①（スーパーマーケット）</b> 食品スーパーマーケット（SM）、総合スーパーマーケット（GMS）業態の特徴と今後の課題を学びます。	イオン、セブン&アイホールディングスの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第5回	<b>食品小売業②（コンビニエンスストア）</b> コンビニエンスストア（CVS）業態の特徴と今後の課題を学びます。	セブンイレブン、ファミリーマート、ローソンの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第6回	<b>食品小売業③（百貨店）</b> 百貨店業態の特徴と今後の課題を学びます。	三越伊勢丹ホールディングス、J.フロントリテイリング、高島屋の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第7回	<b>食品小売業④（生活協同組合）</b> ゲストスピーカー（専門家）を招いて特別授業を開催し、生活協同組合業態の特徴と今後の課題を学びます。	次回の授業までに特別授業のレポートを提出してください。日本生活協同組合連合会、コープこうべの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第8回	<b>食品小売業⑤（電子商取引）</b> 電子商取引（EC）、オムニチャネル業態の特徴と今後の課題を学びます。	アマゾン、楽天、オイシックス・ラ・大地の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第9回	<b>グループワーク①（成長するだろう業態）</b> 「30年後に成長するだろう食品小売業態とその理由」と題して、グループワークを行い、各自レポートを提出します。	次回の授業までにレポートを提出してください。	4時間
第10回	<b>卸売業と卸売市場</b> 卸売業と卸売市場の特徴や役割について理解し、今後の課題を学びます。	三菱食品、日本アクセス、国分グループ本社、大阪中央卸売市場の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第11回	<b>食の世界市場</b> 食の世界市場のトレンド、グローバル食品企業の成長戦略について学びます。	海外進出している日本の食品流通業の事例を調べてきてください。	4時間
第12回	<b>グループワーク②（衰退するだろう業態）</b> 「30年後に衰退するだろう食品小売業態とその理由」と題して、グループワークを行い、各自レポートを提出します。	次回の授業までにレポートを提出してください。	4時間
第13回	<b>食品流通業の実情</b> ゲストスピーカー（専門家）を招いて特別授業を開催し、食品流通業界の現状と今後の課題について学びます。	次回の授業までに特別授業のレポートを提出してください。	4時間
第14回	<b>グループワーク③（食品流通業の今後の課題）</b> 「食の安全・安心」「持続可能な食ビジネス」などの課題について、グループワークを行い、各自レポートを提出します。	次回の授業までにレポートを提出してください。	4時間
第15回	<b>食品流通業の動向・まとめ</b> 食品流通業の動向や課題、これまで授業で学んだことを振り返り、理解を深めます。	定期試験は持込不可とし、定期試験期間中に行います。この授業で学んだことを振り返り・復習してください。	4時間

授業科目名	<b>観光ビジネス概論</b>				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	観光の基本を学ぶため、講義が中心になります。しかし、一方的な講義に終わるのではなく、学生同士や学生と教員の議論も取り入れます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

観光を学ぶための基礎的な知識を習得することを目的とする。観光の定義や意義から始まり観光学の対象や方法を幅広く理解し、観光の諸分野に関する専門的な学修に共通する基礎知識を学ぶ。前半のところでは、現代観光の仕組み・役割・影響と特徴を、社会とのかかわりや人間生活における位置づけなどの面から詳細に考察する前提として、「観光」とは何であるかという基本的事柄について学習する。その学習を通しての基礎的理解を踏まえて、後半のところでは、現代観光の社会とのかかわりを多面的に学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

観光の歴史・専門用語・仕組みの理解

#### 目標：

観光とは何かについて、観光の専門用語・現代社会における観光の仕組みについて基礎知識を得る。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光動向を把握してもらうことによって、観光における課題や今後のあり方について考察することが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
「試験（小テスト、中間テスト、期末テスト）」

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小テスト・受講態度	20%	： 毎回の授業内容から出されるクイズの答えを提出してもらい、平常点として成績に反映する。
中間テスト	40%	： 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
期末テスト	40%	： 観光学の基礎知識を用いて自身の意見を述べる問題。次の観点から評価する。1. 観光学の基礎知識の正しい理解、2. 現代の観光における問題点を指摘し、その解決のための案を提案することまでつなげられるのか

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
前田 勇編著	・ 新現代観光総論	・ 学文社	・ 2015年

### 参考文献等

- 岡本 伸之 編著 (2001) 『観光学入門』有斐閣  
岡本 伸之 編著 (2013) 『観光経営学（よくわかる観光学）』朝倉書店

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜1限 (9:00-10:30)  
場所： 研究室 (西館2階)  
備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は、質問に応じる。

### 授業計画

回	内容	事前準備	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション・観光とは</b> 学習内容や評価方法、受講についての注意事項などについて説明したうえで、観光とは何かについて考えてもらいます。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回	<b>「観光」の概念</b> 「観光」および観光に関連することばの意味と現代観光の基本的構造と構成要素について学びます。また、観光の現代的特色について学びます。	まとめノートの作成 (作成のためのキーワード：旅行、ツーリズム)	4時間
第3回	<b>観光の世界史/日本史</b> 現代の観光がどのような社会的背景の中で発展してきたかについて観光の世界史と日本史を通して学びます。また、どのような要因が観光の大衆化に寄与してきたかについて学びます。	まとめノートの作成 (作成のためのキーワード：マス・ツーリズム、抜参り)	4時間
第4回	<b>観光の影響と効果</b> 観光客の来訪による効果や影響について学びます。	まとめノートの作成 (作成のためのキーワード：観光における南北問題、文化変容)	4時間

第5回	<b>観光と地域社会</b> 農村や地方都市など、産業が衰退している地域における、観光産業による地域の再生について学びます。また、観光産業が地域に及ぼす効果と影響について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：観光地づくり、オーバーツーリズム）	4時間
第6回	<b>観光における開発と保護</b> 観光地の形成・発展のプロセスや観光開発の考え方について学びます。また、持続可能な観光資源の発掘、活用について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：観光資源、まち歩き、持続可能性）	4時間
第7回	<b>余暇活動としての観光</b> 余暇の概念と余暇の“現代的”意味を学び、余暇活動としての観光の特徴と今後の展望について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：余暇活動、レクリエーション）	4時間
第8回	<b>Reviewと中間テスト</b> 今迄の授業内容を振り返り、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回	<b>観光行動を成立させるもの</b> 観光行動が成立する仕組みと観光者心理の一般的特徴について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：欲求段階説、旅行動機）	4時間
第10回	<b>観光行動の対象—自然と文化・暮らしと交流—</b> 観光対象の基本的性格や観光対象の類型について学びます。また、観光行動の対象としての文化のとらえ方について学び、観光が異文化間の交流や相互理解に果たしうる役割について理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：観光資源、文化観光）	4時間
第11回	<b>観光と交通</b> 観光事象における媒介的要素としての交通の役割と現代社会における主な交通の発達過程と事業展開について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：時間的・経済的・心理的距離）	4時間
第12回	<b>観光と宿泊</b> 観光における宿泊業の変遷、海外からの宿泊者の増加に伴う簡易宿泊所や民泊の増加など、現代における宿泊業の実態を学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ゲストハウス、民泊）	4時間
第13回	<b>観光ト旅行業</b> 旅行業がどのような経緯を経て成立したのかについて学びます。また、旅行業の業務内容を理解し、現代観光における旅行業の特徴と役割について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：トーマスクック、旅行商品）	4時間
第14回	<b>観光に関連する諸事業</b> 観光者の基本的行為とそれに関連する諸事業について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：準備、移動、滞在）	4時間
第15回	<b>振り返り、まとめ</b> 前期の授業内容をまとめます。	ノートをまとめる、全体の内容を理解する。	4時間

授業科目名	Intercultural Studies 1				
担当教員名	山川 温				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	米国ミシガン州公立校教諭（数学・日本語担当）				

### 授業概要

(A) 文化的背景の異なる人とのコミュニケーションに必要な態度を養います。英語力測定試験の結果から、自分の英語力を把握し、英語学習での長所を更に伸ばし、短所をなるべく克服する姿勢を身に着けます。TOEICではスコア450点以上を目指します。

(B) 文化的背景の異なる人とのコミュニケーションに必要な態度を養います。英語力測定試験の結果から、自分の英語力を把握し、英語学習での長所を更に伸ばし、短所をなるべく克服する姿勢を身に着けます。TOEICではスコア400点以上を目指します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

文化的言語的背景の異なる人との日常的な話題について理解することができる英語力を身につける  
TOEICの頻出単語や文法の理解力と聞く力

#### 目標：

相手のいうことを理解し、反応するための英語の基礎力を身につける  
(A) TOEICテストスコア450点以上取得に向け基礎力をつける  
(B) TOEICテストスコア400点以上取得に向け基礎力をつける

#### 汎用的な力

- DP8. 意思疎通

相手の言うことを理解しようとする態度、自分が伝えたいことを場面に合わせて発言する態度を身につける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

- 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
- 毎回授業始まりに、学習の目標を明確に提示し、授業終わりには、授業目標の達成についての自己評価、または、ペア評価、グループ評価があります。授業を欠席した場合、この評価点がゼロになりますので、気を付けて下さい。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への積極的な参加	50%	： 質問や自分の考え・意見の発表に向けた態度、課題の完成に向けた働きかけ、自己の理解度や努力についての言語化にどれだけ積極的に取り組んでいるかを評価します。
ミニクイズ評価	10%	： 毎時間の開始時に行われる、その日の授業の予習度や前週の授業の復習度を確認するミニクイズ（10点程度）。
プロジェクト・課題	20%	： 評価表にそって、プロジェクトや課題を評価します。
宿題・課題	10%	： 宿題や課題への取り組みや完成度を評価します。
期末テスト（レポート）	10%	： あらかじめ提示される評価表にそって、レポートがどれだけかけたかについて、自己評価を含め評価します。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
(A) Robert Hickling, Masato Usuku	(A) English Switch	(A) Kinseido	2016年
(B) Koji Hayakawa, Yoichi Kishi	(B) SCORE BOOSTERS FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER	(B) Kinseido	2019年

### 参考文献等

必要に応じて、教員が配布します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- 毎回、授業では復習ミニクイズをします。
  - 毎回、授業では宿題が出されます。
  - 授業では、教科書と配布プリントを使用します。
  - 第1回目の授業で話し合うルールを守って受講して下さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業内でお知らせします。

## 授業計画

授業計画		授業外学習課題にかかる目安の時間
第1 1 回目 <b>クラスのオリエンテーション (A) Unit 1: Jobs &amp; Careers (B) Unit 1: Travel</b> (A) ●仕事とキャリアに関する語句・表現を覚える ●品詞と語順・現在時制について学ぶ (B) ●旅行に関する語句・表現を覚える ●名詞を学ぶ (単数形・複数形)	Unit1の復習、Unit2の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第2 2 回目 <b>(A) Unit 2: Entertainment (B) Unit 2: Dining Out</b> (A) ●娯楽に関する語句・表現を覚える ●可算名詞・不可算名詞を学ぶ (B) ●レストランや食事・料理に関する語句・表現を覚える ●形容詞を学ぶ (形容詞は名詞を説明する語句です)	Unit2の復習、Unit3の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第3 3 回目 <b>(A) Unit 3: Work Schedule (B) Unit 3: Shopping</b> (A) ●仕事のスケジュールについての語句・表現を覚える ●前置詞を学ぶ (B) ●買い物に関する語句・表現を覚える ●副詞を学ぶ (副詞は動詞や形容詞を説明する語句です)	Unit3の復習、Unit4の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第4 4 回目 <b>(A) Unit 4: Health &amp; Fitness (B) Unit 4: Entertainment</b> (A) ●健康や運動に関する語句・表現を覚える ●過去時制を学ぶ (B) ●エンターテインメントに関する語句・表現を覚える ●時制を学ぶ (現在・過去・未来)	Unit4の復習、Unit5の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第5 5 回目 <b>(A) Unit 5: Shopping (B) Unit 5: Advertising</b> (A) ●ショッピングに関する語句・表現を覚える ●進行形を学ぶ (B) ●広告・宣伝に関する語句・表現を覚える ●主語と動詞の一致を学ぶ (三単現のS)	Unit5の復習、Unit6の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第6 6 回目 <b>(A) Unit 6: Business Meeting (B) Unit 6: Events</b> (A) ●ビジネスミーティングに関する語句・表現を覚える ●代名詞を学ぶ (B) ●イベント (セミナー・講習会など) に関する語句・表現を覚える ●能動態・受動態を学ぶ	Unit6の復習、Unit7の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第7 7 回目 <b>(A) Unit 7: Recruitment (B) Unit 7: Daily Life</b> (A) ●就職に関する語句・表現を覚える ●現在完了を学ぶ (B) ●日常生活に関する語句・表現を覚える ●動名詞・不定詞を学ぶ (動詞の後ろに続く場合を勉強します)	Unit7の復習、Unit8の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第8 8 回目 <b>(A) Unit 8: Customer Needs (B) Unit 8: Media</b> (A) ●消費者のニーズに関する語句・表現を覚える ●接続詞を学ぶ (B) ●メディアに関する語句・表現を覚える ●代名詞を学ぶ (主格・所有格・目的格)	Unit8の復習、Unit9の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第9 9 回目 <b>(A) Unit 9: Business Trip (B) Unit 9: Recruiting</b> (A) ●出張についての語句・表現を学ぶ ●未来形を学ぶ (B) ●求人・採用に関する語句・表現を覚える ●比較を学ぶ (比較級・最上級)	Unit9の復習、Unit10の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第10 10 回目 <b>(A) Unit 10: Advertising (B) Unit 10: Production &amp; Sales</b> (A) ●広告や宣伝に関する語句・表現を覚える ●比較の表現を学ぶ (B) ●売上・業績に関する語句・表現を覚える ●前置詞を学ぶ (理由・譲歩、定型表現)	Unit10の復習、Unit11の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第11 11 回目 <b>(A) Unit 11: Factory Tour (B) Unit 11: Meetings</b> (A) ●工場案内に関する語句・表現を覚える ●受動態を学ぶ (B) ●会議に関する語句・表現を覚える ●接続詞を学ぶ (理由・譲歩)	Unit11の復習、Unit12の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第12 12 回目 <b>(A) Unit 12: Money Matters (B) Unit 12: Offices</b> (A) ●お金に関する語句・表現を覚える ●動名詞・不定詞を学ぶ (B) ●オフィスに関する語句・表現を覚える ●前置詞と接続詞の違いを学ぶ	Unit12の復習、Unit13の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間
第13 13 回目 <b>(A) Unit 13: Leisure (B) Unit 13: Personnel</b>	Unit13復習、Unit14の予習、ミニクイズに向けた勉強・宿題	1時間

<p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●余暇に関する語句・表現を覚える</li> <li>●助動詞を学ぶ</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人事に関する語句・表現を覚える</li> <li>●関係代名詞を学ぶ (主格・所有格)</li> </ul>		
<p>第14回 (A) Unit 14: Environment (B) Unit 14: Business Activities</p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●環境に関する語句・表現を覚える</li> <li>●分詞を学ぶ</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ビジネスに関する語句・表現を覚える</li> <li>●語彙の結びつきを学ぶ① (名詞・形容詞)</li> </ul>	Unit14の復習、Unit15の予習・ミニクイズに向けた勉強や宿題	1時間
<p>第15回 (A) Unit 15: Business Tie-Up (B) Unit 15: Finance</p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ビジネス関連の語句・表現を学ぶ</li> <li>●関係詞節を学ぶ</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●予算・費用に関する語句・表現を覚える</li> <li>●語彙の結びつきを学ぶ② (動詞・副詞)</li> </ul>	Unit15の復習、期末レポートに向けた取り組み・準備	1時間

授業科目名	Intercultural Studies 2				
担当教員名	山川 温				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	米国ミシガン州公立校教諭（数学・日本語担当）				

### 授業概要

文化的背景の異なる人とのコミュニケーションに必要な態度を養います。英語力測定試験の結果から、自分の英語力を把握し、英語学習での長所を更に伸ばし、短所をなるべく克服する姿勢を身につけます。TOEICではスコア450点以上を目指します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	文化的言語的背景の異なる人との日常的な話題について理解することができる英語力	相手のいうことを理解し、反応するための英語の基礎力を身につける
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	TOEICの頻出単語や文法の理解力と聞く力	(A) TOEICテストスコア450点以上取得に向け基礎力をつける (B) TOEICテストスコア400点以上取得に向け基礎力をつける
汎用的な力		相手の言うことを理解しようとする態度、自分が伝えたいことを場面に合わせて発言する態度を身につける
1 . DP8. 意思疎通		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

- 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
- 毎回授業始まりに、学習の目標を明確に提示し、授業終わりには、授業目標の達成についての自己評価、または、ペア評価、グループ評価があります。授業を欠席した場合、この評価点がゼロになりますので、気を付けて下さい。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への積極的な参加	50%	： 質問や自分の考え・意見の発表に向けた態度、課題の完成に向けた働きかけ、自己の理解度や努力についての言語化にどれだけ積極的に取り組んでいるかを評価します。
ミニクイズ評価	10%	： 毎時間の開始時に行われる、その日の授業の予習度や前週の授業の復習度を確認するミニクイズ（10点程度）。
プロジェクト・課題・テスト	15%	： 評価表にそって、プロジェクトや課題を評価します。
宿題・課題	10%	： 宿題や課題への取り組みや完成度を評価します。
TOEIC IP受検	5%	： TOEIC IP受検に参加した生徒に対する評価点です。受検の有無によって、5%か0%のどちらかの評価点を取得します。
期末テスト（レポート）	10%	： あらかじめ提示される評価表にそって、レポートがどれだけかけたかについて、自己評価を含め評価します。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
(A) Hisakazu Tsukano, Atsuko Yamamoto & others	(A) SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST - A TOPIC-BASED APPROACH -	(A) SEIBIDO	2018年
(B) Takayuji Ishii, Munekatsu Kajiyama and others	(B) ENJOY PRACTICING FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	(B) SANSHUSHA	2017年

### 参考文献等

必要に応じて、教員が配布します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 ●毎回、授業では復習ミニクイズをします。  
 ●毎回、授業では宿題が出されます。  
 ●授業では、教科書と配布プリントを使用します。  
 ●第1回目の授業で話し合うルールを守って受講して下さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業内でお知らせします。

### 授業計画

		授業外学修課題にかかると自らの時間
第1回	<b>クラスのオリエンテーション (A) Unit 1: Entertainment (B) Ch1: Job Hunting</b> (A) ●映画や音楽などの娯楽に関する英語を学ぶ ●文型と名詞を学ぶ (名詞の種類) (B) ●就職活動に関する英語を学ぶ ●自動詞と他動詞	Unit1/Ch1の復習・宿題、次回Unit2/Ch2のミニクイズに向けた勉強 1時間
第2回	<b>(A) Unit 2: Personnel (B) Ch 2: Boyfriend's Birthday</b> (A) ●求人広告や社内人事についての英語を学ぶ ●現在形と代名詞を学ぶ (B) ●誕生日に関する英語を学ぶ ●現在進行形	Unit2の復習・宿題、次回Unit3のミニクイズに向けた勉強 1時間
第3回	<b>(A) Unit 3: Office Work &amp; Supplies (B) Ch3: Giving a Presentation</b> (A) ●オフィス業務や備品などについての英語を学ぶ ●過去形と形容詞を学ぶ (B) ●プレゼンテーションに関する英語を学ぶ ●受動態	Unit3/Ch3の復習・宿題、次回Unit4/Ch4のミニクイズに向けた勉強 1時間
第4回	<b>(A) Unit 4: Office Messages (B) Ch 4: Trip to Phuket in Thailand</b> (A) ●電話やEメールといったオフィスメッセージについての英語を学ぶ ●未来を表す表現と冠詞を学ぶ (B) ●旅行に関する英語を学ぶ ●助動詞	Unit4/Ch4の復習・宿題、次回Unit5/Ch5のミニクイズに向けた勉強 1時間
第5回	<b>(A) Unit 5: Eating Out (B) Ch 5: New Distribution Channel</b> (A) ●ランチやパーティーなどの外食についての英語を学ぶ ●進行形と副詞を学ぶ (B) ●ビジネス (販売) に関する英語を学ぶ ●仮定法	Unit5/Ch5の復習・宿題、次回Unit6/Ch6のミニクイズに向けた勉強 1時間
第6回	<b>(A) Unit 6: Technology (B) Ch. 6: A Letter to Father</b> (A) ●コンピューターなどの科学技術についての英語を学ぶ ●完了形・比較を学ぶ (B) ●手紙に関する英語を学ぶ ●不定詞	Unit6/Ch6の復習・宿題、次回Unit7/Ch7のミニクイズに向けた勉強 1時間
第7回	<b>(A) Unit 7: Research &amp; Merchandise Development (B) Ch 7: Board Meeting</b> (A) ●調査研究や商品開発についての英語を学ぶ ●助動詞・動詞を学ぶ (B) ●ビジネス会議に関する英語を学ぶ ●動名詞	Unit7/Ch7の復習・宿題、次回Unit8/Ch8のミニクイズに向けた勉強 1時間
第8回	<b>(A) Unit 8: Finance &amp; Budgets (B) Ch 8: Traffic Accident</b> (A) ●銀行業務や経理などの財務についての英語を学ぶ ●受動態・不定詞を学ぶ (B) ●交通事故に関する英語を学ぶ ●分詞	Unit 8 / Ch 8 の復習・宿題、次回Unit 9 / Ch 9 のミニクイズに向けた勉強 1時間
第9回	<b>(A) Unit 9: Purchases (B) Ch 9: Business Trip Abroad</b> (A) ●ショッピングや注文、出荷についての英語を学ぶ ●時制の一致・分詞を学ぶ (B) ●海外出張に関する英語を学ぶ ●比較	Unit9/Ch9の復習・宿題、次回Unit10/Ch10のミニクイズに向けた勉強 1時間
第10回	<b>(A) Unit 10: Manufacturing (B) Ch 10: Miraculous Recovery</b> (A) ●工場管理や生産ラインなどの製造についての英語を学ぶ ●主語と動詞の呼応・動名詞を学ぶ (B) ●治療に関する英語を学ぶ ●関係代名詞	Unit10/Ch10の復習・宿題、次回Unit11/Ch11のミニクイズに向けた勉強 1時間
第11回	<b>(A) Unit 11: Marketing &amp; Sales (B) Ch 11: President's Decision</b> (A) ●マーケティングや販売についての英語を学ぶ ●仮定法を学ぶ (B) ●ビジネスの決断に関する英語を学ぶ ●等位接続詞と従位接続詞	Unit11/Ch11の復習・宿題、次回Unit12/Ch12のミニクイズに向けた勉強 1時間
第12回	<b>(A) Unit 12: Travel (B) Ch 12: Proposal</b>	Unit12/Ch12の復習・宿題、次回Unit13/Ch13のミニクイズに向けた勉強 1時間

	<p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●交通機関や旅行関連の英語を学ぶ</li> <li>●平常文と関係詞を学ぶ</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プロポーズに関する英語を学ぶ</li> <li>●前置詞</li> </ul>		
第13回	<p><b>(A) Unit 13: Contracts &amp; Negotiations (B) Ch 13: Getting a Promotion</b></p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●契約や交渉についての英語を学ぶ</li> <li>●命令文・等位接続詞を学ぶ</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●昇進に関する英語を学ぶ</li> <li>●冠詞</li> </ul>	Unit13/Ch13の復習・宿題、次回Unit14のミニクイズ、グループプロジェクトに	1時間
第14回	<p><b>(A) Unit 14: Housing &amp; Properties (B) グループプロジェクト</b></p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅やビルなどの不動産についての英語を学ぶ</li> <li>●疑問文・従位接続詞を学ぶ</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今までに学習したことを使ってグループプロジェクトの準備をする</li> </ul>	Unit14の復習・宿題、次回Unit15のミニクイズ、グループプロジェクトに向けた	1時間
第15回	<p><b>(A) Unit 15: Health (B) グループプロジェクト</b></p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●医療や健康についての英語を学ぶ</li> <li>●感嘆文・前置詞を学ぶ</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループプロジェクトを発表・評価する</li> </ul>	Unit15の復習、期末レポートに向けた取り組み・準備	1時間

授業科目名	ビジネスデータ分析				
担当教員名	海野大				
学年・コース等	2～3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義 (Excelを用いた問題演習を含む)				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

ビッグデータの時代と言われるように、今日では企業活動の様々な局面で、大量のデータを用いた経営環境等の分析とそれに基づく戦略策定、意思決定が行われるようになってきました。この授業では、マーケティング分野のデータを用いて、データの整理や可視化、データの解釈と経営課題の抽出、課題に対する対策の検討と仮説の立案、対策の効果の予測といった、データ分析から戦略提案までの一連の流れを、演習を通じて学びます。

演習は表計算ソフトのExcelを使って行います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

- データの解釈と課題の抽出  
データの分析や予測

#### 目標：

- データから情報や知見を得るための手法を修得する。  
データ分析によって経営課題の発見と対策の効果予測・評価する手法を修得する。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

- 課題レポートを通して、講義で得た知識を用いて、実際の事例から商品開発に係る課題を検討できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題レポート	40%	： 各回5点満点で評価し、合計40点とします。授業の内容の理解度で評価します。
発表	20%	： 総合演習のグループ発表、質疑応答における貢献度で評価します。
期末レポート	40%	： 総合演習におけるデータ分析プロジェクトの全てのプロセスが行われているか、結果に対する具体的な見解が述べられているかの観点から評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

福田(2016)『経営のための統計学入門』ミネルヴァ書房、  
栗木、綿森、田中(2016)『統計学基礎』共立出版、  
東京大学教養学部統計学教室編(1991)『統計学入門』東京大学出版会、  
田久(2018)『Excelで学ぶやさしい統計学(第2版)』オーム社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
授業や演習では表計算ソフトExcelを使用します。発表ではパワーポイントを使用します。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 4 時間目  
場所： 研究室  
備考・注意事項： 授業開始時に通知します。

### 授業計画

第1回	イントロダクション～ビッグデータと企業経営	ビッグデータの活用事例をインターネットで調べる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	イントロダクション～ビッグデータと企業経営 ビッグデータとは何か、マーケティング分野をはじめとして企業経営でデータがどのように活用されているかについて学びます。また、Excelアドインの分析ツールの使い方を学びます。	ビッグデータの活用事例をインターネットで調べる。	4時間
第2回	統計学の基礎(1) データの可視化と分布 Excelを使って、データを棒グラフや折れ線グラフ、ヒストグラム、クロス集計表などによって可視化する方法を学びます。	データの可視化と分布に関する課題レポートの作成。配布資料の練習問題をExcelを使って解いてみる。	4時間
第3回	統計学の基礎(2) 平均と分散、相関 Excelを使って、平均や分散の求め方、散布図の作成方法を学びます。	平均と分散、相関に関する課題レポートの作成。配布資料の練習問題をExcelを使って解いてみる。	4時間

第4回	<b>統計学の基礎（3）推定</b>  Excelを使って、データの分布の平均を推測する方法である推定の方法を学びます。	推定の方法に関する課題レポートの作成。配布資料の練習問題をExcelを使って解いてみる。	4時間
第5回	<b>統計学の基礎（4）検定</b>  Excelを使って、仮説検定の方法を学びます。	仮説検定に関する課題レポートの作成。配布資料の練習問題をExcelを使って解いてみる。	4時間
第6回	<b>回帰分析（1）単回帰分析</b>  回帰分析の考え方、Excelを使った回帰分析の方法を学びます。	単回帰分析に関する課題レポートの作成。配布資料の練習問題をExcelを使って解いてみる。	4時間
第7回	<b>回帰分析（2）重回帰分析</b>  Excelを使って、説明変数が2つ以上ある重回帰分析の方法を学びます。	重回帰分析に関する課題レポートの作成。配布資料の練習問題をExcelを使って解いてみる。	4時間
第8回	<b>回帰分析（3）重回帰分析（続き）</b>  年齢や性別など数量で測れない説明変数を扱うためのダミー変数を使った重回帰分析の方法を学びます。	ダミー変数を使った重回帰分析に関する課題レポートの作成。配布資料の練習問題をExcelを使って解いてみる。	4時間
第9回	<b>データ分析プロジェクトのプロセス</b>  課題の発見、仮説、分析目的の設定、データの理解と整理、データ分析と評価というデータ分析プロジェクトのプロセスについて学びます。	データ分析プロジェクトのプロセスに関する課題レポートの作成。配布資料の練習問題を解いてみる。	4時間
第10回	<b>総合演習（1）分析の設計</b>  第10回～第14回まで、演習用のデータを用いて、グループに分かれ、実際にデータ分析プロジェクトに取り組みます。第10回では、課題発見～分析目的の設定に至るデータ分析の設計を行います。	授業で行った分析設計に改良余地がないか検討する	4時間
第11回	<b>総合演習（2）顧客と売上の関係の分析</b>  顧客の年齢や性別による売上の違いや、過去のマーケティング・プロモーションの効果の推計などに取り組みます。	新たな切り口で分析できないかなど、授業で行った分析結果の改善を検討する	4時間
第12回	<b>総合演習（3）プロモーション施策の立案</b>  前回行った顧客と売上の関係の分析を基に、効果的なプロモーション施策の代替案を考えます。	授業で検討したプロモーション施策の改善を検討する	4時間
第13回	<b>総合演習（4）プロモーション施策の効果予測</b>  前回検討したプロモーション施策の効果を予測します。これまで行った課題やデータの分析結果を含め、最終的な報告書としてまとめます。報告書はパワーポイントを使って作成します。	次の発表に向けた準備、予行演習を行う	4時間
第14回	<b>総合演習（5）発表</b>  各グループ毎に最終報告を発表し、全体で議論します。発表はグループメンバー全員で分担して行い、各自の貢献部分が明確になるようにします。	質疑応答やコメントを踏まえ、個人で作成する期末レポート作成を準備する	4時間
第15回	<b>まとめと復習</b>  講義全体を振り返るとともに、補足説明を行います。	期末レポートの作成。	4時間

授業科目名	<b>流通論</b>				
担当教員名	水野利昭				
学年・コース等	マネジメント学部 2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ミズノ株式会社にて商品調達・輸入・ライセンス管理・関税管理などの実務経験あり（全15回）				

### 授業概要

流通論では、①商品がどこで生産され、どのようにユーザーの手に渡っているのかという構造を学び、②地球規模での生産・販売・消費の中で生じている様々な社会問題・企業課題についても考察し、③日々の社会国際問題の中からの情報を考察することで、企業組織・社会制度・途上国課題などに問題意識を持つことを目指す。流通は社会発展とともに日々変化し続けている。知識習得のみにとどまらず、時代の進歩を認識して考察できる力を育成することが本科目の目的である。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP6. 行動・実践

#### 具体的内容：

ビジネス遂行に伴う流通の実態と必要性の理解  
流通の具体的事例を自身で考える課題を実施

#### 目標：

流通の知識習得とビジネスでの課題を把握し、問題課題を理解する。  
流通の業務を実践できるように、流通の問題に自身で取り組むことができる。

ビジネスにおける流通に問題意識を持ち、課題を把握することが出来る。

現実社会で日々発生している流通課題に対し、自己の意見を述べることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

期末試験での成績を5割、それ以外の授業中での小テスト・小レポートと毎週のレポート課題を5割で評価を行う。  
小テスト・小レポートについては講義内容に応じて不定期で行う。  
流通に関するレポートを授業外課題として10回程度提出してもらおう。毎週のレポート提出は単位取得のために必要であり提出が無いものは単位放棄とみなす。  
なお、提出レポート・期末試験は、英語で記述することも認める。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内容からの小テスト・課題レポート	： 授業の内容や社会のニュースを理解し、個人の考えを記述できること 50%
期末試験	： 流通論の授業のポイントを理解できていること 50%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

テーマによって参考文献の紹介をすることがある。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
毎週課題として、流通に関係したニュースのレポートの提出を課す。社会に目を向けて考えるきっかけとしてもらいたい。  
授業で使用したパワーポイントは、授業後LドライブにPDFとして公開している。  
授業中のノートの記述を見直ししながらパワーポイントで復習して一層の理解を深めてもらいたい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜2限
場所：	研究室（西館3階）
備考・注意事項：	オフィスアワーは水曜2限。 Eメールでの問い合わせにも応じる。（mizuno-t@osaka-seikei.ac.jp）氏名、学籍番号を明記のこと。

### 授業計画

回数	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス～マネジメントにおける流通を学ぶ</b>	自分のウェア・シューズの原産国がどこかを調べる。国ごとに特徴があればそれを記述する。  商品の生産を出発点として、どのように自分の手にモノが到達するのかという「流通」の基礎と概観を把握する。販売士の資格取得についての情報提供と奨励も行う。 また、講義関連のニュースの入手方法に関する紹介をする。	4時間
第2回	<b>工場生産と流通におけるギャップ</b>	商品生産までの事前プロセスの理解から「OEM」と「生産時間」の概念を学ぶ。流通はギャップを埋める機能があることを具体的に考え、ギャップを埋める6つの機能を理解する。	4時間
第3回	<b>OEM生産と原産国</b>	身の回りの商品の原産国に興味を持ち、その原産国について調べてみる。	4時間

	OEM生産での原産国にはどういふところがあるのか、生産のグローバルな分布とその理由について考え、生産地となる理由を見てその特色を考える。		
第4回	<b>マーチャンダイジング</b>  販売士の試験領域でもあるマーチャンダイジングについて学ぶ。小売りにおける戦略に欠かせないマーチャンダイジングの重要性を理解する。商品計画・販売計画・仕入計画の大切さを学び、フェルミ推定を使って、仕入計画を作成してみる。	販売店の責任者として、論理的根拠から状況判断ができるように、フェルミ推定などの考え方を復習する。	4時間
第5回	<b>流通におけるマーケティング</b>  マーケティングの基本である4Pを理解し、具体的な購買行動に当てはめてみる。また、実際のマーケティングの具体的な例を紹介し、流通過程でどのようにマーケティングが行われているかを自分ごととして考える。	マーケティングの4Pを自らの購買行動に照らして振り返る。	4時間
第6回	<b>流通における損益計算</b>  流通過程での損益計算を学ぶ。企業の収入・支出・損益の基本を学び、具体例から損益計算を実施する。販売士の試験の範囲でもあり計算課題については十分な理解をしてもらいたい。	損益計算ができるように反復学修しておく。	4時間
第7回	<b>ブランド・ライセンスとフランチャイズ</b>  知的財産であるブランドの基礎と、流通におけるブランドの管理の重要性を学ぶ。具体例として、ブランドライセンスビジネスの日本での実例から、ブランド商品流通のメカニズムを理解する。また、現在の流通では一般的となった「フランチャイズ」についての知識を習得し、フランチャイズビジネスでの利益の仕組みについても理解する。	ブランド品の流通における「ライセンス」ビジネスの実例を考える。フランチャイズの利益計算もできるようにしておく。	4時間
第8回	<b>外国為替と貿易（国際流通）</b>  グローバル流通・国際商品調達に必要な、貿易取引での外国為替・通貨問題について学ぶ。商品製造の多くをアジアなどの海外に依存している日本では、海外調達の比重はきわめて高い。為替変動のコストへの影響を考えるために、為替の計算方法の実習も行う。	為替変動については日々のニュースでも取り上げられる。日常的に通貨がどのように動いているのか注目してみる。	4時間
第9回	<b>流通におけるCSR調達</b>  生産国では生産労働にかかわる社会問題が数多く存在する。それが企業の経営に大きな影響を与える。CSRについての実例を学ぶ。労働環境監査の実態も学び、CSR調達の重要性を理解する。	ウエア・シューズなどのアパレル産業では特に問題が起きている。東南アジアでの生産品について考察してもらいたい。	4時間
第10回	<b>流通におけるリスク・マネジメント/法務・税務</b>  ビジネスにはリスクがあるが、特に流通過程におけるリスクについて学修する。流通の連鎖の中での企業信用状態のマネジメントは重要である。併せて格付けやカントリーリスクについても学ぶ。	日常的に流れているニュースでも、企業の倒産リスクや格付けのレーティングの変動など、関心を持って聞くようにする。	4時間
第11回	<b>スポーツ産業における流通</b>  スポーツブランドはグローバルに展開しているものの、世界の各地域で異なった流通形態になっている。スポーツ産業の地域ごとの特色を知り、グローバルでの流通の実例として理解していく。	国際流通の中でもイメージが分かりやすいスポーツブランドの地域ごとの特色を把握し、比較してみる。	4時間
第12回	<b>SPA</b>  SPA「specialty store retailer of private label apparel」は現代のアパレルの流通大手が採用している「製造小売業」のことである。最大手のインディテックス（ZARA）などがこの方式で大きな利益を上げており、日本最大のファーストリテイリング（ユニクロ）も同方式での拡大を行ってきた。SPAの特徴を学び、各社の実態から大手流通がSPAへと移行した理由を理解する。	ユニクロ・ZARAなどの情報入手の方法も授業を通じて出来るようになるので、各人での最新データの入手をして、業績や企業活動への理解を深めてもらいたい。	4時間
第13回	<b>サービス財の流通/サプライチェーン・マネジメント</b>  通常流通は商品等の有形財を想定するが、サービス財についても流通は存在する。日本でも第三次産業が主となり、サービスの比重は高い。サービスは有形財とどう違うのか、マーケティングの視点からも学んでいく。マネジメントとしての「サプライチェーン」の考え方を学ぶ。具体例として、トヨタの「かんぱん方式」を学び、供給のつながりでの全体最適を目指す効率化の実現方法を理解する。	一般商品との違いを認識して、どのようなマーケティングでサービス購入を決定しているかも自ら考える。日本でもユニクロなどの統合サプライチェーンでのビジネスが存在する。業態も見て講義内容を振り返ってもらいたい。	4時間
第14回	<b>Eコマース</b>  amazonに代表される「ネット通販」として、Eコマースは現代の小売で大きく伸びてきている。Eコマースは流通ギャップをどのように埋めるのかを旧来の流通と比較する。物理的な商品の流れは不可欠であるが、技術の発展によって将来流通全体はどのように変化するかを考える。	ネット通販の拡大に関して、ニュースソースなどで規模の大きさを認識する。	4時間
第15回	<b>流通論のまとめ</b>  半期での流通論で学んだことを振り返り、重要な点を振り返る。学んだ流通の全体像から、今後就職の選択や、社会に出たからの実践に活かせるように問題意識を常に持ってほしい。時代の変化は想定より早くやってくるので、その時に役立つ知識として深めてもらいたい。	学期のまとめを行い、重要な部分を振り返る。期末試験に備えた準備もしておくこと。	4時間

授業科目名	<b>人事管理</b>				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地域総合経済団体にて10年間、人事労務管理全般に関するコンサルティング業務（人事制度改定、採用、育成等）を担当（全15回）。				

### 授業概要

企業はヒト・モノ・カネ・情報の4つの経営資源から成り立つとされています。人事管理論や人的資源管理論では、この「ヒト」を研究の対象としています。そこで本講義では、「ヒト」のマネジメント重要性について、理論的な解説を行うとともに、昨今の企業組織において発生しているヒトのマネジメントに関する諸問題について、企業事例から運用の実情を解説します。また人事管理上のトピックスを授業内でディスカッションするとともに、レポート課題として取り上げる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	人事管理	人事管理の基礎知識を習得するとともに、企業組織における人事管理上の各種課題についての理解を深める。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		課題レポート作成を通して、講義で得られた知識をベースに自らの考えをまとめる。
2．DP8. 意思疎通		読み手に理解を促すわかりやすい文書を作成する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

平常点	10%	： 授業内での発言、課題、コメントカードの内容など積極的な授業への参加を評価する。
課題レポートへの取り組み状況	20%	： 各回2～10点で評価し、合計20点満点とする。・授業内容を踏まえた論述ができていれば5点とし、誤字・脱字・文法の間違いがなければ2点を加点、さらに独自の視点や見解が示されておれば3点を加点する。
小テスト	20%	： 原則、毎授業、小テストを実施する。全ての小テストの結果を20点満点で評価する。
期末試験	50%	： 経営組織に関する基礎知識およびその課題について、自らの考えを問う小論文問題を出题し、以下の観点から評価する。1. 基礎知識を正しく理解しているか 2. 自分の独自の考えを提示できているか

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

奥林康司ほか『入門人的資源管理（第2版）』（中央経済社・2010年）  
上林憲雄ほか『人的資源管理』（中央経済社・2016年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日 2限
場所：	西館2階研究室
備考・注意事項：	金曜日2限をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。(yamasaki-t@osaka-seikei.ac.jp) Eメール件名としては「人事管理について(氏名、学籍番号、グループNO)」とすること。

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス：ヒトの管理に関わる課題とは</b> 授業ガイダンスとして、「人事管理」が研究する「ヒト」に関わる問題とはどのような問題かを考える。	4時間
第2回	<b>人間モデル</b> 組織はヒトをどのように捉えるのかについて、人事管理における各人間モデルから解説します。	4時間
第3回	<b>組織設計</b>	4時間

	人の働く組織をどのように作るのか、組織における役割分担と役割同士の結びつきについて解説します。		
第4回	<b>採用と配置</b>  組織は人をどのように雇い入れるのかについて、企業の実例を踏まえて解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから求める人材像や採用基準を調べる。	4時間
第5回	<b>人材育成</b>  組織は人をどのように育てるのかについて、日本企業における人材育成方法の特徴とキャリア概念について解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから、どのような人材育成を行っているか、そのためにどのような取り組みを行っているかを調べる。第1回課題レポートの作成。	4時間
第6回	<b>評価・考課</b>  組織は仕事の結果をどのように評価するのかについて、企業の事例を踏まえて解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから、どのような制度となっているかを調べる。	4時間
第7回	<b>昇進・昇格</b>  組織は人をどのように処遇するのかについて、「昇進」と「昇格」との違いや昇進の機能について解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。外国企業の昇進競争の特徴を調べる。	4時間
第8回	<b>賞金・福利厚生</b>  組織は人にどのような報酬を与えるのかについて、メリットとデメリットや近年注目されるトータル・リワードについて解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。『労政時報』や『人材教育』といった人事系の専門雑誌から興味のある企業の賞金体系について調べる。	4時間
第9回	<b>労働時間管理</b>  企業はどのように従業員の労働時間を管理しているのかについて、日本の法と制度および企業の事例から解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。『労政時報』や『人材教育』といった人事系の専門雑誌から日本企業の労働時間の傾向と企業の対策を調べる。	4時間
第10回	<b>安全・衛生</b>  組織は人の安全と健康をどのように守っているのかについて、日本での法と制度および企業の事例から解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。『労政時報』や『人材教育』といった人事系の専門雑誌から日本企業の近年のトピックスを調べる。第2回課題レポート作成。	4時間
第11回	<b>労使関係</b>  組織は労働組合とどのように関わるのかについて、日本の労働組合の特徴と企業の労使関係管理の事例から解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。	4時間
第12回	<b>女性・高齢者の活躍</b>  多様化する働く人たちを組織はどう管理するのかについて、日本での法と制度および企業の事例から解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから、女性活躍に対してどのような取り組みや制度となっているかを調べる。	4時間
第13回	<b>裁量労働・テレワーク</b>  多様化する労働時間と場所を組織はどう管理するのかについて、企業の事例から解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。『労政時報』や『人材教育』といった人事系の専門雑誌から興味のある企業の裁量労働やテレワークの実態を調べる。	4時間
第14回	<b>ワーク・ライフ・バランス</b>  多様化する働く意味づけを組織はどう管理するのかについて、企業の事例から解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。『労政時報』や『人材教育』といった人事系の専門雑誌から興味のある企業のワークライフバランス推進の取り組みを調べる。	4時間
第15回	<b>まとめ：重要内容への全体的補足・補充説明</b> 15回の講義全体のふりかえりと必要に応じた補足・補充説明を行います。	定期試験準備のための全体的な復習と学習	4時間

授業科目名	<b>管理会計</b>				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義形式および演習形式の併用。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

財務会計は、主として企業外部の利害関係者に財政状態および経営成績を伝達することが目的とされている。これに対し、管理会計は、企業の経営管理者が意思決定を行う際、また業績管理を行う際等、主に企業内部で用いることが目的とされている。本講義では、管理会計の意義、原価計算、利益計画とコスト管理、および経営戦略における管理会計の役割についての内容を学習することにより、管理会計から得られる情報やその社会的役割について理解していく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

企業による経営上の意思決定と業績管理。

#### 目標：

管理会計を通して提供される情報が経営意思決定を行う際に果たす役割を理解した上で、様々な経営管理手法を利用できるようになる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

ケース・スタディおよび企業の財務諸表を通して、その内容の分析および問題点の発見ができる。

与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	30%	： 授業内容の理解度を評価する。
プレゼンテーション	20%	： 与えられた課題に対する内容の理解およびプレゼンテーション力により評価する。
期末テスト	50%	： 授業内容の理解度を評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
滝澤ななみ・TAC出版開発グループ著	『スッキリわかる日商原価計算 初級』	TAC株式会社 出版事業部	2018年

### 参考文献等

櫻井通晴『管理会計 基礎編』同文館出版、2010年。  
 櫻井通晴『管理会計（第6版）』同文館出版、2015年。  
 金子智朗『ケースで学ぶ管理会計—ビジネスの成功と失敗の裏には管理会計の優劣がある—』同文館出版、2014年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限目  
 場所： 個人研究室（西館2F）  
 備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

### 授業計画

回	授業内容	配布資料（管理会計とは）の復習および次回講義内容のテキストの予習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>管理会計とは</b> 管理会計の意義 財務会計と管理会計の違い 管理会計の必要性	配布資料（管理会計とは）の復習および次回講義内容のテキストの予習	4時間
第2回	<b>原価計算</b> 原価計算の目的 原価計算の必要性 原価計算の方法	テキスト第1章「原価計算の基礎」の復習および次回講義内容のテキストの予習	4時間
第3回	<b>CVP分析（1）変動費と固定費</b>	テキスト第2章「CVP分析」の復習	4時間

	変動費と固定費 損益分岐点の売上高 目標営業利益を達成するための売上高		
第4回	<b>CVP分析（2）シミュレーションゲーム</b> 会計に関するシミュレーションゲームを通してCVP分析を考える。	テキスト第2章「CVP分析」の復習および次回講義内容のテキストの予習	4時間
第5回	<b>予算実績差異分析、原価計算の流れ</b> 予算実績差異分析とは 原価計算の基本的な流れ	テキスト第3章「予算実績差異分析」および第4章「原価計算の流れ」の復習および次回講義内容のテキストの予習	4時間
第6回	<b>材料費、労務費、経費</b> 材料費の分類および計算 労務費の分類および計算 経費の分類および計算	テキスト第5章「材料費」～第7章「経費」の復習および次回講義内容のテキストの予習	4時間
第7回	<b>製造直接費と製造間接費、製造原価の計算</b> 製造直接費の直課 製造間接費の配賦 完成品原価・月末仕掛品原価の計算 売上原価・月末製品原価の計算	第8章「製造直接費と製造間接費」および第9章「製造原価の計算」の復習および次回講義内容の資料の予習	4時間
第8回	<b>原価計算とコスト管理（1）原価企画とは</b> 利益とコスト 原価企画と原価改善 収支計画の作成方法	配布資料の復習	4時間
第9回	<b>原価計算とコスト管理（2）シミュレーションゲーム</b> 会計に関するシミュレーションゲームを通して原価計算を考える。	配布資料の復習および次回講義内容のテキストの予習	4時間
第10回	<b>損益計算書の作成</b> 損益計算書とは 損益計算書の作成	テキスト第10章「損益計算書の作成」の復習および次回講義内容の資料の予習	4時間
第11回	<b>経営指標と利益</b> 管理会計における業績評価指標について（ROI、売上高営業利益率等）	配布資料の復習および次回講義内容の資料の予習	4時間
第12回	<b>経営戦略と管理会計</b> 経営戦略とは 戦略の分類 全社戦略と管理会計	配布資料の復習	4時間
第13回	<b>プレゼンテーション（1）プレゼンテーションの作成</b> 管理会計を通して企業の分析を行う。 プレゼンテーションを行うための資料集めおよびパワーポイントの作成を行う。	配布資料の復習および次回講義内容の資料の予習	4時間
第14回	<b>プレゼンテーション（2）発表</b> 第13回で作成したプレゼンテーション資料を用いて発表を行う。	配布資料の復習	4時間
第15回	<b>総まとめ</b> 第1～14回までの授業内容の復習	総まとめ問題	4時間

授業科目名	<b>企業マーケティング応用</b>				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	2・3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

企業の活動は購買活動、生産・販売・財務・人事など多面的にわたる。産業をとわず、企業のマーケティング活動は応用範囲が広い。本講義ではマーケティングの基礎的な概念を学習したことを前提に、事例研究を通じて実際の企業活動を分析することで実践的なマーケティング戦略を応用する能力（知識とスキル）を鍛えることを目的とする。毎回の授業は、学生の自主的な学習スタイル取り、マーケティング知識を生かした事例を調査して発表してもらう。マーケティング論またはマーケティング入門の受講が必要。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	事例研究を通じて実際の企業活動を分析する	実践的なマーケティング戦略を応用する能力（知識とスキル）を鍛える
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	事例研究を通じて実際の企業活動を分析する	自立にマーケティング戦略の立案能力が身に付く
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		プレゼンテーション能力が身に付けられる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。  
グループ課題レポート&発表、平常点、の組み合わせによって、授業内容をきちんと理解できているか、総合的に評価を行い、設定した尺度を超えた場合、合格以上とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題レポート（期末および期中）の作成と発表	70%	グループまたは個人で、課題レポートを作成及び発表（メンバーとのコミュニケーション能力、自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのか、発表能力より評価）
平常点	30%	授業内での小テスト、発言、宿題、コメントカードの内容など積極的な授業への参加は高く評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考書】  
講義中に適宜紹介する。  
★有馬賢治『マーケティング・オン・ビジネス』新世社、2015年  
恩蔵直人『マーケティング』（日経文庫）、日本経済新聞出版社、2010年（13刷）。  
池尾 恭一（共著）『マーケティング』有斐閣、2010年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ★応用科目のために、基礎マーケティング理論を学習した学生（前期のマーケティング論を履修した学生）の受講が望ましい。
- ★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート（手書き、A4、1枚以内）事後に提出を求める。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日、4時限
場所：	研究室、西館2階

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス、自己紹介、成績評価、グループ分け</b> 今後の授業内容の説明とグループ分けを行う。なぜ、マーケティング戦略の必要性について学習する	授業のまとめ、マーケティング基本戦略について調べる 4時間
第2回	<b>基礎マーケティング理論①：STP</b> 応用学習のために基礎マーケティング理論であるセグメント・ターゲティング・ポジショニングの概念整理を行う。 6W2Hの発表	授業のまとめ、グループ作業（製造業）のたたき台を作成する 4時間
第3回	<b>基礎マーケティング理論②：マーケティング・ミックス</b> 応用学習のために基礎マーケティング理論であるマーケティング・ミックス「4つのP」の概念整理を行う。 発表者は4Psに沿ってマーケティング事例を発表し、聴講者は評価シートを提出する 4Cの観点からマーケティング・ミックスをやり直し	授業のまとめ、グループ作業（製造業）の完成版を作成する 4時間

第4回	<b>特別授業：製造業事例(予定)</b> ゲストスピーカーより「製造業のマーケティング戦略」について実践的な事例を学ぶ	授業のまとめ、コラボについて調べる	4時間
第5回	<b>理論&amp;応用「コラボ」</b> ケーススタディ①#DVD意外なコラボがこれまでにない商品を作る(ガイアの夜明け、コラボレーション(collaboration)とは、「共に働く」「協力する」の意味で、「共演」「合作」「共同作業」「利的協力」を指す語である。日本語ではコラボと略される。異なる分野の人や団体が協力して制作すること。「部門を越えてコラボレーションすることで新しい発想の商品を生み出す」 ケーススタディ#DVD	授業のまとめ、グループ作業(PLC)のたたき台を作成する	4時間
第6回	<b>製品ライフサイクル理論(PLC)を応用する</b> 企業のある製品を4つの段階に分け(導入期、成長期、成熟期、衰退期)分析し、発表してもらう 製品ライフサイクル理論:ビジネスの寿命を予測するための「マーケティングツール」 ケーススタディ#DVD	授業のまとめ、グループ作業(PLC)の完成版を作成する	4時間
第7回	<b>グループプレゼンテーション「PLC」</b> 担当グループによるプレゼンテーションを行う。評価シートを配布し、プレゼンテーションに対する改善点や質問を記入してもらう。 テーマ「PLC」	授業のまとめ、好きな企業のマーケティング事例をまとめておく	4時間
第8回	<b>実践企業マーケティング#Case Study「外食産業」</b> 実践的にマーケティング戦略を行っている企業の事例を取りあげながら学習し、ディスカッションを行う。#参考映像:外食産業	外食産業についての授業のまとめ、PLC発表資料の作成をする	4時間
第9回	<b>理論&amp;応用「製品ライフサイクル理論その1:導入期case study」</b> 製品ライフサイクル理論の事例を応用する。 導入期と思われる商品or企業の事例を調べてまとめ&発表する。	導入期と思われる商品or企業の事例についての授業のまとめ、PLC発表資料の作成をする	4時間
第10回	<b>理論&amp;応用「製品ライフサイクル理論その2:成長期case study」</b> 成長期と思われる商品or企業の事例を調べてまとめ&発表する。	成長期と思われる商品or企業の事例についての授業のまとめ、PLC発表資料の作成をする	4時間
第11回	<b>理論&amp;応用「製品ライフサイクル理論その3:安定期case study」</b> 安定期と思われる商品or企業の事例を調べてまとめ&発表する。	安定期と思われる商品or企業の事例についての授業のまとめ、PLC発表資料の作成をする	4時間
第12回	<b>製品ライフサイクル理論その4:衰退期case study</b> 衰退期と思われる商品or企業の事例を調べてまとめ&発表する。	衰退期と思われる商品or企業の事例についての授業のまとめ、環境分析フレームワークを調べる	4時間
第13回	<b>理論&amp;応用「環境分析と競争戦略」その一:外部環境分析フレームワーク</b> 環境分析と競争戦略その一、外部環境分析フレームワーク「5W2H、プラス要因(メリット)・マイナス要因(デメリット)、SWOT分析、マッキンゼーの7S、PEST分析」について学習する	外部環境分析フレームワークについての授業のまとめ、グループ作業(サービス業)の完成版を作成する	4時間
第14回	<b>企業のマーケティングCase Study#「サービス業」</b> 担当グループによるプレゼンテーションを行う。評価シートを配布し、プレゼンテーションに対する改善点や質問を記入してもらう。テーマ「サービス業のマーケティング戦略」	サービス業についての授業のまとめ、発表グループごとに最終発表の準備をする	4時間
第15回	<b>企業のマーケティングCase Study#「まとめ」</b> グループ毎に最終課題を発表してもらい、フィードバックを行う	授業のまとめ、これまでの授業を振り返ってみる	4時間

授業科目名	<b>商品開発応用</b>				
担当教員名	海野大				
学年・コース等	2～3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

新商品の開発は企業の成長や存続に関わる重要な活動です。顧客のニーズや価値観は絶えず変化し、新たな競合他社、競合商品・サービスが登場します。その中で競争優位性を維持するためには、常に新たな商品を開発し続けなければなりません。商品開発には、単に優れた技術を有するだけでなく、その技術を顧客にとって価値ある商品に変換するための商品戦略やマーケティング、開発組織デザイン、そしてこれらを有効に機能させる開発マネジメントが必要とされます。この授業では、商品開発に関する重要なトピックを取り上げ、学んでいきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	商品開発の戦略と組織デザインに関する知識	技術と市場を結び収益を上げるための商品開発マネジメントを理解する。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ケーススタディを通じた問題分析と解決の実践能力向上	商品開発に係る具体的な問題の分析と解決策を立案できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		課題レポートを通して、講義で得た知識を用いて、実際の事例から商品開発に係る課題を検討できる。
2．DP8. 意思疎通		自分の意見を読み手が理解しやすい文章を作成できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

授業では5回ケーススタディを行います。各回ともその都度事前にケース資料を配布するので、資料をよく読み、情報を整理し、指示に従って自分の意見をまとめておいてください。授業では、これらの予習が行われている前提で、グループ討議とプレゼンテーションを行います。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への取組みと理解度	30%	： 授業中の教員とのやり取り、発言の内容や積極性、毎回のキーワードテストにより評価します
課題レポート	40%	： 各回8点満点で評価し、合計40点とします。主題について講義内容を踏まえ具体的な見解が示されていれば8点、講義内容をそのまま記載しているだけであれば4点、主題について全く記載されていなければ0点とします。
期末試験	30%	： 講義内容に関する基礎知識問題とその分野の課題に関する自らの考えを問う小論文問題を出題し、以下の観点から評価します。 1. 基礎知識の理解度 2. 主題について講義内容を踏まえた具体的な見解が示されているか

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

延岡(2002)『製品開発の知識 近能』日本経済新聞社、  
高井(2010)『イノベーション・マネジメント』新世社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。  
・ケーススタディの際のグループ討議では、積極的に議論とグループでの意見とりまとめに参加するようにしてください。  
・ケーススタディについては、各回ともその都度事前にケース資料を配布するので、講義の前までに必ず資料を読み、自分の意見をまとめておいてください。授業では、これらの予習が行われている前提で、グループ討議とプレゼンテーションを行います。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 4時間目  
場所： 研究室  
備考・注意事項： 授業開始時に通知します。

### 授業計画

第1回	商品開発の本質 企業にとっての新商品開発の意義と商品開発マネジメントの特徴について学びます。	配布された資料の復習。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	-------------	-------------------------

第2回	<b>イノベーション</b> イノベーションのタイプ、イノベーションのプロセスとマネジメントの理論について学びます。	配布された資料の復習と次回ケーススタディの予習。	4時間
第3回	<b>イノベーションのケーススタディ</b> 具体的な事例をもとに、小グループでの討議とプレゼンテーションを行い、イノベーション・マネジメントについて理解を深めます。	課題レポートの作成（第1回）。配布された資料の復習。	4時間
第4回	<b>商品戦略（1）技術戦略</b> 商品戦略の役割と目標、商品戦略を構成する技術戦略の重要性と目的について理解します。	配布された資料の復習と次回ケーススタディの予習。	4時間
第5回	<b>特別授業：コアテクノロジー戦略のケーススタディ</b> 技術戦略の中核をなすコアテクノロジー戦略は、競争優位性を維持し、顧客価値の高い新商品を継続して開発・導入する戦略です。具体的な事例をもとに、小グループでの討議とプレゼンテーションを行い、コアテクノロジー戦略について理解を深めます。	課題レポートの作成（第2回）。配布された資料の復習。	4時間
第6回	<b>商品戦略（2）市場戦略と展開戦略</b> 技術・商品開発とマーケティングを統合的にデザインする市場戦略と、市場における中長期的な商品展開の戦略の目的と役割について学びます。	配布された資料の復習と次回ケーススタディの予習。	4時間
第7回	<b>商品戦略のケーススタディ</b> 具体的な事例をもとに、小グループでの討議とプレゼンテーションを行い、商品戦略について理解を深めます。	課題レポートの作成（第3回）。配布された資料の復習。	4時間
第8回	<b>商品開発のプロセス</b> 商品開発の具体的なプロセスについて学びます。	配布された資料の復習。	4時間
第9回	<b>商品開発プロセスのマネジメント</b> 商品開発プロセスマネジメントの重要性と課題について学びます。	配布された資料の復習。	4時間
第10回	<b>開発組織のデザインとマネジメント</b> 商品開発における機能型組織とプロジェクト型組織の比較、組織デザインの重要性について学びます。	配布された資料の復習と次回ケーススタディの予習。	4時間
第11回	<b>商品開発組織のケーススタディ</b> 具体的な事例をもとに、小グループでの討議とプレゼンテーションを行い、開発組織デザインについて理解を深めます。	課題レポートの作成（第4回）。配布された資料の復習。	4時間
第12回	<b>企業間ネットワークのマネジメント</b> 今日では自社のみで商品開発が完結することはほとんどなく、サプライヤーや補完商品企業との連携が必須です。こうした外部企業とのネットワーク構築とそのマネジメントについて学びます。	配布された資料の復習。	4時間
第13回	<b>ビジネスエコシステムとプラットフォーム戦略</b> 企業間ネットワーク構築において重要性を増しているビジネスエコシステムとプラットフォーム戦略の概念と重要性について学びます。	配布された資料の復習と次回ケーススタディの予習。	4時間
第14回	<b>プラットフォーム戦略のケーススタディ</b> 具体的な事例をもとに、小グループでの討議とプレゼンテーションを行い、プラットフォーム戦略について理解を深めます。	課題レポートの作成（第5回）。配布された資料の復習。	4時間
第15回	<b>まとめと補足</b> 講義全体を振り返るとともに、補足説明を行います。	期末試験に向けた全体の復習。	4時間

授業科目名	販売マネジメント応用				
担当教員名	横山昌司				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小売の現場で社会人経験を積んだ後、経営コンサルタントとして小売業の活性化に取り組んでいます（全15回）。				

### 授業概要

この講義は、日本商工会議所主催の「リテールマーケティング（販売士検定）」の3級に合格するレベル（2級合格の土台づくり）を目標とします。リテールマーケティング（販売士）は流通業界唯一の公的資格であり流通業での評価は非常に高い資格です。この講座を受講することで、販売・接客技術はもちろん、販売促進に向けた企画立案や在庫管理、マーケティングにいたるまで、幅広く実践的な専門知識を身に付けることができます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

小売業に関する知識

#### 目標：

小売業に従事するときに必要な知識を持ち、流通業界に就職することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

資格取得を目指すことで、一つの目標に対して行動することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末試験	70%	: 授業中に提示した練習問題の中から10問を選択して選択式の期末テストを実施します。
各授業における課題の提出状況	30%	: 授業中に提出された課題についての提出状況により授業の理解について評価を実施します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本商工会議所・全国商工会連合会	販売士ハンドブック（基礎編）～販売士検定試験3級対応～	株式会社キャリアック	2016年

### 参考文献等

特にありません。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後に質問を受けます。メールの場合はtab02324@gmail.cimに送付ください。その際は、科目名・氏名・学籍番号は必ず入れてください。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>授業の進め方・試験ガイダンス、小売業の現状についての説明</b> 検定制度・学習意義・学習方法・全体の概要・テキスト入手方法・A及びBの受講経験者については学習方法再確認。 小売業の現状について説明	小売業の現状について確認します。 4時間
第2回	<b>ストアオペレーション 1. ストアオペレーションの基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 ストアオペレーションの基本的役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	ストアオペレーションの基本的役割について復習します。 4時間
第3回	<b>ストアオペレーション 2. ディスプレイの基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 ディスプレイの役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	ディスプレイの役割について復習します。 4時間
第4回	<b>ストアオペレーション 3. 作業割当ての基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 作業割当ての基本的役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	作業割当ての基本的役割について復習します。 4時間
第5回	<b>ストアオペレーション 4. 人的販売の基本的考え方</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 人的販売の基本的な考え方について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	人的販売の基本的考え方について復習します。 4時間

第6回	<b>マーケティング 1. 小売業のマーケティングの基本的考え方</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 小売業のマーケティングの基本的な考え方について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	小売業のマーケティングの基本的な考え方について復習します。	4時間
第7回	<b>マーケティング 2. 顧客管理の基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 顧客管理の基本的な役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	顧客管理の基本的な役割について復習します。	4時間
第8回	<b>マーケティング 3. 販売促進の基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 販売促進の基本的な役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	販売促進の基本的な役割について復習します。	4時間
第9回	<b>マーケティング 4. 商圏の設定と出店の基本的考え方</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 商圏の設定と出店の基本的考え方について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	商圏の設定と出店の基本的考え方について復習します。	4時間
第10回	<b>マーケティング 5. 売場づくりの基本的考え方</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 売場づくりの基本的考え方について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	売場づくりの基本的考え方について復習します。	4時間
第11回	<b>販売・経営管理 1. 販売員の基本業務</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 販売員の基本業務について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	販売員の基本業務について復習します。	4時間
第12回	<b>販売・経営管理 2. 販売員の法令知識</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 販売員の法令知識について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	販売員の法令知識について復習します。	4時間
第13回	<b>販売・経営管理 3. 販売事務と計数管理の基本的知識</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 販売事務と計数管理の基本的知識について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	販売事務と計数管理の基本的知識について復習します。	4時間
第14回	<b>販売・経営管理 4. 売場の人間関係</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 売場の人間関係について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	売場の人間関係について復習します。	4時間
第15回	<b>販売・経営管理 5. 店舗管理の基本的役割</b> 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 店舗管理の基本的な役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	店舗管理の基本的な役割について復習します。	4時間

授業科目名	<b>ビジネス心理学</b>				
担当教員名	稲村昌南・千代原亮一・植田真司				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	五感等の心理・マーケティングに関連した商品企画業務に従事 植田の授業担当分につき、7回。				

### 授業概要

五感を統合的に活用し、ビジネスに活かす時代となっている。かつて「ブランド」とは、名称、ロゴタイプ、シンボルマーク、シンボルカラーなどの視覚的要素で表現されるものと考えられてきたが、今日、多くの企業が視覚情報に他の感覚要素（聴覚、嗅覚、触覚、味覚）を組み合わせることで、顧客の心にブランドの記憶を深く刻みかけを作り出している。本講義では、このように、視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚を統合的に活用した「五感のマーケティング」について理論と実践を組み合わせる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	感覚マーケティング (sensory marketing) の有効性	消費者の感覚に訴えることによって、その知覚、判断、そして行動に影響を与えるマーケティングの意味について理解し、実践に役立てることができる。
2．DP1. 幅広い教養やスキル	感覚訴求の重要性	マーケティングの世界で感覚訴求の重要性、更に感覚刺激の意味について理解できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		PBLにおいて、「何が問題になっているのか」を自分の頭で理解し、課題解決に取り組むことができる。
2．DP5. 計画・立案力		PBLにおいて、タイム・マネジメントを意識してプランニングを行い、課題解決に取り組むことができる。
3．DP6. 行動・実践		PBLにおいて、積極的に行動し、主体的に課題解決に取り組むことができる。
4．DP8. 意思疎通		PBLにおいて他のグループメンバーと意見交換し、協力しながら、主体的に課題解決に取り組むことができる。
5．DP9. 役割理解・連携行動		PBLにおいて、自己の役割を理解し、他のグループメンバーと連携を図りながら、課題解決に取り組むことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

通常の講義形式による説明と体験的な学習の組み合わせで行う。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
  - ①専門的な力
    - ・マーケティングの知識：五感にうたえるマーケティングについて、人間の心理的側面から理解し説明できる
  - ②課題発見力
    - ・論理的思考力：因果関係をとらえ、物事の本質を見極めることができる

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験（各授業回における課題レポート）	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回0～5点で評価し、合計50点満点とする。</li> <li>・授業内容を踏まえた論述であれば3点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば5点とする。授業内容に全く関係のない記述の場合は0点となる。</li> </ul>
PBL（課題解決型学習）	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PBLを実施し、その活動を以下の基準で評価する。</li> <li>①課題について自主的に取り組み、解決に向けた活動を積極的に行ったか。②他の学生と協力して課題に取り組み、成果物を提出することができたか。</li> </ul>

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

高坂美紀『図解！売れる色とデザインの法則』（秀和システム、2007年）、高坂美紀『ヒットの「色」じかけ』（KKベストセラーズ、2007年）、小川亮『図解でわかるパッケージデザインマーケティング』（日本能率協会マネジメントセンター）、日経デザイン編『パッケージデザインの教科書』（日経BP社、2012年）、日経デザイン編『儲かるデザイン戦略』（日経BP社、2014年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜 4 時間目  
 場所： 西館3階の各担当教員の研究室  
 備考・注意事項： 通常の講義以外に、PBL形式でのグループ学習を実施するため、グループ活動に積極的に取り組み、遅刻・無断欠席をしないように。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<b>ガイダンス：五感のマーケティングとは</b>  (1)五感ブランディングとは (2)五感マーケティングとは (3)江戸時代からあった五感マーケティング	五感を使ったビジネス手法には、どのようなものがあるかについて、身近な例を調べておこう。	4時間
第2回	<b>視覚によるマーケティング①（事例研究）</b>  なぜ、あの商品は売れ続けるのか。スーパー・コンビニの定番商品から話題の商品まで、店頭勝負を制する「色」と「デザイン」の成功ポイントについて学ぶ。 ・パッケージの役割を知る ・パッケージ・デザインによるブランド戦略	「色とデザインの成功ポイント」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第3回	<b>視覚によるマーケティング②（理論編）</b>  売れる色とデザインの法則について学ぶ。色、形、パターン、配置に潜むロングセラーの秘密について知る。 ・色の使い方 ・イラストの使い方 ・文字の使い方	「視覚によるマーケティングを用いたロングセラー商品」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第4回	<b>視覚によるマーケティング③（実践編）</b>  成功事例を基にパッケージ・デザインに取り組む。 ・デザインのプロセスを知る ・ロングセラー・パッケージの秘密を探る ・世界で売れるパッケージ・デザインの秘密	「パッケージ・デザイン」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第5回	<b>触覚・味覚によるマーケティング</b>  触覚と味覚によるマーケティングについて、特にIT技術を用いた研究とその実用化の観点から分析する。 触覚：モバイル端末を通じて「触れる」ことができる仕組み 味覚：人間の舌を参考に開発した「味覚センサー」で味を測る仕組み	「IT技術を用いた触覚と味覚のマーケティング」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第6回	<b>嗅覚によるマーケティング①（事例研究）</b>  なぜ、この場所で商品を買ってしまうのか？ ・スーパーやショップ、商品など香りのマーケティングの成功事例を紹介。 ・また、そこで使われている香りを考える。	香りのマーケティングが使われている現場を見つける。	4時間
第7回	<b>嗅覚によるマーケティング②（理論編）</b>  香りが心理にどのように影響を与え、消費行動を変えるのか。 ・五感の中で、嗅覚だけが特別な感覚である理由。 ・香りがどのように、人の感情や行動に影響を与えるのか学ぶ。 ・実際に、香りを嗅いで心理状態の違いを体験する。	香りの文献を調べる宿題。	4時間
第8回	<b>嗅覚によるマーケティング③（応用編）</b>  香りのマーケティングの活用方法を考える。 ・香りを使った商品や空間を企画する。 ・簡単な企画書の作成	課題レポート作成	4時間
第9回	<b>サウンド・マーケティングとは何か</b>  わたしたちは無意識に音に影響されています。音の持つ力を戦略的に活用したマーケティングについて学びます。	「サウンド・マーケティング」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第10回	<b>音と消費行動の関係</b>  消費者の行動と音とは密接な関係があります。「音と脳の科学」からそのことを解き明かします。	「音と消費行動の関係」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第11回	<b>音のブランディング</b>  いくつかの企業では、特定の音（音楽）と商品を関連付けています。今回は、この「音のブランディング」について学びます。	「音のブランディング」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第12回	<b>PBL（課題解決型学習）①</b>  五感を刺激し、使うことは、様々なビジネス・アイデア、インスピレーションにつながる。そこで、第1回目から第11回目までの授業内容を踏まえた課題設定を行い、その解決を目指すグループ学習を行う。	第2回目のグループ学習に向けた情報収集、グループ内での打ち合わせなど	4時間
第13回	<b>PBL（課題解決型学習）②</b>  課題解決に向けた議論、発表会に向けた資料作成を行う。	第3回目のグループ学習に向けた情報収集、グループ内での打ち合わせなど	4時間
第14回	<b>PBL（課題解決型学習）③</b>  課題解決に向けた議論、発表会に向けた資料作成、発表準備を行う。	グループごとに発表会に向けた準備	4時間
第15回	<b>PBL発表会、まとめ</b>  グループ討議を基に、各グループから課題解決に向けた提案を行う。	ふりかえりのレポート作成	4時間

授業科目名	民法 I				
担当教員名	梶座三千子				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	法律事務所に所属し、弁護士として民事・家事事件を中心に取り扱っている（前15回）。				

### 授業概要

民法上の権利行使の一場面である損害賠償請求権の実現に必要な契約責任及び不法行為責任を学ぶ。法的制度及び民法の基本的な知識を習得しながら、実際の事例における争点がどのような価値観のぶつかり合いなのか、そのぶつかり合いの中でどのように論理的に結論が導かれていくのか、導かれた結論は社会的にも受け入れられるものなのか等、結論までの過程を追う。そうした作業を通じて民法が実現しようとする価値観を理解し、社会的な物事を論理的に考察し解決していく際の1つの指標を獲得することを目指す。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

損害賠償請求事件に関する知識と構造

#### 目標：

損害賠償請求事件の種類、その要件・効果を述べることができる

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP8. 意思疎通

事例分析を通じて、多様化した社会問題を法的に理解する知識が獲得できる。

それぞれの立場における考え方を理解でき、当該立場における意見を伝えることができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

定期試験（レポート課題）

#### 評価の基準

： 事案を把握して、争点を抽出して整理したうえで、1つの結論への過程を論理的に文章化できているかという観点から評価する。講義で得た知識を使用して、一定レベルの分析ができていれば合格とする。

70%

講義中の課題

： 提出課題は、各回2点×15回とし、講義内容を理解していれば2点とする。

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・参考文献は授業の各回で紹介します。
- ・教科書は指定せず、毎回、講義レジュメを配布します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後の時間帯  
場所： 授業教室

### 授業計画

回次	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>裁判における民法</b>  実際の事件を通じて裁判における民法のおおまかなイメージを概説する。	4時間
第2回	<b>損害賠償事件の当事者について</b>  民法における権利義務の主体に触れたうえで、具体的な事件における当事者を概説する。	4時間
第3回	<b>代理（1）代理一般</b>  基本的な代理制度を概説する。	4時間
第4回	<b>代理（2）無権代理・表見代理</b>  具体的な事例を通じ、無権代理、表見代理を概説する。	4時間

第5回	<b>契約の成立</b>  契約の基本原則を踏まえ、契約の成立に関し、意思表示や法律行為について概説する。	契約の成立についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第6回	<b>契約の効力（１）債務内容の確定</b>  売買契約を取り上げ、基本的な契約の効力について概説する。	債務内容の確定についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第7回	<b>契約の効力（２）債務の実現</b>  債務の履行に関し、同時履行の抗弁や危険負担、また、履行後に関し、瑕疵担保責任について概説する。	債務の実現についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第8回	<b>契約の解除</b>  契約解除の構造を踏まえ、解除後の権利関係について概説する。	契約の解除についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第9回	<b>過失・権利侵害</b>  過失の基本的理論を踏まえ、具体的な事例における義務違反を概説する。	過失・権利侵害についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第10回	<b>因果関係・損害</b>  因果関係の概念及び判断基準について概説する。	因果関係・損害についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第11回	<b>損害賠償の範囲と損害額の計算</b>  具体的な事例で損害の種類を概説し、損害額の計算を実施する。	損害賠償の範囲と損害額の計算についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第12回	<b>特殊な不法行為</b>  請求する相手方として、監督義務者、使用者制度について具体例を通して概説する。	特殊な不法行為についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第13回	<b>連帯債務と保証債務</b>  請求額の回収という観点から多数当事者の債権債務を概説する。	連帯債務と保証債務についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第14回	<b>時効</b>  具体的な事例を通し、時効制度の基本を踏まえ、中断や援用について概説する。	時効制度についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第15回	<b>不当利得</b>  不当利得の位置づけ、その類型等不当利得の制度を概説する。	不当利得についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間

授業科目名	インターネットビジネス				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

インターネットビジネスとは、一般的に情報技術を基盤として企業が仮想空間（Cyber Space）で創り出すすべてのビジネスを称する。インターネットビジネスについて理解するための電子商取引をはじめ、理論的な概念を理解してもらい、多様な事例を取り上げながら理解を深める。適時レジュメプリントを配布し、講義形式で進めるが、様々なビジュアル資料、ネット検索、なども併用する。毎回の授業では、テーマごとに各自、演習を行い、リアクションペーパーの提出を求める。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	演習による基礎的能力および専門に関する知識、理解	必要な情報を判断し、収集することができる。
汎用的な力		インターネットビジネス上のビジネスモデルを見つけてビジネスプランを立案できる。
1 . DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。  
 期末筆記テスト、課題レポート、平常点、の組み合わせによって、授業内容をきちんと理解できているか、総合的に評価を行い、設定した尺度を超えた場合、合格以上とする。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末筆記テスト 40%	： 期末筆記テスト（授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価）
期末課題レポート 20%	： 課題レポート（自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかを評価）
平常点 40%	： 授業内での小テスト、発言、宿題(期中)、コメントカードの内容など積極的な授業への参加を評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考書】講義中に適宜紹介する。  
 中村 忠之（2015）『ネットビジネス進化論』中央経済社  
 高橋 秀雄（2014）『e ビジネスの教科書[第五版]』創成社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。  
 ★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート（手書き、A4、1枚以内）事後に提出を求める。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限  
 場所： 研究室、西館2階  
 備考・注意事項： 研究室 西館2階

### 授業計画

回数	授業内容	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス：自己紹介、講義の目標、授業スケジュール、成績評価</b> 技術発達の変遷とインターネットの定義、特徴、ポータルサイト	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（店舗形態、ネット販売）	4時間
第2回	<b>電子商取引（EC）とは何か</b> 店舗形態、ネット販売 電子商取引、B2B、B2C、クリック&モルタル、ショールーミング	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（ビジネスモデル、コンセプト）	4時間
第3回	<b>ネットビジネスの事例【Case Study#】流通業界</b> B2B、B2Cビジネスモデル、コンセプトを中心にインターネットビジネス（流通業界）の事例を学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（企業間取引）	4時間
第4回	<b>企業間電子商取引の現状と課題</b> 企業間取引の概念を理解した後、ECの概念及び企業間電子商取引の動向について学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（Facebookの創業者マーク・ザッカーバーグ）	4時間
第5回	<b>ネットビジネスの事例【Case Study#】Facebook</b>	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（デジタル製品）	4時間

	SNSサイトのFacebookを創設したマーク・ザッカーバーグらを描いた映画を教材にSNSについて学習する		
第6回	<b>特別授業開催：ネットビジネス実践事例（予定）</b> 日本で高級システムキッチンブランド株式会社ハンセムの洪容植代表をお招きしてネット上の販売戦略について講演をいただく（予定）。	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（サービス業界）	4時間
第7回	<b>ネットビジネスの事例【Case Study#3】サービス業界&amp;中間テスト</b> 「オイシックス」のビジネスモデル、コンセプトを中心にインターネットビジネスの事例（サービス業界）を学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（BtoC）	4時間
第8回	<b>消費者向け電子商取引の動向</b> BtoC向けのビジネス事例を通じてインターネット上のビジネスの特徴及び消費者の特性について学習する。 映像&理論「ビジネスモデル：参考書9章」	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（アマゾン）	4時間
第9回	<b>ネットビジネスの事例【Case Study#】アマゾン</b> アマゾン・コム戦略について研究ノート「サービスの垂直統合と顧客中心主義」を教材としてその戦略について学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（ポータルサイト）	4時間
第10回	<b>ネットビジネスの事例【Case Study#】海外</b> 諸外国におけるネットビジネス企業の事例を学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（ヤフー）	4時間
第11回	<b>ネットビジネスの事例【Case Study#5】ヤフー</b> 主要なインターネット・ポータルサイトのビジネスモデル インターネットを利用するためには、必ず通る、訪問するところのことであるポータルサイトのビジネスモデルについて学習する 日本最大のポータルサイト「Yahoo! JAPAN」は単なる“検索サイト”ではない。今は国民的インフラとなっているビジネスモデルについて学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（Iot）	4時間
第12回	<b>ネットビジネスの実践「モノのインターネット (Internet of Things)」</b> 「モノのインターネット (Internet of Things)」について学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（サブスクリプション）	4時間
第13回	<b>ネットビジネスの実践「サブスクリプション」</b> 定期購入型ECサービス（サブスクリプション：subscription）について学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（販売促進）	4時間
第14回	<b>ネットビジネスのマーケティング「販売促進」</b> 伝統的な販売促進、ネット上の販促ツール（フリーミアム戦略、SNS活用、トリプルメディア論、ネット広告）について学習する	授業のまとめと予習として次回のテーマを調べる（ECトラブル）	4時間
第15回	<b>ネット時代の課題&amp;まとめ：これまでの総括</b> 電子商取引に伴って発生する諸問題について学習する	授業のまとめ、期末試験のためのこれまでの復習する	4時間

授業科目名	<b>データベース活用</b>				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	委託で会員データベースの開発補助、及び運用時のアドバイスをしていた経験を活かし、実際のデータベース運用に関する現場経験におけるノウハウを紹介できる。(全15回)				

### 授業概要

企業などでの組織的なシステム活用において、情報を蓄積・管理する手段である「データベース」は重要な基盤技術の一つである。データベースの有効活用には、情報システムの構築・運用を行うITエンジニアのみならず、ユーザも積極的に理解し活用することが求められる。この授業では講義と実習を通じて、データベースの設計や活用の方法を学ぶ。データベース操作言語であるSQLを用いて、データベースから所望のデータを検索する技術を習得するための演習を行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	データベースの設計とデータ検索に関する知識と技能を習得する。	SQL言語を理解しデータベースからデータを検索するプログラムを作成する能力の習得を目指す。
汎用的な力		大規模データから必要な情報を抽出し分析することができる
1 . DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題演習（授業中に実施）	60%	： 前回授業の復習と授業当日の実習内容のファイルを提出する。各回5点とする。
総合演習（最終回に実施）	20%	： データベースの実装やデータベース操作に関する専門技能が身に付いているかの観点から評価を行う。
期末レポート	20%	： 定期試験期間に提出する、課題レポートにおいて、総合的な理解ができているかを確認する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小泉 修	・ ファイル編成からWeb DB 環境まで 最新 図解でわかるデータベースのすべて	・ 日本実業出版社	・ 2007年

### 参考文献等

特になし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜 3 限
場所：	西館 3 階研究室
備考・注意事項：	授業時間外の質問は電子メールでも受け付けます。 nakai-hi@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

回	内容	身近で使われるデータベースを確認する	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>データベースシステムとは</b> データベースシステムの基本概念を学ぶ。	身近で使われるデータベースを確認する	4時間
第2回	<b>ファイルとデータベース</b> ファイルシステム、ファイル、レコード、フィールド、キーの概念を理解する。	レコードとキーの概念について再確認する	4時間
第3回	<b>データベース管理システムとは</b> データベース制御の中心的な役割を担うデータベース管理システム(DBMS)についての基本的な機能を知る。	データベースの種類とDBMSについて確認する	4時間
第4回	<b>リレーションの概念</b> リレーショナル型データベースのリレーション、キーについて理解する。	リレーションについて確認する	4時間
第5回	<b>リレーションの正規化</b> リレーショナル型データベースの設計指針となる正規化について学習する。	第1正規化・第2正規化について確認し、練習問題に取り組む	4時間

第6回	<b>SQLの基本</b> SQLの特徴を掴む。	SQLについて再確認する	4時間
第7回	<b>SQLのデータ定義機能</b> データベース定義、表の定義を学習する。	SQLの構文CREATEについて確認する	4時間
第8回	<b>SQLのデータ操作機能</b> データベース操作機能として、行の登録・修正・削除を学習する。	SQLの構文INSERT, UPDATE, DELETEについて確認する	4時間
第9回	<b>問合せ処理の基本</b> データベース操作機能として、基本的な問合せ処理を学習する。	SQL構文SELECTについて確認する	4時間
第10回	<b>副問合せと表結合</b> データベース操作機能として、副問合せ処理、表結合を学習する。	副問い合わせの意味と表現を確認する	4時間
第11回	<b>集合関数とグループ化</b> データベース操作機能として、集合関数、グループ化を学習する。	SQL構文GROUP BYを確認する	4時間
第12回	<b>実世界のモデリング</b> データベースを中心とした情報システムのモデル化について学ぶ。	モデリングについて確認する	4時間
第13回	<b>データベースの設計手法</b> データベースを中心とした情報システムの設計に関するプロセスについて学ぶ。	DB設計手法について再確認する	4時間
第14回	<b>データベースの実装・運用・保守</b> データベース管理システムが無理なく動作できる環境を提供するためになすべきこと、管理・運用について学ぶ。	データベースのバックアップとリストアの方法について確認する	4時間
第15回	<b>総合演習</b> SQLの記述に関して、複数の問い合わせ処理を複合的に行う演習を実施する。	総合演習に向けてしっかりと復習する。	4時間

授業科目名	<b>情報ネットワーク</b>				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業の委託でネットワークサーバ及び社内LANの構築を行った経験があり、その経験をもとに理論の説明に対し、実践的な話題の提供も行うことができる。(全15回)				

### 授業概要

情報化社会においてインターネットに代表される情報ネットワークは、現代社会において不可欠な基盤である。したがって、情報技術者を目指す者やITビジネスを考える者にとって、その基礎知識を身につけておくことは不可欠である。本講義では、情報ネットワークの中で最も代表的なLANとインターネットに関する技術を中心に解説し、それを身につけられるようにする。

内容については、特に体系的理解と語句に関する理解が中心となるため、技術体系全体に対するイメージをしっかりと持ってもらう。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

ネットワークの設定や管理者に必要となる専門知識

#### 目標：

ネットワークに関する用語の理解及びネットワークの仕組み（TCP/IPモデル）に関する理解

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

ネットワークにおける全体像とその部分に当たる実際の制御の仕組みの理解

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

受講態度

60%

#### 評価の基準

： 授業の履修態度及び積極性、提出物の提出状況などから評価する。

期末試験

40%

： 学期末試験の内容で評価する。

### 使用教科書

指定する

#### 著者

浅井宗海

#### タイトル

・ 情報通信ネットワーク

#### 出版社

・ 近代科学社

#### 出版年

・ 2011年

### 参考文献等

特になし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 西館3階研究室

備考・注意事項： 携帯電話などの通信も基本は同じ。講義内容を活かして賢く利用しましょう。  
質問はメールでの受け付けます。  
nakai-hi@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

回	学習ガイダンス 学習目的の確認	これまでのネットワークの基本的復習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ネットワークの必要性と役割		4時間
第2回	インターネット LANについての基本的理解	テキスト1-6の予習・復習	4時間
第3回	LANとWAN ネットワークの規模と役割についての理解	テキスト7-13の予習・復習	4時間
第4回	ネットワークインターフェース ネットワークの物理的側面についての理解	テキスト15-21の予習・復習	4時間
第5回	トポロジ ネットワークの形状とその特質についての理解	テキスト22-29の予習・復習	4時間
第6回	プロトコルの種類 通信規約（プロトコル）についての理解のその種類の紹介	テキスト31-38の予習・復習	4時間
第7回	プロトコルの役割 インターネットで利用されるプロトコルの働きの理解	テキスト39-45の予習・復習	4時間
第8回	IP IPの働き、IPアドレスについての理解	テキスト47-52の予習・復習	4時間

第9回	<b>TCP</b> TCPとUDPについて、通信確立の仕組みに関する理解	テキスト52-55の予習・復習	4時間
第10回	<b>TCP/IPモデル</b> インターネットのネットワーク管理についての理解とOSIとの対比	テキスト56-60の予習・復習	4時間
第11回	<b>コネクション</b> 通信の確立の手続きに関する理解	テキスト61-66の予習・復習	4時間
第12回	<b>コネクションレス</b> UDPにおける通信の特徴の理解	テキスト66-69の予習・復習	4時間
第13回	<b>NAT</b> アドレス変換に関する理解	テキスト69-75の予習・復習	4時間
第14回	<b>http</b> WWW (Web) サービスのプロトコルに関する理解	テキスト77-84の予習・復習	4時間
第15回	<b>ftp, telnet</b> ファイル転送や遠隔操作といったインターネットサービスの理解	テキスト84-93の予習・復習	4時間

授業科目名	<b>スポーツマネジメント論</b>				
担当教員名	植田真司				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ用品の企画、ブランド戦略、スポーツ関連事業開発のマネジメントに従事（全15回）				

### 授業概要

組織を運営するための必要な経営の専門知識をスポーツを通じて学びます。また、マネジメントの意味を学び、自己マネジメント、チームマネジメント、環境の有効活用（マネジメント）、タイムマネジメントなど事例をもとに応用力を養います。さらに、アマチュアスポーツとプロスポーツなど様々な現場で実践されているマネジメントを例に、課題を発見し、どのような対策があり、どのように解決するのか、提案できる力を養うことを目標とします。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツを通じてマネジメントを理解する	人・モノ・金などの資源を活用する力を養う
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP4. 課題発見		さまざまな角度から物事を見る力を養う

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内小レポート	45%	： 授業内容を理解しているか 理解している3点 していない0点
課題レポート	25%	： レポートの課題に対する回答を総合的に評価
定期試験	30%	： マネジメントの基礎知識の理解度

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考文献】必要に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 5限 16：20～17：50  
 場所： 研究室（西館3F）  
 備考・注意事項： いつでも、研究室に来てください。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<b>マネジメントとは何か？ マネジメントの基本</b> 1 5回の内容説明 マネジメントの語源やマネジメントの意味について学ぶ。 ドラッカーの紹介	マネジメントについて理解する。配布したプリントを読む。	4時間
第2回	<b>スポーツマネジメントについて</b> スポーツの意味や役割について説明。 スポーツの領域において、マネジメントの活用事例について学ぶ。	スポーツの意味や役割について各自理解する。指定した本文献を読む。	4時間
第3回	<b>映画で学ぶスポーツマネジメント1</b> 映画を観て、やる気やチームワークが無い組織をどのようにマネジメントして気持ちを変えていくのかを考える。	他の映画を見る。	4時間
第4回	<b>映画で学ぶスポーツマネジメント2</b> 周りをどのように巻き込み、強みを活かすのか考える。	他の絵映画を見る。	4時間
第5回	<b>マネジメントをスポーツに活用する</b> 組織の役割について考える。 スポーツを事例に、顧客のニーズや顧客が誰かを学ぶ。	文献を読み顧客について理解を深める。	4時間
第6回	<b>スポーツとマーケティング</b> 顧客のニーズについて考える。 マーケティングの事例を学ぶ。	文献を読みマーケティングについて理解を深める。	4時間

第7回	<b>スポーツとイノベーション</b> イノベーションの意味、イノベーションの事例を学ぶ。 スポーツを事例に、イノベーションを理解する。	文献を読みイノベーションについて理解を深める。	4時間
第8回	<b>スポーツビジネス</b> スポーツにおける新しいビジネスモデルについて考える。	成功しているビジネスモデルを探す。	4時間
第9回	<b>モチベーション</b> マズローやハーズバーグなどの理論を事例に、人の主体性とやる気について考える。	文献を読みモチベーションについて理解を深める。	4時間
第10回	<b>リーダーシップ</b> リーダーシップとマネジメントとの違い、リーダーシップのスタイルについて考える。 時代と共に変化する、リーダーシップスタイルを理解する。	文献を読みリーダーシップについて理解を深める。	4時間
第11回	<b>チームマネジメント</b> フォロワーシップや従業員満足について考える。	文献を読みフォロワーシップについて理解を深める。	4時間
第12回	<b>セルフマネジメント</b> 自己のマネジメントについて学ぶ。 パフォーマンスを向上するほうなどを学ぶ。	文献を読み自己のマネジメントについて理解を深める。	4時間
第13回	<b>タイムマネジメント</b> 時間について考える。 量より質の視点で考えてみる。	時間の活用を振り合える。	4時間
第14回	<b>環境のマネジメント</b> 道具や自然を活用してパフォーマンスを向上する方法を学ぶ。	文献を読み環境のマネジメントについて理解を深める。	4時間
第15回	<b>商品企画開発のマネジメント</b> スポーツ用品の企画開発の手順を学ぶ。	文献を読み商品企画開発について理解を深める。	4時間

授業科目名	<b>スポーツ社会学</b>				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場やスポーツと社会の関わりについて取材、執筆してきた。(全15回)				

### 授業概要

スポーツは私たちの健康、楽しみ、教育にとどまらず、政治、経済、外交、文化、都市開発など幅広い社会との関わりを持っています。「社会現象」としてスポーツをとらえながら、スポーツが社会でどのような役割を果たしているのか？どのような機能を持っているのか？社会に対してどのような影響を与えているのか？逆に社会からどのような影響を受けているのか？などについて考察し、論理的に考える力を身につけます。また、インターネットや新聞、テレビなどで取り上げられるスポーツを巡るニュースについて、自身で考察できる力も磨きます

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

スポーツと社会の幅広い関わりや相互作用を理解する

#### 目標：

スポーツとさまざまな社会事象との関係性や相互作用、課題を理解できる

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

スポーツと健康、レジャー、政治、経済、文化などとの関わりに注目し、課題を把握することができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への参加度	20%	： 授業での積極的な発言、質問を評価します
授業内容からの小レポート提出	30%	： 講義の内容を理解し、自らの考えを記述できること
期末テスト	50%	： 年間を通じてスポーツ社会学の講義内容を理解できていること

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、授業の中で指示します

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 研究室

備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションとスポーツの歴史</b> 初めに講義概要について説明。その後、近代スポーツの概念、スポーツがイギリスで発祥したことなどスポーツの歴史を学ぶ	4時間
第2回	<b>スポーツと健康</b> 運動の健康への効果、生涯スポーツの取り組みなどについて学ぶ	4時間
第3回	<b>学校スポーツ</b> 部活動、体罰など学校スポーツを巡る諸課題について学ぶ	4時間
第4回	<b>スポーツと組織</b> スポーツ集団（チームやリーグ）の構造と機能について学ぶ	4時間
第5回	<b>スポーツと外交</b> 卓球の国際試合をきっかけに米中が国交を結んだ「ピンポン外交」に代表されるように、有効な外交手段として利用されることも多いスポーツの側面について学ぶ	4時間
第6回	<b>スポーツと薬物</b> スポーツと薬物を巡る問題について自身で資料を調べる	4時間

	一流スポーツ選手のドーピング問題がニュースをにぎわし、メダルのほか奪や資格停止処分に発展している。2012年平昌冬季五輪ではロシア選手団の参加を認めない措置に発展した。スポーツと薬物を巡る諸問題について学ぶ		
第7回	<b>スポーツと環境</b> 森林破壊などを理由に、冬季五輪開催地などで反対運動が起きることが少なくない。また、競技場建設に当たっては再生エネルギーの利用が求められることも少なくない。スポーツと環境問題について考える	スポーツと環境について自身で資料を調べる	4時間
第8回	<b>五輪と都市開発</b> 五輪レガシーと密接に絡んで、五輪開催と都市開発・インフラ整備はセットで語られることが多い。実例を学びながら五輪レガシーについて考える	五輪と都市開発について自身で資料を調べる	4時間
第9回	<b>スポーツと地域活性化</b> 雨後の竹の子のように各地でマラソン大会が開催されるようになった。経済活性化のためにスポーツ大会開催に熱い視線を送る地域の事情について学ぶ	スポーツと地域活性化について自身で資料を調べる	4時間
第10回	<b>スポーツと観光</b> 米メジャーリーグや欧州サッカーリーグで活躍する日本人選手をターゲットに旅行する人など、スポーツ観戦を目的にした「スポーツツーリズム」が注目を浴びている。スポーツツーリズムの潜在力、課題などについて学ぶ	スポーツと観光について自身で資料を調べる	4時間
第11回	<b>スポーツと企業</b> スポンサーシップ、命名権、協賛金……。スポーツと企業コマースは切っても切り離せない関係にある。一方で、企業マネーがスポーツのルールや開始時間までも変える大きな影響力を持つようになった。スポーツと企業の関係について学ぶ	スポーツと企業のつながりについて自身で資料を調べる	4時間
第12回	<b>スポーツと科学技術</b> 科学技術の進歩がスポーツを変えている。一流アスリートの能力開発には科学的なトレーニングが欠かせないし、かつては審判の「目」にすべてが委ねられていた世界に、科学の「目」が生かされるようになってきている。スポーツと科学技術の進歩の相互作用について学ぶ	スポーツと科学技術の関係性について自身で資料を調べる	4時間
第13回	<b>スポーツと暴力・テロ</b> 大相撲界の暴力問題は横綱日馬富士の引退騒動に発展し、スポーツ界から暴力を排除する動きが強まっている。一方、国際スポーツイベントはテロの標的とされることが少なくない。スポーツと暴力・テロの問題について学ぶ	スポーツと暴力・テロについて自身で資料を調べる	4時間
第14回	<b>スポーツとメディア</b> スポーツとメディアの関係性について学ぶ	スポーツとメディアについて自身で資料を調べる	4時間
第15回	<b>女性・障がい者とスポーツ</b> 2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開かれる。障害者とスポーツの関わりについて学ぶ。また、女性とスポーツの関わりについても学ぶ	障がい者とスポーツ、女性とスポーツについて自身で資料を調べる	4時間

授業科目名	スポーツマーケティング				
担当教員名	大崎哲也				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞社に勤務し、記者として国内のスポーツマネジメントの現場を取材（全15回）				

### 授業概要

スポーツが社会に受け入れられるためには、スポーツを商品やサービスと捉え、マーケティングの基本的な概念の理解とマーケティングプラン作成の能力を養うことが必須である。本講義では、プロスポーツクラブやスポーツを商品とする地域スポーツクラブの具体的なマーケティング手法のケーススタディと理論を中心として、基本的なスポーツマーケティングの概念を学ぶ。また、授業では予習と講義を通して、知識と同レベルで実践的なアカデミックスキルの修得を目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	アカデミックスキルの向上	テキストや資料内容を分析し、自分の考えを論理的に整理し、文章にまとめることができる。
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	専門的な力の修得	スポーツマネジメントとは何か、概略を理解することができる。
汎用的な力		
1．DP6.行動・実践		人前でプレゼンテーションをおこなうことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

授業出席には毎回のテーマのどこに自分の興味関心があるかを確認するための予習が必要です。各授業の際に次の授業で扱うテーマについて説明し、場合によっては関連資料を配布します。その内容について「自分はこれを知りたい・この部分に興味がある」を含んだ考察を予習レポートとして授業前日までに提出することを義務とします。詳しくは初回の授業で説明します。毎回の授業では予習レポートを踏まえ、教員からの簡単なレクチャーのあとはグループに分かれ個人の考えの発表、グループとしての議論、まとめ、発表とし、教員からのまとめのレクチャーをおこないます。本授業はこのような「反転授業」（基本的な知識を家庭学習で学び、授業ではそれらの知識を用いた積極的な議論をおこなう。）により実施します。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

- ①毎回の予習レポート、②毎回の授業のグループワークへの関わりの様子、③半期2回の中レポート、④最終レポートで評価する。それぞれの点数と基準は以下のとおり。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
①予習レポート 25%	: 12回×2点(内容点)+1点(意欲点) (1)要約:指定された範囲を適切に要約している。(2)考察:自身の考えを論理的に記述している。(1)+(2)で2点、以外は0点。
②毎回の授業のグループワークへの関わりの様子 25%	: 15回×1.6点(関わり具合)+1点(印象点)「養うべき力」内の2. 学び合う力と仲間と働く力について積極的に取り組んでいる。で1. 6点。それ以外は0点
③半期2回の中レポート 25%	: 7回目時提出レポート(12点)、15回目提出レポート(13点)「テキストや資料内容を分析し、自分の考えを論理的に整理し、文章にまとめることができる。」で満点。あとは内容により減点。
④期末レポート 25%	: 「スポーツマネジメントとは何か、概略を理解することができている。」「テキストや資料内容を分析し、自分の考えを論理的に整理し、文章にまとめることができる。」両方で満点。あとは内容により減点。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
原田宗彦編著	『スポーツビジネス叢書 スポーツマーケティング改訂版』	大修館書店	2018年

### 参考文献等

佐野昌行・黒田次郎・遠藤利文他著『スポーツビジネス概論2』（叢文社、2016年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- 【履修条件】
- 将来スポーツに関わる仕事に就く意欲の高いもの
  - 『スポーツマネジメント』に関して、強い関心と学習意欲があるもの
  - 毎回の授業の予習レポート(A4・1枚)を提出できるもの
  - 毎回の授業のグループワークに積極的に取り組む覚悟があるもの

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4限  
場所： 個人研究室  
備考・注意事項： 研究室在室中であれば、これ以外の時間でも構いません。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	<b>「スポーツマーケティングとは？」</b> 授業の進め方について解説し、「スポーツマーケティング」とは何かについて導入の解説をおこなう。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第2回	<b>スポーツマーケティングの歴史</b> 「スポーツマーケティング」は注目されはじめてロサンゼルスオリンピックを事例に出しながらスポーツマーケティングの歴史について解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第3回	<b>スポーツ消費者の行動（1）</b> スポーツビジネスの前提となる「【みる】スポーツ消費」について事例を取り上げながら解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第4回	<b>スポーツ消費者の行動（2）</b> スポーツビジネスの前提となる「【する】スポーツ消費」について事例を取り上げながら解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第5回	<b>スポーツマーケティングにおける4つのP</b> コトラーが説くマーケティングにおける4Pの概念をベースに、スポーツマーケティングにおける4Pについて開設する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第6回	<b>スポーツ財の性質（product）</b> スポーツビジネスにおける「商品」「サービス」の特性について解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第7回	<b>スポーツ財の価格戦略（price）</b> 供給と需要の関係による価格の設定や競合との関係による価格設定、材料による価格設定などいくつかの事例を用いてスポーツ財の価格戦略について解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第8回	<b>スポーツ財の立地戦略（place）</b> スポーツの「商品」「サービス」の販売場所・方法について事例を用いて解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第9回	<b>スポーツ財の販売促進（promotion）</b> スポーツの「商品」「サービス」の販売促進に関わるプロモーションについて、理論と具体的な事例を用い解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第10回	<b>プロスポーツチームのマーケティング</b> Jリーグやプロ野球を事例として、プロスポーツチームのマーケティングの理論を解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第11回	<b>ソーシャルマーケティング</b> フェイスブックやTwitterなどSNSを活用したマーケティングについて解説する。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第12回	<b>スポーツマーケティングプラン1</b> Jリーグ、Bリーグクラブなどのファンビジネスの現状について説明をおこない、さらなる販促に繋がるプランの策定について学生自らが取り組む。 個人のアイデア出し。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第13回	<b>スポーツマーケティングプラン2</b> Jリーグ、Bリーグクラブなどのファンビジネスの現状について説明をおこない、さらなる販促に繋がるプランの策定について学生自らが取り組む。 グループによる話し合い。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第14回	<b>スポーツマーケティングプラン3</b> Jリーグ、Bリーグクラブなどのファンビジネスの現状について説明をおこない、さらなる販促に繋がるプランの策定について学生自らが取り組む。 グループで企画書を作成し、プレゼンテーションをおこなう	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間
第15回	<b>総括</b> 授業全体の振り返りを講義とディスカッション、レポート作成により行う。	教科書のプレビューと予習レポートの作成 4時間

授業科目名	<b>スポーツ産業論</b>				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	1・2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	資料を中心に講義形式で進める。その他、プリントを適宜配布する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ関連企業や団体のマーケティング支援、スポーツイベント企画・実施、スポーツ施設の設計施工・運営支援など。(全15回)				

### 授業概要

スポーツと現代社会の基本的な仕組みを学びながら、スポーツがどのように産業とかかわっているのかを理解する。スポーツ産業は、産業分類上の一項目として独立してあるものではなく、多くの産業項目のスポーツに関わる一部分として存在する。そのためスポーツ産業を理解することは、様々な産業を理解することにつながる。また、スポーツ産業の概要と構造を理解するのみならず、スポーツを通じた社会的課題の解決方策等について考えることができるようになる。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

#### 具体的内容：

スポーツを通じた社会構造の理解

#### 目標：

社会経済の仕組みを理解することができる。

世の中の課題を自ら発見できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小論文	40%	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。授業内容に沿って、自分の経験等を踏まえて考え、記載されていると高得点が与えられる。
中間論文	30%	： 授業の内容を理解しているか。
期末試験	30%	： 授業の内容を理解しているか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

日ごろからニュースや新聞記事等に注意してください。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp。

### 授業計画

回数	授業内容	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スポーツ産業論を学ぶ意義</b> スポーツ産業は多くの産業の縮図であり、スポーツ産業を学ぶことを通じて社会のあり方を学習する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第2回	<b>スポーツ産業と生活者（マーケット）</b> スポーツ産業の全体像と生活者、マーケット等の関係を学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第3回	<b>スポーツ用品産業</b> ミズノやアシックス、ナイキなどのスポーツ用品産業について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第4回	<b>スポーツサービス産業</b> スポーツに関連した多くのサービス産業があるが、その概要について学ぶ。特にフィットネスクラブをとおして、企業戦略やマーケティング等についても考える。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第5回	<b>スポーツ施設産業</b> スポーツ施設を計画・建設・運営するにあたっての基礎知識を学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第6回	<b>スポーツとイベント産業</b> オリンピックやFIFAワールドカップ等の大規模なスポーツイベントの仕組み、構造について理解する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第7回	<b>中間まとめ</b> スポーツ産業の概要について復習する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

第8回	<b>スポーツとスポンサーシップ</b> スポーツイベントには欠かせない、スポンサーシップの概要について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	<b>スポーツイベントとメディア</b> スポーツイベントと表裏一体のテレビ業界について、メディアビジネスの概要、仕組み等について理解する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	<b>大規模スポーツイベントと放映権</b> 大規模スポーツイベントの放映権等との関係について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	<b>スポーツ団体（権利ビジネス）</b> スポーツ競技団体等について、その収入源である権利ビジネスについて学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	<b>スポーツと公的セクター</b> スポーツと公的セクターは非常に密接な関係がある。教育関係も含めた公的セクターとスポーツの関係について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第13回	<b>スポーツツーリズム産業</b> 近年注目されているスポーツツーリズムについて、スポーツコミッション等との関係も含めて理解する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第14回	<b>スポーツと地域活性化</b> スポーツイベントを実施した効果として地域活性化がある。経済波及効果などの考え方等について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第15回	<b>スポーツ産業論総括</b> これまでの授業を総括し、まとめる。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

授業科目名	<b>地域スポーツクラブマネジメント</b>				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

子どもから高齢者まであらゆる世代の住民が「スポーツライフ」を享受するうえで、その担い手として「総合型地域スポーツクラブ」に期待が寄せられている。しかし、全国で3千をこえる同クラブは、組織の規模や活動内容、収支状況も一様ではなく、克服すべき課題も少なくない。本講義ではこうした背景をふまえながら、総合型地域スポーツクラブのマネジメントについて学びを深める。また、民間のスポーツクラブや教室、トップスポーツクラブの下部組織など、「総合型地域スポーツクラブ」以外の事業体の展開も視野において講義を進める。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

総合型地域スポーツクラブの現状と課題を理解する。

#### 目標：

総合型地域スポーツクラブの事業報告・計画や収支計画を読み解き、経営状況を判断することができる。

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

具体的な総合型地域スポーツクラブの経営関連データの収集・分析に基づいて、事業計画の立案ができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート	50%	： 講義に関連したテーマを出題する。論理構成、内容の妥当性、視点の独自性などを中心に評価する。
試験（プレゼンテーション）	50%	： 実在の総合型地域スポーツクラブを取り上げて中長期の事業計画を作成、あるいはクラブの新設を想定した創業計画を作成して、発表する。妥当性、独自性、実現可能性、持続可能性、リスクと対策など多面的に評価する。

### 使用教科書

指定する

著者  
菅 文彦

#### タイトル

・ スポーツと地域活性化（2019年8月発行予定）

#### 出版社

・ 晃洋書房

#### 出版年

・ 2019年

### 参考文献等

山口 泰雄 「地域を変えた総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店、2006）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 担当教員の研究室

備考・注意事項： 質問などいつでも歓迎します。

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スポーツ基本計画</b> 我が国のスポーツ行政の方向性と具体的な施策内容と目標・KPIを定めた「スポーツ基本計画」の概要を理解し、スポーツ行政における地域スポーツクラブの位置づけを把握する。	4時間
第2回	<b>地域スポーツクラブとは</b> 地域スポーツクラブの発祥とされる欧州の事例や、日本国内での特徴的な事例を取り上げ、地域スポーツクラブの存在意義、役割、機能などについて整理する。	4時間
第3回	<b>地域スポーツクラブの現状Ⅰ（活動）</b> 地域スポーツクラブが行っている活動を分類・整理し、特徴や傾向を理解する。	4時間
第4回	<b>地域スポーツクラブの現状Ⅱ（運営）</b> 自分の出身地、あるいは関心ある地方にある地域スポーツクラブ（複数）のHPを閲覧し、団体概要や組織体制について理解しておく。	4時間

	地域スポーツクラブの運営方法を分類・整理し、特徴や傾向を理解する。		
第5回	<b>地域スポーツクラブの現状Ⅲ（展開）</b>  地域スポーツクラブのマーケティング手法や、他機関・団体との連携の実態などを分類・整理し、特徴や傾向を理解する。	自分の出身地、あるいは関心ある地方にある地域スポーツクラブ（複数）のHPを閲覧し、会員獲得の手段やネットワーク連携について理解しておく。	4時間
第6回	<b>人材</b>  地域スポーツクラブに求められる人材像や能力、および育成方法について学ぶ。	地域スポーツクラブに求められる人材像や能力は如何なるものか、自分なりに仮説を立てて講義に参加する。	4時間
第7回	<b>資金</b>  地域スポーツクラブ運営の収支構造を理解し、活動資金調達の手段について学ぶ。	地域スポーツクラブの収支面での課題を自分なりに整理してから講義に参加する。	4時間
第8回	<b>ネットワーク</b>  地域スポーツクラブが有するネットワークの実態とその構築方法について学ぶ。	地域スポーツクラブが強みを発揮するうえで望まれるパートナーは如何なる機関・団体か、自分なりに仮説を立てて講義に参加する。	4時間
第9回	<b>事業計画の見方</b>  実在の地域スポーツクラブの事業計画をもとに、記載されている事柄の意味と意義を理解する。	自分の出身地、あるいは関心ある地方にある地域スポーツクラブ（複数）のHPを閲覧し、事業計画の概要を理解しておく。	4時間
第10回	<b>ワークショップ 事業計画の骨子</b>  グループワーク方式により各人の事業計画のイメージを共有し、第三者からの気づきや指摘をもとに、事業計画の骨子を形成する。	これまでの講義全体の復習・振り返りをしてからワークショップに参加する。	4時間
第11回	<b>ワークショップ 事業計画の作成</b>  グループワーク方式を通じて、事業計画の具体的な内容の落とし込みを行う。	これまでの講義全体の復習・振り返りをしてからワークショップに参加する。	4時間
第12回	<b>プレゼンテーション</b>  作成した事業計画を発表し、評価を行う。学生同士の質疑応答やディスカッションも重視する。	発表内容をパワーポイントにまとめたうえで、制限時間内で収まるようにリハーサルを行う。	4時間
第13回	<b>プレゼンテーション</b>  作成した事業計画を発表し、評価を行う。学生同士の質疑応答やディスカッションも重視する。	発表内容をパワーポイントにまとめたうえで、制限時間内で収まるようにリハーサルを行う。	4時間
第14回	<b>プレゼンテーション</b>  作成した事業計画を発表し、評価を行う。学生同士の質疑応答やディスカッションも重視する。	発表内容をパワーポイントにまとめたうえで、制限時間内で収まるようにリハーサルを行う。	4時間
第15回	<b>総括</b>  講義全体の振り返りを行い、これからの時代に求められる地域スポーツクラブのあり方に関する総合討議を行う。	プレゼンテーションで得たコメントや質問点をもとに、事業計画の改善を行う。自身の事業計画が実行されることで、どのような変化がもたらされるのかを具体的に整理しておく。	4時間

授業科目名	スポーツ心理学				
担当教員名	山越 章平				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

スポーツ心理学は、スポーツに関する問題を心理学的側面から明らかにし、スポーツの実践や指導に役に立つ知見を提供する学問である。この授業では、トップアスリートの育成過程の経歴、試合での実力発揮と心の関連、アスリートのこころの鍛え方、スポーツへのやる気・意欲、トップアスリートの心理的スキルの特徴について概説していく。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツ心理学に関する知識	アスリートの心理的特徴およびアスリートの心の鍛え方について理解できる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	スポーツ心理学の知見を活かした指導力	スポーツに関する心理的問題のアセスメントおよび介入方法について理解する。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		資料を収集し、ある領域に関する現状や課題について理解できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

筆記試験	50%	心理学の講義における専門知識の習得ができています。
レポート	50%	授業内で扱ったテーマや課題について、自らの考えをまとめ言語化することができています。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

新・スポーツ心理学/伊達萬里子・松山博明・田中美史・三村覚一・高見和至/嵯峨野書院

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（yamako-s@seisen.ac.jp）。メールには必ず氏名と所属を明記してください。

### 授業計画

回数	授業内容	参考文献	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション・スポーツ心理学について</b> 授業の内容、進め方、評価について説明する。スポーツ心理学とはどのような学問なのかについて理解する。	スポーツ心理学の歴史について教科書や論文などで復習する。	4時間
第2回	<b>超一流アスリートになるのに必要なのは才能か努力か①：Deliberate Practiceについて</b> オリンピックに出場しているような国際レベルのアスリートと地方レベルのアスリートの練習量の違いについて理解する。また、優れたアスリートが行なっている練習の特徴についても学ぶ。	Deliberate Practiceに関する書籍や論文を読む。	4時間
第3回	<b>超一流アスリートになるのに必要なのは才能か努力か②：Deliberate Playについて</b> 超一流のアスリートが幼少期に行っていた遊び活動について学ぶ。また、幼少期に遊び活動を行うことによって得られる利点について学習する。	Deliberate Playに関する書籍や論文を読む。	4時間
第4回	<b>超一流アスリートになるのに必要なのは才能か努力か③：The Early Specializationについて</b> 幼少期から一つの競技に専念して、国際レベルのアスリートになる道筋をThe Early Specialization Pathwayという。この授業では、The Early Specializationがアスリートの心理的・社会的・行動的側面に及ぼす肯定的・否定的な影響について学ぶ。	The Early Specialization Pathwayに関する書籍や論文を読む。	2時間
第5回	<b>超一流アスリートになるのに必要なのは才能か努力か④：The Early Diversificationについて</b>	The Early Diversification Pathwayに関する書籍や論文を読む。	4時間

	幼少期は様々な競技を経験し、15歳頃から一つの競技に専念して国際レベルのアスリートになる道筋をThe Early Diversification Pathwayという。この授業では、The Early Diversificationがアスリートの心理的・社会的・行動的側面に及ぼす肯定的な影響について学ぶ。		
第6回	<b>試合での実力発揮とこころの関連①：注意を集中させる</b> 注意の定義、特徴、はたらきについて説明し、注意の低下によるパフォーマンス低下に関する理論について学ぶ。また、注意を集中させる方法について理解する。	スポーツ場面における注意とパフォーマンスの関係についての書籍や論文を読む。	4時間
第7回	<b>試合での実力発揮とこころの関連②：あがりの予防法・対処法</b> あがりの定義や特徴について学ぶ。またあがりはどのようにして起こるのかについて学習し、あがりの予防法・対処法について理解を深める。	あがりに関する書籍や論文を読む。	4時間
第8回	<b>試合での実力発揮とこころの関連③：覚醒・不安・ストレスとパフォーマンス</b> 覚醒、不安、ストレスがどのようにしてパフォーマンスに影響を与えるかについて学ぶ。また、覚醒や不安、ストレスをコントロールする方法について理解を深める。	覚醒・不安・ストレスの対処法に関する書籍や論文を読む。	4時間
第9回	<b>スポーツへのやる気・意欲①：超一流アスリートのやる気の特徴</b> 外発的動機づけ・内発的動機づけについて学ぶ。また、競技レベルによる外発的動機づけ・内発的動機づけの高さの違いについて学習し、動機づけを高める方法について理解を深める。	スポーツの動機づけに関する書籍や論文を読む。	4時間
第10回	<b>スポーツへのやる気・意欲②：夢中になるから、スポーツは楽しい！</b> フローの定義や特徴について学び、フローに入る条件や危険性について学ぶ。	フローに関する書籍や論文を読む。	4時間
第11回	<b>超一流のアスリートは何が優れているのか①：予測能力と意思決定能力について</b> 超一流アスリートは、専門競技に特化した予測能力と意思決定能力に優れている。この授業では、競技レベルの高いアスリートを対象に、予測能力と意思決定能力を検討した研究について学んでいく。	アスリートの予測能力と意思決定能力を調査した先行研究を読む。	4時間
第12回	<b>超一流のアスリートは何が優れているのか②：知覚・認知スキルについて</b> 超一流のアスリートは知覚・認知スキルに優れており、そうしたスキルを活用して的確な予測や意思決定を行っているとされている。この授業では、競技レベルの高いアスリートの知覚・認知スキルを明らかにした研究について学んでいく。	アスリートの知覚・認知スキルを調査した先行研究を読む。	4時間
第13回	<b>超一流のアスリートは何が優れているのか③：視覚探索方略と思考プロセスについて</b> トップアスリートは試合中何を見ている、何を考えているのか。この授業では、トップアスリートの視野と思考を検討した研究について学んでいく。	アスリートの視覚探索方略と思考プロセスを明らかにした先行研究を読む。	4時間
第14回	<b>超一流のアスリートは何が優れているのか④：予測能力・意思決定能力を高める方法</b> トップアスリートの育成過程の経歴を理解し、どのようにして予測能力と意思決定能力が高められるかについて学んでいく。	トップアスリートのなかでも、特に予測能力・意思決定が優れているアスリートの育成過程の経歴を検討した論文を読む。	4時間
第15回	<b>講義の総括(これまでの講義の総括および質疑応答)</b> 第1回から第14回の内容をまとめる。	これまでの授業で使用した配布資料や教科書を復習する。	4時間

授業科目名	スポーツ法学入門				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

今日、スポーツをめぐる法的問題は、選手の契約に関する問題、肖像権に関する問題、事故に関する問題、ドーピングと人権の問題、スポーツ団体と競技者との関係に関する問題、その他多岐にわたり、また急増しています。また、一口にスポーツ法と言っても、スポーツ基本法などのスポーツに関する特別な法律だけでなく、民法、労働法など様々な法分野が関わり、更にスポーツルールや団体規約などのスポーツ固有法もあります。本講義では、複雑多岐にわたるスポーツ法の現代的課題について、幅広く理解することを目的とします。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を身につけ、政治問題や社会問題についてより深く理解する。

#### 目標：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を養い、政治問題や社会問題についてより深く理解できるようになる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。

他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

<評価基準（定期試験・授業中課題）>  
 S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。  
 A評価：到達目標を十分に達成している。  
 B評価：到達目標を達成している。  
 C評価：到達目標を最低限達成している。  
 D評価：到達目標を達成していない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	60%	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30%	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10%	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
友添秀則（編著）	『よくわかるスポーツ倫理学』	・ ミネルヴァ書房	・ 2017年

### 参考文献等

①スポーツ問題研究会（編著）『Q&Aスポーツの法律問題〔第4版〕』（民事法研究会）、②神谷宗之介（著）『スポーツ法』（三省堂）、③グレン M. ウォン、川井圭司（著）『スポーツビジネスの法と文化—アメリカと日本』（成文堂）、④エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク（編）『スポーツ法務の最前線』（民事法研究会）、⑤谷塚哲（著）『変わる！ 日本のスポーツビジネス』（カンゼン）、⑥仲澤真・吉田政幸（編著）『よくわかるスポーツマーケティング』（ミネルヴァ書房）。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- ・ 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・ やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
- ・ 授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜5時限  
 場所： 西館3回個人研究室  
 備考・注意事項： メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

：

：

授業計画			授業外学習課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スポーツにおける法律と倫理</b>  (1) スポーツの法律問題と倫理的思考 (2) フェアプレイ教育とスポーツ倫理 (3) スポーツのルールと法 (4) 勝敗の倫理学－勝利至上主義は正しいか (5) スポーツとホスピタリティ	スポーツにおける勝利至上主義とフェアプレイの精神との関係について自分の考えをまとめておこう。	4時間
第2回	<b>スポーツ法学の基礎知識</b>  (1) スポーツの法律問題とは (2) 大相撲の八百長問題について考える－八百長と違法賭博の関係 (3) スポーツマンシップとスポーツパーソンシップ (4) スポーツと法律、スポーツ基本法	「大相撲の八百長問題」とは何かについて、調べておこう。	4時間
第3回	<b>スポーツと人権①（スポーツと差別の問題を中心に）</b>  (1) スポーツにおける差別の事例 (2) スポーツと人種差別 (3) 性別とスポーツ (4) 性同一性障害とスポーツ	スポーツにおける差別事例には、どのようなものがあるかについて調べておこう。また、「LGBTQ」の言葉の意味についても調べておこう。	4時間
第4回	<b>スポーツと人権②（ドーピングの問題を中心に）</b>  (1) ドーピングの定義 (2) アンチ・ドーピング活動の拡大 (3) ドーピング法 (4) ドーピングに関する仲裁事例法 (5) ドーピングはなぜ許されないのか (6) 新たなドーピング技術－遺伝子ドーピング	「ドーピングはなぜ許されないのか」ということについて、自分の考えをまとめておこう。	4時間
第5回	<b>スポーツ紛争・スポーツ事故①（スポーツ仲裁制度を中心に）</b>  (1) スポーツ紛争の解決手続（スポーツ仲裁制度） (2) 学校のスポーツ事故・紛争 (3) コミュニティのスポーツ事故・紛争 (4) スポーツ事故における指導者の法的責任	「スポーツ仲裁制度」について調べ、日本人が仲裁を申し立てた事例について、事実の概要と結果をまとめておこう。	4時間
第6回	<b>スポーツ紛争・スポーツ事故②（スポーツ施設とスポーツ用具のスポーツ事故・紛争を中心に）</b>  (1) スポーツ活動と安全管理 (2) スポーツクラブの安全管理（リスクマネジメント） (3) レジャー、レクリエーションのスポーツ事故・紛争 (4) スポーツ施設とスポーツ用具のスポーツ事故・紛争	スポーツ施設とスポーツ用具の事故には、どのようなものがあるかについて調べておこう。	4時間
第7回	<b>スポーツと契約・規則①（アマチュアスポーツの問題を中心に）</b>  (1) スポーツ活動に関する契約と免責規定 (2) アマチュアスポーツと規則	アマチュアスポーツの活動には、プロスポーツの場合と、どのような点で特別の規制が働くかについて調べておこう。	4時間
第8回	<b>スポーツと契約・規則②（プロスポーツの問題を中心に）</b>  (1) プロスポーツと契約①（未成年者のプロ選手契約の問題点） (2) プロスポーツと契約②（プロ野球のドラフト制度） (3) プロスポーツと契約③（移籍制限と独占禁止法） (4) プロスポーツと契約④（プロスポーツ選手のセカンドキャリア問題）	プロスポーツの活動には、アマチュアスポーツの場合と、どのような点で特別の規制が働くかについて調べておこう。	4時間
第9回	<b>スポーツとビジネス①（スポーツ選手の権利を中心に）</b>  (1) スポーツビジネスの考え方 (2) スポーツ選手のパブリシティ権 (3) スポンサー契約 (4) スポーツからの反社会的勢力の排除	スポーツ選手の権利には、どのようなものがあるかについて調べておこう。	4時間
第10回	<b>スポーツとビジネス②（スポーツ施設との契約トラブルを中心に）</b>  (1) スポーツと金銭トラブル (2) スポーツ系専門学校のざさんな実態とその責任 (3) 突然のスポーツジムの閉鎖と入金返還請求 (4) スポーツ・レジャー会員権購入とクーリング・オフ	消費者とスポーツ施設との契約トラブルには、どのようなものがあるかについて調べ、事例を分析しておこう。	4時間
第11回	<b>スポーツ組織と法・倫理</b>  (1) スポーツ組織とは (2) スポーツ組織のアンガバナンスの実態 (3) スポーツ組織のインテグリティ	近年、問題となっているスポーツ組織の「アンガバナンス」の事例について調べ、それがどのような点において問題であるのかについて分析しておこう。	4時間
第12回	<b>スポーツと犯罪①（野球賭博・八百長問題を中心に）</b>  (1) スポーツにおける違法行為 (2) ダブ行為に対する規制 (3) 野球賭博、サッカーくじと犯罪 (4) スポーツにおける八百長の実態	野球賭博および八百長問題について調べ、それがどのような点において問題であるのかについて分析しておこう。	4時間
第13回	<b>スポーツと犯罪②（ファンタジー・スポーツとその法的規制）</b>  (1) ファンタジー・スポーツとは (2) ファンタジー・スポーツは世界中の人を熱狂させるスポーツ (3) 日本でも存在した？ファンタジー・スポーツ (4) ファンタジー・スポーツは違法なのか	「ファンタジー・スポーツとは何か」について調べ、そのギャンブル性について分析しておこう。	4時間
第14回	<b>スポーツと犯罪③（ハラスメントと体罰問題をを中心に）</b>  (1) スポーツにおける暴力と体罰 (2) スポーツにおけるハラスメント (3) 懲戒行為と体罰	スポーツにおけるハラスメントと体罰問題について調べ、それぞれの特徴についてまとめておこう。	4時間
第15回	<b>スポーツと保険</b>  (1) スポーツ保険の意義と種類 (2) スポーツ事故と災害共済給付制度 (3) 企業所属のスポーツ選手の社会保険・労働保険 (4) プロスポーツ選手の社会保険・労働保険	スポーツ保険には、どのような種類のものがあるかについて調べておこう。	4時間

授業科目名	スポーツファシリティマネジメント				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

リーダーには、他者を共通の目標へ向かわせるよう、行動やその時々々の環境を促進させる (facilitate) ことが求められます。本講義では、組織論やリーダーシップ論などの専門的知識を学びつつ、リーダーシップを発揮するのに必要な能力を身につけることを目指します。また、スポーツピクニックについて議論をすることで、スポーツ組織やスポーツにおけるリーダーシップの理解を深めていきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

組織論やリーダーシップ論などの専門的知識を理解する。また、ファシリテイトするための技能を学ぶ。  
講義内でのディスカッション等で、専門的知識やファシリテーションを実践してみる。

#### 目標：

講義内でのディスカッション等で、専門的知識やファシリテーション技能を活用することができる。  
ディスカッションやグループワークで与えられて役割をこなし、集団やその場を促進 (facilitate) することができる。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP8. 意思疎通
- DP9. 役割理解・連携行動

ディスカッションやグループワークにおいて、論理的に考え、課題に沿った議論ができる。  
他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。  
与えられた役割を適切に果たすことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

振り返りレポート	50%	： 各回の講義振り返りレポートを独自のルーブリックで評価します。
期末レポート	40%	： 独自のルーブリックを用いて評価します。
グループディスカッション評価	10%	： 講義内で行うグループディスカッションについて貢献度や批判的態度などの評価を行います。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

テーマや必要性に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜曜日 1限 (10:30-12:00)
場所：	研究室
備考・注意事項：	授業に関する質問等はメールでも受け付けます (furukawa-t@osaka-seikei.ac.jp)。メールには忘れずに、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

回数	本講義の概要と狙い	本講義を受講する目的意識を改めて確認しておきましょう。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	講義の概要と狙い、成績評価について説明します。また、スポーツ組織におけるリーダーシップについて概観します。		4時間
第2回	リーダーシップを発揮する上での具体的なスキルの一つであるファシリテーションスキルや、思考法としてロジカルシンキングなどを学びます。	議論が円滑に進むために必要な要素を自分なりに考えておきましょう。	4時間
第3回	リーダーシップとは	リーダーシップを自身の言葉で定義し、マネジメントとの違いを考えてみましょう。	4時間

	リーダーシップの概念について学びます。リーダーシップとは何か、リーダーシップとマネジメントの違いは何かについて考え、本講義におけるリーダーシップを定義します。		
第4回	<b>リーダーシップの個人特性と行動</b>  個人の特性によってリーダーシップに違いは発生するのか、リーダーシップは生まれつきなのか、後から修得することのできるスキルなのかについて考えていきます。	身近なリーダーはどのような人でしょうか。複数人のリーダー的存在の人の性格や行動について分析し、整理してみましょう。	4時間
第5回	<b>リーダーとフォロワーの関係性</b>  組織が機能するためには、リーダーのみならずフォロワーの役割も重要です。リーダーとフォロワーの関係性に着目し、リーダーシップを考察していきます。	良いフォロワーとはどのようなフォロワーでしょうか。まとめましょう。	4時間
第6回	<b>リーダーシップのダークサイド</b>  リーダーシップ発揮の方法によっては、組織や所属する個人に悪影響を与え、結果として組織の目標が達成されないということが起こります。本講義では、有害なリーダーシップの要素やガバナンスの観点に触れながら、適切なリーダーシップが発揮されるための環境づくりについて考えます。	周囲に悪影響を及ぼすリーダーシップとは、どのようなリーダーシップでしょうか。自分なりの考えをまとめておきましょう。	4時間
第7回	<b>ファシリテーションスキルを学ぶ（2）</b>  第2回で学んだことを生かして、グループディスカッションを中心にスポーツビジネスに関する最新トピックスについて議論していきます。	スポーツビジネスの最新トピックスを確認しておきましょう。	4時間
第8回	<b>スポーツ組織とは</b>  スポーツ組織とは何かを考えていきます。組織の仕組みやスポーツが持つ特性を理解し、スポーツ組織を定義していきます。	スポーツの特性とは何でしょうか。自分なりに考え、まとめましょう。	4時間
第9回	<b>スポーツ組織におけるマネジメントとリーダーシップ</b>  スポーツマネジメントにおいても組織間の協働は欠かせません。様々な組織との協働を促進するためにはどのような点に留意しなければならないのかを考えていきます。	信頼関係はどのようにして構築されるのか、そのメカニズムと要素について整理してみましょう。	4時間
第10回	<b>スポーツマネジメントにおけるコミュニケーション</b>  組織が掲げる目標を達成するために、リーダーには所属するメンバーの組織への関与度合いが高まるよう、様々な工夫が求められます。人はどのようにやる気を生み出すのか、どの様に動機づけられるのかを学びます。	自身のやる気がどのような要因によって生じるのかまとめてみましょう。	4時間
第11回	<b>組織戦略とリーダーシップ</b>  目標達成に向けた組織戦略の立案においてリーダーシップはどのような役割を果たすのか、戦略的リーダーシップの役割と機能を学んでいきます。	第8回の内容を復習しておきましょう。	4時間
第12回	<b>スポーツ組織内の多様性</b>  スポーツ組織内のダイバーシティ（多様性）の有効性について学びます。また、スポーツを取巻く社会と偏見や差別、スポーツマネジメントとの関係性について考えていきます。	ダイバーシティの考え方を予習し、スポーツ組織でダイバーシティを推進していくためにはどのような取組が必要か、あなたの考えを整理しておきましょう。	4時間
第13回	<b>組織変革とリーダーシップ</b>  社会的・経済的環境など、スポーツ組織を取り巻く環境は日々変化していきます。スポーツ産業の活性化が求められている現代社会において、スポーツ組織も変化に取り残されないように組織の変革が必要となります。スポーツ組織における変革や必要条件など概観していきます。	スポーツ組織の失敗事例を調べ、まとめておきましょう。	4時間
第14回	<b>スポーツにおけるリーダーシップの今後の課題</b>  2019年は、遂にゴールデンスポーツイヤーズへ突入する年です。ポスト2020年、スポーツ組織は生き残りをかけ、どのような課題を解決していかなければならないのでしょうか。今後の課題について議論していきます。	「ゴールデンスポーツイヤーズ」について調べておきましょう。	4時間
第15回	<b>まとめ</b>  講義のまとめを行います。	これまでの講義で学んだことを振り返りましょう。	4時間

授業科目名	<b>スポーツトレーニング論</b>				
担当教員名	村田正夫				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義と演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツトレーニング論全15回を担当（2016）				

### 授業概要

本講義では、環境や運動の刺激に対する人体への適応性を利用し、身体活動を行なうことで体力を高めていくトレーニングについて理解を深めるための基本知識を学ぶ。また、スポーツマネジメントとして新たな「ウェルネス」という広義的な切り口から健康増進ビジネスの現況や実態についても学び、基本的な理解を深めていく。更には健康観を見据えた「生き方」「ライフスタイルデザイン」をテーマに新たなビジネスの可能性について考察する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

トレーニングやウェルネスビジネスの基本知識

#### 目標：

①環境や運動の刺激に対する人体の適応性を利用して、身体活動を行なうことで体力が高められることについて説明できる。②ウェルネスビジネスに関する現況や実態について理解できる。

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

ウェルネスビジネスの動向を理解しながら新しい企画の検討ができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内での取り組み状況	20% ：積極的に授業に参加すること
グループ活動	30% ：独自のルーブリックを用いて評価する。
プレゼンテーション	25% ：独自のルーブリックを用いて評価する。
期末レポート	25% ：独自のルーブリックを用いて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献：NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識  
編 Roger W. Earle ・Thomas R. Baechle  
総監修者：福永哲夫  
発行：森永製菓株式会社健康事業部

### 履修上の注意・備考・メッセージ

私語や無許可での携帯電話、スマートフォンの使用、寝るなど、授業に好ましくない行為に関しては、注意または減点します。また、本授業は日本スポーツ協会のアシスタントマネジャー認定要件の対象科目となっています。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週火曜日2限目  
場所： 村田研究室

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>トレーニングの基礎知識 (1) 体力とは</b>  講義の流れ及び成績評価などについて説明する。その後、体力の意義、求められる体力について解説する。	4時間
第2回	<b>トレーニングの基礎知識 (2) トレーニングの種類</b>  パフォーマンスを向上させるためのトレーニングの種類について学ぶ。	4時間
第3回	<b>トレーニングの基礎知識 (3) トレーニングの進め方</b>  トレーニングを実施する際の原則について学ぶ。	4時間
第4回	<b>本学 強化クラブによるトレーニングの紹介</b>  強化クラブのトレーニング理論、方法、計画についてプレゼンテーションを視聴し、トレーニングの知識を高める。	4時間

第5回	<b>日本国民のスポーツライフ</b>  世論調査から見る日本のスポーツ「する」「みる」「ささえる」の実態について考察する。	「する」だけでなく、「みる」「ささえる」という関わり方も含めたスポーツの価値について考える。	4時間
第6回	<b>スポーツを通じた健康づくり</b>  普段の生活の中で実践できるスポーツや旅先で景色を見ながらサイクリングするツアーなど、健康増進や病気予防などにつながる取り組みについて学ぶ。	「楽しむ」「気軽」「継続」をキーワードにして健康について考えてみる。	4時間
第7回	<b>ウェルネスとは</b>  新たな健康観（概念）について学ぶ。	講義内容を復習しながら、各自のライフスタイルについて再考してみる。	4時間
第8回	<b>ウェルネス産業の動向</b>  新たな健康観を見据えることで生まれるウェルネスの市場について学ぶ。	ウェルネス産業に関する分野、規模などについて調べてみる。	4時間
第9回	<b>ウェルネスツーリズム</b>  ウェルネスツーリズムについて学ぶ。	日本におけるウェルネスツーリズムにどんなものがあるのか調べてみる。	4時間
第10回	<b>ウェルネスツーリズムを企画する (1) テーマの決定</b>  国内におけるウェルネスを題材とした旅のテーマを決定する。（グループ学習）	次回の企画検討に備え、各自がテーマに関する資料を収集する。	4時間
第11回	<b>ウェルネスツーリズムを企画する (2) 企画内容の検討</b>  国内におけるウェルネスを題材とした企画を検討する。（グループ活動）	次回の企画作成に向け内容を練る。	4時間
第12回	<b>ウェルネスツーリズムを企画する (3) 企画書の作成</b>  各グループが決定したテーマの企画書を作成する。（グループ活動）	プレゼンテーション資料の内容を練る。	4時間
第13回	<b>ウェルネスツーリズムを企画する (4) プレゼンテーション資料の作成</b>  各グループのプレゼンテーション内容（PP）を作成する。（グループ活動）	プレゼンテーションの内容を完成させる。	4時間
第14回	<b>ウェルネスツーリズム企画発表会</b>  各グループの発表内容について復習する。	各グループの発表内容について復習する。	4時間
第15回	<b>振り返り</b>  グループ活動に関する振り返りを行なう。	課題レポートの作成、提出。	4時間

授業科目名	スポーツキャリア論				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本講義では、スポーツキャリアに関する知識を身につけ、アスリートやスポーツ組織が抱える課題の発見、解決できる能力を身につけます。さらには自分自身のスポーツキャリアを分析し、プランニングできる能力を身につけることを目指します。ハイパフォーマンススポーツの視点からアスリートのスポーツキャリアとその支援について、草の根スポーツの視点から生涯を通じたスポーツの関わり方、さらにはスポーツに関連した職業などをテーマとして取扱います。受講するみなさんが自身のキャリアを考えるうえでも役に立つことを期待しています。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

スポーツキャリアの専門的知識習得と基本的な課題の理解

スポーツキャリアの課題解決方を立案

#### 目標：

スポーツキャリアに関わる問題を知り、専門的知識を課題の理解に役立てることができる。

スポーツキャリアに関連した課題を解決するために、専門的知識に裏付けられた方向性を示すことができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力

スポーツキャリアの課題を発見できるようになる。

課題解決に向けた計画立案能力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

振り返りレポート	30%	： 内容の妥当性と論理構成について、独自のルーブリックを用いて評価します。
グループによるプレゼン	30%	： スポーツキャリアに関わる課題解決方の発表（第13回、第14回）について、独自のルーブリックを用いて評価する。
学期末レポート	40%	： 内容の妥当性と論理構成について、独自のルーブリックを用いて評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

テーマや必要性に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 2限（10：30～12：00）

場所： 研究室

備考・注意事項： 授業に関する質問等はメールでも受け付けます（furuakwa-t@osaka-seikei.ac.jp）。メールには忘れずに、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

回	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	スポーツキャリアとは何か	次のキーワードについて予習し講義に備えること。スポーツキャリア、デュアルキャリア、セカンドキャリア、スポーツキャリア支援	4時間
		講義の流れと成績評価を説明した後、本講義におけるスポーツキャリアの概念について説明する。	
第2回	自己理解～これまでの人生とスポーツの関わり～	これまで自分自身が歩んできたキャリアとスポーツの関わり方について振り返りしておくこと。	4時間

	自己分析ワークを通して、自身のキャリアとスポーツのキャリアを理解し、具体的に説明できるようにします。		
第3回	<b>ハイパフォーマンスアスリートになるために、王道はあるのか？</b> 第3回～6回の講義では、ハイパフォーマンスアスリートのキャリアについて考えます。本講義では、ハイパフォーマンスアスリートのパスウェイについて学び、アスリートはどのような経験を経ることで競技力を高めていくのかについて理解します。	世界で活躍するアスリートについてはどのような競技経験を持っているのかについて調べておくこと。	4時間
第4回	<b>人生におけるスポーツのキャリア</b> デュアルキャリアの概念から、アスリートがスポーツのキャリアを人生のキャリアと共にどのように両立していくことが望まれているのか学ぶ。また、アスリートデュアルキャリアの支援の在り方について考える。	第1回目の講義の復習をしておくこと。また、競技を引退したアスリートが現在どのようなキャリアを歩んでいるのかについて調べてみること。	4時間
第5回	<b>アスリートの”引退”について考える</b> アスリートが競技を引退するのは何が要因となっているのか、また引退後のキャリアへ円滑に進むためにはどのような取り組みが必要なのかについて学ぶ。	引退の概念について、自分なりに考えをまとめておくこと。また、アスリートの引退について、競技団体や所属チーム、アスリート自身に関する課題点を整理しておくこと。	4時間
第6回	<b>スポーツキャリアの支援方策の現状</b> アスリートがデュアルキャリアを両立させるため、また引退したアスリートが次のキャリアに進む為に行われている支援方策について学ぶ。	アスリートの支援として現在、どのような取り組みがなされているのか事前に予習しておくこと。	4時間
第7回	<b>スポーツ実施率はなぜ向上しないのか？</b> 第7回～8回の講義では、生涯スポーツとしてのスポーツキャリアについて考えていきます。本講義では、スポーツ実施率に触れながら、その課題と一生涯を通じたスポーツへの関わり方について学びます。	スポーツ庁のwebサイトを参照し、スポーツ実施率の動向について確認すること。また、近年スポーツ実施率が維持傾向だった理由について自分なりの考えをまとめておくこと。	4時間
第8回	<b>スポーツからのドロップアウトについて考える</b> スポーツにおけるドロップアウトの考え方を学びます。また、ドロップアウトの要因やその対策について考えます。	ドロップアウトをキーワードに、予習を進めること。また、部活動や所属クラブを途中で辞めた人がいれば、なぜ辞めるに至ったのか話を聞いてみること。	4時間
第9回	<b>スポーツに関わるキャリアとは？</b> スポーツ産業の全体像を概観しつつ、多様な職業について考えます。	スポーツ産業とは何か、またスポーツに関連する職業とは何かを予め予習しておくこと。	4時間
第10回	<b>する・みる・ささえる・つくるの視点からスポーツのキャリアを考える</b> スポーツキャリアの支援方策に関連した、グループによるプレゼン発表に向けて第3回から第10回のまとめを行う。さらに、スポーツをつくるという考え方にも触れて、人生というキャリアの中でどのようなスポーツとの関わりがあるのか考える。	第3回から第9回までの講義の復習をすること。また、ハイパフォーマンスアスリート、生涯スポーツ、スポーツに関するキャリアなど、取扱ってきたテーマの中から、より関心のあるテーマを選んでおくこと。	4時間
第11回	<b>プレゼンテーションに向けた準備～課題設定～</b> スポーツキャリアに関する課題を各自設定し、類似したテーマの同士でグループを作り、プレゼンテーションに向けたテーマ設定と問題意識の共有を図る。	グループごとに随時集まり、役割に沿った準備を進めること。	4時間
第12回	<b>プレゼンテーションに向けた準備～スポーツキャリア支援方策の策定～</b> 各グループで設定した課題を解決するための、スポーツキャリア支援方策を検討すると同時に、プレゼンテーションに向けた準備も行う。	プレゼンテーションに向けた資料作り	4時間
第13回	<b>スポーツキャリア支援方策のプレゼンテーション（1）</b> 各グループで設定した課題について発表する。課題設定の妥当性、論理的構成、発表態度を意識した発表とすること。	予習として、発表練習。復習として発表の振り返りやコメントのフィードバックから改善点を検討すること。	4時間
第14回	<b>スポーツキャリア支援方策のプレゼンテーション（2）</b> 各グループで設定した課題について発表する。課題設定の妥当性、論理的構成、発表態度を意識した発表とすること。	予習として、発表練習。復習として発表の振り返りやコメントのフィードバックから改善点を検討すること。	4時間
第15回	<b>スポーツキャリアについてのまとめ</b> 全グループに対するフィードバックを行うと共に、講義全体のまとめを行う。改めてスポーツキャリアとは何か、各自のスポーツキャリアに照らし合わせながら考えてみる。	講義全体のまとめをしておくこと。	4時間

授業科目名	<b>食品加工学</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当。（全15回）				

### 授業概要

この授業では、安全・安心で豊かな食生活に欠かせない食品の加工・保蔵に関する知識と応用事例について学びます。食品の保蔵方法、包装の種類と材料、食品加工技術、食品添加物、加工食品のさまざまな表示、農産食品、畜産食品、水産食品、発酵食品、調味料、嗜好飲料、インスタント食品、コビー食品などの加工方法を講義とグループワークを通して理解します。市販の加工食品から加工方法や原材料特性、表示内容を読みとり、品質保証や食品開発などに役立てられるようになることを目標とします。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

食品加工の役割と技術、さまざまな加工食品や原材料の特性、食品表示についても理解を深めます。

#### 目標：

食品加工と貯蔵、食品表示について理解を深め品質保証や食品開発に役立てます。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

食品製造業（メーカー）の各業種毎に抱えている課題を発見します。

グループワークでは自己の主張を上手に伝え、相手の意見を引き出します。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業での発言量・質	20%	: 授業内の発問への回答やグループワークに積極的に参加しているかどうか、発表内容が適正で分かりやすいかどうかを評価します。
レポート(2回)	20%	: 与えられた課題に対し、授業で学んだ正しい知識に基づき読み手に分かりやすく論述できているかどうかを評価します。
定期試験	60%	: 専門知識を問われる課題に対して、授業で学んだ正しい知識に基づき回答できているかどうかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

板垣康治他『食べ物と健康Ⅲ』（第一出版社、2017年）  
菅原龍幸・宮尾茂雄『三訂 食品加工学』（建帛社、2015年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

日頃からテレビ、新聞、雑誌、webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションおよび食品加工・保蔵の食生活</b> 授業の進め方や評価方法などを説明します。食品加工・保蔵の目的と分類、栄養成分、食生活との関係について学びます。	4時間
第2回	<b>食品の保蔵</b> 乾燥、塩蔵、糖蔵、酸貯蔵、燻煙、低温、加熱、品質保持剤、放射線照射の意義と仕組みについて学びます。	4時間
第3回	<b>食品の包装</b> 包装の種類、包装材料の意義と仕組みについて学びます。また、ハイプラスチック類による自然環境問題についても考えます。	4時間

第4回	<b>食品加工操作・技術</b> 3つの基本操作、エクストルーダー、超高压処理、通電過熱の意義と仕組みについて学びます。	市販加工食品の加工方法について調べてください。	4時間
第5回	<b>食品添加物と食品加工</b> 食品添加物の種類・用途、加工食品の安全性確保の意義と仕組みについて学びます。	市販加工食品の添加物について調べてください。	4時間
第6回	<b>加工食品の表示</b> 食品表示法に基づく品質表示、栄養成分表示、遺伝子組換え表示、アレルギー表示の意義と仕組みについて学びます。	市販加工食品の裏面表示について調べてください。	4時間
第7回	<b>グループワーク①（食品加工・保蔵技術など）</b> グループワークにより食品加工・保蔵技術、食品添加物、さまざまな表示などを調査・発表します。	各自でレポートを作成してください。	4時間
第8回	<b>農産加工品・食用油脂</b> パン、麺類、味噌、醤油、大豆油、オリーブ油の特徴と加工特性について学びます。	市販加工食品の農産加工品、食用油脂について調べてください。	4時間
第9回	<b>畜産・水産加工品</b> ハム・ソーセージ、チーズ、バター、マヨネーズおよび、かまぼこ、塩蔵品、魚肉缶詰の特徴と加工特性について学びます。	市販加工食品の畜産・水産加工品について調べてください。	4時間
第10回	<b>アルコール飲料</b> ビール、日本酒、ワイン、ウイスキーの特徴と加工特性について学びます。	市販加工食品のアルコール飲料について調べてください。	4時間
第11回	<b>調味料・嗜好飲料</b> グルタミン酸Na、塩、甘味料、香辛料、コーヒー、紅茶の特徴と加工特性について学びます。	市販加工食品の調味料・嗜好飲料について調べてください。	4時間
第12回	<b>インスタント食品</b> 冷凍食品、レトルトパウチ食品、フリーズドライ食品の特徴と加工特性について学びます。	市販加工食品のインスタント食品について調べてください。	4時間
第13回	<b>機能性食品</b> 特別用途食品、栄養機能食品、特定保健用食品、機能性表示食品の意義と特徴について学びます。	市販加工食品の機能性について調べてください。	4時間
第14回	<b>グループワーク②（各種の加工食品など）</b> グループワークにより市販されている各種の加工食品について、加工技術や特性などを調査・発表します。	各自でレポートを作成してください。	4時間
第15回	<b>食品加工の課題と今後の展望</b> これまでの振り返り、消費者から求められる食品加工・保蔵のあり方について考察します。	定期試験は持込不可とし、定期試験期間中に行います。この授業で学んだことを振り返り・復習してください。	4時間

授業科目名	<b>商品開発【経営】／【食】</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義および演習（グループワークを含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当。（全15回）				

### 授業概要

この授業では、ヒット商品を開発するために必要となる商品企画やマーケティングに関する専門知識を学びます。また、企業のプロジェクトチームに参加し、商品開発の一連のプロセスを体験するシミュレーション型学習を行います。商品コンセプトの立案、ブランドネーミング、ポジショニング戦略、商品企画、販促プロモーション、プレスリリース、新商品発表会などをグループワークで体験することにより、商品開発を実践できるレベルまで理解を深めます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

商品開発に必要な専門知識を学び、商品開発の一連のプロセスを体験できるシミュレーション型学習を行います。

#### 目標：

グループワークで商品開発を実践できるレベルまで理解を深めます。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP10. 忠恕の心

顧客の潜在ニーズを捉え、商品コンセプトを立案します。

商品開発プロセスのアクションプランを立案します。

アクションプランに沿って行動・実践し、開発プロセスを推進します。

グループで役割分担してチームワークよく連携します。

誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指します。

### 学外連携学修

有り（連携先：日本ハム㈱、タイガー魔法瓶㈱ 他）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： 授業で与えられた課題や開発プロセスに対し、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
提出物	20%	： 商品企画、販促プロモーション、プレスリリースなどに独自性があり、経営の観点から魅力的であったかどうかを評価します。
新商品発表会	40%	： グループで開発した商品の特長をアピールできているか、顧客から支持を得られるものであったかどうかを評価します。
期末レポート	20%	： 指定された日時までに提出されたレポートについて、独自の視点からマーケットインの考え方に基づき、効果的な商品企画を提案できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

末吉孝生著『コレが欲しかった！と言われる「商品企画」のきほん』（翔泳社、2014年）  
片岡榮子・片岡二郎『食品開発ガイドブック』（地人書館、2011年）  
必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

日頃からスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで販売されている市販商品について、コンセプトや販促方法など考察し、商品開発のヒントを掴んでください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 2限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画		授業外学修課題にかかると自安の時間	
第1回	<b>オリエンテーションおよびマーケティング（基礎）</b> 授業の進め方や評価方法などを説明します。マーケティング（基礎）として「顧客と消費者」「マーケティングの定義・考え方」「マーケティングプロセスの全体像」について学びます。	各自でどのような商品を開発したいのか考えてきてください。	4時間
第2回	<b>6次産業化①（6次産業化の基礎とその関連法規）</b> 最近、注目されている6次産業化について「意味と目的」「メカニズム」「パターン」を学びます。また、6次産業化法、農商工連携法、それらを推進するための各種支援制度についても理解します。	「食の6次産業化プロデューサー（食Pro.）」について調べてきてください。	4時間
第3回	<b>PBL課題の提示</b> ゲストスピーカー（企業の商品開発者）を招いて特別授業を開催し、市場動向に基づき新商品に求められているものなどを学ぶと共に、PBL課題を提示していただきます。その後、グループワークに取り組むプロジェクトチームを発足します。	日本ハム㈱とタイガー魔法瓶の公式サイトで商品情報を調べてきてください。	4時間
第4回	<b>内部環境分析・外部環境分析</b> PBL課題を提示して頂いた企業の公式サイトをよく読んで強み弱みを検討します。また、SWOT分析などの手法により外部環境分析を行い、商品開発の方向性を検討します。	グループ毎に商品開発の方向性を話し合ってください。	4時間
第5回	<b>顧客の絞込み・市場セグメンテーション</b> 前回検討した商品開発の方向性を踏まえ、顧客の絞込みと市場セグメンテーションを行います。	グループ毎に顧客の絞込みと市場セグメンテーションを話し合ってください。	4時間
第6回	<b>顧客ストーリー・ターゲット設定</b> これまでの商品開発プロセスを踏まえ、具体的な顧客ストーリーを考え、メインターゲットを設定します。	グループ毎に顧客ストーリーとメインターゲットを話し合ってください。	4時間
第7回	<b>6次産業化②（6次産業化の事例）</b> 商品開発のヒントとして、6次産業化の成功事例と失敗事例から6次産業化を行う際に重要なファクターについて考察します。	6次産業化の成功事例を2～3つ調べてきてください。	4時間
第8回	<b>商品コンセプト・顧客ベネフィット</b> 新商品のコンセプトと顧客ベネフィットを検討します。	グループ毎に商品コンセプトと顧客ベネフィットを話し合ってください。	4時間
第9回	<b>競合商品・ポジショニング</b> 新商品と市場で競合する他社商品に対し、優位性のあるポジショニングを検討します。	グループ毎に競合商品とのポジショニングを話し合ってください。	4時間
第10回	<b>商品企画書の作成</b> これまでの一連の取り組み結果に基づき、商品企画書を作成します。	グループ毎に商品企画書を作成してください。	4時間
第11回	<b>商品企画書のブラッシュアップ</b> グループで話し合い、作成した商品企画書をブラッシュアップします。グループ毎に完成した商品企画書を提出してください。	グループ毎に商品企画書を作成してください。	4時間
第12回	<b>販促プラン・プレスリリースの作成</b> これまでの一連の取り組み結果に基づき、販促プランとプレスリリースを作成します。グループ毎に完成した販促プランとプレスリリースを提出してください。	グループ毎に販促プラン、プレスリリースを作成してください。	4時間
第13回	<b>6次産業化③（農業・水産業および食品加工・流通関連法規）</b> 商品開発と係わりのある農地法、都市計画法、家畜伝染病予防法、漁業法、PL法および、JAS法、景品表示法などの表示制度についても学びます。	PL法、JAS法、景品表示法について調べてきてください。	4時間
第14回	<b>新商品発表会（グループ発表）</b> これまで作成した商品企画書、販促プラン、プレスリリースを用いて、PBL課題に対する新商品発表を行います。グループ毎に完成したプレゼンテーション資料を提出してください。	グループ毎に新商品発表の練習をしてきてください。	4時間
第15回	<b>商品開発のまとめと振り返り</b> 商品開発について、これまで学んだことをまとめ、振り返り・復習します。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	期末レポートは指定された日時までに提出してください。	4時間

授業科目名	現代産業論 2 / 持続可能なマネジメント				
担当教員名	千代原 亮一				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

企業不祥事の病因（不祥事の発生メカニズム）を正しく理解する。  
現代社会において、豊かさを創造する企業の果たす役割は極めて高く、企業は「モラルな行為者」であることが期待されており、CSR（企業の社会的責任）やアカウンタビリティが企業の評価基準の一つとなっています。本講義では、「なぜ企業の不祥事が絶えないのか」の視点から、実際に起きた事例研究を通じて、不祥事の発生に至る因果関係の連鎖を詳細に分析し、それを予防するための経営実践上の含意を抽出します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を身につけ、政治問題や社会問題についてより深く理解する。

#### 目標：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を養い、政治問題や社会問題についてより深く理解できるようになる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通

複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。

他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

- ・定期試験は実施しない。

<評価基準（授業中ワークシート課題）>  
S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。  
A評価：到達目標を十分に達成している。  
B評価：到達目標を達成している。  
C評価：到達目標を最低限達成している。  
D評価：到達目標を達成していない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

試験（各授業回におけるワークシート課題） 60%

グループ討議における協調作業成果 40%

#### 評価の基準

： 各回の授業内容を踏まえたワークシートの課題について、講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた内容を合格とする。単に講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。

： グループ討議における協調作業の過程と成果を発言内容・討議参加の積極性・発表態度などにより評価する。グループ討議への参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布します。

①有森隆(著)『社長解任 権力闘争の内幕』(さくら舎、2016年)、②井上泉(著)『企業不祥事の研究: 経営者の視点から不祥事を見る』(文真堂、2015年)、③金田信一郎(著)『失敗の研究 巨大組織が崩れるとき』(日本経済新聞社出版社、2016年)、④竹内朗ほか(編著)『企業不祥事インデックス』(商事法務、2015年)、⑤八田進二『【事例でみる】企業不正の理論と対応』(同文館出版、2013年)⑥樋口晴彦(著)『なぜ、企業は不祥事を繰り返すのかー有名事件13の原因メカニズムに迫るー』(日刊工業新聞社、2015年)、⑦樋口晴彦(著)『続 なぜ、企業は不祥事を繰り返すのかー有名事件13の原因メカニズムに迫るー』(日刊工業新聞社、2017年)、⑧『ヤバい決算書』(日本経済新聞出版社、2017年)。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・規定の回数以上の授業に出席すること。
- ・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
- ・この授業では、グループ討議における評価が成績評価において多くの割合を占めているため、授業中はディスカッションに積極的に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜5時限目  
場所： 西館3階個人研究室

### 授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	<b>企業不祥事と企業の社会的責任（CSR）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業不祥事とは何か</li> <li>・企業不祥事の定義・分類</li> <li>・東海テレビの「び〜かんテレビ」放送事故</li> </ul>	「企業不祥事」の分類の仕方には、どのようなものがあるかについてまとめておこう。	4時間
第2回	<b>企業不祥事の原因を考える</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営プロセスの分解</li> <li>・業務不全の原因を見極める</li> <li>・不祥事が起こりやすい企業の7つの特徴</li> </ul>	企業不祥事が発生する原因について、自分の考えをまとめておこう。	4時間
第3回	<b>企業責任と不正のトライアングル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業不正とコンプライアンス違反</li> <li>・不正のトライアングル仮説</li> <li>・企業不正と不正リスクの3要素</li> </ul>	「不正のトライアングル仮説」の意味について調べておこう。	4時間
第4回	<b>製品事故（雪印乳業牛肉偽装事件を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品偽装と企業責任</li> <li>・雪印乳業牛肉偽装事件</li> <li>・ダスキン肉まん未認可添加物混入事件</li> <li>・不二家消費期限切れ原料使用事件</li> </ul>	雪印乳業牛肉偽装事件の概要について調べておこう。	4時間
第5回	<b>課題解決型学習①（なぜ不祥事は起きたのか）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年～2018年に発生した企業不祥事について、「その発生原因は何か」ということについてグループ討議により分析し、「不祥事が起きやすい会社と起きにくい会社」の違いについて抽出する。</li> </ul>	2016年～2018年に発生した企業不祥事について、どのようなものがあるかについて調べ、その発生原因を分析しておこう。	4時間
第6回	<b>偽装・不当表示（阪急阪神ホテルズメニュー偽装事件を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤福表示偽装</li> <li>・阪急阪神ホテルズメニュー偽装事件</li> <li>・木曾路メニュー表示偽装</li> </ul>	阪急阪神ホテルズメニュー偽装事件の概要について調べておこう。	4時間
第7回	<b>情報セキュリティ（Yahoo! BBとベネッセの顧客情報漏えい事件を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Yahoo! BB顧客情報漏えい事件</li> <li>・個人情報漏えいと企業責任</li> <li>・ベネッセの顧客情報漏えい事件</li> </ul>	Yahoo! BB顧客情報漏えい事件の概要について調べておこう。	4時間
第8回	<b>不正会計・不実開示（ライブドアとオリンパスの粉飾決算事件を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計不正と企業責任</li> <li>・ライブドア粉飾決算事件</li> <li>・オリンパス粉飾決算事件</li> </ul>	ライブドア粉飾決算事件の概要について調べておこう。	4時間
第9回	<b>循環取引（加ト吉とメルシャン水産飼料事業部の循環取引事件を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環取引と企業責任</li> <li>・加ト吉循環取引事件</li> <li>・メルシャン水産飼料事業部の循環取引事件</li> </ul>	加ト吉循環取引事件の概要について調べておこう。	4時間
第10回	<b>反社会的勢力との取引（スルガコーポレーションとみずほ銀行の事例を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反社会的勢力との取引と企業責任</li> <li>・反社会的勢力とは</li> <li>・スルガコーポレーション事件</li> <li>・みずほ銀行反社会的勢力融資事件</li> </ul>	スルガコーポレーション事件の概要について調べておこう。	4時間
第11回	<b>ガバナンスの機能不全（大王製紙特別背任事件を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大王製紙会長による特別背任事件</li> <li>・創業家一族の強大な企業支配とグループの経営風土</li> </ul>	大王製紙特別背任事件の概要について調べておこう。	4時間
第12回	<b>課題解決型学習②（なぜ不祥事は見逃されたのか）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粉飾、破綻、経営不振で会社丸ごとか事業単位の売却、不祥事、巨額買収などの「有事」に直面した企業の決算書を読み込み、そこから「有事」の兆候は、①いつ頃から決算書の、②どこに、③どのように表れるのかをグループ討議によって抽出する。</li> </ul>	不祥事を起こした企業の決算書からは、どのような特徴を読み取ることができるかについてまとめておこう。	4時間
第13回	<b>交通・輸送業界における事故（JR西日本福知山線脱線事故を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR西日本福知山線脱線事故</li> <li>・関越道高速バス居眠り運転死傷事故</li> <li>・中日本高速道路笹子トンネル天井版落下事故</li> </ul>	JR西日本福知山線脱線事故の概要について調べておこう。	4時間
第14回	<b>検査データの改ざん（JR北海道検査データ改ざん問題を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR北海道レール検査データ改ざん</li> <li>・JR北海道検査データ改ざん問題</li> </ul>	JR北海道検査データ改ざん事件の概要について調べておこう。	4時間
第15回	<b>従業員による犯罪（アクリフーズ農薬混入事件を中心に）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクリフーズの農薬混入事件</li> </ul>	アクリフーズ農薬混入事件の概要について調べておこう。	4時間

授業科目名	現代産業論 2 / 外食・中食産業論				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

この授業では、食品流通論での学びを踏まえ、会社四季報、業界地図、主要企業の有価証券報告書、実際の店舗視察などの最新情報に基づき、外食・中食産業の現状と今後の課題について学びます。食品消費の変化、外食・中食市場のマーケティング、外食・中食産業の各業態（ファストフード、ファミリーレストラン、回転寿司、居酒屋、給食、持ち帰り弁当、百貨店地下惣菜など）の特徴や主要企業の戦略を学び、マクロ環境の変化に伴う今後の市場動向について、独自の見解がもてるレベルまで理解を深めます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

業界動向を把握するための調査方法や外食・中食産業の各業態の特徴・戦略などを学びます。

#### 目標：

外食・中食産業市場の動向について、独自の見解がもてるレベルまで理解を深めます。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

外食・中食産業の各業態毎に抱えている課題を発見します。  
グループワークでは自らの主張を上手に伝え、相手の意見を引き出します。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業での発言量・質	30%	: 授業内のグループワークに積極的に参加しているかどうか、スピーチの内容が適正で分かりやすいかどうかを評価します。
レポート(3回)	30%	: 与えられた課題に対し、独自の見解をもち、具体的な例を示して読み手に分かりやすく論述できているかどうかを評価します。
定期試験	40%	: 専門知識を応用して自身の意見を述べる課題に対して、授業で学んだ正しい知識に基づき、独自の見解を盛り込むことができているかどうかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

『業界地図2019年版』（日本経済新聞出版社、2018年）  
藤島廣二他『フード・マーケティング論』（筑波書房、2016年）  
必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習すること。

日頃からテレビ、新聞、雑誌、webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションおよび人口減少社会と食品消費</b> 授業の進め方や評価方法を説明します。人口減少社会の食品消費におけるポイントを学びます。	4時間 「食品流通論」で学んだことを復習しておいてください。
第2回	<b>外食産業①（ハンバーガー）</b> ハンバーガー業態の特徴、主要企業の戦略を比較し、ハンバーガー市場の今後の動向を考察します。	4時間 マクドナルド、モスバーガーの公式サイトで経営状況を確認してください。
第3回	<b>外食産業②（ファミリーレストラン）</b>	4時間 すかいらーく、サイゼリア、物語コーポレーションの公式サイトで経営状況を確認してください。また、次の授業までに特別授業のレポートを提出してください。

	ゲストスピーカー（企業人）を招いて特別授業を開催します。ファミリーレストラン業態の特徴、主要企業の戦略を比較し、ファミリーレストラン市場の今後の動向を考察します。		
第4回	<b>外食産業③（牛丼）</b> 牛丼業態の特徴、主要企業の戦略を比較し、牛丼市場の今後の動向を考察します。	すき家、吉野家、松屋の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第5回	<b>外食産業④（麺類）</b> 麺類（うどん、そば、ラーメン）業態の特徴、主要企業の戦略を比較し、麺類市場の今後の動向を考察します。	丸亀製麺、王将、リンガーハットの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第6回	<b>外食産業⑤（フライドチキン、ドーナツ）</b> フライドチキン、ドーナツ業態の特徴、主要企業の戦略を比較し、フライドチキン、ドーナツ市場の今後の動向を考察します。	ケンタッキーフライドチキン、ミスタードーナツの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第7回	<b>外食産業⑥（回転寿司）</b> 回転寿司業態の特徴、主要企業の戦略を比較し、回転寿司市場の今後の動向を考察します。	あきんどシロイ、無添加くら寿司、かつば寿司の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第8回	<b>外食産業⑦（居酒屋）</b> 居酒屋業態の特徴、主要企業の戦略を比較し、居酒屋市場の今後の動向を考察します。	モンテローザ、庄やグループ、チムニーの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第9回	<b>外食産業⑧（集団給食）</b> 集団給食業態の特徴、主要企業の戦略を比較し、集団給食市場の今後の動向を考察します。	日清医療食品、エムサービス、グリーンハウスの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第10回	<b>グループワーク①（外食産業）</b> 「30年後の外食産業に消費者が求めるものとは？」と題して、グループワークを行い、各自レポートを提出します。	次回の授業までにレポートを提出してください。	4時間
第11回	<b>中食産業①（コンビニエンスストアの弁当・惣菜）</b> コンビニエンスストアの弁当・惣菜の特徴、主要企業の戦略を比較し、これら中食市場の今後の動向を考察します。	セブンイレブン、ファミリーマート、ローソンの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第12回	<b>中食産業②（百貨店の地下惣菜）</b> 百貨店の地下惣菜の特徴、主要企業の戦略を比較し、これら中食市場の今後の動向を考察します。	ロック・フィールド、柿安本店の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第13回	<b>中食産業③（宅配業態）</b> 宅配業態（寿司、ピザ、弁当）の特徴、主要企業の戦略を比較し、これら中食市場の今後の動向を考察します。	プレナス、フォーシーズ、ライドオン・エクスプレスの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第14回	<b>グループワーク②（中食産業）</b> 「30年後の中食産業に消費者が求めるものとは？」と題して、グループワークを行い、各自レポートを提出します。	次回の授業までにレポートを提出してください。	4時間
第15回	<b>外食・中食産業の動向・まとめ</b> 外食・中食産業の業態別市場動向および業界再編の動向について学びます。これまでの授業で学んだことを振り返り、理解を深めます。	定期試験は持込不可とし、定期試験期間中に行います。この授業で学んだことを振り返り・復習してください。	4時間

授業科目名	<b>食品安全マネジメント</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

食品安全マネジメントでは、ヒトが口にする食品の安全と安心を、農場から食卓までのあらゆる場面において、確保するための管理方法を学びます。安全と安心は必ずしも一致しません。絶対に安全な（ゼロリスク）食品というものは無いといって過言ではありませんが、可能な限り安全を求める必要があります。安全性を確保すると同時に、その科学的根拠を十分に示し、消費者が安心感を持てるようにすることを可能にするための方法を学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

リスクマネジメント能力

#### 目標：

食品を安全に流通させるための知識を身に付ける

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料（過去の事件記事や文献）を引用しながら論理的にまとめられるようになる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- その他(以下に概要を記述)

企業の方をお招きした授業2回/15回

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

レポート	20%	： 日本で過去に発生した事故事例を調べ、原因についての分析および自分の考えを述べる事ができているかを評価します。
小テスト	40%	： 授業内容の理解度を確認します。
期末テスト	40%	： 安全性が高く安心して食べられるための食品衛生の技術とその意義が理解できているかを評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
植木幸英 他著	・ 食べ物と健康II 「食品衛生学」	・ 第一出版	・ 2017年

### 参考文献等

日本フードコーディネーター協会（2014）『フードコーディネーター教本3級試験対応テキスト』柴田書店

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

- 授業の内容や順番を変更する場合があります。
- 不定期ですが授業の最初に小テストを行うため配布プリントと教科書をよく読み復習しておいてください。
- 衛生関連のニュース特に食中毒について関心を持ち情報検索をこころがけてください。
- 『フードコーディネーター教本3級試験対応テキスト』の該当するページをよく読み理解しておいてください。
- 企業の方をお招きし現状や最新情報について学びます。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時間目

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

回	健康と食品衛生	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>健康と食品衛生</b> 健康の維持増進のために日々さまざまな飲食物を摂っている。またその行為は食べる喜びや楽しみを伴うものであり、安全性が高く安心して食べられるものでなくてはならない。ここでは食品衛生の概念について学ぶ。	安全・安心な食べものとはどういうものを調べる。 4時間
第2回	<b>食品衛生行政</b>	保健所の業務について理解する。 4時間

	戦前は有害化学物質の食品への悪質な添加などを犯罪として取り締まるものであったが、戦後は取締りよりも科学的な根拠に基づき、指導と監視に重点を移した現在の食品衛生行政が始まった。ここでは現代の食品の安全性確保のための考え方や、リスク管理のシステムを学ぶ。		
第3回	<b>食品衛生関連法規</b> 食品衛生に関連した法令のうち、食品安全基本法、農業取締法や食品衛生法（および関連条例）など主要なものについて、それらの概要を学ぶ。	関連法令が制定されるに至った事例について確認する。	4時間
第4回	<b>食品と微生物</b> 微生物とは、肉眼では見ることが出来ない微小な背物の呼び名で、さまざまな種類が存在する。微生物は、ヒトの生活に有益な働きをするものと、病原菌や腐敗菌などのような、ヒトの生活に有害な働きをするものがある。それらの種類の特徴を知った上で、食品と微生物との関係を学ぶ。	微生物の増殖と環境条件について調べる。	4時間
第5回	<b>食品の変質とその防止</b> 食品がその保存中に、劣化により食品本来の性質を消失し、“食品の外観、内容、さらに官能的にも食用に適さなくなる現象”のことを食品の変質という。そのような食品の変質の見極め方やその防止方法について学ぶ。	食品が変質する過程において、食品中に含まれる、糖質・脂質・たんぱく質の変化の過程を調べる。	4時間
第6回	<b>食中毒 1（微生物）</b> 一般に中毒とは、生理的に有害な物質が体内に入り、その科学的作用によって生理的異常を起こす現象をさす。このうち、有害な物質が飲食物とともに経口的に摂取されて起こる中毒を特に食中毒という。過去の食中毒発生状況より、予防方法を考える。	過去2-3年の間で起こった食中毒の事例より1件を選び、原因菌、原因物質、発症経路を調べ、予防方法（対策）についてまとめる。	4時間
第7回	<b>食中毒 2（ウイルス）</b> 食中毒 1と同じ（一般に中毒とは、生理的に有害な物質が体内に入り、その科学的作用によって生理的異常を起こす現象をさす。このうち、有害な物質が飲食物とともに経口的に摂取されて起こる中毒を特に食中毒という。過去の食中毒発生状況より、予防方法を考える。）	過去2-3年の間で起こった食中毒の事例より1件を選び、原因菌、原因物質、発症経路を調べ、予防方法（対策）についてまとめる。	4時間
第8回	<b>食品の媒介による感染症</b> 感染症の病原体である微生物や寄生虫が飲食物、手指、器具、昆虫などを介して経口的に人体に入り、体内に侵入して感染し、病気になることを経口感染という。このような飲食物の媒介による経口感染症の病原体は食品衛生法では食中毒原因物質として取り扱われている。ここでは病原体別に増殖と環境条件について学ぶ。	過去2-3年の間で起こった経口感染症の事例より1件を選び、原因菌、原因物質、発症経路を調べ、予防方法（対策）についてまとめる。	4時間
第9回	<b>食品・飲料水から感染する寄生虫</b> 寄生虫は、他の生物の犠牲により自己に有利な生活を営む動物である。寄生虫は、ヒトに感染してさまざまな影響を与えて健康被害を引き起こす。寄生虫症の現状を知りその予防方法を学ぶ。	過去2-3年の間で起こった寄生虫症の事例より1件を選び、原因菌、原因物質、発症経路を調べ、予防方法（対策）についてまとめる。	4時間
第10回	<b>食品中の汚染物質</b> 食品を汚染する物質には、カビ毒、有害化学物質、重金属、食品成分の変化による有害生成物質、混入異物がある。これらの発生事例より、どのような対策が危険性を避けるのかを考える。	これらの汚染物質には使用禁止になったものもあるが、避けようのないものもある。過去に起こった事例より1件を選び、今後の対策方法についてまとめる。	4時間
第11回	<b>食品添加物</b> 消費者は食品添加物に対し不信任を抱いているが、我が国の食生活が大きく変貌し多様な生活スタイルの存在には食品添加物が大きく寄与している背景がある。ここでは食品添加物のメリット・デメリットを学ぶ。	加工食品の中からジャンル別に3つを選び、それぞれの食品に含まれる食品添加物の特徴を調べ、考えられるメリット・デメリットについてまとめる。	4時間
第12回	<b>食品用の器具と容器包装</b> 戦後、高分子化学の発達により、新しい原材料による容器や包装が、食品の流通、保存に大きな役割をはたしている。しかし、中身である食材によっては、容器に使用されている材質の溶出が起こることがある。各種材質の特徴を知り、過去に起こった中毒の事例を学ぶ。	加工食品の中からジャンル別に3つを選び、それぞれの食品に使われている容器や包装の材質を調べ、その妥当性や危険性をまとめる。	4時間
第13回	<b>食品衛生管理の事例</b> 食品衛生管理の最も重要な目的は食中毒発生の防止である。食中毒の大部分は細菌性食中毒であり、飲食店では細菌性食中毒予防の3原則が重要なポイントとなる。ここでは食中毒の防止について学ぶ。また食品衛生管理の事例を学ぶ。	自身の台所で行っている衛生管理について列記し自己評価を行い、さらに追加すべき予防方法について提案する。	4時間
第14回	<b>GAP・HACCPによる食品衛生管理のプラン例</b> GAPとは農業において食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための、関連する生産工程管理の取組である。取引先や消費者が直接確認できない生産工程における安全管理、持続可能性の取組を、第三者が審査して、証明することが消費者にどのような影響を与えるのかを理解する。HACCP（ハサップ）とは我が国では一般に「危害分析重要管理点方式」と呼ばれている。プラン例をもとにHACCPプラン表作成の様式を知ること、加工食品が製造過程でどのようなポイントを抑えるべきかを理解する。	調理実習で実習したメニューの内、1品を選び、その製造におけるHACCPプラン表を作成する。	4時間
第15回	<b>食品の安全性問題</b> 食品の安全性問題の対象食品として、輸入食品、遺伝子組み換え食品、放射線照射食品について学ぶ。また、トレーサビリティ・FCP（フード・コミュニケーション・プロジェクト）・食品ロスについても学ぶ。	食品の安全性問題について興味のある分野から1つを選び現状をまとめる。	4時間

授業科目名	フードコーディネーター論/フードコーディネーター基礎				
担当教員名	山岡正弘				
学年・コース等	1・2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	約30年ホテル料飲部門で開業業務勤務、退職後フードビジネスコンサルティングオフィス代表として実務を経験。(全15回)				

### 授業概要

食文化「食の歴史と文化と風土」「食品・食材の知識」「調理方法と調理機器」、健康と栄養と安全「厨房の基礎知識」「健康と栄養」「食の安全」、食環境デザインと芸術的創造「食空間のあり方」「食空間と内装デザイン」「食空間とテーブルコーディネート」「テーブルサービスとマナー」、経済的概念と食関連事業経営実務「メニュープランニング」「食の企画・構成・演出の流れ」のフードコーディネーターに必要なスキルを身につける。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

フードコーディネーターに必要な基礎知識

#### 目標：

食ビジネス経営に活用出来るスキルを磨く

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力

理論的に課題発見ができる

習得した知識・技能を実践の中で応用することが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	70%	： フードコーディネーター基礎知識で基礎学力の習得度を筆記試験で実施する。
小テスト	30%	： 授業期間中に振り返りテストを実施し、理解度の評価をする。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本フードコーディネーター協会	新版 フードコーディネーター教本	柴田書店	2017年

### 参考文献等

【参考文献】  
 フードコーディネーター教本 3級資格認定試験対応テキスト2016年版 日本フードコーディネーター協会柴田書店  
 フードコーディネーター教本 2級資格認定試験対応テキスト 日本フードコーディネーター協会  
 株式会社三恵社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
 場所： 教室  
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
 メールアドレス：ppp-yamaoka@ares.eonet.ne.jp  
 メールには必ず氏名と所属を書くこと。

### 授業計画

回	内容	参考書	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>食の歴史と文化と風土 (1) アジア</b> 日本料理、中国料理の料理について解説。	フードコーディネーター教本 第1章 食の歴史と文化と風土第1節から第3節を熟読する。	4時間
第2回	<b>食の歴史と文化と風土 (2) 欧米</b> 西洋料理、その他の国の料理について解説。	フードコーディネーター教本 第1章 食の歴史と文化と風土第4節から第5節を熟読する。	4時間
第3回	<b>食品・食材の知識 (1) メイン食材</b> 肉類、魚類について解説。	フードコーディネーター教本 第2章 食品・食材の知識 第1節から第3節を熟読する。	4時間
第4回	<b>食品・食材の知識 (2) サイド食材</b> 豆・大豆・大豆製品、野菜・キノコ・海藻、乳・乳製品・卵について解説。	フードコーディネーター教本 第2章 食品・食材の知識 第4節から第6節を熟読する。	4時間

第5回	<b>食品・食材の知識 (3) その他の食材</b>  穀物類、酒・ドリンク類、調味料・香辛料、加工品について解説。	フードコーディネーター教本 第2章 食品・食材の知識 第7節から第10節を熟読する。	4時間
第6回	<b>健康と栄養</b>  栄養素の働き、6つの基礎食品群、食生活と健康づくりについて解説。	フードコーディネーター教本 第5章 健康と栄養を熟読する。	4時間
第7回	<b>調理方法と調理機器</b>  調理器具、調理の基本	フードコーディネーター教本 第3章 調理方法と調理機器食 第1節から第3節を熟読する。	4時間
第8回	<b>厨房の基礎知識</b>  厨房計画とメニュー内容の関係、図面の読み方、厨房機器の種類と標準寸法、洗浄計画の基本、キッチンスタイルの基本、厨房計画の進め方について解説。	フードコーディネーター教本 第4章 厨房の基礎知識 第1節から第7節を熟読する。	4時間
第9回	<b>健康と栄養</b>  栄養の働き、6つの基礎食品群、食生活と健康づくりについて解説。	フードコーディネーター教本 第5章 健康と栄養 第1節から第4節を熟読する。	4時間
第10回	<b>食の安全</b>  衛生微生物、経口伝染病とその他の病気、食中毒、寄生虫、食品異物、食品添加物、食品の腐敗、食品衛生対策、食品の品質表示制度、食物アレルギーについて解説。	フードコーディネーター教本 第6章 食の安全 第1節から第10節を熟読する。	4時間
第11回	<b>食空間のあり方、食空間と内装デザイン</b>  食空間のあり方、家庭の食空間、店舗設計・平面計画の進め方、サービス動線と客動線の基本、サービスとオペレーションシステムのチェックポイント、飲食店の客席計画の基本について解説。	フードコーディネーター教本 第7章 食空間のあり方 第1節から第3節。第8章 食空間と内装デザイン 第1節から第5節を熟読する。	4時間
第12回	<b>食空間とテーブルコーディネート</b>  テーブルコーディネートとは、テーブルコーディネートの基本的理論、食空間の構成～洋食～、食空間の構成～和食～、食空間の構成～中国～について解説。	フードコーディネーター教本 第9章 食空間とテーブルコーディネート 第1節から第5節を熟読する。	4時間
第13回	<b>テーブルマナーとサービス</b>  テーブルマナー、サービスマナー、プロトコール、席次について解説。	フードコーディネーター教本 第10章 テーブルマナーとサービス 第1節から第5節を熟読する。	4時間
第14回	<b>メニュープランニング、食の企画・構成・演出の流れ</b>  メニュープランニングの流れ、トレンドの読み方、食品流通とメニュー作り、メニュープランニング・シート、メニュープランニングの事例、レストラン以外のメニュープランニング、食の企画の流れ、企画・立案のコツ、企画書を考える上で必要な項目、オリエンテーションや依頼内容のチェック、ビジネス企画書の基本構成について解説。	フードコーディネーター教本 第12章 メニュープランニング 第1節から第7節 第13章 食の企画・構成・演出の流れ 第1節から第6節を熟読する。	4時間
第15回	<b>フードコーディネーター「文化」「科学」「デザイン・アート」「経済・経営」の総括</b> フードコーディネーター「文化」「科学」「デザイン・アート」「経済・経営」の総括ポイントを解説。	小テスト及び配布プリントの見直し	4時間

授業科目名	<b>食文化論</b>				
担当教員名	岡村美里				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

日本や世界の食文化について学びます。食をコーディネートするためには、食文化の知識が必要です。料理面（味の面）と食態度・食行動・食生活面の両面から食文化について学び、さらに他の地域の食文化と比較することにより、文化相対主義的な見方を養い、異なる食文化に対する寛容で受容的な態度を培うことを目指します。また、今日の国際化時代における食文化の共通化、世界化現象を認識するとともに、食文化を創造していくための資質を養います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

日本および世界の食文化の知識や、文化相対主義的な態度を習得し、自らの食文化を創造していく

#### 目標：

日本や世界の食文化の文化的側面を理解することができる

#### 汎用的な力

- DP8. 意思疎通

文化相対主義的な態度を習得し、自らの食文化を創造していく中で、学び合った内容を、分かりやすい文書や発表資料が作成できる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 実験、実技、実習
- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験の得点	50%	： 定期試験の得点60点以上：到達目標を優れて満たしている。 定期試験の得点40点以上：到達目標を十分に満たしている。
確認テスト	30%	： 正答率、提出回数を評価します
授業への積極的参加度（レポートなど提出物）	20%	： 提出物の提出回数、文書表現の正確さなど内容について評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本フードコーディネーター協会編	新版フードコーディネーター教本	柴田書店	2017年

### 参考文献等

石毛直道『食文化入門』講談社、樋口清之『日本食物史』柴田書店、大塚滋『食の文化史』中公新書

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

高校で学習する家庭・日本地理・世界地理・日本史・世界史の知識を必要とする。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 質問は、授業時間内もしくは、前後に応える。

### 授業計画

回	内容	教科書	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>食の歴史・文化・風土の概説</b> ・食文化の成り立ちについて学ぶ。 ・多様な食文化について知る。 ・食文化の共通化と国際化について理解する。	教科書11～13ページを読み復習する。	4時間
第2回	<b>日本料理の歴史1（原始・古代）</b> ・縄文・弥生時代の食文化を学ぶ。 ・古墳・飛鳥・奈良時代の食文化を学ぶ。 ・平安時代の食文化を学ぶ。	教科書13～14ページを読み復習する。	4時間
第3回	<b>日本料理の歴史2（中世）</b> ・鎌倉時代の食文化を学ぶ。 ・室町時代の食文化を学ぶ。 ・安土桃山時代の食文化を学ぶ。	教科書14～15ページを読み復習する。	4時間

第4回	<b>日本料理の歴史3（近世・近代・現代）</b> ・江戸時代の食文化を学ぶ。 ・明治・大正・昭和時代の食文化を学ぶ。 ・現代（第二次世界大戦以降）の食文化を学ぶ。	教科書15～16ページを読み復習する。	4時間
第5回	<b>現代の食環境</b> ・食環境の変化の要因を知る。 ・広がる私たちの食生活、食物はどこから来るのかを理解する。 ・食文化の未来を学ぶ。	教科書16ページを読み復習する。	4時間
第6回	<b>日本料理の種類</b> ・日本料理の特徴を理解する。 ・日本料理様式（本膳料理、袱紗料理、精進料理、普茶料理、卓袱料理等）について学ぶ。 ・日本料理の調理技術、食事作法を知る。	教科書16～18ページを読み復習する。	4時間
第7回	<b>日本料理の献立を立てる際の注意点・行事食</b> ・日本の食生活の特徴を理解する。 ・食文化の地域性を知る。 ・行事食・伝統料理を学ぶ。	教科書18～22ページを読み復習する。	4時間
第8回	<b>日本の郷土料理</b> ・全国各地の郷土料理を知る。 ・郷土料理を学ぶことにより日本各地の食材を知る。 ・郷土料理を学ぶことにより日本各地の調味料、調理法を知る。	教科書22～24ページを読み復習する。	4時間
第9回	<b>和菓子の歴史</b> ・和菓子の歴史、特徴を知る。 ・年中行事と和菓子を理解する。	教科書24～26ページを読み復習する。	4時間
第10回	<b>中国料理の歴史・種類・特徴・献立</b> ・中国料理の変遷、特徴を理解する。 ・四大料理（北京、上海、四川、広東）を学ぶ。 ・中国料理様式、調理技術、食事作法を学ぶ。	教科書26～31ページを読み復習する。	4時間
第11回	<b>西洋料理の歴史・日本における西洋料理</b> ・古代・ギリシア、ローマ時代の西洋料理の食文化を学ぶ。 ・中世・ルネサンス期時代の西洋料理の食文化を学ぶ。 ・17～19世紀時代、現代の西洋料理の食文化を学ぶ。	教科書32～39ページを読み復習する。	4時間
第12回	<b>洋菓子の歴史・菓子とデザート・パンの歴史</b> ・洋菓子の歴史を学ぶ。 ・デザート・パンの歴史を学ぶ。	教科書39～45ページを読み復習する。	4時間
第13回	<b>その他の国の料理（欧米各国）</b> ・西洋料理の特徴、西洋各国料理（欧米各国）を学ぶ。 ・西洋料理様式を知る。 ・西洋料理の調理技術、食事作法を学ぶ。	教科書45～47ページを読み復習する。	4時間
第14回	<b>その他の国の料理（エスニック各国）</b> ・アジアの料理を知る。 ・中東の料理を知る。 ・中南米の料理を知る。	教科書47～48ページを読み復習する。	4時間
第15回	<b>食のコーディネートと食文化</b> ・食のコーディネートから食文化を総括する。 試験にむけて総復習する。	試験にむけて総復習する。	4時間

授業科目名	<b>食ビジネス経営論</b>				
担当教員名	山岡正弘				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	約30年ホテル料飲部門で開業業務勤務、退職後フードビジネスコンサルティングオフィス代表として実務を経験。(全15回)				

### 授業概要

飲食店プロデューサーとしての基礎知識を習得。  
食ビジネス経営の本質についてとフードサービス業の特性と市場動向、外食産業におけるマーケティング、飲食店の出店戦略、柱となる「顧客管理」「店舗運営」「従業員教育」「利益の管理」「人件費管理」「原価管理」「販売促進」「メニュー改定」「店舗リニューアル」を習得し、日本フードコーディネーター協会認定試験2級合格レベルを目指し、次の「食のビジネス経営実践」に繋げる。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力

#### 具体的内容：

食ビジネス経営に関する知識を学び、理解を深める

#### 目標：

食ビジネス経営論を活用し、的確な創造力と判断力が出来る。

理論的に課題発見ができる

習得した知識・技能を実践の中で応用することが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

定期試験

#### 評価の基準

：食ビジネス経営論で基礎学力の習熟度を筆記試験で実施します。

70%

小テスト

：従業期間中に振り返りテストを実施し、理解度の評価をする。未提出者は減点とする。

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考文献】  
フードコーディネーター教本 3級資格認定試験対応テキスト2016年版 日本フードコーディネーター協会柴田書店  
フードコーディネーター教本 2級資格認定試験対応テキスト 日本フードコーディネーター協会  
株式会社三恵社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
メールアドレス：ppp-yamaoka@ares.eonet.ne.jp  
メールには必ず氏名と所属を書くこと。

### 授業計画

回数	内容	学習目標	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>顧客満足～飲食店の顧客満足要素とは～ (1) 新規客と固定客</b> 経営の本質についてと新規客と固定客について解説。	新規客と固定客の特性について調べる	4時間
第2回	<b>顧客満足～飲食店の顧客満足要素とは～ (2) 分析手法</b> 飲食店の顧客満足要素、アンケート調査と活用法、来店動機と店舗コンセプトについて解説。	飲食店と小売店の満足要素の違いについて調べる	4時間
第3回	<b>店舗運営～飲食店のQSCとは～</b> QSC、店舗の快適性、QSCの評価方法について解説。	日本におけるQSCの歴史について調べる	4時間
第4回	<b>従業員教育～やる気を起こす教育とは～ (1) サービスの重要性</b> サービスの重要性、マニュアルの目的について解説。	マクドナルドの従業員教育についてHPで調べる	4時間
第5回	<b>従業員教育～やる気を起こす教育とは～ (2) 評価とモチベーション</b> 従業員教育の心得、評価とモチベーション	リッツカールトン大阪のクレドについて調べる	4時間
第6回	<b>利益の管理～損益計算書の作成とは～ (1) 演習</b>	勘定科目について調べる	4時間

	損益計算書の理解と損益計算書の演習。		
第7回	<b>利益の管理～損益計算書の作成とは～ (2) 応用</b> 利益に影響する3大要素、損益分岐点、損益分岐点計算の応用問題。	2017年度外食産業における売上ランクベスト10について調べる	4時間
第8回	<b>人件費管理～利益を生む適正人件費率とは～ (1) 人件費の算出方法</b> 人件費の算出方法、適正人件費率とFL比率について解説。	ファミリーレストラン&ファーストフードにおける人件費率を調べる	4時間
第9回	<b>人件費管理～利益を生む適正人件費率とは～ (2) 売上高予算と労働時間予算</b> 人時売上高、労働時間計画とシフト表、売上高予算と労働時間予算の作成	ファミリーレストラン&ファーストフードにおける人時売上高を調べる	4時間
第10回	<b>原価管理～戦略的な原価設定とは～ (1) 適正原価率</b> 原価の算出方法、棚卸し、適正原価率について解説。	ファミリーレストラン&ファーストフードにおける原価率について調べる	4時間
第11回	<b>原価管理～戦略的な原価設定とは～ (2) 異常値に対する対策</b> 異常値に対する対策、原価表の演習。	原価計算の仕組みを調べる	4時間
第12回	<b>販売促進～利用客の購買行動を知るとは～</b> 消費者の購買行動、販売促進の目的と計画立案、告知方法とツール、顧客管理の重要性について解説。	市場における販売促進のトレンドを調べる	4時間
第13回	<b>メニュー改定～売上アップを狙うには～</b> メニュー改定の目的、メニュー改定の検討項目、メニュー改定後のチェック項目、メニュー改定のシステムづくりについて解説。	HPなどで外食産業のメニューを調べる	4時間
第14回	<b>店舗リニューアル～改装計画の立て方とは～</b> リニューアルの目的、コンセプトの修正、改装場所と効果、リニューアルの優先度について解説。	ファミリーレストラン&ファーストフードの店舗リニューアルのサイクルを調べる	4時間
第15回	<b>事例を用いた経営・経営分析</b> 第1回～第14回までの学修要素を用いて、事例を用いて経営及び経営分析の基礎を解説。	第1回～第14回までの内容をまとめておく	4時間

授業科目名	<b>現代産業論 2 / 観光関連産業論</b>				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	教員による一方的な講義ではなく、受講者による学習・発表が主になります。発表内容に基づき、教員が補足説明することによって、学習内容の理解を深めます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

何らかの意味で楽しみを目的とする旅行を意味する観光は、国際的にも国内的にもますます盛んになっています。その結果、現在では観光が国の成長戦略の一翼に位置づけられるなど、その経済的重要性が高まり、企業経営や地域経営の分野で観光経営の在り方に関心が寄せられるようになりました。その中で、本講義では交通業、宿泊業、旅行業のみならず、観光に係る裾野の広い産業の概況ならびに現代産業との関わりについて学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

観光に関わる各種事業活動の経営の側面からの理解

#### 目標：

観光を経営学のアプローチにより理解することによって、観光関連の各種事業活動を担う多方面の企業で活躍できる力を身に付ける。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光関連産業の動向を把握してもらうことによって、観光における課題や今後のあり方について考察することが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

レポート・受講態度

#### 評価の基準

： 提示される課題についてレポートにまとめる。観光関連産業の動向を正しく調べ、自分の意見を述べる事が出来るのかの観点により評価する。また、受講態度を常にチェックし、平常点として成績に反映する。

40%

中間テスト

： 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。

30%

期末テスト

： 次の観点から評価する。1. 観光関連産業について正しく理解、2. 現代の観光に関わる各種事業活動における問題点を指摘し、その解決のための案を探ることまでつなげられるのか。

30%

### 使用教科書

指定する

#### 著者

岡本 伸之編著

#### タイトル

よくわかる観光学—観光経営学

#### 出版社

朝倉書店

#### 出版年

2013年

### 参考文献等

- 国土交通省「観光白書」、観光庁・日本政府観光局資料

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜1限（9：00－10：30）

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外にも、研究室にいる時は質問に応じる。

### 授業計画

第1回	ガイダンス・観光に関連する産業の広がり	シラバスを熟読しておく	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	現代産業において観光関連産業を学ぶ意義について学びます。観光に係る産業の広がりを理解します。		4時間
第2回	観光経営の基礎	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：サービスの特性、観光の構造）	4時間
第3回	観光まちづくり	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニューツーリズム、観光まちづくりプラットフォーム）	4時間
第4回	ICT革命と観光産業	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：サプライヤー、ICT）	4時間
	ニューツーリズム創出・流通促進事業をきっかけに定着した着地型旅行商品の特徴、持続可能な観光まちづくりのための中核となる組織の方向性について学びます。		
	ICTが観光者、サプライヤー、旅行業、観光地にどのような影響を与えているのかについて学びます。		

第5回	<b>交通産業経営</b> 交通業の定義、種類、輸送機関としての役割、サービスについて概観したうえで、経営かだいとして多角化について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：LCC, 経営の多角化）	4時間
第6回	<b>旅行産業経営—旅行業の近未来</b> 旅行業の機能と役割、種類を確認したうえで、パッケージツアーについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：パッケージツアー、MICE）	4時間
第7回	<b>宿泊産業経営</b> 宿泊業の歴史、分類、市場規模について概観したうえで、経営特性、今後の課題などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旅館業法、ホテルチェーン）	4時間
第8回	<b>Reviewと中間テスト</b> 今迄の授業内容を振り返り、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回	<b>外食産業経営</b> 外食産業の歴史、市場規模の推移、業種・業態の分類、経営特性、チェーンレストランについて概観したうえで、産業の現代的な課題として、環境問題への対応、観光の素材としての食への可能性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：地産地消、B級グルメ）	4時間
第10回	<b>博物館と美術館</b> 博物館・美術館の定義と観光地の中での博物館・美術館の役割などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：博物館、美術館）	4時間
第11回	<b>集客戦略</b> 集客の基本的な捉え方を、ターゲット設定、6W2Hの明確化、集客度合いの測定の観点から整理したうえで、集客方法の具体的な考え方などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マズローの欲求段階説、パレト法則）	4時間
第12回	<b>観光産業の人的資源管理</b> 観光産業の人的資源の特徴について概観したうえで、観光産業における接客場面の従業員の感情労働について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：柔軟性、エンカウンター）	4時間
第13回	<b>接遇と顧客満足</b> 日本のおもてなし、日本型の接客サービスについて確認したうえで、顧客感動に関する最新の研究動向について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：日本型サービス、顧客満足）	4時間
第14回	<b>ポストモダンと観光</b> 近代以降の観光旅行における消費の特徴、現在の観光関連産業がおかれている社会的・文化的状況について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：テーマパーク、ポストモダン）	4時間
第15回	<b>振り返り、まとめ</b> 現在までの授業内容をまとめます。	今迄のノートをまとめる	4時間

授業科目名	<b>観光政策論</b>				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	都市政策修士を有する（全15回）				

### 授業概要

観光は、経済効果や雇用創出の面から、日本の最も期待のかかる成長分野の一つです。この授業では観光における政策・制度について学びます。また日本の観光行政や観光制度について平成29年版「観光白書」を元に学びます。さらに観光庁ホームページや新聞記事から、特にインバウンドについての最新事例を取り上げ、その背景にある観光政策・制度の課題を発見します。そして、事例研究を通し、自ら積極的、主体的に働く力を身につけます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

専門的な力

#### 目標：

日本の観光政策を取り上げながら、観光に関する課題と将来について自身の考えを述べることができる。

#### 汎用的な力

- DP6. 行動・実践

観光に関する自身の考えが述べるように、情報を主体的に得ることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
期末レポート（事例研究）

#### 成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

#### 評価の基準

： 各回1～3点で評価し、合計45点満点とします。  
授業内容を踏まえた論述ができていれば2点とし、そこに自身の考えをのべることができていれば3点、重大な誤りや不足があれば1点とします。

45%

事例研究レポート

： レポートは55点満点とします。最前線の取り組みから課題発見できていれば30点、かつテーマに沿った最新事例について書かれていれば20点を加算します。また指定の形式に沿って書かれていれば5点加算します。

55%

### 使用教科書

指定する

#### 著者

国土交通省

#### タイトル

・ 平成30年版 観光白書

#### 出版社

・ 国土交通省

#### 出版年

・ 2018年

### 参考文献等

- ・観光庁・日本政府観光局資料等

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2時限（10:40～12:10）

場所： 西館2階 個人研究室15

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。  
アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp  
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

### 授業計画

回数	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス・政策とは何か</b>	観光政策を学ぶ意義について考えます。	4時間
第2回	<b>観光政策・制度</b>	観光立国の意義について考えます。	4時間
第3回	<b>大交流時代における観光政策</b>	インバウンド政策など、国内外の観光政策について理解します。	4時間
第4回	<b>日本の観光政策の流れ</b>	観光立国推進基本法など日本の観光政策について理解します。	4時間
第5回	<b>自治体、観光協会などにおける観光政策・制度の考察</b>	DMOの在り方について考えます。	4時間
第6回	<b>宿泊業に関する制度の考察</b>	観光庁ホームページや新聞を読み民泊について調べておくこと。	4時間

	民泊の背景にある制度について考えます。		
第7回	<b>旅客運輸業に関する制度の考察</b> LCCの背景にある制度について考えます。	観光庁ホームページや新聞を読みLCCについて調べておくこと。	4時間
第8回	<b>旅行業に関する制度の考察</b> 旅行業法を通して現状を理解します。	観光庁ホームページや新聞を読み旅行業法について調べておくこと。	4時間
第9回	<b>MICE</b> Meeting, Incentive Travel, Convention, Exhibition/eventの戦略について理解します。	観光庁ホームページや新聞を読みMICEについて調べておくこと。	4時間
第10回	<b>観光によるまちづくり事例研究（1）観光資源とは</b> 観光資源とは何か、資源の発掘から観光資源への開発などを事例から理解します。	観光庁ホームページや新聞を読み観光資源について調べておくこと。	4時間
第11回	<b>観光によるまちづくり事例研究（2）観光戦略とは</b> 広域連携など観光戦略を事例から理解します。	観光庁ホームページや新聞を読み広域連盟について調べておくこと。	4時間
第12回	<b>観光によるまちづくり事例研究（3）観光プロモーションとは</b> 観光プロモーションなどの取り組みを事例から理解します。	観光庁ホームページや新聞を読み観光プロモーションについて調べておくこと。	4時間
第13回	<b>観光によるまちづくり事例研究（4）観光のICT活用とは</b> 観光ICTの活用などを事例から理解します。	観光庁ホームページや新聞を読み観光のICT活用について調べておくこと。	4時間
第14回	<b>観光によるまちづくり事例研究（5）観光政策とは</b> 政策評価とPDCAなど、DMOの事例などから理解します。	観光庁ホームページや新聞を読み政策評価について調べておくこと。	4時間
第15回	<b>まとめとふりかえり</b> 観光政策の背景にある観光現象をまとめます。 例えば観光立国推進基本法などの政策によりどう変化したかを議論し課題を考えます。	振り返りシートを作成しておくこと。	4時間

授業科目名	<b>ホスピタリティ論</b>				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

二十一世紀は「心の時代」と言われている。また、二十一世紀の企業が激しい競争の中で勝ち残るためには、他企業との差をつけなければならないが、その差をつけるには、究極的には、模倣しがたいヒューマンウェアの部分しかない。ヒューマンウェアこそが、差別化、差異化を図る基盤である。このヒューマンウェアがホスピタリティを体現する。本講義では「ホスピタリティ」についての理解を深めると同時に、「ホスピタリティ」についての理解が社会生活上不可欠であること、そしてその活用的重要性を知ってもらう。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	<b>具体的内容：</b> ホスピタリティの意義・文化の起源・本質	<b>目標：</b> ホスピタリティに関する理念及び諸理論の習得とホスピタリティ企業の実践例を通して、重要性や実践のあり方についての理解を深めることができる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP6. 行動・実践		現代の社会には必要不可欠なホスピタリティの自らの実践を通して、幅広い教養や品格を備えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
 「試験（小テスト、中間テスト、期末テスト）」

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小レポート・受講態度	40%	： 教材の理解力、および課題意識について評価する。
中間テスト	30%	： 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
期末テスト	30%	： ホスピタリティの基礎知識を用いて自身の意見を述べる。1. ホスピタリティの基礎知識を正しく理解し、2. ホスピタリティの重要性や最高のホスピタリティ実践方法について提案できるのかの観点から評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

服部 勝人 (2004) 『ホスピタリティ・マネジメント入門』丸善株式会社  
 海老原 靖也 (2005) 『ホスピタリティ入門』大正大学出版会  
 ホスピタリティ・サービス研究会 (2007) 『事例でわかるホスピタリティ・サービス』日本能率協会マネジメントセンター

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜1限 (9:00-10:30)

場所： 研究室 (西館2階)

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

### 授業計画

回	内容	事前準備	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス&amp;ホスピタリティの意義、重要性</b> 学習内容や評価方法、受講における注意事項について説明したうえで、ホスピタリティとは何か今の時代なぜホスピタリティが重要なのかについて学びます。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回	<b>ホスピタリティ文化の起源（西洋）</b> 西洋におけるホスピタリティ文化の起源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：共飲共食、ホスピタル、ホスピス）	4時間
第3回	<b>ホスピタリティ文化の起源（東洋・日本）</b> 東洋と日本におけるホスピタリティ文化の起源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：社会的倫理の範疇、もてなす、ご馳走）	4時間
第4回	<b>ホスピタリティとサービスの語源</b> ホスピタリティとサービスの語源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピス、セルフバス）	4時間
第5回	<b>ホスピタリティとサービスの概念</b> ホスピタリティとサービスの概念について学び、相違点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：双方向、一方通行）	4時間

第6回	<b>ホスピタリティの本質</b> 相手が考えている一歩先をリードする、相手の器に全てを合わせていく、マニュアルには落とし込めないなどのホスピタリティの本質について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：相手の器、マニュアル）	4時間
第7回	<b>接客とクレーム</b> クレームの本質的な意味とクレームへの適切な対応について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ソフトの技術、クレーム）	4時間
第8回	<b>CS/ESと中間テスト</b> CS（顧客満足）とES（従業員満足）について学んだあと、今迄の授業内容を振り返り中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：CS, ES）	4時間
第9回	<b>サービス業に必要な人材</b> 他産業よりも人的資源の重要性の高いサービス業ではいったいどんな人材が求められているのかについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マネジメント、オペレーション）	4時間
第10回	<b>ホテル戦争1（東京ホテル戦争）</b> 2002年以降、外資系高級ホテルの多数の東京進出により起こった社会現象「東京ホテル戦争」を取り上げ、その背景や影響などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旧御三家、新御三家ホテル）	4時間
第11回	<b>ホテル戦争2（ジョブホップ）</b> 「東京ホテル戦争」がもたらした弊害について学んだ後、ホテルにおけるのヒューマンウェアの重要性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ジョブホップ）	4時間
第12回	<b>ホスピタリティを実践する企業（ホスピタリティの重要性）</b> ホスピタリティを実践する企業の事例を通して、ホスピタリティの重要性を確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旅行関連産業、宿泊産業）	4時間
第13回	<b>ホスピタリティを実践する企業（ホスピタリティ実践の多様性）</b> ホスピタリティを実践する企業の事例を通して、ホスピタリティ実践の多様性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：外食産業、余暇関連産業）	4時間
第14回	<b>ホスピタリティを実践する企業（具体的な実践方法）</b> ホスピタリティを実践する企業の事例を通して、具体的な実践方法について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：小売業、金融関連産業）	4時間
第15回	<b>振り返り、まとめ</b> 現在までの授業内容をまとめます。	ノートをまとめ、全体の内容を理解する。	4時間

授業科目名	<b>M I C Eビジネス論</b>				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義と演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年イベントに携わり、イベントの企画・立案および運営を担当。一般社団法人日本イベント産業振興協会認定である。(全15回)				

### 授業概要

本授業では、観光立国戦略の手段であるMICEについて学びます。MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。また、一般社団法人日本イベント産業振興協会認定授業でもあり、イベント企画・提案・制作が出来る基本的なスキルを体系的に学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	イベント業務の専門知識	イベント業務の知識、基礎的な企画・提案・制作ができる。
汎用的な力		イベント検定の知識を授業はもちろん、自学自習で習得します。
1. DP7. 完遂		

### 学外連携学修

有り (連携先：一般社団法人日本イベント産業振興協会)

### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

注意事項等	成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
原則として毎回出席すること。 試験(筆記)	授業態度	： 授業での積極的な態度を30点満点で評価し、積極性・主体性が見られれば30点、受動的であれば20点で評価します。
	振り返り	： 日々の振り返り。授業内容を踏まえた必要知識が理解できれば20点とし、そこに自身の考えをのべることができていれば30点、重大な誤りや不足があれば10点とします。
	専門的知識	： イベント検定の必要知識を40点満点で評価します。合格相当の知識があれば40点とします。
		30%
		30%
		40%

### 使用教科書

指定する	著者	タイトル	出版社	出版年
	一般社団法人日本イベント産業振興協会	イベント検定公式テキスト 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント	・	・ 年

### 参考文献等

観光庁・日本政府観光局資料

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、合計90時間の学修が求められます。一般社団法人日本イベント産業振興協会「イベント検定公式テキスト 基礎からわかるイベント」を必ず購入してください。一般社団法人日本イベント産業振興協会認定「イベント検定」試験を必ず受検してください(受験料別途)。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日2時限 (10:40～12:10)
場所：	西館2階 個人研究室15
備考・注意事項：	質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス・観光立国とMICE</b> MICEを学ぶ意義について考えます。	MICEに参加し現状について調べておきます。 4時間
第2回	<b>イベントの概念と全体像(1) イベントの定義</b> イベントの概念と分類	MICEに参加しイベントの概念を理解しておきます。 4時間
第3回	<b>イベントの概念と全体像(2) 社会の発展とイベント</b> イベントの歴史	MICEに参加しイベントの歴史を理解します。 4時間
第4回	<b>イベントの概念と全体像(3) イベントの役割</b> メディアとしてのイベント	MICEに参加しメディア的価値を理解しておきます。 4時間
第5回	<b>イベントの企画と計画(1) 企画の意味と本質</b>	MICEに参加してイベント企画とはなにか理解しておきます。 4時間

イベントの企画			
第6回	<b>イベントの企画と計画（2）計画の意味と本質</b> イベントの計画	M I C Eに参加してイベント計画とはなにか理解しておきます。	4時間
第7回	<b>イベントの企画と計画（3）イベント企画の構成要素</b> イベント企画書とプレゼンテーション	M I C Eに参加して実際の企画書を調べておきます。	4時間
第8回	<b>イベントの制作推進（1）制作と製作</b> イベントの制作推進と管理	M I C Eに参加して制作と管理について調べておきます。	4時間
第9回	<b>イベントの制作推進（2）イベントの4大管理</b> イベントの会場制作	M I C Eに参加して会場の制作について調べておきます。	4時間
第10回	<b>イベントの制作進行（3）イベントプログラムの概念</b> イベントのプログラム制作	M I C Eに参加してプログラムの制作について調べておきます。	4時間
第11回	<b>イベントの制作進行（4）告知・集客の考え方</b> イベントの告知・集客、参加者・来場者・協力者募集	M I C Eに参加して告知と集客方法を調べておきます。	4時間
第12回	<b>イベントの運営とマネジメント（1）広義の運営と狭義の運営</b> イベント運営の全体とイベント会場の運営業務	M I C Eに参加して運営の流れについて調べておきます。	4時間
第13回	<b>イベントの運営とマネジメント（2）イベント実施時の運営</b> イベント運営業務のポイント	M I C Eに参加して運営業務のポイントを調べておきます。	4時間
第14回	<b>イベントの運営とマネジメント（3）会場管理業務</b> リスクマネジメントと安全管理	M I C Eに参加してリスクマネジメントと安全管理について調べておきます。	4時間
第15回	<b>イベントの運営とマネジメント（4）ユニバーサルイベント</b> これからのイベントマネジメント	M I C Eに参加し自分ならばどう企画運営するか考えておきます。	4時間

授業科目名	マーケティングリサーチ				
担当教員名	田村 匡				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	マーケティング会社として得意先企業のマーケティングリサーチを実施。（全15回）				

### 授業概要

企業や公共団体等がマーケットや顧客、市民についての情報を得るための手段であるマーケティングリサーチ。その要点、フレーム、実社会での応用等について学習する。定性的マーケティングリサーチの代表格であるグループインタビューについて授業中に実際に体験し、また定量的マーケティングリサーチの代表格であるインターネットリサーチについて実際の集計表、実例等をはさみ理解を深め、自分でマーケティングリサーチを実施することができるようにする。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	自分で考え、リサーチ課題や方法を組み立てる力	マーケティングリサーチを実際に行うことができる
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP5. 計画・立案力		課題を発見し、把握することができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小論文	40%	: 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。授業内容に沿って、自分の経験等を踏まえて考え、記載されていると高得点が与えられる。
中間論文	30%	: 授業の内容を理解しているか。
期末試験	30%	: 授業の内容を理解しているか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

岸川茂編著・JMRX著（2016）「マーケティング・リサーチの基本」日本実業出版社。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限  
 場所： 個人研究室  
 備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp。

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>マーケティングリサーチを学ぶ意義</b> マーケティングリサーチについて学ぶ意義と講義全体の構成について説明。	最近のマーケティングリサーチについて調べる 4時間
第2回	<b>マーケティングリサーチの意味</b> マーケティングリサーチはマーケットを知るための手段として非常に重要な位置を占める。マーケティングとリサーチの関係等について理解を深める。	マーケティングとは何か、を学習しておく。 4時間
第3回	<b>現実の世界をどう分析するか</b> リサーチ対象のマーケットをどのように分析するのか、その基本的な分析方法等について学習。コンビニエンスストアを例に学習する。	マーケットの分析方法について、自分で考えて見る 4時間
第4回	<b>調査手法の種類と特徴</b> 大きくは定性調査と定量調査があるが、それらの内容、適用方法等について学ぶ。	実際にインターネットリサーチを体験する 4時間
第5回	<b>マーケティングリサーチにおけるプロセス</b> リサーチの各プロセスについて理解する。	各プロセスについて調査する 4時間

第6回	<b>定性調査の手法（グループインタビュー）</b> 定性調査の手法として、よく利用されているグループインタビュー。その手法と実際について学ぶ。	グループインタビューについて調べておく	4時間
第7回	<b>中間まとめ</b> これまでの授業の理解を確実にするため、これまでの復習を行う。	これまでの授業の復習を行っておく	4時間
第8回	<b>新規事業における事例研究</b> 新規に事業を行う場合を事例として、マーケティングリサーチについて考える。	定量調査について調べる	4時間
第9回	<b>定量調査の手法</b> 定量調査の概要、手法、アンケート等について理解する。	アンケートの書き方について調べておく	4時間
第10回	<b>インターネット調査</b> 近年のマーケットリサーチの主流となったインターネット調査について事例を踏まえて理解する。	実際にインターネットリサーチを体験する	4時間
第11回	<b>リサーチ結果をどう読むか</b> 定量調査の結果を踏まえ、そのリサーチ結果の読み方について実際に体験し、理解する。	結果の分析方法を調べる	4時間
第12回	<b>定量調査と分析手法</b> 定量調査を数学的に分析するための手法について、基礎的な事項を学習する。	定量的調査の分析方法について事前に調べる	4時間
第13回	<b>調査票の作り方（実習）</b> 実際にアンケート調査票を作ってみて、お互いの意見を交換、実習する。	アンケートしたい事項を考え、書き出しておく	4時間
第14回	<b>調査対象とサンプリング、注意点</b> 定量調査のサンプリング理論や注意点について学ぶ。	定量調査の実際について調べておく	4時間
第15回	<b>マーケティングリサーチ総括</b> これまでの授業を総括し、まとめる。	これまでの授業の復習と、質問を準備しておく	4時間

授業科目名	<b>企業ネットワーク論</b>				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

授業では、①大量生産に基づく大企業の強さについて理解する②グローバル化ビジネスの基本を理解する。③日本の今までのモノづくりの強さと限界を知る（自動車産業の下請体制を中心として）。④停滞突破のため、米国シリコンバレーやイタリアのモノづくりについて考える。⑤諸事例から大企業と中小企業、中小企業間のコラボレーションの動態を知る。⑥諸事例から「オンリーワン」の中堅・中小企業を知る。⑦新事業を生み出す地域の役割について考える。⑧最終的に「小が集まりネットワークを組んで事業個性を成す」可能性について考える

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

企業コラボレーションの現代的動態の分析。

#### 目標：

企業間コラボレーションの基礎的知識の習得。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

プロジェクトのコラボレーションの可能性と課題を分析できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業レポート	45%	： 授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。
指定図書を読んだレポート	15%	： 論者の内容把握と授業目的との関連付けで評価する。
期末試験（筆記）	30%	： 授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

毎授業ごとに1冊以上紹介します（それらがレポートの課題の対象図書となります）。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日2限
場所：	担当教員の研究室（西館3F西側）
備考・注意事項：	研究室前に掲示しますが、研究日以外の昼休みやオフィスアワーに設けます。 メールアドレスは次の通り。koyama_t@osaka-sekei.ac.jp

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>経済のグローバル化と日本産業</b> グローバル化に伴う日本大企業の海外生産の展開について学ぶ	4時間
第2回	<b>「大量生産」とは</b> 経済発展の基礎としての大量生産の特性について学ぶ	4時間
第3回	<b>大企業を支える中小企業</b> 日本産業構造の「二重性」について学ぶ。	4時間
第4回	<b>大企業と中小企業の「下請ネットワーク」の形成</b> 「下請」の形成について学ぶ。	4時間
第5回	<b>「メイド・イン・ジャパン」を支える中小企業</b> 「下請」の取引特性について学ぶ。	4時間
第6回	<b>「下請ネットワーク」の構造変化</b> グローバル化による「下請」構造の変動について学ぶ。	4時間

第7回	<b>ニッチ市場で活躍する独立型中小企業</b> 「下請」以外の独立系の中小企業の事例から特性を学ぶ。	「ニッチ」の企業や市場についての基礎的理解をしておく。	4時間
第8回	<b>「脱・下請」への挑戦</b> 取引減少に見舞われた「下請」中小企業の新事業展開について学ぶ。	下請中小企業の新規事業への挑戦事例について調べる。	4時間
第9回	<b>「シリコンバレー」の誕生</b> 「シリコンバレー」誕生の歴史について学ぶ。	ヒューレット・パッカード社について調べる。	4時間
第10回	<b>「シリコンバレー」の発展</b> 「シリコンバレー」で誕生した企業事例を通じてシリコンバレーの特性を学ぶ。	インテル社やアップル社の成り立ちについて調べる。	4時間
第11回	<b>中国の「ハイテクバレー」</b> 「東洋のシリコンバレー」と言われる中国・深センでのメーカームーブメントからハイテク企業を次々と生み出すダイナミズムを学ぶ。	中国の深セン発の世界企業を調べる。	4時間
第12回	<b>地域での連携事業の可能性</b> 地域と企業がコラボレーションして生み出せる新事業を考えてみる。	地域発の連携事業の事例を調べる。	4時間
第13回	<b>「メイド・イン・イタリア」の強み</b> イタリアの地域産業の活力について学ぶ。	イタリア製のブランドについて調べる。	4時間
第14回	<b>「メイド・イン・イタリア」に学ぶ日本のモノづくり</b> イタリアの地域産業を日本の地場産業の取り組みと比較して、その可能性について考える。	第13回の「メイド・イン・イタリア」の特徴について復習しておく。	4時間
第15回	<b>日本中小企業の新たなネットワークづくり</b> 日本の産業構造の変化を、中小企業・地域・熟練から展望してみる。	指定したテーマについて、授業のまとめを作成する。	4時間

授業科目名	<b>企業コンサルティング入門</b>				
担当教員名	山崎哲弘・海野大				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地域総合経済団体にて10年間、人事労務管理全般に関するコンサルティング業務（人事制度改定、採用、育成等）を担当（全15回）。				

### 授業概要

本講義では、企業コンサルティングに必要な理論やコンサルティングスキルについて考察する。また企業コンサルティングに関連する中小企業支援策についても必要に応じて紹介する。講義の前半はロジカルシンキングの基礎及び演習を行う。後半では、実際の企業における実務事例を通じて企業の現場における企業コンサルティング実務を学ぶ。なお本授業では、ペアやグループでのワークの機会を持ち、実践を通して得られる体験を重視する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	課題発見力	課題解決に必要な思考法を学び、その思考法を得た結論を他者に適切に伝える技法を習得する。
汎用的な力		課題レポート作成を通して、講義で得られた知識をベースに自らの考えをまとめる。 読み手に理解を促す論理的な文書を作成する。
1．DP4. 課題発見		
2．DP8. 意思疎通		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

平常点	10%	： 授業内での発言、課題、コメントカードの内容およびグループ演習における積極性を評価する。
課題レポートへの取り組み状況	30%	： 各回2～10点で評価し、合計30点満点とする。・授業内容を踏まえた論述ができていれば5点とし、誤字・脱字・文法の間違いがなければ2点を加点、さらに独自の視点や見解が示されておれば3点を加点する。
グループ活動・プレゼンテーション	30%	： 与えられた課題に対して、適切な手法やフレームワークになっているかどうかを評価する。
期末レポート	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」「学びの振り返りができているか」を評価の基準とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

アレックス・オスターワルダール / イヴ・ビニュール著、小山龍介訳『ビジネスモデル・ジェネレーションモデル設計書』（翔泳社、2012）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 2限  
場所： 西館 2階研究室  
備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
メールアドレス： yamasaki-t@osaka-seikei.ac.jp  
注）メールには必ず氏名と所属を書くこと。

### 授業計画

回数	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス</b>	授業のガイダンスとして、企業コンサルティングにおけるビジネス思考の意義と重要性について解説します。	4時間
第2回	<b>ロジカルシンキングとは</b>	配布された参考資料等の復習と予習。講義で学んだ以外のフレームワーク（ベン図やTOCなど）を調べる。	4時間

	ロジカルシンキングにおける「帰納法」「演繹法」の考え方を解説します。 またMICEやロジックツリー、IPOといったロジカルシンキングのフレームワークを学びます。		
第3回	<b>ロジカルシンキングの活用</b>  第2回で学んだフレームワークを活用し、ケーススタディを行います。	配布された参考資料等の復習と予習。また身近な問題・課題についてロジカルシンキングの活用法を考える。	4時間
第4回	<b>ラテラルシンキングとは</b>  ラテラルシンキングにおける「類推思考」「仮説思考」の考え方を解説します。 またブレインストーミングやSCAMPER、シネクテクス法といったラテラルシンキングのフレームワークを学びます。	配布された参考資料等の復習と予習。講義で学んだ以外のフレームワーク（ブレインストーミングやミメーシス・ミミック等）を調べる。	4時間
第5回	<b>ラテラルシンキングの活用</b>  第4回で学んだフレームワークを活用し、ケーススタディを行います。	配布された参考資料等の復習と予習。また身近な問題・課題についてラテラルシンキングの活用法を考える。	4時間
第6回	<b>クリティカルシンキングとは</b>  クリティカルシンキングにおける「弁証法」「背理法」の考え方を解説します。 またヒストグラムやフィットギャップ分析、PAC思考といったクリティカルシンキングのフレームワークを学びます。	配布された参考資料等の復習と予習。講義で学んだ以外のフレームワーク（フィットギャップ分析や認知バイアス等）を調べる。	4時間
第7回	<b>クリティカルシンキングの活用</b>  第6回で学んだフレームワークを活用し、ケーススタディを行います。	配布された参考資料等の復習と予習。また身近な問題・課題についてクリティカルシンキングの活用法を考える。	4時間
第8回	<b>ビジネスフレームワークの基礎</b>  ビジネス思考をビジネスの現場で活用する場合、大きく①問題・課題を発見する、②市場を分析する、③課題解決のためのアイデアを練る、④戦略を立案するといったカテゴリーに分けることができます。ここでは基本的なフレームワークとその活用法について学びます。	配布された参考資料等の復習と予習。ビジネスフレームワークに関する課題レポート	4時間
第9回	<b>ビジネス思考のまとめ</b>  これまで学んだロジカルシンキング・ラテラルシンキング・クリティカルシンキングの特徴、活用法を振り返ります。	配布された参考資料等の復習と予習。自身が関心のある企業の等級制度を調べる。	4時間
第10回	<b>ビジネスモデルとは何か</b>  いくつかの代表的な事例を取り上げ、ビジネスモデルがどのようなものであり、なぜ重要なのかを学びます。	配布された参考資料等の復習と予習。課題レポート	4時間
第11回	<b>ビジネスモデルの可視化</b>  ビジネスモデルを構成する9つの要素とそれらの関係について学びます。ビジネスモデルの可視化と共通言語となるビジネスモデル・キャンパスの基本的な使い方を理解します。ビジネスモデル・キャンパスを用いて、実在の企業のビジネスモデルを描く演習を行います。	個人演習およびグループワーク。次回演習の準備	4時間
第12回	<b>顧客価値</b>  ビジネスモデルの中でも特に重要な顧客セグメントと顧客価値提供に焦点をあて、共感マップ等を用いて顧客視点での価値創造の方法論を学びます。	個人演習およびグループワーク。課題レポート	4時間
第13回	<b>ビジネスモデルのデザイン</b>  ビジネスモデルにパターンがあることを理解します。グループ毎に、ビジネスモデル・キャンパスを用いて、既存のビジネスモデルの改革、もしくは新たなビジネスモデルを企画する演習を行います。	個人演習およびグループワーク。次回演習の準備	4時間
第14回	<b>ビジネスモデルの発表</b>  グループ毎に作成したビジネスモデルを発表し、相互評価します。	グループワーク、プレゼンテーションの振り返り	4時間
第15回	<b>まとめ：重要内容への全体的補足・補充説明</b> 15回の講義全体のふりかえりと必要に応じた補足・補充説明を行います。	全体的な復習と学習	4時間

授業科目名	<b>企業財務論</b>				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義形式と演習形式				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

企業は営業活動を行うにあたり、さまざまな源泉の中から必要な資金を調達し、それを投下する。その際に、(1) どのような手段で必要な資金を調達するか、そして(2) どのような投資対象にいくらか投資するのかを考慮することが重要となる。本講義では、経営者の職能の一部である資金調達および投資の決定について学習していく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

資金調達意思決定、投資意思決定

#### 目標：

財務意思決定の基本原則である投資プロジェクトおよび企業価値評価ができ、企業の資金調達についての知識を身につける。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見  
2 . DP8. 意思疎通

企業の財務諸表を見て、その内容の分析および問題点の発見ができる。

与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

プレゼンテーション	30%	： 課題の内容に対する理解およびプレゼンテーション力により評価する。
課外提出物	20%	： 学習内容を理解し、課題の発見ができていないかを確認する。
期末テスト	50%	： 授業内容の理解度を評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

榎原茂樹、岡田克彦編著『1からのファイナンス』碩学舎、2012年。  
津森信也『図解 簿記からはじめる企業財務入門』東洋経済新報社、2014年。  
砂川伸幸『コーポレートファイナンス入門（第2版）』日本経済新聞出版社、2017年。  
グロービス経営大学院編著『【新版】グロービスMBAファイナンス（第7版）』ダイヤモンド社、2017年。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限目

場所： 個人研究室（西館2F）

備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。  
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

### 授業計画

回	内容	配布資料（企業財務とは）の復習と次回講義内容の資料の予習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>企業財務とは</b> 講義の進め方に関する説明 財務諸表の見方	配布資料（企業財務とは）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第2回	<b>資金調達</b> 資金調達方法を選ぶ基準 金融機関からの借入 資本市場からの借入（CP、社債） 株式による調達 株式関連調達（新株予約権付社債、転換社債型新株予約権付社債）	配布資料（資金調達）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第3回	<b>キャッシュ・フロー</b> キャッシュ・フローの定義 埋没コスト 機会費用 間接費	配布資料（キャッシュ・フロー）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間

第4回	<b>現在価値</b> 現在価値の考え方 現在価値の計算 永続価値	配布資料（現在価値）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第5回	<b>リスク</b> リスクの定義 リスクとポートフォリオ	配布資料（リスク）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第6回	<b>資本コスト</b> 資本コストの定義式 資本コストの計算	配布資料（資本コスト）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第7回	<b>企業価値</b> 企業価値の考え方 株価の理論値 M&A	配布資料（企業価値）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第8回	<b>企業戦略とファイナンス</b> 戦略分析 リスクの本質	配布資料（企業戦略とファイナンス）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第9回	<b>財務分析（1）収益性指標・資産の効率性指標</b> 財務分析の基本 収益性指標 資産の効率性指標	配布資料（財務分析（1））の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第10回	<b>財務分析（2）健全性指標・流動性指標</b> 健全性指標 流動性指標 株式分析指標	配布資料（財務分析（2））の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第11回	<b>プレゼンテーション（1）財務分析</b> 個々に興味のある企業を選び、第9回および第10回で学んだ財務分析指標を用いて財務分析を行う。	企業の収益性、資産の効率性、健全性および流動性すべての指標における分析を行う。	4時間
第12回	<b>プレゼンテーション（2）資料作成</b> 第11回で行った財務分析を用いて、パワーポイントで資料を作成する。	プレゼンテーション資料の完成	4時間
第13回	<b>プレゼンテーション（3）発表</b> 第12回で作成した資料に基づいてそれぞれ発表を行う。	総まとめに向けてこれまでの資料の復習	4時間
第14回	<b>総まとめ（1）第1～5回の復習</b> 第1回～第5回までの授業内容の復習	総まとめ問題	4時間
第15回	<b>総まとめ（2）第6～10回の復習</b> 第6回～第10回までの授業内容の復習	総まとめ問題	4時間

授業科目名	商法				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

この授業では、会社（特に株式会社）の活動に関連する法律問題のうち、会社法に関わる事象を理解できるようになることを目標とします。現代の資本主義と、改正に改正を重ねた旧商法の集大成である現行の会社法のありようは、ちょっとやそっとのことでは非常に理解が難しくなっています。そこで、この講義は、会社法を「血の通った人間の織り成すドラマ」と位置づけて、法律学を初めて学ぶ人にも、まずは直感的に内容を理解できるようにストーリーに即して法律上の争点を抽出していきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を身につけ、政治問題や社会問題についてより深く理解する。

#### 目標：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を養い、政治問題や社会問題についてより深く理解できるようになる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。

他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

<評価基準（定期試験・授業中課題）>

S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。

A評価：到達目標を十分に達成している。

B評価：到達目標を達成している。

C評価：到達目標を最低限達成している。

D評価：到達目標を達成していない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	60%	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30%	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10%	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布します。

①伊藤靖史・大杉謙一『会社法 第3版 (LEGAL QUEST)』（有斐閣・2017年）、②岩原紳作・神作裕之『会社法判例百選 第3版 (別冊ジュリスト 229)』（有斐閣・2016年）、③江頭憲治郎『株式会社法 第7版』（有斐閣・2017年）、④神田秀樹『会社法 第19版』（弘文堂・2017年）、⑤神田秀樹『こっぴどく押さえる！会社法のきほん』（ナツメ社・2017年）、⑥中東正文・白井正和『会社法 (有斐閣ストゥディア)』（有斐閣・2015年）、⑦近藤光男編『現代商法入門 第10版』（有斐閣・2019年）。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- ・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
- ・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜5時限目  
 場所： 西館3階個人研究室  
 備考・注意事項： メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回	商法の世界へ	民法と商法の違いについて調べておこう。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--------	---------------------	-------------------------

	(1) 商法のアクセラとプレーキ (2) 変わり続ける社会と商法 (3) 民法と商法の違い		
第2回	<b>株式会社総説</b> (1) 株式会社の存在意義 (2) 株主有限責任の原則 (3) 所有と経営の分離 (4) 資本金制度	「所有と経営の分離」の意味について調べておこう。	4時間
第3回	<b>株式会社の設立</b> (1) 株式会社をつくるステップ (2) 発起人 (3) 設立の無効	株式会社をつくるための5つのステップについて調べておこう。	4時間
第4回	<b>株式</b> (1) 株式とは (2) 株主平等原則 (3) 利益供与の禁止	「株主平等原則」の意味について調べておこう。	4時間
第5回	<b>募集株式の発行とその瑕疵</b> (1) 株式会社の資金調達 (2) 募集株式の発行手続 (3) 株式発行の瑕疵 (4) 新株予約券	株式会社の資金調達の方法には、どのようなものがあるか調べておこう。	4時間
第6回	<b>株式会社の機関①（株主総会）</b> (1) 機関総説 (2) 株主総会の招集 (3) 議決権	「国家と会社の仕組みは似ている」というテーマ課題について考えをまとめておこう。	4時間
第7回	<b>株式会社の機関②（取締役）</b> (1) 会社の舵取り役としての取締役 (2) 取締役と会社の関係 (3) 会社の顔としての代表取締役	取締役と会社の関係について調べておこう。	4時間
第8回	<b>株式会社の機関③（監査役など）</b> (1) 会社のプレーキ役としての監査役 (2) 会計監査人 (3) 監査できるのはどこまでか	監査役の役割について調べておこう。	4時間
第9回	<b>株式会社の機関④（役員等の責任追及）</b> (1) 役員等の会社に対する責任 (2) 役員等の第三者に対する損害賠償責任 (3) 株主代表訴訟 (4) 違法行為の差し止め	役員等の責任と、責任追及手段には、どのようなものがあるか調べておこう。	4時間
第10回	<b>定款変更・解散・清算</b> (1) 定款変更 (2) 解散 (3) 清算	事業の变え方、会社の終わらせ方には、どのようなものがあるか調べておこう。	4時間
第11回	<b>組織再編①（組織再編総論）</b> (1) 合併 (2) 会社分割 (3) 株式交換・株式移転 (4) 組織変更	会社の組織再編の方法には、どのようなものがあるか調べておこう。	4時間
第12回	<b>組織再編②（組織再編無効の訴え、事業譲渡、親子会社）</b> (1) 組織再編無効の訴え (2) 事業譲渡 (3) 親子会社	組織再編が無効になってしまう原因について調べておこう。	4時間
第13回	<b>手形法①（有価証券・手形総則、手形理論）</b> (1) 有価証券 (2) 約束手形 (3) 為替手形 (4) 小切手	「有価証券」には、どのようなものがあるか調べておこう。	4時間
第14回	<b>手形法②（裏書、人的抗弁の切却、善意取得）</b> (1) 手形理論 (2) 手形の裏書 (3) 善意者保護の制度	「手形の裏書」の意味について調べておこう。	4時間
第15回	<b>商法総則・商行為法</b> (1) 商人と商行為 (2) 商業登記と商号 (3) 名板貸し (4) 商事売買	名板貸しの責任について調べておこう。	4時間

授業科目名	イノベーションマネジメント				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

経営資源は、ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（金銭的資源）・情報（情報資源）の4つの要素から主に構成されている。イノベーションマネジメントとは、顧客価値に見合った新たな製品やサービスを提供することで社会に価値をもたらす革新を実現するために、効果的かつ効率的に、経営資源を動員、駆動、結合させる主体的な活動である。本講義では、イノベーションマネジメントの基本的な考え方と仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	イノベーションマネジメントに関する知識	イノベーションマネジメントの諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	イノベーションマネジメントに関する知識の応用	企業のイノベーションマネジメントの現況を説明できる。
汎用的な力		企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。
1．DP4. 課題発見		集団内のメンバーの行動に影響を与えることで集団の目標達成を促すことができる。
2．DP8. 意思疎通		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末試験	50% : 講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20% : 課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10% : 講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20% : コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
土井教之・宮田由紀夫	・イノベーション論入門	・中央経済社	・2015年

### 参考文献等

適宜、講義中に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日4限
場所：	研究室
備考・注意事項：	・上記以外の場合、申し出て下さい。 ・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。 ・講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。

### 授業計画

第1回	イントロダクション 講義の進め方の説明とイノベーションマネジメントを学ぶ意義	【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】イノベーションマネジメントの講義概要を確認すること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
			4時間

	<p>本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「イノベーションマネジメント」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学におけるイノベーションマネジメントの位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。</p>		
第2回	<p><b>現代社会と企業 企業が社会に与える影響</b></p> <p>多くの人々が働いている企業とは、社会の中でどのような機能を果たしているのか。なぜ、企業は社会の中で存在できるのか。これらの問いかけに対し、企業という存在を「製品・サービスの提供を主な機能としてつくられた、人と資源の集合体で、一つの管理組織のもとにおかれたもの」と定義して考える。</p>	<p>【予習】教科書の第1章(pp. 1-22)について読んでおくこと。【復習】第2回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第3回	<p><b>イノベーションマネジメント (1) イノベーションとそのタイプ</b></p> <p>イノベーションとは、どのようなものであるのか。なぜ重要であり、どうしてマネジメントしていかなければならないのか。重要性や意義について受講生との間で共有し、イノベーションマネジメントが現代の企業にとって重大な課題のひとつであることを理解する。</p>	<p>【予習】教科書の第1章(pp. 1-22)について読んでおくこと。【復習】第3回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第4回	<p><b>イノベーションマネジメント (2) イノベーションのプロセス</b></p> <p>イノベーションが何をきっかけにして生まれ、どのような段階を経て、いかにして最終的な成果獲得に結びついていくのか、また、その中でどのような困難が待ち構えているのかというイノベーション・プロセスについて学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章(pp. 23-39)について読んでおくこと。【復習】第4回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第5回	<p><b>イノベーションマネジメント (3) イノベーションの普及</b></p> <p>いったん生まれたイノベーションはどのようにして普及していくのか、また、普及に伴い、産業の特性や競争構造はどのように変化していくのかというイノベーションのパターンについて製品ライフサイクル等を基に考える。</p>	<p>【予習】教科書の第3章(pp. 41-61)について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第6回	<p><b>イノベーションマネジメント (4) オープン・イノベーション</b></p> <p>広く世の中にある技術を活用し、企業内部と外部のアイデアを有機的に結合させ、新たな価値を創造するという「オープン・イノベーション」の考え方についてアウトサイドイン型とインサイドアウト型の側面から学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第9章(pp. 159-178)について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第7回	<p><b>イノベーションマネジメント (5) 製品アーキテクチャ</b></p> <p>どのようにして製品を構成部品に分割し、製品機能を配分し、部品間のインターフェースを設計・調整するかに関する基本的な設計構想が「製品アーキテクチャ」である。この概念をキーワードとして企業の特性を考える。</p>	<p>【予習】教科書の第6章(pp. 99-117)について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第8回	<p><b>イノベーションマネジメント (6) 科学技術イノベーション政策</b></p> <p>イノベーションには、多くの人や組織、制度がかかわる。イノベーションを興すために政府によってとられる技術政策について、その必要性の根拠を検討するとともに、技術政策の歴史的推移と現状を概観し、具体的な政策手法について解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第11章(pp. 199-216)について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第9回	<p><b>イノベーションマネジメント (7) イノベーションと企業戦略</b></p> <p>経営組織における戦略とは、どのような概念であるのか、組織のレベルに対応した戦略の階層構造、戦略は計画的に策定されると同時に創発的に形成されるという特性から経営戦略論の視点について身近な事例を基にイノベーションとの関連性から解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第6章(pp. 99-117)について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第10回	<p><b>イノベーションマネジメント (8) 経営戦略と技術、業界標準をめぐる競争</b></p> <p>イノベーションにおける標準の役割や効果を解説する。業界標準をめぐる競争においては、売れた物がより売れ、大きなシェアを獲得できる。「ネットワーク外部性」が及ぼす影響をキーワードとして、事実上の業界標準であるデファクト・スタンダードをいかにして獲得するかということについて考える。</p>	<p>【予習】教科書の第10章(pp. 179-197)について読んでおくこと。【復習】第10回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第11回	<p><b>イノベーションマネジメント (9) ビジネスモデルのマネジメント</b></p> <p>新しい製品の市場を開拓し拡大すると同時に、収益を安定的に確保するための仕組みづくりを行う事業化活動において重要になる「ビジネスモデル」のマネジメントについて、①ビジネスシステムの工夫と②収益システムの工夫という大きく2つの切り口から解説する。</p>	<p>【予習】興味深いと思う企業を調べてくること。【復習】第11回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第12回	<p><b>イノベーションマネジメント (10) ビジネスモデル・ジェネレーション</b></p> <p>ビジネスモデルを記述、分析、デザインするために、戦略的思考を視覚化するツールとして①顧客セグメント、②価値提案、③チャネル、④顧客との関係、⑤収益の流れ、⑥リソース、⑦パートナー、⑧コスト構造という9つの構築ブロックから構成される「ビジネスモデルキャンパス」を用いた発想法について学習する。</p>	<p>【予習】社会に普及している製品やサービスを調べ、その要因を考えること。【復習】第12回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第13回	<p><b>イノベーションと組織 アントレプレナーシップ、リーダーシップ、モチベーション</b></p> <p>組織の目標と個人の目標は必ずしも一致するとは限らない。組織との中で働く個人の関係を理解するために、「人は企業という組織の中で、なぜ働くのか」という心理的側面から理解を深める必要がある。「アントレプレナーシップ」、「リーダーシップ」、「モチベーション」をキーワードとして考える。</p>	<p>【予習】教科書の第8章(pp. 137-157)について読んでおくこと。【復習】第13回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第14回	<p><b>イノベーションを担う人材 組織と個人の関わり合い、キャリアデザイン</b></p> <p>キャリアデザインは、自分が目指したい、楽しく充実した仕事人生のために、自分のキャリアを開発していく、そのためのプランを立てるという考え方である。キャリアの入口付近という節目である大学生活を過ごす中ですべきことは何か、キャリアデザインの視点から考え、アイデアを導き出す。</p>	<p>【予習】教科書の第4章(pp. 63-80)について読んでおくこと。【復習】第14回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第15回	<p><b>まとめ イノベーションマネジメントの展望</b></p>	<p>講義内容について見直しをすること。</p>	4時間

これまでの講義で学習した内容を振り返り、イノベーションマネジメントを学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、イノベーションマネジメントの理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらおう。自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。

授業科目名	<b>生産管理</b>				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

生産管理の目的は、生産の良い流れを設計し、維持し、改善することにある。「良い流れづくり」という観点から、生産管理の全体像を把握するとともに、流れを分析するための手法の習得、流れを改善するための考え方や方法論について学習する。さらに、生産管理の展望を考えるために、経営組織や人的資源管理の特徴、経営情報の影響についても取り上げる。

本講義では、生産管理の基本的な考え方や仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

- 生産管理に関する知識  
生産管理に関する知識の応用

#### 目標：

- 生産管理の諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。  
企業の生産管理の現況を説明できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通

- 企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。

- 集団内のメンバーの行動に影響を与えることで集団の目標達成を促すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末試験	50%	： 講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20%	： 課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10%	： 講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20%	： コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
富田純一・糸久正人	・ コア・テキスト生産管理	・ 新世社	・ 2015年

### 参考文献等

適宜、講義中に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日4限
場所：	研究室
備考・注意事項：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記以外の場合、申し出て下さい。</li> <li>・ 講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。</li> <li>・ 講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。</li> </ul>

### 授業計画

第1回

#### イントロダクション 講義の進め方の説明と生産管理を学ぶ意義

本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「生産管理」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学における生産管理の位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。

【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】生産管理の講義概要を確認すること。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<b>生産管理の役割</b>  「経営組織における生産とはどのような概念であるのか」ということについて、基礎的事項を学習する。	【予習】教科書の第1章(pp. 1-14)について読んでおくこと。【復習】第2回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第3回	<b>生産管理の分析手法</b>  生産管理の分析手法や指標について学習する。	【予習】教科書の第2章(pp. 15-34)について読んでおくこと。【復習】第3回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第4回	<b>生産管理の基本的な考え方</b>  TOC (Theory of Constraints ; 制約条件の理論) に基づいて良い流れづくりを妨げるボトルネックに着目し、それを最大限活用したり改善したりすることで全体最適化が可能になることについて学習する。	【予習】教科書の第3章(pp. 35-55)について読んでおくこと。【復習】第4回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第5回	<b>品質管理</b>  いかにして良いものを正確に流すかということについて考える。	【予習】教科書の第4章(pp. 57-83)について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第6回	<b>コスト管理</b>  いかにして安く流すかということについて考える。	【予習】教科書の第5章(pp. 85-113)について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第7回	<b>生産計画と生産統制</b>  いかにして納期に合わせて流れを計画するかということについて考える。	【予習】教科書の第6章(pp. 115-139)について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第8回	<b>フレキシブルな生産方式</b>  需要の変化にどのように対応したら良いのかということについて考える。	【予習】教科書の第7章(pp. 141-162)について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第9回	<b>サプライチェーンマネジメント</b>  企業を超えた流れづくりがどのように行われるのかということについて考える。	【予習】教科書の第8章(pp. 163-181)について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第10回	<b>生産システムのグローバル化</b>  国境を越えた流れづくりがどのように行われるのかということについて考える。	【予習】教科書の第9章(pp. 183-196)について読んでおくこと。【復習】第10回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第11回	<b>人的資源管理の基本的な考え方 企業経営と人的資源管理</b>  企業経営における人的資源管理の位置づけと諸機能について学習する。	【予習】興味深いと思う企業を調べてくること。【復習】第11回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第12回	<b>人的資源管理の仕組み (1) 雇用管理</b>  労働者個人と企業との関わり方、人と仕事の結びつきを決定する仕組みについて学習する。	【予習】身近にある企業の採用システムについて調べてくること。【復習】第12回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第13回	<b>人的資源管理の仕組み (2) 人事考課制度</b>  労働者の働きぶりを評価し、その結果を処遇改定や能力開発に反映する仕組みについて学習する。	【予習】身近にある評価システムについて調べてくること。【復習】第13回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第14回	<b>生産管理の歴史</b>  生産管理論と生産システムの歴史について概観する。	【予習】教科書の第11章(pp. 209-233)について読んでおくこと。【復習】第14回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第15回	<b>まとめ 生産管理の展望</b>  これまでの講義で学習した内容を振り返り、生産管理を学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、生産管理の理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらう。自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。	講義内容について見直しをすること。	4時間

授業科目名	<b>社会貢献ビジネス／ベンチャービジネス論</b>				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

既存の大企業中心の経営学や中小企業論ではとらえきれない新たなベンチャーやビジネス形態を取り上げて、それらの基本的なタイプ分けと共通点を整理する。その際、現在の有名大企業もかつてはベンチャーから始まり社会貢献を目的としていたことも併せて学習する。その上で、現代のビジネスでひそかに台頭しつつある、起業家や中堅・中小企業における新規事業での力強い「流れ」をつかむ。それは、行政では解決の難しい社会問題に対し、ビジネスの手法でアプローチしようとするものである。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	<b>具体的内容：</b> 企業（起業）の社会貢献的ビジネスの動態	<b>目標：</b> 企業（起業家）活動での人道的目的への深化の要因を理解できる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP4. 課題発見		社会における隠された課題の発見

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 質疑応答などの授業への参加の積極性で評価する。
授業レポート	45%	： 授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。
指定図書を読んだレポート	15%	： 論者の内容把握と授業目的との関連付けで評価する。
試験（筆記）	30%	： 授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業ごとに1～2冊紹介します（それらがレポートの課題図書の対象となります）。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限や昼休み  
場所： 担当教員の研究室（西館3F西側）  
備考・注意事項： 研究室前に掲示するが、研究日以外の昼休みやオフィスアワーに設定する。  
またメールでの質問はこちらまで。koyama\_t@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

回	授業内容	企業による様々な社会貢献活動について調べる	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：社会貢献とは</b> 企業やビジネスにおける「社会貢献」とは何かについて事例を通じて学ぶ。	企業による様々な社会貢献活動について調べる	4時間
第2回	<b>日本大企業の起源と現代の多様な起業家像</b> 戦前や戦後、さらには現代の起業家とその社会貢献への経営哲学について事例を通じて学ぶとともに、IT起業家やストリートファイターの起業家、主婦や女子高生起業家、ユーチューバーなど、起業の多様性についても事例を通じて学ぶ。	大企業の経営理念や現在話題になっている起業家について調べる。	4時間
第3回	<b>ソーシャルビジネスと社会的起業家</b> ソーシャルビジネスの意味内容とそれを立ち上げる社会起業家について事例を通じて学ぶ。	「テーブル・フォー・ツー」とその代表者について調べる。	4時間
第4回	<b>農業問題へのアプローチ</b> 各地で頭を悩ませている耕作放棄地問題を解決しようとするソーシャルビジネス等を、事例を通じて学ぶ。	日本特有の農業問題について調べる。	4時間
第5回	<b>住宅問題へのアプローチ</b> 各地で頭を悩ませている空き家問題を解決しようとするソーシャルビジネス等を事例を通じて学ぶ。	「空き家問題」について調べる。	4時間

第6回	<b>高齢化問題へのアプローチ①（衣食住問題について）</b> 各地で顕著になってきた「買物弱者」や「孤独死」、賃貸契約問題を解決しようとするソーシャルビジネス等を事例を通じて学ぶ。	「買物弱者」や「孤独死」とは何かについて調べる。	4時間
第7回	<b>高齢化問題へのアプローチ②（多世代共生へ）</b> 各地で取り込まれるユニークな多世代共生へのソーシャルビジネス等を事例を通じて学ぶ。	多世代が共生する仕掛けを持った住宅地について調べる。	4時間
第8回	<b>高齢化問題へのアプローチ③（雇用問題）</b> 各地で取り込まれる高齢者雇用に挑戦するソーシャルビジネス等を事例を通じて学ぶ。	高齢者雇用を謳う取り組みについて調べる。	4時間
第9回	<b>企業による地域貢献</b> 地域活動を活発に行う企業の事例を通じて企業による地域貢献のあり方について学ぶ。	「企業城下町」について調べる。	4時間
第10回	<b>幼児保育問題へのアプローチ①（病児保育問題）</b> 幼児保育問題を解決しようとするソーシャルビジネス等を事例を通じて学ぶ。	「病児保育」とそれがなぜ問題になるのかについて調べる。	4時間
第11回	<b>幼児保育問題へのアプローチ②（待機児童問題）</b> 「待機児童」問題を解決しようとするソーシャルビジネス等を事例を通じて学ぶ。	「待機児童」となぜそれが問題になるのかについて調べる。	4時間
第12回	<b>ダイバーシティへのアプローチ</b> 社会的マイノリティへの日本社会での理解不足を解決しようとする様々な団体の活動を通じて学ぶ。	「LGBT」とは何か、なぜそれが強調されているかについて調べる。	4時間
第13回	<b>クラウドファンディングの展開</b> 様々なプロジェクトに善意や興味からオンライン上でなされる投資形態について事例を通じて学び、その可能性についても考える。	「マイクロファイナンス」の起源と内容について調べる。	4時間
第14回	<b>途上国への社会貢献</b> 支援ではなく途上国の独自性を生かしてグローバル市場で存在感を出す商品開発を行う事例を通じて、その課題と可能性について学ぶ。	「マザーハウス」と山口絵理子代表について調べ店舗をウォッチングする。	4時間
第15回	<b>被災地復興への貢献</b> 東日本大震災と熊本地震の被災地復興のため起ち上げられたビジネス事例を通じて、ビジネスによる復興の課題と可能性について学ぶ。	東日本大震災と熊本・大分地震の復興状況をデータを通じて調べる。	4時間

授業科目名	<b>デザイン経営</b>				
担当教員名	石川憲昭				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	電機業界にて産業財の事業企画・商品企画を担当。 ものづくり企業を対象に経営コンサルティングに従事。(担当回数15回)				

### 授業概要

近年デザインは、ものの構造や形態、図案や意匠の表現の枠組みを越えて、ものやことの企画や構想をまとめ表現することも対象とされます。本授業ではデザイン経営の基礎的な概念を学ぶとともに、個々の商品から事業全体を構想し視覚化するビジネスデザインの基礎的知識を身につけます。さらに、ビジネスを創造し継続するための基幹活動である商品・事業開発にデザイン思考を組み込んでいくプロセスを演習を通じて学び、デザイン思考について理解を深めデザイン経営の基礎的能力を養成することが本科目の目的です。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	デザイン思考を組み込んだビジネスモデルを構想し商品開発や事業開発のプロセスをまとめ企画化し伝えることができる。	市場志向の商品やサービスのビジネスモデルを構想し表現することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		ビジネスにデザイン思考を組み込むための視点を養い必要な情報を把握する力を養成し、デザイン経営の展開にむけて情報を整理し因果関係を明らかにする。
2．DP8. 意思疎通		他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート	60%	： デザイン経営の基礎知識を用いて、自身の意見を述べる問題を出題する。その解答を以下の観点から評価する。1. 基礎知識を正しく理解しているかどうか2. 自分の独自のアイデアや構想を提示できているかどうか。
各回の授業で実施する演習	30%	： 演習の成果として提出するレポート。演習への積極的な参加態度。各回の授業で提出したレポートは5段階で評価する。
資料にもとづくプレゼン	10%	： 演習成果をもとにしたプレゼンに関してその内容と質疑応答、態度により評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- 『速解！売れる商品を創る』開発マーケティング50のステップ』 石川憲昭（日刊工業新聞社）2008年  
『デザイン・ドリブン・イノベーション』 ロバート・ベルガンティ、(同友館)2012年  
『ビジネスモデル・ジェネレーション』 オスターワルダー&ピニュール（翔泳社）2012年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。デザイン経営の習得には、日常のビジネスや消費者行動の観察力が大きな効果をもたらします。そうした観察力を養うためにも、授業の内容を丁寧に復習し 授業外学修課題に取り組むことが必要です。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
場所： 授業の教室  
備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
アドレス： ishikawa\_noriaki@imarketing.jp  
メールには必ず氏名と所属を書くこと。

### 授業計画

回数	授業内容	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>デザイン経営の概観</b> デザインと企業活動との関係性、企業活動に与えるデザインの役割について概観します。 またデザインと企業のマーケティング活動との関係を理解し、ビジネスにおいてデザインを効果的に活用している企業の事例について解説します。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめること。	4時間
第2回	<b>デザインとデザイン経営の基本理論</b> デザインが市場志向経営に果たす役割について、商品開発、販路開拓、ビジネスモデルなど市場志向経営の主要活動要素の理解と合わせて学びます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、デザイン経営の概念の理解を深める。	4時間

第3回	<b>デザインと発想</b> 複雑性の高まるビジネス環境下では、デザイナー的な発想法により問題解決につなげることが注目されている。ビジネスにおいて用いられるデザイナー的発想の手法や有用性を学びます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、発想法についての理解を深める。	4時間
第4回	<b>商品をデザインする（アイデア創造）</b> 本講義より5回にわたり、デザイン（思考）による新商品創造について学びます。今回は、市場志向によるアイデア創造を果たすための、アイデア創造の要件、アイデア創造のプロセス、デザイン思考を用いた発想法を習得します。また、演習により、発想法を用いて新商品のアイデアを発想します。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、アイデア創造の手法について理解を深める。	4時間
第5回	<b>商品をデザインする（価値の創出・見える化）</b> デザイン思考により生みだされる価値、意味的価値について以下の観点から学びます。 ①商品の本質、②顧客価値、③顧客価値の多様性、④価値の測定 また、意味的価値の創出に成功した企業事例より価値創出の要件について考えます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、価値、意味的価値の理解を深める。	4時間
第6回	<b>商品をデザインする（コンセプト創造）</b> コンセプトの基本概念を理解し、商品コンセプト創造に際して、商品価値の表現、位置づけ（ポジショニング）について事例をふまえて学びます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、商品コンセプトについて理解を深める。	4時間
第7回	<b>商品をデザインする（コンセプト検証1 アンケート・インタビュー）</b> 消費者や社会の人々の目線からの商品コンセプトの妥当性の評価方法について以下の観点から理解を深めます。（1）商品価値評価アンケート （2）ユーザインタビュー また、演習を通じてインタビューの手順や方法を学びます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、アンケート調査やインタビューについて理解を深める。	4時間
第8回	<b>商品をデザインする（コンセプト検証2 観察）</b> 自らがユーザの現場に足を踏み入れ、商品コンセプトの妥当性を評価する方法について、以下の観点から理解を深めます。 （1）観察 また、演習を通じて観察の手順や方法を学びます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ観察について理解を深める。	4時間
第9回	<b>ビジネスをデザインする（ビジネスモデルの基礎）</b> 本講義より3回にわたり、ビジネスモデルの創造について学びます。ビジネスデザインの考え方を元に、ビジネスモデルキャンパスについて理解を深めます。また、市場価値、社会的価値、経済価値について事例をふまえて学びます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、ビジネスモデルについて理解を深めます。	4時間
第10回	<b>ビジネスをデザインする（収益モデル）</b> ビジネスモデルキャンパスのフレームワークを用いて、ビジネスにおける収益とコストの関係・位置づけを学びます。また、演習を通じてビジネスモデルキャンパスの活用方法について理解を深めます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、ビジネスモデルキャンパスについて理解を深めます。	4時間
第11回	<b>ビジネスをデザインする（ビジネスモデルのパターン）</b> ビジネスモデルキャンパスのフレームワークを用いて、ビジネスモデルの様々なパターンを、代表企業の事業をもとに学びます。また演習を通じて、代表企業のビジネスモデルをビジネスキャンパスにより見える化し、ビジネスモデルの検討方法について理解を深めます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、ビジネスモデルの創造法の理解を深める。	4時間
第12回	<b>コミュニケーションをデザインする（コミュニケーションの基礎）</b> 市場目線での価値の伝達の手順と方法について以下の観点から学びます。 ①価値の伝達の基本要素 ②プロモーション また、デジタル社会におけるコミュニケーションの方法について事例をふまえて学びます。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめ、コミュニケーションについて理解を深める。	4時間
第13回	<b>コミュニケーションをデザインする（パッケージによるコミュニケーション）</b> 商品外観や形状におけるデザインの役割と機能について以下の観点から学びます。 ①パッケージデザイン ②ユニバーサルデザイン・ユニバーサルカラー また、演習を通じてオリジナルパッケージデザインの創造にトライします。	授業中の演習内容の復習をしプリントにまとめパッケージデザインの理解を深める。	4時間
第14回	<b>デザインドリブによる商品企画</b> これまでの講義を元に、商品を選定し商品コンセプトの創造、コミュニケーションの方法など商品企画の基礎的な要素を検討し商品企画書を作成します。	授業中の演習内容の復習をし商品企画書の内容を掘り下げる。	4時間
第15回	<b>デザインドリブによるビジネスモデル</b> 前回の講義で検討した商品企画案を元に、ビジネスモデルの各要素を検討し、ビジネスモデルキャンパスを作成します。	これまでの授業内容の復習をしビジネスモデルの内容を掘り下げる。	4時間

授業科目名	<b>国際経営論／国際経営</b>				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

近年のグローバル化の流れの中で、企業活動は国を問わず、世界規模で展開されています。このような流れの中で、今後のビジネスを担う世代には、国際的なセンスを身に付けることが求められています。こうした時代のニーズに合わせて、本講義では海外のビジネス事情に関する応用的な知識や情報の習得を目指します。経済のグローバル化が進む中で、高い国際感覚を活かしながらビジネスを展開することは、大きなアドバンテージとなるでしょう。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

グローバルビジネスの実情を学びながら、グローバル企業の経営戦略について論理的に理解する。

#### 目標：

経営学の知識を応用しながら、グローバルビジネスに関する様々な現象を分析することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力

グローバル企業が直面するさまざまな問題について、その本質をきちんと理解することができる。

グローバル企業が直面する問題の解決策について、論理的かつ現地事情を考慮しながら導き出すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末試験	70%	国際ビジネスに関する基本的な知識を有し、かつ国際ビジネスに関するさまざまな問題を理解し、適切に分析することができているかを評価します。
小レポート	20%	原則、毎回の授業で提出を求めます。授業内容を踏まえた上で、きちんと内容が記述されているかを評価します。
中間レポート	10%	授業内容をきちんと理解したうえで、自分なりの見解が述べられているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。本講義の内容を深く理解するためには、国際社会の動きを正しく理解することが必須です。新聞やニュースなどを通して、国際情勢に常に注意を払ってください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（水曜日3限）にて受け付けます。

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス～本科目の学びについて～</b> 講義に関するガイダンス。授業計画・内容、到達目標などを説明するとともに、国際経営論を学ぶ意味について考えます。	4時間
第2回	<b>グローバル化と国際経営</b> 企業活動のグローバル化とその背景について学びます。	4時間
第3回	<b>多国籍企業とビジネス（1）～多国籍企業の概要～</b> 多国籍企業の定義およびその役割について学びます。	4時間
第4回	<b>多国籍企業とビジネス（2）～多国籍企業の歴史と展開～</b>	4時間

	多国籍企業の誕生から発展、そして現代に至る歴史を、経済的な背景を理解しながら概観します。		
第5回	<b>アメリカのビジネス環境（１）～アメリカ企業の発展～</b>  国際ビジネスに大きな影響を与えているアメリカ企業が発展してきた歴史を、アメリカの経済情勢と関連させて理解していきます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (多国籍企業の発展の歴史についてまとめる)	4時間
第6回	<b>アメリカのビジネス環境（２）～アメリカのベンチャービジネス～</b>  IT企業を中心に、アメリカにおいてベンチャー企業が成長してきた要因について考えていきます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (シリコンバレーが発展した要因について考える)	4時間
第7回	<b>アメリカのビジネス環境（３）～アメリカ企業の今後の展望～</b>  グローバル化が進展するなかで大きな変貌を遂げているアメリカ企業の現状を理解し、今後の問題について検証します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (アメリカ経済の現状を踏まえながら、今後のアメリカ企業の戦略について考える)	4時間
第8回	<b>欧州のビジネス環境</b>  アメリカや日本企業との比較を通して、欧州企業の特徴について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (欧州型企業の特徴について考える)	4時間
第9回	<b>企業組織の国際比較</b>  企業組織の構造やコーポレートガバナンスの在り方などを、日・米・欧の企業を中心に国際比較します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日・米・欧の企業組織の違いを理解する)	4時間
第10回	<b>新興国のビジネス（１）～アジアにおける国際ビジネスの展望～</b>  新興国での国際ビジネスの状況について、アジア地域を例に概観します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (多国籍企業が新興国に進出する要因について考える)	4時間
第11回	<b>新興国のビジネス（２）～中国におけるビジネスの展開～</b>  日本とも非常に関係の深い、中国ビジネスの現状と課題について考えていきます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (いわゆるチャイナ・リスクについて理解を深める)	4時間
第12回	<b>新興国とビジネス（３）～アジアビジネスの今後～</b>  アジアにおける経済統合の現状などを理解しつつ、今後のアジアにおける企業戦略の可能性について検証します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (アジアの経済統合の可能性を踏まえながら、今後の日系企業の国際戦略について考える)	4時間
第13回	<b>BOPビジネスの現状（１）～BOPビジネスの概要～</b>  近年、注目を集めているBOPビジネスについて、その定義や現状、今後の可能性について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (今、なぜBOPビジネスが注目されているのかを理解する)	4時間
第14回	<b>BOPビジネスの現状（２）～BOPビジネスのケーススタディ～</b>  インドおよびパキスタンにおけるケーススタディを通して、BOPビジネスの実態に迫ります。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (BOPビジネスの成功事例を調べる)	4時間
第15回	<b>まとめ</b>  これまでの講義内容を振り返りながら、特に日本企業の今後の国際戦略のあり方について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (これまでの講義内容を振り返りつつ、その内容を自分自身の今後のキャリアにどう生かすのかを考える)	4時間

授業科目名	スポーツメディア論				
担当教員名	岡田 功				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義、演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外の政治、経済、スポーツビジネスなどの現場取材し、執筆活動を続けてきた。(全15回)				

### 授業概要

2019年は注目の「ラグビーワールドカップ」が、翌2020年は「東京五輪」が日本で開催されます。本授業では、この2大スポーツイベントを支えるという観点で、新聞報道などを参考にしながら受講生全員が「自分新聞」を制作します。記事を書くことで文章力、表現力を高め、収集する情報からは国際政治、経済を考える幅広い知識も修得できます。また、情報収集力、情報分析力、情報発信力も身に付きます。記事を書き、写真や見出しに創意工夫を凝らす作業は、受講生が将来、企業の広報や宣伝活動に携わる時に役立ちます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	幅広い教養	文章で正しく表現し、伝える基本を身につける
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	ジャーナリズムの現場、広報活動について知る	ジャーナリズム、広報活動を知ることで筆力を高める
汎用的な力		
1．DP5.計画・立案力		新聞紙面のレイアウトは計画、立案のセンスを高める
2．DP6.行動・実践		情報収集、分析することは社会で働くうえで積極的な行動力を高める

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

新聞紙面のできばえ	50%	: 記事内容、文字量や写真、見出しのレイアウトのセンスを総合的に評価する
文章力	30%	: 誤字脱字がなく、自分の言葉でわかりやすく記事が書かれているかをチェック
プレゼンテーション	10%	: 定期的に紙面発表のコンクールを開き、文字だけでなく言葉による表現力、スピーチを評価
試験(レポート)	10%	: レポート内容、誤字脱字がないこと、わかりやすく書かれているか、文字量などを総合的に評価する

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、授業の中で指示します

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 研究室

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、新聞制作とは</b> 初めに講義概要について説明する。その後、新聞制作の現場はどうなっているのか、新聞の紙面だて、ニュース価値の判断について学ぶ	4時間
第2回	<b>新聞記事の要約①</b> 新聞記事の基本は、第三者に分かりやすい文章を書くこと。新聞を読まない若者が増えるなかで活字媒体としての役割、培ってきた文章技術を学ぶ	4時間
第3回	<b>新聞記事の要約②</b> インターネットや新聞の記事を準備し、文章表現を学ぶ	4時間

	長い文章を、要点を漏らさずに短く要約してみる。同じ言葉を何度も使わない、書き出しの工夫、語尾のあしらい方などを学ぶことで、“魅せる”文章を書いてみる		
第4回	<b>見出しとレイアウト</b> パソコン（新聞制作フォーマット）を使った実際の新聞づくりを始める前に、うまい見出しの作り方、目を引くレイアウトのコツを学ぶ	多くの文章に自分で見出しを付けてみる。文章にあった写真を選んでみる	4時間
第5回	<b>平成のスポーツ10大ニュース（新聞制作①）</b> 「平成」の時代が幕を閉じた。平成を振り返って、自分が選ぶ「平成のスポーツ10大ニュース」をテーマに実際に自分新聞を制作する	平成のスポーツ10大ニュースのトピックを調べて選んでおく	4時間
第6回	<b>インタビューからの新聞制作①（新聞制作②）</b> 競技スポーツに関するインタビュー画像を流し、各自がその場でメモを取りながら、新聞を制作する	自宅でも、テレビニュースを視聴しながらメモを取り、記事を書く練習をする	4時間
第7回	<b>インタビューからの新聞制作②（新聞制作③）</b> スポーツビジネスに関するインタビュー画像を流し、各自がその場でメモを取りながら、新聞を制作する	自宅でも、テレビニュースを視聴しながらメモを取り、記事を書く練習をする	4時間
第8回	<b>東京五輪への期待（新聞制作④）</b> 来年の東京五輪をテーマに学生一人一人が思い浮かべた五輪像を新聞で描く。新種目のボルダリングや3オン3のバスケットの人気など変貌する五輪の姿も紹介	五輪新種目について調べる	4時間
第9回	<b>東京五輪のレガシー（新聞制作⑤）</b> 新国立競技場をはじめ五輪レガシー（遺産）に目を向けて、東京五輪が世界に発信できるものは何かを紙面づくりを通じて考える	オリンピックの経済波及効果、ビジネスについて調べる	4時間
第10回	<b>私とパラリンピック（新聞制作⑥）</b> 印象に残ったパラリンピック競技を中心に、自分の目で見て感じたパラスポーツのよさを自分新聞で伝える	パラリンピック競技のスポーツについて調べる	4時間
第11回	<b>ラグビーワールドカップ大会を伝える（新聞制作⑦）</b> 日本各地で9～11月にかけて開催されるラグビーワールドカップ。W杯の魅力をスポーツビジネスを含めた様々な視点でとらえながら、ラグビーワールドカップの歴史や経済効果などを展望する	ラグビーワールドカップの歴史、組織、経済効果などを調べる	4時間
第12回	<b>ラグビーと日本（新聞制作⑧）</b> ラグビーワールドカップはそれぞれの国民性を反映した戦い。オセアニア、欧州、アジアといったそれぞれの風土や歴史がラグビーの試合に凝縮されている。新聞制作を通して、ラグビーと日本の国民性について表現する	ラグビーと日本のかかわりについて調べる	4時間
第13回	<b>外部講師による特別講義（広報の仕事）</b> スポーツ施設建設のコンサルタント会社の広報として働く人を特別講師に招く。積極的にメディアにアプローチし、記事を書いてもらう広報・宣伝の仕事について講義をしてもらう	講師が働く会社について事前に調べる。次週の発表会に備えたプレゼン資料の作成	4時間
第14回	<b>発表会（コンクール） 前半</b> 8回の新聞制作を通して、自身の代表作品をアピール。1人5分の発表によるコンテストで優秀作品を選ぶ	制作した新聞を学びの成果としてまとめる	4時間
第15回	<b>発表会（コンクール） 後半</b> 8回の新聞制作を通して、自身の代表作品をアピール。1人5分の発表によるコンテストで優秀作品を選ぶ	制作した新聞を学びの成果としてまとめる	4時間

授業科目名	スポーツ施設イベントマネジメント				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントの企画・実施、スポーツ施設の設計施工・運営実施。（全15回）				

### 授業概要

本講義では、まずイベントの目的、構造、組織等について理解し、関西に関係する大規模スポーツイベント（RWC、関西ワールドマスターズゲームズ2021、大阪マラソン等）についての知識を身につける。スポーツイベントの具体的な理解を通じて、企画・計画手法等について学ぶ。次にイベントを行うためのスポーツ施設等の計画方法、運営、現在における施設建設・運営の課題や解決の方向性等について学ぶ。また指定管理者やPFI制度等の内容について理解する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

スポーツイベントやスポーツ施設等を企画・計画できる力

#### 目標：

スポーツイベントやスポーツ施設の企画・計画・運営等について理解

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

スポーツイベントやスポーツ施設等を企画・計画できる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小論文	40%	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。
中間論文	30%	： 授業の内容を理解しているか。
期末試験	30%	： 授業の内容を理解しているか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

原田宗彦・間野義之編著（2011）「スポーツ施設ファシリティマネジメント」大修館書店

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp。

### 授業計画

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	授業外学修課題にかかる目安の時間
<b>スポーツ施設イベントマネジメントを学ぶ意義</b> スポーツ施設、スポーツイベントのマネジメントについて、それらを学ぶ意義や授業の進め方等について説明する。	<b>スポーツイベントの実際</b> 近々日本にて開催されるスポーツイベントについて理解を深める。ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズについて学習。	<b>スポーツイベント概論</b> スポーツイベントについての概論。イベントの成り立ち、重要なポイント等について概観する。「スポーツイベント検定」の内容も紹介。	<b>スポーツイベントの構造</b> スポーツイベントの構造、組立て方、マネジメント手法等について学習。大阪マラソン等を題材として具体的に皆で考える。	<b>イベントの組織とスポーツイベント企画</b> スポーツイベントの組織について、大阪マラソン組織委員会等を参考としながら学習。また自分たちでオリジナルのスポーツイベントを企画する。	4時間
					4時間

第6回	<b>スポーツイベントの計画</b> スポーツイベントをグループワークとして企画し、グループごとに発表する。その発表に対して皆で批評を加え、グループワークの経験を通じてスポーツイベントを深く理解する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第7回	<b>中間まとめ</b> これまでの授業の理解を確実にするため、これまでの復習をする。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第8回	<b>関西ワールドマスターズゲームズ2021</b> 2021年に予定されている関西ワールドマスターズゲームズについて、大会内容、組織等について学習。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	<b>スポーツ施設概論</b> スタジアム建設について概要を学ぶ。新国立競技場等を取りあげ、どのような問題点があったのか等についてニュース等をもとに検討。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	<b>よいスポーツ施設とは1 多角的な視点から「良い」意味を検討する</b> スタジアム等の建設に関しては多くのステークホルダーが関係する。各関係者のメリット・デメリットを演習形式にて検討し、よいスポーツ施設とはどのようなものか理解を深める。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	<b>よいスポーツ施設とは2 新国立競技場などの実例を踏まえ検証</b> 前回の授業で示された「よいスポーツ施設」のまとめ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	<b>施設の管理・運営</b> スポーツ施設の管理・運営について、大阪ドーム等を事例としながら学習。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第13回	<b>施設の建設・運営と課題</b> スポーツ施設の建設と運営の分離、どのように赤字にならないよう工夫してきたのか等について学習。指定管理者制度やPFIが導入されるその前提について学習。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第14回	<b>指定管理者制度・PFI</b> 建設と運営の分離等、指定管理者制度やPFIの具体的な中身について学習。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第15回	<b>スポーツ施設イベントマネジメント総括</b> スポーツ施設イベントマネジメントの授業の総括。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

授業科目名	スポーツスポンサーシップ				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	2・3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ関連団体のスポンサー実務や企業とのスポンサーアクティベーション作業。(全15回)				

### 授業概要

現代のオリンピックやFIFAワールドカップなどの大規模スポーツイベントやスポーツチームの運営上、なくてはならないスポンサーシップ。スポンサーシップや放映権、チケット販売など、スポーツイベント主催者等は、どのようにしてスポーツをもとに企業等から収入を得るのか、その内容や課題等について実例を踏まえて学習する。またスポンサーとなった企業等は、スポーツイベント主催者等からどのような権利を獲得し、それを使ってどのような広報・広告を行っているのか、具体例を示して学習し、それらの権利を応用する方法を理解する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

スポーツスポンサーを獲得することができる

#### 目標：

スポンサーシップ、放映権、マーチャндаイジング等を理解する

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

スポーツを使って儲ける仕組みをつくる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小論文	40%	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。
中間論文	30%	： 授業の内容を理解しているか。
期末試験	30%	： 授業の内容を理解しているか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「ビジネスを勝利に導くFCバルセロナのマーケティング実践講座」 エステベ・カルサーダ／小澤一郎訳／そる・メディア／2013年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp。

### 授業計画

回数	授業内容	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スポーツスポンサーシップを学ぶ意義</b> スポーツスポンサーシップを学ぶ意義や、授業の進め方等について説明する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第2回	<b>スポーツ団体・イベントの収入構造</b> 国際オリンピック委員会（IOC）やFIFA、2020東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の収入の構造等について学習。企業やテレビ局等からの収入の必要性について理解する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第3回	<b>放映権の売買</b> まずは、放映権について学習。そもそも民間テレビ局はどのように収益をあげているのか、なぜ高額な放映権を購入するのか等について実態を踏まえて学習する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第4回	<b>スポンサーシステム1 1964年と2020年東京オリンピックの比較から</b> IOCやFIFA、2020東京オリンピック・パラリンピック等におけるスポンサーシステムについて実例を踏まえて学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第5回	<b>スポンサーシステム2 オリンピックにおけるスポンサーシステムの確立</b> スポンサーシステムの中でもロサンゼルスオリンピック以降採用されている、「一業種一社」システムについて、そのメリット・デメリット等について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第6回	<b>チケット販売</b>	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

	放映権、スポンサーに並び、イベント主催者の収入となるチケット販売について学習。過去の大会等を事例として紹介する。		
第7回	<b>中間まとめ</b> これまで学習してきた、国際組織やイベント主催者、チームから見た放映権、スポンサー、チケット販売について中間総括する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第8回	<b>関西ワールドマスターズゲームズ2021とスポンサー</b> 2021年に関西にて開催されるワールドマスターズゲームズについて、スポンサーの面から学習する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	<b>企業から見たスポンサーシップ</b> 企業から見たスポンサーについて、そのメリット・デメリット等を2020東京オリンピック・パラリンピックのスポンサーとなっている企業等を実例として学習する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	<b>スポンサーが取得する権利1 世界陸上大阪大会の事例から</b> スポンサーが獲得するマーケティング権とは何か、について理解を深める。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	<b>スポンサーが取得する権利2 企業による具体的な活用事例</b> マーケティング権の詳細について学習し、どのような権利がスポンサーとなることにより獲得できるかについて学習。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	<b>スポンサーのマーケティング活動の実際</b> マーケティング権を得た企業等が、実際にどのようなマーケティング活動を行うのか、広告は販売促進の実例を踏まえ学習。アクティベーションの重要性を学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第13回	<b>スポンサー契約、V I K</b> スポンサー契約の内容はどのようなものなのか、またV I Kと呼ばれる物品・サービス等の提供について学ぶ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第14回	<b>W I N=W I N関係</b> スポンサー活動は、マーケティングを与える団体等と企業がW I N=W I Nの関係にならなければ成り立たない。アクティベーションをおしてW I N=W I Nがどのように表現されていくのか、その成立条件について再度検討する。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第15回	<b>スポーツスポンサーシップ総括</b> 授業全体のまとめ。	新聞や参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

授業科目名	<b>スポーツ用具論</b>				
担当教員名	植田真司				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ゴルフクラブ等スポーツ用具の企画と設計及び研究に従事（全15回）				

### 授業概要

スポーツで使用される用具・用品に関して、どのような素材が使用され、どのような科学が応用され、どのような機能があるのか、シューズ、ゴルフ、野球、テニス、スポーツウエア、水着などの競技別の用具を例にまなびます。また、その競技で使用されるスポーツ用具の歴史、製造方法、使用方法、及びその特徴と効用をより理解し、より良いスポーツ用具を選択する力、および企画・設計するうえで必要とされる基礎的な知識を身につけることを目標とします。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

スポーツ用具には、どのような機能があり、どのようにつくられているのか理解する。

#### 目標：

スポーツ用具を選択する力、および企画する力

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力

現状のスポーツ用具の問題点を発見する。最適な用具を選ぶ能力を養う。スポーツ用具の企画をする。課題の対策を計画する力

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内小レポート	30%	： 授業の理解度
課題レポート	30%	： 問題を発見し、対策を立案する力
定期試験	40%	： スポーツ用具を選択する力、および企画・設計するうえで必要とされる基礎的な知識

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 5限（16：20 ～17：50）  
場所： 研究室（西館3F）

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スポーツ用具と記録の変遷</b> 15回の講義内容と学びのポイントを説明します。	4時間
第2回	<b>スポーツ用具に使われる素材について</b> プラスチック、金属、木、繊維など、スポーツに使われる素材の特徴を学びます。	4時間
第3回	<b>シューズの選び方</b> シューズの選び方の重要性と選び方を説明し、間違ったシューズを履くとどのようなトラブルが起きるのか学びます。	4時間
第4回	<b>シューズの機能・構造と競技別の特徴</b> シューズがどのような構造で作られているのか、競技別のシューズの特徴を学びます。	4時間
第5回	<b>特別な競技シューズが出来るまで</b> トップレベルの選手が使用するシューズがどのように困難を乗り越えて作られているのか、外部講師から現場の話を説明して頂きます。	4時間
第6回	<b>スポーツ用具と色彩心理</b>	4時間

	スポーツ用具や用品の色が異なるだけで、アスリートのパフォーマンスが変わることを学びます。		
第7回	<b>競技別ボールの特徴</b> 競技別にボールの特徴、及び製造方法について学びます。	ボールに関する文献を購読する。	4時間
第8回	<b>ゴルフ用具の特徴</b> クラブ及びボールの機能、歴史と進化について説明します。	ゴルフ用具に関する文献を購読する。	4時間
第9回	<b>野球用具の特徴</b> グラブ、バットについて、その機能、歴史と進化について説明します。	野球用具に関する文献を購読する。	4時間
第10回	<b>テニス用具の特徴</b> ラケット、ガットについて、その機能、歴史と進化について説明します。	テニス用具に関する文献を購読する。	4時間
第11回	<b>スポーツウェアの進化1</b> 水着の歴史と進化について、説明します。	スポーツウェアに関する文献を購読する。	4時間
第12回	<b>スポーツウェアの進化2</b> ウェアの役割はもちろん、競技ウェアがオリンピックの大会ごとにどのように進化しているのか学びます。	スポーツウェアに関する文献を購読する。	4時間
第13回	<b>トラック等のサーフェイスの機能</b> 土、全天候、芝生など競技の地面の種類とその特長について学びます。	サーフェイスの文献を購読する。	4時間
第14回	<b>スポーツと環境問題</b> スポーツと環境問題の関係について説明し、地球環境保護のために我々に何が出来るのかを考えます。	スポーツと環境に関する文献を購読する。	4時間
第15回	<b>未来のスポーツ用品</b> スポーツ用具の役割を振り返り、今後用具がどのように進化するのか各自考えます。	スポーツ用品のあり方について考える。	4時間

授業科目名	スポーツビジネス特別講義				
担当教員名	水野利昭				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	集中講義とグループ学修				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ミズノ株式会社にて勤務。スポーツ産業においてスポーツ品の生産と流通販売、ブランド戦略などの業務経験あり。(全15回)				

### 授業概要

本講義では、専門領域でより深くスポーツビジネスを学びたい対象者に、複数のテーマから学修を行う。各領域で、講師の専門分野においてより深い内容を習得し、課題を参加者で議論し、個人でその内容での小論文を書き上げるまでを実施する。具体的には一つのテーマについて、講師の講義によって専門分野の奥深くまで学び、グループ討議による課題発見、個人ごとの小論文作成までを行い、小論文については最後に個別評価を行う。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

- 担当講師の専門分野でのより深い学びを得る  
担当講師の専門分野でのより深い学びを得る

#### 目標：

- 各テーマでの小論文完成  
必要な専門性を学び、それについて議論することができる

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP7. 完遂

- テーマの問題を深く考え、課題を発見し、それに関して論述する  
各テーマでの問題意識から、小論文を完成させる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

数回のグループ討議を実施し、期末に与えたテーマに対して論文提出(8千字程度)を課す。テーマについては講義で実施した中から、指定する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

積極的な講義受講	10%	出席するだけでなく、授業中積極的に参画したか
グループ討議	30%	積極的な議論に参加できているか 論点は明確か
期末小論文提出	60%	論文では社会的課題に気づき、問題に対して論理的な考察と明確な提言ができているか

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要があれば指定する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本課目は2単位の課目であるため、全体で90時間の学修が求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 教員によって異なる  
場所： 各研究室  
備考・注意事項： 水野利昭 水曜日2限

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b> 授業の説明、スポーツビジネス特別講義の概要の紹介を行う。 必要な予備知識について情報を提供する。 事前課題等あれば通知を行う。	該当の範囲の事前知識習得 4時間
第2回	<b>特別講義 1</b> 担当教員の専門分野における特別講義	テーマの調査と講義内容の復習 4時間
第3回	<b>特別講義 1 のグループワーク</b> テーマに対するグループワーク	グループワークのための事前学修 4時間
第4回	<b>特別講義 1 のグループワーク発表と評価</b> グループワークの発表と講師による評価を行う	評価によって振り返り学修 4時間
第5回	<b>特別講義 1 の小論文</b> テーマから個人で課題を発見し、小論文を作成し提出する	テーマに沿って参考文献を使用した研究 4時間

第6回	<b>特別講義 2</b> 担当教員の専門分野における特別講義	テーマの調査と講義内容の復習	4時間
第7回	<b>特別講義 2 のグループワーク</b> テーマに対するグループワーク	グループワークのための事前学修	4時間
第8回	<b>特別講義 2 のグループワーク発表と評価</b> グループワークの発表と講師による評価を行う	評価によって振り返り学修	4時間
第9回	<b>特別講義 2 の小論文</b> テーマから個人で課題を発見し、小論文を作成し提出する	テーマに沿って参考文献を使用した研究	4時間
第10回	<b>特別講義 3</b> 担当教員の専門分野における特別講義	テーマの調査と講義内容の復習	4時間
第11回	<b>特別講義 3 のグループワーク</b> テーマに対するグループワーク	グループワークのための事前学修	4時間
第12回	<b>特別講義 3 のグループワーク発表と評価</b> グループワークの発表と講師による評価	評価によって振り返り学修	4時間
第13回	<b>特別講義 3 の小論文</b> テーマから個人で課題を発見し、小論文を作成し提出する	テーマに沿って参考文献を使用した研究	4時間
第14回	<b>特別講義のまとめ</b> 全体の振り返りとまとめ	講義全体の内容を振り返っておくこと	4時間
第15回	<b>提出小論文のフィードバックと評価</b> それぞれのテーマで提出をもらった小論文のフィードバックを行う。 記述できなかった論点については、追加で議論する。	返却論文に関しては見直して、課題のさらなる探求をすること	4時間

授業科目名	スポーツ栄養				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

スポーツ選手は強くなるために、また競技中のパフォーマンスを向上させるためにトレーニングを繰り返しますが、スポーツ選手には上手く“食べる”こともトレーニングのうちの一つになります。この授業では基礎体力を強化するための食事について学び、さらに自分の特性に見合った食事内容を選択できる力を養います。身体能力を向上させるためには、トレーニングの効果を高めるためにも、気合だけではなく、栄養補給すなわちスポーツ栄養は欠かすことができない知識であることを学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	各自に見合った食事のマネジメント能力	バランスの良い食事の意義と内容の説明ができ、実践的に自分の特性に見合った食事の選択ができる
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		個々の食事記録からパフォーマンスを向上させるための課題に気づき、講義で得られた知識を用いた課題解決のための食事の提案が行える

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ その他(以下に概要を記述)  
企業の方よりプロ選手の食事のサポートについて学びます

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験レポート（食事記録含む）	： 食品の特性の理解、専門の競技に見合ったバランスの良い食事内容、食事のタイミングが説明できるかを評価します。	35%
演習	： 適切な1人分の食事内容が説明できるか、各期（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）の食事に見られる違いが理解できているかを評価します。	35%
昼食の内容	： バランスの良い食事を日々できるようになるために、教回に渡ってお昼ご飯を準備（自他問わない）したもののバランスの良さを評価します。	30%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田口素子・樋口満編著	・ 体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学	・ 市村出版	・ 2016年

### 参考文献等

【参考書】戦うからだをつくるアスリートの食事と栄養 田口素子（編） ナツメ社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

授業の内容や順番を変更する場合がある。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日1時間目  
場所： 研究室（図書館2階）  
備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>自分を知る</b> 1. コンディションチェックの意義 2. エネルギーバランスをとるために、トレーニング量と食事量の関係を理解する（消費エネルギーと摂取エネルギー）	4時間
第2回	<b>エネルギー代謝</b> ヒトが食事から得る摂取エネルギーと体内で消費される消費エネルギーとの出納をエネルギー代謝と言う。エネルギーの定義を理解し、自分のエネルギー消費量あるいは必要量の算出方法について学ぶ。	4時間
第3回	<b>効果的な食べるタイミング</b>	4時間

	朝食・昼食・夕食の役割を理解し、それぞれの役割に見合った内容を学ぶ。		
第4回	<b>食べると働く栄養素を知る</b>  私達ヒトは食物（有機物）を食べなければ生きていく事はできない。健康を維持・増進させるために、食べ物に含まれている5つの栄養素を、体内で利用するためである。食べた後の栄養素の取り込み方（消化と吸収）と、筋肉等の細胞に運ばれた栄養素の利用のされ方（分解や合成）を学ぶ。また栄養素は一つ一つが単独で働いているわけではない。栄養素のチームプレイの様子についても理解する。	ヒトが生きていく為に必要な栄養素と呼ばれる物質を身体の中で作れるのか作れないのかを調べる	4時間
第5回	<b>強くなる食べ方</b> 食事の基本形である、5つの皿（主食・主菜・副菜・果物・乳製品）を覚える。また、各皿に込められている役割を理解する。	”食事バランスガイド”について調べる	4時間
第6回	<b>食品の強みを知る</b> エネルギーを作る栄養素、体を作る栄養素、体の調子を整える栄養素、これらの栄養素を、それぞれ多く含む食品を知る。	栄養素の過不足で起こる症状（例；脚気、肥満等）について調べる	4時間
第7回	<b>水分補給でベストをつくす</b> 体の水分量は約60%である。この水分量を維持するために人は毎日水分を摂り不要になった水分を排泄する。トレーニングを行うことで起こる生理機能を理解し、水分補給の方法を覚える。	市販されているスポーツ飲料を調べる	4時間
第8回	<b>自分の競技特性を知る</b> スポーツの種類はエネルギーを何から得るかによって、ハイパワー系、ミドルパワー系、ローパワー系の3つに分けることができる。競技特性にみあった食事の違いを理解する。ゲストスピーカー（企業人）を招き、プロサッカー選手の栄養サポートについて学ぶ。	エネルギー特性の違いによる運動時間の違いを調べる	4時間
第9回	<b>成果を最大限に引き出す①（スケジュール）</b>  シーズン中に立てられたスケジュール（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）での運動量の違いを理解し、各期の目的に沿った食事内容を学ぶ。	各期（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）の目的を調べる①	4時間
第10回	<b>成果を最大限に引き出す②（運動量）</b>  シーズン中に立てられたスケジュール（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）での運動量の違いを理解し、各期の目的に沿った食事内容を学ぶ。	各期（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）の目的を調べる②	4時間
第11回	<b>成果を最大限に引き出す③（食事内容）</b>  シーズン中に立てられたスケジュール（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）での運動量の違いを理解し、各期の目的に沿った食事内容を学ぶ。	各期（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）の目的を調べる③	4時間
第12回	<b>サプリメントで不足を補う</b> 特定保健用食品およびJADA認定食品と現状について知り、サプリメントの使い方を学ぶ。	ドーピングについてインターネット最新情報を検索する。	4時間
第13回	<b>ジュニアのスポーツと栄養</b> 成長期であるこの時期は、競技成績のみを追い求めるのではなく、将来の健全な食生活を送るための望ましい食習慣の形成を促す、最も重要な時期である。成長期の特徴を理解し、適した食事内容を考える。	発育の男女差について 調べておく	4時間
第14回	<b>バランスバイキング（教材）</b>  遠征時の食事を想定し、バイキング形式の食事において、前回までの講義内容から得られた知識をもとに、自分に見合った食事が選択できるかを確認する。選択した食事から、自己評価による改善案を提示する。	バランスバイキングの結果と提案内容をエクセルでまとめる①	4時間
第15回	<b>ベストな昼食の準備</b>  前回の想定内容にさらに条件を追加し、食事（昼食）を選択する。選択内容の自己評価を行う。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	準備をした昼食の自己評価結果と改善提案内容をエクセルでまとめる② 期末レポートは指定された期日までに提出すること。	4時間

授業科目名	<b>食ビジネス経営実践</b>				
担当教員名	山岡正弘				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	約30年ホテル料飲部門で開業業務勤務、退職後フードビジネスコンサルティングオフィス代表として実務を経験。(全15回)				

### 授業概要

グループワーク又は個人による、繁盛店の分析調査から繁盛店のポイントを分析し新店舗開発に繋がります。次にグループワーク又は個人による店舗開業計画立案を実施します。業種・業態、基本コンセプト、顧客コンセプト、店舗コンセプト、主な利用動機、メニューコンセプト、サービスコンセプト、立地・商圈調査及び競合店調査、メニュー設計、原価表、厨房設計、サービスマニュアル、所要資金、収入計画、資金調達、返済計画、損益計算書等の企画立案書の作成を行い、プレゼンテーションによる発表を行います。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	新店舗開発に必要な基礎専門知識の実践活用	新店舗の創業企画書を作成する
<b>汎用的な力</b>		
1．DP5. 計画・立案力		習得した知識・技能を実践の中で応用することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末テスト（最終課題提出）	70%	： 新店舗開業計画書の提出での内容評価をする。
テーマ別課題提出	30%	： テーマ毎で内容評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本フードコーディネーター協会	2級資格認定試験対応テキスト	株式会社三恵社	2014年

### 参考文献等

【参考文献】  
 フードコーディネーター教本 3級資格認定試験対応テキスト2016年版 日本フードコーディネーター協会柴田書店  
 フードコーディネーター教本 2級資格認定試験対応テキスト 日本フードコーディネーター協会  
 株式会社三恵社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
 場所： 教室  
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
 メールアドレス：ppp-yamaoka@ares.eonet.ne.jp  
 メールには必ず氏名と所属を書くこと。

### 授業計画

第1回 **事業計画書の作成方法ガイド(1)～企画書の基本～**

飲食店事業計画書の作成方法ガイダンス  
 企画の基本  
 (1) 企画のテーマを明確にします。  
 (2) 企画を立てる為に必要な社会や市場の調査  
 (3) 課題の抽出  
 (4) 問題解決のための方策を考えます。  
 (5) 企画の流れを組み立てます。  
 (6) シンプルに仕上げる。  
 グループワークの組織決定

2017年度の外食産業での営業利益、経常利益、経常利益率ベスト10社を調べておく。

授業外学修課題にかかると見込まれる時間

4時間

第2回	<p><b>事業計画書の作成方法ガイド (2) ～企画書の書き方～</b>          企画書の書き方          (1) 企画書の企画の目次を作成する。          (2) 企画のテーマを決定する。          (3) 課題の抽出          (4) 課題解決するための方法論の模索。          (5) 企画のコンセプトを策定する。          (6) 企画の内容を図表・チャートで解説する。          (7) 企画の問題点と効果を展開する。          (8) 企画に対する予算とそのスケジュールの明確化。          (9) 企画に必要な基礎資料を作成する。          (10) プレゼンテーション方法を考える。</p> <p>業種・業態と特徴と主な利用動機についての考え方の解説。          繁盛店のリサーチ発表</p>	個人課題「繁盛店リサーチ」をする。	4時間
第3回	<p><b>飲食店プロデュース実践 コンセプトの立案～業種・業態～</b>          課題「繁盛店リサーチ」発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          業種・業態についての考え方の解説。          グループワークで業種・業態の基本的な考え方をまとめる。          課題「業種・業態」について個人でまとめる。</p>	個人課題「業種・業態」を明確にしておく。	4時間
第4回	<p><b>飲食店プロデュース実践 コンセプトの立案～基本コンセプトと店名～</b>          課題「業種・業態」発表をグループ内で実施し、代表を選抜し発表していただく。          基本コンセプトと店名について解説。          グループワークで基本コンセプトと店名の基本的な考え方をまとめる。          課題「提案基本コンセプト、店名」について個人でまとめる。</p>	個人課題「基本コンセプト、店名」を明確にしておく。	4時間
第5回	<p><b>飲食店プロデュース実践 コンセプトの立案～顧客コンセプト、利用動機～</b>          課題「基本コンセプト、店名」発表をグループ内で実施し、代表を選抜し発表していただく。          顧客コンセプト、利用動機について解説。          グループワークで顧客コンセプト、利用動機の基本的な考え方をまとめる。          課題「顧客コンセプト、利用動機」について個人でまとめる。</p>	個人課題「顧客コンセプト」を明確にしておく。	4時間
第6回	<p><b>飲食店プロデュース実践 農業・事業者の経営分析・他業種の経営分析と商品コンセプトの関係コンセプトの立案～サービスコンセプト～</b>          課題「顧客コンセプト、利用動機」発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          商品コンセプトについて解説。          グループワークで商品コンセプトの基本的な考え方をまとめる。          課題「商品コンセプト」について個人でまとめる。</p>	個人課題「商品コンセプト」を明確にしておく。	4時間
第7回	<p><b>飲食店プロデュース実践 コンセプトの立案～サービスコンセプト～</b>          課題「商品コンセプト」発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          サービスコンセプトについて解説。          グループワークでサービスコンセプトの基本的な考え方をまとめる。          課題「サービスコンセプト」について個人でまとめる。</p>	個人課題「サービスコンセプト」を明確にしておく。	4時間
第8回	<p><b>飲食店プロデュース実践 コンセプトの立案～店舗コンセプト～</b>          課題「サービスコンセプト」発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          店舗コンセプトについて解説。          グループワークで店舗コンセプトの基本的な考え方をまとめる。          課題「店舗コンセプト」について個人でまとめる。</p>	個人課題「店舗コンセプト」を明確にしておく。	4時間
第9回	<p><b>飲食店プロデュース実践 ～グループでの提案店舗をまとめる～</b>          グループ毎に提案店舗のコンセプトをまとめる。          (1) 業種・業態          (2) 基本コンセプト、店名          (3) 顧客コンセプト、利用動機          (4) 商品コンセプト          (5) サービスコンセプト          (6) 店舗コンセプト          課題「提案店舗の場所、物件」について個人調査してまとめる。</p>	個人課題「提案店舗の場所、物件」を明確にしておく。	4時間
第10回	<p><b>飲食店プロデュース実践 立地と商圈調査～より良い出店のための商圈調査～</b>          課題「提案店舗の場所、物件」発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          立地と商圈調査について解説。          新規出店での立地の見極め方、店の商圈をどう判断するかを解説。          グループワークで「提案店舗の場所・物件」の基本的な考え方をまとめる。          課題「メニューコンセプト」について個人で具体的な商品を提案する。</p>	個人課題「具体的な商品」を明確にしておく。	4時間
第11回	<p><b>飲食店プロデュース実践 メニュー設計～コンセプトに沿った品揃えと価格設定～</b>          課題「具体的な商品」を発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          メニュー設計～コンセプトに沿った品揃えと価格設定～について解説。          品揃え(ライン・アイテム)、業種・業態による違いを解説。          原価計算と客単価の設定及びメニューブックの作成について解説。          グループワークで「具体的な商品」の考え方をまとめる。          課題「内外装・厨房設備」について個人で具体的にまとめる。</p>	個人課題「内外装・厨房設備」を明確にしておく。	4時間
第12回	<p><b>飲食店プロデュース実践 事業計画書の作成演習 (1) ～初期投資計画の立案・投資・回収～</b>          課題「内外装・厨房設備」を発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          新規開業する際に必要な初期投資計画の立案・投資・回収について解説。          グループワークで「初期投資計画の立案・投資・回収」の基本的な考え方をまとめる。          課題「初期投資計画の立案・投資・回収」について提案する。</p>	個人課題「初期投資計画の立案・投資・回収」を明確にしておく。	4時間
第13回	<p><b>飲食店プロデュース実践 事業計画書の作成演習 (2) ～事業計画書の内容をまとめる～</b>          課題「初期投資計画の立案・投資・回収」を発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          「収入計画」「損益計算書」について解説。          グループワークで「収入計画」「損益計算書」の基本的な考え方をまとめる。          課題「収入計画」「損益計算書」について提案する。</p>	個人課題「収入計画」「損益計算書」を明確にしておく。	4時間
第14回	<p><b>飲食店プロデュース実践 事業計画書の作成演習 (3) ～事業計画書内容をまとめる～</b>          課題「収入計画」「損益計算書」を発表をグループ内で実施し、代表者を選抜し発表していただく。          第13回までのまとめて事業計画書作成する。</p>	次回発表の準備をしておく。	4時間
第15回	<p><b>飲食店プロデュース実践 事業計画書の作成演習 (4) ～グループ課題発表～</b>          事業計画書のグループ発表 10分前後でまとめる。          ひとつの店舗を開業するのに必要なスキルを理解し発表する。</p>	パワーポイントにしてまとめておく	4時間



授業科目名	<b>カフェ演習</b>				
担当教員名	吉田誠				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	カフェ経営（全15回）				

### 授業概要

フードサービス店を開業する場合、企画・運営・経営の知識から調理の知識まで、幅広い知識が必要となります。また、持続可能な経営を目指す場合、人気となるメニュー開発やテイクアウト商品開発に関する技術やトレンドを感じ取る情報収集が重要となってきます。カフェ演習では、人気の業態であるカフェのスキルはもちろん、フード業界に関わる基本スキルを実習中心で広く学びます。また、焙煎士の方より様々なコーヒーの抽出技術を学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 汎用的な力

- DP9. 役割理解・連携行動

#### 具体的内容：

カフェを運営するためのメニュー構成、経営知識や業務知識が理解できる

#### 目標：

学んだ知識・技術を正確に把握・実践しようとする力を身に付ける

チームワークを大切にし和を持って物事をやり遂げる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末テスト（実技テスト）	60%	： 課題メニューを時間内に作り上げ、衛生的な配慮ができていたか、盛り付けが美しいかの項目について評価する。
毎回のレポート（調理実習ノート）	20%	： 講義内容が理解出来ているか、調理手順が理解出来ているか、調理作業の効率化や調理理論が理解出来ているか、完成品のイラストがカラーで描けているか、の全てを評価する。
授業態度	20%	： 積極的に取り組もうとする主体性や自分の役割を理解し協働しようとする態度があったかを評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献については実習時にそのテーマに沿って、都度紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 実習後30分間  
場所： 346教室および準備室

### 授業計画

回	内容	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>基本のハンドドリップとエスプレッソマシーンを使った淹れ方（実演講習@osaru coffee）</b> エスプレッソマシーンを使い方と、抽出の仕方。 コーヒーの知識。 ミルクのフォームとスチームの仕方。 ハンドドリップの基本知識 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出	4時間
第2回	<b>基本のハンドドリップとエスプレッソマシーンを使った淹れ方（実演講習@osaru coffee）</b> エスプレッソマシーンを使い方と、抽出の仕方。 コーヒーの知識。 ミルクのフォームとスチームの仕方。 ハンドドリップの基本知識 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、小作文と合わせて後日提出	4時間
第3回	<b>シンプル卵サンド</b> <b>卵サンドとコーヒーとフレンチトースト</b>	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	4時間

	基本の卵サンドをコーヒーに合わせ食べる。 基本はコーヒーの授業がメインなので、サンドは1種のシンプルに。 基本のフレンチトースト 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。実習巡回にて的確に指導。		
第4回	<b>卵サンドとコーヒーとフレンチトースト</b>  基本の卵サンドをコーヒーに合わせ食べる。 基本はコーヒーの授業がメインなので、サンドは1種のシンプルに。 基本のフレンチトースト 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	4時間
第5回	<b>基本の Pasta と サラダ ・ エスプレッソマシンの応用</b>  本格的なカルボナーラの作り方 シンプルサラダとそのドレッシング エスプレッソマシンの復習と実習 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	4時間
第6回	<b>基本の Pasta と サラダ ・ エスプレッソマシンの応用</b>  本格的なカルボナーラの作り方 シンプルサラダとそのドレッシング エスプレッソマシンの復習と実習 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと	4時間
第7回	<b>オリジナルサンドイッチとポテト ・ エスプレッソマシンの応用</b>  様々な材料で、自分だけのオリジナルサンドイッチを作る。 常温から揚げるポテト エスプレッソメニューの復習 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと	4時間
第8回	<b>オリジナルサンドイッチとポテト ・ エスプレッソマシンの応用</b>  様々な材料で、自分だけのオリジナルサンドイッチを作る。 常温から揚げるポテト エスプレッソメニューの復習 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	4時間
第9回	<b>カフェにおけるスイーツメニュー ・ エスプレッソマシーン最終日</b>  カフェにおけるスイーツメニュー チョコレートブラウニー パンケーキ ・ アイスベリーソース添え エスプレッソマシンの最終日 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	4時間
第10回	<b>カフェにおけるスイーツメニュー ・ エスプレッソマシーン最終日</b>  カフェにおけるスイーツメニュー チョコレートブラウニー パンケーキ ・ アイスベリーソース添え エスプレッソマシンの最終日 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	4時間
第11回	<b>カフェのご飯メニュー ・ ノンアルコールカクテルを作ってみよう</b>  タコライス オムライス ノンアルコールカクテル 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	4時間
第12回	<b>カフェのご飯メニュー ・ ノンアルコールカクテルを作ってみよう</b>  タコライス オムライス ノンアルコールカクテル 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	4時間
第13回	<b>カフェにおけるワンプレートメニュー ・ 卵料理のバリエーション</b>  ワンプレートモーニングメニュー 卵料理のバリエーション (オムレツ、スパニッシュオムレツ) ※卵料理をワンプレートメニューに併用 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	4時間
第14回	<b>カフェにおけるワンプレートメニュー ・ 卵料理のバリエーション</b>  ワンプレートモーニングメニュー 卵料理のバリエーション (オムレツ、スパニッシュオムレツ) ※卵料理をワンプレートメニューに併用 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	4時間
第15回	<b>カフェ演習総括</b>  ・ 基本技術習得度合見極めのため、実技試験の実施 <内容> オリジナルサンドイッチ フレンチトースト フライドポテト ノンアルコールカクテル 以上の内容で実技試験を実施し、評価の一部とする。	授業のレポートを簡潔にまとめ、実習ノート の完成を目指す。	4時間
第16回	<b>基本技術習得度合の見極め (実技試験)</b>  ・ 基本技術習得度合見極めのため、実技試験の実施 <内容> オリジナルサンドイッチ フレンチトースト フライドポテト ノンアルコールカクテル 以上の内容で実技試験を実施し、評価の一部とする。	授業のレポートを簡潔にまとめ、実習ノート の完成を目指す。	4時間

授業科目名	フードアナリスト論 1				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

日本フードアナリスト協会4級講座のカリキュラムに則り、「食の情報の専門家」であるフードアナリストとして実践で活躍できる内容を修得します。食に関する基礎知識から食空間の知識・教養・英会話、食ビジネスにおける格付けの考え方や菓子やパン、サービスとホスピタリティなどを学びます。食・食文化に関わる知識を体系的に学ぶことにより、食の魅了や感動を知ることができるとともに、食ビジネスをあらゆる面から学ぶことにより、多角的に捉えることができる内容です。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	食ビジネス業界に関する知識と情報	食の情報をもとに、食ビジネスの業界と動向が理解できる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		フードアナリストに関する情報を収集する基礎的な方法を身につけることができる。
2．DP7. 完遂		全講義終了ののち、フードアナリスト4級を受験、取得することができる。
3．DP8. 意思疎通		食の情報を発信するうえで、表現力や語彙力を身につけることができる。
4．DP10. 忠恕の心		道徳と思いやりを持ち、真剣に取り組む姿勢を身につけることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

フードアナリスト4級取得を目指す授業につき、受験資格を要するため、毎回出席が原則です。原則に則り規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
各章ごとの小テスト 20%	： 食の情報を収集するうえでの基礎的な方法と、情報発信の表現力と語彙力の修得に基づいて評価します。
グループワークにおける協調性と積極性 20%	： グループワークにおいて自分の役割を十分に果たしているかどうか、ルーブリックに基づいて評価します。
到達度確認テスト 30%	： フードアナリスト4級の内容が理解・把握できたかどうか、食の情報を発信するスキルの修得に基づいて評価します。
期末レポート 30%	： 授業を振り返り、フードアナリストとしての分析力の修得に基づいて評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
フードアナリスト協会編・著	三訂版 フードアナリスト検定 教本4級	学研	2018年

### 参考文献等

フードアナリスト協会編『五感で楽しむ食』（学習研究社、2007年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

普段からテーマを決めて、料飲店を意識しながら歩いてみてください。新しい発見があるはずです。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限  
場所： 研究室（西館2階）  
備考・注意事項： 授業内で適宜案内する。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>第1章 フードアナリスト序章①憲章</b> フードアナリストが目指す方向を理解します。尊命敬食について学びます。食の情報のプロとして必要なことを理解します。	「食の情報」のを収集し分析することの注意点を調べておいてください 4時間
第2回	<b>第1章 フードアナリスト序章②社会的背景</b>	食の情報雑誌を読んでください 4時間

	フードアナリストと食の安全性の関連を学びます。 格付けの考え方を理解します。		
第3回	<b>第1章 フードアナリスト序章③倫理規定</b> フードアナリスト倫理規定について理解します。 店舗取材の手法を学びます。 ミステリーショッパーの活動を理解します。	覆面調査員としての活動を調べてください	4時間
第4回	<b>第2章 食空間コミュニケーション①接客</b> 食空間の会話について知識を深めます。 敬語と接客用語を実践で学びます。 グループワークでコミュニケーション力が向上します。	飲食店での敬語、接客用語を練習してください	4時間
第5回	<b>第2章 食空間コミュニケーション②英語</b> レストランでの英会話を学びます。 ペアワークでコミュニケーションの実践を行います。	食空間における英会話について練習してください	4時間
第6回	<b>第2章 食空間コミュニケーション③食の語彙</b> 食空間の単語について知識を深めます。 食品、飲料、その他を理解します。	食空間で使用する英語を調べておいてください	4時間
第7回	<b>第3章 食空間の知識と教養①料理</b> 料理の種類について学びます。 日本料理、西洋料理、中国料理、その他の国の料理について知識を深めます。	世界の主な料理について関連情報を調べておいてください	4時間
第8回	<b>第3章 食空間の知識と教養②食品・飲料</b> 植物性食品、動物性食品について知識を深めます。 アルコール飲料とソフトドリンクの種類と特徴を理解します。	飲料の種類についての関連情報を調べておいてください	4時間
第9回	<b>第3章 食空間の知識と教養③文化</b> 食に関わる教養を学びます。 食の名言・格言、文学と料理、日本の伝統食文化について知識を深めます。グループワークで食と文化の関わりについて考えます。	食に関することわざ、文学作品、伝統食文化について調べておいてください	4時間
第10回	<b>第4章 菓子・パン①洋菓子</b> 洋菓子の分類・種類について学びます。 日本の菓子の歴史の知識を深めます。	洋菓子の消費や販売動向を調べてください	4時間
第11回	<b>第4章 菓子・パン②パン</b> パンの種類、パンの歴史について学びます。 世界におけるパン、日本におけるパンについて特徴を理解します。	世界のパンと日本のパンを比較し、それぞれの特徴を調べてください	4時間
第12回	<b>第5章 サービスとテーブルマナー①ホスピタリティ</b> サービスとホスピタリティについて学びます。 語源と歴史について理解します。 食ビジネスにおける実践を考えます。	ホスピタリティについての関連情報を調べておいてください	4時間
第13回	<b>第5章 サービスとテーブルマナー②プロトコール</b> テーブルマナーについて学びます。 プロトコールとエチケット、各国のテーブルマナーの知識を深めます。	テーブルマナーについてグローバルな観点から調べてください	4時間
第14回	<b>第6章 食空間の演出①テーブル</b> テーブルデザインについて学びます。 料理と器、テーブルセッティングとカトラリー、テーブルマナーの歴史の知識を深めます。	テーブルデザイン・インテリアの関連情報を調べておいてください	4時間
第15回	<b>第6章 食空間の演出②インテリア</b> インテリアについて学びます。食空間とインテリア、ガラスの歴史を理解します。 フードアナリスト4級の学修内容を踏まえ、到達度を確認します。授業全体を振り返ることで学修内容を確実に身につけます。	学期の総復習を行いレポートを作成してください	4時間

授業科目名	フードアナリスト論2				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

日本フードアナリスト協会3級講座のカリキュラムに則り、「食の情報の専門家」であるフードアナリストとして実践で活躍できる内容を修得します。フードアナリスト論1で学んだ内容を基本とし、本授業では食空間コミュニケーション、ホスピタリティ文化、ワインとチーズ、食と芸術・文化、日本の伝統、インテリアとテーブルデザインなどを学びます。食・食文化に関わる知識を体系的に学ぶことにより、食ビジネスを多角的に捉えることができる内容です。なお、本授業はフードアナリスト論1を履修済みであることが必須です。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

食ビジネス業界に関する知識と情報

#### 目標：

食の情報をもとに、食ビジネスの業界と動向が理解できる。

#### 汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP7. 完遂
3. DP8. 意思疎通
4. DP10. 忠恕の心

フードアナリストに関する情報を収集する基礎的な方法を身につけることができる。

講義の中間・終了時にフードアナリスト3級を受験することにより、終了時に資格取得することができる。

食の情報を発信するうえで、表現力や語彙力を身につけることができる。

道徳と思いやりを持ち、真剣に取り組む姿勢を身につけることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

フードアナリスト3級取得を目指す授業につき、受験資格を要するため、毎回出席が原則です。原則に則り規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

各章ごとの小テスト	20%	： 食の情報を収集するうえでの基礎的な方法の修得と、情報を整理し因果関係の理解に基づいて評価します。
グループワークにおける協調性と積極性	20%	： 食に関する課題について、グループで議論する際の積極的な姿勢と協調性に基づいて評価します。
到達度確認テスト	30%	： フードアナリスト3級の内容の修得・理解度に基づいて評価します。
期末レポート	30%	： 提出されたレポートについて、食の情報収集と分析力、表現力が修得されているかどうかに基づいて評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
フードアナリスト協会編	・ 改訂新版 フードアナリスト検定3級 第6刷	・ 学研	・ 2017年

### 参考文献等

フードアナリスト協会編『五感で楽しむ食』（学習研究社、2007年）ほか、授業内で紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

本授業はフードアナリスト論1を修得済であることが要件です。普段からテーマを決めて、料飲店を意識しながら歩いてみてください。新しい発見があるはずです。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限  
場所： 研究室（西館2階）  
備考・注意事項： 授業内で案内する。

### 授業計画

第1回	第1章 食育①	食育基本法の関連情報について調べてください	授業外学修課題にかかる目安の時間
	食育について学びます。食事のバランス、食生活指針について理解します。		4時間

第2回	<b>第1章 食育②</b> 世界における日本の食料事情について理解します。 グループワークで食料問題について考えます。	食料自給率に関する情報を調べておいてください	4時間
第3回	<b>第2章 食空間コミュニケーション①フランス語</b> 食空間のフランス語について学びます。 ペアワークでコミュニケーション力が向上します。	食に関連するフランス語について練習してください	4時間
第4回	<b>第2章 食空間コミュニケーション②外国の食文化</b> フランス料理のソースと郷土料理について学びます。 西洋料理の歴史と特徴を理解します。	外国の郷土料理について調べてください	4時間
第5回	<b>第3章 ホスピタリティ</b> ホスピタリティ文化の成立について学びます。 世界のホスピタリティ、受ける側のホスピタリティを理解します。	ヨーロッパのホスピタリティ文化について関連情報を調べておいてください	4時間
第6回	<b>第4章 食と栄養</b> 栄養素について学びます。 栄養と健康、食品と栄養価について理解を深めます。	3大栄養素と微量栄養素について関連情報を調べておいてください	4時間
第7回	<b>第5章 ワインとチーズ①ワイン</b> ワイン、酒類の定義について学びます。 ワインの歴史、ワインの分類、ワインの醸造を理解します。	ワインの種類と分類について調べておいてください	4時間
第8回	<b>第5章 ワインとチーズ②チーズ</b> チーズの歴史、チーズの種類を学びます。 チーズとワインのマリアージュについて知識を深めます。	チーズをはじめとする乳製品について関連情報を調べておいてください	4時間
第9回	<b>第6章 ヨーロッパ菓子</b> ヨーロッパ菓子の誕生と古代文明から現代に至るまでの菓子の知識を深めます。ヨーロッパ菓子とティーの関係について歴史と文化を理解します。	ヨーロッパの菓子文化について調べてください	4時間
第10回	<b>第7章 食と芸術・文化</b> 芸術・文化を学びます。 食と絵画、食と音楽、食と映画、食と文学の関連性について知識を深めます。	食が描かれた絵画、グルメ作曲家ロッシニーについて調べてください	4時間
第11回	<b>第8章 インテリアとテーブルデザイン</b> 食空間のテーブルデザインの種類と特徴を学びます。 食と色彩を学び、色のしきみ、食品と色、色と味覚について知識を深めます。	テーブルと椅子の関係性、食と色彩の関連について調べてください	4時間
第12回	<b>第9章 日本の伝統と食文化①伝統文化</b> 伝統文化と食について学びます。 茶道、華道、書道、香道を理解します。 グループワークによる伝統文化を考えます。	伝統文化のなかでひとつ取り上げ、食との関わりを調べてください	4時間
第13回	<b>第9章 日本の伝統と食文化②伝統行事</b> 日本の伝統的食文化、伝統行事、社会と食事、祭りについて知識を深めます。	「ハレ」と「ケ」の日と食事との関連について調べてください	4時間
第14回	<b>第10章 地球環境と食①自然環境と食</b> 自然環境と食、環境と食生活について考えます。 フードアナリスト3級の模擬試験で理解度を確認します。 振り返りにより学修内容を確実に身につけます。	自然環境が食に及ぼす影響を調べてください	4時間
第15回	<b>第10章 地球環境と食②食の社会問題</b> 食に関わる社会問題を考えます。地球環境と食について理解を深めます。 フードアナリスト3級の内容を踏まえ、達成度を確認します。	学期の総復習を行いレポートを作成してください	4時間

授業科目名	<b>観光マーケティング・ブランド論</b>				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

観光は人々の楽しみに大きく関与するものなので、その期待に応えていくためには、他の一般商品以上にお客様の視点に立ったマーケティングの発想が不可欠である。本講義では、観光ビジネスではどのようなマーケティングが実践されているのかを理解するために、マーケティングの基本的な理論とケーススタディを中心に講義を行う。観光客を受け入れる都市や地域は集客のためにどのような取り組みをしているのかについても分かりやすく紹介する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

マーケティングの基礎理論と観光マーケティングの実践方法の理解

#### 目標：

マーケティングを学ぶ上で必要な理論の理解とそれに対応する観光のケーススタディを通して、実践で発揮する力を付ける。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見

常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光動向を把握してもらうことによって、観光地における集客戦略やリピーター率向上のための取り組みについて考察することが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
「試験（小テスト、中間テスト、期末テスト）」

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小テスト・受講態度	40%	： 授業内容から出されるクイズの答えを提出してもらい、平常点として成績に反映する。
中間テスト	30%	： 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
期末テスト	30%	： 次の観点から評価する。1. マーケティングの基礎知識を正しく理解、2. 観光マーケティングのケーススタディを通して、集客戦略やリピーター率向上のための取り組みについてご自身で考察できるのか。

### 使用教科書

指定する

#### 著者

森下 晶美編著

#### タイトル

・ 新版 観光マーケティング入門

#### 出版社

・ 同友館

#### 出版年

・ 2016年

### 参考文献等

ホスピタリティ・ビジネス研究会訳（Philip Kotler 外2人）『ホスピタリティと観光マーケティング』 東海大学出版部 1997年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜1限（9:00-10:30）

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

### 授業計画

回数	授業内容	事前学習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション・マーケティングとは</b> 学習内容や評価方法、受講における注意事項などについて説明したうえで、マーケティング・観光マーケティングとは何かについてQuiz形式で確認します。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回	<b>ホスピタリティと観光のマーケティングについて</b> マーケティングの定義について確認したうえで、ホスピタリティ・ツーリズムのマーケティングの特徴について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、4P, 7P）	4時間
第3回	<b>商品購買と人間ニーズの充足</b> マーケティングは、「お客の思い」を正しく理解するための活動であることを学び、本当のニーズをつかむことが大事であることを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニーズ、ウォンツ）	4時間
第4回	<b>購買意思決定のプロセス</b>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：AIDMA法則、AISAS理論）	4時間

	商品の購買に至る一連の行動について理論と事例を通して理解します。また、購買に影響を与える消費者の特性について学びます。		
第5回	<b>お客とはだれなのか。市場細分化、ポジショニング</b>  消費者を“ある尺度”で共通したグループに分類すると市場細分化についてその理由や基準等について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：セグメンテーション、ターゲット・マーケティング）	4時間
第6回	<b>マーケティング環境分析：SWOT分析</b>  マーケティング環境分析の必要性和ツールとしてのSWOT分析について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：Strength, Weakness, Opportunity, Threat）	4時間
第7回	<b>マーケティング・リサーチ</b>  マーケティング・リサーチの企画・設計の進め方やデータ収集のための尺度・質問文作成における注意点などについて学ぶ。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PDCA、定量的データ、定性的データ）	4時間
第8回	<b>Reviewと中間テスト</b> 現在までの授業内容をまとめた上で、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回	<b>プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント</b>  プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント手法を理解し、プロダクト・ライフサイクルの概念と観光地のライフサイクルにおける特徴や問題点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PPM、プロダクト・ライフサイクル）	4時間
第10回	<b>旅行商品流通チャネル</b>  旅行商品の種類と特徴について理解したうえで、旅行商品の流通チャネルについて理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：パッケージツアー、ホールセール）	4時間
第11回	<b>マーケティングで価格戦略を策定</b>  競争優位の基本戦略を理解し、価格決定方法や競争市場戦略の4つの位置づけについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：スケールメリット、競争市場戦略）	4時間
第12回	<b>ブランドマーケティング</b>  ブランド・イメージの定義やブランド構築のプロセスなどについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ブランド・アイデンティティ、持続性）	4時間
第13回	<b>観光地ブランドと地域づくり</b>  観光地におけるブランド構築や地域づくりにおけるポイントについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：コンセンサス、ディマーケティング）	4時間
第14回	<b>カスタマー・リレーションシップ・マーケティング</b>  CRMの概念やCRMが重視されるようになった背景について理解したうえで、実践事例を通じてその考え方を理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：CRM、データベース・マーケティング）	4時間
第15回	<b>振り返り、まとめ</b> 現在までの授業内容をまとめます。	ノートをまとめる、全体の内容を理解する。	4時間

授業科目名	<b>旅行業法関連法規論</b>				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社にて企画・立案・商品造成をおこなう。また、都市政策（修士）をもち、観光行政にも携わる。				

### 授業概要

「観光立国日本」という目標を国が掲げてからすでに10年以上が経過し、訪日観光客は年間3000万人を超える今、これからも旅行業、観光業の重要性がより増してくるの言うまでもない。この授業では①旅行業・観光業の根幹である「旅行業法」の基本的知識を得る ②法に裏打ちされた知識を活用できるようになる ③観光立国として急激に発展しつつあるこの業界の方向性を正しく認識する、これらのことを「法」を基盤にし、考えられることができるようになるための授業である。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	「旅行業法」それに付随する「施行規則」「細則」の理解	旅行業の根幹となる法律を、「国(行政)」と「旅行者」のかかわりを通して理解し、活用できる
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		実際の現場に立った時に役に立つ知識や賢い消費者になることができる
2．DP5. 計画・立案力		旅行・観光業界に必要な知識を確実につけられる

### 学外連携学修

有り（連携先：JTB総合研究所）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。  
(出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合成績処理を行わない)  
試験（旅行業務取扱管理者資格模擬試験）

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

演習	60%	： 毎回授業で行う演習を1～4点で評価し、合計60点満点とします。
定期試験	40%	： 旅行業務取扱管理者資格の必要知識を40点満点で評価します。合格相当の知識があれば40点とします。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 2018旅行業法及びこれに基づく命令	・ JTB総合研究所	・ 2018年
	・ 2018旅行業約款 運送・宿泊約款	・ JTB総合研究所	・ 2018年

### 参考文献等

必ず使用教科書を購入すること。  
旅行業実務六法 著者名：観光庁観光産業課監修 出版社：東京法令出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・国家試験「旅行業務取扱管理者試験」（9月上旬）を受験すること
- ・「旅行業務取扱管理者演習」も履修することが望ましい
- ・原則毎回の授業には参加すること
- ・自主的かつ積極的に予習・復習を行うこと

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2時限（10:40～12:10）  
場所： 西館2階 個人研究室15  
備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。  
アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp  
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

### 授業計画

回	内容	振り取りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第1条～第2条)	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、旅行業法の全体像</b> 今後の授業の進め方について、「旅行業法」とは何か、概略を理解する。	振り取りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第1条～第2条)	4時間
第2回	<b>法の目的、定義、旅行業とは</b> 旅行業法の目的を理解し、その目的を達成させるための手段を学習する。そして使われている専門用語を理解する。	振り取りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第3条～第6条)	4時間
第3回	<b>旅行者のための登録制度</b>	振り取りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第7条～第10条)	4時間

	旅行業を営むために必要な「登録」について申請から廃止までの流れを学習する。		
第4回	<b>営業保証金制度</b> 登録時にある重要な手続き「営業保証金の供託」について理解する。	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第11条の2～3)。	4時間
第5回	<b>旅行業務取扱管理者</b> 旅行業者の営業所に必ず1人以上いなければならない「旅行業務取扱管理者」の職務について	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第12条)	4時間
第6回	<b>取引準則～旅行業務取扱料金、旅行業約款</b> 旅行者との取引を行う上で、必要な知識「取扱料金(手数料等)」「約款」について	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第12条の4～5)	4時間
第7回	<b>取引準則～取引条件の説明、書面の交付</b> 旅行者との取引を行う上で、「契約前の書面」「契約締結後の書面」について	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第12条の7～8)	4時間
第8回	<b>取引準則～広告に関するもの</b> 旅行者を募集する時に、どのような広告で募集すれば法に反していないか理解する。	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第12条の10～11)	4時間
第9回	<b>取引準則～旅程管理業務</b> 添乗員(旅程管理者)の職務について、どのように定義されているか学習する。	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第12条の6、第12条の9)	4時間
第10回	<b>取引準則～標識の掲示、外務員の証明書携帯等</b> 営業所以外で旅行に関し契約を締結する場合はどのように定められているのか理解する。	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第14条の2～3)	4時間
第11回	<b>旅行業者代理業者、受託契約</b> 「旅行業者」と「代理業者」の違いについて、さらに「代理業者」と「受託契約」についての違いを理解する。	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第22条の2～7)	4時間
第12回	<b>旅行業協会</b> 「保証社員(＝旅行業者等)」とは何か、旅行業協会の法定業務について学習する。	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第22条の8～16)	4時間
第13回	<b>弁済業務保証金制度</b> 「弁済業務保証金制度」について、さらに「弁済業務保証金制度」と「営業保証金制度」は類似しているが、授業では相違点について理解する。	振り返りシートの作成。次回に該当する条文の通読(第18条の3、第19条～第34条)	4時間
第14回	<b>禁止行為、業務改善命令、雑則・罰則等</b> 旅行業法における、禁止行為・罰則、行政からの業務改善命令等について学習する。	振り返りシートの作成。今までの授業内容の復習と振り返りシートを確認しておく。	4時間
第15回	<b>改正旅行業法について、総括(総合演習)</b> 今年度改正される条文(旅行業務取扱管理者、登録制度)について学習する。課題を用い、旅行業法の理解度の確認を行う。	テキスト、振り返りシートを読み返しておく。	4時間

授業科目名	<b>観光リスクマネジメント論</b>				
担当教員名	苗村淑子				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国際会議場で政府間、国際機関等の国際会議や学術会議、大型インセンティブの誘致・運営を担当。国内外のVIP対応、海外での国際会議・セールスプロモーション等の経験多数。(全15回)				

### 授業概要

本授業ではリスクマネジメントについて、国際観光とMICEの現場から考えます。2018年には訪日観光客が3100万人を超え、更に政府は2020年には4000万人を目指すなか、インバウンドも益々多様化が進み、新たに様々な問題の発生が懸念されます。このような状況において、リスクマネジメントの知識を習得することは大変重要です。授業ではリスクマネジメントの概念、認知、対応策等について多面から考える力を身につけ、また、グループワークやプレゼンテーションを通して課題解決力と実践力の習得を目指します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	国際観光及びMICEにおけるリスクマネジメントの幅広い知識を習得します。	習得したリスクマネジメントの知識を基に社会での実践力を身につけます。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		常にWhy?の意識を持ち、リスクの認識と分析力を身につけます。
2．DP6. 行動・実践		客観的判断力と実践力の習得を目指します。
3．DP9. 役割理解・連携行動		事前準備と協働の重要性を理解します。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなし、不合格とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

中間レポート	20%	： 第1回から第7回までの授業内容の基礎知識に基づきレポートを作成します。理解度と論理的構成について独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	20%	： 講義内容に関する知識とその分野に関する考えを問うレポートを作成します。評価は、理解度と論理的構成について独自のルーブリックに基づいて評価します。
小テスト・グループワーク及びプレゼンテーション	30%	： 授業内容の理解と課題解決力、協働力について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末試験	30%	： 講義内容に関する知識と理解度を問う設問及びその分野の課題に関する自らの考えの提示の観点から評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて授業内で発表します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすることがより理解を深めます。リスクマネジメントは国際観光のみならず、社会全般において重要です。問題の認識と分析力及び実践力を身につけることを目標とします。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日 3限
場所：	研究室

### 授業計画

回数	授業の進め方	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>授業の進め方：観光リスクマネジメントの重要性について</b> 観光やMICEにおけるリスクマネジメントとは何か？ リスクマネジメントの基本を踏まえ、その重要性を理解します。15回の講義の概要と評価基準についてガイダンスを行います。	4時間
第2回	<b>観光リスクマネジメントの概念について</b> 観光リスクマネジメントの概念及び認識、情報分析と的確な判断の仕方について理解します。	4時間
第3回	<b>観光ビジネスにおけるハザードとリスクの考え方について</b> ハザードとリスクの関係の理解により、リスクマネジメントの基本となる「リスクの認識」を深めます。	4時間

第4回	<b>観光リスクマネジメントのプロセスについて</b> リスクマネジメントのプロセスについて、観光全般及びインバウンドに特化した場合の両面から理解します。	想定されるプロセスについて予め学習しておくこと。	4時間
第5回	<b>大型災害や事故・トラブルが観光ビジネスに与える影響について</b> 国、都市、主催者、参加者のそれぞれの立場からその影響とリカバリーについて理解します。	異なる立場の影響について考えておくこと。	4時間
第6回	<b>デスティネーションにおけるリスクマネジメントについて</b> 海外の旅行地を選定し、プロセスを踏まえた事前リスクマネジメントについてグループワークを行います。	予め選定した都市について調べておくこと。	4時間
第7回	<b>多様性と異文化対応リスクマネジメントについて</b> 宗教、食文化、慣習等の異なる社会におけるリスクマネジメントをコミュニケーションとホスピタリティの両面から考えます。	異文化社会における課題について考えておくこと。	4時間
第8回	<b>ふりかえりと中間レポートの作成</b> 第1回から第7回までの講義内容を振り返り、基礎知識を纏めます。	第1回から第7回までの授業内容を丁寧に復習しておくこと。	4時間
第9回	<b>国際会議や大型国際イベント開催におけるリスクマネジメントについて</b> 海外数十か国から多数の人々が参加する大型MICE、特に国際会議開催において必要なリスクマネジメントとは何か？ 国際会議オペレーションのプロを講師に招き、最近の実例を踏まえて学びます。	実際の開催状況を想定し、事前に必要なリスクマネジメントについて考えておくこと。	4時間
第10回	<b>観光インフラとリスクマネジメントについて</b> 航空、鉄道、観光バス等の大型輸送機及び空港や高速道路等のハード面、またWi-Fiや情報提供等のソフト面での問題が及ぼす影響とそのリスクマネジメントについて理解します。	大阪における観光インフラの状況について調べておくこと。	4時間
第11回	<b>ケーススタディと分析</b> 実際に起こった事例を題材にし、その対応、問題点等についてグループワークとプレゼンテーションを行い、課題の認識と客観的判断力について学びます。	リスクマネジメントにおける客観的判断力について考えをまとめておくこと。	4時間
第12回	<b>MICEファシリティにおけるリスクマネジメントについて</b> 建築、施設整備、耐震性等のハード面及びインフラやセキュリティ等ソフト面の両方から、MICE、特にハイレベル国際会議開催の際のファシリティ・リスクマネジメントについて講師招き学びます。	MICE施設に求められるリスクマネジメントについて調べておくこと。	4時間
第13回	<b>危機管理マニュアルと広報におけるリスクマネジメントについて</b> 事前の準備・対策として危機管理マニュアル作成の重要ポイント、またトラブル発生後の広報・記者会見等の対応について学びます。	新聞やテレビの報道から問題発生後のメディア対応の情報を収集しておくこと。	4時間
第14回	<b>観光及びMICEにおけるリスクマネジメントの総括</b> これまで学んできたリスクマネジメントの基礎知識及び実践的知識を纏め、実社会での活用について理解します。	これまでの授業内容を丁寧に復習しておくこと。	4時間
第15回	<b>まとめと期末レポートの作成</b> 観光リスクマネジメントに関する今後の課題と実践についてまとめます。	これまでの授業を振り返り、考えをまとめておくこと。	4時間

授業科目名	スポーツ・ツーリズム論／スポーツツーリズム				
担当教員名	松田充史・大崎哲也				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2単位
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行企画・立案をおこなう。また、都市政策（修士）をもち、観光行政にも携わる。（全15回）				

### 授業概要

この授業は、スポーツをツーリズムのマーケットから考察します。現在、日本は成長戦略として観光立国をめざしています。ツーリズムはスポーツと親和性が高く、「スポーツをみる」「スポーツをする」「スポーツを支える」面からツーリズム産業と密接につながっています。スポーツ・ツーリズムの基本的概念を理解し、更なる産業発展について考察できる力をつけることが本授業の目的です。2020年東京オリンピック・パラリンピックを視野にスポーツ・ツーリズムに関するビジネスを学びます。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	<b>具体的内容：</b> スポーツをツーリズムの観点で考察できる。	<b>目標：</b> スポーツツーリズムを扱っている具体的な企業名をあげ、どのようなビジネスを行っているかわかる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP4. 課題発見		収集した資料から、業界の課題を検討できる。

### 学外連携学修

有り（連携先：スポーツツーリズム関連）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

期末レポート  
成績は提出物（40%）、授業態度（60%）で評価します。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート	40%	： レポートは40点満点とします。最前線の取り組みからレポートできていれば20点、かつ具体的事例について書かれていれば20点を加点します。
授業態度	60%	： チーム制を取り学生の共同学習をおこないます。チーム発表からディベート、討論をおこないます。独自のルーブリック評価でチームおよび個人評価をおこないます。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

原田宗彦「スポーツ都市戦略」（学芸出版社）  
国土交通省：観光白書

### 履修上の注意・備考・メッセージ

原則として全ての時間の出席を求めます。やむを得ない理由で欠席をする（した）場合はその理由を証明する書類を添えて欠席届を提出し、指示を受けてください。但し、出席回数が授業回数の3分の2に満たないものは成績評価を「不可」とすることをガイドラインとしています。本科目は2単位の科目であるため、合計60時間の授業外学習が求められます。授業外学習課題に取り組むためにチーム制を取り、見学・フィールドワークの共同学習をおこないます。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます 各担当教員あてに、必ず氏名と所属を明記してメールしてください。

### 授業計画

回数	テーマ	内容	授業外学習課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス・観光立国とスポーツ</b>	チームでの自学自習（テーマ設定） ・講師紹介を行う ・今後の授業の進め方についての説明を行い、学生たちにスポーツ・ツーリズムに関するイメージの確認を行う。	4時間
第2回	<b>スポーツ・ツーリズムとは</b>	チームでの自学自習（テーマ設定） ・「みる」「する」「支える」スポーツ・ツーリズム・マーケット	4時間
第3回	<b>スポーツ・ツーリズムの変遷</b>	チームでの自学自習 ・3大スポーツイベント	4時間
第4回	<b>スポーツをみるツーリズム①観戦ツアー</b>	チームでの自学自習（見学・フィールドワークの計画） ・観戦ツアー（オリンピック・ワールドカップ、モータースポーツ）マーケット	4時間
第5回	<b>スポーツをみるツーリズム②関連企業</b>	チームでの自学自習（見学・フィールドワークの計画） ・観戦ツアーのステークホルダー	4時間

第6回	<b>スポーツをするツーリズム①関連スポーツ</b> ・ゴルフ、ウィンタースポーツ、アウトドアスポーツなど	チームでの自学自習（見学・フィールドワーク）	4時間
第7回	<b>スポーツをするツーリズム②スポーツイベント</b> ・マラソン、サイクリング、歩くまち	チームでの自学自習（見学・フィールドワーク）	4時間
第8回	<b>スポーツを支えるツーリズム①自治体関連</b> ・キャンプ地を支える産業	チームでの自学自習（見学・フィールドワーク）	4時間
第9回	<b>スポーツを支えるツーリズム②企業関連</b> ・遠征を支える産業	チームでの自学自習	4時間
第10回	<b>スポーツ・ツーリズムと都市①</b> ・都市戦略	チームでの自学自習（見学・フィールドワーク）	4時間
第11回	<b>スポーツ・ツーリズムと都市②地方創生の期待</b> ・地方創生	チームでの自学自習（見学・フィールドワーク結果の整理と分析）	4時間
第12回	<b>東京オリンピック・パラリンピックをツーリズムから考える①経済的効果</b> ・オリンピック・パラリンピックの経済効果	チームでの自学自習（見学・フィールドワーク結果の整理と分析）	4時間
第13回	<b>東京オリンピック・パラリンピックをツーリズムから考える②レガシーとは</b> ・ポスト東京オリンピック・パラリンピック オリンピックレガシーの事例	チームでの自学自習（発表準備）	4時間
第14回	<b>東京オリンピック・パラリンピックをツーリズムから考える③日本の現状</b> ・日本型スポーツ・ツーリズム	チームでの自学自習（発表準備）	4時間
第15回	<b>まとめ</b> 自学自習のチーム発表～ディベート	チームでの自学自習（発表準備）	4時間

授業科目名	<b>国際関係論</b>				
担当教員名	苗村淑子				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国際会議場で政府間、国際機関等の国際会議や学術会議、大型インセンティブの誘致・運営を担当。国内外のVIP対応、海外での国際会議・セールスプロモーション等の経験多数。(全15回)				

### 授業概要

本授業では、グローバル化が進む国際社会と日本において、国際会議や大型国際イベントの現場などで実際に必要とされる実践的な知識から国際関係を論じます。国際機関・団体・学会等が主催する国際会議や、展示会・イベント等には多くの国からの参加者が見込まれます。2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会や2025年に大阪での開催が決定した万国博覧会等の開催も見据えて、幅広く対応できる国際関係の知識と理解を深めます。授業では講義のみならずグローバルに考える力と表現力を身につけることも目指します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	グローバル観光ビジネスの現状を理解し国際的な視野を広げます。	異文化理解を促進し、多様性と共生に適応する力を身につけます。
汎用的な力		多文化社会での共生における課題解決力の基礎を学ぶことができます。
1．DP4. 課題発見		国際感覚を持ったコミュニケーション力を身につけることができます。
2．DP8. 意思疎通		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなし、不合格とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

中間レポート	20%	： 第1回から第7回までの授業内容の理解度をテーマに基づくレポート作成により評価します。評価は、理解度と論理的構成について独自のルーブリックに基づいて行います。
期末レポート	20%	： 講義内容に関する知識とその分野に関する自らの考えを問うレポートを作成します。評価は、理解度と論理的構成について独自のルーブリックに基づいて行います。
小テスト・ディスカッション及びプレゼンテーション	30%	： 授業内容の理解と課題解決力、協働性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末試験	30%	： 講義内容に関する知識と理解度を問う設問及びその分野の課題に関する自らの考えの提示の観点から評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で適宜伝えます。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。毎回の授業内容を振り返り、復習を次の授業に向けた課題の予習に繋げて下さい。MICE（国際会議や国際大型イベント等）を通して、国際社会における多様性の理解を深め、グローバルな思考を身につけることは、グローバル観光ビジネスのみならず様々な分野・業界で役に立ちます。国際感覚を習得し、世界で活躍できる人材の育成を目指します。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日 3限
場所：	研究室

### 授業計画

回数	授業の進め方・MICEを通して考える国際関係の意義について	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>Meeting;企業等の会議、Incentive;企業等の行う報奨・研修旅行、Convention;国際機関・団体、学会等が行う国際会議、Event&amp;amp;Exhibition;大型イベント・博覧会、展示会についてどのようなものが該当するか考えておくこと。</p> <p>MICE:” Meeting, Incentive, Convention, Event&amp;amp;Exhibition”を通して考える国際関係の概要について理解します。15回の講義の概要と進め方、及び評価基準についてガイダンスを行います。</p>	4時間
第2回	<p>世界における日本のグローバルMICEの状況について</p> <p>グローバルMICE開催に対する国の施策や取組状況、及び国際社会における日本のポジションについてMICEの国際的基準や世界での順位等から現状を理解します。</p>	4時間
第3回	<p>グローバルMICE開催に必要な基礎知識について</p> <p>M、I、C、Eの内容について自習しておくこと。</p>	4時間

	グローバルMICEの具体的な内容とそれぞれの特徴について学びます。国際社会に必要なコミュニケーション力や慣習の理解等についても具体的に学びます。		
第4回	<b>グローバルMICEの開催が及ぼす効果と影響について</b> グローバルMICEの開催効果を文化的、経済的観点及び開催分野における国際的なリーダーシップへの影響等の見地から学びます。	この数年の間に日本で開催された大型グローバルMICEについて調べておくこと。	4時間
第5回	<b>国際マナーとプロトコールについて 1</b> 世界で活躍する場合にも、また日本で国際交流や国際観光ビジネスに携わる場合にも欠かせない「国際マナーとプロトコール」について2回に亘って学びます。第1回目はグローバル・ビジネスに必要なマナーを中心に学びます。	国際マナーとは何かについて学習しておくこと。	4時間
第6回	<b>国際マナーとプロトコールについて 2</b> 第2回目はグローバルビジネス、なかでもMICE開催時に必要なプロトコールについて具体的かつ実践的に学びます。	国際的プロトコールについて学習しておくこと。	4時間
第7回	<b>国際社会における異文化理解とコミュニケーションについて</b> 多様化する世界においてグローバルな視野を持つために欠かせない「異文化理解とコミュニケーション力」について具体的に学びます。	異文化理解について考えておくこと	4時間
第8回	<b>第1回から第7回までの振り返りと中間レポートの作成</b> これまでに学んだことをブレインストーミングを通して復習し、中間レポートにまとめます。	第1回から第7回までの丁寧な復習をしておくこと。	4時間
第9回	<b>グローバル社会における「日本のおもてなしの心」について</b> 国際社会や国際交流の場では、自国の文化や歴史を語れることが大切です。海外からVIPを迎える際に必ずと言っていいほど披露される茶道の精神を通して「日本の文化、おもてなしと心」について、国際会議でも活躍している講師を招き学びます。	茶道について予備知識を持っておくこと。	4時間
第10回	<b>グループワーク&amp;プレゼンテーション「グローバル社会で「日本のおもてなし」精神をどう伝えるか? (仮)」</b> 日本の伝統文化は今や日本のみならず、グローバル・ビジネスにおいても欠かせない「日本の精神（こころ）」として国際的に評価が高まっています。「日本のおもてなし」精神を異文化のなかでどう伝えるか、グループワークとプレゼンテーションを行います。	「日本のおもてなしと心」について考えをまとめておくこと。	4時間
第11回	<b>グローバル・コミュニケーションとプレゼンテーションについて</b> 異文化におけるコミュニケーション及びグローバルに通用するプレゼンテーションについて学びます。	「伝えたいこと」を「どう伝えるか」について考えておくこと。	4時間
第12回	<b>国際観光都市とグローバルMICE都市について</b> 日本のグローバルMICE都市、及び今年G20サミットが開催される国際都市としての大阪について考察します。	国際都市とは何かについて調べておくこと。	4時間
第13回	<b>プレゼンテーション「魅力的な国際都市について (仮)」</b> 国際観光都市であり、グローバルMICE都市でもある大阪について、その魅力と機能性を分析・評価し、各自プレゼンテーションを行います。	国際都市の魅力について考え、第11回での授業内容を踏まえプレゼンテーションに備えること。	4時間
第14回	<b>総括講義</b> グローバルMICEを通しての国際関係の考え方について総括講義を行います。	第1回から第13回までの講義内容を復習しておくこと。	4時間
第15回	<b>まとめと期末レポートの作成</b> これまで学んだことを振り返り、グローバルMICEビジネスにおける国際関係の今後の課題と展望についてまとめ、レポートを作成します。	これまでの授業を振り返り考えをまとめておくこと。	4時間

授業科目名	<b>起業家実践</b>				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	2～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

起業的感覚を養いたい学生を対象にビジネスコンセプト作成のため演習を行う。通常あるような起業のハウ・ツー（How）ではなく「なぜ起業するのか」（Why）に焦点を当てる。その際、自らの「好きなモノ・コト」を自己分析も行いつつ深堀りしていく。併せて既存のビジネスに新しい「意味」を与えていくトレーニングを行う。そして様々な起業家のケースや既存ビジネスもリサーチしながら、大切な人への「贈り物」としてのビジネスコンセプトを作り上げ、最終的に全員で発表を行う。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

起業でのコンセプトの重要性を理解し、それを生み出す様々な実践的手法を繰り返し訓練する。

#### 目標：

起業コンセプトを生み出す実践的手法を習得する。

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

プロジェクトの基本コンセプトを構築する基本的な力を習得する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や発言などの積極性で評価する。
授業レポート	35%	： 授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。
授業ごとの課題の提出	35%	： 課題の完成度により評価する。
試験（ビジネスプラン提出）	20%	： ビジネスコンセプトの精緻さと独自性で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

三宅秀道（2012）『新しい市場のつくりかた』（東洋経済新報社）  
C.ステューディール&L.タンゴア（2014）『デンマークに学ぶ発想力の鍛え方』（クロスメディア・パブリッシング）  
尾原和啓（2017）『モチベーション革命』（幻冬舎）  
安西洋之&八重樫文（2017）『デザインの次に来るもの』（クロスメディア・パブリッシング）  
ロベルト・ヴェルガンティ（2017）『突破するデザイン』（日経BP社）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。特にこの授業の授業外学修課題については、その都度学修成果の提出が求められることに留意すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2時限  
場所： 児山研究室（西館3階西側）  
備考・注意事項： 研究室前に掲示しますが、研究日以外の昼休みとオフィスアワーに質問時間を設定します。

メールアドレスは次の通り。koyama\_t@osaka-sekei.ac.jp

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション—起業家とは</b> 「起業家」の概念について学ぶ。	「起業」と「独立」の違いについて調べる。 4時間
第2回	<b>「モノ」と「コト」</b> 起業に際しての「モノ」と「コト」の立てわけを学ぶ。	自分が立ち上げたいビジネスの重点が「モノ」か「コト」かを考える。 4時間
第3回	<b>「なに」と「なぜ」～理由と本質</b> 新たな事業事例を通じて、それぞれを立ち上げた理由とその新事業の本質を探る姿勢の重要性を学ぶ。	「なぜ、それが好きなのか」について理由を明らかにする。 4時間
第4回	<b>「好き嫌い」の「なぜ」</b> 自分自身の「取り扱い説明書」を作成し、自らの「偏愛」を探る。	自分の「取り扱い説明書」を完成させる。 4時間

第5回	<b>自分の強みと他人の強み</b> エムグラムを使いスパーリングを通じて自分の強みを深掘しつつ再確認する。	エムグラムを使い自分の特性診断を完成させる。	4時間
第6回	<b>「自分らしさ」を知る①</b> 今までのワークを参考に、自分自身の「偏愛マップ」を作成する。	「偏愛マップ」を完成させる。	4時間
第7回	<b>「意味のイノベーション」について</b> 既存の製品・サービスの意味・役割を変えるイノベーションの意義について学ぶ。	自分の「ファンタジー」を物語化する。	4時間
第8回	<b>意味変革のための「解釈」の重要性</b> 対象物を見て、そこにどのような意味・役割があるか、さまざまな解釈を行う。	「ファンタジー」を具現化した製品・サービスを考える。	4時間
第9回	<b>意味変革のための「熟考」の重要性</b> 自分の「ファンタジー」を具現化した製品・サービスを他者と批評しあう。	類似製品・サービスのリサーチを行い、それを既存のモノとして意味革新を考える。	4時間
第10回	<b>新しい意味を「吹き込む」</b> グレードアップした、自分の「ファンタジー」を具現化した製品・サービスを他者と批評しあう。	ある製品の既存の意味・役割をいくつかおさえたうえで、新しい意味を「吹き込む」	4時間
第11回	<b>「アイデアから解釈、熟考へ」</b> 自らの偏愛に関するモノ・コトについて「既存の意味」から「新しい意味」へ転換する際、技術や機能を加えずに行う。	「意味・機能」表の作成。	4時間
第12回	<b>新しい意味の探求 ～ストレッチ・トレーニング～</b> 製品体験する「ユーザー」ではなく「人」に対する価値を考える訓練を行う。	複数の「ストレッチ・トレーニング表」を完成させる。	4時間
第13回	<b>新しい意味の探求 ～ビジョンの作成～</b> 「人」に対して新しい生活・文化「ビジョン」を与える新製品を考える。	新ビジョンに基づく新ビジネスをフォームにまとめる。	4時間
第14回	<b>新しい意味の探求 ～ビジョンの進化～</b> 各自の新ビジネスを「自分らしさ」や「新しい意味」等から評価してブラッシュアップを図る。	発表のためのポスターを作成する。	4時間
第15回	<b>発表会</b> 「自分らしい」新ビジョンを掲げた、既存の意味を転換した新たな意味持つ起業プランを全員が発表する。	ビジネスコンセプトを完成させる。	4時間

授業科目名	<b>専門インターンシップ</b>				
担当教員名	水野利昭・中野毅・島雅則・苗村淑子・東出加奈子				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

実際に企業・団体等の現場で、専門コースの授業での学びの内容を、就業体験を通じて実感できるものとする。本科目は、原則として、事前学習(12時間)、企業実習(原則70時間)、事後学習(12時間)で構成されています。事前学習では、実習先企業・団体の概要調査や業界研究、事前レポート作成とマナー研修などをおこないます。実習先企業・団体では、受け入れ先企業・団体のプログラムにしたがって約10日間実習をします。事後学習では、研修結果のまとめをおこなうとともに、発表を行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	専門分野に関連した企業での実習と事前学習	受け入れ企業の事業分野と業務に関する知識・技能について十分に理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	専門分野に可憐した企業での実習と事後学習	受け入れ企業での業務実践を通じて、必要な知識・技能を習得しながら自らの知識・技能の課題を明らかにできる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		業務を遂行しながら、業務特性と自己の能力・行動を分析し課題を整理できる。
2．DP8. 意思疎通		自らの意思や役割、業務成果などを分かりやすく伝えることができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		グループや組織内で、自分の役割を理解して、その役割や共通目的を果たすことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。特に、実習中及び報告会の欠席は厳禁です。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

事前・事後レポート	10%	： 受け入れ企業への就業体験の目的観の把握の具合、および受け入れ企業や関連業界への事前調査の内容。就業体験内容の整理と、習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化。目的観の成長度合い。
受け入れ企業による評価表	60%	： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会	15%	： 自身の学習内容と課題をインターンシップでの活動内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えているかどうか。
期末レポート	15%	： レポートテーマは授業時間内に通知する。記述の充実度と論理性及び説得性という観点から3段階で評価を行う。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献等は特に無いが、受け入れ先企業・団体の概要・業界知識などが掲載された専門誌や書籍、有価証券報告書等。インターネット検索による受け入れ企業や関連業界内容の整理。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

1. 本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
2. キャリアデザイン1、2、3を修得済みのこと。既定単位以上修得（低単位でないこと）
3. 実習参加にあたっては、アドバイザー教員の推薦を得るとともに、学内選考（書類・面接）を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
4. 集中授業は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
5. インターンシップ報告会で報告を行わなかった場合、原則として成績評価を行いません。
6. マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。
7. 履修上限単位には含まれません。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	担当によって異なる（初回授業で案内）
場所：	担当教員の研究室
備考・注意事項：	担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

### 授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	<b>専門インターンシップ・オリエンテーション：プレ授業</b> オリエンテーションとして、インターンシップの目的などを説明する。	受講動機を明確に伝えられるように準備しておく	4時間
第2回	<b>事前学習（１）業界・企業研究</b> 受け入れ先企業・団体の概要調査・業界研究。具体的には、企業の強み、弱みや取り巻く環境について考えます。	受け入れ企業に関連する業界について、その特徴をまとめておく	4時間
第3回	<b>事前学習（２）他者に見せる自分</b> 自分をどのような者として他者に紹介するのかを考えます。その検討を踏まえ、自己紹介の練習や名刺の作成・扱い方を学びます。 ※当日、事前学修レポート課題について発表します。	事前学修レポートを作成する	4時間
第4回	<b>マナー研修（１）基本学習</b> ビジネスマナーについて学ぶ。（スーツ着用） ※この授業は講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	受講したマナー研修の振り返りを行う	4時間
第5回	<b>マナー研修（２）実践学習</b> ビジネスマナーについて実践的に学ぶ。（スーツ着用） ※この授業は講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	受講したマナー研修の振り返りを行う	4時間
第6回	<b>事前学習（３）情報のやり取りのポイント</b> 企業人とやり取りを行うためのメールの書き方や情報のまとめ方を習得します。また、企業の事前訪問について、その基本と注意点について学びます。	自己紹介の練習（授業内で撮影したビデオを参照しながら）	4時間
第7回	<b>就業体験（実習）：初期</b> 企業等での実習（原則 10日間） — 受け入れ先企業に赴き初期 実地研修。	実習後の振り返りレポートを毎回、作成する	4時間
第8回	<b>就業体験（実習）：中期</b> 企業等での実習（原則 10日間） — 受け入れ先企業に赴き中期 実地研修。	実習後の振り返りレポートを毎回、作成する	4時間
第9回	<b>就業体験（実習）：後期</b> 企業等での実習（原則 10日間） — 受け入れ先企業に赴き後期 実地研修。	実習後の振り返りレポートを毎回、作成する。お礼状の下書きを担当教員のチェックを受け、就業体験後5日以内に送付する	4時間
第10回	<b>事後学習（１）就業体験の共有</b> 就業体験について、学生同士で討議し、相互検討を行います。	自身の就業体験を整理し、報告書作成のための骨子をまとめる	4時間
第11回	<b>事後学習（２）報告書作成</b> 自身の報告書案をグループで発表・共有し、お互いにアドバイスをもらいます。修正のポイントを整理し、提出に備えます。	就業体験報告書を完成し、担当教員に提出する	4時間
第12回	<b>事後学習（３）発表の準備と練習</b> ①発表パワーポイント作成 ②発表練習	授業外で必ず担当教員に個別指導を受けた上で、発表資料を作成する	4時間
第13回	<b>事後学習（４）発表の準備と練習</b> ①発表パワーポイント作成 ②発表練習	授業外で必ず担当教員に個別指導を受けた上で、発表資料を完成させる	4時間
第14回	<b>事後学習（５）発表のリハーサル</b> 報告発表会の最終リハーサルを行い、学生相互、並びに指導教員からのアドバイスを受けます。	報告発表会に向けての準備（時間を計って発表練習を複数回行うこと。また適宜スライドの修正をすること）	4時間
第15回	<b>インターンシップ報告会</b> 就業体験のプレゼンテーション（スーツ着用）	担当教員の個別指導のもと、インターンシップ全体の振り返りを行う	4時間

授業科目名	ビジネス実践入門/ビジネスマネジメント実践演習				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習および講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

1. 経営というビジネスやマネジメントの世界では何が求められ、今何が問題となっているのかを考える。
2. 多様な体験学習を通じて、企業経営と経営学の学びへの関心と動機づけを図る。
3. 経営の基本的な機能についての実践演習科目  
学生と教員が一緒になって経営の疑似体験等を通じて、経営機能について考え、実践的に学ぶ。
4. 企業が経営資源（ヒト、モノ、カネ等）を活用して、生産・販売活動を行ない、顧客のニーズにどのように対応しているかの事例から「経営とは」を学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	経営の基本的な知識を身につける	経営のプロセスやマーケティングの4Pを理解する
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		経営に積極的な取り組みが実践できる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

演習・レポート	30%	： 提出された課題・レポートを授業の内容理解度で評価する
工場見学、小売店調査への取り組み	30%	： 工場見学のレポートと小売店調査の討論と発表態度で評価する
経営ゲームなどへの取り組み	20%	： 経営ゲームなどの実践演習へ積極的な取り組みで評価する
期末レポート	20%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」「学びの振り返りができているか」を評価の基準とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、授業の中で紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日2限
場所：	西館2階研究室
備考・注意事項：	金曜日2限をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。(yamasaki-t@osaka-seikei.ac.jp) Eメール件名としては「ビジネス実践入門について(氏名、学籍番号、グループNo)」とすること。

### 授業計画

回数	内容	確認	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b> 授業の進め方 ビジネス実践入門とは何を学ぶか	ビジネスマネジメント実践演習の考え方を確認	4時間
第2回	<b>経営というビジネスやマネジメントの世界では何が求められ、今何が問題となっているのか</b> 企業としてのビジネスの実態と顧客サービス、マーケティングの4P (product, price, promote, place) について考えてみよう。	ビジネスマネジメントと実際の経営との比較	4時間
第3回	<b>経営というビジネスやマネジメントの世界では何が求められ、今何が問題となっているのか。</b> 身近なビジネス・よく売れている製品やサービスを探してみよう 自身の知っている企業はどのくらいあるか？	身近なビジネスを課題で確認	4時間
第4回	<b>ビジネスの実践を学ぶ</b> 特別講義として、企業経営者を招き、実際のビジネスの現場について語ってもらう	企業見学のための事前学習	4時間

第5回	<b>製造業では何が求められているのか、考えてみよう</b> 資生堂の工場見学 工場でのどのような生産がおこなわれているのか 【学外授業】	製造業の課題のまとめ	4時間
第6回	<b>工場で何を生産しているのか、考えてみよう</b> アサヒビールの工場見学 工場での生産過程をしてみる 【学外授業】	製造業で何を求められているかの確認	4時間
第7回	<b>製造業に求められているもの</b> 製造業はどのようなことをしているのか 工場の生産工程の違いと生産管理の関連を調べる	工場見学のまとめ	4時間
第8回	<b>小売業は消費者にどのような役割を果たしているのか</b> 小売業の業態と役割 マーケティングの4P 消費者の購買行動(AIDMA)	購買行動と4Pを課題で確認	4時間
第9回	<b>小売業の実際を調査しよう</b> ナフコの店舗レイアウト調査 ゴールデンゾーン、ショウイングゾーン、ストックゾーンの商品の違い 販促活動の実際を調べる 【学外授業】	調査票をまとめる	4時間
第10回	<b>小売業に求められるもの</b> グループ討論による小売業の実際と役割を求める 小売業で果たすべき役割を発表	グループワークのまとめ	4時間
第11回	<b>ビジネスとマネジメントについて考えてみよう①</b> 身近なサービスやビジネスについて、4Cなどの手法を用いて情報収集する	グループメンバーと協働で情報収集を行う	4時間
第12回	<b>ビジネスとマネジメントについて考えてみよう②</b> 身近なサービスの課題をPESTや3Cなどの手法を用いて発見する	チームメンバーと協働で課題を検討する	4時間
第13回	<b>ビジネスとマネジメントについて考えてみよう③</b> 身近なサービスの課題解決に向けたアイデアを考える	チームメンバーと協働でアイデア出しを行う	4時間
第14回	<b>ビジネスとマネジメントについて考えてみよう④</b> 発表資料の作成を行う	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第15回	<b>ビジネスマネジメント実践演習の振り返り</b> グループワークの成果を発表 「企業では、ビジネスやマネジメントの視点から、今何が問題となり、求められているか。」 をまとめてみよう。 マネジメントの授業を学ぶための基礎知識とグループワークの重要性の認識	ビジネスマネジメントの復習	4時間

授業科目名	<b>スポーツビジネス研究調査/スポーツビジネスマネジメント実践</b>				
担当教員名	岡田功、菅文彦、大崎哲也、坂中勇亮				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田：新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場取材。（全15回） 大崎：新聞記者として長年、地域のスポーツビジネスについて取材。（全15回）				

### 授業概要

スポーツビジネスにはいろいろな仕事がある。するスポーツ分野、みるスポーツ分野、ささえるスポーツ分野から学ぶだけでなく、製造業・サービス業・情報通信業等どんなスポーツ産業があるのか、開発・営業・経理等どんな職種があるのか、いろいろな角度からスポーツの仕事の種類と内容についてグループに分かれて、フィールドワークや現場の調査分析によって考えていく。他グループの発表内容への質疑応答で、情報理解力と質問力もつける

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツビジネス業界に関する知識	業界経験者の講義やビジネス調査の情報共有から、スポーツビジネス業界の特徴的な動向を理解できる
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	スポーツビジネス業界の分析・考察力	集めた情報を元に、調査対象ビジネスに関する調査分析と報告資料を作成することができる
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		調査した内容から、業界の課題を理解し発表できる
2．DP7. 完遂		自分の担当分野について、指定の形式にそった資料を完成させることができる
3．DP8. 意思疎通		他グループの発表への意見・質問を通じて研究テーマについての議論と相互理解ができる
4．DP9. 役割理解・連携行動		グループでの調査・研究・発表を通じて、役割分担とグループ内連携ができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

グループ発表での評価	60%	： 発表評価シートによる採点（基準は評価シート参照）。グループ内での貢献度や学習度（発表担当・調査担当などの役割も考慮）
他グループへの評価方法・質問内容	20%	： 他グループの発表に対して評価シートの適正記入の評価。議論への参加姿勢や、発表者への質問の有無を考慮
授業参加態度	10%	： 授業全体へ積極関与する姿勢を評価
試験（レポート）	10%	： レポート内容、誤字脱字がないこと、わかりやすく書かれているか、文字量などを総合的に評価する

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて紹介する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 岡田：水曜3限、菅、大崎、坂中  
場所： それぞれの研究室  
備考・注意事項： 研究室は基本的にオープンです。授業外の相談があれば、いつでも来て下さい

### 授業計画

第1回	全体ガイダンスと課題グループ分け	グループ単位で準備を行う	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	------------------	--------------	-------------------------

	年間のガイダンスを行い、年度で実施する課題を明示したうえで、各人がテーマを選択する。選択テーマ（大阪市長居身体障害者スポーツセンター、東大阪市花園ラグビー場、関西大学アメフトのリーグ戦、大阪マラソン、社会人野球日本選手権大会、スポーツ用品工場見学、スケートボードパーク、eスポーツの大会などを想定）に従って、グループを構成して、グループ別に視察や訪問スケジュールを立てる		
第2回	<b>グループワーク：各グループごとの活動研究内容の検討と役割分担</b> テーマに従い、グループごとに研究実施の計画・役割分担を話し合い、スケジュールを確定する	テーマと活動の計画に沿って、準備を進める	4時間
第3回	<b>PPT発表についての指導とグループ別の発表順番の計画</b> 授業内でのパワーポイントを使用した発表の方法を教育。各グループの学期内での発表順についての調整を行う。各グループ毎のグループワークで下調べ等の研究を進める	担当テーマの情報を集めて、下準備を行う	4時間
第4回	<b>スポーツプロモーションの仕事</b> スポーツの普及・促進を担うスポーツプロモーションに関して、現場経験者の貴重な話を聞く。内容を理解し、終了後、小レポートを提出	内容を理解し、復習すること	4時間
第5回	<b>グループ発表 1～3 班</b> 学外見学・視察をした内容をグループごとに発表。質疑応答を行うことで、相互理解と議論する力の育成を図る	各グループで発表準備（パワーポイント作成・発表練習）を進める	4時間
第6回	<b>グループ発表 4～6 班</b> 学外見学・視察をした内容をグループごとに発表。質疑応答を行うことで、相互理解と議論する力の育成を図る	各グループで発表準備（パワーポイント作成・発表練習）を進める	4時間
第7回	<b>グループ発表 7～9 班</b> 学外見学・視察をした内容をグループごとに発表。質疑応答を行うことで、相互理解と議論する力の育成を図る	各グループで発表準備（パワーポイント作成・発表練習）を進める	4時間
第8回	<b>グループ発表 10～12 班</b> 学外見学・視察をした内容をグループごとに発表。質疑応答を行うことで、相互理解と議論する力の育成を図る	各グループで発表準備（パワーポイント作成・発表練習）を進める	4時間
第9回	<b>グループ発表 13～15 班</b> 学外見学・視察をした内容をグループごとに発表。質疑応答を行うことで、相互理解と議論する力の育成を図る	各グループで発表準備（パワーポイント作成・発表練習）を進める	4時間
第10回	<b>グループ発表 16～18 班</b> 学外見学・視察をした内容をグループごとに発表。質疑応答を行うことで、相互理解と議論する力の育成を図る	内容を理解し、復習すること	4時間
第11回	<b>グループ発表 19～21 班</b> 学外見学・視察をした内容をグループごとに発表。質疑応答を行うことで、相互理解と議論する力の育成を図る	各グループで発表準備（パワーポイント作成・発表練習）を進める	4時間
第12回	<b>グループ発表 22～24 班</b> 学外見学・視察をした内容をグループごとに発表。質疑応答を行うことで、相互理解と議論する力の育成を図る	各グループで発表準備（パワーポイント作成・発表練習）を進める	4時間
第13回	<b>スポーツビジネスに関するレポート作成</b> 与えられたテーマから、小レポート作成をする	課題に関して復習し、テーマを深く学習すること	4時間
第14回	<b>スポーツ産業におけるキッズ・ビジネス</b> 少子化になっているが、キッズビジネスは単にスポーツ市場の意味だけではない「体力向上」の意義がある	課題に関して復習し、テーマを理解して深めること	4時間
第15回	<b>スポーツビジネスマネジメント実践のまとめ</b> 今までの授業の振り返りとまとめを行う。小レポートの提出を実施	年間全体を振り返り、スポーツビジネスの概観を把握して、次年度以降の研究テーマに結び付ける	4時間

授業科目名	スポーツビジネス体験 1				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	1・2・3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義（集中講義）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントの実施等。（全15回）				

### 授業概要

本授業では、スポーツビジネスについて実体験を通し、その理論と実践的背景について学習する。具体的には、陸上大会の現場にて、陸上競技に関する各種競技大会のスタッフ助手などの参加、見学を行い、実践的な学修によって理論的理解を深める。毎回の授業前にその講義のテーマを予習と授業後課題レポートの提出を行う。実際のスポーツの運営に関する様々な経験をすることによって、大会運営における選手、役員、観客などのさまざまな視点からスポーツビジネスに関する基礎的な知識の習得を目的としている。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

陸上競技に関する各種競技大会運営の参加と見学を行う。

#### 目標：

大会運営においてスタッフ、選手、役員、観客などのさまざまな視点からスポーツビジネスに関する基礎的な知識の習得を目的としている。

#### 汎用的な力

- DP6. 行動・実践

陸上競技におけるスポーツビジネスの役割と競技についての基礎的能力及び専門に関する知識と理解、また、連携行動力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	60%	： 授業内の活動に対する、主体性、積極性に関して5段階で評価する。
グループ課題における貢献	20%	： 役割と責任、団結力と行動力を図る。
課題レポート	20%	： 毎回の授業後2000字のレポートを提出。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業・実習の内容を復習し、次回の授業・実習に向けて予習・準備をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 1 限目  
場所： 個人研究室

### 授業計画

回数	内容	事前学修レポート	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション・ボランティアの歴史を知る</b> ① 本科目の構成について学ぶ ② 本科目での実習参加について学ぶ ③ ボランティアの歴史について学ぶ ④ 毎回の課題について学ぶ	ボランティアを行うスポーツ大会についての調査	4時間
第2回	<b>スポーツ大会の運営——競技者の視点、観客の視点、運営者の視点</b> 競技者や観客としての大会と、運営者としての大会の違いについて学び、学生同士でディスカッションを行う。	事前学修レポート①（障がい者スポーツ大会の運営について）	4時間
第3回	<b>障がい者スポーツ大会の運営</b> 障がい者スポーツ大会運営上の注意点について学び、運営スタッフとして気をつけるべきことについて学生同士でディスカッションを行う。	事前学修レポート②（障がい者スポーツ大会について）	4時間
第4回	<b>学外体験実習 1-1：全国視覚障がい者駅伝大会（午前）</b>	メモをふりかえり、参加者や観客の動きと運営スタッフの動きの対応について考える。	2時間

	<p>全国視覚障がい者駅伝大会の運営を学ぶ。  ① 事前配布したプリントを携帯する  ② 当日、指定時間に現地集合  ③ 大会担当係り（役員）の指示に従う  ④ 大会終了まで、ポストに離れないこと  ⑤ 気づいたことは必ずメモすること</p>		
第5回	<p><b>学外体験実習 1-2：全国視覚障がい者駅伝大会（午後）</b></p> <p>全国視覚障がい者駅伝大会の運営を学ぶ。  ① 事前配布したプリントを携帯する  ② 大会担当係り（役員）の指示に従う  ③ 大会終了まで、ポストに離れないこと  ④ 気づいたことは必ずメモすること  ⑤ 大会開始時と終了時の運営スタッフの動きの違いについて考えること</p>	事後学修レポート①（全国視覚障がい者駅伝大会）	6時間
第6回	<p><b>体験の共有とディスカッション 1（障がい者スポーツ）</b></p> <p>事前学修レポート①・②、事後学修レポート①をもとに、障がい者スポーツ大会の運営について学生同士でディスカッションを行い、理解を深める。</p>	事後学修レポート②（ディスカッションの結果）	4時間
第7回	<p><b>国際大会の運営</b></p> <p>国際大会運営上の注意点について学び、運営スタッフとして気をつけるべきことについて学生同士でディスカッションを行う。</p>	事前学修レポート③（国際大会について）	4時間
第8回	<p><b>学外体験実習 2-1：大阪国際女子マラソン（午前）</b></p> <p>大阪国際女子マラソンの運営を学ぶ。  ① 事前配布したプリントを携帯する  ② 当日、指定時間に現地集合  ③ 大会担当係り（役員）の指示に従う  ④ 大会終了まで、ポストに離れないこと  ⑤ 気づいたことは必ずメモすること</p>	メモをふりかえり、参加者や観客の動きと運営スタッフの動きの対応について考える。	2時間
第9回	<p><b>学外体験実習 2-2：大阪国際女子マラソン（午後）</b></p> <p>大阪国際女子マラソンの運営を学ぶ。  ① 事前配布したプリントを携帯する  ② 大会担当係り（役員）の指示に従う  ③ 大会終了まで、ポストに離れないこと  ④ 気づいたことは必ずメモすること  ⑤ 大会開始時と終了時の運営スタッフの動きの違いについて考えること</p>	事後学修レポート③（大阪国際女子マラソン）	6時間
第10回	<p><b>体験の共有とディスカッション 2（大阪国際女子マラソン）</b></p> <p>事前学修レポート①・③、事後学修レポート③をもとに、大阪国際女子マラソンの運営について学生同士でディスカッションを行い、理解を深める。</p>	事後学修レポート④（ディスカッションの結果）	4時間
第11回	<p><b>ワールドマスターズゲームズPRイベントの運営</b></p> <p>ワールドマスターズゲームズPRイベントの運営上の注意点について学び、運営スタッフとして気をつけるべきことについて学生同士でディスカッションを行う。</p>	事前学修レポート④（イベントで体験したこと）	4時間
第12回	<p><b>学外体験実習 3-1：ワールドマスターズゲームズPRイベント（午前）</b></p> <p>室内ジュニア陸上競技大会の運営を学ぶ。  ① 事前配布したプリントを携帯する  ② 当日、指定時間に現地集合  ③ 大会担当係りの指示に従う  ④ 大会終了まで、ポストに離れないこと  ⑤ 気づいたことは必ずメモすること</p>	メモをふりかえり、参加者や観客の動きと運営スタッフの動きの対応について考える。	2時間
第13回	<p><b>学外体験実習 3-2：ワールドマスターズゲームズPRイベント（午後）</b></p> <p>室内ジュニア陸上競技大会の運営を学ぶ。  ① 事前配布したプリントを携帯する  ② 大会担当係りの指示に従う  ③ 大会終了まで、ポストに離れないこと  ④ 気づいたことは必ずメモすること  ⑤ 大会開始時と終了時の運営スタッフの動きの違いについて考えること</p>	事後学修レポート⑤（イベントの構造について）	6時間
第14回	<p><b>体験の共有とディスカッション 3</b></p> <p>事前学修レポート、事後学修レポートをもとに、国際大会のPRイベント等の運営について学生同士でディスカッションを行い、理解を深める。</p>	事後学修レポート⑤（ディスカッションの結果）	4時間
第15回	<p><b>全体のまとめ——さまざまなスポーツ大会</b></p> <p>これまでの事前学修レポート、事後学修レポートすべてを活用し、さまざまなスポーツ大会の運営上の共通点と、それぞれの大会の特徴についてまとめる。</p>		4時間
第16回			0時間
第17回			0時間

授業科目名	<b>スポーツビジネス体験2</b>				
担当教員名	植田真司、村田正夫				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義（集中講義）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	柔道運営業務に従事（全15回） イベント企画、集客、マーケティング業務に従事（全15回）				

### 授業概要

本授業では、スポーツビジネスでもとめられる理論と実践をスポーツイベントで体験を通じて習得する。今回は、プロバスケットボールの大会現場等において「スポーツボランティア」の実体験を通して、実際の大会運営の基礎的な知識及び施設管理について習得を図ることを目的とする。具体的には、大会事前準備、会場のセッティング、チラシの配布、座席への案内、ショップでの販売などを体験する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

プロバスケットボール等に関する大会運営のボランティアを行う。

#### 目標：

大会運営を通じて、スタッフ、選手、観客などさまざまな視点から、スポーツビジネスに関する実践的な知識を習得する。

#### 汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

バスケットボール等の大会における役割と競技についての基礎的能力及び専門に関する知識と理解。

- 2 . DP9. 役割理解・連携行動

チームとしての取り組みとして、自らの役割を理解し、メンバーと連携し、目標を達成する。

### 学外連携学修

有り（連携先：ヒューマンスポーツエンタテインメント株式会社）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規程回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	40%	： 授業内の活動に対する、主体性、積極性に関して5段階で評価する。
課題レポート（中間及び期末）	40%	： 課題ごとにレポートを提出する。現状の問題点が分析されているか、具体的な提案がされているかを評価する。
プレゼンテーション	20%	： 学びの内容及び改善点をプレゼンテーションする。内容だけでなく、プレゼンテーションの巧拙も評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

特になし。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 教員によって異なる

場所： 各研究室

備考・注意事項： 植田：月曜5限 16：20～17：50（西館3階研究室）  
村田： 曜 限 （西館2階研究室）

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b> 授業の説明、スポーツイベントの紹介を行う。	Bリーグについての調査 4時間
第2回	<b>試合の見学</b> Bリーグ・大阪エベッサの試合を見学し、スタッフの目線で、観客の動きなどを観察する。	大阪エベッサについて調査 4時間
第3回	<b>プロチームについての講義</b> 大阪エベッサの戦略を考え方などを学ぶ。	大阪エベッサについて調査 4時間
第4回	<b>学外体験実習1日目準備（大会運営ボランティア）</b>	スポーツマーケティングについて学習する 4時間

	大会の準備を体験する。 【主な内容】 ◆試合当日の設営・封入作業 ◆ファンクラブブースでの対応 ◆メディアへのスタッフ配布 ◆メディアへのスタッフ配布		
第5回	<b>学外体験実習 1日目大会中（大会運営ボランティア）</b> 大会中のスタッフの仕事を体験する。 【主な内容】 ◆試合競技中のモッパ ◆再入場口・会場入り口でのお客様誘導/対応 ◆座席案内 ◆来場者アンケートの促進	スポーツマーケティングについて学習する	4時間
第6回	<b>学外体験実習 2日目準備（大会運営ボランティア）</b> 大会の準備を体験する。 【主な内容】 ◆試合当日の設営・封入作業 ◆ファンクラブブースでの対応 ◆メディアへのスタッフ配布 ◆メディアへのスタッフ配布	スポーツマーケティングについて学習する	4時間
第7回	<b>学外体験実習 2日目大会中（大会運営ボランティア）</b> 大会中のスタッフの仕事を体験する。 【主な内容】 ◆試合競技中のモッパ ◆再入場口・会場入り口でのお客様誘導/対応 ◆座席案内 ◆来場者アンケートの促進	スポーツマーケティングについて学習する	4時間
第8回	<b>グループワーク</b> 2日間の前半の大会体験を通じて、課題の発見及び対策などをグループワークする。	課題レポートの作成	4時間
第9回	<b>学外体験実習 3日目準備（大会運営ボランティア）</b> 大会の準備を体験する。 【主な内容】 ◆試合当日の設営・封入作業 ◆ファンクラブブースでの対応 ◆メディアへのスタッフ配布 ◆メディアへのスタッフ配布	集客イベントについて学習する	4時間
第10回	<b>学外体験実習 3日目大会中（大会運営ボランティア）</b> 大会中のスタッフの仕事を体験する。 【主な内容】 ◆試合競技中のモッパ ◆再入場口・会場入り口でのお客様誘導/対応 ◆座席案内 ◆来場者アンケートの促進	集客イベントについて学習する	4時間
第11回	<b>学外体験実習 4日目準備（大会運営ボランティア）</b> 大会の準備を体験する。 【主な内容】 ◆試合当日の設営・封入作業 ◆ファンクラブブースでの対応 ◆メディアへのスタッフ配布 ◆メディアへのスタッフ配布	集客イベントについて学習する	4時間
第12回	<b>学外体験実習 4日目大会中（大会運営ボランティア）</b> 大会中のスタッフの仕事を体験する。 【主な内容】 ◆試合競技中のモッパ ◆再入場口・会場入り口でのお客様誘導/対応 ◆座席案内 ◆来場者アンケートの促進	集客イベントについて学習する	4時間
第13回	<b>グループワーク</b> グループ毎に、気づいたこと（課題発見）、提案（対策）をディスカッションする。	発表資料作成	4時間
第14回	<b>グループワーク</b> 今回の体験で学んだこと、それを今後どのように活かすのかまとめる。	発表資料作成	4時間
第15回	<b>発表会</b> グループ毎に、気づいたこと（課題発見）、提案（対策）、学んだこと、活かしたいこと、パワーポイントを使って発表する。	期末レポート作成	4時間

授業科目名	<b>海外スポーツビジネス調査</b>				
担当教員名	岡田功、水野利昭、大崎哲也				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義、演習（ポストン）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田：新聞記者として長年、スポーツビジネスの現場取材。英米の大学に延べ3回、客員研究員としてスポーツビジネスの研究で留学した経験もあり、海外のスポーツビジネスの事情も詳しい。（全15回）				

### 授業概要

米ポストンでメジャーリーグの視察、有名球団「レッドソックス」の経営戦略、大学スポーツマネジメントの調査活動を行う。  
調査予定（実施時期は9月上旬）  
①レッドソックス経営陣によるメジャーリーグビジネスに関する講義（計2回）  
②レッドソックスの試合観戦  
③ハーバード・ビジネス・スクール教授による米国のスポーツビジネスに関する特別講義  
④大学スポーツ施設の視察（スケジュール次第で大学アメフトの試合観戦も）  
他に、ハーバード大学で日本語を学ぶ学生との国際交流も予定

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	スポーツマネジメントの幅広い基礎知識を習得	メジャーリーグの先進的なスポーツビジネス、マネジメントと日本のプロ野球とを比較し、違いを理解できる
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	スタジアムやクラブの運営・管理の専門知識を学び、マネジメントを理解	メジャーリーグの多角的な経営戦略について専門的な知識、経験を積む
汎用的な力		
1．DP6.行動・実践		海外で学ぶこと自体が積極的な行動につながり、現地でのさまざまな体験を通してスポーツマネジメントの可能性を探る
2．DP4.課題発見		米国と日本のスポーツ文化比較からスポーツマネジメントの違い、課題を見つける
3．DP10.忠恕の心		海外生活を通して助け合い、協働の心を学ぶ

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

現地調査・視察の学習意欲	60%	： 現地で積極的に学習に取り組み、語学の習得にも意欲的に取り組んでいるかを評価
事前、事後のレポート	20%	： 事前学習、事後学習において自ら課題をみつけて調査、研究をまとめたレポートを評価
期末発表会の成果	10%	： パワーポイントをつくり、わかりやすいプレゼンテーションで発表した調査内容を評価
現地特別講義の受講態度	10%	： 外国人講師による講義をどこまで理解できているか、積極的に質問しているか等の受講態度を評価

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡田功	メジャーリーグ なぜ「儲かる」	集英社新書	2010年

### 参考文献等

必要に応じて指示する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

1. 本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
2. 実習参加にあたっては、アドバイザー教員の推薦を得るとともに、学内選考（書類・面接）を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
3. 研修は夏季休暇中や土・日曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 研究室  
備考・注意事項： 受講に関する質問や海外事情など必要な情報の入手はいつでも研究室へ

### 授業計画

⋮

授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	<b>メジャーリーグのビジネス</b>  メジャーリーグの球団はどのように稼ぎ、どのようにお金を使っているのか。クラブの基本的な収入・支出構造について学ぶ	メジャーリーグ球団の収入構造について、教科書を事前に読んで理解する。英語初級会話の自主学習	4時間
第2回	<b>レッドソックスのビジネス</b>  他のスポーツクラブ（レーシングチームや英プレミアリーグクラブ）の運営や、テレビ局の経営、他競技のスポンサー募集、マイナーリーグクラブの経営など、多角的で戦略的なレッドソックスの経営について学ぶ	レッドソックスの独特な経営について、教科書を事前に読んで理解する。英語初級会話の自主学習	4時間
第3回	<b>プロ野球の経営</b>  1995年時点ではメジャーリーグに匹敵する経済規模だったプロ野球のビジネスも、今や6倍以上の開きがある。その差はなぜ生まれたのか、プロ野球界はビジネス拡大のためにどのような努力を行おうとしているのか、について学ぶ	日本のプロ野球球団のビジネスについて、本やネットで調べる。英語初級会話の自主学習	4時間
第4回	<b>事前調査（甲子園球場または大阪城の視察）</b>  阪神甲子園球場を現地調査するとともに阪神タイガースの試合を観戦。日本のプロ野球の球場、ビジネスの仕組みについて調べる。ただし、米国でのハーバード大学学生との交流会をにらみ、日中にランニングのメッカとなった大阪城の視察に切り替える可能性もある	甲子園球場のマネジメントについて調べる。英語初級会話の自主学習	4時間
第5回	<b>現地研修①（特別講義①）</b> レッドソックス幹部による特別講義。スポンサーシップ戦略などについて学ぶ	現地研修②（特別講義②）	4時間
第6回	<b>現地研修</b>  レッドソックス幹部による特別講義。球団の多角化経営戦略などについて学ぶ	球団の多角化経営戦略などレッドソックス幹部による特別講義の内容の振り返り	4時間
第7回	<b>現地研修③</b>  レッドソックスの本拠地フェンウェイパークの視察。球場内を案内してもらいながら、観客席、スイートルーム、グッズ販売の状況やスタジアムの歴史などを実地調査し研究する。事前に行った甲子園球場と比較してみる	フェンウェイパークの視察調査資料のまとめと整理	4時間
第8回	<b>現地研修④</b>  レッドソックスの試合観戦。攻守が交代するイニング間の短い時間をどのように利用しているのか、集客の工夫、試合観戦とIT技術の融合などを体験しながら学ぶ	レッドソックスの試合観戦を通じた調査資料のまとめと整理	4時間
第9回	<b>現地研修⑤（特別講義③）</b>  50年以上前から米国で初めてスポーツビジネスの講義をハーバード・ビジネス・スクールで始めた、世界的に有名なStephen Greyser教授に、米国のスポーツビジネスについて大学内で特別講義をしてもらう	Stephen Greyser教授によるスポーツビジネスの講義内容の振り返り	4時間
第10回	<b>現地研修⑥</b>  Stephen Greyser教授の案内で、ハーバード大学のスポーツ競技施設（アメフトのスタジアム）を視察。合わせて、ハーバード大学で日本語を学ぶ学生との国際交流も予定している	ハーバード大学のスポーツ競技施設に関する調査資料のまとめと整理	4時間
第11回	<b>現地研修⑦</b>  近郊のボストン・カレッジを訪問し、実際にビジネス化が著しいNCAA大学アメフトの試合を観戦し、大学内の巨大なスタジアムのマネジメントについて学ぶ	ボストン・カレッジのスタジアムマネジメントに関する調査資料のまとめと整理	4時間
第12回	<b>事後研修、調査報告書の作成</b> 事前調査と現地調査の資料を基に、受講生各自で報告書・レポートの作成を行う	事前調査と現地調査のレポート資料の整理	4時間
第13回	<b>調査報告書の提出</b>  事前調査と現地調査の資料を基に作成した報告書・レポートを完成させ、提出する	事前調査と現地調査の報告書・レポートの見直し作業	4時間
第14回	<b>発表準備</b> 学部内の発表会（オープンキャンパス）に向けたパワーポイントづくり。発表資料の準備に取り組む	パワーポイント作成の準備	4時間
第15回	<b>発表会</b> 受講生一人一人がフィールドワークで体験したことを発表。また、調査計画をもとに米国と日本のスポーツビジネスの比較も発表する	発表用資料づくり	4時間

授業科目名	<b>テーブルコーディネート演習 1</b>				
担当教員名	土田彩華				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	食空間コーディネーター協会認定講師。大阪・京都・東京にてテーブルコーディネーター養成講座を開催、ほか企業社員研修、デパート催事の講師もしている。大手家具・キッチンメーカー、百貨店、商業施設などのショーウィンドー・店舗内ディスプレイを数多く手				

### 授業概要

コーディネートに必要な基礎知識の器・装飾アイテムの知識、セッティング、色彩学、ライティングテクニックなどを学び、快適な食空間演出方法を考えます。また海外の食文化と日本食文化の、行事・スタイル・マナーの違いも学び、それら行事に合わせたコーディネート実習を通し文化の違いの理解を深め、表現スキルを磨きます。食卓は、美しいテーブルを作ること以外に、皆で楽しく食事をする場であること、そして常に相手がいることを心に留め、いかに心豊かな時を過ごせるかを、演習1と2を通し考えてゆきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	食空間コーディネート力	理論とコーディネートに必要な組み立て力をつける
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	カラーワークの作成、テーブルコーディネートの基礎から応用までの実施	実技を通し、コーディネートに必要な技術、スタイリングを身につける
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自ら課題、テーマを発見する力をつける
2．DP5. 計画・立案力		コンセプトある企画力、コーディネートの組立て力をつける
3．DP6. 行動・実践		企画表現能力を付ける。グループ課題ではコミュニケーション能力、協調性、積極性をつける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	50%	： テーブルコーディネートを通して食空間を理解できたか評価する。
提出物	30%	： テーブルコーディネートの企画に際し、専門的な情報を収集することができたか評価する。
受講状況(積極的参加・マナー)	20%	： 講義を聞きプリントへの書き込みやグループワークへ積極的に取り組もうとする主体性や、自分の役割を理解し、協働しようとする態度があったかを評価する。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
フードコーディネーター協会編	・ フードコーディネーター3級試験 対応テキスト	・ 柴田書店	・ 2018年

### 参考文献等

NPO法人食空間コーディネーター協会：TALK食空間コーディネートテキスト3級 株式会社優しい食卓  
(公社)日本フードスペシャリスト協会：三訂フードコーディネート論 株式会社建邦社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。毎回授業で学んだ内容のポイントを、プリントや教科書の指定されたページを読むことで復習し、「授業外学修課題」の実習企画プリントを丁寧に仕上げる。常にショップやインテリアショールーム、レストランなどでの演出方法のテクニックを観察し分析をする。また雑誌・広告・ニュース情報にも注意を向けトレンド情報にも関心を持ち、コーディネートに反映させられるように分析をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	実習室

### 授業計画

第1回 **食空間のあり方**

コーディネートをやる上で「食空間のあり方」「三間・3K/三風」が一番核となる部分である。配布プリントと教本P202～207を読み復習し理解すること。教本初めの「フードコーディネートとは何か」は読み予習する。身の回りのフードコーディネーターやテーブルコーディネーターの活躍する分野・仕事内容をリサーチしておく。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	食空間のあり方、食空間コーディネート概論を学ぶ。「食空間コーディネート」とはどういうことなのか、「食空間の在り方」を8つの要素を通し理解し、コーディネートの企画に必要な「三間・3K・三風」の意味と重要性を理解する。		
第2回	<b>フードビジネス論</b>  フード業界でのコーディネーターの役割、仕事内容・範囲、業界の現状とビジネスに求められる資質を考える。	授業で学んだ業界と仕事内容を調べまとめる。教本「食空間のありかた」P180・185を読み復習すること。ショップやレストランのコーディネートのリサーチをする。	4時間
第3回	<b>食空間の構成～洋食～</b>  食空間演出方の基本的な考えを学ぶ。グループ実習にて、洋食の基本セッティングを作り、テーブルトップの構成を理解する。セッティングをもとにプランニングシートの作成と発表をする。	第1～3回で学んだことを再復習しておく。教本「食空間構成～洋食～」P208～210、「西洋料理の歴史」P32・39、を読み予習しておく。	4時間
第4回	<b>コーディネートアイテム～洋食器～</b>  第1～3回の復習チェックシート（ミニ復習テスト）の実施 ヨーロッパ・日本における「洋食器の歴史」を学ぶ。洋食器の種類と扱い方、基本アイテム、特徴を説明。実際に実物を見て、触り、実感し、それぞれの素材や種類、使う目的を理解する。	配布プリントと教本「西洋料理の歴史」P32・39、「食空間構成～洋食～」P208～210を読み復習しておく。実習の企画組立てシートを丁寧に仕上げること。（今後丁寧にない場合は再提出となります。）教本コーディネートアイテムP210・213を読み予習しておくこと。	4時間
第5回	<b>コーディネートアイテム～フィギュア・キャンドル・センターピース・リネン類～</b>  テーブル装飾（フィギュア・キャンドル・センターピース）に関して学ぶ。テーブルリネンについて学ぶ。ナブキンワークの実習。	配布プリントと教本コーディネートアイテムP210・213を読み復習しておくこと。教本「カラーコーディネートP207・208を読み予習しておくこと。商業施設（店舗・ショールーム）でのカラー計画のリサーチを行うこと。	4時間
第6回	<b>カラーコーディネートの基本</b>  カラーシステムを知る。色相やトーンを知り、配色テクニックを学ぶ。食空間における色の心理的影響力について学ぶ。グループ内で、リサーチしてきたショップ・レストランのカラー分析の発表を行い、考えをまとめる。カラー分析の実習を行う。	第4～6回を復習しておく。グループで考えたカラー分析の内容をまとめておく。商業施設（店舗・ショールーム）でのディスプレイのリサーチを行う	4時間
第7回	<b>ディスプレイ理論</b>  第4～6回の復習チェックシート（ミニ復習テスト）の実施 ディスプレイの基本理論を学ぶ。リサーチしてきたショップの発表をグループ内で行い、ディスプレイの影響力について考える。販売促進のためのディスプレイ企画を考える。	配布プリントを復習し、グループで考えた影響力についてまとめる。学んだことを踏まえ、再度ショップやレストランでの空間コーディネート・ディスプレイについてリサーチする。	4時間
第8回	<b>ディスプレイコーディネート</b>  グループ実習 ディスプレイコーディネート 各グループにて発表を行う。	実習でのコーディネートを、提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。丁寧にまとめること。海外行事についてどのようなものがあるのか、食についても調べておく。	4時間
第9回	<b>欧米の行事食と文化① 演習</b>  欧米の行事の文化、コーディネート、食について学ぶ。グループ実習 欧米の行事のディスプレイ企画を考え、行事の理解を深める。	次回行う実習の行事を詳しく調べ、コーディネートに使えるものを考える	4時間
第10回	<b>欧米の行事食と文化② 発表</b>  企画した欧米の行事のディスプレイコーディネートを作る。グループ実習にて、欧米の行事の理解を深める。コーディネートの発表と撮影を行う。	第7～10回の復習。実習でのコーディネートを、提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。丁寧にまとめること。教本「食空間の構成～中国料理～」P222・223、「テーブルマナーとサービス」P224～238まで読み予習をする。	4時間
第11回	<b>テーブルマナーとサービス ～洋食と中国料理～</b>  第7～10回の復習チェックシート（ミニ復習テスト）の実施 グループ実習にて洋食セッティングと、中国料理セッティング実習を行い、西洋料理、中国料理のサービスやマナーを学ぶ。セッティングの撮影を行う。	実習でのコーディネート実習でのコーディネートを、提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。丁寧にまとめること。配布プリントと教本P222・223、P224～238にて洋食と中国料理の復習を行う。「プロトコール」P238～243を読み予習をすること。	4時間
第12回	<b>テーブルマナーとサービス ～プロトコール～</b>  プロトコールの基本理念について学ぶ。アフタヌーンティーパーティーについて学ぶ。グループ実習にて、ティーパーティーのテーブルコーディネートを考える。	配布プリントと教本「プロトコール」P238～243を読み復習を行う。実習でのコーディネートを、提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。丁寧にまとめること。	4時間
第13回	<b>欧米の行事コーディネートの企画</b>  グループ実習にて、各グループにてテーマを決め、家庭でのおもてなしのコーディネートの企画を考え、テーブルコーディネートを発表と撮影を行う。	実習でのコーディネートを、提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。丁寧にまとめること。教本「酒・ドリンク類」P80～87を読み予習を行うこと。	4時間
第14回	<b>酒とお茶のサービス</b>  酒の種類とグラスについて、お他の種類と茶器について学ぶ。嗜好品がすすむテーブルコーディネートを考える。	配布プリントと教本「酒・ドリンク類」P80～87を読み復習しておくこと。実習でのコーディネートを、提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。丁寧にまとめること。現代のコーディネートの課題をリサーチしてくる。	4時間
第15回	<b>テーブルコーディネートの課題</b>	総復習を行う。復習チェックシート、配布プリント、教科書の内容のつながりをしっかりと見直し、理解しておくこと。	4時間

第10～14回の復習チェックシート。(ミニ復習テスト)の実施  
第1～14回の総復習を行う。  
現代における、テーブル&フードコーディネーターに求められる  
ことや、食空間コーディネートやディスプレイ、その他の仕事な  
どコーディネーターを取り巻く課題について、意見を発表し、各  
自コメントし合う。

---

授業科目名	テーブルコーディネート演習 2				
担当教員名	土田彩華				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	食空間コーディネーター協会認定講師。大阪・京都・東京にてテーブルコーディネーター養成講座を開催、ほか企業社員研修、デパート催事の講師もしている。大手家具・キッチンメーカー、百貨店、商業施設などのショーウィンドー・店舗内ディスプレイを数多く手				

### 授業概要

コーディネートに必要な基礎知識の器・装飾アイテムの知識、セッティング、色彩学、ライティングテクニックなどを学び、快適な食空間演出方法を考えます。また海外の食文化と日本食文化の、行事・スタイル・マナーの違いも学び、それら行事に合わせたコーディネート実習を通し文化の違いの理解を深め、表現スキルを磨きます。食卓は、美しいテーブルを作ること以外に、皆で楽しく食事をする場であること、そして常に相手がいることを心に留め、いかに心豊かな時を過ごせるかを、演習1と2を通し考えてゆきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	食空間コーディネート力	理論とコーディネートに必要な組み立て力をつける
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	カラーワークの作成、テーブルコーディネートの基礎から応用までの実施	実技を通し、コーディネートに必要な技術、スタイリングを身につける
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自ら課題、テーマを発見する力をつける
2．DP5. 計画・立案力		コンセプトある企画力、コーディネートの組立て力をつける
3．DP6. 行動・実践		企画表現能力を付ける。グループ課題ではコミュニケーション能力、協調性、積極性をつける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	50%	： テーブルコーディネートを通して食空間を理解できたか評価する。
提出物	30%	： テーブルコーディネートの企画に際し、専門的な情報を収集することができたか評価する。
受講状況(積極的参加・マナー)	20%	： 講義を聞きプリントへの書き込みやグループワークへ積極的に取り組もうとする主体性や、自分の役割を理解し、協働しようとする態度があったかを評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
フードコーディネーター協会編	・ フードコーディネーター3級試験 対応テキスト	・ 柴田書店	・ 2018年

### 参考文献等

NPO法人食空間コーディネーター協会：TALK食空間コーディネートテキスト3級 株式会社優しい食卓  
(公社)日本フードスペシャリスト協会：三訂フードコーディネート論 株式会社建邦社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。毎回授業で学んだ内容のポイントを、プリントや教科書の指定されたページを読むことで復習し、「授業外学修課題」の実習企画プリントを丁寧に仕上げること。  
季節の節目ごとに行われる身の回りの日本の伝統文化・行事内容を調べ、海外での歳時記との違いをかくにん理解すること。常にショップやインテリアショールーム、レストランなどでの演出方法のテクニックを観察し分析をする。また雑誌・広告・ニュース情報にも注意を向けトレンド情報にも関心をもち、コーディネートに反映させられるように分析をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	実習室

### 授業計画

第1回	イメージ感性分類法	配布プリントでの8分類を復習し理解する。店舗・インテリア・食器・ファッションなど食空間に関わることを、分類別に分析し課題を作成する。丁寧に作成すること。(丁寧にない場合は再提出とする)	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	-----------	--	-------------------------

	カラーイメージスケールを通し、コーディネートイメージを大きく8つに分類し、スタイル別イメージの言語、カラー、テキストを理解する。 食空間での食とコーディネートのカラーバランスについて考える。		
第2回	<b>テーブルウェア論～和食器～</b>  和食器の歴史、種類と扱い方、基本アイテム、特徴を学び、洋食器の特徴との違いを考える。 陶器・炆器・磁器の違いを理解する。その他、漆器、箸についても学ぶ。	講義の内容を配布プリントを用いて復習を行う。特に歴史・基本アイテム、洋食器との違いはまとめ理解しておくこと。教本「食空間の構成～和食～」P216`221を読み予習しておく。	4時間
第3回	<b>食空間の構成～和食～</b>  和の食空間演出の基本的な考えを学ぶ。グループ実習にて、和食の基本セッティングを作り、テーブルトップの構成を理解する。セッティングをもとに、プランニングシートの作成を行う。	第1～3回の復習を配布プリントと教科書を用いて行う。コーディネート実習での写真を、提出用指定用紙に貼り、企画コンセプトシートを完成させる。丁寧にまとめること。(今後丁寧でない場合は再提出とする)	4時間
第4回	<b>デザインから考える盛り付けと食器の選び方</b>  第1～3回の復習チェックシート(ミニ復習テスト)の実施 盛り付けの意図を考え、お皿のセレクト方法を学ぶ。テーブルコーディネートに必要なお皿の形、大きさ高さ、色をセレクトし、器を使ったコンセプトの表現方法を考える。	講義の内容を配布プリントを用いて復習を行う。雑誌やネットで、現代的な盛り付け方、コーディネートを探しスタイル別にまとめる。	4時間
第5回	<b>日本の行事食と文化</b>  日本の行事、文化、しつらい、食について学ぶ。グループにて、日本の歳時記のテーブルコーディネート企画を考える。	講義の内容を配布プリントを用いて復習を行う。季節の節目ごとに行われる身の回りの日本の伝統文化・行事内容を調べ、海外での歳時記との違いを確認すること。グループで決めた歳時記について調べる	4時間
第6回	<b>日本の歳時記のコーディネート企画</b>  グループ実習にて、日本の歳時記のテーブルコーディネートを作り、発表と撮影を行う。	季節の節目ごとに行われる日本の伝統文化・行事内容を調べ、海外での歳時記との違いを確認すること。実習でのコーディネート写真を提出用指定用紙に貼り、企画コンセプトを完成させる。教本P209・219のセッティングを復習する。P216～221、229`232、236`237を読み予習をする。	4時間
第7回	<b>テーブルマナーとサービス ～和食～</b>  グループ実習にて和の基本セッティングを作り、和食のサービスとマナーについて学ぶ。洋食の基本セッティングも作り、西洋との違いを確認する。	第4～7回の復習を配布プリントと教科書を用いて行う。教本「食の歴史と文化と風土」P12～22を読み予習をする。	4時間
第8回	<b>日本と西洋のおもてなし料理</b>  第4～7回の復習チェックシートの実施 日本料理(本膳料理・懐石料理・会席料理)、日本での洋食のそれぞれの歴史、様式、献立について学ぶ。	日本での和と洋、両方の歴史・セッティングを復習する。日本料理を調べ写真と共にまとめる。	4時間
第9回	<b>日本の歳時記のコーディネート実習</b>  グループ実習にて、各グループごとにテーマを決め、コーディネート企画を考え、テーブルコーディネートを作る。発表と撮影を行う。	実習でのコーディネート写真を提出用指定用紙に貼り、企画コンセプトを完成させる。季節の節目ごとに行われる身の回りの日本の伝統文化・行事内容を調べ、海外での歳時記との違いを確認すること。教本P213`215を読み予習を行う。	4時間
第10回	<b>インテリア様式によるテイストとスタイル</b>  西洋の食空間演出に必要な、欧米のインテリア様式を学ぶ。様式に対してのクラシックからモダンスタイルまで、また格調を示すフォーマルからカジュアルまでをまとめたマトリックスでの、各スタイル分布を理解する。	第8～10回までの復習を配布プリントと教科書を用いて行う。	4時間
第11回	<b>クロスオーバーテーブルコーディネート① 演習</b>  第8～10回の復習チェックシート 和と洋の器を使い、コーディネートをする。グループ実習にて、各グループごとにテーマを決め、コーディネート企画を考え、テーブルコーディネートを作る。発表と撮影を行う。	実習でのコーディネート写真を提出用指定用紙に貼り、企画コンセプトを完成させる。和と洋の食器の違い・特徴をまとめる。	4時間
第12回	<b>クロスオーバーテーブルコーディネート② 発表</b>  和と洋の器を使い、コーディネートをする。グループ実習にて、各グループごとにテーマを決め、コーディネート企画を考え、テーブルコーディネートを作る。発表と撮影を行う。	実習でのコーディネート写真を提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。和と洋の食器の特徴を再復習し、クロスオーバーコーディネートについてまとめる。	4時間
第13回	<b>パーティー企画</b>  パーティーの種類・スタイル・パーティープランニングについて学ぶ。日本と西洋とのパーティーに対する考え方の違いについて考える。 グループにて、ホームパーティー企画を考える。	海外と日本でのホームパーティーについて調べる。	4時間
第14回	<b>パーティーコーディネート</b>  グループ実習にて企画したパーティーコーディネートを作りコンセプトの発表と撮影を行う。	第11～13回の復習。コーディネート写真を提出用指定用紙に貼り、企画コンセプトを完成させる。チェックシートで、理解が不十分な所を確認しておく。	4時間
第15回	<b>総論・最終復習</b>  第1～13回までのチェックシートを使い、食空間コーディネートに必要な各項目・最後のチェックポイントの総復習を行う。	配布プリント、チェックシート、教本を用い総復習を行う。	4時間

授業科目名	<b>旅程管理者演習/ツーリズム・マネジメント演習</b>				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行企画・立案をおこなう。海外・国内の添乗および添乗員教育をおこなってきた。観光庁認定の旅程管理業務講師である。(全15回)				

### 授業概要

ツーリズムは世界規模で成長しており、経済効果や雇用創出から最も重要な成長分野であるとされます。また、ツーリズム産業は裾野が広い産業であり、経済のソフト・サービス化においてあらゆる産業が参入しています。本授業ではトラベルビジネスに焦点を当て、旅程管理を通して実務的なツーリズム・マネジメントについて学びます。新しい体験型・着地型観光にも期待される旅程管理業務の資格に必要な知識を得ながら、実践的演習で知識と態度を身に付けます。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	旅程管理業務の知識を得る。	旅程管理業務のマスター
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP5. 計画・立案力		旅程管理能力を身に付ける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

<b>注意事項等</b>	原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。 定期試験	
<b>成績評価の方法・評価の割合</b>	<b>評価の基準</b>	
授業態度	60%	： 毎回授業で行う演習を1～4点で評価し、合計60点満点とします。
定期試験	40%	： 旅程管理業務資格の必要知識を40点満点で評価します。合格相当の知識があれば40点とします。

### 使用教科書

指定する				
<b>著者</b>	<b>タイトル</b>	<b>出版社</b>	<b>出版年</b>	
株式会社ツーリストエキスパート	業法・約款テキスト	株式会社ツーリストエキスパート	2018年	
株式会社ツーリストエキスパート	国内・海外添乗実務テキスト	株式会社ツーリストエキスパート	2018年	

### 参考文献等

株式会社ツーリストエキスパート作成のテキストを使用する。  
購入についてはオリエンテーション等で説明する（別途費用要）。  
必ず旅程管理研修了テストを受験すること。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・国土交通省により定められた株式会社ツーリストエキスパートのテキスト、旅程管理研修了テスト、管理費用、修了書発行費用が別途必要です。
- ・本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
- 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日 10:40～12:10
場所：	西館2階 個人研究室15
備考・注意事項：	質問は授業の前後も答えるが、メールでも対応します。 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>企画旅行と旅行業法</b> 旅行業法とは何か、構成・しくみについて学びます。	4時間
第2回	<b>募集型企画旅行における旅行者との取引準則</b> 募集型企画旅行の広告、誇大広告の禁止、取引条件の説明、契約書交付や必要表示事項	4時間
第3回	<b>旅程管理業務</b> 旅程管理業務とは何かについて学びます。	4時間
第4回	<b>旅行業約款</b> 約款とは何か業法との違いについて学びます。	4時間

第5回	<b>旅行者の債務</b> 企画旅行契約上の旅行者の債務について学びます。	テキストを読み、練習問題を解き債務とは何かを予習復習すること。	4時間
第6回	<b>募集型企画旅行契約</b> 企画旅行契約の締結、変更、解除について学びます。	テキストを読み、練習問題を解き契約とは何かを予習復習すること。	4時間
第7回	<b>旅行者の責任</b> 企画旅行者の責任について学びます。	テキストを読み、練習問題を解き企画旅行者の責任とは何かを予習復習すること。	4時間
第8回	<b>添乗員の責任</b> 企画旅行の添乗員について学びます。	テキストを読み、練習問題を解き企画旅行の添乗員の業務について予習復習すること。	4時間
第9回	<b>国内実務（１）打ち合せから当日の業務について</b> 国内旅行の業務について学びます。	テキストを読み、練習問題を解き国内旅行の業務知識について予習復習すること。	4時間
第10回	<b>国内実務（２）搭乗手続きから精算業務について</b> 航空機利用の場合	テキストを読み、練習問題を解き航空機利用の際に必要な業務知識について予習復習すること。	4時間
第11回	<b>国内実務（３）運賃・料金から事故処理まで／総合旅程管理者 海外実務（１）</b> 運輸機関に関する知識、事故処理、心構え	テキストを読み、練習問題を解き、国内旅行における運輸機関との業務や事故の処理方法について予習復習すること。	4時間
第12回	<b>国内研修（１）事前準備から前日の業務について</b> 事前準備のポイントについて学びます。	現地情報を収集し、主体的に行動できるように準備すること	4時間
第13回	<b>国内研修（２）手続きから現地行動まで</b> 受付および出発～チェックインについて学びます。	現地情報を収集し、主体的に行動できるように準備すること。	4時間
第14回	<b>国内研修（３）連絡業務について</b> 添乗専門用語・連絡業務について学びます。	現地情報を収集し、主体的に行動できるように準備すること	4時間
第15回	<b>まとめとふりかえり</b> 総合旅程管理研修問題を解き、科目全体の復習を行う。	テキストを読み、練習問題を解き振り返りシートを作成すること。	4時間

授業科目名	<b>旅行業務取扱管理者演習</b>				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2単位
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行企画・立案をおこなう。国家資格である総合旅行業務取扱管理者資格を持つ。				

### 授業概要

本授業では、観光における唯一の国家試験である旅行業務取扱管理者資格の問題演習を通じて、旅行実務等について体系的に学び、旅行業務取扱責任者資格の知識を習得することを目標としている。また、旅行業法により旅行者は各営業所にこの国家試験に合格した者を配置するよう定められている。その為、旅行業務に関する取引を公正に確保することを目的に管理・監督を行う為の資格である「旅行業務取扱管理者資格」取得を目指す。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	旅行実務への理解	旅行業務取扱責任者資格の知識を得ることで、旅行実務の理解を深める。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP6. 行動・実践		旅行・観光業界に必要な知識を身につけられる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。  
(出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合成績処理を行わない)  
定期試験

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業態度	60%	<b>評価の基準</b> ： 毎回授業で行う演習を1～4点で評価し、合計60点満点とします。
定期試験	40%	： 国内旅行業務取扱管理者資格の必要知識を40点満点で評価します。合格相当の知識があれば40点とします。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 国内運賃・料金	・ JTB総合研究所	・ 2018年
	・ 国内観光資源	・ JTB総合研究所	・ 2018年

### 参考文献等

必ず使用教科書を購入すること。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・国家試験「旅行業務取扱管理者試験」を必ず受験すること。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- ・旅行業務取扱管理者資格試験の科目は広範囲におよび、授業の切石だけでは不足である。課外においても自主的かつ積極的に予習・復習を行うこと
- ・「旅行業法関連法規論」も合わせて履修することが望ましい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日2時限（10:40～12:10）
場所：	西館2階 個人研究室15
備考・注意事項：	質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

### 授業計画

回数	授業内容	授業の復習・予習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>旅行業法及びこれに基づく命令（1）</b> 旅行業法の目的・定義、及び旅行業等の登録について理解する。	授業の復習・予習	4時間
第2回	<b>旅行業法及びこれに基づく命令（2）</b> 契約締結について理解する。	授業の復習・予習	4時間
第3回	<b>業法約款（1）旅行業約款、運送約款</b> 標準旅行業約款の適用範囲、特約等について理解する。	授業の復習・予習	4時間
第4回	<b>業法約款（2）宿泊約款</b> 国内旅客運送約款とホテル（旅館）の約款について理解する。	授業の復習・予習	4時間
第5回	<b>国内旅行実務（1）JR運賃料金</b> JR各社共通の国内運賃・料金計算について理解する。	授業の復習・予習	4時間
第6回	<b>国内旅行実務（2）航空運賃</b>	授業の復習・予習	4時間

	国内航空運賃について航空会社の約款に共通する知識を理解する。		
第7回	<b>国内観光資源（1）北海道</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	授業の復習・予習	4時間
第8回	<b>国内観光資源（2）東北地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。特に、山、川、半島の正しい位置、新幹線の路線を正しく把握する。	授業の復習・予習	4時間
第9回	<b>国内観光資源（3）関東地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。特に、滝、名物料理、訪日観光客が好む観光地を把握する。	授業の復習・予習	4時間
第10回	<b>国内観光資源（4）中部地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。特に、温泉地、山の正しい位置、新幹線の路線を正しく把握する。	授業の復習・予習	4時間
第11回	<b>国内観光資源（5）近畿地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。特に、奈良、京都の観光地を詳しく把握する。	授業の復習・予習	4時間
第12回	<b>国内観光資源（6）中国・四国地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。特に、島の名前や位置、四国八十八か所の有名な寺を把握する。	授業の復習・予習	4時間
第13回	<b>国内観光資源（7）九州・沖縄地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。特に、島の名前や位置を把握する。	授業の復習・予習	4時間
第14回	<b>国内旅客運送約款</b> 国内旅客運送約款について理解する。	授業の復習・予習	4時間
第15回	<b>まとめとふりかえり</b> 国内旅行業務取扱管理者資格試験を想定した問題に取り組み、その解説を聞くことで、科目全体の復習を行う。	授業の復習	4時間

授業科目名	<b>専門演習 1【経営】</b>				
担当教員名	児山俊行・千代原亮一・山崎哲弘・中井秀樹・笠岡恵理子				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	授業は、経営コースの担当教員がそれぞれで授業や演習を実施する予定。但し、PBL型授業も実施し、一定のプロジェクトを実施する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習1では経営コースが目指す「マネジメント能力が発揮できる人材の育成」の基盤づくりに取り組みます。そのため前期は後期とともに、現代のビジネスとマネジメントの基礎力を育てることを目指し、特に前期は理論的基礎の修得を中心に行います。その際、理論とはいつても具体的な企業事例の分析・考察を通じ、授業内や課外での個人学習やグループ活動でもって進めていきます。これは後期からの実践的演習の準備ともなります。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

現代の様々な経営事象について基本的知識を諸事例を調べて分析・考察し発表・議論する。

#### 目標：

自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

経営現象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出す。

### 学外連携学修

有り（連携先：株式会社ココウエル）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業での活動の評価	45%	： グローバルな視点やそれに基づく思考が深まっているかどうか、授業での発表や議論、課題の提出などの成果で評価する。
グループワーク活動	20%	： 提示された課題解決へのグループ活動での自己の役割遂行や解決提案の策定などの成果で評価する。
試験（レポート）	25%	： 自らの演習を振り返りながら学びの修得度と自身のどこが成長したかについてふりかえるレポートを作成し評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献は必要に応じて紹介・指示する予定。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各教員のオフィスアワー  
場所： 担当教員の研究室（西館2・3階）

### 授業計画

回	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：現代の経営事象の特徴、研究倫理教育</b> 現代に顕著となってきた経営事象の特徴についての概要講義を行い、演習内容や進め方について全体的説明を行なう。また、研究倫理教育の実施。	1年次の経営学領域授業の復習	4時間
第2回	<b>現代のビジネス課題の現状</b> 現代のビジネス課題についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	現在のビジネスのトピックスについて調べる。	4時間
第3回	<b>現代のビジネス課題～会社の形態の変化</b>	企業形態の変遷について調べる。	4時間

	会社の形態の変化についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。		
第4回	<b>現代のビジネス課題～経営組織のあり方</b> 経営組織のあり方についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	経営組織の変遷について調べる。	4時間
第5回	<b>現代のビジネス課題～有効な経営戦略</b> 有効な経営戦略についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	経営戦略のタイプについて調べる。	4時間
第6回	<b>現代のビジネス課題～経営のグローバル化</b> 経営のグローバル化についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	経営のグローバル化の変遷について調べる。	4時間
第7回	<b>現代のビジネス課題～人的資源管理</b> 人的資源管理についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	人的資源管理の変遷について調べる。	4時間
第8回	<b>現代のビジネス課題～マーケティング</b> マーケティングについてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	マーケティングの変遷について調べる。	4時間
第9回	<b>現代のビジネス課題～生産管理</b> 生産管理についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	生産管理の変遷について調べる。	4時間
第10回	<b>現代のビジネス課題～情報システム</b> 情報システムについてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	情報システムの発展について調べる。	4時間
第11回	<b>現代のビジネス課題～財務管理</b> 財務管理についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	財務管理の流れについて調べる。	4時間
第12回	<b>現代のビジネス課題～ベンチャー企業</b> ベンチャー企業についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	ベンチャー企業の歴史について調べる。	4時間
第13回	<b>現代のビジネス課題～企業の社会的責任</b> 企業の社会的責任についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	企業の社会的責任の発展について調べる。	4時間
第14回	<b>現代のビジネス課題～ナレッジマネジメント</b> ナレッジマネジメントについてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	知識創造経営への発展について調べる。	4時間
第15回	<b>本演習の総括</b> グループ活動を通じて演習の総括とともに振り返り・自己評価を行う。	今までの学びの内容の整理と再確認	4時間

授業科目名	<b>専門演習1【スポーツ】</b>				
担当教員名	植田真司・菅文彦・藤森梓・胡山喬・村田正夫・古川拓也・担当者未定				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	グループ学習形式で行います。15名程度のゼミに分かれ、各ゼミが担当教員のアドバイスに従い、調査・分析し調べたことを発表します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習1では、卒業研究を行う上で必要となる知識や能力を身につけるために、スポーツマネジメントの研究対象領域やグループ活動を行います。それらの講義やグループワークなどの活動を通して以下の4点を目指します。  
 ①スポーツマネジメントにおける研究対象領域を理解する。  
 ②スポーツマネジメントに関する課題発見能力を養う。  
 ③エビデンスに基づいた説明や主張ができるようになる。  
 ④スポーツに関する事象に興味関心を持ち、自ら問いを立てることができるようになる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	幅広い教養とスキル	専門演習での幅広い教養とスキルを身に付ける
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	専門知識と技能	スポーツマネジメントにおける専門知識と技能を身に付ける
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究/企画書に関する知識を習得し自らの課題を発見する
2．DP5. 計画・立案力		グループでの計画を立て、立案する
3．DP6. 行動・実践		専門演習などの発表を行う

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

ポートフォリオ（学びの記録）	40%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振り返りが出来ているか」を評価の基準とする
プレゼンテーション評価	40%	： 独自のルーブリックに基づき評価します。
講義に対する態度や姿勢	10%	： 普段の講義に対する態度やグループ学習での姿勢
期末レポート	10%	： 独自のルーブリックに基づき評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 教員によって異なる  
 場所： 各研究室  
 備考・注意事項： 各教員に都度確認を取ること。

### 授業計画

第1回 専門演習1の狙いと研究倫理について

講義後に改めて自身が執筆してきたレポートを見直し、研究倫理を逸脱していないか確認すること。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	専門演習1の概要と、レポート・論文、プレゼンテーションを実施する上での諸注意事項を講義します。		
第2回	<b>スポーツマネジメント専門領域の理解（1）</b> 1. スポーツと経済 2. スポーツファイナンス、流通論 3. スポーツ用具	事前課題を提示します。	4時間
第3回	<b>スポーツマネジメント専門領域の理解（2）</b> 1. 地域スポーツ 2. プロスポーツクラブ 3. スポーツの影響	事前課題を提示します。	4時間
第4回	<b>スポーツマネジメント専門領域の理解（3）</b> 1. スポーツ政策 2. ハイパフォーマンススポーツ：バドミントン 3. ハイパフォーマンススポーツ：柔道 4. ハイパフォーマンススポーツ：フットサル	事前課題を提示します。	4時間
第5回	<b>スポーツマネジメント専門領域の理解（4）</b> 1. スポーツとメディア 2. スポーツイベント、ボランティア、都市計画	事前課題を提示します。	4時間
第6回	<b>大阪成蹊大学をスポーツでより良くする（1）</b> 本科目の後半は、「大阪成蹊大学をスポーツでより良くする」と題し、スポーツに関連した大学施策を検討します。最終的にはコンペティション形式で発表していきます。本講義では概要を説明します。	班活動として学内の課題を探してこること	4時間
第7回	<b>大阪成蹊大学をスポーツでより良くする（2）</b> 「大阪成蹊大学をスポーツでより良くする」ための施策提案に向け、各班のテーマを決定します。科目の前半で学んだスポーツマネジメントの研究領域を踏まえながら、新規性の高いテーマを考えてみましょう。	学内の課題解決とスポーツの組合せを工夫すること	4時間
第8回	<b>大阪成蹊大学をスポーツでより良くする（3）</b> 大阪成蹊大学をスポーツでより良くするための施策策定の為に、裏付けとなるデータを収集しましょう。本講義では調査計画を検討します。	調査の目的と調査方法が一致しているか確認しながら調査設計を進めましょう。	4時間
第9回	<b>大阪成蹊大学をスポーツでより良くする（4）</b> 調査によって得られたデータをもとに、施策の検討をします。具体的な課題と解決方法の一貫性、施策の新規性を特に意識しましょう。	施策について班で検討してこること。	4時間
第10回	<b>大阪成蹊大学をスポーツでより良くする（5）</b> 提案する施策について、発表準備を進めます。スライド作成のポイントや第1回目の研究倫理の諸注意などを意識して作成します。	スライドの作成を行ってこること	4時間
第11回	<b>大阪成蹊大学をスポーツでより良くする（6）</b> 提案する施策について、発表準備を進めます。スライド作成のポイントや第1回目の研究倫理の諸注意などを意識して作成します。	プレゼンテーションに向け、各グループでリハーサルを行い、想定問答を考えておくこと	4時間
第12回	<b>プレゼンテーション（1）</b> 各ゼミ内でプレゼンテーションを行います。また、プレゼンテーション終了後には質疑応答をし、提案施策がより良くなるよう議論しましょう。	ゼミ発表を通して得たコメントを元に施策内容を修正しましょう。	4時間
第13回	<b>プレゼンテーション（2）</b> 全体での発表を行います。他の班に対しても積極的に質疑をしましょう。	プレゼンテーションの準備をしてこること	4時間
第14回	<b>プレゼンテーション（3）</b> 全体での発表を行います。他の班に対しても積極的に質疑をしましょう。	プレゼンテーションの準備をしてこること	4時間
第15回	<b>まとめ</b> 本講義のまとめを行います。スポーツマネジメントの研究対象領域のおさらいと、プレゼンテーションの講評を行います。	第1回から第14回を振り返ってこること	4時間

授業科目名	<b>専門演習 1【食】</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習（グループワークを含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当。（全15回）				

### 授業概要

この授業では、マクロ環境・製造業界・流通業界・一次産業などの経営分析を行い資料作成を行うことで、生産地から食卓までの食ビジネスの幅広いフィールドを理解し、生産地、食品工場、卸売・小売店、外食施設などのフードチェーンの仕組みをつかみます。また、食系企業等の連携先から与えられた現場のPBL課題に対し、グループで協力し関連する情報の収集・解析を行い、商品開発企画や売場プロモーションの提案および売場実習、圃場での農業体験学習などに取り組みます。これら一連の成果をプレゼンテーションします。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

経営分析資料の作成、食系企業との連携授業ではPBL学修に取り組みます。

#### 目標：

グループで協力し、与えられた課題に対して関連する情報を集め、問題点を把握、改善策を提案することができる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂
5. DP9. 役割理解・連携行動

与えられたPBL課題について、真因を探ることができる。  
仮説を検証するために効果的なアクションプランを策定することができる。  
立案したアクションプランに従い、やるべき行動を実践することができる。  
困難な課題でもあきらめずに、最後までベストを尽くすことができる。  
グループ内で自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。

### 学外連携学修

有り（連携先：中日本フード㈱、佐竹食品㈱他）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： グループ内で自分の役割を理解し、その役割を果たすことができたかどうか、途中であきらめずに最後までベストを尽くすことができたかどうか評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： PBL学修に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表会	40%	： 与えられたPBL課題に対して、関連する情報を集め、問題点を把握し、改善策を提案することができたかどうか、グループで協力し成果をアピールできたかどうか評価します。
期末レポート	20%	： 指定された日時までに提出されたレポートについて、独自の視点から課題に対する効果的な解決策を提案できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

日本大学食品ビジネス学科編『人を幸せにする食品ビジネス学入門』（オーム社、2016年）  
必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

※連携先の都合に合わせ、授業の順番や内容を一部変更する場合があります。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 2限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題にか  
かる目安の時間

第1回	<b>オリエンテーションおよび研究倫理教育の実施</b> 専門演習の進め方、研究倫理を学び、食ビジネスの現場で役立つマナーについて修得します。 また、グループメンバーと話し合いリーダー選出やチームビルディングを行います。	食ビジネスに関する経済新聞やwebサイトの記事を持ち寄ってください。	4時間
第2回	<b>経営分析資料①（章立て）</b> 最新情報を収集・整理し、グループ毎に経営分析資料の章立てを行います。	食ビジネスに関する経済新聞やwebサイトの記事を持ち寄ってください。	4時間
第3回	<b>経営分析資料②（各章のテーマ設定）</b> 最新情報を収集・整理し、重要なテーマを選び、各章のテーマ設定と役割分担を行います。	前回学んだことを復習し、経済系の新聞やwebサイトの関連記事を持ち寄ってください。	4時間
第4回	<b>経営分析資料③（情報収集・資料作成）</b> 各自で担当したテーマの情報収集を行い、各テーマの資料作成に取り組みます。	前回学んだことを復習し、経済系の新聞やwebサイトの関連記事を持ち寄ってください。	4時間
第5回	<b>経営分析資料④（資料作成・発表準備）</b> 各自で作成した資料をグループ毎にまとめ、お互いに共有します。グループ毎に発表準備を行います。	グループ毎に成果発表の準備を行ってください。	4時間
第6回	<b>経営分析資料⑤（成果発表）</b> グループ毎に成果発表と質疑応答を行います。成果発表の様子をビデオで撮影し、それを視聴ながらグループ毎に振り返ります。	グループ毎に成果発表の振り返りを行ってください。	4時間
第7回	<b>食系企業による講演（PBL課題説明）</b> ゲストスピーカー（企業人）を招いて特別授業を開催し、商品開発のヒントを学んだ後、PBL課題について説明を受けます。	前回学んだことを復習し、各自でPBL課題に取り組んでください。	4時間
第8回	<b>商品開発の提案①（アイデア出し）</b> 前回のゲストスピーカーの特別授業内容を踏まえ、市場調査を行い、新商品のアイデアを出し合います。	各自で市場調査を行い、商品アイデアを考えてきてください。	4時間
第9回	<b>商品開発の提案②（企画書作成）</b> 複数のアイデアの中ならグループで商品企画書を作成し、連携先の企業へ提案します。	グループ毎にアイデアから新商品の企画書を作成してください。	4時間
第10回	<b>商品開発の提案③（企画書ブラッシュアップ）</b> 連携先の企業から選ばれた企画書について協力してブラッシュアップし、最終の企画書を再提案します。必要に応じて、テストキッチンでの試作・試食を行う。	グループ毎に選ばれた新商品の企画書をブラッシュアップしてください。	4時間
第11回	<b>生産地実習（農場実習）</b> 生産地を訪問し、圃場での農場実習および収穫作物の試食体験などを行います。また、現地の外部講師による農業経営、農業技術と水産技術（栽培技術／漁法・養殖技術）、農林水産・中小企業向け金融支援制度等に関する学外授業により理解を深めます。	各自で生産地訪問のレポートを作成してください。	4時間
第12回	<b>販促物（POP）の作成</b> 企画・開発した新商品を店頭で販売する際に必要な販促物POP（キャッチコピー、写真含む）を作成し、連携先の企業へ提案します。	グループ毎にオリジナルのPOPを作成してください。	4時間
第13回	<b>売場実習（メーカー営業）</b> メーカー営業の仕事を理解するため店舗を訪問し、業務内容の説明、バックヤードの見学、商品試食や企業人との意見交換を行い、実際に企画・開発した商品を販売します。	各自で売場実習のレポートを作成してください。	4時間
第14回	<b>成果発表の準備</b> 一連のPBL学修を通して学んだ成果を発表するため、パワーポイントと発表原稿を作成します。グループ毎に発表練習を行ってください。	グループ毎に成果発表の練習を行ってください。	4時間
第15回	<b>成果発表会</b> グループ毎に一連のPBL学修を通して学んだ成果をパワーポイントを用いて発表します。また、他のグループの発表に対して質問や意見交換を行ってください。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	期末レポートは指定された日時までに提出してください。この授業で学んだことの振り返りを行ってください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習1【国観】</b>				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習形式				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本演習では、グローバル企業を中心に現状を把握しながら、これまでの研究の流れや企業経営（経営組織、製品、流通システム、マーケティング、経営戦略等）について幅広く学んでいきます。  
 具体的には、フィールド調査や文献研究等を中心に行い、企業の実態を理論及び実践面から考察を行い理解を深めます。  
 本演習を通じて、企業経営者や経営に関わる人材に求められる総合的な課題解決力や思考力を身につけることができます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

製造業、サービス業を中心に基本的知識を自らで調べて発表し、議論する。

#### 目標：

自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

社会現象を観察して因果関係を理解し、そこにある課題を見出す。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。  
 フィールド調査参加、プレゼンテーション内容、発表のスキル、期末レポートで評価する。  
 独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業参加・発言	20%	： 積極的にフィールド調査に参加し、役割を果たしたかどうかについて、独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
プレゼンテーション	30%	： グループの研究成果の発表内容、発表のスキルなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
期末レポート	50%	： 深く内容を掘り下げているか、考察は十分かなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、講義中に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4限  
 場所： 研究室  
 備考・注意事項： 上記以外に必要な場合は申し出てください

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>イントロダクション</b> 授業の目的や目標、進め方など前期・後期授業の概要を説明し、卒業論文までのプロセス概要を解説する。また研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行います。観光関連の研究の紹介を行い、どのような課題について研究が行われているかを学ぶ。	4時間
第2回	<b>文献検索と発表の方法</b> フィールド調査の対象となる空港、各国観光局、各企業の役割や参加する意義を事前学習する	4時間
第3回	<b>フィールド調査事前講義</b>	4時間

	空港に関わる企業を考察する。関西空港の運営は民間企業にゆだねられている。なぜ、そうしているのか、メリットとデメリット等を考え空港運営のメカニズムを学習する。先行研究をもとに仮説の導出を試みる		
第4回	<b>現地フィールド調査</b> 関西国際空港において旅博に参加する。参加を通して、空港、各国観光局、旅行会社、地域の目指すものや課題を考察しながら、予め立てた仮説と照らし合わせ、どのような結果であったかを考える	フィールド調査のまとめをしておく	4時間
第5回	<b>フィールド調査振り返り</b> 調査で気づいたことをまとめるための分析方法を学ぶ、公的情報、民間データの使い方を学び、どのように分析するかを考察する。次週の発表には、何らかのデータを使い客観的な視点を取り入れる	フィールド調査のまとめの修正を行う	4時間
第6回	<b>調査結果の発表とディスカッション</b> 仮説の検証を行う。各チームが調査結果に基づいた発表を行う。その後、ディスカッションと講評を行う	コーヒーチェーンについて予め調べておく	4時間
第7回	<b>コーヒーチェーン</b> ドトールとスターバックス：セルフサービスのコーヒーチェーンの経営戦略について考察する 指定文献について各チームで次週プレゼンテーションを行う	提示された文献を読んでまとめる	4時間
第8回	<b>課題文献のまとめと発表</b> 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	提示された文献を読んでまとめる	4時間
第9回	<b>自動車業界</b> トヨタ自動車の経営について解説する 指定文献について各チームで次週プレゼンテーションを行う	提示された文献の内容をまとめる	4時間
第10回	<b>課題文献のまとめと発表</b> 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	ユニクロについて調べておくこと	4時間
第11回	<b>ユニクロ</b> ユニクロのビジネスモデルについて講義 指定文献について各チームで次週プレゼンテーションを行う	提示された文献の内容をまとめる	4時間
第12回	<b>課題文献のまとめと発表</b> 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	Amazonについて事前に調べておくこと	4時間
第13回	<b>Amazon</b> Amazon: 現在その企業価値は世界トップクラスと言われるまでに成長したAmazonの経営について解説する。 指定文献について各チームで次週プレゼンテーションを行う	指定された文献についてまとめておくこと	4時間
第14回	<b>課題文献のまとめと発表</b> 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	これまでの学習内容を復習、まとめておく	4時間
第15回	<b>前期のまとめ</b> これまでの学習内容を総括する	期末レポートを期日までにまとめておく	4時間

授業科目名	<b>専門演習2【経営】</b>				
担当教員名	児山俊行・千代原亮一・笠岡恵理子・中井秀樹・山崎哲弘				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習2では経営コースが目指す「マネジメント能力が発揮できる人材の育成」の基盤づくりに取り組みます。そのため後期は前期に引き続き、現代のビジネスとマネジメントの基礎力を育てることを目指し、特に後期は実践的基礎の修得を中心に行います。その際、企業へのヒアリングやアンケートを行うなど、授業内や課外での個人学習やグループ活動でもって経営の実践力を養います。これは3年次からの本格的演習の準備ともなります。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

経営実践について基本的知識を自らで調査・分析・考察し、発表・議論する。

#### 目標：

自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

経営事象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出す。

### 学外連携学修

有り（連携先：株式会社ココウエル）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業での活動の評価	45%	： グローバルな視点やそれに基づく思考が深まっているかどうか、授業での発表や議論、課題の提出などの成果で評価する。
グループワーク活動	20%	： 提示された課題解決へのグループ活動での自己の役割遂行や解決提案の策定などの成果で評価する。
試験（レポート）	25%	： 自らの演習を振り返りながら学びの修得度と自身のどこが成長したかについてふりかえるレポートを作成し評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献は必要に応じて紹介・指示する予定。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各教員のオフィスアワー  
場所： 担当教員の研究室

### 授業計画

回数	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、研究倫理教育</b> 現代の経営事象について、分野ごとに顕著となってきた特徴についての概要講義を行い、演習内容や進め方について全体的説明を行なう。また、研究倫理教育の実施。	各自、関心ある分野の最新ニュースを調べ整理する。	4時間
第2回	<b>調査・マーケティングリサーチとは</b> 調査の意義や調査の種類（定量調査と定性調査）、マーケティングにおける調査とその活用（事例を交えて）について学ぶ。	当日の授業内容（マーケティングリサーチ）についての復習を行う。	4時間
第3回	<b>調査の技法（定性調査編）</b>	当日の授業内容（マーケティングリサーチの定性的技法）について復習を行う。	4時間

	「調査設計～調査実施～集計分析～報告の流れ」の事例から調査設計のポイント（課題、仮説、対象者条件、質問項目など）を学び、インタビューの基本を修得する。		
第4回	<b>調査の技法（定量調査編）</b> 定量調査の基本と調査票作成のポイント（質問文、選択肢、集計計画）、そして分析の流れについて学ぶ。	当日の授業内容（マーケティングリサーチの定量的技法）について復習を行う。	4時間
第5回	<b>企業研究の開始</b> 事業分野ごとに調査対象企業を決定する。	関心ある事業分野の企業について調べ整理する。	4時間
第6回	<b>企業研究①</b> 対象企業の抱える課題を抽出し、その背景や要因を分析する。	対象企業の歴史を調べ整理する。	4時間
第7回	<b>企業研究②</b> 対象企業の課題解決策の策定計画を作成する。	対象企業の現在の経営状況を調べる。	4時間
第8回	<b>企業研究③</b> 対象企業の課題解決の方向性について議論する。	類似の課題解決事例を調べ整理する。	4時間
第9回	<b>企業研究④</b> 解決案策定のための調査項目を挙げ、調査方法を検討する。	調査項目と調査方法を整理して確定する。	4時間
第10回	<b>企業研究⑤</b> 調査結果を収集・整理し分析、発表。教員や他学生から示唆をもらう。	調査を実施する。	4時間
第11回	<b>企業研究⑥</b> 調査の中間結果を分析・考察し、最終案の方向性をいくつか決める。	調査を継続する。	4時間
第12回	<b>企業研究⑦</b> 調査の最終結果を分析、考察し、最終案の方向性と概略を定める。	解決案をブラッシュアップする。	4時間
第13回	<b>企業研究⑧</b> 調査の最終結果にもとづき、解決案策定を行う。	解決案をまとめる。	4時間
第14回	<b>発表の準備</b> 発表資料を作成する。	発表資料の完成。	4時間
第15回	<b>発表会</b> 各グループから課題解決の提案について発表を行なう。	発表方法など諸準備に取り組む。	4時間

授業科目名	<b>専門演習2【スポーツ】</b>				
担当教員名	植田真司・菅文彦・藤森梓・胡山喬・村田正夫・古川拓也・担当者未定				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	グループ学習形式で行います。15名程度のゼミに分かれ、各ゼミが担当教員のアドバイスに従い、調査・分析し、作成した企画を発表します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習2では、卒業研究を行う上で必要となる知識や能力を身につけます。スポーツマネジメントの研究対象領域や調査方法等の基本的な考え方を学んでいきます。それらの講義や活動を通して以下の4点を目指します。  
 ①スポーツマネジメントにおける研究対象領域を理解する。  
 ②研究の基本的な手法を学ぶ  
 ③エビデンスに基づいた説明や主張ができるようになる。  
 ④スポーツに関する事象に興味関心を持ち、自ら問いを立てることができるようになる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	幅広い教養やスキル	専門演習における幅広い教養やスキルを身に付ける
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	専門知識と技能	専門演習における専門知識と技能を身に付ける
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		自らの課題を発見する
2．DP5.計画・立案力		自らの課題に対して計画し立案する
3．DP6.行動・実践		専門演習などの発表する

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

ポートフォリオ（学びの記録）	40%	何を学んだかわかるものになっているか、「学びの振り返りが出来ているか」を評価の基準とする
研究計画書の評価	40%	独自のルーブリックに基づき評価する
講義に対する態度や姿勢	10%	普段の講義に対する態度やグループ学習での姿勢を評価する
期末レポート	10%	独自のルーブリックに基づき評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	教員によって異なる
場所：	各研究室
備考・注意事項：	用事がある際は、随時担当教員に事前に確認をとること

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>専門演習2の狙いと進め方について</b> 当科目の概要について説明します。	専門演習1の振り返りをしていただくこと 4時間
第2回	<b>調査・マーケティングリサーチの手法（調査の基本的な考え方）</b>	調査において、良い調査と残念な調査の違いを自分なりに調べてまとめること 4時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の意義</li> <li>・調査の種類（定量調査と定性調査）</li> <li>・良い調査と残念な調査</li> </ul>		
第3回	<b>調査・マーケティングリサーチの手法（定性調査）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査設計－調査実施－集計分析</li> <li>・調査設計のポイント</li> <li>・インタビューの基本</li> </ul>	インタビュー調査の技法について、予め自身で調べてくること	4時間
第4回	<b>調査・マーケティングリサーチの手法（定量調査）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定量調査の基本</li> <li>・調査票作成のポイント</li> <li>・分析の流れ</li> </ul>	自身で質問紙を作成し、簡単な調査を行ってみること	4時間
第5回	<b>調査・マーケティングリサーチの手法（集計と分析）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集計の種類</li> <li>・クロス集計のポイント</li> <li>・グラフの作成</li> </ul>	良いグラフ・表、悪いグラフ・表の違いについて、自分なりにまとめること	4時間
第6回	<b>研究とは何か？</b> 研究の基本的な考え方を理解するとともに、研究テーマの設定方法について学びます。	自身が関心のある出来事に対して問いを立て、簡単な研究計画を練ってみること	4時間
第7回	<b>スポーツマネジメント研究の概観（1）</b> スポーツマネジメントにおける研究領域を概観します。自身の卒業論文として興味のあるテーマを考えます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツマーケティング</li> <li>・スポーツファイナンス</li> <li>・スポーツがもたらす効果</li> </ul>	予めスポーツマネジメントに関するどのような事象に興味があるのか考えてくること	4時間
第8回	<b>スポーツマネジメント研究の概観（2）</b> スポーツマネジメントにおける研究領域を概観します。自身の卒業論文として興味のあるテーマを考えます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ政策</li> <li>・プロスポーツクラブマネジメント</li> <li>・スポーツファシリティマネジメント</li> </ul>	予めスポーツマネジメントに関するどのような事象に興味があるのか考えてくること	4時間
第9回	<b>先行研究の検討手法・文献要約の手法</b> 先行研究の検討手法と文献要約の手法について学びます。	自身が関心を持つテーマについて先行研究を調べてみましょう。	4時間
第10回	<b>研究計画：テーマの設定</b> 卒業研究のテーマを考えてみます。第6回から第9回までの内容を踏まえて、自身の関心のある事象を研究テーマとして設定してみましょう。	第6回から第9回までの内容を振り返っておくこと	4時間
第11回	<b>研究計画：ファクトの整理</b> 自身が設定した研究テーマについて、事例や既存の統計データ、先行研究をもとに現状を整理してみましょう。	自身の研究テーマに関連して現状を調べること。	4時間
第12回	<b>研究計画：研究方法の検討</b> 第2回から第5回を踏まえて、テーマに沿った研究方法を考えます。	第2回から第5回を振り返っておくこと	4時間
第13回	<b>研究計画：予想される結果と考察</b> 第12回で設定した研究方法は、研究目的を達成しうるのか、どのような結果が得られることが予想されるのか考えてみましょう。	全体発表の準備に取り掛かり始めましょう。	4時間
第14回	<b>全体発表会</b> 研究計画について発表していきます。質疑応答も研究のクオリティを高めるうえで重要です。	発表のための準備を行う。	4時間
第15回	<b>まとめ</b> 本科目のまとめを行います。	これまでの講義を振り返っておきましょう。	4時間

授業科目名	<b>専門演習2【食】</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習1で生産地から食卓までの食ビジネスの幅広いフィールドを理解した内容を踏まえ、専門演習2では、フードチェーンのうち生産地、卸売市場、物流センター、小売販売店の売場にフォーカスして販促手法を学びます。また、大阪府中央卸売市場等の連携先から与えられた現場のPBL課題に対し、関連する情報の収集・整理を行い、企画提案および売場実習を行います。また学期末には専門演習1・2を通して行った一連のPBL課題の成果を連携先の方々（大阪府中央卸売市場等）に対し成果発表を行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	大阪府中央卸売市場等の連携授業であるPBL学習に取り組みます。	グループ毎に協力し、与えられた課題に対して関連する情報を集め、問題点を把握、改善策を提案することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		与えられた課題について、真因を探ることができる。
2．DP5. 計画・立案力		仮説を検証するために必要な計画を立案することができる。
3．DP6. 行動・実践		立案した計画に従い、やるべき行動を実践することができる。
4．DP7. 完遂		困難でもあきらめずに、最後までベストを尽くすことができる。
5．DP9. 役割理解・連携行動		グループ内で自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。

### 学外連携学修

有り（連携先：大阪府中央卸売市場など）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	：グループ内で自分の役割を理解し、その役割を果たすことができたかどうか、途中であきらめずに最後までベストを尽くすことができたかどうか評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	：PBL学修に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
発表会	40%	：与えられた課題に対して、関連する情報を集め、問題点を把握し、改善策を提案することができたかどうか、グループで協力し成果をアピールできたかどうか評価します。
期末レポート	20%	：指定された日時までに提出されたレポートについて、独自の視点から課題に対する効果的な解決策を提案出来ているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

食のPOPイラスト&タイトル マール社  
 売れる！手書きPOP マール社  
 新POP入門 マール社  
 POPのパターンとレイアウト マール社  
 年中行事カットCD-ROM マール社  
 フードサービス用語辞典：現場で役立つ外食マン必携の経営用語576  
 ギョーヒープロフェッショナル 柴田書店  
 青果物購買行動の特徴と店頭マーケティング 農林統計出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

授業の内容や順番を変更する場合があります。  
 市場見学を行う 1回/15回。  
 青果売り場見学を行う 1回/15回。  
 食品工場の見学を行う 1回/15回。  
 売場実習を行う 1回/15回。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 5限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p><b>オリエンテーションおよびPBL課題確認</b></p> <p>専門演習1で行った、連携先からのPBL課題を確認します。生産地で外部講師により受けたPBL課題や、圃場見学や生産者との意見交換などを、各グループで整理した内容をお互い発表し情報を共有することで理解を深めます。</p>	<p>グループ毎にPBL課題の発表準備および練習を行うこと</p> <p>4時間</p>
第2回	<p><b>職場見学（卸売市場・物流センター・小売り販売店）</b></p> <p>卸売市場・物流センター・小売り販売店を視察し、業務内容説明、店舗見学、商品試食や企業人との意見交換を行います。</p>	<p>職場見学のレポート作成を行うこと</p> <p>4時間</p>
第3回	<p><b>売場作り提案（フィールド調査）</b></p> <p>売場作り提案を行うにあたって、業態別（百貨店、大型スーパー、道の駅、コンビニ、個人商店、生産地等）の売場づくりを調査します。</p>	<p>売場見学のpptおよび原稿作成を行うこと</p> <p>4時間</p>
第4回	<p><b>売場作り提案（POP理論）</b></p> <p>売場作り提案を行うにあたって、第4・5回を通して外部講師によるPOP技術を習得します。販売促進のための広告媒体であるPOP広告（Point of purchase advertising）の理論を学びます。</p>	<p>特別授業の内容を復習すること</p> <p>4時間</p>
第5回	<p><b>売場作り提案（POP作成）</b></p> <p>売場作り提案を行うにあたって、第4・5回をとおして外部講師によるPOP技術を習得します。販売促進のための広告媒体であるPOP広告により、人を惹きつけ人を動かす文章を書く方法を学びます。</p>	<p>特別授業のレポートを作成すること</p> <p>4時間</p>
第6回	<p><b>企画書の立案</b></p> <p>企画書の作成（イラスト含む）</p> <p>第1回で行った、連携先からのPBL課題について、各グループで整理した内容に従い、グループで企画書を作成します。企画書は連携先に提出します。</p>	<p>グループ毎に企画書を作成すること。コンセプト作りは専門演習1で学んだ考え方を復習しておくこと。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p><b>売場の作製①（POPのアイデア出し）</b></p> <p>第7・8・9回を通して、企画内容に従い、売場を実際に商品を陳列しながら作ります。商品がよく売れるようグループで工夫を凝らしたPOP作成も同時に行います。また、各グループの代表者は、売り場実習当日のシフト表の作成、現場での役割を確認します。</p>	<p>グループ毎にPOP等を作成すること</p> <p>4時間</p>
第8回	<p><b>売場の作製②（POPの作成）</b></p> <p>第7・8・9回を通して、企画内容に従い、売場を実際に商品を陳列しながら作ります。商品がよく売れるようグループで工夫を凝らしたPOP作成も同時に行います。また、各グループの代表者は、売り場実習当日のシフト表の作成、現場での役割を確認します。</p>	<p>グループ毎にPOP等を作成すること</p> <p>4時間</p>
第9回	<p><b>売場の作製③（商品の陳列）</b></p> <p>第7・8・9回を通して、企画内容に従い、売場を実際に商品を陳列しながら作ります。商品がよく売れるようグループで工夫を凝らしたPOP作成も同時に行います。また、各グループの代表者は、売り場実習当日のシフト表の作成、現場での役割を確認します。</p>	<p>グループ毎にPOP等を作成すること</p> <p>4時間</p>
第10回	<p><b>売場実習（学外）</b></p> <p>実際の売り場で、グループで作成した企画書の売場を作り（商品陳列、POPなど）商品を販売します。現場ではシフト表に従い与えられた役割を果たしながら、接客およびデータ収集を行います。また売り場でのバックヤード作業も経験します。</p>	<p>売場実習のレポート作成を行うこと</p> <p>4時間</p>
第11回	<p><b>成果発表会の準備①（役割分担・成果のリストアップ）</b></p> <p>一連の演習を通して学んだ成果を発表するため、パワーポイントと発表原稿を作成します。グループ毎に発表練習も行ってください。</p>	<p>グループ毎に発表練習を行うこと</p> <p>4時間</p>
第12回	<p><b>成果発表会の準備②（プレゼンテーション構成作り）</b></p> <p>一連の演習を通して学んだ成果を発表するため、パワーポイントと発表原稿を作成します。グループ毎に発表練習も行ってください。</p>	<p>グループ毎に発表練習を行うこと</p> <p>4時間</p>
第13回	<p><b>成果発表会の準備③（発表の練習）</b></p> <p>一連の演習を通して学んだ成果を発表するため、パワーポイントと発表原稿を作成します。発表練習を行い最終確認を行います。</p> <p>また、一連の成果内容のレポートを完成させ提出してもらいます。この1年間を通しての振り返りも行ってください。</p>	<p>専門演習2を通して得られた成果の整理を行いレポートにまとめること</p> <p>4時間</p>
第14回	<p><b>職場見学（工場）</b></p> <p>工場の仕事を理解するため企業を訪問し、業務内容説明、工場見学、商品試食や企業人との意見交換を行います。</p>	<p>見学内容のレポートを作成して下さい</p> <p>4時間</p>
第15回	<p><b>成果発表会 専門演習の課題から学んだこと</b></p> <p>連携先を招いてグループ毎に一連の演習を通して学んだ成果をパワーポイントを用いて発表します。グループの発表に対して連携先からの質問や意見に対応してください。</p> <p>授業の最後に期末レポートの課題を提示します。</p>	<p>期末レポートは指定された日時までに提出して下さい。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	<b>専門演習2【国観】</b>				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習形式				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本演習では、グローバル企業を中心に現状を把握しながら、これまでの研究の流れや企業経営（経営組織、製品、流通システム、マーケティング、経営戦略等）について幅広く学んでいきます。  
 具体的には、フィールド調査や文献研究等を中心に行い、企業の実態を理論及び実践面から考察を行い理解を深めます。  
 本演習を通じて、企業経営者や経営に関わる人材に求められる総合的な課題解決力や思考力を身につけることができます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

製造業、サービス業を中心に基本的知識を自らで調べて発表し、議論する。

#### 目標：

自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

社会現象を観察して因果関係を理解し、そこにある課題を見出す。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。  
 フィールド調査参加、プレゼンテーション内容、発表のスキル、期末レポートで評価する。  
 独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

フィールド調査参加	20%	： 積極的にプロジェクトに参加し、役割を果たしたかどうかについて、独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
プレゼンテーション	30%	： グループの研究成果の発表内容、発表のスキルなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
期末レポート	50%	： 深く内容を掘り下げているか、考察は十分かなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、講義中に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4限  
 場所： 研究室  
 備考・注意事項： 上記以外の場合、申し出てください

### 授業計画

回	内容	前期の復習をしておくこと	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>イントロダクション</b> 授業の目的や目標、進め方など後期授業の概要を説明する。卒業までのプロセスを確認しながら、前期で学んだことを振り返る。 国際経営関連の研究の紹介については、さらにグローバル企業の経営がなぜ成功しているのかを明らかにしていく	前期の復習をしておくこと	4時間
第2回	<b>調査・マーケティングリサーチとは</b> マーケティングリサーチの手法の違いと特性を講義する	学習した内容を復習のこと	4時間
第3回	<b>定性調査</b> マーケティングリサーチには大きく分けて定性調査と定量調査がある その中で定性調査についてインタビュー調査を事例としてロールプレイングを行う	学習した内容を復習のこと	4時間

第4回	<b>ANA、JAL</b> 2つの航空会社の経営を比較する。どのような違いがあるのかを議論する。 指定文献について各チームで輪読し、次週プレゼンテーションを行う	提示された文献の内容をまとめる	4時間
第5回	<b>指定文献についてのプレゼンテーション</b> 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	資生堂について調べておく	4時間
第6回	<b>資生堂</b> 資生堂の経営戦略を考える。アジアで人気の資生堂の戦略を議論し、他の化粧品メーカーとの違いも考察する。 文献を指定するのでそれらについて読んでまとめ次週発表する。	提示された文献の内容をまとめる	4時間
第7回	<b>指定文献についてのプレゼンテーション</b> 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	ソフトバンクについて調べておく	4時間
第8回	<b>フィールドワーク事前学習</b> 自治体の仕組みを解説する。その後予め設定した自治体へ企業誘致、商工振興などの取組みに関してヒアリングを計画する。どのようなことを質問すればよいかを考え準備し、アポイントをとっておく。	フィールドワークの準備をしておくこと	4時間
第9回	<b>フィールドワーク</b> 各グループに分かれて、ヒアリング調査に行く。調査内容をまとめて次週発表する。	フィールドワークの内容をまとめておく	4時間
第10回	<b>フィールドワーク事後学習</b> フィールドワークの結果を各グループで発表する。 発表後ディスカッションし、地域や企業のニュースは何か課題を検討する。 文献を指定するのでそれらについて読んでまとめ次週発表する。	提示された文献を読んでまとめる	4時間
第11回	<b>指定文献についてのプレゼンテーション</b> 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	ロイヤルホールディングスについて調べておくこと	4時間
第12回	<b>ロイヤルホールディングス</b> ロイヤルホールディングスのビジネスモデルを考察する。訪日外国人向けメニューの開発や、航空会社向けに機内食ビジネスに進出しているのはなぜか、考える 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	提示された文献の内容をまとめる	4時間
第13回	<b>指定文献についてのプレゼンテーション</b> 指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション	楽天を調べておく	4時間
第14回	<b>楽天</b> 楽天のビジネスモデルを考察する。どのような収益構造になっているかを考察する	これまでの学習内容を復習、まとめておく	4時間
第15回	<b>後期のまとめ</b> 後期の総括を行う	期末レポートを期日までにまとめておく	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【経営】</b>				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習形式でゼミナールのアウトラインは教員が提示するが、運営方針に関してはゼミ生主導による自主運営で進める。そして、少人数のグループワークによる調査、ケーススタディレビュー、ディスカッション				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本演習では、日本のサービス産業はどのような変遷を経て、どのような特徴をもち、今後どのように変化していくのかを皆さんとともに探求していく。具体的には、サービス産業に関する知識やスキルを中心にサービス理論と実践事例を学習する。専門演習3では、指定のテキストに沿って授業を進めるが、サービス事例を多く取り入れながらサービス業の理解を深めていく。各自、興味・関心ごとに個人研究を行い、最終的には報告書を仕上げることが目標とする。希望者がいれば、工場見学、企業訪問調査（国内外を含む）も行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	専門知識やスキルを中心に学習する	問題を解決する能力が身につく
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		自ら考え、行動に移す能力が養える
2．DP8. 意思疎通		グループでの自分の役割を理解し、その役割を果たす

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。  
ゼミへの参加、取り組む姿勢・貢献（報告・議論など）、与えられた課題、領域に関する基礎的な事項を理解し、整理・論述ができたかどうか、の観点より評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験（課題作成・最終レポート）	40%	試験（課題作成・最終レポート）、領域に関する基礎的な事項を理解し、整理・論述ができたかどうか、の観点より評価する。
平常点	30%	「グループワークでの貢献度」「取り組む姿勢」の観点より評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」の観点より評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近藤 隆雄	・ サービス・マーケティング	・ 生産性出版	・ 2010年

### 参考文献等

【参考書】  
講義中に適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート（手書き、A4、1枚以内）事後に提出を求める。

ポートフォリオ(15回授業) ファイルを準備すること  
毎回の授業後は、学習日誌を作成して授業中配布した資料などをまとめておく

レポート・論文を作成するにあたり、学修・研究活動にかかわる時には、研究倫理のもと、著作権（盗用、引用）と個人情報に注意すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日、2時限
場所：	研究室、西館2階

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>全体のガイダンス：授業の進め方、成績評価</b> ゼミナールの学びについて考える	配布した「自分の自己紹介」を作成する 4時間
第2回	<b>レクチャー「レポートと論文の違い」</b> ゼミメンバー紹介、「レポートと論文の違い」について学習する	各自、興味のある分野について考えておく 4時間
第3回	<b>個人研究のテーマ探し①レビュー探しをする</b> 各自興味のある分野について市場の規模、現況について調べて発表する（3分程度）	テキストの輪読&まとめ（第4章）をする 4時間

第4回	<b>個人研究のテーマ探し②仮のテーマを決める</b> 前回の発表をレベルアップさせて個人研究の仮テーマを決め、発表する（3分程度）	指定テキストの目次を読んでおく	4時間
第5回	<b>テキストのまとめ（第4章：サービス商品の特徴：モノ製品とどこが違うのか）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第4章 サービス商品の特徴：モノ製品とどこが違うのか」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究のテーマ（仮）発表①	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第5章）をする	4時間
第6回	<b>テキストのまとめ（第5章：サービスプロダクトとモノ・プロダクト）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第5章 サービスプロダクトとモノ・プロダクト」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究のテーマ（仮）発表②	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第6章）をする	4時間
第7回	<b>テキストのまとめ（第6章：サービスの達人）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第6章 サービスの達人」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「産業分析」	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第7章）をする	4時間
第8回	<b>テキストのまとめ（第7章：サービス商品の特徴—サービス・エンカウンター設計）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第7章 サービス商品の特徴—サービス・エンカウンター設計」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「現状分析」	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第8章）をする	4時間
第9回	<b>テキストのまとめ（第8章：サービスの分類と構成要素）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第8章 サービスの分類と構成要素」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「課題発見&文献調査」	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第9章）をする	4時間
第10回	<b>テキストのまとめ（第9章：サービス品質）&amp;個人研究：学外授業</b> 発表担当者は、「第9章 サービス品質」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「仮説設定」 学外授業：鶴橋商店街振興組合を訪問し、在来市場の現状と課題についてフィールドサーベイを行う。	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第10章）をする	4時間
第11回	<b>テキストのまとめ（第10章：顧客価値の実現とサービス組織）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第10章 顧客価値の実現とサービス組織」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「研究方法選定」	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第11章）をする	4時間
第12回	<b>テキストのまとめ（第11章：サービス・マーケティング・ミックス）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第11章 サービス・マーケティング・ミックス」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「研究計画書の作成」①	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第12章）をする	4時間
第13回	<b>テキストのまとめ（第12章：サービス・マネジメント・システム）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第12章 サービス・マネジメント・システム」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「研究計画書の作成」②	事前学習としてテキストの輪読&まとめ（第13章）をする	4時間
第14回	<b>テキストのまとめ（第13章：サービス・プロフィット・チェーン）&amp;個人研究</b> 発表担当者は、「第13章 サービス・プロフィット・チェーン」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「研究計画書のスケジュール作成」	事前学習として個人研究の最終発表準備をする	4時間
第15回	<b>個人研究の最終発表&amp;これまでの学びの確認と反省会</b> 前期の総括及び、これまでの個人研究の最終発表を行う	これまでの授業内容を振り返ってみる	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【経営】</b>				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	経営	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	学生主体の発表方式で授業を進めますが、専門演習3では輪読するテキストを指定します。事前にテキストを読み、まとめたものを発表してもらいます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習3では、人的資源管理論の諸管理を学ぶとともに、労政時報など人事系専門紙などから具体的な企業の人事施策例を調査し、今後企業における人材育成施策や人事評価などがどのように変化していくのか、また求められるのかを皆さんとともに探求していく。前半は指定のテキストを輪読し、グループ学習・発表を行う。後半は各自の興味・関心ごとに個人研究を行い、最終的には研究計画書のアウトラインまで作成することを目標とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	文献購読やニュースの情報理解を通して基礎知識を習得する	幅広い教養とスキルを身に付ける
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	人的資源管理の専門知識と研究課題の調査分析を行う	課題の発見力・解決力を身に付ける
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2．DP6. 行動・実践		様々な活動に積極的に参加し、自ら体験し、実践に活かせる
3．DP8. 意思疎通		自主的に発言・行動し、他社を巻き込むことができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価は行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題提出	50%	： 与えられた課題に対して、論理的に論述できているかどうかを評価する。
平常点	30%	： チームで取り組む課題については「主体的に取り組んでいるか」「他者と協調性を持って取り組んでいるか」の2点から評価する。また課題発表は報告の内容によって評価する。
期末レポート	20%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」「学びの振り返りができているか」を評価の基準とする。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高橋信夫	・ 虚妄の成果主義	・ 日経BP社	・ 2004年

### 参考文献等

適宜、指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日 2限
場所：	西館 2階研究室

### 授業計画

回	内容	自身の興味のある分野について考えておく。また与えられた自己紹介課題を作成する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスー専門演習と卒業研究に関する説明</b>  授業計画の説明と大学での研究活動に関する基本の理解。研究倫理教育の実施。	自身の興味のある分野について考えておく。また与えられた自己紹介課題を作成する。	4時間
第2回	<b>プレゼン演習とレクチャー</b>  ゼミメンバーの自己紹介、レポートと論文の違いについて学習する。	各自、興味のある分野についての発表資料をまとめる。	4時間

第3回	<b>個人研究テーマの探索</b> 各自興味があるテーマについて、現状を調査し、問題意識や明らかにしたい点を発表する（3分程度）	指定テキストの第1章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第4回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究①</b> 発表担当者は、「第1章1、2節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマ（仮）の発表	指定テキストの第1章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第5回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究②</b> 発表担当者は、「第1章3、4、5節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマ（修正版）および問題意識の発表	指定テキストの第2章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第6回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究③</b> 発表担当者は、「第2章1、2節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：課題に対する現状分析の発表	指定テキストの第2章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第7回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究④</b> 発表担当者は、「第2章3節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する文献調査の報告	指定テキストの第3章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第8回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究⑤</b> 発表担当者は、「第2章4節、第3章1節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する文献調査の報告	指定テキストの第3章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第9回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究⑥</b> 発表担当者は、「第3章2、3節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する課題について	指定テキストの第3章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第10回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究⑦</b> 発表担当者は、「第3章4、5節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する課題について	指定テキストの第4章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第11回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究⑧</b> 発表担当者は、「第4章1、2節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する研究方法の発表	指定テキストの第4章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第12回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究⑨</b> 発表担当者は、「第4章3、4節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：研究計画書の発表1	指定テキストの終章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第13回	<b>テキストまとめ&amp;個人研究⑩</b> 発表担当者は、「第4章5節、終章」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：研究計画書の発表2	個人研究の最終発表資料の作成	4時間
第14回	<b>研究計画書の作成</b> テキストの総括 個人研究：研究計画書のスケジュール作成	個人研究の最終発表準備を行う	4時間
第15回	<b>個人研究の最終発表と前期の総括</b> 前期の総括および個人研究の最終発表を行う。	前期の取り組みを振り返る	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【経営】</b>				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	授業はテキストの「輪読」を主体で進めていきます。事前にテキストを読んでまとめておいたものを発表してもらいます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習3では新製品・新サービスの開発・イノベーションについて考えていきます。例えば、テクノロジーの進展が自動的に人々の生活をよりよくするとは限りません。生活の「意味」を変革する「デザイン」の発想があつてこそ、人々と企業自らに価値創造の喜びを与えるからです。従来の狭い「デザイン」の枠を飛び越えた新たな「デザイン」、また新たなイノベーションによる「文化開発」のあり方を、テキストを読み込んでゼミナールに参加した学生間の議論を通じて探っていきたい。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

テキストの予習による基礎知識を習得した上でのゼミナール議論を通じて、一層の専門的知識の理解を深めていく。

#### 目標：

議論を通じてのイノベーションの立体的理解

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

イノベーションによる組織成果の成否の要因を分析する力の習得

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業ごとの課題の提出	70%	： 課題の提出などの成果で評価する。提示された課題解決へのグループ活動での自己の役割遂行や解決提案の策定などの成果で評価する。
試験（レポート）	20%	： 自らの演習を振り返りながら学びの修得度と自身のどこが成長したかについてふりかえるレポートを作成し評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
三宅秀道	・ 新しい市場のつくりかた	・ 東洋経済新報社	・ 2012年

### 参考文献等

参考文献は必要に応じて紹介・指示する予定。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日2限
場所：	担当教員の研究室（西館3F西側）

### 授業計画

回	内容	イノベーションの多義性について調べる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション—イノベーションとは何か</b> イノベーションの定義について学ぶ。また、研究倫理教育の実施。	イノベーションの多義性について調べる。	4時間
第2回	<b>デザインによるイノベーション</b> モノに意味を与える「デザイン」—ジョブズの発明より	ジョブズのイノベーションの歴史について調べる。	4時間
第3回	<b>デザインと意味①</b> 全ての製品が持つ意味について—メイド・イン・イタリアを考える	ユニークなイタリア製品を調べる	4時間

第4回	<b>デザインと意味②</b> デザインについての諸説の理解	ユニークな（過去の）日本製品について調べる。	4時間
第5回	<b>ラジカルなイノベーションとは</b> ユーザー中心のイノベーションと意味のイノベーションの違いについて	日本の最近の家電メーカーの新製品について調べる	4時間
第6回	<b>技術とデザインの「結婚」</b> Wiiと任天堂、スウォッチの事例研究	任天堂の製品の歴史について調べる	4時間
第7回	<b>デザインによる価値創造</b> プロダクトライフサイクルからの解放	プロダクトライフサイクルに基づく新製品の成長・成熟化について調べる	4時間
第8回	<b>中間テスト</b> 今までの「デザイン」と意味のイノベーションの確認と理解度を見る。	デザイン展示会への参加	4時間
第9回	<b>社会文化の解釈者たち</b> クリエイティブな人々との「対話」の重要性	ウォシュレットの誕生について調べる	4時間
第10回	<b>微弱な徴候をつかむ</b> 地理的近接性と「対話」	水泳帽の普及について調べる	4時間
第11回	<b>新たなビジョンの構築</b> アレッシィやアルテミデの製品についての事例研究	アレッシィ製品の特性や売れ行きを調べる。	4時間
第12回	<b>「対話」の重要性</b> 北欧のデザイナーたちから学ぶ	ユニークな北欧製品を調べる。	4時間
第13回	<b>関係資本の構築</b> クリエイティブ都市・ミラノと地方の企業家たちとの関係を考える	「クリエイティブ都市」について調べる	4時間
第14回	<b>経営者とデザイン</b> 新ビジョンを得るための経営者の役割について考える	歴代のIT起業家について調べる	4時間
第15回	<b>最終テスト</b> ラジカルな意味イノベーションとデザインとの関連について総合的理解の確認	示された試験範囲をもとに試験準備	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【経営】</b>				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	学生主体の発表形式により授業を進めます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

「グローバル化とローカライゼーション」を大きなテーマとして経営と情報に関する基礎知識を習得し、ICTを活用した企業のグローバルな活動を概念レベルで理解できるようにすることを目標とします。一方で、データ分析の基本的な手法を学習し、情報の利活用能力の向上も目指します。なお、15回の授業のうちの5回については、主体性や協調性といった社会で求められる汎用的な能力の育成を目的としたグループ学習を実施します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	自己表現力	自分の考えを明確にプレゼンテーションできる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	情報活用能力	問題解決のために適切に情報を活用できる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		自主的に発言・行動し、他者を巻き込むことができる。
2．DP7. 完遂		課題や自分に課せられたタスクを最後までやり遂げることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート	40%	： 「自分の考えを明確かつ論理的に表現できているか」、「課題テーマに対して適切な情報を収集できているか」という2つの観点から評価する。
取組む姿勢	30%	： チームで取り組む課題については「グループワークに主体的に取り組んでいるか」、「他者と協調性を持って取り組んでいるか」という2つの観点から評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目  
 場所： 西館3階45研究室  
 備考・注意事項： 連絡を取りたい場合はメールでも可（inamura@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>研究倫理について</b> 研究における著作権と個人情報保護の重要性について理解します。	研究における著作権の侵害に関する事例とその問題点について調査します。 4時間
第2回	<b>情報化の進展</b> 就労人口、GDPといった数値から情報化の意味を理解します。	社会が情報化している具体的な事例について調査します。 4時間
第3回	<b>企業経営と情報化（1）情報化のプロセス</b> 情報化は、産業の情報化、情報の産業化、企業の情報化といったプロセスを経て深化していったことを確認します。	スマートアグリなど近年の情報化の広がりについて調査します。 4時間
第4回	<b>企業経営と情報化（2）企業の知識集約化</b> 企業があらゆる情報を駆使して経営している姿を学びます。	企業のデータ活用の事例について調査します。 4時間

第5回	<b>企業のグローバル戦略</b> 企業に押し寄せるグローバル化の波がどのような課題を突きつけているか学びます。	自動車産業に起きている課題について調査します。	4時間
第6回	<b>ローカライゼーション</b> 日本企業が現地化（ローカライゼーション）という課題に直面し、どのように対応しようとしているかを学びます。	ローカライゼーションに成功している日本企業の事例について調査します。	4時間
第7回	<b>グローバルイゼーション</b> 日本企業が海外の子会社をどのようにコントロールして世界戦略を展開しているかを学びます。	トヨタの世界戦略について調査します。	4時間
第8回	<b>グループ学習（1）ブレインストーミングとKJ法</b> 課題テーマに対して、できるだけ多くの意見を出し合います。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第9回	<b>グループ学習（2）問題の発見</b> 出された意見の中から、課題テーマに対して重要と思われる問題を抽出します。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第10回	<b>グループ学習（3）提案書の作成</b> 問題に対してそれを解決すると思われる提案をまとめます。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第11回	<b>グループ学習（4）プレゼン準備</b> 発表資料をパワーポイントで作成します。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第12回	<b>グループ学習（5）提案のプレゼンテーション</b> 各グループの提案をプレゼンし、意見交換します。	次週までにふり返しシートを完成させます。	4時間
第13回	<b>データ分析実習①（表とグラフの作成）</b> データ分析の基本となる表計算とグラフの作成を確認します。	表とグラフの作成に関する課題を完成させます。	4時間
第14回	<b>データ分析実習②（相関分析）</b> データ分析の基本となる相関分析を学ぶとともに相関の意味を確認します。	相関分析に関する課題を完成させます。	4時間
第15回	<b>データ分析実習③（時系列分析）</b> 周期的な売上傾向を見るための時系列分析の方法を学びます。	時系列分析に関する課題を完成させます。	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	水野利昭				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ミズノ株式会社でスポーツビジネスの実務経験あり。（全15回）				

### 授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていく。また、課題を主体的に探究するうえで、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深める。水野ゼミでは、毎週ニュースから個人研究につながるトピックをレポートにまとめて発表・質疑応答することで、スポーツビジネスのさまざまな分野や基礎知識を習得し、自らの研究課題の発見を行う。個人のテーマを探しながら、最終的には4年生に向けて卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	文献購読やニュースの情報理解などを通して基礎知識を習得します	幅広い教養やスキルを身に付ける
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツマネジメントの専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2．DP5. 計画・立案力		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3．DP6. 行動・実践		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
成績評価はゼミ参加の積極性と研究内容の両面から評価する。  
期末には課題のレポートの提出がある。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

毎週の提出課題の評価	40%	： 専門性として課題内容の妥当性。テーマはゼミの専門分野と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照。主張や提案の根拠が正しいか。
研究取り組み・発表の評価	20%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメント
期末レポートの評価	20%	： 半期で学んだことから、各人毎に定めたテーマで期末レポートを作成して提出する
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

読書課題は授業内で指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜2限
場所：	研究室（西館3階）
備考・注意事項：	それ以外の時間でも研究室在室時であれば気軽に訪問してください。 Eメールでの問い合わせにも応じます。（氏名、学籍番号を明記のこと）

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスおよび研究倫理に関する講義</b> 専門演習3の計画と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。 また、卒業研究に向けての研究倫理教育を実施する。	4時間
第2回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b>	4時間

	スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。		
第3回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b> スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	今週のニュースから各人テーマに基づきレポートを作成する。	4時間
第4回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b> スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	今週のニュースから各人テーマに基づきレポートを作成する。	4時間
第5回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b> スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	今週のニュースから各人テーマに基づきレポートを作成する。	4時間
第6回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b> スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週ニュースからトピックを取り上げ発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集めておく。	4時間
第7回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b> スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週ニュースからトピックを取り上げ発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集めておく。	4時間
第8回	<b>各自の研究テーマの発表会</b> 3年時の研究テーマの選択をして、各自発表と質疑応答を実施	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第9回	<b>各自の研究テーマの発表会</b> 3年時の研究テーマの選択をして、各自発表と質疑応答を実施	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第10回	<b>各自の研究テーマの進捗報告①</b> 自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表し、ゼミ内で討議を行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第11回	<b>各自の研究テーマの進捗報告②</b> 自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表し、ゼミ内で討議を行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第12回	<b>各自の研究テーマの進捗報告③</b> 自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表し、ゼミ内で討議を行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第13回	<b>前期期末発表準備・ゼミ内発表質疑応答</b> 期末発表の準備として、ゼミ内発表と質疑を行い、本発表に備える。	指摘事項に関して、期末発表までに修正をすること。	4時間
第14回	<b>前期期末発表会 前半</b> 前期期末発表を行う。	前期期末発表の準備・実施を行う。	4時間
第15回	<b>前期期末発表会 後半</b> 前期期末発表を行う。	前期期末発表の準備・実施を行う。	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	植田真司				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	商品開発、新規事業企画、ブランド戦略展開（全15回）				

### 授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究するうえで、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めていきます。植田研究室では、スポーツ用品・用具を中心にマーケティングと商品企画について学びます。前半は、文献購読や事例調査などで商品企画の基本を学びます。後半は商品コンセプト、ターゲット、ポジショニングなど商品企画における課題を見つけ探求していきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	商品企画の文献購読などを通して基礎知識を習得する	幅広い教養やスキルを身に付ける
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	商品企画の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2．DP5. 計画・立案力		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3．DP6. 行動・実践		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験（論文・企画書）	30%	： 専門性としてテーマの妥当性 研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、 内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、 データと先行研究の参照など
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢 意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメントなど
研究発表の評価	10%	： 専門性として 内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照など 実践力として 論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間、質疑応答など
学びの記録	30%	： 何を学んだかわかるものになっている。学びのふりかえりができている。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 5限 16:20～17:50  
場所： 研究室 西館3F  
備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ。

### 授業計画

第1回

ガイダンスおよび研究倫理に関する講義

専門演習3の研究計画を作成

授業外学修課題にか  
かかる目安の時間

4時間

	専門演習3の計画と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。		
第2回	<b>商品企画の基礎知識の習得 アイデアを出す。</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献・企画書の購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第3回	<b>商品企画の基礎知識の習得 アイデアを広げる。</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献・企画書の購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第4回	<b>商品企画の基礎知識の習得 アイデアを比較する。</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献・企画書の購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第5回	<b>学外での市場調査 アイデアにつなげる。</b> 学外で現場を見ることで新たな気づきを得る。	商品企画学のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第6回	<b>商品企画の基礎知識の習得 アイデアを絞る。</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献・企画書の購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第7回	<b>4回生の卒論中間発表会の見学</b> 4回生の卒業論文中間発表を見学をする。	中間発表を通じて自らの研究計画の見直しを行う。	4時間
第8回	<b>商品企画の基礎知識の習得 研究計画の発表前半</b> 商品企画の基礎知識の習得 アイデアを研究計画に落とし込み、各自発表	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第9回	<b>商品企画の基礎知識の習得 研究計画の発表後半</b> 商品企画の基礎知識の習得 アイデアを研究計画に落とし込み、各自発表	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第10回	<b>商品企画の基礎知識の習得 現状把握</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献・企画書の購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第11回	<b>商品企画の基礎知識の習得 原因追求</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献・企画書の購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第12回	<b>商品企画の基礎知識の習得 対策検討</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献・企画書の購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	4時間
第13回	<b>前期期末発表準備</b> 期末発表のために、資料・発表方法を検討する。	期末発表のために、資料・発表方法を検討する。	4時間
第14回	<b>前期期末発表会 前半</b> 前期期末発表を行う。	前期期末発表の準備を行う。	4時間
第15回	<b>前期期末発表会 後半</b> 前期期末発表を行う。	前期期末発表の準備を行う。	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた。(全15回)				

### 授業概要

米メジャーリーグの経営を深掘りするとともに、他球団や他リーグまたは他のプロスポーツ競技との比較を通し、プロスポーツビジネスの仕組みと基礎になる考え方を徹底的に学びます。2人1組となり、毎回の授業で取り上げるトピックについて発表してもらいます。また、毎週のニュースの中から興味を持ったトピックや個人研究につながりそうなトピックをレポートにまとめ、順次発表してもらいます。4年生時の卒業研究に向けた準備ともなります。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

プロスポーツビジネスに関する文献購読などを通して基礎知識を習得します  
プロスポーツビジネスの専門的知識を習得するとともに、研究課題の調査・分析を行います

#### 目標：

確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身に付ける  
専門的知識と職業理解を身につけている

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP8. 意思疎通

論理的に考え、自らの研究課題を発見する力を身に付ける

豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組み、研究課題の計画を立案する力を身に付ける

他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

研究発表の評価	10%	： 専門性としてテーマや内容の妥当性、オリジナリティ、データ・先行研究の参照▼実践力として論理的構成、資料の活用、プレゼン技術、発表時間、質疑応答の内容▼忠恕として適切なコメント内容を評価する
研究過程の評価	30%	： 取り組み姿勢として、意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究）、忠恕の心を持ったコメントなどを評価する
試験（論文企画書）	10%	： 専門性としてテーマの妥当性、研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合しているか、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容か、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠などを評価
授業テーマに関するゼミ内発表	50%	： 授業テーマに関するゼミ内発表において、内容の妥当性、論理的構成、発表技術、発表時間、質疑応答の様子などを評価する

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡田功	メジャーリーグ なぜ「儲かる」	集英社新書	2010年

### 参考文献等

必要に応じ、授業内で指示します

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 研究室  
備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ

授業計画		授業外学習課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスおよび研究倫理教育</b> 専門演習3の進め方と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。また、レポートや論文を作成するにあたって必要な研究倫理教育も行う	専門演習3の進め方と諸注意をよく聞く。研究倫理について理解を深める 4時間
第2回	<b>チケット販売①：シーズンチケット、グループチケット、シングルチケット、変動価格制</b> 教科書で取り上げた米メジャーリーグのチケット販売戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のチケット販売戦略とを比較・分析し、発表する	チケット販売に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する 4時間
第3回	<b>チケット販売②：再販制度、スイートルーム</b> 教科書で取り上げた米メジャーリーグのチケット販売戦略（再販制度とスイートルーム）と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の同戦略とを比較・分析し、発表する	チケットの再販制度やスイートルーム販売に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する 4時間
第4回	<b>スポンサーシップ</b> 教科書で取り上げた米メジャーリーグのスポンサーシップ戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のスポンサーシップ戦略とを比較・分析し、発表する	スポンサーシップに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する 4時間
第5回	<b>命名権</b> 教科書で取り上げた米メジャーリーグの命名権販売と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の命名権販売とを比較・分析し、発表する	命名権ビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する 4時間
第6回	<b>飲食物販売</b> 教科書で取り上げた米メジャーリーグの球場内における飲食物販売と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の飲食物販売とを比較・分析し、発表する	スタジアム内での飲食物販売に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する 4時間
第7回	<b>グッズ販売</b> 教科書で取り上げた米メジャーリーグのロゴ入りグッズの販売戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のグッズ販売戦略とを比較・分析し、発表する	グッズ販売に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する 4時間
第8回	<b>放映権</b> 教科書で取り上げた米メジャーリーグの放映権販売と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の放映権販売とを比較・分析し、発表する	放映権に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する 4時間
第9回	<b>選手年俵とフリーエージェント制度</b> 教科書で取り上げた米メジャーリーグの選手年俵とフリーエージェント制度と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技における同様の制度・選手年俵とを比較・分析し、発表する	選手年俵とフリーエージェント制度に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する 4時間
第10回	<b>球宴（オールスターゲーム）と交流戦の経済学</b> 米メジャーリーグにおける球宴や交流戦開催の狙いや仕組みと、自身が調べた他リーグ、他のプロスポーツ競技における同様の試合とを比較・分析し、発表する	米メジャーリーグにおける球宴や交流戦と、他リーグの同様のイベントについて調べる 4時間
第11回	<b>各自の研究テーマの進捗報告①</b> 期末に各自が発表する研究テーマについて議論し、テーマを固める	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める 4時間
第12回	<b>各自の研究テーマの進捗報告②</b> 期末に各自が発表する研究テーマについて議論し、テーマを固める	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める 4時間
第13回	<b>前期期末発表準備・ゼミ内発表と質疑応答</b> 期末発表の準備として、ゼミ内発表と質疑を行い、本発表に備える	期末発表のために、資料・発表方法を検討し、指摘事項については期末発表までに修正をする 4時間
第14回	<b>前期期末発表 前半</b> 前期期末発表を行う	前期期末発表の準備を行う 4時間
第15回	<b>前期期末発表 後半</b> 前期期末発表を行う	前期期末発表の準備を行う 4時間

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	3	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する研究を主体的に進めていきます。主なテーマは、スポーツ政策、スポーツを通じた地域活性化、地域スポーツクラブ経営です。先行研究についての精読・発表を通して自らの問題意識を深め、その問題意識に基づくディスカッションを通じて、自身の研究のリサーチ・クエスション（RQ）を発見します。また、フィールドワーク実践も重視します。4年時の卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル
- 2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

スホ？ーツ政策やスポーツを通じた地域活性化などの文献購読など？を通して基礎知識を習得します  
スホ？ーツ政策やスポーツを通じた地域活性化の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 目標：

幅広い教養やスキルを身に付ける  
専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP6. 行動・実践

自らの研究の課題を発見する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案し、発表会など？て？実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験：論文・企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性(グループ研究のみ)、忠恕の心を持ったコメント
試験：研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振り返りが出来ているか」を評価の基準とする

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業の中で適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限  
場所： 担当教員の研究室  
備考・注意事項： 質問などいつでも歓迎します。

### 授業計画

第1回	ガイダンスおよび研究倫理に関する講義	研究倫理に関する予習復習	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--------------------	--------------	-------------------------

	ゼミの目的や進め方について確認します。あわせて研究倫理教育を実施します。		
第2回	<b>各自の問題意識を深掘りするディスカッション</b> 各自の問題意識をテーマに全体でディスカッションを行い、本質的な問いを見つけ出すを試みます。	自身の関心テーマ領域に関する時事的な話題・動向を調べる。	4時間
第3回	<b>各自の問題意識を深掘りするディスカッション</b> 各自の問題意識をテーマに全体でディスカッションを行い、本質的な問いを見つけ出すを試みます。	自身の関心テーマ領域に関する時事的な話題・動向を調べる。	4時間
第4回	<b>各自の問題意識を深掘りするディスカッション</b> 各自の問題意識をテーマに全体でディスカッションを行い、本質的な問いを見つけ出すを試みます。	自身の関心テーマ領域に関する時事的な話題・動向を調べる。	4時間
第5回	<b>関心分野の情報収集 【資料・データ編】</b> 研究に関連する資料やデータの収集・整理の方法を習得します。	関心分野・領域に関わる資料・データを収集する。	4時間
第6回	<b>関心分野の情報収集 【文献・先行研究編】</b> 研究に有用な文献や先行研究の収集・整理の方法を習得します。	関心分野・領域に関わる文献・先行研究を収集する。	4時間
第7回	<b>前期中間発表 前半</b> 前期中間発表を行います。	前期中間発表の発表準備・聴講	4時間
第8回	<b>前期中間発表 後半</b> 前期中間発表を行います。	前期中間発表の発表準備・聴講	4時間
第9回	<b>研究プロセスを学ぶ 【リサーチクエスション (RQ)】</b> RQとは何かを知り、RQを立てる道筋を学びます。	関心分野・領域における素朴な疑問や問いを明らかにする。	4時間
第10回	<b>研究プロセスを学ぶ 【仮説の構築】</b> 研究における仮説構築の重要性を知り、仮説を立てる道筋を学びます。	関心分野・領域における素朴な疑問や問いに対する簡易な仮説を作ってみる。	4時間
第11回	<b>研究プロセスを学ぶ 【調査】</b> 調査方法の選定について学びます。	作成してみた簡易な仮説を検証するために妥当な調査方法は何かを考えてみる。	4時間
第12回	<b>研究プロセスを学ぶ 【検証】</b> 調査結果に基づく仮説の検証について学びます。	仮説の検証方法を考えてみる。	4時間
第13回	<b>研究プロセスを学ぶ 【考察】</b> 研究における考察の位置づけを知り、考察をまとめる方法を学びます。	考察の書き方について参考文献・先行研究を通読する。	4時間
第14回	<b>前期期末発表 前半</b> 前期期末発表を行います。	前期期末発表 関心ある発表の確認・聴講	4時間
第15回	<b>前期期末発表 後半</b> 前期期末発表を行います。	前期期末発表 関心ある発表の確認・聴講	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習では、2年間を通して卒業論文を作成します。なお、本格的に卒業研究をスタートさせるのは4年生になってからですが、3年生の専門演習ではその準備を行います。専門演習3では、卒業研究を行う上で必要なリサーチスキルおよび研究のバックグラウンドとなる専門知識の習得を目指すと同時に、実践的な課題探求・解決能力のトレーニングも行います。具体的な専門演習のテーマについては、受講生の意向を尊重しつつ、担当者と相談の上で決定します。なお、担当者の専門領域は、「経済一般・グローバルビジネス・国際問題」となります。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	自身の研究分野に関連した幅広い教養と知識の習得	卒業研究のバックグラウンドの知識として役立てる
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	研究を遂行する技術・能力の習得	卒業研究の自分自身で進めることができる
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究の課題発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

レポート（研究プロポーサル）の評価	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする
研究発表の評価	20%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

研究分野に関連する文献を多数、紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 随時、研究や学生生活を含め、幅広く相談に乗ります。オフィスアワー以外にも気軽に研究室にお越しください。

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：専門演習3の意義について</b> 卒業研究とはどのようなものか、その概要について説明します。また、卒業研究を進める上での研究倫理について、大学の定めるガイドラインに従って解説します。	卒業研究のイメージをつかむ 4時間
第2回	<b>研究テーマを探求する①～研究とは何かを考える～</b> 自分自身の興味や関心を整理し、どのような研究ができそうなのかを検証します。	資料・文献の検索 4時間
第3回	<b>研究テーマを探求する②～研究分野を知る～</b> 自分自身が興味・関心のある研究領域について、現状を認識し、どのようなテーマが設定可能なのかを考えます。	資料・文献の検索 4時間

第4回	<b>研究テーマを探求する③～資料・文献検索～</b> 自分自身が興味ある研究分野について、関連の資料や文献を検索します。	資料・文献の検索	4時間
第5回	<b>研究テーマを探求する④～問題意識の共有～</b> 各自の研究分野に関する問題意識をディスカッションや意見交換を通して共有します。	資料・文献の検索	4時間
第6回	<b>研究テーマを探求する⑤～問題意識の醸成～</b> これまで収集した文献・資料をまとめ、自分自身の研究テーマについて深く探求します。	資料・文献の検索	4時間
第7回	<b>卒論中間発表会の見学</b> 4回生の卒論発表会を見学し、卒業研究に対するイメージをつかみます。	4回生の研究内容を評価する	4時間
第8回	<b>卒論中間発表会の振り返り</b> 4回生の卒論発表会の内容についてゼミ内で議論します。	4回生の研究内容を評価する	4時間
第9回	<b>先行研究のサーベイ①～研究論文の検索～</b> 学術論文の検索方法を学びます。	学術論文の検索する	4時間
第10回	<b>先行研究のサーベイ②～学術論文の読み方～</b> 学術論文の読み方・まとめ方を学びます。	学術論文を読み、内容をまとめる	4時間
第11回	<b>先行研究のサーベイ③～学術論文を読む～</b> 実際に自分自身の研究テーマに関する1本の学術論文を読み、その内容をまとめ、発表します。	学術論文の内容を発表できるようにする	4時間
第12回	<b>期末発表会の準備①～発表資料の作成～</b> 期末発表のために、資料・発表方法を検討します。	期末発表の準備・研究計画書の作成	4時間
第13回	<b>期末発表会の準備②～ゼミ内発表会～</b> ゼミ内で研究計画を発表し、その内容について議論します。	議論の内容を踏まえて、研究計画書を改訂する	4時間
第14回	<b>期末発表会（前半）</b> 期末発表を行い、自らの研究計画の方向性・問題点について検証します。	期末発表を振り返り、自身の研究計画を再検討する	4時間
第15回	<b>期末発表会（後半）</b> 期末発表を行い、自らの研究計画の方向性・問題点について検証します。	期末発表を振り返り、自身の研究計画を再検討する	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツマネジメントに係る組織、資金、運営方法等について業務として取り組んできた。(全15回)				

### 授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究するうえで、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めていきます。田村研究室では、毎週ニュースから個人研究につながるトピックをレポートにまとめて発表・質疑応答することで、スポーツビジネスのさまざまな分野や基礎知識を習得し、自らの研究課題を発見します。個人のテーマを探しながら、最終的には4年生に向けて卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	スポーツマネジメントの文献購読などを通して基礎知識を習得する	幅広い教養やスキルを身に付ける
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツマネジメントの専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2．DP5. 計画・立案力		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3．DP6. 行動・実践		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性 研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠
研究過程の評価	20%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力としては論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振り返りが出来ているか」を評価の基準とする
期末レポート	20%	： 授業終了後のレポート

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限目

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回	ガイダンスおよび研究倫理に関する講義	自分の研究したい事柄について事前調査する	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--------------------	----------------------	-------------------------

	専門演習3の計画と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。 また、研究倫理教育を実施する。		
第2回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b>  スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週ニュースからトピックを取り上げ発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集めておく。	4時間
第3回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b>  スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週ニュースからトピックを取り上げ発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集めておく。	4時間
第4回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b>  スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週ニュースからトピックを取り上げ発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集めておく。	4時間
第5回	<b>各自の研究テーマの発表会</b>  3年時の研究テーマの選択をして、各自発表と質疑応答を実施する。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第6回	<b>4年生の中間発表会見学</b> 4年生の卒業研究発表会の見学を行う。	卒業発表から自己のテーマを見直す	4時間
第7回	<b>前期中間発表会準備</b> 前期中間発表準備を行う。	前期中間発表の準備・実施を行う	4時間
第8回	<b>前期中間発表会</b> 前期中間発表を行う。	前期中間発表の準備・実施を行う	4時間
第9回	<b>中間発表振り返り</b>  中間発表を通じて自らの強み・弱みを探究する。ゼミ員全体で、それぞれのテーマに関する質疑応答を行う。	中間発表を通じて自らの強み・弱みを探究する。	4時間
第10回	<b>各自の研究テーマの進捗報告①</b>  自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第11回	<b>各自の研究テーマの進捗報告②</b>  自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第12回	<b>各自の研究テーマの進捗報告③</b>  自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第13回	<b>前期末発表準備・ゼミ内発表質疑応答</b>  期末発表の準備として、ゼミ内発表と質疑を行い、本発表に備える。	指摘事項に関して、期末発表までに修正をすること。	4時間
第14回	<b>前期末発表会 前半</b> 前期末発表を行う。	前期末発表の準備・実施を行う。	4時間
第15回	<b>前期末発表会 後半</b> 前期末発表を行う。	前期末発表の準備・実施を行う。	4時間

④

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、前半では研究手法や論文作成技法について、後半ではスポーツ政策に関連する研究の概観をしつつ自身の研究計画を立案していきます。あつかう研究のキーワードは「スポーツ政策」「スポーツ実施率向上政策」「競技力向上政策」「スタジアム・アリーナ政策」「学校運動部活動政策」「総合型地域スポーツクラブ政策」などです。専門演習3ではこれらのキーワードをベースに資料を集めていきながら、自身で執筆する卒論のテーマを確定することを目指します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	研究関連の文献購読などを通して基礎知識を習得します	幅広い教養やスキルを身に付ける
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	研究関連の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2．DP5. 計画・立案力		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3．DP6. 行動・実践		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性、研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照主張や提案の根拠
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照実践力としては論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間協調性、質疑応答忠恕として不適切な内容
ポートフォリオ（学びの記録）	15%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振り返りが出来ているか」を評価の基準とする
期末レポート	15%	： 独自のルーブリックに基づき評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日1・2限（9：00～12：00）

場所： 研究室 図書館棟3階

備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ。

### 授業計画

授業外学修課題にかかると自らの時間

第1回	<b>ガイドンスおよび研究倫理に関する講義</b> 専門演習3の計画と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。	研究倫理の振り返り	4時間
第2回	<b>論文を執筆する前に</b> ・研究とは何か？ ・卒業論文に取り組む姿勢として心がけておくこと ・批判的に読む・考える ・問いを立てる	改めて、自身が関心を持つ研究領域ならびに事象について、実態の把握に努めること	4時間
第3回	<b>タイトル・緒言</b> ・タイトル設定の考え方 ・問題の所在 ・解決すべき課題	自身が興味を持つ事象について、簡易的な緒言構成を考えてみる	4時間
第4回	<b>先行研究の検討方法</b> ・文献検索の手法 ・仮説の設定 ・先行研究のまとめ方	自身が興味を持つ事象について、先行研究を検索しまとめること	4時間
第5回	<b>研究の手法</b> ・定量調査、定性調査 ・対象者 ・調査時の心得	自身が興味を持つ事象について、研究方法の作成してみる	4時間
第6回	<b>結果と図表</b>  ・結果には何を書くか ・図と表の読み取り方	自身が興味を持つ事象について、予想される結果を作成すること。また、どのような図と表で表現することが相応しいか考えてみる。	4時間
第7回	<b>考察</b>  ・研究において、何を考察することが考察なのか ・考察の方法	自身が興味を持つ事象について、予想される結果を踏まえて、何を考察すべきか考えまとめる	4時間
第8回	<b>文献の引用</b> ・引用するとは ・引用の方法	先行研究を用いて、自身の考えを主張する課題に取り組むこと。	4時間
第9回	<b>スポーツ政策研究の概観－研究の範囲から国策を対象とした研究について</b> ・スポーツ政策研究の範囲 ・スポーツ実施に関する研究 ・競技力向上政策に関する研究 ・スポーツキャリアに関する研究	自身が興味を持つ事象について、先行研究を探しておく	4時間
第10回	<b>スポーツ政策研究の概観－非営利セクターに着目した研究－</b> ・学校運動部活動政策の研究 ・競技団体に関する研究	自身が興味を持つ事象について、先行研究を探しておく	4時間
第11回	<b>研究計画プレゼンテーションに向けて－研究テーマの設定－</b> 自身の研究計画についてプレゼンテーションを行います。これまで学んだ視点から、研究計画を立案してみましょう。	研究テーマに関して実態を調べてくる	4時間
第12回	<b>研究計画プレゼンテーション－研究計画の立案－</b> 自身の研究計画についてプレゼンテーションを行います。これまで学んだ視点から、研究計画を立案してみましょう。	研究テーマに関して計画を立案してくる	4時間
第13回	<b>研究計画プレゼンテーション－プレゼンテーション－</b> 自身の研究計画についてプレゼンテーションを行います。誰もがわかりやすいように、発表の工夫を心がけましょう。	研究テーマに関して発表資料を作成すること	4時間
第14回	<b>前期期末発表 前半</b> 前期期末発表を行います。	前期期末発表の準備を行います。	4時間
第15回	<b>前期期末発表 後半</b> 前期期末発表を行います。	前期期末発表の準備を行います。	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	大崎哲也				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞社に勤務し、記者として国内のスポーツマネジメントの現場を取材（全15回）				

### 授業概要

自らの卒業研究・論文へつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていく。また、課題を主体的に探究する上で、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深める。このゼミでは毎週さまざまなニュースから個人の研究につながるトピックをレポートにまとめて発表・質疑応答を重ねることで自らが取り組む研究課題の発見につなげる。最終的には4年生に向けて卒業研究の論文作成と研究発表への準備を始める場とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	ニュースの理解や分析、スポーツマネジメントに関する文献購読などを通じて、基礎知識を習得する	幅広い教養やスキルを身に付ける
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	スポーツマネジメントの専門的知識、研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題について調査、分析を行う
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		自らの研究課題を発見する力を身に付ける
2．DP5.計画・立案力		研究課題の計画を立案する力を身に付ける
3．DP6.行動・実践		研究課題について計画を立案した上で、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文や企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性、論点の明確さ、データや先行研究を参照した上で主張や提案の妥当性
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢、自発的行動、協調性、コミュニケーション
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性、オリジナリティ、データ・先行研究を踏まえた内容。論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間、協調性、質疑応答
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」「学びの振り返りができているか」を評価の基準とする

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限  
場所： 研究室  
備考・注意事項： 研究室在室中であれば、これ以外の時間でも構いません。

### 授業計画

第1 1 回目 **オリエンテーション、研究倫理教育**

専門演習3の進め方と諸注意をよく聞く。研究倫理について理解を深める。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	専門演習3の進め方と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。レポートや論文を作成するにあたって必要な研究倫理教育も行う。		
第2 2 回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b>  スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週自分が見聞きしたニュースからトピックを選び出し発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集め、自分の考えをまとめておく。	4時間
第3 3 回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b>  スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週自分が見聞きしたニュースからトピックを選び出し発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集め、自分の考えをまとめておく。	4時間
第4 4 回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b>  スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週自分が見聞きしたニュースからトピックを選び出し発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集め、自分の考えをまとめておく。	4時間
第5 5 回	<b>ニュースからのレポート発表・議論</b>  スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を行う。	毎週自分が見聞きしたニュースからトピックを選び出し発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集め、自分の考えをまとめておく。	4時間
第6 6 回	<b>4年生の中間発表会見学 前半</b> 4年生の卒業研究発表会の見学を行う。	卒業発表から自己のテーマを見直す。	4時間
第7 7 回	<b>4年生の中間発表会見学 後半</b> 4年生の卒業研究発表会の見学を行う。	卒業発表から自己のテーマを見直す。	4時間
第8 8 回	<b>各自の研究テーマの中間発表</b> 各自が選択した研究テーマについて発表。ゼミ全体でそのテーマについて質疑応答、ディスカッションを行う。	議論を通してテーマの妥当性や課題を考察し、さらに深める。	4時間
第9 9 回	<b>各自の研究テーマの進捗状況報告</b> 自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表し、ゼミで批評と議論を行う。	議論を通してテーマの妥当性や課題を考察し、さらに深める。	4時間
第10 10 回	<b>各自の研究テーマの進捗状況報告</b> 自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表し、ゼミで批評と議論を行う。	議論を通してテーマの妥当性や課題を考察し、さらに深める。	4時間
第11 11 回	<b>各自の研究テーマの進捗状況報告</b> 自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表し、ゼミで批評と議論を行う。	議論を通してテーマの妥当性や課題を考察し、さらに深める。	4時間
第12 12 回	<b>各自の研究テーマの進捗状況報告</b> 自己のテーマの進捗と先行研究の報告を順番に発表し、ゼミで批評と議論を行う。	議論を通してテーマの妥当性や課題を考察し、さらに深める。	4時間
第13 13 回	<b>前期末発表準備・ゼミ内発表と質疑応答</b> 期末発表の準備としてゼミ内発表を質疑を行い、本発表に備える。	指摘事項に関して、期末発表までに修正すること。	4時間
第14 14 回	<b>前期末発表 前半</b> 前期末発表を行う。	前期末発表の準備を行い実施する。	4時間
第15 15 回	<b>前期末発表 後半</b> 前期末発表を行う。	前期末発表の準備を行い実施する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【スポーツ】</b>				
担当教員名	坂中勇亮				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・スポーツ協会に勤務し、スポーツ行政に従事（全15回）				

### 授業概要

自身の卒業研究につながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究する中で、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めます。特に、担当教員の専門領域であるスポーツ行政を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、4年生で作成する卒業論文に向けての準備を進めると共に、ゼミ内での議論や中間発表会を通じて研究内容の充実を図っていきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

各自の研究に関連する資料や先行研究の購読を通じて、研究の基礎となる知識を習得する  
各自の研究報告を通じて、研究を進める能力やプレゼンする能力を習得する。

#### 目標：

各自の研究に関連する幅広い知識と教養を身に付ける  
研究を遂行する能力や発表する能力を身に付ける

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践

研究課題の発見  
研究課題の計画の立案を行う  
発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
試験（研究発表の評価）	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 忠恕として不適切な内容
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、授業内で指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 13:00-15:00

場所： 研究室

備考・注意事項： 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### 授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題にか  
かる目安の時間

第1回	<b>専門演習3のガイダンス及び研究倫理に関する講義</b> 専門演習3の授業計画と研究倫理について説明する	専門演習3の進め方と諸注意をよく聞く。研究倫理についての理解を深める。	4時間
第2回	<b>研究テーマを検討する</b> 自身が興味・関心のあるテーマについて検討してレポートを提出する	研究に関連する資料・文献の収集	4時間
第3回	<b>研究テーマを検討する</b> 自身が興味・関心のあるテーマについてゼミ内で情報共有を行う	研究に関連する資料・文献の収集	4時間
第4回	<b>先行研究の検討</b> 研究テーマに関連する先行研究の検索方法について学ぶ	研究に関連する先行研究を最低5本は収集する	4時間
第5回	<b>先行研究の検討</b> 研究テーマに関連する先行研究の内容をまとめる	研究に関連する先行研究の内容をまとめる	4時間
第6回	<b>先行研究の報告</b> 前回の授業でまとめた先行研究についてゼミ内で報告する	ゼミ内での報告内容を振り返る	4時間
第7回	<b>卒業研究中間発表会の見学</b> 4年生の卒業研究中間発表会を見学して、今後の研究について考える。	4年生の卒業研究の内容を振り返る	4時間
第8回	<b>4年生の卒業研究中間発表会の評価</b> ゼミ内での議論を通して、4年生の卒業研究について評価を行う。	4年生の卒業研究の内容を振り返る	4時間
第9回	<b>研究の進捗状況の報告①</b> 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第10回	<b>研究の進捗状況の報告②</b> 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第11回	<b>研究の進捗状況の報告③</b> 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第12回	<b>前期期末発表会の準備（発表用資料の作成）</b> 期末発表会の準備として、発表時に使用する資料を作成する	発表用資料の作成	4時間
第13回	<b>前期期末発表会の準備（ゼミ内での発表会）</b> 期末発表会の準備として、ゼミ内で各自が発表を行い、質疑応答への対応を検討する。	ゼミ内発表会で指摘された点について修正を行い発表会の準備を進める	4時間
第14回	<b>前期期末発表会 前半</b> 前期期末発表会を行い、今後の研究計画について検討する。	前期期末発表の準備を行う	4時間
第15回	<b>前期期末発表会 後半</b> 前期期末発表会を行い、今後の研究計画について検討する。	前期期末発表の準備を行う	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【食】</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習（フィールドワークを含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当。（全15回）				

### 授業概要

この授業では、興味をもった分野の先行研究を調査し、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、多くの選択肢の中から最適な検証手段を選択し、調査研究の過程を通して、その解決策を提案します。研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを修得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。食ビジネスの新たな価値創造と更なる変革を目指し、食の安全マネジメント、食と健康、食の持続可能性を中心とした研究領域に挑戦します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取り組む。	自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を選択し、解決策を提案できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。
2．DP5. 計画・立案力		仮説を検証するために必要な検証手段、アクションプランを策定できる。
3．DP6. 行動・実践		自ら主体的に行動し、PDCAサイクルを回しながら実践できる。
4．DP7. 完遂		困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。
5．DP10. 忠恕の心		誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	評価の基準
20%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	： 卒業研究に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
20%	
中間・期末発表	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
40%	
試験（論文）	： 指定された日時までに提出された卒業論文（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。
20%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

※テーマ毎の進捗状況に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合があります。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜2限
場所：	研究室（西館2階）
備考・注意事項：	授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

第1回	卒業研究の進め方および研究倫理教育の実施	研究倫理に関する事例を調べておいてください。	授業外学修課題にかかる目安の時間
			4時間

	卒業研究の進め方、研究倫理について学び、文献検索や資料収集、図書館の活用方法、ビジネスマナーについても修得します。		
第2回	<b>食品安全・消費者保護</b> ゲストスピーカー（専門家）を招いて特別授業を開催し、食品安全（HACCP含む）と消費者保護の重要性を学びます。	各自で特別授業のレポートを作成してください。	4時間
第3回	<b>研究テーマの設定①（アイデア出し）</b> 食ビジネスの現状と将来の課題を見据え、先行研究の調査を行い、各自で解決すべき最も重要な課題とは何かを考えます。	テーマ設定のため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第4回	<b>研究テーマの設定②（課題を具体化する）</b> 前回考えた領域についてより詳細に先行研究の調査を行い、変革が求められる領域を特定し、自分が研究したい課題を具体的に考えます。	各自でテーマ設定のため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第5回	<b>研究テーマの設定③（課題を絞り込む）</b> 前回考えた領域をさらに細分化し、先行研究の調査を行い、卒業研究として実現可能性がある課題を絞り込みます。	各自でテーマ設定のため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第6回	<b>仮説を立てる①（真因を探る）</b> 設定した研究課題について、想定される真因と対策について検討します。	各自で仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第7回	<b>仮説を立てる②（解決策を考える）</b> 前回考えた真因と対策について仮説を立て、根拠を示し、優先順位を付けます。	各自で仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第8回	<b>ゼミ内中間発表会の準備</b> ここまで考えてきた課題と仮説を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第9回	<b>ゼミ内中間発表会（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	<b>ゼミ内中間発表会（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第11回	<b>検証手段の立案①（調査対象を選ぶ）</b> 自ら立てた仮説を検証するため調査対象を選定し、適合する検証手段を選択します。	研究のスケジュールを作成してください。	4時間
第12回	<b>検証手段の立案②（調査内容を決める）</b> 前回選定した調査対象、検証手段に沿って、具体的に調査したい内容を考えます。	研究のスケジュールを作成してください。	4時間
第13回	<b>コース期末発表会の準備</b> ここまで考えてきた課題と仮説を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第14回	<b>コース期末発表会（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	<b>コース期末発表会（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。授業の最後に試験（論文）の課題を提示します。	試験（論文）は指定された日時までに提出してください。各自で期末発表の振り返りを行ってください。また、前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みの計画を立ててください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【食】</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義および演習（フィールド調査を含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

卒業論文の作成に向け、興味をもった分野の先行研究を調査し、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、調査研究の過程を通してその解決策を提案します。研究の進め方、文献検索の方法、研究倫理など研究の基礎となる知識を習得します。卒業論文のテーマは食ビジネスの変革であり、特に消費者とのコミュニケーションを中心とした研究テーマを取り扱います。専門演習3では、文献調査などを行い自ら設定した課題を解決できる仮説とその検証方法を立案します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取り組む。

#### 目標：

自ら設定した課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂
5. DP10. 忠恕の心

自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。  
仮説を検証するために必要な検証手段、計画を立案できる。  
自ら行動に対してPDCAサイクルを回しながら実践できる。  
困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。  
誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 卒業研究に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表	40%	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（論文）	20%	： 指定された日時までに提出された卒業論文（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考書：「現代の食生活と消費行動」斎藤修監修、農林統計出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

不定期で専門書の輪読を行います。各自でpptの資料準備を行っておいください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時間目

場所： 研究室（図書館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションおよび研究倫理</b> 卒業研究の進め方、研究倫理教育の実施、文献検索や資料収集、図書館の活用方法、ビジネスマナーなどについて学びます。	4時間
第2回	<b>コンプライアンス・消費者視点</b> 講義内容のレポートを作成してください。	4時間

	ゲストスピーカー（専門家）による講演を通して、コンプライアンスと消費者視点の重要性を学びます。		
第3回	<b>研究テーマの設定①（アイデア出し）</b> 食ビジネスの現状と将来の課題を見据え、先行研究調査を行い、各自で解決すべき最も重要な課題とは何かを考えます。	テーマ設定のため先行研究調査を行ってください。	4時間
第4回	<b>研究テーマの設定②（課題を具体化する）</b> 前回考えた課題の先行研究調査を行い、今後変革が求められる領域を特定し、自分が研究したい課題を具体的に考えます。	テーマ設定のため先行研究調査を行ってください。	4時間
第5回	<b>研究テーマの設定③（課題を絞り込む）</b> テーマ設定のため先行研究調査を行ってください。	テーマ設定のため先行研究調査を行ってください。	4時間
第6回	<b>仮説を立てる①（真因を探る）</b> 設定した課題について考えられる真因と対策を考えます。	仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第7回	<b>仮説を立てる②（解決策を考える）</b> 前回考えた真因と対策について仮説を立て、根拠を示し、優先順位を付けます。	仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第8回	<b>ゼミ内発表会の準備</b> ここまで考えてきた課題と仮説を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第9回	<b>ゼミ内発表会</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	<b>食糧問題（安全性・持続性）</b> ゲストスピーカー（専門家）による講演を通して、卒業研究を進めるに当たり食の安全性と持続性の重要性を学びます。	講義内容のレポートを作成してください。	4時間
第11回	<b>検証手段の立案①（調査対象を選ぶ）</b> 自ら立てた仮説を検証するため調査対象を選定し、適合する検証手段を選択します。	研究のスケジュールを作成してください。	4時間
第12回	<b>検証手段の立案②（調査内容を定める）</b> 前回選定した調査対象、検証手段に沿って、具体的に調査したい内容を考えます。	研究のスケジュールを作成してください。	4時間
第13回	<b>コース期末発表会の準備</b> ここまで考えてきた課題と仮説を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第14回	<b>コース期末発表会（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	<b>コース期末発表会（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。授業の最後に試験（論文）の課題を提示します。	試験（論文）は指定された日時までに提出して下さい。各自で期末発表の振り返りを行ってください。また、前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みの計画を立ててください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習3【観光】</b>			
担当教員名	松田充史			
学年・コース等	観光ビジネスコース	開講時期	前期	単位数 2単位
授業形態	自ら設定した課題を解決するために、教員の指導・サポートのもと受講者が主体的に取り組みます。			
実務経験のある教員による授業科目	該当する			
実務経験の概要	旅行企画・立案をおこなう。また、都市政策（修士）をもち、観光行政にも携わる。（全15回）			

### 授業概要

本授業では、観光地および観光ビジネスのマネジメントに関する卒業論文準備のための課題発見や演習指導をします。これまでの学習や実習成果などをもとに、観光分野における自己の関心・課題を明確にし、専門的研究につなげることをねらいとします。観光にかかわる文献を読み、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、ご自身の関心・課題にもとづき、観光学の先行研究を調査して分析し、研究方法や到達点などについて討論します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	観光が直面している課題を解決する方法を探る	観光が直面している課題や問題点などについて、自らがその解決法を探ることによって、広がりつつある観光業界で活躍するための力が身に付けられる。
汎用的な力		国の成長戦略の一つとして位置づけられている観光産業における課題について、自らがその解決方法を見つけられるようになる。
1．DP4. 課題発見		自ら設定した観光における課題を解決するための方法を計画・立案し、実行できるようになる。
2．DP5. 計画・立案力		

### 学外連携学修

有り（連携先：各研究テーマ関連）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験（期末レポート）	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
30%	
プレゼンテーション	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
20%	
受講態度	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
20%	
ポートフォリオ（学びの記録）	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。
30%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日2時限（10:40～12:10）
場所：	西館2階 個人研究室15
備考・注意事項：	質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、観光が直面している課題</b> 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ 4時間
第2回	<b>関心・課題の共有</b> 受講生各自の関心や課題について発表し、話し合う。	各自の関心や課題についてまとめる。 4時間
第3回	<b>基礎知識の習得</b> 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	文献などの調べ方などについての既習事項をまとめる。 4時間
第4回	<b>先行研究の調査（1）調査計画の立案</b> 観光学の分野で、ご自身に興味がある課題の先行研究の調査について、計画を立案する。	調査についての見通しを立てる。 4時間
第5回	<b>先行研究の調査（2）先行研究の調査</b> 先行研究の調査を行う。	調査を進める。 4時間

第6回	<b>先行研究の調査（3）調査状況の報告</b> 調査の進捗状況について報告し、情報を共有する。	調査を進め、進捗状況と問題点・課題などについてまとめる。	4時間
第7回	<b>先行研究の分析（1）先行研究の整理と内容分析</b> 先行研究を整理し、文献の構成・アプローチ、分析の視点について学ぶ。	各自集めた先行研究を整理し、内容を熟読しておく。	4時間
第8回	<b>先行研究の分析（2）自分の研究への応用</b> 先行研究の中から、自分の研究へ応用できる箇所に着目し、整理する。	先行研究を熟読しておく。	4時間
第9回	<b>先行研究の分析（3）研究方法について</b> 研究方法に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究方法を考える。	4時間
第10回	<b>先行研究の分析（4）研究の到達点について</b> 先行研究での結論や考察の部分に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究の到達点について考える。	4時間
第11回	<b>研究テーマの設定</b> 先行研究の分析に基づき、自分の研究テーマを設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	<b>仮説を立てる</b> 設定した課題について考えられる原因と対策を挙げる。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	<b>研究の方法を設定する</b> 仮説を検証するための、研究方法を設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第14回	<b>発表会の準備</b> 研究のテーマ、仮説、方法、予想される結果等研究デザインについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第15回	<b>発表会</b> 卒業論文の構想発表会を実施する。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【経営】</b>				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習形式でゼミナールのアウトラインは教員が提示するが、運営方針に関してはゼミ生主導による自主運営で進める。そして、少人数のグループワークによる調査、ケーススタディ、レビュー、ディスカッション				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本ゼミでは、サービスに関する様々な文献を批判的に検討し、ディスカッションを行ったり、レポート・論文を執筆することを通じて、卒業論文の執筆能力を高めていくことを目的とする。  
ゼミは、受講生の皆さんと担当教員で、一緒に作り上げていくもので、よりよいゼミになるには、みなさんの主体性が欠かせない。前期学習したテキストを参考にゼミレポート・論文の執筆など、他のゼミに比べてハードなので、皆さんには真面目に取り組めることや学習意欲があることを期待する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	個人研究の調査・発表を行う	問題を発見し、解決方法を見つける能力を身につく
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自ら課題を探り出す能力を身につく
2．DP5. 計画・立案力		課題に対してソリューションを見つける能力を身につく
3．DP6. 行動・実践		プレゼンテーション能力が身につく

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。  
ゼミへの参加、取り組む姿勢・貢献（報告・議論など）、与えられた課題、領域に関する基礎的な事項を理解し、整理・論述ができたかどうか、の観点より評価する。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験（課題作成・最終レポート）	： 試験（課題作成・最終レポート）、領域に関する基礎的な事項を理解し、整理・論述ができたかどうか、の観点より評価する。
40%	
平常点	： 「グループワークでの貢献度」「取り組む姿勢」の観点より評価する
30%	
ポートフォリオ（学びの記録）	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」の観点より評価する。
30%	

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近藤 隆雄	・ サービス・マーケティング	・ 生産性出版	・ 2010年

### 参考文献等

【参考書】  
講義中に適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート（手書き、A4、1枚以内）事後に提出を求める。

ポートフォリオ(15回授業) ファイルを準備すること  
毎回の授業後は、学習日誌を作成して授業中配布した資料などをまとめておく

レポート・論文を作成するにあたり、学修・研究活動にかかわる時には、研究倫理のもと、著作権（盗用、引用）と個人情報に注意すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日、4時限
場所：	研究室、西館2階

### 授業計画

回数	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：前期のふりかえりと後期のスケジュール</b> 講義の目標、授業スケジュール、成績評価、研究とは何か	各自の学習分野（興味のある）についてレビューを行う	4時間
第2回	<b>文献調査その一&amp;レクチャー「レポートの書き方と学術論文の違い」</b> 研究の仕組みとゼミの進め方、レポートについてレクチャーを行う	興味のある分野を決めておく	4時間

第3回	<b>文献調査その二&amp;事例研究</b> 各自の学習分野（興味のある）についてレビューした内容を発表する。 事例をDVDなどのビジュアル資料を通じて学習する	レポートと小論文の違いを調べる	4時間
第4回	<b>文献調査その三&amp;小論文の作成</b> 小論文についてレクチャーを行う。前回発表したレビュー発表の内容を小論文にしてまとめる	論文の書き方について予習する	4時間
第5回	<b>文献調査その四&amp;論文</b> 学術論文についてレクチャーを行う。前回発表したレビュー発表の内容はフォーマルな論文形式にまとめる	現状分析について調べる	4時間
第6回	<b>現状分析その一&amp;プレゼンテーション</b> 各自の取り組んでいるテーマの現状分析を行い、そのまとめ内容を発表する（3分程度）	ディスカッションについて調べる	4時間
第7回	<b>現状分析その二&amp;ディスカッション</b> 前回、まとめ発表した現状分析を元に、ディスカッションをする	産業分析について調べる	4時間
第8回	<b>産業分析その一&amp;プレゼンテーション：学外授業</b> 各自の取り組んでいるテーマの産業分析を行い、そのまとめ内容を発表する（3分程度） 学外授業：ミッドミュージアムを訪問し、ダスキンの経営についてヒアリング調査を行う。	発表スキルについて調べる	4時間
第9回	<b>産業分析その二&amp;ディスカッション</b> 前回、まとめ発表した産業分析を元に、ディスカッションをする	チームメンバーとの共同作業（テーマ選定）を行う	4時間
第10回	<b>チームワーク①テーマ選定を行う</b> 各グループごとに研究テーマを決めてもらう。演習以外の時間でもチームワークができるように計画を立てる	チームメンバーとの共同作業（役割分担）を行う	4時間
第11回	<b>チームワーク②役割分担を決める</b> 各グループごとの研究テーマに沿ってメンバーの役割分担を行い、効率よく作業を進めてもらう	チームメンバーとの共同作業（資料収集）を行う	4時間
第12回	<b>チームワーク③資料収集を行う</b> 各メンバーの役割分担通りに調査分野、範囲を決め、資料収集を行う。そして共同で資料をまとめる作業を行う	チームメンバーとの共同作業（取捨作業）を行う	4時間
第13回	<b>チームワーク④資料の取捨作業を行う</b> 集めた資料の分類作業と補強調査について検討する	チームメンバーとの共同作業（プレゼンテーション）を行う	4時間
第14回	<b>チームワーク④プレゼンテーション</b> 各グループの研究についてプレゼンテーションを行う	チームメンバーとの共同作業（最終まとめ）を行う	4時間
第15回	<b>まとめ：これまでの学びの確認と反省会</b> 後期の総括と研究テーマ発表の時間	次年度のスケジュール案を作成する	4時間

授業科目名	<b>専門演習 4【経営】</b>			
担当教員名	児山俊行			
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数 2
授業形態	準備段階とはいえ、基本は論文指導になります。以下のように段階を踏んでいきます。 ①テーマ設定 ②関連書籍の読破・内容把握と資料収集 ③担当教員の指導による論文構成			
実務経験のある教員による授業科目	該当しない			
実務経験の概要				

### 授業概要

卒業論文を視野にその準備を行っていきます。  
 ①まず、最も重要な「問題や課題の発見」から行います。現象を当たり前と想ったところから、ビジネスでも組織でも停滞が起こります。したがって、常に社会や組織の問題や課題を見つけることは、自己と環境を変えるために不可欠な事柄です。  
 ②活字に苦手な人が多い世の中です。よって、当演習ではあえて書籍を中心に論文作成を進めていきます。もちろん、必要に応じてアンケートなど実施してもらいます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

製品開発における基本的プロセスと現代的課題を理解する。

#### 目標：

ビジネスの実情・背景を理解し、基本的視角を持つことができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

社会現象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業中での活動	35%	： 授業での発表や議論、授業前に提出された課題などの成果で評価する。
課題作成	35%	： 提示された課題解決へのグループ活動での自己の役割遂行や解決提案の策定などの成果で評価する。
試験（レポート）	20%	： 自らの演習を振り返りながら学びの修得度と自身のどこが成長したかについてふりかえるレポートを作成し評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
三宅秀道	・ 新しい市場のつくりかた	・ 東洋経済新報社	・ 2012年

### 参考文献等

参考文献等：学生の卒業論文のテーマごとに指導します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限と昼休み  
 場所： 研究室

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b> 日本企業の製品開発の事例を通じて、製品開発プロセスに関する学びについての動機づけを行う。また、研究倫理教育の実施。	4時間
第2回	<b>大組織病</b> 模倣型製品開発について理解する。	4時間
第3回	<b>「現場の本社主義」（黎明期の特性）</b> 工業黎明期の製品開発について理解する。	4時間

第4回	<b>「現場の本社主義」(事例研究)</b> 具体的な例(水着)の製品開発について議論する。	テキスト第6章中盤の読了とレジメ作成	4時間
第5回	<b>「現場の本社主義」(組織のあり方)</b> アイデアを生かしやすい組織について理解する。	テキスト第6章後半の読了とレジメ作成	4時間
第6回	<b>価値のエコシステムのデザイン(改善と革新)</b> 製品の改善と革新の違いについて理解する。	テキスト第7章前半の読了とレジメ作成	4時間
第7回	<b>価値のエコシステムのデザイン(文化人類学的素養の必要性)</b> 製品開発における文化人類学的素養の重要性を理解する。	テキスト第7章後半の読了とレジメ作成	4時間
第8回	<b>製品のステータス</b> 過去の製品事例を通じて、製品のステータス特性を理解する。	テキスト第8章前半の読了とレジメ作成	4時間
第9回	<b>製品の仲間づくり</b> ハーレーダビットソンを事例とした製品をめぐる「仲間づくり」について理解する。	テキスト第8章中盤の読了とレジメ作成	4時間
第10回	<b>「ラグジュアリー」製品とは</b> ラグジュアリーの特徴について、製品開発の視点から議論する。	テキスト第8章後半の読了とレジメ作成	4時間
第11回	<b>ビジネス分野以外の視野</b> 具体的な例(椅子)を通じて、製品と生活の関係を理解する。	テキスト第9章前半の読了とレジメ作成	4時間
第12回	<b>産官学連携の可能性</b> 産官学連携による製品開発の可能性について議論する。	テキスト第9章後半の読了とレジメ作成	4時間
第13回	<b>地域コミュニティにおける製品開発(知識のマネジメント)</b> 企業と社会間での知識のマネジメントについて理解する。	テキスト第10章前半の読了とレジメ作成	4時間
第14回	<b>地域コミュニティにおける製品開発(満足解を求めて)</b> 企業のユーザーの「満足解」への探求について議論する。	テキスト第10章中盤の読了とレジメ作成	4時間
第15回	<b>地域コミュニティにおける製品開発(大局観の重要性)</b> 社会を変える大局観の重要性について議論する。	テキスト第10章後半の読了と最終要約作成	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【経営】</b>				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	学生主体の発表形式により授業を進めます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本演習では、近年のモノづくりにおける戦略的な観点から「モジュール化」をテーマとしてグローバルな規模で展開されるビジネス活動について理解を深めます。一方、3年次に本格化する就職活動を見据え、企業研究・業界研究も行います。なお、前期と同様、15回の授業のうち5回については、企業や社会が抱える課題の解決を行うグループ学習を実施します。また、卒業研究発表会に参加し、卒業論文作成に向けた意識の向上も図ります。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	自己表現力	自分の考えを明確にプレゼンテーションできる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	情報活用能力	問題解決のために適切に情報を活用できる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		自主的に発言・行動し、他者を巻き込むことができる。
2．DP7. 完遂		課題や自分に課せられたタスクを最後までやり遂げることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート（研究計画書）	40%	： 「研究テーマについての背景が一定のデータに基づいて示されているか」、「研究目的がテーマに対して適切か」という2つの観点から評価する。
取組む姿勢	30%	： チームで取り組む課題については「グループワークに主体的に取り組んでいるか」、「他者と協働性を持って取り組んでいるか」という2つの観点から評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目  
場所： 西館3階45研究室  
備考・注意事項： 連絡を取りたい場合はメールでも可（inamura@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスーイノベーションの重要性を考えるー</b> 国の経済的成長と企業のイノベーション力の関係について考えます。	特許数ランキングと国別のイノベーション力ランキングについて調査します。 4時間
第2回	<b>日本のモノづくりの現状と課題</b> 家電業界を中心に日本のモノづくりが苦戦している現状とその背後にある課題について考えます。	日本家電メーカーの世界におけるポジションについて調査します。 4時間
第3回	<b>モジュール化の意味</b> モジュールとは何か、またモジュール化とはどのような現象か学びます。	製品のモジュール化が進んでいる業界について調査します。 4時間
第4回	<b>モジュール生産方式とは何か</b> モジュール生産方式の特徴について学びます。	モジュール生産方式のメリットについて調査します。 4時間

第5回	<b>日本企業とモジュール化</b> モジュール化が日本のモノづくりにどのような影響を与えたか考えます。	日本のモノづくりのメリットとデメリットについて調査します。	4時間
第6回	<b>ICTの活用とイノベーション（１）クローズドイノベーション</b> 日本企業の伝統的な製品開発手法について学びます。	「擦り合わせ」型のメリットデメリットについて調査します。	4時間
第7回	<b>ICTの活用とイノベーション（２）オープンイノベーション</b> オープンなインターネット環境を利用した製品開発手法について学びます。	「組み合わせ型」のメリットとデメリットについて調査します。	4時間
第8回	<b>グループワーク（１）ブレインストーミングとKJ法</b> 課題テーマに対して、できるだけ多くの意見を出し合います。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第9回	<b>グループワーク（２）課題の抽出</b> 出された意見の中から、課題テーマに対して重要と思われる問題を抽出します。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第10回	<b>グループワーク（３）提案書の作成</b> 問題に対してそれを解決すると思われる提案を企画案としてまとめます。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第11回	<b>グループワーク（４）プレゼン準備</b> 発表資料をパワーポイントで作成し、発表のポイントをグループメンバーで話し合います。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第12回	<b>グループワーク（５）提案のプレゼンテーション</b> 各グループの提案をプレゼンし、意見交換します。	ふり返しシートを次週までに完成させます。	4時間
第13回	<b>企業研究—情報収集と分析、論点整理—</b> 企業研究・業界研究を行うに当たっての資料収集と分析の観点、および論点整理の仕方について学びます。	企業研究・業界研究のプレゼン資料を作成します。	4時間
第14回	<b>企業研究発表（１）</b> 発表者は自身の分析資料とプレゼンするとともに、他の学生は発表者の発表内容とプレゼン技術を評価します。	評価シートを参考に、ふりかえりシートを完成させます。	4時間
第15回	<b>企業研究発表（２）</b> 発表者は自身の分析資料とプレゼンするとともに、他の学生は発表者の発表内容とプレゼン技術を評価します。	評価シートを参考に、ふり返しシートを完成させます。	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【経営】</b>				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	学生による主体的な先行研究に基づく発表と討議としますが、専門知識としては、文献購読、特別講義も行います。ゼミ課題による成果物は、企画書または論文形式で提出とします。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習4では、人的資源管理論の諸管理を学ぶとともに、労政時報など人事系専門紙などから具体的な企業の人事施策例を調査し、今後企業における人材育成施策や人事評価などがどのように変化していくのか、また求められるのかを皆さんとともに探求していく。また3年次末より本格化する就職活動を見据え、企業研究や業界研究も行います。また、研究における批判的思考能力の向上を目指して、アカデミックディベートを実施する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	個人の研究テーマに関する専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	個人研究の調査・発表を行う	論文執筆や発表のスキルの修得し、きちんと執筆・発表ができる
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画を立案する力を身に付ける
3．DP6. 行動・実践		計画に基づき行動し、発表会などでプレゼンテーションできる力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題提出	50%	： 与えられた課題に対して、論理的に論述できているかどうかを評価する。
平常点	30%	： チームで取り組む課題については「主体的に取り組んでいるか」「他者と協調性を持って取り組んでいるか」の2点から評価する。また課題発表は報告の内容によって評価する。
期末レポート	20%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献等:なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日2限  
場所： 西館2階研究室  
備考・注意事項： 通常開講時間以外の実施を行います。

### 授業計画

回数	内容	学習分野	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>これまでのふりかえりと今後の計画</b> 前期の活動を踏まえた後期の研究活動に対する計画を考える	各自の学習分野についてレビューを行う	4時間
第2回	<b>文献調査と論文指導①</b> 研究の進め方をレクチャーする。レポートと論文の違いを確認する。	興味のある分野の文献を読み、まとめる	4時間
第3回	<b>文献調査と論文指導②</b> 各自の学習分野についてレビューした内容を発表する。	興味のある分野の文献を読み、まとめる	4時間
第4回	<b>文献調査と論文指導③</b> 前回発表したレビュー内容について、小論文の形式でまとめる。	興味のある分野の文献を読み、まとめる	4時間
第5回	<b>文献調査と論文指導④</b> 学習分野について、最終的に取り組んでいくテーマを決定する。	研究を行う分野の文献を読み、まとめる	4時間
第6回	<b>文献調査と論文指導⑤</b>	研究を行う分野の文献を読み、まとめる	4時間

	各自で取り組んでいる研究テーマの現状分析を行い、そのまとめた内容を発表する（一人5分程度）		
第7回	<b>発表とディスカッション</b> 前回発表した内容をもとに、ディスカッションを行う	研究を行う分野の文献を読み、まとめる	4時間
第8回	<b>事例研究①</b> 研究テーマに関する業界や企業などについて、グループによる調査活動を行う。 初回は、チーム分けとテーマ決め、役割分担を決定する。	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第9回	<b>事例研究②</b> 各メンバーが決まった役割分担をもとに資料収集を行う。	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第10回	<b>事例研究③</b> 各メンバーが収集した資料について、必要性の有無など検討し、取捨選択を行う。	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第11回	<b>事例研究④</b> 企業の人事担当者による企業目線の採用動向などについての特別講義を実施する。	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第12回	<b>事例研究⑤</b> 特別講義の内容も踏まえ、事例研究報告の資料を作成する	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第13回	<b>事例研究⑥</b> 最終発表用の事例研究報告資料を作成する	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第14回	<b>事例研究発表</b> グループによる事例研究報告を行う	時事関連の調査	4時間
第15回	<b>1年間のまとめ</b> 後期授業の総括と研究内容の進捗報告を行う	次年度のスケジュールを作成する	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【スポーツ】</b>				
担当教員名	水野利昭				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ミズノ株式会社にてスポーツビジネスの実務経験あり。(全15回)				

### 授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていく。また、課題を主体的に探究するうえで、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深める。水野ゼミでは、スポーツビジネスのさまざまな分野や基礎知識を習得し、自らの研究課題を発見する。そのために毎週ニュースの中からテーマを選んでレポート提出と発表・議論を行う。4年生に向けて卒業研究の論文作成と研究発表に向けての準備を明文化する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	スポーツビジネスの文献購読などを通して基礎知識を習得します	幅広い教養やスキルを身に付ける
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツビジネスの専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2．DP5. 計画・立案力		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3．DP6. 行動・実践		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
毎週の提出課題の評価	： 専門性として課題内容の妥当性。テーマはゼミの専門分野と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照。主張や提案の根拠が正しいか。
40%	
研究取り組み・発表の評価	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメント
20%	
期末レポートの評価	： 半期で学んだことから、各人毎に定めたテーマで期末レポートを作成して提出する
20%	
ポートフォリオ（学びの記録）	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。
20%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜2限
場所：	研究室（西館3階）
備考・注意事項：	授業外での質問は随時歓迎しております。研究室にはオフィスアワーに関わらずお気軽にどうぞ。

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>全体オリエンテーション</b> 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	4時間
第2回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間

	自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。 また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。		
第3回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。 また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第4回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。 また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第5回	<b>研究テーマに沿った文献・論文購読</b> テーマから文献・論文を調査して読了し、ゼミ内で発表する。	文献の読了。発表資料作成。	4時間
第6回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。 また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第7回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。 また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第8回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。 また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第9回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。 また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第10回	<b>卒業研究計画書の作成</b> これまでの学びと自身の研究テーマの範疇を決め、研究計画書を作成する。	自己のテーマを決めて、研究計画書を作成。	4時間
第11回	<b>各自の研究テーマのゼミ内発表</b> 卒業研究に向けての計画書の発表を実施	研究計画書の作成。発表の準備。	4時間
第12回	<b>後期末発表会 前半</b> 後期末発表を行う。 発表会に参加し、聴講・質問を行う。	発表会に一部ゼミ生が発表、残りのゼミ生は聴講し理解を深める。	4時間
第13回	<b>後期末発表会 後半</b> 後期末発表を行う。 発表会に参加し、聴講・質問を行う。	発表会に一部ゼミ生が発表、残りのゼミ生は聴講し理解を深める。	4時間
第14回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 前半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行う。	自己の研究計画の内容と同じカテゴリーの計画に対してコメントを記入する。	4時間
第15回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 後半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行う。	自己の研究計画の内容と同じカテゴリーの計画に対してコメントを記入する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【スポーツ】</b>				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた。(全15回)				

### 授業概要

米メジャーリーグの経営を深掘りするとともに、他球団や他リーグまたは他のプロスポーツ競技との比較を通し、プロスポーツビジネスの仕組みと基礎になる考え方を徹底的に学びます。2人1組となり、毎回の授業で取り上げるトピックについて発表してもらいます。また、毎週のニュースの中から興味を持ったトピックや個人研究につながりそうなトピックをレポートにまとめ、順次発表してもらいます。4年生時の卒業研究に向けた準備ともなります。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

プロスポーツビジネスに関する文献購読などを通して基礎知識を習得します  
プロスポーツビジネスの専門的知識を習得するとともに、研究課題の調査・分析を行います

#### 目標：

確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身に付ける  
専門的知識と職業理解を身につけている

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP8. 意思疎通

論理的に考え、自らの研究課題を発見する力を身に付ける

豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組み、研究課題の計画を立案する力を身に付ける

他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

研究発表の評価	10%	： 専門性としてテーマや内容の妥当性、オリジナリティー、データ・先行研究の参照▼実践力として論理的構成、資料の活用、プレゼン技術、発表時間、質疑応答の内容▼忠恕として適切なコメント内容を評価する
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢として、意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメントなどを評価する
試験（論文企画書）	10%	： 専門性としてテーマの妥当性、研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合しているか、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容か、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠などを評価
授業テーマに関するゼミ内発表	50%	： 授業テーマに関するゼミ内発表において、内容の妥当性、論理的構成、発表技術、発表時間、質疑応答の様子などを評価する

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡田功	メジャーリーグ なぜ「儲かる」	集英社新書	2010年

### 参考文献等

必要に応じ、授業内で指示します

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 研究室  
備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：専門演習4の意義について</b> 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える	専門演習4の計画と諸注意をよく理解する	4時間
第2回	<b>副業収入</b>  教科書で取り上げた米メジャーリーグの副業収入戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の副業収入戦略とを比較・分析し、発表する	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第3回	<b>新球場建設</b>  教科書で取り上げた米メジャーリーグの相次ぐ新球場建設の実態と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の同種のトピックとを比較・分析し、発表する	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第4回	<b>ネット事業</b>  教科書で取り上げた米メジャーリーグのネット事業と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のネット事業とを比較・分析し、発表する	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第5回	<b>海外事業、ワールド・ベースボール・クラシック (WBC)</b>  教科書で取り上げたワールド・ベースボール・クラシック (WBC) を含めた米メジャーリーグの海外事業戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の海外事業戦略とを比較・分析し、発表する	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第6回	<b>マイナーリーグ</b>  教科書で取り上げた米メジャーリーグ傘下のマイナーリーグ球団経営と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技傘下のマイナーリーグ (チーム) 経営とを比較・分析し、発表する	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第7回	<b>論文査読ゼミ内発表会①</b> スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、各個人の卒業研究テーマに沿った文献購読を行う	スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う	4時間
第8回	<b>論文査読ゼミ内発表会②</b> スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、各個人の卒業研究テーマに沿った文献購読を行う	スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う	4時間
第9回	<b>論文査読ゼミ内発表会③</b> スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、各個人の卒業研究テーマに沿った文献購読を行う	スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う	4時間
第10回	<b>論文査読ゼミ内発表会④</b> スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、各個人の卒業研究テーマに沿った文献購読を行う	スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う	4時間
第11回	<b>卒業研究準備 (ゼミ内発表)</b> 期末発表のために、資料・発表方法を検討する	期末発表のために、資料・発表方法を検討する	4時間
第12回	<b>後期期末発表 (前半)</b> 前期期末発表を行う	前期期末発表の準備を行う	4時間
第13回	<b>後期期末発表 (後半)</b> 前期期末発表を行う	前期期末発表の準備を行う	4時間
第14回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 前半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行う	4年生卒業研究発表会の見学を行う	4時間
第15回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 後半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行う	4年生卒業研究発表会の見学を行う	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【スポーツ】</b>				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する研究を主体的に進めていきます。主なテーマは、スポーツ政策、スポーツを通じた地域活性化、地域スポーツクラブ経営です。先行研究についての精読・発表を通して自らの問題意識を深め、その問題意識に基づくディスカッションを通じて、自身の研究のリサーチ・クエスション（RQ）を発見します。また、フィールドワーク実践も重視します。4年時の卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1．DP1. 幅広い教養やスキル
- 2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

スポーツ政策やスポーツを通じた地域活性化などの文献購読を通して基礎知識を習得します  
スポーツ政策やスポーツを通じた地域活性化の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 目標：

幅広い教養やスキルを身に付ける  
専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP5. 計画・立案力
- 3．DP6. 行動・実践

自らの研究の課題を発見する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案し、発表会など？て？実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験：論文・企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性、容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性(グループ研究のみ)、忠恕の心を持ったコメント
試験：研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振り返りが出来ているか」を評価の基準とする

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業の中で適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限  
場所： 担当教員の研究室  
備考・注意事項： 質問などいつでも歓迎します。

### 授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	<b>オリエンテーション</b> ゼミの目的や進め方について確認します。	検証資料と反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第2回	<b>先行研究の抽出・レビュー</b> 各自の研究テーマに示唆を与える先行研究を選んでレビューを行います。	検証資料と反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第3回	<b>先行研究の抽出・レビュー</b> 各自の研究テーマに示唆を与える先行研究を選んでレビューを行います。	次回の演習準備（文献購読、調査、資料作成、発表準備、配布資料準備など）	4時間
第4回	<b>着眼点 ～何が明らかで、何を明らかにすべきか～</b> 先行研究をふまえて、各自の研究テーマ・領域でまだ明らかになっていないことは何かを追究します。	検証資料と反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第5回	<b>研究テーマ・目的の設定</b> 各自の研究テーマ・目的の設定を試みます。	反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第6回	<b>研究の個人的意義・学術的意義・社会的意義</b> 設定した研究テーマ・目的が如何なる意義（個人的・学術的・社会的）を持っているのか考えてみます。	4年生の卒業研究発表を聴講して、その感想をレポートに纏める。後期の中間発表の準備をする。	4時間
第7回	<b>後期中間発表 前半</b> 後期中間発表を行います。	他者の中間発表を聴き、自らの研究に付き考察する。	4時間
第8回	<b>後期中間発表 後半</b> 後期中間発表を行います。	中間発表を聴講し、自らの研究テーマの見直し、補強を実施する。	4時間
第9回	<b>後期中間発表の振り返り</b> 後期中間発表の振り返りを行います。	他者の中間発表を聴講して、自らの研究テーマの見直し、補強を実施する。	4時間
第10回	<b>研究計画書の作成</b> 各自のテーマ・目的に沿った研究計画書の作成を進めます。	検証資料と反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第11回	<b>研究計画書の作成</b> 各自のテーマ・目的に沿った研究計画書の作成を進めます。	研究計画書の作成	4時間
第12回	<b>後期期末発表会 前半</b> 後期期末発表を行います。	後期期末発表会 前半	4時間
第13回	<b>後期期末発表会 後半</b> 後期期末発表を行います。	4年生卒業研究発表会の見学 後半	4時間
第14回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 前半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行います。	4年生卒業研究発表会の見学	4時間
第15回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 後半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行います。	演習5の準備（文献購読、調査、資料作成、発表準備、配布資料準備など）	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【スポーツ】</b>				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習では、2年間を通して卒業論文を作成します。なお、本格的に卒業研究をスタートさせるのは4年生になってからですが、3年生の専門演習ではその準備を行います。専門演習4では、卒業研究の方向性を定め、関連する分野の知識を深めていきます。また、学外授業なども取り入れながら、実践的な課題探求・解決能力のトレーニングも行います。具体的な専門演習のテーマについては、受講生の意向を尊重しつつ、担当者と相談の上で決定します。なお、担当者の専門領域は、「経済一般・グローバルビジネス・国際問題」となります。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	自身の研究分野に関連した幅広い教養と知識の習得	卒業研究のバックグラウンドの知識として役立てる
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	研究を遂行する技術・能力の習得	卒業研究の自分自身で進めることができる
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究の課題発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

レポート(研究プロポーサル)の評価	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
ポートフォリオ(学びの記録)	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする
研究発表の評価	20%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

研究分野に関連する文献を多数、紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 研究室(西館2階)

備考・注意事項： 随時、研究や学生生活を含め、幅広く相談に乗ります。オフィスアワー以外にも気軽に研究室にお越しください。

### 授業計画

回数	内容	3回生後期の研究スケジュールを考える	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：専門演習4の意義について</b> 専門演習4のガイダンスを行い、後期の研究スケジュールについて説明します。	3回生後期の研究スケジュールを考える	4時間
第2回	<b>Literature Reviewの作成①～先行研究の整理～</b> これまで収集した先行研究に関する情報を整理します。	先行研究を熟読する	4時間
第3回	<b>Literature Reviewの作成②～先行研究を評価する～</b> 具体的なLiterature Reviewの作成方法を学びます。	Literature Reviewを作成する	4時間

第4回	<b>Literature Reviewの作成③～Literature Reviewの発表～</b> 各自のLiterature Reviewを発表し、意見交換を行います。	Literature Reviewの内容を改訂する	4時間
第5回	<b>仮説の設定①～仮説の立て方を学ぶ～</b> 自らの研究テーマに対して、どのように仮説を立てればいいのか、その方法について学びます。	仮説の立て方について理解を深める	4時間
第6回	<b>仮説の設定②～先行研究の熟読～</b> 先行研究の熟読を通して、自分自身の問題意識を明確化します。	先行研究を読んで、仮説の立て方を学ぶ	4時間
第7回	<b>仮説の設定③～具体的な仮説を考える～</b> これまでの調査・研究で得た知識をもとに、各自の卒業論文の仮説を設定します。	自らの卒論の中での仮説を考える	4時間
第8回	<b>研究計画の立案①～調査・研究手法を考える～</b> 先行研究などを参考に、各自の調査・研究手法について考えます。	様々な研究手法を理解する	4時間
第9回	<b>研究計画の立案②～調査・研究計画の検討～</b> 各自の調査・研究の具体的な進め方について考えます。	詳細な研究計画書を作成する	4時間
第10回	<b>研究計画の立案③～研究計画書の評価～</b> ゼミ内で研究計画を発表し、意見交換を行います。	コメントを踏まえて研究計画書を改訂する	4時間
第11回	<b>期末発表会の準備～発表資料の作成・検討～</b> 期末発表のために、資料・発表方法を検討します。また、ゼミ内で各自の研究計画を発表し、その内容について議論します。	期末発表会の資料を作成する	4時間
第12回	<b>期末発表会（前半）</b> 期末発表を行い、自らの研究計画の方向性・問題点について検証します。	期末発表を振り返り、自身の研究計画を再検討する	4時間
第13回	<b>期末発表会（後半）</b> 期末発表を行い、自らの研究計画の方向性・問題点について検証します。	期末発表を振り返り、自身の研究計画を再検討する	4時間
第14回	<b>卒論公聴会の見学（前半）</b> 4回生の卒論公聴会を見学し、自らの卒業研究との関連性について考えます。	4回生の卒業研究を評価しながら、自分自身の研究計画について考える	4時間
第15回	<b>卒論公聴会の見学（後半）</b> 4回生の卒論公聴会を見学し、自らの卒業研究との関連性について考えます。	4回生の卒業研究を評価しながら、自分自身の研究計画について考える	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【スポーツ】</b>				
担当教員名	植田真司				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	商品開発、新規事業企画、ブランド戦略展開（全15回）				

### 授業概要

この研究室では、スポーツ用品や用具はもとより話題の商品やヒット商品を中心に、商品企画の方法やマーケティング手法について学びます。また、実践的にスポーツ業界企業（mizuno、asics、adidas、nikeなど）や先進的な企業（TDL、Coca-Cola、McDonald'sなど）の具体的な成功事例を通して、商品開発やマーケティングの取り組み方を学びます。さらに、自ら商品企画が作成できるように、アイデアの出し方から、調査の仕方、企画書の書き方、プレゼンテーションの方法まで学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

商品企画の文献購読などを通して基礎知識を習得します  
商品企画の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 目標：

幅広い教養やスキルを身に付ける  
専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践

自らの研究の課題を発見する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

試験（論文・企画書）

#### 評価の基準

： 専門性としてテーマの妥当性  
研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適格的か、  
内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、  
データと先行研究の参照など

30%

研究過程の評価

： 取り組む姿勢として  
意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメントなど

30%

研究発表の評価

： 専門性として  
内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照  
実践力として  
論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間、質疑応答まど

10%

学びの記録

： 何を学んだかわかるものになっているか。学びのふりかえりができているか。

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 5限 16:20～17:50

場所： 研究室 西館3F

備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ。

授業計画		授業外学習課題にかかると見込まれる時間
第1回	<b>オリエンテーション：専門演習4の意義について</b> 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	専門演習4の計画と諸注意をよく理解する。 4時間
第2回	<b>商品企画の基礎知識の習得（市場調査、ターゲット）</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読または調査を行う。 4時間
第3回	<b>商品企画の基礎知識の習得（製品企画手順）</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読または調査を行う。 4時間
第4回	<b>商品企画の基礎知識の習得（PRODUCT）</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。 4時間
第5回	<b>商品企画の基礎知識の習得（PRICE）</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読または調査を行う。 4時間
第6回	<b>商品企画の基礎知識の習得（PROMOTION）</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読または調査を行う。 4時間
第7回	<b>商品企画の基礎知識の習得（PLACE）</b> 商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う。	商品企画のさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読または調査を行う。 4時間
第8回	<b>ビジネスモデルの研究分析</b> さまざまなビジネスモデルについて検証し比較する。	ビジネスモデルの調査 4時間
第9回	<b>ビジネスモデルの作成</b> ビジネスモデルの作成とグループディスカッション	ビジネスモデルの調査と作成 4時間
第10回	<b>ビジネスモデルの作成</b> ビジネスモデルの作成とグループディスカッション	ビジネスモデルの作成 4時間
第11回	<b>ゼミ内での発表会</b> 発表に対する意見交換	研究内容の見直し 4時間
第12回	<b>後期期末発表会 前半</b> 期末発表を行う。	期末発表のために、資料・発表準備 4時間
第13回	<b>後期期末発表会 後半</b> 期末発表を行う。	期末発表のために、資料・発表準備 4時間
第14回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 前半</b> 前期期末発表を行う。	自らの研究内容を見直す 4時間
第15回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 後半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行う。	自らの研究内容を見直す 4時間

④

授業科目名	専門演習 4 【スポーツ】				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

創造性が高い卒業論文を執筆するためには、既存の研究で何がわかっているのか、わかっていないことは何かを明確にすることが大切です。専門演習4では、自らの卒業研究へとつながるように、前半では専門演習3で身につけた先行研究の検討手法に基づいて先行研究を精読します。後半では、各々の研究計画についてゼミ内でディスカッションしつつ研究の質を高めていきます。最終的に、卒業論文のみならず、批判的思考や論理的思考、議論する能力、質疑応答の能力が高まることを目指します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル
- 2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

先行研究や文献などを通して基礎知識を習得します  
専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 目標：

幅広い教養やスキルを身に付ける  
専門的知識と研究課題の調査、分析手法を習得する。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP6. 行動・実践

自らの研究の課題を発見する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性、研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照主張や提案の根拠
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照実践力としては論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容
ポートフォリオ（学びの記録）	15%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振り返りが出来ているか」を評価の基準とする
期末レポート	15%	： 独自のルーブリックに基づき評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日1・2限（9：00～12：00）  
場所： 研究室 図書館棟3F  
備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：専門演習3の意義について</b> 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	専門演習3の振り返りをしておくこと 4時間
第2回	<b>先行研究の検討ースポーツ実施・参加に関する研究ー</b> 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること 4時間
第3回	<b>先行研究の検討ー競技力向上政策に関連する研究ー</b> 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること 4時間
第4回	<b>先行研究の検討ーエリートアスリートに関する研究ー</b> 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること 4時間
第5回	<b>先行研究の検討ー競技団体にに関する研究ー</b> 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること 4時間
第6回	<b>先行研究の検討ースポーツ施設に関する研究ー</b> 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること 4時間
第7回	<b>先行研究の検討ー学校運動部活動に関する研究ー</b> 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること 4時間
第8回	<b>先行研究の検討ー総合型地域スポーツクラブに関する研究ー</b> 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること 4時間
第9回	<b>研究計画プレゼンテーションーテーマの設定ー</b> 研究計画のプレゼンテーションを行います。 先行研究の検討から仮説を考えましょう。	自身の関心テーマについて、仮説を考えましょう。 4時間
第10回	<b>研究計画プレゼンテーションー研究計画の策定ー</b> 研究計画のプレゼンテーションを行います。 テーマ、目的、調査計画、予想される結果が一貫性を保っているか、確認します。	自身の関心テーマについて、研究計画を作りましょう。 4時間
第11回	<b>研究計画プレゼンテーションー発表ー</b> 研究計画のプレゼンテーションを行います。 聞き手の人たちが傾聴し、積極的に質疑を行います。	プレゼンテーションの準備をしてくること。 4時間
第12回	<b>後期期末発表会 前半</b> 期末発表のために、資料・発表方法を検討します。	期末発表のために、資料の作成並びに発表練習をしてくること 4時間
第13回	<b>前期期末発表 後半</b> 期末発表のために、資料・発表方法を検討します。	期末発表のために、資料の作成並びに発表練習をしてくること 4時間
第14回	<b>4年生卒業研究発表会の見学</b>  4年生卒業研究発表会の見学を行います。	4年生卒業研究発表会の見学をしたうえで感想・自身の研究に生かすことができることを整理しておくこと 4時間
第15回	<b>4年生卒業研究発表会の見学</b>  4年生卒業研究発表会の見学を行います	4年生卒業研究発表会の見学をしたうえで感想・自身の研究に生かすことができることを整理しておくこと 4時間

授業科目名	<b>専門演習4【スポーツ】</b>				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツマネジメントに係る組織、資金、運営方法等について業務として取り組んできた。(全15回)				

### 授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究するうえで、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めていきます。田村研究室では、毎週ニュースから個人研究につながるトピックをレポートにまとめて発表・質疑応答することで、スポーツビジネスのさまざまな分野や基礎知識を習得し、自らの研究課題を発見します。個人のテーマを探しながら、最終的には4年生に向けて卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

スポーツマネジメントの文献購読などを通して基礎知識を習得する。  
スポーツマネジメントの専門的知識と研究課題の調査、分析を行う。

#### 目標：

幅広い教養やスキルを身に付ける  
専門的知識と研究課題の調査、分析を行う  
自らの研究の課題を発見する力を身に付ける  
研究の課題を立案する力を身に付ける  
研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性、研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠
研究過程の評価	20%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力としては論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振り返りが出来ているか」を評価の基準とする
期末レポート	20%	： 授業終了後のレポート

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 2限目  
場所： 個人研究室  
備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題にか  
かる目安の時間

第1回	<b>オリエンテーション：専門演習4の意義について</b> 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	自分の研究したい事柄について事前に調査する	4時間
第2回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第3回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第4回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第5回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第6回	<b>4年生の卒業研究発表会の見学</b> 4年生の卒業研究発表会の見学を行う。	後期中間発表の準備・実施を行う。	4時間
第7回	<b>後期中間発表（前半）</b> 後期中間発表を行う。	後期中間発表の準備・実施を行う。	4時間
第8回	<b>後期中間発表（後半）</b> 後期中間発表を行う。	後期中間発表の準備・実施を行う。	4時間
第9回	<b>後期中間発表振り返り</b> 中間発表を通じて自らの強み・弱みを探究します。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第10回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第11回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b> 自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。また、前期同様スポーツ&ビジネス・マネジメントのニュースから、各自レポートを提出して発表・議論を継続する。	レポート・発表資料作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第12回	<b>後期期末発表会 前半</b> 後期期末発表会を行う。	期末発表のために、資料準備・発表練習をする。	4時間
第13回	<b>後期期末発表会 後半</b> 後期期末発表会を行う。	期末発表のために、資料準備・発表練習をする。	4時間
第14回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 前半</b> 4年生の卒業研究発表会の見学を行う。	4年時の卒業研究に向けてのテーマの再検討を行う。	4時間
第15回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 後半</b> 4年生の卒業研究発表会の見学を行う。	4年時の卒業研究に向けてのテーマの再検討を行う。	4時間

授業科目名	<b>専門演習 4【スポーツ】</b>				
担当教員名	大崎 哲也				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞社に勤務し、記者として国内のスポーツマネジメントの現場を取材（全15回）				

### 授業概要

自らの卒業研究・論文へつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていく。また、課題を主体的に探究する上で、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深める。このゼミでは毎週さまざまなニュースから個人の研究につながるトピックをレポートにまとめて発表・質疑応答を重ねることで自らが取り組む研究課題の発見につなげる。4年生に向けて卒業研究の論文作成と研究発表への準備を本格化させる。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

ニュースの理解や分析、スポーツマネジメントに関する文献購読などを通じて、基礎知識を習得する  
スポーツマネジメントの専門的知識、研究課題の調査、分析を行う

#### 目標：

幅広い教養やスキルを身に付ける  
専門的知識と研究課題について調査、分析を行う

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践

自らの研究課題を発見する力を身に付ける  
研究課題の計画を立案する力を身に付ける  
研究課題について計画を立案した上で、発表会などで実践していく力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文や企画書の評価	30%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性、論点の明確さ、データや先行研究を参照した上で主張や提案の妥当性
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢、自発的行動、協調性、コミュニケーション
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性、オリジナリティ、データ・先行研究を踏まえた内容。論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間、協調性、質疑応答
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」「学びの振り返りができているか」を評価の基準とする

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 4限  
場所： 研究室  
備考・注意事項： 研究室在室中であれば、これ以外の時間でも構いません。

### 授業計画

第1 1 回目 オリエンテーション、専門演習4の意義について

専門演習4の計画と諸注意をよく理解する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて後期の研究活動の取り組み方を考える。	
第2 2 回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b>  自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内でディスカッションを行う。また、前期同様スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから各自レポートを提出し、発表・議論を行う。	レポート作成。ディスカッションを通じて明らかになった妥当性と課題を考察し、自己のテーマをより深化させる。 4時間
第3 3 回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b>  自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内でディスカッションを行う。また、前期同様スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから各自レポートを提出し、発表・議論を行う。	レポート作成。ディスカッションを通じて明らかになった妥当性と課題を考察し、自己のテーマをより深化させる。 4時間
第4 4 回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b>  自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内でディスカッションを行う。また、前期同様スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから各自レポートを提出し、発表・議論を行う。	レポート作成。ディスカッションを通じて明らかになった妥当性と課題を考察し、自己のテーマをより深化させる。 4時間
第5 5 回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b>  自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内でディスカッションを行う。また、前期同様スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから各自レポートを提出し、発表・議論を行う。	レポート作成。ディスカッションを通じて明らかになった妥当性と課題を考察し、自己のテーマをより深化させる。 4時間
第6 6 回	<b>文献購読と知識の全体共有 前半</b>  スポーツマネジメントに関する知識を確認するため、各自の研究テーマに共通する文献購読を行う。	スポーツマネジメントに関する知識を再確認し、自分のテーマの方向性について確認・修正を行う。 4時間
第7 7 回	<b>文献購読と知識の全体共有 後半</b>  スポーツマネジメントに関する知識を確認するため、各自の研究テーマに共通する文献購読を行う。	スポーツマネジメントに関する知識を再確認し、自分のテーマの方向性について確認・修正を行う。 4時間
第8 8 回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b>  自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内でディスカッションを行う。また、前期同様スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから各自レポートを提出し、発表・議論を行う。	レポート作成。ディスカッションを通じて明らかになった妥当性と課題を考察し、自己のテーマをより深化させる。 4時間
第9 9 回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b>  自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内でディスカッションを行う。また、前期同様スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから各自レポートを提出し、発表・議論を行う。	レポート作成。ディスカッションを通じて明らかになった妥当性と課題を考察し、自己のテーマをより深化させる。 4時間
第10 10 回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b>  自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内でディスカッションを行う。また、前期同様スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから各自レポートを提出し、発表・議論を行う。	レポート作成。ディスカッションを通じて明らかになった妥当性と課題を考察し、自己のテーマをより深化させる。 4時間
第11 11 回	<b>各自の研究テーマの相互議論</b>  自己のテーマを順番に発表して、ゼミ内でディスカッションを行う。また、前期同様スポーツビジネスやスポーツマネジメントに関するニュースから各自レポートを提出し、発表・議論を行う。	レポート作成。ディスカッションを通じて明らかになった妥当性と課題を考察し、自己のテーマをより深化させる。 4時間
第12 12 回	<b>ゼミ内プレゼンテーション</b>  期末発表に備えて、資料や発表方法を検討する。	指摘事項に関して、期末発表までに修正すること。 4時間
第13 13 回	<b>後期期末発表 前半</b> 後期期末発表を行う。	後期期末発表の準備を行う。 4時間
第14 14 回	<b>後期期末発表 後半</b> 後期期末発表を行う。	後期期末発表の準備を行う。 4時間
第15 15 回	<b>4年生卒業研究発表会の見学</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行う。	4年生卒業研究発表会の見学を行う。 4時間

授業科目名	<b>専門演習4【スポーツ】</b>				
担当教員名	坂中勇亮				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・スポーツ協会に勤務し、スポーツ行政に従事（全15回）				

### 授業概要

自身の卒業研究につながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究する中で、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めます。特に、担当教員の専門領域であるスポーツ行政を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、4年生で作成する卒業論文に向けての準備を進めると共に、ゼミ内での議論や中間発表会を通じて研究内容の充実を図っていきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

各自の研究に関連する資料や先行研究の購読を通じて、研究の基礎となる知識を習得する  
各自の研究報告を通じて、研究を進める能力やプレゼンする能力を習得する。

#### 目標：

各自の研究に関連する幅広い知識と教養を身に付ける  
研究を遂行する能力や発表する能力を身に付ける

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践

研究課題の発見  
研究課題の計画の立案を行う  
発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

レポート（論文・企画書の評価）	30%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	30%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
試験（研究発表の評価）	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 忠恕として不適切な内容
ポートフォリオ（学びの記録）	30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、授業内で指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 13:00-15:00

場所： 研究室

備考・注意事項： 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### 授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題にか  
かる目安の時間

第1回	<b>専門演習4のガイダンスについて</b> 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	専門演習4の計画と諸注意から学期計画を立案する	4時間
第2回	<b>各自の研究内容について再検討する</b> 前期に取り組んできた研究内容を評価し、研究の方向性を再検討する。	これまでの研究内容及び進捗状況を確認する	4時間
第3回	<b>4年生の卒業研究中間発表会の見学</b> 4年生の卒業研究中間発表会を見学して、各自の研究について考える。	中間発表会の内容を振り返り、各自の研究内容を再考する。	4時間
第4回	<b>先行研究の再検討</b> 再検討した研究内容について、各自で先行研究を調べて内容をまとめる。	研究に関連する先行研究の内容をまとめる	4時間
第5回	<b>先行研究の報告①</b> 前回の授業でまとめた先行研究についてゼミ内で報告する	ゼミ内での報告内容を振り返る	4時間
第6回	<b>先行研究の報告②</b> 前々回の授業でまとめた先行研究についてゼミ内で報告する	ゼミ内での報告内容を振り返る	4時間
第7回	<b>研究の進捗状況の報告①</b> 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第8回	<b>研究の進捗状況の報告②</b> 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第9回	<b>研究の進捗状況の報告③</b> 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第10回	<b>後期末発表会の準備（発表用資料の作成）</b> 期末発表会の準備として、発表時に使用する資料を作成する	発表用資料の作成	4時間
第11回	<b>後期末発表会の準備（ゼミ内での発表会）</b> 期末発表会の準備として、ゼミ内で各自が発表を行い、質疑応答への対応を検討する。	ゼミ内発表での指摘された点について修正を行い発表会への準備を行う	4時間
第12回	<b>後期末発表会 前半</b> 後期末発表会を行い、今後の研究計画について検討する。	後期末発表の準備を行う	4時間
第13回	<b>後期末発表会 後半</b> 後期末発表会を行い、今後の研究計画について検討する。	後期末発表の準備を行う	4時間
第14回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 前半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行う	卒業研究に向けてのテーマ及び内容について、再度、検討を行う。	4時間
第15回	<b>4年生卒業研究発表会の見学 後半</b> 4年生卒業研究発表会の見学を行う	卒業研究に向けてのテーマ及び内容について、再度、検討を行う。	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【食】</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義および演習（フィールド調査を含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習3を踏まえ、卒業論文の作成に向け、興味をもった分野の先行研究を調査し、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、調査研究の過程を通してその解決策を提案します。研究の進め方、文献検索の方法、研究倫理など研究の基礎となる知識を習得します。卒業論文のテーマは食ビジネスの変革であり、特に消費者とのコミュニケーションを中心とした研究テーマを取り扱います。専門演習4では、文献調査などを行い自ら設定した課題を解決できる仮説とその検証方法を立案します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取り組む。

#### 目標：

自ら設定した課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂
5. DP10. 忠恕の心

自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。  
仮説を検証するために必要な検証手段、計画を立案できる。  
自ら行動に対してPDCAサイクルを回しながら実践できる。  
困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。  
誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 卒業研究に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表	40%	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（論文）	20%	： 指定された日時までに提出された卒業論文（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

テーマ毎の進捗に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の順番や内容を一部変更する場合があります。不定期で専門書の輪読を行います。各自でpptの資料準備を行っておいください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時間目

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションおよび知的財産権</b> 卒業論文・要旨の執筆方法、知的財産権（特許・商標・意匠など）について学びます。	4時間
第2回	<b>フィールド調査①（計画を立てる）</b>	4時間

	アンケート調査やヒアリング調査などの計画（5W1H）を立案します。		
第3回	<b>フィールド調査②（調査票の作成）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票の作成を行います。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第4回	<b>フィールド調査③（調査の実施）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票を配布し、記入を依頼します。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第5回	<b>フィールド調査④（調査票の回収・集約）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票を回収し、集約を行います。	フィールド調査結果の回収、集約を行ってください。	4時間
第6回	<b>フィールド調査⑤（結果の解析）</b> 前回集約したアンケート調査やヒアリング調査などの調査票を解析を行います。	フィールド調査結果の分析を行ってください。	4時間
第7回	<b>フィールド調査⑥（考察）</b> フィールド調査の結果について、独自の視点から考察します。	フィールド調査結果の考察を行ってください。	4時間
第8回	<b>ゼミ内中間発表会の準備</b> これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第9回	<b>ゼミ内中間発表会</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	<b>卒業論文要旨の作成①（原文作成）</b> 卒業論文のタイトル・目的・調査方法・結果・考察をまとめ、要旨を作成します。	卒業論文の要旨を作成してください。	4時間
第11回	<b>卒業論文要旨の作成②（ブラッシュアップ）</b> 卒業論文のタイトル・目的・調査方法・結果・考察をまとめ、要旨を作成します。	卒業論文の要旨を作成してください。	4時間
第12回	<b>コース期末発表会の準備</b> これまで取り組んできた研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第13回	<b>コース期末発表会（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	<b>コース期末発表会（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	<b>専門演習3・4を通して学んだこと</b> 専門演習3・4を通して学んだ専門知識・スキルについてのまとめ・復習を行います。授業の最後に試験（論文）の課題を提示します。	試験（論文）は指定された日時までに提出して下さい。後期で学んだことを踏まえ、各自で春休みの計画を立ててください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【食】</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習（フィールドワークを含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当。（全15回）				

### 授業概要

この授業では、専門演習3での学びを踏まえ、興味をもった分野の先行研究を調査し、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、多くの選択肢の中から最適な検証手段を選択し、調査研究の過程を通して、その解決策を立案します。研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。食ビジネスの新たな価値創造と更なる変革を目指し、食の安全マネジメント、食と健康、食の持続可能性を中心とした研究領域に挑戦します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取り組む。

#### 目標：

自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂
5. DP10. 忠恕の心

自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。

仮説を検証するために必要な検証手段、アクションプランを立案できる。

自ら主体的に行動し、PDCAサイクルを回しながら実践できる。

困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。

誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 卒業研究に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表	40%	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（論文）	20%	： 指定された日時までに提出された卒業論文（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

※テーマ毎の進捗状況に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

第1回 オリエンテーションおよび卒業研究の進め方

知的財産権に関する事例を調べておいてください。

### 授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	卒業論文の執筆や研究計画書の作成、知的財産権（特許・商標・意匠など）について学びます。		
第2回	<b>フィールド調査①（計画を立てる）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの計画（5W1H）を立案します。	各自でフィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第3回	<b>フィールド調査②（調査票の作成）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票の作成を行います。	各自でフィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第4回	<b>フィールド調査③（調査の実施）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票を配布し、記入を依頼します。	各自でフィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第5回	<b>フィールド調査④（調査票の回収・集約）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票を回収し、集計を行います。	各自でフィールド調査結果の回収、集計を行ってください。	4時間
第6回	<b>フィールド調査⑤（結果および考察）</b> 前回集約したアンケート調査やヒアリング調査などの調査票を解析し、独自の視点から結果を考察します。	各自でフィールド調査結果の解析を行ってください。	4時間
第7回	<b>食ビジネスにおける最新トピックス</b> ゲストスピーカー（専門家）を招き特別授業を開催し、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた食ビジネスの課題について学びます。	特別授業のレポートを作成してください。	4時間
第8回	<b>ゼミ内中間発表会の準備</b> これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	発表練習を行ってください。	4時間
第9回	<b>ゼミ内中間発表会（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	<b>ゼミ内中間発表会（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第11回	<b>研究計画書の作成①（社会的・学術的背景、目的）</b> 卒業論文のタイトル・目的・調査方法を考え、研究計画書を作成します。	研究計画書を作成してください。	4時間
第12回	<b>研究計画書の作成②（明らかにすること、予想される結果）</b> 卒業論文の調査結果・考察を考え、研究計画書を作成します。	次週までに研究計画書を提出してください。	4時間
第13回	<b>コース期末発表会の準備</b> これまで取り組んできた研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	発表練習を行ってください。	4時間
第14回	<b>コース期末発表会（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	<b>コース期末発表会（2日目）</b>  卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。授業の最後に試験（論文）の課題を提示します。	試験（論文）は指定された日時までに提出してください。各自で期末発表の振り返りを行ってください。また、後期で学んだことを踏まえ、各自で春休みの計画を立ててください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習4【観光】</b>				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	観光ビジネスコース	開講時期	後期	単位数	2単位
授業形態	自ら設定した課題を解決するために、教員の指導・サポートのもと受講者が主体的に取り組みます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行企画・立案をおこなう。また、都市政策（修士）をもち、観光行政にも携わる。（全15回）				

### 授業概要

本授業では、観光地および観光ビジネスのマネジメントに関する卒業論文準備のための演習として、課題設定をおこないます。これまでの学習や実習成果などをもとに、観光分野における自己の関心・課題を明確にし、専門的研究につなげることをねらいとします。観光にかかわる文献を読み、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、ご自身の関心・課題にもとづき、観光学の先行研究を調査して分析し、研究方法や到達点などについて討論します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	観光が直面している課題を解決する方法を探究	観光が直面している課題や問題点などについて、自らがその解決法を探ることによって、広がりつつある観光業界で活躍するための力が身に付けられる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		国の成長戦略の一つとして位置づけられている観光産業における課題について、自らがその解決方法を見つけられるようになる。
2．DP5. 計画・立案力		自ら設定した観光における課題を解決するための方法を計画・立案し、実行できるようになる。

### 学外連携学修

有り（連携先：各テーマ関連）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験（期末レポート） 30%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション 20%	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
受講態度 20%	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録） 30%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2時限（10:40～12:10）  
場所： 西館2階 個人研究室15  
備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp  
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、観光が直面している課題</b> 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。 4時間
第2回	<b>研究テーマ・課題の共有</b> 受講生各自の研究テーマや課題について発表し、話し合う。	構想発表会の資料をまとめる。 4時間
第3回	<b>研究デザインの修正</b> 構想発表会での質疑応答やコメントに基づき、研究デザインを見直す。	論文作成のための資料収集とノート整理 4時間
第4回	<b>調査企画①仮説とは</b> 仮説を検証するための根拠を探るための調査について、計画を立案する。	調査方法について既習事項を確認しておく。 4時間
第5回	<b>調査企画②調査とは</b> 調査対象や調査項目など、実施計画を具体化させる。	調査方法について既習事項を確認しておく。 4時間

第6回	<b>調査票の作成</b> 調査票を作成する。	調査方法について既習事項を確認しておく。	4時間
第7回	<b>調査企画についての共有</b> 各自の調査企画について発表し、実施可能性や問題点などについて議論する。	企画書の発表資料を用意しておく。	4時間
第8回	<b>調査企画の修正</b> 企画書発表会にて、出られたコメントに基づき、調査企画を見直す。	発表時の質疑応答やコメントをまとめておく。	4時間
第9回	<b>調査結果のまとめ①データ整理</b> 調査データを整理する。	結果をまとめるのに必要な手法を確認しておく。	4時間
第10回	<b>調査結果のまとめ②データ分析</b> 調査データを分析する。	データ分析に必要な手法を確認しておく。	4時間
第11回	<b>調査結果のまとめ③データ解析</b> 調査結果の解析、考察を行う。	調査結果の考察について既習事項を確認しておく。	4時間
第12回	<b>卒業論文の枠組みの修正</b> 問題意識や研究の目的と調査結果を照らし合せて、卒業論文全体の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	<b>卒業論文の枠組みの構築</b> 卒業論文の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第14回	<b>発表会の準備</b> 調査結果や卒業論文の枠組みについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第15回	<b>発表会</b> 調査結果と卒業論文の枠組みについて発表する。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り	4時間

授業科目名	<b>専門演習 5【経営】</b>				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	個別に論文指導を中心に演習形式				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本講義では、3回生の研究課題をベースに4年の学生生活を締めくくる最終の仕上げとして、論文作成を目的とする。これまで養ってきた知識を応用して、論文作成を通じての論理的な思考力を身につける。後期には個別に論文作成の指導を行う。卒業論文中間発表と最終発表に向けてゼミ合宿も行う。なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	これまで養ってきた知識を応用する	論文作成を通じての論理的な思考力を身につける
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		物事を探求し、行動に移す能力が養える
2．DP5. 計画・立案力		課題に対して解決案を立案できる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。ゼミへの参加、取り組み姿勢・貢献（報告・議論など）、与えられた課題、領域に関する基礎的な事項を理解し、整理・論述ができたかどうか、の観点より評価する。

自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、論文の完成度と卒業論文への取り組み、文章表現力と情報収集力の組み合わせによって総合的に評価を行い、設定した尺度を超えた場合、合格以上とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験（課題作成・最終レポート）	： 試験（課題作成・最終レポート）、自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、論文の完成度、文章表現力と情報収集力、課題提出、発表、の組み合わせによって総合的に評価する
平常点	： 卒業論文作成への取り組み（課題提出回数）という観点から評価する
	90%
	10%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考文献】  
講義中に適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート（手書き、A4、1枚以内）事後に提出を求める。

ポートフォリオ(15回授業) ファイルを準備すること  
毎回の授業後は、学習日誌を作成して授業中配布した資料などをまとめておく

レポート・論文を作成するにあたり、学修・研究活動にかかわる時には、研究倫理のもと、著作権（盗用、引用）と個人情報に注意すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、2時限  
場所： 研究室、西館2階

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス：前期のスケジュールについて説明</b> 各自の3回生時の研究について発表を行い、今後の研究テーマについて意見交換をする	あらためて論文とは何か調べる 4時間
第2回	<b>レクチャー「卒業論文とは」&amp;卒業論文のテーマ探し①</b> レクチャーとして「論文とは何か」について行う。各自、卒業論文のテーマ（仮）を決める	テーマ探しに有効な情報を集める 4時間
第3回	<b>関連論文の輪読と卒業論文のテーマ探し②</b> 卒業論文の入門として関連論文の輪読を行う。決めた仮の卒業論文のテーマについて発表する	関連資料リストを作る 4時間
第4回	<b>関連資料の収集と卒業論文のテーマ探し③学外授業</b> 各自、興味のある研究分野の参考文献リストをまとめて発表する（3分程度） 学外授業：大阪府立中央図書館を訪問し、各自の研究に必要な資料の検索を行う。	関連分野の参考データを集める 4時間
第5回	<b>参考資料の収集と卒業論文のテーマ探し④</b>	参考文献から最も見受けられるキーワードを絞る 4時間

	各自、興味のある研究分野の参考文献のカードを作成し、発表する (3分程度)		
第6回	<b>卒業論文の作成①キーワード</b> テーマと関連するキーワードを決める。なお、主なキーワードを絞り、テーマとの関連性を考える	現状分析のフレームワークを調べる	4時間
第7回	<b>卒業論文の作成②現状分析</b> 各自、興味のある研究分野の現状分析を行い、そのまとめ内容を発表する (3分程度)	産業分析のフレームワークを調べる	4時間
第8回	<b>卒業論文の作成③産業分析</b> 各自の取り組んでいる卒業論文の産業分析を行い、そのまとめ内容を発表する (3分程度)	仮説とは何かについて調べる	4時間
第9回	<b>卒業論文の作成④仮説を立てる</b> 各自の取り組んでいる卒業論文の仮説を立てる	目次作成のたたき台を作成する	4時間
第10回	<b>卒業論文の作成⑤目次作成</b> 各自の取り組んでいる卒業論文の目次作成を行い、発表する (3分程度)	定性的・定量的研究の違いを調べる	4時間
第11回	<b>卒業論文の作成⑥研究方法</b> 各自の取り組んでいる卒業論文の研究方法について決める	各自の研究日程を作成する	4時間
第12回	<b>卒業論文の作成⑦調査スケジュール</b> 各自の取り組んでいる卒業論文の調査スケジュールを決める	フィールドワーク場所を決める	4時間
第13回	<b>卒業論文の作成⑧フィールドワーク</b> 各自の取り組んでいる卒業論文のフィールドワークを実施する	フィールドワークのまとめをする	4時間
第14回	<b>卒業論文の作成⑨調査のまとめ</b> 前回のフィールドワークのまとめを発表する	取り組んだ研究内容をまとめる	4時間
第15回	<b>まとめ：前期の総括</b> これまでの卒業論文のまとめを発表する	前期を振り返ってみる	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【経営】</b>				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	以下のように段階を踏んでいきます。①テーマ設定 ②関連書籍の読破・内容把握と資料収集 ③担当教員の指導による論文構成				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

卒業論文作成とそれに向けての指導を行っていきます。  
 ①専門演習4で、収集・分析した資料群の本格的なまとめを行います。  
 ②それと受講生の興味関心を踏まえて、論文のテーマを決定いたします。  
 ③さらに、必要な文献・資料・調査を行っていきます。  
 ④その過程で、問題設定から結論に至る「ストーリー」を考えていきます。  
 ⑤それに沿って、不足しているエビデンスの収集・分析を行っていきます。  
 ⑥論文構成の要素を固めていきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

#### 具体的内容：

自らの研究テーマにおける基本的知識・情報と現代的課題を理解する。

#### 目標：

テーマ分野の実情・背景を理解し、基本的視角を持つことができる。

テーマ分野のビジネス事象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業中での活動	50%	： 授業での発表や議論、授業前に提出された課題などの成果で評価する。
試験（論文）	40%	： テーマ研究へのアプローチ策定や研究の具体的成果で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

各自の研究テーマに沿って推薦・指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限  
 場所： 担当教員の研究室

### 授業計画

回数	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションと卒論の進め方</b> 自分の興味のある分野に関連する基本文献と論文作成の全体的プロセスの確認。また、研究倫理教育の実施。	関心ある分野の基本文献読み進める。	4時間
第2回	<b>基本文献についての内容把握（前半）</b> 各自が読み進める基本文献（前半）の要旨を発表して、その正確な内容把握のためにゼミ内で議論を行う。	関心ある分野の基本文献読み進める。	4時間
第3回	<b>基本文献についての内容把握（中盤）</b> 各自が読み進める基本文献（中盤）の要旨を発表して、その正確な内容把握のためにゼミ内で議論を行う。	関心ある分野の基本文献読み進める。	4時間
第4回	<b>基本文献についての内容把握（後半）</b> 各自が読み進める基本文献（後半）の要旨を発表して、その正確な内容把握のためにゼミ内で議論を行う。	関心ある分野の基本文献読み進める。	4時間

第5回	<b>研究テーマの絞り込み</b> 各自が読了した基本文献内容にもとづいて、ゼミ内議論を通じて研究テーマを絞りこみ、より具体的なものにするよう試みる。	研究対象を分析する切り口を考える。	4時間
第6回	<b>研究テーマの決定</b> 各自が読了した基本文献内容にもとづいて、ゼミ内議論を通じて研究テーマを絞りこみ、より具体的なものに決定する。	研究対象を分析する切り口を考える。	4時間
第7回	<b>論文の基本構成の策定</b> 設定したテーマに則し、ゼミ内議論を通じて論文の基本構成を考える。	論文の基本構成案を作成する。	4時間
第8回	<b>論文の基本構成と第二アプローチの決定</b> 設定したテーマに則し、ゼミ内議論を通じて論文の基本構成と次のアプローチとを決定する。	第二アプローチのアクション案の策定。	4時間
第9回	<b>論文作成への第二アプローチ（序盤）</b> 論文の基本構成から、次に行うべきアクション（文献探索・資料収集・フィールドワーク等）について報告する。	各自で研究上のアクションを行う。	4時間
第10回	<b>論文作成への第二アプローチ（中盤）</b> 継続しているアクション（文献サーベイ・資料収集・フィールドワーク等）について報告する。	各自で研究上のアクションを行う。	4時間
第11回	<b>論文作成への第二アプローチ（後半）</b> 継続しているアクション（文献サーベイ・資料収集・フィールドワーク等）についてまとめの報告する。	各自で研究上のアクションのまとめを行う。	4時間
第12回	<b>論文作成への第三アプローチ案の策定</b> 基本文献と第二アクションの成果を踏まえ、次のアクション（文献サーベイ・資料収集・フィールドワーク等）についてゼミ内議論を通じて考える。	各自の研究上の次なるアクション案を考える。	4時間
第13回	<b>論文作成への第三アプローチ案の決定</b> 基本文献と第二アクションの成果を踏まえ、次のアクション（文献サーベイ・資料収集・フィールドワーク等）についてゼミ内議論を通じて決定する。	各自の研究上の次なるアクション案を考える。	4時間
第14回	<b>論文中間発表の準備</b> 教員指導のもとで、各自論文の中間発表の構成と内容の作成。	中間発表案の作成。	4時間
第15回	<b>中間発表会</b> 論文の途中経過を発表し、ゼミ内での質疑応答を行い、夏季休暇期間のアクション計画を明示する。	各自の研究上の次なるアクション案を決定する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【経営】</b>				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	卒業論文の作成に必要なデータの収集・分析および論旨の組み立てについて、教員の指導・サポートのもと学生主導で行います。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本演習では、これまでの学習を基に、主に経営と情報の観点から卒業論文のテーマを設定し、まずはそれに関する情報収集と資料整理の方法を学びます。それから、それらを基に論点の洗い出しを行うとともに論文の目的としてのゴールに向かうまでの全体の構成を練っていきます。どのような内容の論文になりそうかおおまかならすじまでを考えます。主なスケジュールは講義計画の通りですが、授業時間外にも指導を行う場合があります。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	情報収集活用能力	問題解決のために適切に情報を活用できる
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		問題解決の筋道を論理的に組み立てることができる
2．DP4. 課題発見		社会において解決すべき課題を抽出することができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

取組みの適正性	30%	： 論文作成の取り組みにおいて「文章に論理性と簡潔性があるか」、「テーマに対して収集した情報に適正性はあるか」という2つの観点から評価する。
資料整理と論文の構成	30%	： 「論文を組み立てるために抽出したキーワードに論理的矛盾はないか」という観点から評価する。
期末試験（口頭発表）	40%	： 「テーマに対する背景が適切か」、「論文の目的が明確でその道筋が示されているか」という2つの観点から評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目  
場所： 西館3階45研究室  
備考・注意事項： 連絡を取りたい場合はメールでも可（inamura@osaka-seikei.ac.jp）

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>研究倫理について</b>  研究における著作権と個人情報保護の重要性について理解します。	4時間
第2回	<b>卒論テーマと概要の検討（1）</b> テーマと目的、全体の構成について議論しながらかためていきます。	4時間
第3回	<b>卒論テーマと概要の検討（2）</b> テーマと目的、全体の構成について議論しながらかためていきます。	4時間
第4回	<b>特別授業－企業・業界研究－</b> 企業の人事担当を招聘し、専門商社という業界に関して理解を深めるとともに自身のキャリアについて考えます。	4時間

第5回	<b>資料収集と作業報告（1）</b> 論文の目的と合致した資料であるか、またその資料を何の裏付けとして使うかを各学生と議論します。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加します。	4時間
第6回	<b>資料収集と作業報告（2）</b> 論文の目的と合致した資料であるか、またその資料を何の裏付けとして使うかを各学生と議論します。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加します。	4時間
第7回	<b>資料収集と作業報告（3）</b> 論文の目的と合致した資料であるか、またその資料を何の裏付けとして使うかを各学生と議論します。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加します。	4時間
第8回	<b>資料収集と作業報告（4）</b> 論文の目的と合致した資料であるか、またその資料を何の裏付けとして使うかを各学生と議論します。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加します。	4時間
第9回	<b>資料収集と作業報告（5）</b> 論文の目的と合致した資料であるか、またその資料を何の裏付けとして使うかを各学生と議論します。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加します。	4時間
第10回	<b>資料収集と作業報告（6）</b> 論文の目的と合致した資料であるか、またその資料を何の裏付けとして使うかを各学生と議論します。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加します。	4時間
第11回	<b>卒論作成（1）</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第12回	<b>卒論作成（2）</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第13回	<b>卒論作成（3）</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第14回	<b>中間報告（1）</b> 目的に対して現時点で解明できたところまでを発表し、何が足りないかを確認します。	評価シートをもとに、今後の計画を作成します。	4時間
第15回	<b>中間報告（2）</b> 目的に対して現時点で解明できたところまでを発表し、何が足りないかを確認します。	評価シートをもとに、今後の計画を作成します。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【経営】</b>				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	各人の卒論テーマに沿った中間報告をプレゼン形式で行い、出席者のアドバイスを発表者に行うという演習形式で行う				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

大学での研究活動の集大成として、卒業研究を行い、卒業論文または卒業作品の作成を行う。1年間を通じて、自分の選定したテーマに沿った調べ学習と中間報告を行い、アドバイスを受けて調査を実施する。また、他者の発表についても学習の一環として、きちんと内容の理解に努め、可能な範囲でアドバイスをするなど、切磋琢磨し自己の成長を促すとともに、互いのさらなる成長を目指す。学年末には卒業研究を卒業論文・研究発表会で発表する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	これまでの講義で得た知識を研究活動への適用する。	卒業研究の完了及び卒業論文発表会の実施
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		スケジュールに従って、自発的・自律的に行動し、研究活動を行う
2．DP7. 完遂		期日までの各種課題の提出及び発表などの実践活動をやり遂げる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への参加・貢献度	40%	： 授業中の発言や発表時の積極的態度 他者の発表時のコメント
課題発表	40%	： 研究進捗の確認のための発表の内容により評価する
試験（論文概要）	20%	： 期末課題として論文概要の提出を課し内容により評価する

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献等：なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜3限
場所：	西館3階研究室
備考・注意事項：	nakai-hi@osaka-serikei.ac.jp 卒論提出まで気を抜かずしっかりと頑張りましょう

### 授業計画

回数	内容	個別テーマ研究	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>卒論テーマ学習および中間報告、年間研究計画の再検討、研究倫理に関する確認</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。卒業研究計画書を再度作成し、今後の研究計画についての再検討を行う。研究活動を遂行する上でも研究倫理に関しての実質的な確認を行う。	個別テーマ研究	4時間
第2回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第3回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第4回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間

第5回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第6回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第7回	<b>卒論テーマ学習および中間報告、進捗状況の確認</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。 当初の年間研究計画との齟齬を確認し、必要な対応を行う。	個別テーマ研究	4時間
第8回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第9回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第10回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第11回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第12回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第13回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第14回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第15回	<b>中間報告とまとめ</b> 研究の進捗に関する中間報告を実施し、今後の研究の進め方についての確認を行う。	個別テーマ研究	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【スポーツ】</b>				
担当教員名	植田真司				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	商品開発、新規事業企画、ブランド戦略展開（全15回）				

### 授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践します。植田研究室では、スポーツビジネス、特に商品企画、ビジネスモデルを中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習を行い、各自が主体的に情報収集、事例研究、アンケート調査などを行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	商品企画の幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	商品企画の専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究の課題発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験（論文・企画書）	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 5限 16:20～17:50  
場所： 研究室 西館3F

### 授業計画

回	内容	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスおよび研究倫理に関する講義</b> 専門演習5の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、卒業研究の取り組みに向け、先行研究や優秀論文を紹介する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第2回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b>	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間

	テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。		
第3回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	<b>ゼミ内の発表</b> 中間発表会に向け、各自の研究についてディスカッションする	発表会に向け、各自の研究について資料作成	4時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第8回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第14回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第15回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【スポーツ】</b>				
担当教員名	水野利昭				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ミズノ株式会社でのスポーツビジネスの実務経験あり。(全15回)				

### 授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成研究論文の作成および発表を行う。研究を進めていく上で関連研究の調査、定量調査、定性調査について学ぶことで、社会に出てからも問題意識を持ち、真実を探究する力を身につける。水野ゼミでは、スポーツビジネスとマネジメントに関して主としてファイナンスと流通の研究を中心に進める。その中で各人の研究テーマに合わせて、卒業研究論文作成と発表に向けて準備を行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	スポーツビジネスの幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	スポーツビジネスの専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		研究の課題発見
2．DP5.計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6.行動・実践		発表・執筆などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文進捗の評価	30%	： 専門性として研究内容の妥当性。テーマはゼミの専門分野と適格的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照。主張や提案の根拠が正しいか。
研究過程の評価	20%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ） 志趣の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 志趣として適切な内容
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする
論文構成と目次項目の期末提出	20%	： 半期で進んだ内容から、論文構成と目次作成を期末に完了・提出すること。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献などを相当数を自ら収集する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に約90時間程度の論文・企画書等の作成に関わる学修が求められる。研究論文作成は、各人の授業外学修によるものが多くなるので、継続して毎日課題に取り組む継続力が研究結果に結びつく。毎回学修と執筆を進めながら、進捗管理と内容についての指導を行う。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜2限
場所：	研究室（西館3階）
備考・注意事項：	オフィスアワーは水曜2限。それ以外の時間でも研究室在室時であれば気軽に訪問してください。Eメールでの問い合わせにも応じます。（氏名、学籍番号を明記のこと）

### 授業計画

：

： 授業外学修課題にかかると自らの時間

第1回	<b>ガイダンスおよび研究倫理に関する講義</b> 専門演習5の計画と諸注意を伝える。また、前年度の活動を踏まえて、卒業研究の取り組みに向け、先行研究や優秀論文を紹介する。また、卒業研究に向けての研究倫理について、本学の定めるガイドラインに従って教育を実施する。	研究倫理教育の内容を十分に把握し、自身の研究内容を見直すこと	4時間
第2回	<b>4年次研究計画書の完成とゼミ内発表</b> 計画書を完成させ、ゼミ内発表を実施する。	研究計画書の作成。論文構成の概略を発表準備。	4時間
第3回	<b>研究テーマの具体化</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究目的に対し批判的検討を行う。	4時間
第4回	<b>先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマに基づき、先行研究の調査と収集を行う。収集したものを順次読了のこと。	先行研究・参考文献の収集を行う。	4時間
第5回	<b>中間発表の準備</b> 発表会に向け、各自の研究計画書の最終版を作成する。計画書に基づき、発表資料を作成する。	発表会に向け、各自の研究の計画書と発表資料を作成する。	4時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究中間発表の準備を行う	4時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究中間発表の準備を行う、発表会での指摘事項の修正	4時間
第8回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b>  ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、問題点や修正点等について見直しを行う。	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料の作成。	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する調査準備・参考文献の収集</b> 各自の研究に関する調査の実施及び論文・文献を収集する。	各自の研究に関する調査実施と文献収集。	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する調査準備・参考文献の収集</b> 各自の研究に関する調査の実施及び論文・文献を収集する。	各自の研究に関する調査実施と文献収集。	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する調査準備・参考文献の収集</b> 各自の研究に関する調査の実施及び論文・文献を収集する。	各自の研究に関する調査実施と文献収集。	4時間
第14回	<b>研究論文のフレームワークの作成</b> 研究論文の全体の骨格を検討し、章・項の構成を検討する。研究の執筆に際して、どのように論理展開をするかを検討する。	論文の構成の案を作成し、指導後修正を行い次回までに目次案を完成する。	4時間
第15回	<b>研究の経過報告 卒論の目次提出</b> 中間経過報告（目次発表）を実施して、各人の研究進捗を確認する。グループでの批評を通じて、各人の研究の見直しを行う。	卒業研究の目次を作成。論文の骨格までを完成する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【スポーツ】</b>				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた。(全15回)				

### 授業概要

スポーツビジネスなどに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、事例調査、定量調査、定性調査について学び、各自の研究に活用していきます。岡田研究室では、事例分析や先行研究を通して経営学分野のさまざまな基礎知識を習得し、その中で学生とは個別に卒業研究論文と発表に向けて準備を行います

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

経営学の文献講読などを通して基礎知識を習得する  
経営学の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 目標：

幅広い教養やスキルを身につける  
専門的知識と研究課題の調査、分析を行う

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践

自らの研究の課題を発見する力を身につける  
研究の課題の計画を立案する力を身につける  
研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身につける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験(論文・企画書)	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性(グループ研究のみ) 忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回16時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 研究室

### 授業計画

第1回 **専門演習5のガイダンス、研究倫理教育**

研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	専門演習5の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、卒業研究の取り組みに向け、先行研究や優秀論文を紹介する。また、論文作成にあたって必要な研究倫理教育も行う		
第2回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	<b>抄録の作成</b> 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する	4時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第8回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる	調査を実施するための資料を完成させる	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施する	各自の研究に関する予備調査を実施する	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間
第14回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間
第15回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【スポーツ】</b>				
担当教員名	坂中勇亮・大崎哲也				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂中：スポーツ協会に勤務し、スポーツ行政に従事（全15回）</li> <li>大崎：新聞社に勤務し、記者として国内のスポーツマネジメントの現場を取材（全15回）</li> </ul>				

### 授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行います。また、研究を進めていく上で先行研究の収集・分析、研究の手法について学び、各自の研究テーマに沿って実践していきます。特に、担当教員の専門領域であるスポーツ行政やスポーツメディアを中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習を進めます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	卒業論文に関連する幅広い知識と教養の習得	幅広い知識と教養
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	卒業論文を作成するための技術・能力の習得	研究を遂行する能力
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究課題の発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ） 忠恕の心を持ったコメント
試験（研究発表の評価）	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 忠恕として不適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献などを自ら準備する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 13:00-15:00

場所： 研究室

備考・注意事項： 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### 授業計画

回	内容	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>演習5のガイダンス及び研究倫理について</b> 専門演習5の授業計画と研究倫理について伝えると共に、卒業研究の進め方を概説する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第2回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b>	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間

	テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。		
第3回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	<b>抄録の作成</b> 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	4時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表会の準備を行う	4時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表会の準備を行う	4時間
第8回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第14回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第15回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間

④

授業科目名	<b>専門演習5【スポーツ】</b>				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマを掲げて、研究計画、研究成果の作成および発表を行う。研究テーマの選定においては、研究の個人的意義・学術的意義・社会的意義から検討する。研究を進めていく上で、リサーチ・クエスションと仮説をの明確化に努め、次に、妥当な研究方法の選定し、その手法を体得する。研究方法は文献調査のみとせず、質問紙調査やヒアリング調査などの実施を旨とし、オリジナルデータの収集とその分析を主眼とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	幅広い知識と教養	スポーツメディアの幅広い教養と知識の習得
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	専門知識と理解	スポーツ分野の専門知識とスキルの習得
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		研究の課題発見
2 . DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3 . DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験：論文・企画書の評価 50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価 40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
試験：研究発表の評価 10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるが、卒業論文制作のため90時間以上の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限  
場所： 担当教員の研究室

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンスおよび研究倫理に関する講義</b> ガイダンスおよび研究倫理に関する講義を行う。	研究倫理に関する予習復習を行う。 6時間
第2回	<b>研究テーマの選定</b> 各自が3年次に作成した研究計画のレビューを行い、研究の目的を明確にする。	先行研究・参考文献等の資料収集・通読 6時間
第3回	<b>研究テーマ検討会</b> テーマの妥当性や意義について教員、ゼミ生と討議を行う。必要な文献や先行研究を整理する。	先行研究・参考文献等の資料収集・通読 6時間
第4回	<b>研究方法の確認</b> 各自のテーマ、研究目的をもとに、必要とされる研究方法を明らかにする。	先行研究等における研究方法を整理する。 6時間

第5回	<b>調査計画</b> 質問紙調査、ヒアリング調査など各自が行う研究方法に則り、具体的な調査計画を作成し、順次実行する。	発表会に向けた準備	6時間
第6回	<b>中間発表会</b> 審査教員のアドバイス、他学生の発表を参考にする	発表会のプレゼンやPPの見直し	6時間
第7回	<b>中間発表会</b> 審査教員のアドバイス、他学生の発表を参考にする	発表会のプレゼンやPPの見直し	6時間
第8回	<b>調査の実施1</b> 調査を実施し、その結果の整理を行う。	結果を図表等にまとめる	6時間
第9回	<b>調査の実施2</b> 調査を実施し、その結果の整理を行う。	結果を図表等にまとめる	6時間
第10回	<b>調査の実施3</b> 結果を照らし合わせ、追加調査や再調査の必要性を検討し、必要に応じて調査設計を再立案して実施する。	調査設計の検討を行う。	6時間
第11回	<b>調査の実施4</b> 結果を照らし合わせ、追加調査や再調査の必要性を検討し、必要に応じて調査設計を再立案して実施する。	結果を図表等にまとめる	6時間
第12回	<b>調査結果レビュー1</b> 各自の調査結果をゼミ内でレビューし、研究目的・仮説との整合性を検討する。	調査結果から何が言えるか、何が明らかになったか事前に自身で確認する。	6時間
第13回	<b>調査結果レビュー2</b> 各自の調査結果をゼミ内でレビューし、研究目的・仮説との整合性を検討する。	調査結果から何が言えるか、何が明らかになったか事前に自身で確認する。	6時間
第14回	<b>調査結果レビュー3</b> 各自の調査結果をゼミ内でレビューし、研究目的・仮説との整合性を検討する。	調査結果から何が言えるか、何が明らかになったか事前に自身で確認する。	6時間
第15回	<b>研究進捗計画の作成</b> 後期に向けて、卒業論文の完成までのスケジュールとタスクを確認し、進捗計画を作成する。	卒業論文の完成に向けて必要とされるタスクを具体的に挙げる。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【スポーツ】</b>				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

4回生の専門演習では、本格的な卒業研究の遂行と、その成果を卒業論文としてまとめる作業が中心となります。みなさんは3回生の専門演習を通して、自分自身の卒業研究のテーマを絞り込み、研究計画を作成していると思います。4回生の前期は、その研究計画に従って各自で研究を進めていきます。専門演習5では、各自の研究の進み具合の確認および指導教員からの助言を中心として組み立てられます。なお、研究成果は、中間発表の場で報告することになります。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	自身の研究分野に関連した幅広い教養と知識の習得	卒業研究のバックグラウンドの知識として役立てる
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	研究を遂行する技術・能力の習得	卒業研究の自分自身で進めることができる
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		研究の課題発見
2．DP5.計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6.行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

レポート(研究プロポーサル)の評価	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性(グループ研究のみ) 忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。卒業研究では、学生自身の自主的な研究遂行が求められています。従って、授業時間にとらわれず、積極的に担当教員とのコンタクトを取り続けてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 研究室(西館2階)

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間でも、必要に応じて研究相談を行います。

### 授業計画

第1回	専門演習5のガイダンスおよび研究倫理に関する講義	1年間の具体的な研究計画を立てる	授業外学修課題にかかる目安の時間
	専門演習5の計画と諸注意を伝えると共に、卒業研究の進め方について概説します。また、卒業研究を進める上での研究倫理について、本学の定めるガイドラインに従って解説します。		4時間

第2回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討します。	自身の研究分野・テーマに関する文献・資料等を読む	4時間
第3回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討します。	自身の研究分野・テーマに関する文献・資料等を読む	4時間
第4回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討します。	自身の研究分野・テーマに関する文献・資料等を読む	4時間
第5回	<b>中間発表会の準備</b> 各自の研究について研究計画書を作成し、中間発表会の準備を行います。	各自で研究計画書を作成し、それに基づいて中間発表会の資料を作成する	4時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行います。	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行います。	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第8回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていきます。	中間発表会の振り返りを行い、問題点や修正点等についてまとめる	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討します。	自身の調査に必要な知識・ノウハウを身につける	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させます。	自身の調査に必要な知識・ノウハウを身につける	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施します。	予備調査に関する計画を策定する	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てます。	予備調査の結果をまとめ、考察する	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討します。	本調査に必要な知識・ノウハウを身につける	4時間
第14回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討します。	本調査に必要な知識・ノウハウを身につける	4時間
第15回	<b>前期の振り返り</b> 前期の研究進捗状況を振り返り、自身の研究計画について見直しを行います。	前期の研究の進捗状況を踏まえて、夏休み・後期の研究計画を策定する	4時間

@

授業科目名	<b>専門演習5【スポーツ】</b>				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践する。また、古川研究室では、スポーツ政策に関連した研究課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習をすすめる。最終的に、卒業論文のみならず、批判的思考や論理的思考、議論する能力、質疑応答の能力が高まることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	幅広い教養と知識の習得	スポーツ政策に関する幅広い知識と教養を習得する
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	専門知識とスキルの習得	専門知識とスキルを習得する
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究の課題発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	45%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	35%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ） 忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容
期末レポート	10%	： 独自のルーブリックに基づき評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 1・2限（9：00～12：00）  
場所： 研究室 図書館棟 3F

### 授業計画

第1回	ガイダンスおよび研究倫理に関する講義	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	授業外学修課題にかかる目安の時間
	専門演習5の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、卒業研究の取り組みに向け、先行研究や優秀論文を紹介する。		4時間

第2回	<b>研究テーマの決定</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	<b>研究テーマの先行研究・参考文献の収集</b> 先行研究について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	<b>研究の論文構想の作成</b> 研究の論文構想を作成する	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	<b>抄録の作成</b> 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	4時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第8回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第14回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第15回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【スポーツ】</b>				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツマネジメントに係る組織、資金、運営方法等について業務として取り組んできた。（全15回）				

### 授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践していきます。また、田村研究室では、スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツ組織等を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習をすすめます。各自が主体的に情報収集、事例研究、アンケート調査などを行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	スポーツビジネスの幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツイベント・施設・組織等の専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究の課題発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

注意事項等  
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	40%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 思想として適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ） 忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 思想として適切な内容
期末レポート	10%	： 授業終了後のレポート

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限目  
場所： 個人研究室  
備考・注意事項： それ以外の時間でも研究室在室時であれば気軽に訪問してください。  
Eメールでの問い合わせにも応じます。（氏名、学籍番号を明記のこと）

### 授業計画

第1回	<b>ガイダンスおよび研究倫理に関する講義</b>	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---------------------------	-------------------------------	-------------------------

	専門演習5の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、卒業研究の取り組みに向け、先行研究や優秀論文を紹介する。また、研究倫理教育を実施する。		
第2回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	<b>抄録の作成</b> 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	4時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う。	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第8回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第14回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第15回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【食】</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習（フィールドワークを含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当。（全15回）				

### 授業概要

この授業では、専門演習3・4での学びを踏まえ、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、多くの選択肢の中から最適な検証手段を選択し、調査研究の過程を通してその解決策を立案します。そして、学びの集大成としての卒業論文を執筆します。研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。食ビジネスの新たな価値創造と更なる変革を目指し、食の安全マネジメント、食と健康、食の持続可能性を中心とした研究領域に挑戦します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取り組む。

#### 目標：

自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂
5. DP10. 忠恕の心

自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。

仮説を検証するために必要な検証手段、アクションプランを立案できる。

自ら主体的に行動し、PDCAサイクルを回しながら実践できる。

困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。

誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

### 学外連携学修

有り（連携先：大阪府、JA全農大阪、NSW<sup>※</sup> 他）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 先行研究の調査レポート、仮説と研究計画、フィールド調査票および解析データなどが適切であったかどうかを評価します。
中間・期末発表	40%	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に回答できたかどうかを評価します。
試験（論文）	20%	： 指定された日時までに提出された卒業論文（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

※テーマ毎の進捗状況に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合があります。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

第1回 卒業研究の進め方および研究倫理教育の実施

研究倫理に関する事例を調べておいてください。

### 授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	今後の卒業研究の進め方、研究倫理について学び、卒業論文・要旨の執筆方法について修得します。		
第2回	<b>研究テーマの見直し①（課題を発展させる）</b> 専門演習3・4の成果を踏まえ、先行研究の調査を行い、課題を見直し発展させます。	研究テーマを見直すため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第3回	<b>研究テーマの見直し②（目的を明確にする）</b> 専門演習3・4の成果を踏まえ、先行研究の調査を行い、課題を見直し目的を明確にします。	研究テーマを見直すため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第4回	<b>フィールド調査①（計画を立てる）</b> アンケート調査やヒアリング調査などのアクションプラン（5W1H）を立案します。	各自でフィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第5回	<b>フィールド調査②（調査票の作成）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票の作成を行います。	各自でフィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第6回	<b>フィールド調査③（調査の実施）</b> アンケート調査の調査票を配布し、記入を依頼します。また、必要に応じてヒアリング調査を実施します。	各自でフィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第7回	<b>フィールド調査④（調査票の回収・集計）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票を回収し、集計を行います。	各自でフィールド調査結果の回収、集計を行ってください。	4時間
第8回	<b>ゼミ内中間発表会の準備</b> これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	発表練習を行ってください。	4時間
第9回	<b>ゼミ内中間発表会</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	<b>フィールド調査⑤（結果の解析、考察）</b> 第7回で集約したアンケート調査やヒアリング調査などの調査結果を解析します。	各自でフィールド調査結果の解析を行ってください。	4時間
第11回	<b>卒業論文 研究計画書の作成・提出</b> これまでの調査研究の結果を踏まえ、研究計画書を作成します。今後の研究計画を具体的に示してください。	次週までに研究計画書を提出してください。	4時間
第12回	<b>マスコミュニケーションを学ぶ</b> ゲストスピーカー（専門家）を招いて特別授業を開催し、食ビジネスにおけるマスコミ活用と命の恵みの大切さを学びます。	特別授業のレポートを作成してください。	4時間
第13回	<b>コース期末発表会の準備</b> これまで取り組んできた研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	発表練習を行ってください。	4時間
第14回	<b>コース期末発表会（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	<b>コース期末発表会（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。授業の最後に試験（論文）の課題を提示します。	試験（論文）は指定された日時までに提出してください。各自で期末発表の振り返りを行ってください。また、前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みの計画を立ててください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【食】</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習（フィールド調査を含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

この授業では、専門演習3・4での学びを踏まえ、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、調査研究の過程を通してその解決策を提案します。そして、学びの集大成としての卒業論文を執筆します。研究の進め方、文献検索の方法、研究倫理など研究の基礎となる知識を習得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。卒業論文のテーマは食ビジネスの変革であり、特に消費者とのコミュニケーションを中心とした研究テーマを取り扱います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取り組む。

#### 目標：

自ら設定した課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂
5. DP10. 忠恕の心

自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。

仮説を検証するために必要な検証手段、計画を立案できる。

自ら行動に対してPDCAサイクルを回しながら実践できる。

困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。

誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
提出物	20%	： 先行研究の調査レポート、仮説と研究計画、フィールド調査票および解析データなどが適切であったかどうかを評価します。
中間・期末発表	40%	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（論文）	20%	： 指定された日時までに提出された卒業論文（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

テーマ毎の進捗に応じて紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

授業の順番や内容を一部変更する場合があります。不定期で専門書の輪読を行います。各自でpptの資料準備を行っておいください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜5限（4:30～）

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

第1回	<b>オリエンテーションおよび研究倫理</b> 研究倫理教育の実施後、卒業論文・要旨の執筆方法、などについて学びます。	研究倫理に関する事例を調べておいてください。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--	------------------------	-------------------------

第2回	<b>研究テーマの見直し①（課題を発展させる）</b> 専門演習3・4の成果を踏まえ、先行研究調査を行い、課題を見直しより発展させます。	研究テーマを見直すため先行研究調査を行ってください。	4時間
第3回	<b>研究テーマの見直し②（目的を明確にする）</b> 専門演習3・4の成果を踏まえ、先行研究調査を行い、課題を見直しより目的を明確にします。	研究テーマを見直すため先行研究調査を行ってください。	4時間
第4回	<b>フィールド調査①（計画を立てる）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの計画（5W1H）を立案します。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第5回	<b>フィールド調査②（調査票の作成）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票の作成を行います。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第6回	<b>フィールド調査③（調査の実施）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票を配布し、記入を依頼します。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第7回	<b>フィールド調査④（調査票の回収・集約）</b> アンケート調査やヒアリング調査などの調査票を回収し、集約を行います。	フィールド調査結果の回収、集約を行ってください。	4時間
第8回	<b>ゼミ内中間発表会の準備</b> これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第9回	<b>ゼミ内中間発表会</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	<b>フィールド調査⑤（結果の解析）</b> 第7回で集約したアンケート調査やヒアリング調査などの調査票の解析を行います。	フィールド調査結果の解析を行ってください。	4時間
第11回	<b>フィールド調査⑥（考察）</b> フィールド調査の結果について、独自の視点から考察します。	フィールド調査結果の考察を行ってください。	4時間
第12回	<b>マスコミュニケーション</b> ゲストスピーカー（専門家）による講演を通して、マスコミ活用と命の恵みの大切さを学びます。	講義内容のレポートを作成してください。	4時間
第13回	<b>コース期末発表会の準備</b> これまで取り組んできた研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第14回	<b>コース期末発表会（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	<b>コース期末発表会（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。授業の最後に試験（論文）の課題を提示します。	試験（論文）は指定された日時までに提出して下さい。各自で期末発表の振り返りを行ってください。また、前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みの計画を立ててください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【食】</b>				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習（フィールド調査を含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習3、4をふまえ、卒業論文の完成・卒業論文発表会に向け、研究を進めていきます。卒業研究のテーマとして、大きく二つの観点について取り扱います。まず、グローバル化において多様化する食環境のなかで、社会的背景を視野に入れ、問題点や課題を見だし、食ビジネスについて論理的に考察する力を培います。一方、産官学連携事業によるフィールドワークや調査によって、食を通じた地域活性化を図る企画立案から提案を行い、実践として社会に貢献する活動を行っていきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	食ビジネスにおける課題発見と分析	食ビジネス業界の背景を理解するとともに、課題を発見し、企画立案を行うことができる。
汎用的な力		情報収集や既存研究から、課題を発見することができる。
1．DP4. 課題発見		情報やニーズを分析したうえで、企画提案を行うことができる。
2．DP5. 計画・立案力		自分で考え、積極的に行動することで、PDCAを実践することができる。
3．DP6. 行動・実践		自身の役割を理解し、連絡や相談のコミュニケーションを図ることができる。
4．DP9. 役割理解・連携行動		道徳と思いやりを持ち、真剣に取り組む姿勢を身につけることができる。
5．DP10. 忠恕の心		

### 学外連携学修

有り（連携先：大阪府池田市「大阪池田チキチキ探検隊」）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	25%	： 問題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうか評価します。
ゼミ内発表	20%	： 自らの主張を伝えられたか、相手の意見を理解し、論理的に検討できたかに基づいて評価します。
コース期末発表	30%	： 自らの主張を伝えられたか、相手の意見を理解し、論理的に検討できたかに基づいて評価します。
試験（レポート）	25%	： 問題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうか評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

卒業論文に向けて、自主的に活動し、多面的かつ論理的に考察する力を養ってください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限  
場所： 研究室（西館2階）  
備考・注意事項： 授業内で案内する。

### 授業計画

回数	内容	研究倫理に関する事例を調べてください	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>研究倫理教育の実施</b> 卒業研究を進めるうえで、著作権と個人情報についての研究倫理について学びます。	研究倫理に関する事例を調べてください	4時間
第2回	<b>研究テーマの決定</b> テーマの妥当性、研究目的・計画を検討します。	卒業研究のテーマの設定と論文構想を考えてください	4時間
第3回	<b>テーマの先行研究</b> 先行研究と事例研究の収集をまとめます。	卒業研究のテーマについて既存研究を調査してください	4時間

第4回	<b>先行研究の検討</b> 先行研究への言及が十分に行われているかを検討します。	先行研究・参考文献、資料の検討を行ってください	4時間
第5回	<b>フィールドワーク①市場調査</b> 現地調査の資料作成と準備を行います。	調査内容をまとめ記録しておいてください	4時間
第6回	<b>フィールドワーク②課題発見</b> 産官学連携における現地調査と実行委員会の会議において課題を考えます。	調査内容をまとめ記録してください	4時間
第7回	<b>フィールドワークまとめ</b> 調査内容を分析します。 分析をまとめたのち提出します。	調査内容をまとめ記録してください	4時間
第8回	<b>ゼミ内発表会の準備</b> 発表原稿、パワーポイントの作成を行います。	研究の発表練習を行ってください	4時間
第9回	<b>ゼミ内発表会</b> 卒業研究の発表、質疑応答 発表に対するコメントシートを作成 発表原稿とパワーポイント提出	発表に対する指摘やコメントをまとめてください	4時間
第10回	<b>卒業論文要旨の作成①執筆</b> 卒業論文要旨（序論、調査方法）を執筆します。 卒業論文要旨（調査結果、考察）を執筆します。	論文要旨作成のための資料収集と記録を整理してください	4時間
第11回	<b>卒業論文要旨の作成②修正</b> 仮提出を行い、不十分な箇所を追加・修正を行います。	論文要旨作成のための資料収集と記録を整理してください	4時間
第12回	<b>マスコミュニケーション</b> ゲストスピーカー（マスコミ専門家）による情報の活用について学びます。 食ビジネスにおける命の恵みについて知識を深めます。グループディスカッションにより多角的な観点から考えます。	講義内容のレポート作成を行い記録しておきます	4時間
第13回	<b>コース期末発表会の準備</b> 発表原稿、発表用パワーポイントの作成を行います。	卒業研究の発表練習を行ってください	4時間
第14回	<b>コース期末発表会（1日目）</b> 卒業研究の発表と質疑応答を行います。 発表に対するコメントシートを作成します。 発表の原稿とパワーポイントを提出します。	卒業研究の発表練習を行ってください	4時間
第15回	<b>コース期末発表会（2日目）</b> 卒業研究の発表と質疑応答を行います。 発表に対するコメントシートを作成します。 発表の原稿とパワーポイントを提出します。	各自で発表の振り返りを行いレポートを作成してください	4時間

授業科目名	<b>専門演習5【観光】</b>				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	観光ビジネスコース	開講時期	前期	単位数	2単位
授業形態	卒業論文の作成に必要な文献やデータの収集・分析および論旨の組み立てについて、全て学生主導で行います。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行企画・立案をおこなう。また、都市政策（修士）をもち、観光行政にも携わる。（全15回）				

### 授業概要

本授業では、観光地および観光ビジネスのマネジメントに関する卒業論文作成のための演習で、調査および論文作成をおこないます。これまでの学習や実習成果などをもとに、学びの集大成としての卒業論文を執筆してもらいますので、その指導を中心とします。専門演習3・4での成果を踏まえ、自ら設定した研究課題を解決するための研究アプローチや、研究デザインについて具体的に検討し、卒業論文をまとめ上げます。受講者ご自身が主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	観光が直面している課題を解決する方法を探究	観光が直面している課題や問題点などについて、自らがその解決法を探ることによって、広がりつつある観光業界で活躍するための力が身に付けられる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		国の成長戦略の1つとして位置づけられている観光産業における課題について、自らがその解決方法を見つけられるようになる。
2．DP5. 計画・立案力		自ら設定した観光における課題を解決するための方法を計画・立案し、実行できるようになる。
3．DP6. 行動・実践		計画に基づき、研究調査や卒業論文の執筆に取り組むことによって、行動力や実践力を身に付けられる。
4．DP7. 完遂		決められた期日までに、定められた書式に基づきやり遂げる力が身に付けられる。

### 学外連携学修

有り（連携先：各テーマ関連）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験（論文）	50%
研究過程	30%
研究発表	20%

評価の基準

- 試験（論文）： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義、実践力として論理的構成（説得性）、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂、忠恕として不適切な内容の有無
- 研究過程： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメント
- 研究発表： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ・オリジナリティ、データと先行研究の参照、実践力として論理的構成（説得性）、資料（含スライド）の活用、発表技術、発表時間、協調性として質疑応答

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課程」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2時限（10:40～12:10）  
 場所： 西館2階 個人研究室15  
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp  
 メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、卒業論文作成の手順および研究倫理</b> 卒業研究の進め方やスケジュールについて確認するとともに研究倫理について理解する。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。 4時間
第2回	<b>卒業論文枠組みの見直し（研究課題）</b> 専門演習3・4の成果を踏まえ、自ら設定した卒論の課題を見直し、より発展させる。	先行研究や参考文献を整理する。 4時間
第3回	<b>卒業論文枠組みの見直し（研究目的）</b> 専門演習3・4の成果を踏まえ、自ら設定した卒論の目的をより明確にする。	先行研究や参考文献を整理する。 4時間

第4回	<b>卒業論文枠組みの見直し（理論的考察）</b> 収集した先行研究や参考文献に基づき、卒論のベースになる理論的考察について検討する。	先行研究や参考文献を整理する。	4時間
第5回	<b>卒業論文枠組みの見直し（研究の方法・オリジナリティ）</b> 専門演習3・4の成果を踏まえ、研究の方法や自分の卒論でのオリジナリティについて検討する。	調査方法について既習事項を確認しておく。	4時間
第6回	<b>調査結果の妥当性について検討</b> 専門演習3・4の成果を踏まえ、実施済みの調査結果の妥当性について検討する。	調査結果や考察を確認しておく。	4時間
第7回	<b>資料収集と作業報告（1）先行研究</b> 研究の目的を達成するための資料や文献が充分であるか検討する。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加する。	4時間
第8回	<b>資料収集と作業報告（2）文献レビュー</b> 研究の目的を達成するための資料や文献が充分であるか検討する。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加する。	4時間
第9回	<b>資料収集と作業報告（3）資料収集</b> 研究の目的を達成するための資料や文献が充分であるか検討する。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加する。	4時間
第10回	<b>資料収集と作業報告（4）資料整理</b> 研究の目的を達成するための資料や文献が充分であるか検討する。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加する。	4時間
第11回	<b>卒業論文の作成（1）リサーチクエスション</b> 各自の進捗状況に合わせ、卒論執筆に取り組む。	卒業論文の執筆	4時間
第12回	<b>卒業論文の作成（2）仮説の検討</b> 各自の進捗状況に合わせ、卒論執筆に取り組む。	卒業論文の執筆	4時間
第13回	<b>卒業論文の作成（3）発表資料作成</b> 各自の進捗状況に合わせ、卒論執筆に取り組む。	卒業論文の執筆	4時間
第14回	<b>中間報告会の準備</b> 卒業論文の進捗状況を発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第15回	<b>中間報告会</b> 卒業論文の進捗状況をパワーポイントを用いて発表。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【経営】</b>				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	個別に論文指導を中心に演習形式				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本講義では、3回生の研究課題をベースに4年の学生生活を締めくくる最終の仕上げとして、論文作成を目的とする。これまで養ってきた知識を応用して、論文作成を通じての論理的な思考力を身につける。後期には個別に論文作成の指導を行う。卒業論文中間発表と最終発表に向けてゼミ合宿も行う。なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	これまで養ってきた知識を応用する	論文作成を通じての論理的な思考力を身につける
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	自分の研究内容をまとめ、人の前で発表する	プレゼンテーションスキルが身につく
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		物事を探求し、行動に移す能力が養える
2．DP5. 計画・立案力		課題に対して解決案を立案できる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

論文作成・発表・試験（最終レポート）、自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、論文の完成度、文章表現力と情報収集力、課題提出、発表、の組み合わせによって総合的に評価する

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。ゼミへの参加、取り組む姿勢・貢献（報告・議論など）、与えられた課題、領域に関する基礎的な事項を理解し、整理・論述ができたかどうか、の観点より評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文作成・発表・試験（最終レポート）	90%	論文作成・発表・試験（最終レポート）、自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、論文の完成度、文章表現力と情報収集力、課題提出、発表、の組み合わせによって総合的に評価する
平常点	10%	卒業論文作成への取り組み（課題提出回数）という観点から評価する

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

【参考文献】  
講義中に適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
★欠席者には、欠席日の授業内容を学習して欠席課題レポート（手書き、A4、1枚以内）事後に提出を求める。

ポートフォリオ(15回授業) ファイルを準備すること  
毎回の授業後は、学習日誌を作成して授業中配布した資料などをまとめておく

レポート・論文を作成するにあたり、学修・研究活動にかかわる時には、研究倫理のもと、著作権（盗用、引用）と個人情報に注意すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限  
場所： 研究室、西館2階

### 授業計画

回数	内容	研究のテーマを決める	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス：テーマを決める①これまでの研究を振り返る</b> 前期、各自の取り組んでいる卒業論文のテーマを確定する	研究のテーマを決める	4時間
第2回	<b>テーマを決める②前期の研究テーマ or 新テーマ</b> 各自、取り組んでいる研究テーマの研究目的、背景についてまとめる	研究の目的を考えておく	4時間
第3回	<b>テーマを決める③プレゼンテーション</b> 各自取り組んでいる研究テーマの研究目的、背景について発表する	研究の参考文献を集める	4時間
第4回	<b>論文執筆④個別指導「参考文献」：学外授業</b> 各自、取り組んでいる研究の重要な参考文献をいくつかに絞り、まとめる 学外授業：合宿しながら研究をまとめる。場所：大阪成蹊学園びわこセミナーハウスにて	研究の主なキーワードをもとにデータカードを作る	4時間

第5回	<b>論文執筆②個別指導「データカード」</b> 各自取り組んでいる研究の参考文献毎にデータカードを作る	これまでの進捗状況をリスト化する	4時間
第6回	<b>卒業論文の中間まとめ：進捗状況の確認</b> 研究テーマ、参考文献リスト、等々卒業論文の作業進捗を確認する	項目別に発表資料をリストアップする	4時間
第7回	<b>中間報告用の発表資料のチェック</b> これまで作成してきた資料を整理し、中間報告用の資料を作成する	発表資料を完成する	4時間
第8回	<b>卒業論文の中間発表リハーサル</b> 作成した中間報告用の資料をゼミ内で発表し、ゼミメンバーからコメントをもらう（5分程度）	テーマに沿った章立てを作る	4時間
第9回	<b>論文執筆③個別指導「章立て」</b> 各自、取り組んでいる研究の章立てのチェックを行う	研究要旨を作成する	4時間
第10回	<b>論文執筆④個別指導「論文要旨」</b> 最終論文提出に向けての論文要旨を作成する	最終発表の項目を確認する	4時間
第11回	<b>論文執筆⑤個別指導「仮の最終論文完成」</b> 完成論文の日本語のチェックを行う	完成論文のチェックを行う	4時間
第12回	<b>論文執筆⑥個別指導「最終論文の添削」</b> 日本語のチェックを終わらせた原稿の添削し、本人が最終原稿を確認する	発表用の原稿を作る	4時間
第13回	<b>卒業論文の発表①プレゼンテーション用の原稿作成</b> 最終論文の発表のための原稿を作成する	原稿を元に発表準備をする	4時間
第14回	<b>卒業論文の発表②最終論文発表のリハーサルを行う</b> ゼミメンバーの前で数回、最終論文発表のリハーサルを行う	卒業論文の研究成果をまとめる	4時間
第15回	<b>まとめ：これまでの総括&amp;反省会</b> 3回生の前で数回、最終論文発表のリハーサルを行う	これまでの研究や大学生活を振り返ってみる	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【経営】</b>			
担当教員名	児山俊行			
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数 4
授業形態	論文指導になります。以下のように段階を踏んでいきます。①テーマ設定 ②関連書籍の読破・内容把握と資料収集 ③担当教員の指導による論文構成と論文執筆			
実務経験のある教員による授業科目	該当しない			
実務経験の概要				

### 授業概要

卒業論文作成とそれに向けての指導を行っていきます。  
 ①専門演習4で、収集・分析した資料群の本格的なまとめを行います。  
 ②それと受講生の興味関心を踏まえて、論文のテーマを決定いたします。  
 ③さらに、必要な文献・資料・調査を行っていきます。  
 ④その過程で、問題設定から結論に至る「ストーリー」を考えていきます。  
 ⑤それに沿って、不足しているエビデンスの収集・分析を行っていきます。  
 ⑥論文構成の要素を固めていきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

#### 具体的内容：

自らの研究テーマにおける基本的知識・情報と現代的課題を理解する。

#### 目標：

テーマ分野の実情・背景を理解し、基本的視角を持つことができる。

テーマ分野のビジネス事象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出すことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度	10%	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業での活動の評価	40%	： 授業での発表や議論、授業前に提出された課題などの成果で評価する。
試験（論文）	50%	： テーマ研究へのアプローチ策定や研究の具体的成果で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

学生各自の卒業論文テーマに則して推薦・指示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限  
 場所： 担当教員の研究室

### 授業計画

回	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>アクション成果の発表</b> 前期最後の中間発表とそこでの質疑応答から導き出したアクション計画に沿ったアクション成果を各自発表する。また、研究倫理教育の実施。	夏季休暇期間中のアクション成果をまとめる。	4時間
第2回	<b>論文序盤の下書き作成指導（1）</b> 論文作成した序盤箇所のゼミ内の質疑応答を通じた検討	研究の補足アクション、ないしは論文作成開始。	4時間
第3回	<b>論文序盤の下書き作成指導（2）</b> 論文作成した序盤箇所（ないしは補足アクション）のゼミ内の質疑応答を通じた検討	研究の補足アクション、ないしは論文作成の継続	4時間

第4回	<b>論文序盤の下書き作成指導（3）</b> 論文作成した序盤箇所（ないしは補足アクション）のゼミ内の質疑応答を通じて、論文内容の次への作成方針を検討する。	研究の補足アクション、ないしは論文作成の継続	4時間
第5回	<b>論文中盤の下書き作成指導（1）</b> 論文作成した中盤（序盤）箇所のゼミ内の質疑応答を通じた検討。	論文作成の継続（開始）	4時間
第6回	<b>論文中盤の下書き作成指導（2）</b> 論文作成した中盤（序盤）箇所のゼミ内の質疑応答を通じた検討。	論文作成の継続	4時間
第7回	<b>論文中盤の下書き作成指導（3）</b> 論文作成した中盤箇所のゼミ内の質疑応答を通じて、論文内容の次への作成方針を検討する。	論文作成の継続	4時間
第8回	<b>中間発表の準備</b> 中盤まで作成した論文内容と今後の展開について要旨にまとめる。	中間発表内容の作成	4時間
第9回	<b>中間発表会での発表</b> 中間発表を行い、そこで受けた質疑や批判、提案などから今後の論文作成のあり方を考える。	中間発表内容の完成	4時間
第10回	<b>論文終盤の下書き作成指導（1）</b> 中間発表会で指摘された箇所の修正も含め、ゼミ内の質疑応答を通じた論文終盤の方向性の検討。	論文終盤までの構成案の作成	4時間
第11回	<b>論文終盤の下書き作成指導（2）</b> 論文作成した終盤箇所のゼミ内の質疑応答を通じた検討。	論文（終盤）の作成	4時間
第12回	<b>論文終盤の下書き作成指導（3）</b> 論文作成した終盤箇所のゼミ内の質疑応答を通じた検討。	論文終盤作成の継続	4時間
第13回	<b>論文全体の検討・確認</b> 論文全体での課題のゼミ内質疑応答を通じた指摘と修正。	論文の結論部の作成	4時間
第14回	<b>論文の結論の完成と序文の作成</b> 論文の結論について、ゼミ内質疑応答を通じた検討と、それを踏まえた序文内容を考える。	論文の結論部修正と序文の作成	4時間
第15回	<b>論文完成への指導</b> 論文結論部と構成、序文の一貫性のゼミ内質疑応答を通じた検討と修正。	論文の最終仕上げ	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【経営】</b>			
担当教員名	稲村昌南			
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数 4
授業形態	卒業論文の作成に必要なデータの収集・分析および論旨の組み立てについて、教員の指導・サポートのもと学生主導で行います。			
実務経験のある教員による授業科目	該当しない			
実務経験の概要				

### 授業概要

本演習では、これまで学習してきた知識を基に、主に経営と情報の観点から問題提起したテーマで卒業論文にまとめ上げる作業を行います。結論を裏付けるデータや事実がそろっているか、また先行研究の紹介とそれに対するレビューに漏れがないか確認しながら進めます。主なスケジュールは講義計画の通りですが、授業時間外にも指導を行う場合があります。最終的には、卒業研究発表会において、全員が各自の卒業論文（研究）の発表を行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	情報活用力	問題解決のために適切に情報を活用できる
2．DP1. 幅広い教養やスキル	文章作成力	伝えたいことの要点を順序立てて文章化できる
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		問題解決の筋道を論理的に組み立てることができる
2．DP4. 課題発見		社会において解決すべき課題を抽出することができる
3．DP7. 完遂		やるべきことを最後まで自分の力でやり抜くことができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

取組みの適正性	50%	： 「文章に論理性と簡潔性があるか」「テーマに対して収集した情報に適正性はあるか」という2つの観点から評価する。
期末試験（卒業論文）	50%	： 「論文を組み立てるために抽出したキーワードに論理的矛盾はないか」、「テーマに対して本質的な結論が導いているか」という2つの基準から評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、指示する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に90時間程度の論文・企画書等の作成にかかわる学修が求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日3時間目
場所：	西館3階45研究室
備考・注意事項：	連絡を取りたい場合はメールでも可（inamura@osaka-seikei.ac.jp）

### 授業計画

回数	内容	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>卒論作成(1)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第2回	<b>卒論作成(2)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第3回	<b>卒論作成(3)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第4回	<b>卒論作成(4)</b>	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間

	各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。		
第5回	<b>卒論作成 (5)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第6回	<b>卒論作成 (6)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第7回	<b>卒論作成 (7)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第8回	<b>卒論作成 (8)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第9回	<b>卒論作成 (9)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第10回	<b>卒論作成 (10)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第11回	<b>卒論作成 (11)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第12回	<b>卒論作成 (12)</b> 各自の進捗したところまでについて論理矛盾はないか、論文の目的を見失っていないかといった観点から評価し、追加・修正すべき点をアドバイスします。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第13回	<b>ゼミ内卒論発表会 (1)</b> 全体での卒論発表会に備えてゼミ内で発表会を行い、結論に導くまでの論点の整理を行います。	各自の論文の目的とそれに対する結論に導くための裏付けの適正性についても再度確認します。	4時間
第14回	<b>ゼミ内卒論発表会 (2)</b> 全体での卒論発表会に備えてゼミ内で発表会を行い、結論に導くまでの論点の整理を行います。	各自の論文の目的とそれに対する結論に導くための裏付けの適正性についても再度確認します。	4時間
第15回	<b>ゼミ内卒論発表会 (3)</b> 全体での卒論発表会に備えてゼミ内で発表会を行い、結論に導くまでの論点の整理を行います。	各自の論文の目的とそれに対する結論に導くための裏付けの適正性についても再度確認します。	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【経営】</b>				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	各自の卒論テーマに沿った中間報告をプレゼン形式で行い、出席者のアドバイスを発表者に行うという演習形式で行う				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

大学での研究活動の集大成として、卒業研究を行い、卒業論文または卒業作品の作成を行う。1年間を通じて、自分の選定したテーマに沿った調べ学習と中間報告を行い、アドバイスを受けて調査を実施する。また、他者の発表についても学習の一環として、きちんと内容の理解に努め、可能な範囲でアドバイスをするなど、切磋琢磨し自己の成長を促すとともに、互いのさらなる成長を目指す。なお卒業研究を卒業論文・研究発表会で発表する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	これまでの講義で得た知識を研究活動への適用する。	卒業研究の完了及び卒業論文発表会の実施
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		スケジュールに従って、自発的・自律的に行動し、研究活動を行う
2．DP7. 完遂		期日までの各種課題の提出及び発表などの実践活動をやり遂げる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への参加・貢献度	40%	： 授業中の発言や発表時の積極的態度 他者の発表時のコメント
試験（卒業論文）	60%	： 卒業論文・卒業研究の内容と発表

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

参考文献等：なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に約90時間程度の論文・企画書等の作成にかかわる学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 3限  
場所： 西館3階研究室  
備考・注意事項： 卒論提出まで気を抜かずしっかりと頑張りましょう

### 授業計画

回数	内容	個別テーマ研究	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第2回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第3回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第4回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第5回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。他者の発表時には、コメントなどをする。お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第6回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b>	個別テーマ研究	4時間

	各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。		
第7回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第8回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第9回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第10回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。 研究題目の確定と題目届の作成。	個別テーマ研究	4時間
第11回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第12回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。 卒論の初稿提出	個別テーマ研究	4時間
第13回	<b>卒論テーマ学習および中間報告</b> 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。 卒業論文の修正校についての確認と研究概要の作成	個別テーマ研究	4時間
第14回	<b>卒論テーマ学習および最終報告</b> 卒論の最終稿の提出、卒業研究概要の作成	個別テーマ研究	4時間
第15回	<b>卒論のまとめ</b> 最終発表のための準備と練習	個別テーマ研究	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【スポーツ】</b>				
担当教員名	植田真司				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	商品開発、新規事業企画、ブランド戦略展開（全15回）				

### 授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、定量調査、定性調査について学び、各自の研究へ実践していきます。また、植田研究室では、スポーツビジネス、特に商品企画、ビジネスモデルを中心とした課題、研究テーマについて、卒業論文及び企画書の完成にむけて演習を進めます。特に、研究方法や論文のまとめ方、発表の仕方など、さまざまな工夫し発表

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	商品企画の幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	商品企画の専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		研究の課題発見
2 . DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3 . DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験（論文・企画書）	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が必要になります。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日5限目16:20～17:50  
場所： 研究室 西館3F

### 授業計画

第1回	<b>専門演習6のガイダンス</b> 専門演習6の計画と諸注意を伝える。また、卒業研究を仕上げるポイントについて学ぶ。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--	-------------------------------	-------------------------

第2回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文の作成</b> 卒業研究後期中間発表会の準備を行う。	発表会に向け、各自の研究について資料を作成する。	4時間
第3回	<b>中間発表会</b> 卒業研究後期中間発表会を行う。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	<b>卒業研究後期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	発表会での振り返りにともない、適宜修正する	4時間
第5回	<b>卒業研究における結果についてまとめ検証する</b> 結果を分析し、調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	結果の分析と考察	4時間
第6回	<b>卒業研究における結果についてまとめ検証する</b> 結果を分析し、調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	結果の分析と考察	4時間
第7回	<b>卒業研究に関する資料の作成</b> 作成資料が適切が検討する。	関連する資料の作成	4時間
第8回	<b>卒業研究に関する資料の作成</b> 作成資料が適切が検討する。	関連する資料の作成	4時間
第9回	<b>卒業研究に関する考察の検討</b> 卒業研究の考察の妥当性について検討する。	卒業研究の調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	<b>卒業研究に関する考察の検討</b> 卒業研究の考察の妥当性について検討する。	卒業研究の作成	4時間
第11回	<b>卒業研究を完成させる</b> 卒業研究の全体を見て検討する。	卒業研究の作成	4時間
第12回	<b>卒業研究の作成</b> 卒業研究の全体を見て検討する。	発表資料の作成	4時間
第13回	<b>ゼミ内での発表</b> 卒業研究の調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	卒業研究後期期末発表会の準備を行う。	4時間
第14回	<b>卒業研究後期期末発表会（前半）</b> 卒業研究前期期末発表会を行う。	卒業研究後期期末発表会の準備を行う。	4時間
第15回	<b>卒業研究後期期末発表会（後半）</b> 卒業研究後期期末発表会を行う。	卒業研究後期期末発表会後の修正を行う	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【スポーツ】</b>				
担当教員名	坂中勇亮・大崎哲也				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂中：スポーツ協会に勤務し、スポーツ行政に従事（全15回）</li> <li>大崎：新聞社に勤務し、記者として国内のスポーツマネジメントの現場を取材（全15回）</li> </ul>				

### 授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行います。また、研究を進めていく上で先行研究の収集・分析、研究の手法について学び、各自の研究テーマに沿って実践していきます。特に、担当教員の専門領域であるスポーツ行政やスポーツメディアを中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習を進めます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	卒業論文に関連する幅広い知識と教養の習得	幅広い知識と教養
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	卒業論文を作成するための技術・能力の習得	研究を遂行する能力
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究課題の発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ） 忠恕の心を持ったコメント
試験（研究発表の評価）	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 忠恕として不適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献などを自ら準備する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 13:00-15:00

場所： 研究室

備考・注意事項： 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### 授業計画

回数	内容	具体的な論文作成スケジュールを検討する	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>演習6のガイダンス</b> 専門演習6の計画と諸注意を伝えるとともに、卒業論文執筆の具体的な計画を作成する。	具体的な論文作成スケジュールを検討する	4時間
第2回	<b>中間発表会の準備</b> 中間発表会へ向けて研究の進捗状況をまとめる	中間発表会の準備	4時間

第3回	<b>卒業研究後期中間発表会</b> 卒業研究後期中間発表会を行う	中間発表会の振り返り	4時間
第4回	<b>中間発表会の振り返り</b> 中間発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	これまでの研究を振り返り、適宜修正を加える。	4時間
第5回	<b>本調査のまとめ</b> 前期もしくは夏期休暇に行った本調査の結果について、主査・副査と議論する。	本調査の結果をまとめる	4時間
第6回	<b>本調査のまとめ</b> 主査・副査からのコメントを参考にしつつ、調査結果をまとめる。	本調査の結果をまとめる	4時間
第7回	<b>卒論の構成を考える</b> 卒論の全体構成・章立てを考える	卒論本文を執筆する	4時間
第8回	<b>卒論ドラフトの作成</b> 卒論本文の執筆を始める	卒論本文を執筆する	4時間
第9回	<b>卒論ドラフトの作成</b> 卒論本文の執筆を始める	卒論本文を執筆する	4時間
第10回	<b>卒論ドラフトの作成</b> 卒論本文の執筆を始める	卒論本文を執筆する	4時間
第11回	<b>卒論ドラフトの完成</b> 卒論を大まかに完成させ、主査・副査からコメントをもらう。	卒論本文を執筆する	4時間
第12回	<b>卒論ドラフトの再検討</b> 主査・副査からのコメントに従って卒論を改訂する	卒論本文を校正する	4時間
第13回	<b>卒論公聴会の準備</b> 卒論公聴会に向けての資料を作成する	自身の論文を熟読し、公聴会に向けての準備をする。	4時間
第14回	<b>卒業研究公聴会（前半）</b> 卒業研究を発表する	自分の卒論についての理解を深め、質疑応答に対応できるよう準備する。	4時間
第15回	<b>卒業研究公聴会（後半）</b> 卒業研究を発表する	自分の卒論についての理解を深め、質疑応答に対応できるよう準備する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【スポーツ】</b>				
担当教員名	水野利昭				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ミズノ株式会社にてスポーツビジネスの実務経験あり。(全15回)				

### 授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成研究論文の作成および発表を行う。研究を進めていく上で関連研究の調査、定量調査、定性調査について学びふことで、社会に出てからも問題意識を持ち、真実を探究する力を身につける。水野ゼミでは、スポーツビジネスとマネジメントに関して主としてファイナンスと流通の研究を中心に進める。その中で各人の研究テーマに合わせて、卒業研究論文作成と発表に向けて準備を行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	スポーツビジネスマネジメントの幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツビジネスマネジメントの専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究の課題発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。卒業研究論文に関しては、締切日までに必ず提出すること。提出期限に出せなかった場合は単位取得が出来ない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準	
期末提出論文の評価	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容	40%
研究過程の評価	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント	30%
研究発表の評価	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照、実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答、忠恕として適切な内容	20%
ポートフォリオ（学びの記録）	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする	10%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など相当数を自ら収集する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に約90時間程度の論文・企画書等の作成に関わる学修が求められる。研究論文作成は、各人の授業外学修によるものが多くなるので、継続して毎日課題に取り組む継続力が研究結果に結びつく。毎回学修と執筆を進めながら、進捗管理と内容についての指導を行う。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜2限
場所：	研究室（西館3階）
備考・注意事項：	オフィスアワーは水曜2限。それ以外の時間でも研究室在室時であれば気軽に訪問してください。Eメールでの問い合わせにも応じます。（氏名、学籍番号を明記のこと）

### 授業計画

：

： 授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	<b>専門演習6のガイダンス</b> 専門演習6の計画と諸注意を伝える。卒業研究の具体的な計画を作成し、卒業研究の評価に関するルーブリックの内容も説明する。	研究計画の策定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第2回	<b>中間発表の準備</b> 発表会に向け準備を行う。	発表会に向け、各自の研究について計画書の再提出を行い全体発表の準備をする。	4時間
第3回	<b>後期中間発表</b> 中間発表に向けて発表資料を完成させる	卒業研究中間発表会の準備を行う	4時間
第4回	<b>中間発表会の振り返り</b> 中間発表における質問・コメントを受けて、研究の進め方に関しての見直しと構想の再作成。	計画の見直しを行う	4時間
第5回	<b>論文の執筆と内容のチェック</b> 論文の執筆の進捗の報告	各自の研究進捗を報告。	4時間
第6回	<b>論文の執筆と内容のチェック</b> 論文の執筆の進捗の報告	各自の研究進捗を報告。	4時間
第7回	<b>論文の執筆と内容のチェック</b> 論文の執筆の進捗の報告	各自の研究進捗を報告。	4時間
第8回	<b>論文の執筆と内容のチェック</b> 論文の執筆の進捗の報告	各自の研究進捗を報告。	4時間
第9回	<b>論文の執筆と内容のチェック</b> 論文の執筆の進捗の報告	各自の研究進捗を報告。	4時間
第10回	<b>内部発表会</b> 卒論の進捗に関して、内部発表会実施。	発表のための準備実施	4時間
第11回	<b>論文の執筆と内容のチェック</b> 論文の執筆の進捗の報告	各自の研究進捗を報告。	4時間
第12回	<b>論文の執筆と内容のチェック</b> 論文の執筆の進捗の報告	各自の研究進捗を報告。	4時間
第13回	<b>ゼミ内発表会</b> 発表資料を用いて、内部での発表を実施。	発表資料完成。	4時間
第14回	<b>卒業研究後期末発表会（前半）</b> 卒業研究前期期末発表会を行う	卒業研究後期末発表会の準備	4時間
第15回	<b>卒業研究後期末発表会（後半）</b> 卒業研究後期末発表会を行う	卒業研究後期末発表会の準備	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【スポーツ】</b>				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	4	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

4回生の専門演習では、本格的な卒業研究の遂行と、その成果を卒業論文としてまとめる作業が中心となります。みなさんは4回生の前期で、各自で調査・研究を行い、自らが設定した研究テーマについて、ある程度議論が深まっていると思います。4回生の後期は、これまで実施してきた調査・研究の内容をまとめ、本格的に論文を作成する作業が中心となります。専門演習6では、各自の研究の進み具合の確認および指導教員からの助言を中心として組み立てられます。なお、最終的な研究成果は、卒業論文発表会の場で報告することになります。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	自身の研究分野に関連した幅広い教養と知識の習得	卒業研究のバックグラウンドの知識として役立てる
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	研究を遂行する技術・能力の習得	卒業研究の自分自身で進めることができる
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		研究の課題発見
2．DP5.計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6.行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験（論文）の評価	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回16時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限  
場所： 研究室（西館2階）  
備考・注意事項： 上記以外の時間帯であっても、できる限り研究指導を行う。

### 授業計画

第1回	<b>専門演習6のガイダンス</b> 専門演習6の計画と諸注意を伝えるとともに、卒業論文執筆の具体的な計画を作成します。	具体的な論文作成スケジュールを検討する	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	---------------------	-------------------------

第2回	<b>本調査の検証・振り返り</b> 前期もしくは夏休みに行った本調査の結果についての振り返りを行います。	本調査について自分なりにまとめる	4時間
第3回	<b>後期中間発表会</b> これまでの論文の進捗状況についてプレゼンテーションを行い、副査教員を中心にコメントをもらいます。	中間発表会の準備を行う	4時間
第4回	<b>中間発表会の振り返り</b> 中間発表会における副査教員からのコメントに基づいて、卒業論文の執筆について指導教員と議論します。	本調査の結果をまとめる	4時間
第5回	<b>卒論の構成を考える</b> 卒論の全体構成・章立てについて検討します。	卒論本文の作成に取り掛かる	4時間
第6回	<b>卒論の構成を考える</b> 卒論の全体構成・章立てについて検討します。	卒論本文の作成に取り掛かる	4時間
第7回	<b>卒論執筆の準備</b> 卒論執筆に必要な資料およびデータを整理します。	自身の卒論内容に従って、必要な資料を入手する	4時間
第8回	<b>卒論ドラフトの作成</b> 卒論本文の執筆に取り掛かります。	卒論本文を執筆する	4時間
第9回	<b>卒論ドラフトの作成</b> 卒論本文の執筆に取り掛かります。	卒論の本文を執筆する	4時間
第10回	<b>卒論ドラフトの作成</b> 卒論本文の執筆に取り掛かります。	卒論本文を執筆する	4時間
第11回	<b>卒論ドラフトの完成</b> 卒論を大まかに完成させ、指導教員および副査教員からコメントをもらいます。	卒論本文の作成させる	4時間
第12回	<b>卒論ドラフトの再検討</b> 指導教員・副査教員からのコメントに従って卒論を改訂します。	卒論の校正をする	4時間
第13回	<b>卒論公聴会の準備</b> 卒論公聴会に向けての資料を作成します。	自身の論文を熟読し、公聴会に向けての準備をする	4時間
第14回	<b>卒業研究公聴会（前半）</b> 公聴会にて各自の卒業研究を発表します。	自分の卒論について理解を深め、質疑応答に対応できるようにする	4時間
第15回	<b>卒業研究公聴会（後半）</b> 公聴会にて各自の卒業研究を発表します。	自分の卒論について理解を深め、質疑応答に対応できるようにする	4時間

④

授業科目名	<b>専門演習6【スポーツ】</b>				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマを掲げて、研究計画、研究成果の作成および発表を行う。研究テーマの選定においては、研究の個人的意義・学術的意義・社会的意義から検討する。研究を進めていく上で、リサーチ・クエスションと仮説をの明確化に努め、次に、妥当な研究方法の選定し、その手法を体得する。研究方法は文献調査のみとせず、質問紙調査やヒアリング調査などの実施を旨とし、オリジナルデータの収集とその分析を主眼とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	幅広い知識と教養	スポーツを支える観点からの幅広い教養と知識の習得
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	専門知識と理解	スポーツマネジメントの専門知識とスキルの習得
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		研究の課題発見
2．DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3．DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験：論文・企画書の評価	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ） 忠恕の心を持ったコメント
試験：研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。その他に約90時間程度の論文作成に関わる学習が求められる。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限  
場所： 担当教員の研究室

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス</b> 研究進捗計画の確認を再度行い、各自のスケジュールを一覧化する。	卒業論文の完成イメージの作成 6時間
第2回	<b>卒業論文の作成に向けて</b> 専門演習5で決定した卒業論文テーマの妥当性、必要性、研究の目的について最終検討する。	先行研究・参考文献の収集、論文執筆の準備 6時間

第3回	<b>中間発表会</b> 中間発表会を行い卒業論文作成に向けた課題を明確にする。	中間発表会の準備	6時間
第4回	<b>調査結果まとめ</b> 調査結果を分析し、図表等にまとめる。先行研究との比較等も行う。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	6時間
第5回	<b>論文作成</b> 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	6時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表会の準備を行う	6時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表会の準備を行う	6時間
第8回	<b>調査結果まとめ</b> 調査結果を分析し、図表等にまとめる。先行研究との比較等も行う。	調査結果を分析し、図表等にまとめる。先行研究との比較等も行う。	6時間
第9回	<b>調査結果の検証</b> 調査結果の妥当性、信頼性を検討する。必要に応じて追加調査、再調査の実施も検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	6時間
第10回	<b>論文作成（結果と研究目的）</b> 調査結果と研究目的・研究方法の章の整合性を確認する。そのうえで、結果の章と研究目的・方法の章の執筆をすすめる。	論文の執筆	6時間
第11回	<b>論文作成（考察）</b> 研究目的と結果をふまえ、考察の章の執筆をすすめる。	論文の執筆	6時間
第12回	<b>論文作成（緒言）</b> 考察の内容をふまえ、緒言の章の執筆をすすめる	論文執筆	6時間
第13回	<b>論文作成</b> 論文全体を仕上げて内容構成や論旨、体裁等の確認を行う。	誤字脱字、論文形式の最終チェック	6時間
第14回	<b>公聴会</b> 公聴会（卒業研究前期期末発表会）を行う。	卒業研究後期期末発表会の準備を行う	6時間
第15回	<b>公聴会</b> 公聴会（卒業研究前期期末発表会）を行う。副査教員からのアドバイスを論文に反省させる	卒業論文の最終チェック	6時間

④

授業科目名	<b>専門演習6【スポーツ】</b>				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践する。また、古川研究室では、スポーツ政策に関連した研究課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習をすすめる。最終的に、卒業論文のみならず、批判的思考や論理的思考、議論する能力、質疑応答の能力が高まることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	スポーツ政策の幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツ政策の専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		研究の課題発見
2 . DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3 . DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験（論文・企画書の評価）	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が必要になります。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日1・2限（9：00～12：00）  
場所： 研究室 西館3F

### 授業計画

回	内容	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>専門演習6のガイダンス</b> 専門演習6の計画と諸注意を伝える。また、卒業研究を仕上げるポイントについて学ぶ。		4時間

第2回	<b>中間報告に向けた準備</b> 中間報告に向け、プレゼンテーションの準備を行う。 各々の研究進捗状況を確認する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	<b>中間発表会</b> 卒業論文の中間報告を発表する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> 中間報告会の振り返りを行う。 各々の研究進捗状況を確認する。	各自研究を進めてくること。	4時間
第5回	<b>先行研究の検索</b> 先行研究がテーマに沿ったものなのか否か、検討を行う。	先行研究を探してくること	4時間
第6回	<b>先行研究の整理</b> 先行研究を整理し、明らかになっていること、明らかになっていないことを明確にする	先行研究を読み込んでくること	4時間
第7回	<b>先行研究のまとめ</b> 先行研究をまとめ、リサーチエスチョンを設定する	先行研究をまとめてくること	4時間
第8回	<b>仮説の設定</b> 先行研究に基づいて仮説の設定を行う。	仮説の妥当性について検討する。	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する調査資料の検討</b> 各々の研究計画に則して、調査資料を確認する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第14回	<b>卒業研究 公聴会</b> 卒業研究前期末発表会を行う	卒業研究後期末発表会の準備を行う	4時間
第15回	<b>卒業研究 公聴会</b> 卒業研究後期末発表会を行う	卒業研究後期末発表会の準備を行う	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【スポーツ】</b>				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた。(全15回)				

### 授業概要

スポーツビジネスなどに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、事例調査、定量調査、定性調査について学び、各自の研究に活用していきます。岡田研究室では、事例分析や先行研究を通して経営学分野のさまざまな基礎知識を習得し、その中で学生とは個別に卒業研究論文と発表に向けて準備を行います

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	スポーツビジネスの幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツビジネスの専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		研究の課題発見
2 . DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3 . DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験(論文・企画書)	50%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性(グループ研究のみ) 忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎日4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が求められている

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 研究室

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>専門演習6のガイダンス</b> 専門演習の計画と諸注意を伝える。また、卒業研究を仕上げるためのポイントについて学ぶ	4時間
第2回	<b>抄録の作成</b>	4時間

	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する		
第3回	<b>卒業研究前期中間発表会</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表会の準備を行う	4時間
第4回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく	4時間
第5回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間
第6回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる	調査を実施するための資料を完成させる	4時間
第7回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施する	各自の研究に関する予備調査を実施する	4時間
第8回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する本調査の実施</b> 各自の研究に関する本調査を実施する	各自の研究に関する本調査を実施する	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する本調査の回収・集計・分枝</b> 研究テーマに関する本調査の回収・集計・分析を行う	研究テーマに関する本調査の回収・集計・分析を行う	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する本調査の考察</b> 研究テーマに関する本調査の考察を行う	研究テーマに関する本調査の考察を行う	4時間
第13回	<b>期末発表会に向けての準備</b> 期末発表会に向けての準備でパワーポイントを作成する	期末発表会に向けてパワーポイントを作成する	4時間
第14回	<b>卒業研究後期期末発表会（前半）</b> 卒業研究前期期末発表会を実施する	卒業研究後期期末発表会の準備を行う	4時間
第15回	<b>卒業研究後期期末発表会（後半）</b> 卒業研究後期期末発表会を実施する	卒業研究後期期末発表会の準備を行う	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【スポーツ】</b>				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツマネジメントに係る組織、資金、運営方法等について業務として取り組んできた。(全15回)				

### 授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践していきます。また、田村研究室では、スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツ組織等を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習をすすめます。各自が主体的に情報収集、事例研究、アンケート調査などを行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	スポーツビジネスの幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	スポーツイベント・施設・組織等の専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		研究の課題発見
2. DP5. 計画・立案力		研究課題の計画の立案を行う
3. DP6. 行動・実践		発表などの実践力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

論文・企画書の評価	40%	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	40%	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ） 忠恕の心を持ったコメント
研究発表の評価	10%	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容
期末レポート	10%	： 授業終了後のレポート

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が必要になります。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限目  
 場所： 個人研究室  
 備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス</b> 専門演習6の計画と諸注意を伝える。また、卒業研究を仕上げるポイントについて学ぶ。	4時間

第2回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	<b>中間発表会</b> 中間発表会を行う。	中間発表会に向けての準備	4時間
第4回	<b>研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成</b> テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	<b>抄録の作成</b> 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	4時間
第6回	<b>卒業研究前期中間発表会（前半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第7回	<b>卒業研究前期中間発表会（後半）</b> 卒業研究前期中間発表会を行う。	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第8回	<b>卒業研究前期中間発表会の振り返り</b> ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	4時間
第9回	<b>研究テーマに関する予備調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	<b>研究テーマに関する調査資料の作成</b> 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	<b>研究テーマに関する予備調査の実施</b> 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	<b>研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討</b> 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	<b>研究テーマに関する本調査の検討</b> 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第14回	<b>卒業研究後期末発表会・公聴会（前半）</b> 卒業研究前期期末発表会を行う。	卒業研究後期末発表会の準備を行う	4時間
第15回	<b>卒業研究後期末発表会・公聴会（後半）</b> 卒業研究後期末発表会を行う。	卒業研究後期末発表会の準備を行う	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【食】</b>				
担当教員名	高畑能久				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習（フィールドワークを含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当。（全15回）				

### 授業概要

この授業では、専門演習3・4・5での学びを踏まえ、自ら設定した研究課題を解決するために一連の調査研究の過程を通して見出した独自の知見や解決策を立案します。そして、学びの集大成としての卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表します。研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。食ビジネスの新たな価値創造と更なる変革を目指し、食の安全マネジメント、食と健康、食の持続可能性を中心とした研究領域に挑戦します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取り組む。

#### 目標：

自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂
5. DP10. 忠恕の心

自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。  
仮説を検証するために必要な検証手段、アクションプランを立案できる。  
自ら主体的に行動し、PDCAサイクルを回しながら実践できる。  
困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。  
誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

### 学外連携学修

有り（連携先：大阪府、JA全農大阪、NSW<sup>※</sup> 他）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ	20%	： 先行研究の調査レポート、仮説と研究計画、フィールド調査票および解析データ、研究概要などが適切であったかどうかを評価します。
中間・卒業論文発表	40%	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に回答できたかどうかを評価します。
試験（論文）	20%	： 指定された日時までに提出された卒業論文について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

必要に応じて、適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他にも約90時間程度の論文・企画書等の作成に関わる学修が求められる。

※テーマ毎の進捗状況に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

### 授業計画

第1回

#### オリエンテーションおよび卒業論文の執筆

卒業論文を執筆プロセスを学び、アクションプランを立てます。

卒業論文執筆のアクションプランを考えてきてください。

#### 授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<b>卒業論文の作成①（骨子を考える）</b> 卒業論文の骨子を考え、タイトル、章立て、目次を記述します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第3回	<b>ゼミ内中間発表会の準備</b> これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	発表練習を行ってください。	4時間
第4回	<b>中間発表（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第5回	<b>中間発表（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第6回	<b>卒業論文の作成②（はじめに）・題目届提出</b> 先行研究を踏まえ、はじめにの項では卒業研究の目的や意義を記述します。また、題目届に記入して提出します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第7回	<b>卒業論文の作成③（調査方法）</b> 仮説を証明するために実施した文献調査、フィールド調査などの具体的な方法を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第8回	<b>卒業論文の作成④（結果）</b> 前回記述した文献調査、フィールド調査などの結果を記述します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第9回	<b>卒業論文の作成⑤（考察）</b> 前回記述した文献調査、フィールド調査などの結果を踏まえ、考察を記述します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第10回	<b>卒業論文の作成⑥（引用・参考文献）</b> 卒業論文の中で引用した文章・図表の引用文献および参考文献を記述します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第11回	<b>卒業論文の修正</b> 卒業論文を仮提出し、内容・書式など不十分な箇所について追加・修正を行います。	各自で卒業論文のブラッシュアップを行ってください。	4時間
第12回	<b>卒業論文の再修正</b> 卒業論文を再提出し、内容・書式など不十分な箇所について追加・修正を行います。	各自で卒業論文のブラッシュアップを行ってください。	4時間
第13回	<b>卒業研究発表会の準備</b> 一連の研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	発表練習を行ってください。	4時間
第14回	<b>卒業研究発表会の予演会</b> 卒業研究の成果をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。発表に使用したパワーポイントは必要に応じて修正してください。	各自で予演会の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	<b>卒業研究発表会</b> 卒業研究の成果をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。また、指定された日時までに卒業論文を提出してください。	卒業研究全体の学びについて振り返りを行ってください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【食】</b>				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	講義および演習 グループまたは個人で卒業論文の作成および卒業研究発表を見据えた内容に取り組む。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

この授業では、専門演習3・4・5での学びを踏まえ、自ら設定した研究課題を解決するために一連の調査研究の過程を通して見出した独自の知見や解決策を提案します。そして、学びの集大成としての卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表します。研究の進め方、文献検索の方法、研究倫理など研究の基礎となる知識を習得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。卒業論文のテーマは食ビジネスの変革であり、特に消費者とのコミュニケーションを中心とした研究テーマを取り扱います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取り組む。

#### 目標：

自ら設定した課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂
5. DP10. 忠恕の心

自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。  
仮説を検証するために必要な検証手段、計画を立案できる。  
自ら行動に対してPDCAサイクルを回しながら実践できる。  
困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。  
誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ	20%	： 先行研究の調査レポート、仮説と研究計画、フィールド調査票および解析データ、研究概要などが適切であったかどうかを評価します。
中間・卒業論文発表	40%	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（論文）	20%	： 指定された日時までに提出された卒業論文（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

フードシステムの経済学  
時子山ひろみ著  
医歯薬出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その他に約90時間程度の論文・企画書等の作成に関わる学修が求められます。毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。専門演習1、2、3、4および5の単位を修得していること。

授業の順番や内容を一部変更する場合があります。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4時間目

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションおよび卒業論文の執筆</b> 卒業論文を執筆プロセスを学び、計画を立てます。	卒業論文執筆の計画を考えてきてください。 4時間
第2回	<b>卒業論文の作成①（骨子を考える）</b> 卒業論文の骨子を考え、タイトル、章立て、目次を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。 4時間

第3回	<b>ゼミ内中間発表会の準備</b> これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第4回	<b>コース内中間発表（1日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第5回	<b>コース内中間発表（2日目）</b> 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第6回	<b>卒業論文の作成②（はじめに）</b> 先行研究を踏まえ、はじめにの項では卒業研究の目的や意義を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第7回	<b>卒業論文の作成③（調査方法）</b> 仮説を証明するために実施した文献調査、フィールド調査などの具体的な方法を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第8回	<b>卒業論文の作成④（結果）</b> 前回記述した文献調査、フィールド調査などの結果を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第9回	<b>卒業論文の作成⑤（考察）</b> 前回記述した文献調査、フィールド調査などの結果を踏まえ、考察を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第10回	<b>卒業論文の作成⑥（引用・参考文献）</b> 卒業論文の中で引用した文章・図表の引用文献および参考文献を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第11回	<b>卒業論文の修正①（内容の確認）</b> 卒業論文を仮提出し、内容・書式など不十分な箇所について追加・修正を行います。	卒業論文の修正を行ってください。	4時間
第12回	<b>卒業論文の修正②（書式の確認）</b> 卒業論文を仮提出し、内容・書式など不十分な箇所について追加・修正を行います。	卒業論文の修正を行ってください。	4時間
第13回	<b>卒業研究発表会の準備</b> 一連の研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第14回	<b>卒業研究発表会の予演会</b> 卒業研究の成果をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。発表に使用したパワーポイントは必要に応じて修正してください。	各自で予演会の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	<b>卒業研究発表会</b> 卒業研究の成果をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。また、指定された日時までに卒業論文を提出してください。	卒業研究全体の学びについて振り返りを行ってください。	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【食】</b>				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	4
授業形態	演習（フィールド調査を含む）				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

専門演習3、4をふまえ、卒業論文の完成・卒業論文発表会に向け、研究を進めていきます。卒業研究のテーマとして、大きく二つの観点について取り扱います。まず、グローバル化において多様化する食環境のなかで、社会的背景を視野に入れ、問題点や課題を見だし、食ビジネスについて論理的に考察する力を培います。一方、産官学連携事業によるフィールドワークや調査によって、食を通じた地域活性化を図る企画立案から提案を行い、実践として社会に貢献する活動を行っていきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	食ビジネスにおける課題発見と分析	食ビジネス業界の背景を理解するとともに、課題を発見し、企画立案を行うことができる。
汎用的な力		情報収集や既存研究から、課題を発見することができる。
1．DP4. 課題発見		情報やニーズを分析したうえで、企画提案を行うことができる。
2．DP5. 計画・立案力		自分で考え、積極的に行動することで、PDCAを実践することができる。
3．DP6. 行動・実践		自身の役割を理解し、連絡や相談のコミュニケーションを図ることができる。
4．DP9. 役割理解・連携行動		道徳と思いやりを持ち、真剣に取り組む姿勢を身につけることができる。
5．DP10. 忠恕の心		

### 学外連携学修

有り（連携先：大阪府池田市「大阪池田チキチキ探検隊」）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内のワーク	20%	問題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうか評価します。
ゼミ内発表	10%	自らの主張を伝えられたか、相手の意見を理解し、論理的に検討できたかに基づいて評価します。
コース期末 卒業論文発表	35%	卒業論文のテーマについて、学術的な論理として構成されていたかどうか、ループリックに基づいて評価します。
試験（論文）	35%	卒業論文のテーマについて、学術的な論理として構成されていたかどうかに基づいて評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内で適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎日4時間の授業外学修が求められます。なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が求められます。

卒業論文に向けて、自主的に活動し、多面的かつ論理的に考察する力を養ってください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限  
場所： 研究室（西館2階）  
備考・注意事項： 授業内で案内する。

### 授業計画

回	内容	卒業研究の執筆スケジュールをたててください	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーションおよび卒業研究計画</b> 卒業論文を作成するための具体的な計画を立てます。	卒業研究の執筆スケジュールをたててください	4時間
第2回	<b>卒業論文の作成①タイトル・章立て</b> 論文全体の校正を組み立てます。研究の背景を考えます。論文の目的と意義を記述します。	卒業論文の構成を作成してください	4時間
第3回	<b>卒業論文の作成②序論、調査方法</b> 文献調査やフィールド調査の方法を記述します。発表原稿とパワーポイントの作成を行います。	卒業研究発表の準備をしてください	4時間

第4回	<b>卒業研究中間発表（1日目）</b> 卒業研究の発表と質疑応答を行います。 発表に対するコメントシートを作成します。	各自発表の振り返りを行ってください	4時間
第5回	<b>卒業研究中間発表（2日目）</b> 卒業研究の発表と質疑応答を行います。 発表に対するコメントシートを作成します。	各自発表の振り返りを行ってください	4時間
第6回	<b>卒業論文の作成③分析</b> 発表を振り返り、修正を行います。 資料や調査についての分析を見直します。	卒業論文の執筆を行ってください	4時間
第7回	<b>卒業論文の作成④分析見直し</b> 文献や調査結果により分析を行います。	卒業論文の執筆を計画に則り行ってください	4時間
第8回	<b>卒業論文の作成⑤考察</b> 考察により論文の結論を導きだします。	卒業研究の執筆を計画に則進めてください	4時間
第9回	<b>卒業論文の作成⑥引用文献</b> 脚注の確認と引用文献の執筆を行います。	卒業研究の発表練習を行ってください	4時間
第10回	<b>卒業論文の修正①修正</b> 仮提出を行い、不十分な箇所の追加・修正を行います。	発表に対する指摘やコメントをまとめ修正してください	4時間
第11回	<b>卒業論文の修正②追記</b> 仮提出を行い、不十分な箇所の追加・修正を行います。	卒業論文の執筆を見直してください	4時間
第12回	<b>卒業論文の修正③見直し</b> 仮提出を行い、不十分な箇所の追加・修正を行います。	卒業論文の執筆を行ってください	4時間
第13回	<b>卒業研究会発表の準備</b> 研究成果発表のためのパワーポイントと原稿を作成します。	卒業論文の執筆と発表の準備をしてください	4時間
第14回	<b>卒業研究発表会の予演会</b> 発表用パワーポイントの修正、発表原稿の修正を行います。	各自で発表の練習を行ってください	4時間
第15回	<b>卒業研究発表会</b> 卒業研究の成果を発表と質疑応答を行います。 パワーポイントを提出します。 指定された期日までに卒業研究論文を提出します。	各自で卒業論文のふりかえりを行ってください	4時間

授業科目名	<b>専門演習6【観光】</b>				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	観光ビジネスコース	開講時期	後期	単位数	4単位
授業形態	卒業論文の作成に必要な文献やデータの収集・分析および論旨の組み立てについて、全て学生主導で行います。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行企画・立案をおこなう。また、都市政策（修士）をもち、観光行政にも携わる。（全15回）				

### 授業概要

本授業では、観光地および観光ビジネスのマネジメントに関する卒業論文作成のための演習として、論文仕上げおよび研究発表をします。これまでの学習や実習成果などをもとに、学びの集大成としての卒業論文を執筆してもらいますので、その指導を中心とします。専門演習3・4・5での成果を踏まえ、自ら設定した研究課題を解決するための研究アプローチや、研究デザインについて具体的に検討し、卒業論文をまとめ上げます。受講者ご自身が主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	観光が直面している課題を解決する方法を探究	観光が直面している課題や問題点などについて、自らがその解決法を探ることによって、広がりつつある観光業界で活躍するための力が身に付けられる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		国の成長戦略の1つとして位置づけられている観光産業における課題について、自らがその解決方法を見つけられるようになる。
2．DP5. 計画・立案力		自ら設定した観光における課題を解決するための方法を計画・立案し、実行できるようになる。
3．DP6. 行動・実践		計画に基づき、研究調査や卒業論文の執筆に取り組むことによって、行動力や実践力を身に付けられる。
4．DP7. 完遂		決められた期日までに、定められた書式に基づきやり遂げる力が身に付けられる。

### 学外連携学修

有り（連携先：各テーマ関連）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験（論文）	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義、実践力として論理的構成（説得性）、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂、忠恕として不適切な内容の有無
研究過程	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメント
研究発表	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ・オリジナリティ、データと先行研究の参照、実践力として論理的構成（説得性）、資料（含スライド）の活用、発表技術、発表時間、協調性として質疑応答
	50%
	30%
	20%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課程」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2時限（10:40～12:10）  
 場所： 西館2階 個人研究室15  
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp  
 メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、卒業論文進捗状況の確認</b> 卒業論文の進捗状況について確認する。	中間報告会でのコメントや質問に基づき、卒業論文全体の構成などについて検討する。 4時間
第2回	<b>卒業論文の作成（1）中心命題の確認</b> 論理的に矛盾している所はないか、結論に導くための理論や裏付けとなる資料は充分であるか確認する。	卒業論文の執筆 4時間
第3回	<b>卒業論文の作成（2）近接問題の検討</b> 論理的に矛盾している所はないか、結論に導くための理論や裏付けとなる資料は充分であるか確認する。	卒業論文の執筆 4時間

第4回	<b>卒業論文の作成（3）証拠の積み上げ</b> 論理的に矛盾している所はないか、結論に導くための理論や裏付けとなる資料は充分であるか確認する。	卒業論文の執筆	4時間
第5回	<b>卒業論文の作成（4）証拠の選択</b> 論理的に矛盾している所はないか、結論に導くための理論や裏付けとなる資料は充分であるか確認する。	卒業論文の執筆	4時間
第6回	<b>卒業論文の作成（5）表現の検討</b> 論理的に矛盾している所はないか、結論に導くための理論や裏付けとなる資料は充分であるか確認する。	卒業論文の執筆	4時間
第7回	<b>卒業論文進捗状況の報告（1）発表</b>  これまでの卒業論文の進捗状況について発表する。	卒業論文の目的と目的を達成するためのプロセスや結論に導くための裏付けの適性性について確認する。	4時間
第8回	<b>卒業論文進捗状況の報告（2）討論</b>  これまでの卒業論文の進捗状況について発表する。	卒業論文の目的と目的を達成するためのプロセスや結論に導くための裏付けの適性性について確認する。	4時間
第9回	<b>卒業論文の作成（6）修正</b> 全体の構成や書式などを確認しながら、修正・追加する。	卒業論文を修正する。	4時間
第10回	<b>卒業論文の作成（7）新しいデータの追加</b> 全体の構成や書式などを確認しながら、修正・追加する。	卒業論文を修正する。	4時間
第11回	<b>卒業論文の作成（8）完成</b> 全体の構成や書式などを確認しながら、修正・追加する。	卒業論文を修正する。	4時間
第12回	<b>卒業論文発表会の準備</b> 卒業論文の成果を発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第13回	<b>ゼミ内で卒業論文発表会のリハーサル</b> 全体の卒業論文の発表会に向け、ゼミ内でリハーサルを行う。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	<b>卒業論文発表会（1）パワーポイント作成</b> 卒業論文の成果をパワーポイントを用いて発表。	卒業論文全体の学びについての振り返り。	4時間
第15回	<b>卒業論文発表会（2）発表</b> 卒業論文の成果をパワーポイントを用いて発表。	卒業論文全体の学びについての振り返り。	4時間

授業科目名	<b>経済学概論</b>				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

この講義では、「経済入門」を履修し終えた学生を対象に、初級レベルの経済学の内容について学びます。「経済入門」では、現実の経済における様々な話題やトピックを取り上げましたが、この講義では、経済の動きを、経済学の理論に従って体系的に理解することを目指します。講義は、経済学の基本理論である、「ミクロ経済学」および「マクロ経済学」のエッセンスについての解説が中心となります。経済学は非常に論理的な学問です。従って、受講生には、「自分自身で思考する能力」が求められます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な考え方の習得。	世の中の経済問題について、ミクロ的視点とマクロ的視点、両面からの見方ができるようになる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	経済学の理論を前提とした論理的な思考能力を身に付ける。	さまざまな経済事象について、論理的な分析ができるようになる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		世の中の経済問題の本質を論理的に理解することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末試験	80%	： 経済学の基礎理論を理解し、それを踏まえて論理的な思考ができていのかどうかを評価します。
小レポート	20%	： 原則、毎回の授業で提出を求めます。授業内容を踏まえた上で、きちんと内容が記述されているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

教科書：なし。講義ノート、必要な資料は配布します。  
参考文献：初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。本講義では、現実社会の問題を上げるために、時事問題に関する知識は必須です。そのために、新聞購読、ニュースを見る習慣を身に付けて下さい。なお、授業内での難解な数式の使用は極力避けませんが、簡単な計算やグラフは理解できるようにしておいて下さい。  
※本授業を履修する場合は、必ず大学共通科目の「経済入門」を履修して下さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日の15時以降

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（水曜日午後の予定）にて受け付けます。

### 授業計画

回	内容	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。(経済学が誕生した背景について考える)	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス～本科目の学びについて～</b> 講義に関するガイダンス、経済入門の内容を復習しながら本授業への導入を図ります。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。(経済学が誕生した背景について考える)	4時間
第2回	<b>経済理論への導入</b> 社会科学の中での経済学の位置づけ、またミクロ経済学とマクロ経済学の概念について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。(合成の誤謬という言葉について考える)	4時間
第3回	<b>消費者の理論</b> 市場における消費者の行動について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。(需要の価格弾力性について考える)	4時間
第4回	<b>生産者（企業）の理論</b> 市場における生産者（企業）の行動について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。(「豊作貧乏」のメカニズムを考える)	4時間
第5回	<b>市場原理の基礎</b> 需要・供給と市場均衡について学びます。また市場原理と価格調整メカニズムについて理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。(価格調整メカニズムについて論理的に理解する)	4時間

第6回	<b>市場原理と市場の失敗（１）～市場原理と独占～</b> 「独占」の問題点について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (独占がなぜ発生するのかを考える)	4時間
第7回	<b>市場原理と市場の失敗（２）～公共財・外部性～</b> 公共財および外部性の概念について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (どのような形で公共財が提供されるのが望ましいのかを考える)	4時間
第8回	<b>市場原理と市場の失敗（３）～市場原理と情報の非対称性～</b> 市場取引の中で、情報の非対称性が引き起こす問題について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (レモンの原理について論理的に考える)	4時間
第9回	<b>マクロ経済学への導入</b> GDPと国民経済計算の概念について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (マクロ経済指標について理解を深める)	4時間
第10回	<b>マクロ経済とGDPの決定</b> 均衡国民所得の概念について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (失業が発生するメカニズムについて考える)	4時間
第11回	<b>財市場の分析（１）～消費関数の分析～</b> 45度線分析を通して消費関数および財市場の均衡について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (財政政策の効果について考える)	4時間
第12回	<b>財市場の分析（２）～投資関数の分析～</b> 投資関数の分析を通して財市場の均衡について考えます。またIS曲線の導出について説明します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (IS曲線の経済学的意味について考える)	4時間
第13回	<b>貨幣市場の分析</b> 金融政策と貨幣市場の均衡について学びます。また、LM曲線の導出について説明します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (LM曲線の経済学的意味について考える)	4時間
第14回	<b>IS - LM分析</b> IS-LM分析の基礎について学びます。またIS-LM分析を用いながら、マクロ経済政策の効果について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (IS-LM分析のフレームワークを理解する)	4時間
第15回	<b>まとめ</b> これまでの講義内容を振り返りながら、経済学の本質についても一度考えてみます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (講義内容を振り返りながら要点をまとめる)	4時間

授業科目名	<b>政治学</b>				
担当教員名	西直美				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

政治学を学んで得をすることがあるとすれば、自分たちの知らないところで知らないルールが勝手に決められてしまった、ということとはなくなるはずだという点であろう。ルールを作っているのが、いわゆる国(くに)である。現代社会に生きるわれわれが抱える政治的な問題を理解するためには、現代国家について理解する必要がある。本講義は、現代国家の特質を理解するとともに、政治学の基本的な考え方を身につけることを目的とした初学者向けの講義である

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

政治に関する基礎知識を修得する。

#### 目標：

政治を多角的に考える力を身につけることができる。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

現代政治の特質や、日本を取り巻く国際政治の諸問題を理解することにより、現代社会そのものへの認識を深めることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

ミニッツペーパー

#### 評価の基準

： 授業のポイントや疑問点、理解度が適切に記述されているかどうかで評価を行う。  
50%

定期試験

： 政治学の基礎知識の理解を問う。また、授業で学んだ政治学のテーマについて、自分の意見を表現できる力を修得しているかどうかで評価を行う。  
50%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

苅部直・宇野重規・中本義彦編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011年）  
砂原庸介・稗田健志・多湖淳『政治学の第一歩』（有斐閣、2015）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
授業中の私語や途中入室・途中退室、携帯電話・スマートフォンの操作など、担当者や他の受講者への迷惑行為には厳しく対処する。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後

場所： 授業の教室

### 授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p><b>政治学の考え方</b></p> <p>授業の内容と評価の方法について説明する。政治とはなにか、政治学とはどのような学問か、そして政治学の基本的な考え方について概観する。</p>	4時間
第2回	<p><b>国家という枠組み</b></p> <p>国家はどのように成立したのかについて学び、近代国民国家と呼ばれるものにはどのような特徴があるのかについて考える。</p>	4時間
第3回	<p><b>さまざまな政治体制（民主主義）</b></p> <p>民主主義とはどのような政治体制のことをいうのかについて学び、「民主的」や「民主化」の意味することについて考える。</p>	4時間
第4回	<p><b>さまざまな政治体制（非民主的体制）</b></p> <p>民主的ではない政治体制とはどのようなものなのかについて学び、民主的な体制と比較した場合のメリットやデメリットについて考える。</p>	4時間

第5回	<b>選挙と投票</b>  民主主義の基盤ともいえる選挙と投票について学び、政治参加について考える。	教科書の該当箇所とノートを見直し、さまざまな選挙制度とその問題点について復習すること。	4時間
第6回	<b>政党制度</b>  政党が果たす役割について学び、政党のタイプや政党間の関係性、社会とのつながりについて考える。	教科書の該当箇所とノートを見直し、政党が社会において果たす役割について復習すること。政党組織と政党システムについて理解すること。	4時間
第7回	<b>執政制度</b>  国家としての意思決定を行うリーダーの機能である執政について学び、執政制度の違いがもたらす政治の特徴について考える。	教科書の該当箇所とノートを見直し、大統領制と議院内閣制の違いについて理解すること。	4時間
第8回	<b>官僚と利益集団</b>  官僚や利益集団の役割について学び、国家の問題を解決するために策定される公共政策と官僚や利益集団とのかかわりについて考える。	教科書の該当箇所とノートを見直し、官僚制の特徴と利益団体の役割について復習すること。公共政策が策定されるプロセスについて理解すること。	4時間
第9回	<b>まとめ</b>  これまでの講義で得た知識を復習しながら、新興国と呼ばれる国の政治の特徴について考える。	授業中に配布する資料とノートを見直し、民主化、選挙制度、政党制度、執政制度、官僚制について復習すること。その上で、関心のある新興国の事例に当てはめて考察すること。	4時間
第10回	<b>連邦制と地方制度</b>  国家の中により狭い地域を統治する政府が存在する連邦制について学び、地方自治や地方分権について考える。	参考書の該当箇所とノートを見直し、連邦制の特徴と問題点を復習すること。その上で、地方自治・地方分権について理解すること。	4時間
第11回	<b>国内政治と国際政治</b>  国内政治と国際政治の大きな違いは何なのかについて考える。	参考書の該当箇所とノートを見直し、近代国民国家を中心に構成される国際政治の特徴であるアナーキーという概念について理解すること。	4時間
第12回	<b>安全保障と平和</b>  安全保障の考え方について学び、国際政治の最も古い問である、戦争をどう制御し平和をどう維持するのかという課題について考える。	参考書の該当箇所とノートを見直し、パワー、同盟、覇権といった概念を復習すること。	4時間
第13回	<b>国際政治経済</b>  国際政治と経済との関係について学び、経済的な相互依存が進む現代における国際政治について考える。	参考書の該当箇所とノートを見直し、経済的相互依存関係の深化と国家間の経済協力について理解すること。	4時間
第14回	<b>主権国家の相対化</b>  非国家主体が国際社会に及ぼす影響について学び、国際人権やテロリズムの問題について考える。	参考書の該当箇所とノートを見直し、NGOや多国籍企業、テロ組織といった非国家主体が国際政治に与える影響について理解すること。	4時間
第15回	<b>授業のまとめ</b>  これまでの授業の内容の復習を行う。	講義の後半部分で扱ってきた国際政治の特徴について復習し、関心のある地域や事例について当てはめて考察すること。	4時間

授業科目名	<b>法学概論</b>				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

働き方改革に示されるような大きな社会変化が起きているなか、働く人がより良い職業人生を実現していくためには、働き方に関する法律の知識を持つことが望まれます。ただし、それは労働者の権利に関する知識だけではなく、キャリアや仕事の様々な場面で使える実践的な知識でなければなりません。そこで、本講義では、日本の労働市場の慣行や、企業の人事労務管理の考え方や実態などを踏まえて、これから職業キャリアを開始しようとしている大学生が仕事やキャリアについて考える上で求められる知識を身につけることを目指します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

働き方とキャリアに関する法律知識の習得と問題意識の醸成

#### 目標：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を身につけ、政治問題や社会問題についてより深く理解できる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。

他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

<評価基準（定期試験・授業中課題）>  
 S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。  
 A評価：到達目標を十分に達成している。  
 B評価：到達目標を達成している。  
 C評価：到達目標を最低限達成している。  
 D評価：到達目標を達成していない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	60%	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30%	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10%	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大内伸哉	『雇用社会の25の疑問—労働法再入門—（第3版）』	・ 弘文堂	・ 2017年

### 参考文献等

①大内伸哉（著）『最新重要判例200 労働法〔第4版〕』（弘文堂・2016年）、②大内伸哉（著）『AI時代の働き方と法—2035年の労働法を考える』（弘文堂・2017年）、③水町勇一郎（著）『労働法入門』（岩波書店・2011年）、④中央大学法学部（編）『高校生からの法学入門』（中央大学出版部・2016年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 ・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。  
 ・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜5時限目  
 場所： 西館3階個人研究室  
 備考・注意事項： また、メールも活用してください。アドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jpです。

授業計画		授業外学習課題にか かかる目安の時間
第1回	<p><b>私たちにあって、働くとはどういうことなのか</b></p> <p>(1) 働くのは生きるため？ (2) 働く目的と理想の働き方 (3) 勤労義務の憲法上の位置づけ (4) 勤勉の美德のイデオロギー性</p>	<p>テキストの第25話を読み、「働き方改革」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p><b>社員は、会社の転勤命令に、どこまで従わなくてはならないのか</b></p> <p>(1) 転勤は雇用社会の掟？ (2) 転勤に対する同意とは (3) 転勤命令権の根拠 (4) 転勤命令権の濫用</p>	<p>テキストの第2話を読み、「転勤命令」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p><b>会社が違法な取引に手を染めていることを知ったとき、社員はどうすべきか</b></p> <p>(1) 社員の告発はハードルが高い (2) 内部告発者に対する解雇は可能なのか (3) 公益通報者保護法とその限界 (4) 内部通報制度の実態</p>	<p>テキストの第4話を読み、「内部通報制度」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p><b>労働者には、どうしてストライキ権があるのか</b></p> <p>(1) 消えつつあるストライキ文化 (2) ストライキに対する温度差 (3) ストライキ権の法的性格 (4) ストライキ権の沿革</p>	<p>テキストの第5話を読み、「ストライキ権」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p><b>会社に採用の自由は、どこまであるか</b></p> <p>(1) 受付嬢に採用されるのは (2) 法律上明文で禁止されている採用差別 (3) 採用の自由とその制約 (4) 採用の自由と解雇の制限</p>	<p>テキストの第7話を読み、「採用の自由」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p><b>会社は、どのようにすれば社員を解雇することができるか</b></p> <p>(1) 許されるが、許されない解雇 (2) 整理解雇の4要件 (4要素) (3) 解雇ルールの見直し (4) 望ましい解雇規制</p>	<p>テキストの第8話を読み、「解雇ルール」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p><b>会社は、社員のSNSにどこまで規制をかけてよいのか</b></p> <p>(1) 社員の不祥事を防止するためには？ (2) 社員の人格的利益 (3) 職務専念義務 (4) SNSの利用規制とその限界</p>	<p>テキストの第10話を読み、「職務専念義務」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p><b>会社は、なぜ社員のメンタルヘルスに配慮しなければならないのか</b></p> <p>(1) 二つの電通事件 (2) 東芝裁判 (3) 過労死等の労災補償状況 (4) 業務起因性</p>	<p>テキストの第11話を読み、「メンタルヘルス」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p><b>ジョブ型会社が到来したら、雇用システムはどうなるか</b></p> <p>(1) ジョブ型とメンバーシップ型 (2) 正社員とは (3) 職務限定の労働契約は可能か (4) 職務限定の合意と解雇</p>	<p>テキストの第12話を読み、「ジョブ型会社」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p><b>正社員と非正社員との賃金格差は、あってはならないものか</b></p> <p>(1) 賃金には多様な顔がある (2) 賃金格差の原因 (3) 丸子警報器裁判 (4) 非正社員の低処遇問題</p>	<p>テキストの第14話を読み、「賃金格差」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p><b>障害者の雇用促進は、どのようにすれば実現できるか—「合理的配慮」の法的意味についての日米の違い</b></p> <p>(1) 差別禁止アプローチと雇用率アプローチ (2) 障害者雇用促進法の雇用率アプローチ (3) 障害者雇用促進法の2013年改正 (4) 量的アプローチと質的アプローチ</p>	<p>テキストの第16話を読み、「障害者雇用促進法における合理的配慮」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p><b>日本は外国人労働者にどのように立ち向かうべきか—外国人労働者政策の国際比較—</b></p> <p>(1) 労働者としての外国人 (2) 入管法政策 (3) 外国人労働政策の闇—「技能実習」という名のチープレイバー (4) 高度外国人材の受入</p>	<p>テキストの第19話を読み、「技能実習制度」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p><b>ホワイトカラー・エグゼンプションの導入は、なぜ難しいのか—日本と欧米の政権交代—</b></p> <p>(1) 欧米の政権交代 (2) 政治思想と経済政策 (3) 日本の政権交代 (4) 失業率の推移</p>	<p>テキストの第20話を読み、「ホワイトカラー・エグゼンプション」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p><b>私たちは、どうして長時間労働で苦しんでいるのか—世界の労働時間—</b></p> <p>(1) 過労死は日本特有？ (2) 世界の労働時間 (3) なぜ労働時間規制は機能してこなかったのか (4) 時間外労働の上限はあるのか？</p>	<p>テキストの第22話を読み、「労働時間規制」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p><b>労働者派遣は、なぜたたかれるのか</b></p> <p>(1) 政争の具とされる労働者派遣 (2) 労働者派遣という働き方 (3) 労働者派遣の自由化と派遣労働者の保護 (4) 労働者派遣法はどうあるべきか</p>	<p>テキストの第23話を読み、「労働者派遣」とは何か調べておこう。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	<b>民法Ⅱ</b>				
担当教員名	梶座三千子				
学年・コース等	2・3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	弁護士として法律事務所の所属し、民事・家事事件を中心的に取り扱っている（全15回）。				

### 授業概要

財産法と家族法を学ぶ。財産法では物に対する権利（物権）と人に対する権利（債権）について、家族法では離婚と相続について、基本的な知識を習得しながら、実際の事例における争点がどのような価値観のぶつかり合いなのか、そのぶつかり合いの中でどのように論理的に結論が導かれていくのか、導かれた結論は社会的にも受け入れられるものなのか等、結論までの過程を追う。そうした作業を通じて、民法の私的財産及び権利義務関係の整理、家族関係に関する価値観を学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

#### 具体的内容：

基本的な知識を習得し具体的な事例について法的に理解する

#### 目標：

基本的な知識を習得して、具体的な事例について法的に捉えられるようになる

事例分析を通じて、多様化した社会問題を法的に理解する知識が獲得できる。

それぞれの立場における考え方を理解でき、当該立場における意見を伝えることができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート

： 事案を把握して、争点を抽出して整理したうえで、1つの結論への過程を理論的に文章化できているかという観点から評価する。講義で得た知識を使用して、一定レベルの分析ができていれば合格とする。

70%

講義中の課題

： 提出課題は、各回2点×15回とし、講義内容を理解していれば2点とする。

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・参考文献は授業の各回で紹介しします。
- ・教科書は指定せず、毎回、講義レジュメを配布します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後の時間帯

場所： 授業教室

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>物権と債権</b>  物権とは何か、債権とは何かを検討しながら、民法の構造を概説する。	4時間
第2回	<b>物権的請求権と物権変動（1）不動産登記の基本的構造</b>  物権的請求権の種類を踏まえ、物権の移転時期、登記を要する物権変動など主に不動産登記に関する物権変動を概説する。	4時間
第3回	<b>物権的請求権と物権変動（2）登記に関する争点</b>  登記に関する重要判例を概説する。	4時間
第4回	<b>所有権</b>  物権の代表である所有権について概説する。	4時間
第5回	<b>担保物権（1）抵当権</b>  抵当権の基本的制度とともに、その効力について概説する。	4時間

第6回	<b>担保物権（２）留置権その他</b>  留置権や先取特権、非典型担保について概説する。	留置権・先取特権・非典型担保についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第7回	<b>債権の種類とその実現</b>  債権法の基本原則、債権の種類を踏まえ、相殺制度、弁済について概説する。	債権の種類とその実現についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第8回	<b>賃貸借契約</b>  財産非移転型契約の代表である賃貸借契約について概説する。	賃貸借契約についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第9回	<b>役務提供型契約</b>  雇用契約、請負契約、委任契約について概説する。	役務提供型契約についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第10回	<b>離婚制度</b>  法定の離婚原因について事例を挙げて紹介し、有責配偶者からの離婚請求事件を取り上げる。	離婚制度についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第11回	<b>財産分与</b>  財産分与の基本的な考え方を概説し、具体的な財産について分与方法を検討する。	財産分与についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第12回	<b>親子関係</b>  親子関係に関する事例を踏まえ、家族制度の在り方を検討する。	親子関係についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第13回	<b>相続人の範囲と相続分</b>  基本的な相続関係、相続分を概説し、重要判例を解説する。	相続人の範囲と相続分についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第14回	<b>遺産の範囲</b>  具体的な財産が遺産に含まれるか否かについて、基本的な考え方を概説のうえ、具体例で検討する。	遺産の範囲についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間
第15回	<b>遺言・遺留分</b>  遺言についてその効力と執行について概説し、遺留分制度にも言及する。	遺言・遺留分についての講義内容を振り返り、配布資料等を読み返して理解することに努める。	4時間

授業科目名	<b>情報社会論</b>				
担当教員名	藤本良介				
学年・コース等	2・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本講義は、情報化の進んだ社会における情報や知識の持つ意味や価値について再考し、現代社会の新たな潮流を捉えながら、近未来の社会について問題意識を深めることを目的とする。印刷技術の発明からインターネットの登場によるメディアの革新、産業革命、情報技術革命を経て、ICT技術の社会への浸透に伴う情報や知識のあり方の変化について、現実の諸問題の事例を取り上げながら多角的な視点より検討を加え、自らが生きる社会について考察する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

情報社会に関する知識

#### 目標：

情報化の動向と諸問題について説明することができる

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

情報社会に関する問題意識を持ち、想定される諸問題について自分の考えを述べる事ができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

平常課題

：講義内でテーマごとに課題を提示する。この課題に対する取り組み態度および回答について、主体性・論理性・問題意識の観点から評価する。

50%

最終課題レポート

：講義で取り扱った内容からテーマを選定してレポートにまとめる。講義内容に準拠しているか、資料等の調査ができていないか、意見が明確に述べられているかを基準に評価する。

50%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

P. F. ドラッカー著（上田惇生 訳）『ネクスト・ソサエティ』ダイヤモンド社、2002年  
この他、講義内において随時紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後の時間帯

場所： 授業教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
アドレス：r.fuji.edu@gmail.com  
メールには必ず氏名と所属を書くこと。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス：情報社会論マッピング</b> 情報社会に関して考えるための観点について整理し、全体を俯瞰する。	興味・関心のあるニュースを調べておく 4時間
第2回	<b>伝達のプラットフォーム</b> メディアの発展とそれぞれの特徴について学び、プラットフォームの変化に伴うコミュニケーションの変容について考察する。	伝達手段の世代間における感覚的な違いについて考察しておく 4時間
第3回	<b>閉じていくコミュニケーション</b> インターネットが登場し、ソーシャルネットワークワーキングサービスが普及する中で、個々が触れる情報がフィルタリングされている状況について考える。	身近に利用しているメディアについて整理しておく 4時間
第4回	<b>インターネットの中立性と情報格差</b> インターネットの中立性が崩れることが、新たな情報格差を生み出し、社会問題化する可能性について考える。	情報格差の事例を調べておく 4時間
第5回	<b>情報社会における倫理と道徳性</b> 情報化に伴う社会の変化と、人々が形成する倫理観・道徳観の変容について考える。	SNSなどで問題となった事例を調べておく 4時間
第6回	<b>知識社会の到来</b>	働きたい企業について調べておく 4時間

	第四次産業革命と呼ばれる情報革命と、事業・経営の変化について考える。		
第7回	<b>ナレッジ・マネジメントとイノベーション</b> 知識の価値が増大する時代において、知識を創出するマネジメント手法や知的財産の管理について学ぶ。	興味・関心のある製品についてどのような知的財産が関係しているかを調べておく	4時間
第8回	<b>ICTによる働き方の転換</b> ICTによって実現される時間・場所に制限されない働き方について考える。	労働白書について調べておく	4時間
第9回	<b>信頼のプロトコル</b> 通信内容の秘匿技術の展開と、新たに登場した信頼性担保の技術について学ぶ。	仮想通貨について調べておく	4時間
第10回	<b>情報社会における危機管理</b> 災害や緊急時における情報管理の在り方について、事例をもとに考える。	大学の災害時対応マニュアルについて調べておく	4時間
第11回	<b>全てがインターネットにつながる時代</b> あらゆるモノがインターネットに接続されることによる変化について考える。	IoTをキーワードにニュースを調べておく	4時間
第12回	<b>膨大なデータが可能にするもの</b> ビッグデータが利用される領域とその可能性、課題について考える。	ビッグデータをキーワードにニュースを調べておく	4時間
第13回	<b>機械は人間を超えるのか</b> 人工知能が活用される領域と今後の影響力、危惧される問題について考える。	人工知能をキーワードにニュースを調べておく	4時間
第14回	<b>オーダーメイドの大衆化</b> 3Dプリンターの発展と、ものづくりのデジタル化による影響について考える。	3Dプリンターをキーワードにニュースを調べておく	4時間
第15回	<b>技術による社会変革</b> 講義全体を振り返り、ICTをはじめとしたテクノロジーが今後引き起こすであろう社会変革について考える。	講義全体の復習をしておく	4時間

授業科目名	<b>国際経済学</b>				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

この講義では、経済学の応用分野である国際経済学の理論に関する知識を修得し、国際社会における様々な問題について考察を深めていきます。前半の講義では、国際経済学の諸理論を概観し、経済学的な思考方法をトレーニングします。後半の講義では、国際経済学の理論を踏まえて、現実の国際政治・経済のトピックを取り上げながら、問題の本質について検証していきます。講義で取り上げるトピックは、いずれも国際経済の重要な論点であり、国際ビジネスの世界で生きていく上でも有用な知識となるでしょう。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

世界で何が起きているのか、国際経済の諸問題を理解し、その本質について考察を深める。

#### 目標：

経済学的視点から、国際経済問題について論理的な思考・議論ができるようになる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

国際経済の問題について、表層的な議論のみならず、その本質を見極める力を身に付ける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末試験	70%	： 国際経済学の理論の基礎を理解し、それを踏まえて国際経済に関する時事問題をきちんと分析できているかを評価します。
小レポート	20%	： 原則、毎回の授業で提出を求めます。授業内容を踏まえた上で、きちんと内容が記述されているかを評価します。
中間レポート	10%	： 講義内容に関連したレポートの提出を求めます（1回）。授業内容を的確に理解した上でレポートが作成されているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。本講義の内容を深く理解するためには、国際社会の動きを正しく理解することが必須です。新聞やニュースなどを通して、国際情勢に常に注意を払ってください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日の15時以降

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（水曜日午後の予定）にて受け付けます。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス～国際経済学への導入～</b>  講義に関するガイダンス、経済学の内容を復習しながら国際経済学を学ぶ意味について考えます。	4時間
第2回	<b>国際経済学についての概説</b>  「国際経済学」に関する理解を深めます。	4時間
第3回	<b>貿易のしくみ（1）～貿易の諸理論について～</b>  なぜ貿易が発生するのか、貿易に関する諸理論を紹介します。	4時間
第4回	<b>貿易のしくみ（2）～保護貿易と自由貿易～</b>  自由貿易と保護貿易のメリット・デメリットについてそれぞれ説明し、貿易政策のあり方について考えます。	4時間

第5回	<b>貿易のしくみ（3）～世界貿易体制の変遷～</b> 第二次世界大戦後の世界の貿易体制を中心に、GATTからWTOにつながる貿易制度の変遷および問題点について講義します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (WTO交渉の問題点について考える)	4時間
第6回	<b>国際金融（1）～資本移動と為替制度～</b> 現代の為替制度の概要を理解し、為替レート決定のについて学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (為替レートの変動が国内経済に与える影響について考える)	4時間
第7回	<b>国際金融（2）～国際通貨制度の変遷～</b> 第二次世界大戦後、国際通貨制度がどのように変化してきたのかを学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (現在の国際通貨制度の概要と問題点について考える)	4時間
第8回	<b>経済統合（1）～経済統合の理論～</b> 地域経済統合のプロセスについてメリット・デメリットを踏まえながら学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (講義内容を踏まえて、実際の経済統合の事例を分析する)	4時間
第9回	<b>経済統合（2）～EUのケース・スタディ～</b> 欧州における経済統合の歴史と現状について経済学的視点から学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (EUが直面する問題の本質について考える)	4時間
第10回	<b>経済開発（1）～貧困のメカニズム～</b> 貧困の定義について説明し、なぜ貧困の要因について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (「貧困の罌」について理解を深める)	4時間
第11回	<b>経済開発（2）～国際経済協力のしくみ～</b> 貧困削減に向けた、国際的な取り組みを紹介します。また国際機関の役割についても説明します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (どのような形の国際経済協力が効果的なのかを考える)	4時間
第12回	<b>経済開発（3）～貧困削減に向けて～</b> 短編のドキュメンタリー映画を見ながら、貧困削減に向けたさまざまな取り組みについて学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (フェアトレードの経済効果について考える)	4時間
第13回	<b>国際経済と環境問題</b> 経済活動と環境問題の関係について理解を深めます。また地球規模での環境問題を把握し、国際的な取り組みについても学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (地球温暖化防止に向けた国際的取り組みについて考える)	4時間
第14回	<b>日本におけるグローバル化の諸相</b> 日本を取り巻くさまざまな国際経済問題の現状と課題について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (アジアにおける経済統合と日本経済の関係について考える)	4時間
第15回	<b>講義のまとめ</b> 講義全体を振り返りながら、国際経済学的な考え方を復習します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (講義内容を振り返りながら要点をまとめる)	4時間

授業科目名	<b>産業経営史</b>				
担当教員名	都築晶				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

この授業では、日本企業の経営の個性、すなわち「日本的経営」の特徴をよび成立過程について説明をする。「日本的経営」と知られている経営現象は、第2次大戦後の高度成長期に全面的に開花した。「日本的経営」論はこの時に始まった。本講義では、「日本的経営」の元となった近代以降から、それが開花した現代までの期間について、その時々時代の背景とあわせ主要な産業の事例をもとに「日本的経営」がどのように展開し、現在に影響を与えているかを説明する。期末試験の他に中間のレポートを課す予定である。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1．DP1.幅広い教養やスキル	産業、経営に対する知識	歴史的経緯を通じて日本の現状を理解する。
<b>汎用的な力</b>		
1．DP4.課題発見		企業や産業について、自ら興味を持ち調査、情報収集する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

レポート

#### 評価の基準

： 学生自ら興味を持った企業、ないし産業を対象として、それらの設立経緯、現状、経営上の強み、あるいは課題についてしっかりまとめているかどうかで評価する。

20%

試験

： 授業内容を中心に出席。しっかりと内容を理解しているかを基準に評価する。

80%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

宮本又郎ほか著『日本経営史』有斐閣、2007年、  
その他参考書は授業中に紹介する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

**時間：** 授業時間の前後の時間帯  
**場所：** 授業教室  
**備考・注意事項：** 原則として授業の前後に質問を受け付ける。  
緊急の場合は教務科に問い合わせること。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<b>ガイダンスー学びのポイントに関する解説ー</b> 産業経営史を学ぶ意義について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等。	4時間
第2回	<b>近世における企業経営ー三井家についてー</b> 江戸時代の商家経営、日本型企業経営の起源について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第3回	<b>近世における企業経営ー近江商人についてー</b> 江戸時代の商家経営、日本型企業経営の起源について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第4回	<b>近世から近代へ</b> 開港と維新、産業構造の変化と近代産業の定着について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第5回	<b>近代経営の形成</b> 企業家、専門経営者の出現、財閥の誕生について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第6回	<b>近代経営の形成と展開</b> 企業活動の国際化（特に商社）について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第7回	<b>戦前における企業経営の変容</b> 経営合理化と日本型労務管理について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第8回	<b>第8回 財閥の変化と新興財閥</b>	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間

財閥の変化（いわゆる財閥の転向）や新たに成長した財閥について			
第9回	<b>戦後における企業経営</b> 戦後改革期における企業経営について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第10回	<b>日本的経営の展開</b> 企業集団の出現とその展開について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第11回	<b>産業構造の変化</b> 産業構造の変化とそれに伴う国民生活の変化について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第12回	<b>日本企業の海外進出</b> どの産業がいつ、どこに進出していたのか	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第13回	<b>自動車産業</b> 戦後の自動車産業、特にトヨタ生産システムについて	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第14回	<b>現代における企業経営</b> 現代における企業経営環境の変化と今後の展望について	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第15回	<b>総括</b> 授業の総括、試験についての確認	新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間

授業科目名	知的財産権と法				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

これからの時代、知的財産の世界をどこまで知っているかどうか、企業や個人が生き残る決め手となります。しかし、知的財産について具体的にどんなものなのかということを知らない人が多いのが事実であり、他人が創作したコンテンツを自分のコンテンツに取り込むことで、無意識のうちに他人の知的財産権を侵害している可能性もあります。そこで本講義では、知らないでは済まされない知財について理解することを目指します。身近に感じられるユニークな事例を盛り込み、面白さと実用性を両立させることで知的財産権について学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

知的財産法の基礎知識の修得

#### 目標：

具体的事例の分析を通じて、知的財産法に関する基礎知識および基本的な考え方を身につけることができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

知的財産法の素養を備え、公正・公平の観点から、当該分野において現代社会が直面している諸問題に対応できる。

他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

<評価基準（定期試験・授業中課題）>

S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。

A評価：到達目標を十分に達成している。

B評価：到達目標を達成している。

C評価：到達目標を最低限達成している。

D評価：到達目標を達成していない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	60%	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30%	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10%	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
稲穂健市	『楽しく学べる「知財」入門』	・ 講談社現代新書	・ 2017年

### 参考文献等

- ①相澤英孝・西村あさひ法律事務所編著『知的財産法概説』（弘文堂、2010年）、②角田政芳・辰巳直彦著『知的財産法（第7版）』（有斐閣、2015年）、③田村善之『知的財産法（第5版）』（有斐閣、2010年）、④平嶋竜太・宮脇正晴・盧立順『入門 知的財産法』（有斐閣、2016年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- ・ 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・ やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
- ・ 授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜5時限目
場所：	西館3階個人研究室
備考・注意事項：	メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回	知的財産権とは	テキスト18頁～30頁を読み、知的財産権5権をマトリクスで分析する意味について考えておこう。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---------	--	-------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・著作権と産業財産権</li> <li>・5つの権利をマトリクスで理解しよう</li> </ul>		
第2回	<b>著作権①（その作品の模倣は許されるのか）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京五輪エンブレム騒動」とは何だったのか?</li> <li>・中央大学と広島カープの「C」</li> </ul>	テキスト31頁～37頁を読み、「著作物」と「著作権」の定義について、まとめておこう。	4時間
第3回	<b>著作権②（著作権侵害の要件）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の著作物——「模写」か「農作」か</li> <li>・エコハちゃんはピカチュウと似ている？</li> </ul>	テキスト37頁～46頁を読み、著作権侵害の要件について、まとめておこう。	4時間
第4回	<b>著作権③（著作人人格権）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著作人人格権——身体の刺青をめぐって</li> <li>・観音像の頭部をすげ替えた末に…</li> <li>・三越の包装紙と高島屋の包装紙</li> </ul>	テキスト47頁～55頁を読み、テキストに挙がっている事例以外で、「著作人人格権」の侵害が問題となった事例を調べておこう。	4時間
第5回	<b>著作権④（言語・音楽の著作物）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「倍返しだ!」の権利は?</li> <li>・小保方氏が『銀河鉄道999』をパクった?</li> <li>・早稲田の校歌『都の西北』はバクリ?</li> </ul>	テキスト56頁～76頁を読み、テキストに挙がっている事例以外で、「音楽の著作権」の侵害が問題となった事例を調べておこう。	4時間
第6回	<b>著作権⑤（著作物は様々な権利の束）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画の著作物——『武蔵』と『七人の侍』</li> <li>・バックマンの「上映権」を侵害</li> <li>・AKB恋愛ゲームには特許権がある</li> </ul>	テキスト77頁～84頁を読み、テキストに挙がっている事例以外で、「映画・ゲームの著作権」の侵害が問題となった事例を調べておこう。	4時間
第7回	<b>商標権①（その目印の模倣は許されるのか）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イオンとイーオン、クラウン（TOYOTA）とクラウン（三省堂）</li> <li>・「ファイター、イッパーツ」も登録商標!?</li> <li>・「どこでもドア」は登録OKで「お魚くわえたどら猫」は登録NG、その理由</li> <li>・「福沢諭吉」は登録OKで「坂本龍馬」は登録NG、その理由</li> </ul>	テキスト97頁～122頁を読み、商標権の取得手続と要件について、調べておこう。	4時間
第8回	<b>商標権②（商標権先取りによるビジネス）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商標出願数第1位を誇る元弁理士の狙いとは?</li> <li>・ジャニーズ事務所の登録商標</li> <li>・登録商標「iPhone」とアイホン社の関係</li> </ul>	テキスト122頁～137頁を読み、「商標権先取りによるビジネス」の仕組みについて、まとめておこう。	4時間
第9回	<b>商標権③（パロディ商標）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「PUMA」と「KUMA」「UUMA」「BUTA」「SHI-SA」</li> <li>・「フランク ミュラー」と「フランク三浦」</li> <li>・「白い恋人」と「面白い恋人」</li> <li>・どこまで似ていたら商標権侵害なのか?</li> </ul>	テキスト138頁～171頁を読み、テキストに挙がっている事例以外で、「パロディ商標」が問題となった事例を調べておこう。	4時間
第10回	<b>特許権・実用新案権・意匠権総論（そのアイデアの模倣は許されるのか?）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の特許黎明期</li> <li>・クロスライセンスとは何か</li> <li>・早すぎた「自撮り棒」の特許と取り損ねた「3Dプリンター」の特許</li> </ul>	テキスト173頁～237頁を読み、「特許権・実用新案権・意匠権」の特徴について調べておこう。	4時間
第11回	<b>特許権</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳩山幸氏が発明したキッチンパーツとは?</li> <li>・孫正義氏が取った特許とは?</li> <li>・ホテル三日月の「黄金風呂」</li> <li>・ノンアルコールビールの酔えない争い</li> </ul>	テキスト173頁～194頁を読み、「特許出願」の手続と要件について調べておこう。	4時間
第12回	<b>実用新案権</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実用新案権とは</li> <li>・メリー喜多川氏の考案した「早変わり舞台衣装」</li> </ul>	テキスト194頁～200頁を読み、実用新案権の取得手続について調べておこう。	4時間
第13回	<b>意匠権</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意匠権とは</li> <li>・意匠権取得の流れ</li> <li>・体重計のデザインをめぐって</li> </ul>	テキスト232頁～238頁を読み、意匠権の取得手続について調べておこう。	4時間
第14回	<b>知財の複合化と「知財もどき」①（その権利は永遠なのか?）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペコちゃんはバクリだった!?</li> <li>・キュービーもバクリ!?</li> <li>・cマークの真実</li> <li>・スーパーカブの権利は今も生きている</li> </ul>	テキスト262頁～284頁を読み、「知財もどき」の意味について調べておこう。	4時間
第15回	<b>知財の複合化と「知財もどき」②（知財の複合化による権利の長期化・延命化）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続するヤクルトの容器の権利</li> <li>・その絵画の権利は永遠なのか?</li> <li>・東京ドームの肖像使用料とは?</li> </ul>	テキスト239頁～261頁を読み、複数の知的財産権の組み合わせによる権利の延命化の仕組みについて調べておこう。	4時間

授業科目名	情報法学/メディアと法				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	3・4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

## 授業概要

情報をめぐる法と倫理について学ぶ。マスメディアが「第四の権力」と呼ばれて久しいですが、本来、「情報の送り手」として国家と国民との情報の橋渡し役を務めるはずのマスメディアが、必ずしもその役割を果たしていないのではないかと批判が沸き起こっています。本講義では、古典的な論点から、ヘイトスピーチやリベンジポルノなどの新たな問題まで、マスメディアの正負、両方の側面に焦点を当てて、主要な判例の分析を通じてマスメディア本来の役割について解き明かしていきます。

## 養うべき力と到達目標

### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

### 具体的内容：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を身につけ、政治問題や社会問題についてより深く理解する。

### 目標：

具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を養い、政治問題や社会問題についてより深く理解できるようになる。

### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。

他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

<評価基準（定期試験・授業中課題）>  
 S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。  
 A評価：到達目標を十分に達成している。  
 B評価：到達目標を達成している。  
 C評価：到達目標を最低限達成している。  
 D評価：到達目標を達成していない。

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

定期試験	60%	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30%	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。
授業貢献	10%	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
長谷部恭男・山口いつ子・宍戸常寿(編)	『メディア判例百選 [第2版]』 (別冊Jurist241号)	・ 有斐閣	・ 2018年

## 参考文献等

①宍戸常寿編著『新・判例ハンドブック情報法』（日本評論社）、②竹田稔・堀部政男編著『新・裁判実務大系9 名誉・プライバシー保護関係訴訟法』（青林書院）、③松井茂記『マスメディア法入門（第5版）』（日本評論社）、④鈴木秀美・山田健太編著『よくわかるメディア法』（ミネルヴァ書房）。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。  
 ・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。  
 ・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜5時限目  
 場所： 西館3階個人研究室  
 備考・注意事項： メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

## 授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	<b>取材・報道の自由①（取材源の秘匿と取材の自由）</b> 国家秘密の保護、および取材源の秘匿に関する重要判例をフォローした上で、取材・報道の自由とメディアの地位について考察する。	教科書の判例1・4を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第2回	<b>取材・報道の自由②（報道の自由と公正な裁判）</b> 司法機関からのメディアに対する取材ビデオテープの差し押さえに関する重要判例をフォローした上で、報道の自由と公正な裁判の関係について考察する。	教科書の判例6・7・11を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第3回	<b>情報公開と知る権利</b> 国民の「知る権利」と国家の「アカウントビリティ」を具現化する制度としての情報公開法制について概説する。	教科書の判例12・13・14を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第4回	<b>名誉毀損①（名誉毀損の基本原則）</b> 表現行為に対する規制の代表例としての名誉毀損制度について、表現の自由との関係、および免責要件を中心に概説する。	教科書の判例20・21・23・24・26を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第5回	<b>名誉毀損②（意見・論評と名誉毀損）</b> 名誉毀損の免責法理の一つである「公正な論評の法理」について、概説する。	教科書の判例33・34・35・36を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第6回	<b>名誉毀損③（名誉毀損の救済手段）</b> 名誉毀損の救済手段である損害賠償請求、謝罪広告及び反論文掲載の請求、事前差し止め、のそれぞれの制度の問題点について、表現の自由の保障との関係において概説する。	教科書の判例70・72・73・77を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第7回	<b>プライバシー侵害とプライバシーの権利①（プライバシー侵害の成立要件）</b> プライバシーの権利の生成過程、権利概念の変遷についてフォローした上で、プライバシー侵害の成立要件について概説する。	教科書の判例40・41・42・43を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第8回	<b>プライバシー侵害とプライバシーの権利②（少年事件報道と少年法61条）</b> 表現行為に対する規制の代表例としてのプライバシー侵害言論の規制について、少年法61条の問題を中心に概説する。	教科書の判例47・48を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第9回	<b>プライバシー侵害とプライバシーの権利③（プライバシー侵害の救済手段）</b> プライバシー侵害の救済手段である損害賠償請求、事前差し止め、のそれぞれの制度の問題点について、表現の自由の保障との関係において概説する。	教科書の判例69・74・75・76を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第10回	<b>性表現規制</b> 表現行為に対する内容着目規制としてのわいせつ表現規制、児童ポルノ規制、有害表現規制について概説し、その合憲性について考察する。	教科書の判例55・56・57・60を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第11回	<b>新聞・出版に対する規制</b> プリント・メディアの代表例である新聞および出版に対する法規制について、表現の自由の保障との関係において概説する。	教科書の判例79・84・85を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第12回	<b>放送法の規制</b> 「発掘あるある大事典Ⅱ」事件や「生活ほっとモーニング」事件など、近年、その被害が問題となっている放送メディアについて、BP0の存在意義なども踏まえながら概説する。	教科書の判例89・92・98を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第13回	<b>インターネットと法①（名誉棄損とプロバイダ責任制限法）</b> 我々の生活を豊かにする一方で、様々な問題を引き起こしているインターネットの問題について、特に名誉棄損とプロバイダ責任制限法の関係に関して概説する。	教科書の判例110・111・112・113・114を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第14回	<b>インターネットと法②（検索結果の削除請求と忘れられる権利）</b> 我々の生活を豊かにする一方で、様々な問題を引き起こしているインターネットの問題について、特に検索結果の削除請求と忘れられる権利の関係に関して概説する。	教科書の判例115・116・117を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第15回	<b>通信と法</b> 通信傍受法に関連する判例の分析により、通信分野における権利侵害およびGPS捜査の合法性について検討する。	教科書の判例108・109を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間

授業科目名	Study Abroad English 1				
担当教員名	山川 温				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	米国ミシガン州公立校教諭				

### 授業概要

文化的背景の異なる人とのコミュニケーションに必要な態度を養います。英語力測定試験の結果から、自分の英語力を把握し、英語学習での長所を更に伸ばし、短所をなるべく克服する姿勢を身に着けます。TOEICスコアでは400点以上を目指します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

文化的言語的背景の異なる人との日常的な話題について理解するための英語力を身につける  
TOEICの頻出単語や文法の理解力と聞く力

#### 目標：

相手のいうことを理解し、反応するための英語の基礎力を身につける  
(A) TOEICテストスコア500点以上取得に向け基礎力をつける  
(B) TOEICテストスコア450以上取得に向け基礎力をつける

#### 汎用的な力

- DP8. 意思疎通

相手のいうことを理解しようとする態度、自分が伝えたいことを場面に合わせて発言する力を身につける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

- 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
- 毎回授業始まりに、学習の目標を明確に提示し、授業終わりには、授業目標の達成についての自己評価、または、ペア評価、グループ評価があります。授業を欠席した場合、この評価点がゼロになりますので、気を付けて下さい。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への積極的な参加	50%	： 質問や自分の考え・意見の発表に向けた態度、課題の完成に向けた働きかけ、自己の理解度や努力についての言語化にどれだけ積極的に取り組んでいるかを評価します。
ミニクイズ評価	10%	： 毎時間の開始時に行われる、その日の授業の予習度や前週の授業の復習度を確認するミニクイズ(10点程度)。
プロジェクト・課題	20%	： 評価表にそって、プロジェクトや課題を評価します。
宿題・課題	10%	： 宿題や課題への取り組みや完成度を評価します。
期末テスト(レポート)	10%	： あらかじめ提示される評価表にそって、レポートがどれだけかけたかについて、自己評価を含め評価します。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
(A) Donna T. Fujimoto, Akira Nakagawa & others	(A) THE READING SECTION GROUNDWORK FOR THE TOEIC L&R TEST (モジュール TOEIC R&W TEST リーディング教室)	(A) SANSHUSHA	2018年
(A) Kayo Yoshida, Kyoko Nakanishi & others	(A) Practical Situations for the TOEIC Test Listening (後期も継続使用します)	(A) SEIBIDO	2010年
(B) David P. Thompson, Hiroyo Nakagawa & others	(B) OPEN THE GATE FOR THE TOEIC TEST	(B) KINSEDO	2014年

### 参考文献等

必要に応じて、教員が配布します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 ●毎回、授業では復習ミニクイズをします。  
 ●毎回、授業では宿題が出されます。  
 ●授業では、教科書と配布プリントを使用します。  
 ●第一回目の授業で話し合うルールを守って受講して下さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業内でお知らせします。

### 授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>クラスのオリエンテーション(A) Ch. 1: Introduction(A) Unit 1: Ceremony(B) Unit 1: Pre-Test</b> (A) ●TOEIC L&Rのリーディングセクションを知ろう ●挨拶に関する表現を学ぶ (B) ●Pre-Test	Unit1/Ch1の復習・宿題、次回Unit2/Ch2のミニクイズに向けた勉強	1時間
第2回	<b>(A) Ch. 2: Part 5 &amp; 7(A) Unit 2: School Life(B) Unit 2: Daily Life</b> (A) ●品詞の選択 ●図表の読み方 ●自己紹介に関する表現を学ぶ (B) ●Part 5: 品詞 ●Part 1: 現在進行形 ●Part 2: 自然な受け答え ●Part 7: Eメール	Unit2/Ch2の復習・宿題、次回Unit3/Ch3のミニクイズに向けた勉強	1時間
第3回	<b>(A) Ch. 3: Part 5 &amp; 6(A) Unit3: Transportation (B) Unit 3: Airport</b> (A) ●接続詞 ●交通機関に関する表現を学ぶ (B) ●Part 5: 時制 ●Part 1: 注意の必要な時制 ●Part 3: 空港での会話 ●Part 7: 宣伝文	Unit3/Ch3の復習・宿題、次回Unit4/Ch4のミニクイズに向けた勉強	1時間
第4回	<b>(A) Ch. 4: Part 5 &amp; 7(B) Unit 4: Traffic</b> (A) ●時制・広告宣伝文 (B) ●Part 5: 自動詞・他動詞 ●Part 1: 一人の人物が写っている写真 ●Part 4: 交通情報のアナウンス ●Part 7: 告知文	Unit4/Ch4の復習・宿題、次回Unit5/Ch5のミニクイズに向けた勉強	1時間
第5回	<b>(A) Ch. 5: Part 5 &amp; 6(A) Unit 4: Outdoor Activities(B) Unit 5: Hotel</b> (A) ●関係詞 ●時間に関する表現を学ぶ (B) ●Part 5: 主語と動詞の一致 ●Part 1: 身体的な特徴や服装に注意する写真 ●Part 2: WH疑問文 ●Part 7: アンケート	Unit4&5/Ch5の復習・宿題、次回Unit6/Ch6のミニクイズに向けた勉強	1時間
第6回	<b>(A) Ch. 6: Part 5 &amp; 7 (B) Unit 6: Bank</b> (A) ●語彙の問題・お知らせ文 (B) ●Part 5: 受動態 ●Part 1: 人物の動作や行為に注意する ●Part 3: オフィスでの会話 ●Part 7: 新聞記事	Unit6/Ch6の復習・宿題、次回Unit7/Ch7のミニクイズに向けた勉強	1時間
第7回	<b>(A) Ch. 7: Part 5 &amp; 6(A) Unit 5: Weather (B) Unit 7: Office</b> (A) ●前置詞 ●天気に関する表現を学ぶ (B) ●Part 5: 不定詞・動名詞 ●Part 1: There is/are…構文 ●Part 4: パーティーでのスピーチ ●Part 7: 電話連絡メモ	Unit7/Ch7の復習・宿題、次回Unit8/Ch8のミニクイズに向けた勉強	1時間
第8回	<b>(A) Ch. 8: Part 5 &amp; 7(B) Unit 8: Meeting</b> (A) ●人称代名詞・テキストメッセージ (B) ●Part 6: 分詞 ●Part 1: 複数の人物が写っている写真 ●Part 2: Yes/No疑問文 ●Part 7: 社内メモ	Unit8/Ch8の復習・宿題、次回Unit9/Ch9のミニクイズに向けた勉強	1時間
第9回	<b>(A) Ch. 9: Part 5 &amp; 7(B) Unit 9: Employment</b> (A) ●態・手紙文 (B) ●Part 5: 可算名詞・不可算名詞 ●Part 1: 似た音を持つ単語 ●Part 3: 人事に関する会話 ●Part 7: 求人広告	Unit9/Ch9の復習・宿題、次回Unit10/Ch10のミニクイズに向けた勉強	1時間
第10回	<b>(A) Ch. 10: Part 5 &amp; 7(B) Unit 10: Factory</b> (A) ●数量に関する語・告知文 (B) ●Part 5: 代名詞 ●Part 1: 物が主語となる写真 ●Part 4: ツアーのアナウンス ●Part 7: リコールに関する通知文	Unit10/Ch10の復習・宿題、次回Unit11/Ch11のミニクイズに向けた勉強	1時間
第11回	<b>(A) Ch. 11: Part 5 &amp; 7(B) Unit 11: Order</b>	Unit11/Ch11の復習・宿題、次回Unit12/Ch12のミニクイズに向けた勉強	1時間

	<p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●形容詞の比較・新聞記事</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Part 5:関係詞</li> <li>●Part 1:物の状態を表している写真</li> <li>●Part 2:付加疑問文</li> <li>●Part 7:苦情文・謝罪文 (ダブルパッセージ)</li> </ul>		
第12回	<p><b>(A) Ch. 12: Part 5, 6 &amp; 7(A) Unit 6: Holiday Plans(B) Unit 12: Contract</b></p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合演習・さまざまな文章</li> <li>●電話の会話に関する表現</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Part 6:接続詞・前置詞</li> <li>●Part 1:人物の共通する行為</li> <li>●Part 3:契約に関する会話</li> <li>●Part 7:申込書</li> </ul>	Unit12/Ch12の復習・宿題、次回Unit13/Ch13のミニクイズに向けた勉強	1時間
第13回	<p><b>(A) Ch. 13: Part 5 &amp; 7(A) Unit 7: Resort Area (B) Unit 13: Business</b></p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合演習・さまざまな文章</li> <li>●依頼に関する表現</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Part 5:比較</li> <li>●Part 1:人と物が混在している写真</li> <li>●Part 4:社内放送</li> <li>●Part 7:日程表</li> </ul>	Unit13/Ch13の復習・宿題、次回Unit14/Ch14のミニクイズに向けた勉強	1時間
第14回	<p><b>(A) Ch. 14: Part 7 (A) プロジェクト準備(B) Unit 14: Health</b></p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ダブルパッセージ・トリプルパッセージ</li> <li>●プロジェクト発表準備</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Part 5:仮定法</li> <li>●Part 1:乗り物が写っている写真</li> <li>●Part 2:平叙文の問いかけ</li> <li>●Part 7:求人広告・Eメール (ダブルパッセージ)</li> </ul>	Unit14/Ch14の復習・宿題、次回Unit15/Ch15のミニクイズに向けた勉強、ぶプロジェクト発表準備	1時間
第15回	<p><b>(A) ミニプロジェクト発表(B) Unit 15: Post-Test</b></p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニプロジェクト発表・評価</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Post-Test (自己評価)</li> </ul>	Unit15の復習・宿題、期末レポートに向けた勉強・準備	1時間

授業科目名	Study Abroad English 2				
担当教員名	山川 温				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	米国ミシガン州公立校教諭				

### 授業概要

- 文化的背景の異なる人とのコミュニケーションに必要な態度を養います。
- 留学を意識し、TOEICでも扱われる場面に合わせた英語の四技能の力をつけます。
- TOEICでは(A)スコア500点以上 (B)450点以上を目指します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

文化的言語的背景の異なる人との日常的な話題について理解することができる英語力を身につける  
TOEICの頻出単語や文法の理解力と聞く力

#### 目標：

相手のいうことを理解し、反応するための英語の基礎力を身につける  
(A) TOEICテストスコア500点以上取得に向け基礎力をつける  
(B) TOEICテストスコア450点以上取得に向け基礎力をつける

#### 汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

相手の言うことを理解しようとする態度、自分が伝えたいことを場面に合わせて発言する態度を身につける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

- 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
- 毎回授業始まりに、学習の目標を明確に提示し、授業終わりには、授業目標の達成についての自己評価、または、ペア評価、グループ評価があります。授業を欠席した場合、この評価点がゼロになりますので、気を付けて下さい。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への積極的な参加	50%	： 質問や自分の考え・意見の発表に向けた態度、課題の完成に向けた働きかけ、自己の理解度や努力についての言語化にどれだけ積極的に取り組んでいるかを評価します。
ミニクイズ評価	10%	： 毎時間の開始時に行われる、その日の授業の予習度や前週の授業の復習度を確認するミニクイズ(10点程度)。
プロジェクト・課題	15%	： 評価表にそって、プロジェクトや課題を評価します。
宿題・課題	10%	： 宿題や課題への取り組みや完成度を評価します。
TOEIC受検	5%	： TOEIC IP受検に参加した生徒に対する評価点です。受検の有無によって、5%か0%のどちらかの評価点を取得します。
期末テスト(レポート)	10%	： あらかじめ提示される評価表にそって、レポートがどれだけかけたかについて、自己評価を含め評価します。

### 使用教科書

#### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
(A) Tomoko Yabukoshi & Ryan Smithers	(A) READING UPGRADE FOR THE TOEIC TEST	(A) KINSEIDO	2018年
(A) Kayo Yoshida, Kyoko Nakanishi & others	(A) Rractical Situations for the TOEIC Test Listening	SEIBIDO	2010年
(B) Satoru Furuya, Mikako Fujioka & others	(B) TOEIC L&R TEST ボキャブラリー徹底演習—全パート対応—	(B) SANSHUSHA	2018年

### 参考文献等

必要に応じて、教員が配布します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 ●毎回、授業では復習ミニクイズをします。  
 ●毎回、授業では宿題が出されます。  
 ●授業では、教科書と配布プリントを使用します。  
 ●第一回目の授業で話し合うルールを守って受講して下さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業内でお知らせします。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1 1 回目 (A) Unit 1-2 (A) Unit 8: Directions (B) Lesson 1 (A) ●語彙の問題 ●品詞の問題 ●場所案内に関する表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit1, 2, & 8/L1の復習・宿題、次回Unit3, 4, & 9/L2のミニクイズに向けた勉強	1時間
第2 2 回目 (A) Unit 3-4 (A) Unit 9: Job Experience (B) Lesson 2 (A) ●動詞の問題 (1) ●動詞の問題 (2) ●資格・職業経験に関する用語 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit3, 4&9/L2の復習・宿題、次回Unit5, 6, &10/L3のミニクイズに向けた勉強	1時間
第3 3 回目 (A) Unit 5-6 (A) Unit 10: Summer Sale (B) Lesson 3 (A) ●不定詞・動名詞・分詞の問題 ●比較・関係詞・代名詞の問題 ●買い物に関する表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit5, 6 &10/L3の復習・宿題、次回Unit7, 8, &11/L4のミニクイズに向けた勉強	1時間
第4 4 回目 (A) Unit 7-8 (A) Unit 11: Restaurant (B) Lesson 4 (A) ●前置詞・接続詞の問題 ●短文穴埋め問題 まとめ ●注文に関する表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit7, 8, &11/L4の復習・宿題、次回Unit9, 10, &12/L5のミニクイズに向けた勉強	1時間
第5 5 回目 (A) Unit 9-10 (A) Unit 12: Arts & Entertainment (B) Lesson 5 (A) ●挿入文の問題 ●時制の問題 ●感情に関する表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit9, 10, &12/L5の復習・宿題、次回Unit11-13/L6のミニクイズに向けた勉強	1時間
第6 6 回目 (A) Unit 11-12 (A) Unit 13: Sports Events (B) Lesson 6 (A) ●つなぎの言葉の問題 ●代名詞の問題 ●スポーツに関する表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit11-13/L6の復習・宿題、次回Unit13&14/L7のミニクイズに向けた勉強	1時間
第7 7 回目 (A) Unit 13-14 (A) Unit 14: Having a Party (B) Lesson 7 (A) ●長文穴埋め問題 ●タイトルと設問を先読みしてポイントをおさえる ●感謝の気持ちを表す表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit13-14/L7の復習・宿題、次回Unit15&16/L8のミニクイズに向けた勉強	1時間
第8 8 回目 (A) Unit 15-16 (A) Unit 15: Health (B) Lesson 8 (A) ●設問の種類を分析する ●語句の言いかえに注意して答えを選ぶ ●病気に関する表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit15&16/L8の復習・宿題、次回Unit16-18/L9のミニクイズに向けた勉強	1時間
第9 9 回目 (A) Unit 17-18 (A) Unit 16: Christmas (B) Lesson 9 (A) ●挿入文の問題 ●テキストメッセージの文書に慣れる ●提案に関する表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit16-18/L9の復習・宿題、次回Unit17&19/L10のミニクイズに向けた勉強	1時間
第1 0 回目 (A) Unit 19 (A) Unit 17: Cleanup (B) Lesson 10 (A) ●読解問題 まとめ I ●助けを求める・与える表現 (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit17&19/L10の復習・宿題、次回Unit18&20/L11のミニクイズに向けた勉強	1時間
第1 1 回目 (A) Unit 20 (A) Unit 18: Our Traditions & Customs (B) Lesson 11 (A) ●2つの文書の関連性を把握する (1) ●人物描写や位置関係を説明する表現 ● (B) ●TOEICパート1からパート7の問題を解く	Unit18&20/L11の復習・宿題、次回Unit19&21/L12のミニクイズに向けた勉強	1時間
第1 2 回目 (A) Unit 21 (A) Unit 19: Examinations (B) Lesson 12	Unit19&21/L12の復習・宿題、次回Unit20&22のミニクイズ、プロジェクトに向けた勉強・準備	1時間

<p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2つの文書の関連性を把握する (2)</li> <li>● 条件・日程に関する用語</li> <li>●</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● TOEICパート1からパート7の問題を解く</li> </ul>		
<p>第13回 (A) Unit 22 (A) Unit 20: Housing (B) TOEICの語句と文法を使ったプロジェクト準備</p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3つの文書の関連性を把握する (1)</li> <li>● 数字と交渉表現</li> <li>●</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクトに向けての準備と練習</li> </ul>	Unit20&22の復習・宿題、次回Unit23、レビューテスト、プロジェクトに向けた勉強・準備	1時間
<p>第14回 (A) Unit 23 (A) Review Test 1 &amp; 2 (B) プロジェクトに向けての準備と練習</p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3つの文書の関連性を把握する (2)</li> <li>● TOEICリスニング問題の復習テスト</li> <li>●</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● TOEICの語句と文法を使ったプロジェクト準備</li> </ul>	Unit23復習・宿題、次のL24のミニクイズに向けた勉強・プロジェクト準備	1時間
<p>第15回 (A) Unit 24 (A) Review Test 3 &amp; 4 (B) TOEICプロジェクト発表と peer evaluation</p> <p>(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 読解問題 まとめII</li> <li>● TOEICリスニング問題の復習テスト</li> <li>●</li> </ul> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● TOEICプロジェクト発表と peer evaluation</li> </ul>	Unit24の復習・宿題、期末レポートに向けた勉強・準備	1時間

①

授業科目名	<b>国際経営総論</b>				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA）、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて各国・大手企業の格付等、本授業に関連する各種業務を担当（全15回）。				

### 授業概要

現代においては、企業活動が国境を越えさらにグローバルな視点から経営と事業活動を行い成果を挙げることが、多くの企業の重要な経営の目標や課題として重要性を増しています。本講義は、企業活動のグローバル化に関する企業経営のあり方について、国際経営に関する基礎的な知識・理論を学び、最新の動向やトレンドにも焦点を当てて重要点を解説し、国際経営に関する基本的な理解を深めます。講義の中では、具体的な企業の事例や最新の動向等を解説するとともに数多く質問を行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	国際経営に関連する事項の重要点を理解する。	国際経営に関する基本的な事項、理論、論点について理解し説明できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		国際経営に関わる重要な問題を、自分なりの見解やアイデアで発見し、その解決案等を考えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意するが、改善が見られない場合はイエローカードを渡し減点（1点/枚）対象とすることがあります。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小レポート（授業時間内）	30%	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述の場合は0点とします。
期末試験	70%	： 国際経営に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていないかを基準にして評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中川功一・林正・多田和美・大木清弘	はじめての国際経営	・ 有斐閣	・ 2015年

### 参考文献等

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社  
 吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣  
 梶浦雅己編著（2014）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（改訂新版）』文真堂  
 江夏健一・太田正孝・藤井健（2013）『シリーズ国際ビジネス 1 国際ビジネス入門<第2版>』中央経済社

その他は適宜紹介します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。授業時間内にも伝達しますが、授業に関連する資料は、原則として、各回の授業日の前日までにLドライブの講師名・科目名のフォルダーに掲示しますので、それを参照したり適宜印刷して予習・復習を行ってください。また、本講義の内容を深く理解する上で、国際的な企業の活動、それに関連する国際政治・国際経済・国際社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するように掛けてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限
場所：	44研究室（西館3階）

### 授業計画

回	タイトル	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>ガイダンス、国際経営とは何か</b>	教科書の第1章を読んで、国際経営に関するイメージや興味、知りたい点などをまとめて授業に臨んでください。  国際経営とはどのようなものかについて、国際経営が日常化している状況や、国際経営の難しさ、企業が国際経営を行う理由などについて学びます。	4時間
第2回	<b>海外直接投資の理論</b>	講義の内容を、教科書の第2章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外直接投資やその理論に関する理解を深めます。  海外直接投資とは何か（間接投資との違い）、その定義、日本企業の海外直接投資の動向や目的について概観し、その後、典型的な理論についての基本を学びます。	4時間

第3回	<b>多国籍企業による国際競争の歴史</b>	講義の内容を、教科書の第3章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本企業も含む多国籍企業の歴史的な変遷や競争環境の変化に関する理解を深めます。	4時間
	国際経営の主たる担い手である多国籍企業について、その歴史的な変遷を振り返り学びます。そこでは、米国企業、欧州企業、日本企業による競争環境の変化などを取り上げます。		
第4回	<b>多国籍企業の国際経営の事例</b>	講義の内容を、教科書の第1-3章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し多国籍企業と国際経営についての理解をより深めます。	4時間
	代表的な多国籍企業を例にして、その国際経営の特徴や重要点を学びます。		
第5回	<b>国際経営のタイプとトランスナショナル経営</b>	講義の内容を、教科書の第5章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際経営のタイプとトランスナショナル経営や、グローバル統合とローカル適応に関する理解を深めます。	4時間
	国際経営のタイプや、その進んだ形であるトランスナショナル経営とはどのようなものであるか、国際経営で重要なグローバル統合とローカル適応という考え方を学びます。		
第6回	<b>海外子会社の経営</b>	講義の内容を、教科書の第6章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外の子会社の経営やその設立などに関する理解を深めます。	4時間
	海外の子会社を経営する上での重要な課題、子会社の設立の方法・形態、子会社の役割などについて学びます。		
第7回	<b>国際マーケティング</b>	講義の内容を、教科書の第7章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際マーケティングの重要点に関する理解を深めます。	4時間
	マーケティングとは何か、国際マーケティングと国内マーケティングの違い、国際マーケティングの重要点について学びます。		
第8回	<b>国際マーケティングの企業事例</b>	講義の内容を、教科書の第7章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、国際マーケティングについての理解をより深めます。	4時間
	前回の授業で学んだ国際マーケティングに関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。		
第9回	<b>海外生産と国際拠点展開</b>	講義の内容を、教科書の第8章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外生産の重要点に関する理解を深めます。	4時間
	海外での生産の意義・目的、拠点設立と運営の重要点、国際的な生産ネットワークについて学びます。		
第10回	<b>海外生産の企業事例</b>	講義の内容を、教科書、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、海外生産についての理解をより深めます。	4時間
	前回の授業で学んだ海外生産に関し典型的な多国籍企業の事例で学びます。		
第11回	<b>研究開発の国際化</b>	講義の内容を、教科書の第9章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際的な研究開発の重要点に関する理解を深めます。	4時間
	研究開発の国際化とは何か、その動向や目的・動機、どこに進出するのか(立地の選択)、研究開発拠点のマネジメントなどについて学びます。		
第12回	<b>国際的な人的資源管理</b>	講義の内容を、教科書の第10章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、グローバル人材や国際人的資源管理の重要点に関する理解を深めます。	4時間
	グローバル人材や国際人的資源管理とは何か、企業の国際化と人的資源管理の重要点、駐在員と外国籍社員のマネジメントの重要点について学びます。		
第13回	<b>国際提携(パートナーシップ)</b>	講義の内容を、教科書の第11章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際提携の重要点に関する理解を深めます。	4時間
	国際提携とは何か、海外直接投資との違いや、得失、その成功事例などについて学びます。		
第14回	<b>日本企業の国際経営</b>	講義の内容を、教科書の第12章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本企業の国際経営に関する課題を含めた重要点に関する理解を深めます。	4時間
	日本企業の国際経営の現状と課題、今後の発展に求められる重要事項について、分かりやすい事例も紹介して学びます。		
第15回	<b>本講義のまとめ</b>	教科書(本講義で取り上げた各章)や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で総復習し、本講義の重要点を総括します。	4時間
	本講義で取り上げた重要事項について、教科書を振り返って再度学び理解を深めます。		

授業科目名	<b>短期海外研修</b>				
担当教員名	坂井純子・ワフネンコ				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

多文化共生主義と多国間主義国家カナダ（バンクーバー）でホームステイしながら、異文化交流をによりお互いに関心を寄せ、お互いに協力していくことで、問題に遭遇しても、解決策へも導く可能性を知る。語学学校にて短期英語集中コースで、語学習得しながらも、異文化コミュニケーション実践体験で意思疎通と連携行動力を育み、柔軟異文化理解を吸収し、身につけたスキルで視野を広げて、自国を再評価することで、国際交流と協力的な主体的な行動により参加することで責任意識の高いグローバル人材になれるよう機会を提供する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	英語運用力	英語だけで3週間生活し、相手を理解しあうことで、適切に意思を伝えながら対応できる。
汎用的な力		
1．DP7. 完遂		信頼関係を築くために相手の立場にたって考える大切さを知り、最後までプログラムをやり抜くことができる。
2．DP6. 行動・実践		主体的に行動し、その行動に責任を持つ。
3．DP8. 意思疎通		お互いを正しく理解するために、逃げないで英語を使って話そうとする姿勢を身につける。
4．DP9. 役割理解・連携行動		海外でのトラブルや危険を避けるために、集団行動におけるルールを守り、自分の役割をきちんと果たすことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・その他(以下に概要を記述)

3週間、カナダ（バンクーバー）にて、ホームステイしながら、語学学校に通学し、主体的に学び、行動に責任を持つ体験します。事後報告書を提出し、秋のスピーチ大会での発表へとつなげていきます。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

事前学習にも原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

現地校での成績報告	50%	： 現地校出の授業に対して、主体的に、責任ある行動で学んだかと観点と3週間での変化について、総合的に評価する。
期末レポートと発表	35%	： 期末レポートおよび発表の内容について、質、量について、設定したルーブリックに基づいて評価する。また、提出期限に遅れた場合には減点の対象となる。
事前学習への取り組み	15%	： カナダについて調査する、書類をそろえるといった準備や事前学習での活動に積極的かつ主体的に取り組んでいるか、提出物の期限を守れているかという観点から評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

地球の歩き方 Globe-Trotter Travel Guidebook 「カナダ西部 カナディアン・ロッキーとバンクーバー」Canada's West 2017～2018年 ダイアモンド社

地球の歩き方「カナダ西部カナディアン・ロッキーとバンクーバー」2018年 ダイアモンド社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

カナダ研修の準備として、多くの書類を期日までに提出することが求められます。また、重要書類を帰国日まできちんと管理する必要があります。緊張感をもつてのぞんでください。もちろん、出発までの体調管理も非常に重要です。心配がある方は早めに相談してください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 実習内  
場所： 教室  
備考・注意事項： 事前準備実習授業での連絡相談

### 授業計画

回数	内容	自己紹介文作成	ホームステイ申込み作成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b> カナダ（バンクーバー）：ジェネラルインフォメーション、ホームステイ、バンクーバーでの生活について知る。旅の準備：持ち物リストと服装、パスポート、航空券&フライト情報	自己紹介文作成	ホームステイ申込み作成	4時間
第2回	<b>英語コミュニケーション</b> 研修中に必要となる英語でのコミュニケーションについて	自己紹介文作成完成	ホームステイ申込書完成	4時間

第3回	<b>滞在中研修事後報告書とプレゼンテーション説明</b> 出発前の研修日誌課題作成	研修日誌課題作成	4時間
第4回	<b>研修日誌課題完成提出 英語コミュニケーション2</b> 空港での振舞い、英語での課題検索（リサーチ）課題、グループワーク	主体的に責任を自覚し練習	4時間
第5回	<b>出発前の最終注意事項</b> 最終確認をする。リサーチ課題提出	ホームステイ先から学校までの通学方法などを調べる	4時間
第6回	<b>現地校でのオリエンテーション</b> 受講クラス決定	現地校課題	4時間
第7回	<b>英語集中訓練</b> ・1日5時間の英語集中授業（導入） ・ホームステイ体験	現地校課題およびレポートの計画	4時間
第8回	<b>英語集中訓練</b> ・1日5時間の英語集中授業（導入） ・ホームステイ体験	現地校課題およびレポートのための聞き取り	4時間
第9回	<b>英語集中訓練</b> 1日5時間の英語集中授業とホームステイ体験 カナダの学校文化、英語での教室内の指示、生活に必要な用語などについて学ぶ	現地校課題	4時間
第10回	<b>英語集中訓練</b> 1日5時間の英語集中授業とホームステイ体験 分からないことについては進んで尋ね、理解していく姿勢を学ぶ	現地校課題	4時間
第11回	<b>英語集中訓練およびレポートのための情報収集</b> 1日5時間の英語集中授業とホームステイ体験 仲間づくりのために積極的なコミュニケーションをとる	現地校課題	4時間
第12回	<b>英語集中訓練</b> 1日5時間の英語集中授業とホームステイ体験 異なる文化に関心を持ち、調べたり質問したりして理解を深める	現地校課題およびレポートアウトライン完成	4時間
第13回	<b>英語集中訓練</b> 1日5時間の英語集中授業とホームステイ体験 自分の文化について考え、正しく説明することを試みる	現地校課題およびレポート執筆	4時間
第14回	<b>英語集中訓練</b> 1日5時間の英語集中授業とホームステイ体験 自分の体験と調査をもとに、英語、文化などのテーマについてより深く考える	現地校課題およびレポート執筆（必要に応じて補足調査）	4時間
第15回	<b>研修報告準備</b> 語学研修について、「現地での生活」、「語学研修」と「自己のアイデンティティの変化」の三つのテーマについて、作成したレポート（事後報告書）を作成する。また、レポートに基づいたプレゼンテーションの準備を行う。	レポートの完成、プレゼンテーション	4時間

授業科目名	<b>旅行業事業論</b>				
担当教員名	中野毅				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社で、営業、旅行企画、添乗業務等の実務経験を持つ。また航空会社では対旅行会社営業を経験し、旅行業界の豊富な知識を持つ。(全15回)				

### 授業概要

将来において経済成長を担うとされている観光産業において、日本と世界、地域と社会、人と人を結ぶ旅行業はその中心的役割を持っている。その旅行業について、旅行会社が果たしてきた役割や社会的価値に注目し、経営の面からその特性を明らかにする。グループワークでは、具体的な旅行商品造成に挑戦しその成果を共有する。また、最近注目の着地型観光、地域交流ビジネスについて、そして旅行業に求められる人材についての講義も含まれる。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	旅行産業に関する知識	講義の情報をもとに、観光産業における旅行会社の重要性を理解する。
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	旅行業界の職業理解	旅行業界における様々な職業を知り、それぞれの役割を理解する。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		取り組む旅行商品企画において課題を発見できる。
2．DP5.計画・立案力		創造性のある旅行企画を計画し、立案し、修正することが出来る。
3．DP6.行動・実践		グループワークで与えられた課題に対し、自ら率先して動き、やり遂げる力を身につけることが出来る。
4．DP9.役割理解・連携行動		グループワークにて、役割を分担し、連携して作業をすることが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート	30%	： 学んだ成果を反映したレポートになっているかを、独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
授業への参加意欲	20%	： 毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
グループワークとプレゼンテーション	30%	： グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	20%	： 毎回の授業の終わりに提出のレポートで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
立教大学観光学部旅行産業研究会 編著	・ 旅行業事業論	・ 日本交通公社	・ 2019年

### 参考文献等

随時紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・観光を構成する産業として、航空運輸事業論も合わせて履修することを勧める。
- ・日々のニュースから、観光に関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜3限

場所： 西館4階

備考・注意事項： メールで質問等も受け付けます（nakano-t@osaka-seikei.ac.jp）。その際タイトルに必ず、氏名と学籍番号を明記してください。

### 授業計画

第1回

授業の進め方：旅行業とは

教科書、第1講、1章、2章、3章を読み、旅行業について基本的な定義と範囲を理解しておく。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	「旅行」と「観光」の定義を踏まえた上で、旅行業の範囲を理解する。		
第2回	<b>旅行業の社会的役割と存在意義</b> 旅行業の歴史を踏まえ、旅行業の社会的役割と存在意義を理解する。	教科書、第2講、1章、2章を読み、旅行業の産業としての自立過程を理解しておく。	4時間
第3回	<b>旅行契約形態と企画旅行商品について</b> 旅行会社の企画する旅行商品を理解する。旅行商品とそのバリューチェーンを理解する。以降毎回の授業の後半で行う旅行商品を企画するグループワークについて説明する。	教科書、第3講、1章、2章を読み、旅行会社にとっての企画旅行商品を理解しておく。	4時間
第4回	<b>旅行業の経営について</b>  旅行商品の特性と旅行会社の経営特性を理解する。 旅行商品企画グループワーク（第1回：国内旅行）	教科書、第4講、1章、2章を読み、旅行会社の創る商品とその経営の特性を理解する。実際に旅行会社の店舗を訪問し、自身の興味ある国内旅行商品が入ったパンフレットを次回授業に持ち寄る。	4時間
第5回	<b>旅行マーケットについて</b>  時代とともに変化する国内旅行、海外旅行におけるそれぞれのマーケットと旅行商品を理解する。 旅行商品企画グループワーク（第2回：国内旅行）	教科書、第5講、1章、2章を読み、国内、海外旅行のマーケットの変遷と現状を理解しておく。	4時間
第6回	<b>旅行マーケットの成長、成熟後の現代の抱える問題点について</b>  旅行マーケットの時代を追っての変化と、旅行者の旅行形態の変化を理解し、その変化をもたらした要因を探る。 旅行商品企画グループワーク（第3回：国内旅行）	教科書、第6講、1章、2章、3章を読み、旅行マーケットの現状と問題点を理解しておく。	4時間
第7回	<b>旅行会社のビジネス展開について（その1）</b>  旅行会社が具体的にどのような販売方法を取っているかを理解する。 旅行商品企画グループワーク（第4回：国内旅行）	教科書、第7講、1章、2章、3章を読み、旅行会社の店頭販売、メディア販売、インターネット販売について理解をしておく。	4時間
第8回	<b>旅行会社のビジネス展開について（その2）</b>  旅行会社が具体的にどのようなターゲット設定、販売方法を取っているかを理解する。 旅行商品企画グループワーク（第5回：国内旅行成果発表会/前半）	教科書、第8講、1章、2章、3章を読み、旅行会社が販売のターゲットとする出張ビジネス、法人・教育旅行、MICEについて理解をしておく。国内企画旅行発表会の準備をする。	4時間
第9回	<b>インバウンド事業について</b>  昨今急激な伸びを示すインバウンドマーケットについて、その変遷と現状、ビジネスモデルを理解する。 旅行商品企画グループワーク（第6回：国内旅行成果発表会/後半）	教科書、第9講、1章、2章を読み、インバウンドビジネスについて理解をしておく。国内企画旅行発表会の準備をする。	4時間
第10回	<b>旅行会社の予約販売システムについて</b>  旅行会社の予約販売システムと、世界の旅行関連システムを理解する。 旅行商品企画グループワーク（第7回：海外旅行）	教科書、第10講、1章、2章を読み、旅行会社の予約販売システムの変遷と、航空会社の予約システム等の世界の旅行関連システムを理解をしておく。実際に旅行会社の店舗を訪問し、自身の興味ある海外旅行商品が入ったパンフレットを次回授業に持ち寄る。	4時間
第11回	<b>旅行マーケットのグローバル化について</b>  グローバルな視点での旅行産業の動向と、世界の旅行会社のビジネスモデルを理解する。 旅行商品企画グループワーク（第8回：海外旅行）	教科書、第11講、1章、2章、3章を読み、旅行会社のグローバル化について理解をしておく。	4時間
第12回	<b>地域観光について</b>  着地型観光、地域交流ビジネスにおける旅行会社の役割を理解する。 旅行商品企画グループワーク（第9回：海外旅行）	教科書、第13講、1章を読み、地域における観光による6次産業化の概念を理解しておく。	4時間
第13回	<b>旅行産業の危機管理と社会的価値について</b>  観光における危機管理の特徴と、旅行会社の役割を理解する。旅行産業の教育的・社会的価値について理解する。 旅行商品企画グループワーク（第10回：海外旅行） 期末レポートにおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理のもと、著作権と個人情報についての説明を行います。	教科書、第13講、2章、3章を読み、旅行産業における危機管理と、社会的価値について理解をしておく。	4時間
第14回	<b>旅行業の未来像と、旅行業に求められる人材について</b>  旅行業の将来の姿の考察し、旅行業に求められる能力を理解する。 旅行商品企画グループワーク（第11回：海外旅行成果発表会/前半）	教科書、第14講、1章、2章を読み、旅行業が観光において果たすべき役割と旅行業に求められる人材に必要な能力を理解しておく。海外企画旅行発表会の準備をする。	4時間
第15回	<b>授業の振り返り</b> 講義の振り返りをします。 旅行商品企画グループワーク（第12回：海外旅行成果発表会/後半） 期末レポート作成にあたり、研究倫理のもと、著作権と個人情報についての再確認をします。	海外企画旅行発表会の準備をする。	4時間

①

授業科目名	<b>国際経営戦略論</b>				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	2年・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA）、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて各国・大手企業の格付等、本授業に関連する各種の業務を担当（全15回）。				

## 授業概要

企業経営においてグローバル化の重要性は益々増大化しています。本講義は、「国際経営総論」で学んだ基本的な事項をベースに、企業活動のグローバル化に関する経営戦略について、海外市場への参入戦略、人事戦略、マーケティング戦略、生産戦略、提携戦略など国際経営に係る戦略に関する知識・理論や最新のトレンドについてより深く学びます。講義の中では、具体的な多国籍企業の事例や動向等を解説するとともに数多くの質問を投げかけ、討議するなど双方向型の授業とします。

## 養うべき力と到達目標

### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力

### 具体的内容：

国際経営戦略に関連する事項の重要事項、理論、論点を理解する。

### 目標：

国際経営戦略に関する重要事項、理論、論点について理解し説明できる。

国際経営戦略に関わる重要な問題を、自分なりの見解やアイデアで発見し、その解決案等を考えることができる。

国際経営戦略に関する基本的な計画や立案を行うことができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意するが、改善が見られない場合はイエローカードを渡し減点（1点/枚）対象とすることがあります。

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

小レポート（授業時間内）

： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述の場合は0点とします。

30%

期末試験

： 国際経営戦略に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていたかを基準にして評価します。

70%

## 使用教科書

指定する

### 著者

大木清弘

### タイトル

・ コア・テキスト国際経営

### 出版社

・ 新世社

### 出版年

・ 2017年

## 参考文献等

吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣  
 江夏健一・太田正孝・藤井健（2013）『シリーズ国際ビジネス 1 国際ビジネス入門<第2版>』中央経済社  
 チャールズ・W・L・ヒル（2013）『国際ビジネス1-3』楽工社

その他は適宜紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業時間内にも伝達しますが、授業に関連する資料は、原則として、各回の授業日の前日までにLドライブの講師名・科目名のフォルダーに掲示しますので、それを参照したり適宜印刷して予習・復習を行ってください。また、本講義の内容を深く理解する上で、国際的な企業の活動、それに関連する国際政治・国際経済・国際社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するよう心掛けてください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限  
 場所： 44研究室（西館3階）

## 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<b>ガイダンス、国際経営とは何か、経営戦略とは何か</b>  国際経営および経営戦略とはどのようなものかについて、その概要や、本授業でカバーする内容などについて学びます。	教科書の第1章を読んで、国際経営や国際経営戦略に関するイメージや興味、知りたい点などをまとめて授業に臨んでください。	4時間
第2回	<b>多国籍企業の国際経営の事例</b>  代表的な多国籍企業を例にして、その国際経営戦略の特徴や重要点を学びます。	国際経営、国際経営理論の実際について典型的な多国籍企業の事例をもとに復習します。	4時間
第3回	<b>海外直接投資の理論(1) プロダクトライフサイクル理論、内部化理論等</b>  海外直接投資とは何か（間接投資との違い）、その定義、日本企業の海外直接投資の動向や目的について概観し、その後、典型的な理論（プロダクトライフサイクル理論、内部化理論等）についての要点を学びます。	諸理論の内容を、教科書および講義中の解説内容、参考資料で復習し理解を深めます。	4時間

第4回	<b>海外直接投資の理論(2) 折衷理論、トランスナショナル理論</b>  企業の海外進出に係る代表的な理論である折衷理論（OLIパラダイム）やトランスナショナル理論につき、その要点を学びます。	講義で紹介した諸理論の内容を、教科書のみならず講義中の解説内容、参考資料を復習することにより理解を深めます。	4時間
第5回	<b>海外進出の理論に係る企業事例</b>  第3回、第4回の授業で学んだ諸理論に関し、具体的な多国籍企業の事例を分析・検討して、より深く理解します。	前回と前々回の授業で学んだ海外進出の理論について典型的な多国籍企業の事例とともに復習します。	4時間
第6回	<b>海外子会社</b>  海外の子会社を経営する上での重要な課題、子会社の類型、設立の方法、役割などについて学びます。	講義中の解説内容、参考資料を復習し、海外子会社についての理解を深めます。	4時間
第7回	<b>国際パートナーシップ</b>  国際パートナーシップの目的、種類、課題などについて学びます。	講義中の解説内容、参考資料を復習し、国際パートナーシップについての理解を深めます。	4時間
第8回	<b>国際マーケティング</b>  マーケティングとは何か、国内マーケティングと国際マーケティングの違い、国際マーケティングの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料で復習し、国際マーケティングの重要点に関する理解を深めます。	4時間
第9回	<b>国際マーケティングの企業事例</b>  国際マーケティングに関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。	国際マーケティングについて多国籍企業の事例を復習します。	4時間
第10回	<b>国際生産</b>  海外での生産の意義・目的、実状などについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料で復習し、国際生産の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第11回	<b>国際生産の企業事例</b>  国際生産に関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。	国際生産について多国籍企業の事例を復習します。	4時間
第12回	<b>国際研究開発</b>  研究開発の国際化とは何か、その動向や目的・動機、どこに進出するのか（立地の選択）、知的財産に係る問題、研究開発拠点のマネジメントなどについて学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料で復習し、国際的な研究開発の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第13回	<b>国際的人的資源管理</b>  グローバル人材や国際的人的資源管理とは何か、企業の国際化と人的資源管理の重要点、駐在員と外国籍社員のマネジメントの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料で復習し、国際的人的資源管理の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第14回	<b>国際的人的資源管理の企業事例</b>  国際的人的資源管理に関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。	国際的人的資源管理について多国籍企業の事例を復習します。	4時間
第15回	<b>本講義のまとめ</b>  本講義で取り上げた重要事項について、教科書を振り返って再度学び理解を深めます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料で復習し、本講義での重要点に関する理解を深めます。加えて、今後、知りたいこと、学びたいことを考えます。	4時間

①

授業科目名	ホテルマネジメント論				
担当教員名	島雅則				
学年・コース等	2年・3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長を務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。(全15回)				

### 授業概要

サービス産業の中核に位置するホテルの事業経営の両輪であるホスピタリティとマーケティングの本質を学ぶとともに、その特異な経営手法も身に付ける。ホテル現場の運営知識の習得にくわえ、様々な事例にケーススタディ形式で触れ、学ぶことにより、ホテルマネジメントへの興味と自己啓発意欲を高める。運営と経営の両視点からホテルビジネスを理解することにより、ホテル業界のグローバル化と生産性向上にマネジメントレベルで取り組める高度経営人材の育成を目指す。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ホテル業界に関する知識	ホテルビジネス実務検定試験（H検）ベーシックレベルの実務知識の習得。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ホテル業界の課題解決に取り組める力	実例をもとに課題解決のための仮説設定とその論理的説明ができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		ケーススタディから本質的な課題を発掘し、検討できる。
2．DP5. 計画・立案力		課題に対して、柔軟な条件設定ができ、具体的な改善、解決策を提示できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)
  - 提出物について、適宜グループで共有し相互評価ができる時間を設けます。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、放棄と見なします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	60%	：基礎知識が習得でき、授業内容が良く理解できていること。記述問題については、論理的文章作成力を評価します。
小テストと小レポート	30%	：理解度と論理性について、独自のルーブリックに基づいて3段階で評価します。
授業への参加度	10%	：授業やグループワークでの教員、メンバーとのやり取りを科目独自のルーブリックに基づいて評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

石石寛夫著『ホスピタリティ(サービスの原点)』(商業界、2014年)、徳江潤一郎著『ホテル経営概論』(同文館、2013年)、仲谷秀一著『新・総支配人論』(嵯峨野書院、2004年)、『ホテル・ビジネス・ブック』(中央経済社、2006年)、田尾佳子著『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』(白桃書房、2016年)、『数字でとらえるホスピタリティ』(産業能率大学出版部刊、2014年)、その他の参考文献は授業の中で随時紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。ホテル業界にキャリアを求める学生はもとより、業種業界を問わずホスピタリティマインドとホテル経営知識を武器にグローバルに活躍できる人材の要件を明らかにし、その育成の足掛かりとする。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日：2限、3限

場所： 島研究室（西館）

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。  
(shima-m@osaka-seikei.ac.jp) メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション、ホテル業界は今</b>  講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認します。動画も使いホテル業界の現状と課題を共有し、ホテルマネジメントスキルの修得のための道筋を示します。	4時間
第2回	<b>ホテルの歴史と基本知識</b>  世界の主要ホテルチェーン3つを選び、その発祥と発展の経緯並びに特徴についてまとめる	4時間

	ホテルの語源と起源を学び、観光産業を構成する重要な業種の一つであるホテル業の発展の歴史を世界と日本で概観します。キーワードはしっかりと押さえてください。		
第3回	<b>世界のホテルチェーンを知る</b>  現在の主要な世界ホテルチェーンを多面的に分類し、それぞれの生き残りのためのグローバル戦略について考え、議論します。	日本の知っているホテル、利用したことのあるホテル、憧れのホテルについて、その印象とイメージを思い浮かべ、キーワード等で表現してみる	4時間
第4回	<b>日本のホテルチェーンを知る</b>  日本の主要ホテルチェーンとその置かれている現状を学び、外資系とのホテル戦争をどう乗り切るかを考え、その仮説について議論します。	自身を振り返り、「記憶に残るサービス体験」(いつ、どこで、どのような)について何故記憶に残っているのかを考えて報告書を作成する	4時間
第5回	<b>サービスとホスピタリティ</b>  サービスとホスピタリティについて、その違いと位置付けを理解する。CSとESの相互関係とホスピタリティとの関係性を明らかにするとともに、日系ホテルに求められるグローバルホスピタリティは何かを議論します。	アルバイトや部活等で先輩を指導するにあたり、上手く行かず困った経験、あるいは自身が先輩から指導、アドバイスを得て成長を実感できた経験について、それは何故かを考えレポートにまとめる	4時間
第6回	<b>人材育成のためのコーチングスキル</b>  コミュニケーションスキルの一つであるコーチング技法を学び、ホスピタリティとの関係を理解します。ロールプレイを通じて実際にスキルとその効果を体感してもらいます。	次回の授業で使用使用するプリントテキストを読み込み、宿泊と料飲について疑問点をリストアップする	4時間
第7回	<b>ホテルの実務知識①(宿泊と料飲)</b>  ホテル運営の要である宿泊部門と料飲部門の基礎を学びます。予習をしてきた使用テキストの内容について疑問を解消しながらポイントを整理します。	次回の授業で使用使用するプリントテキストを読み込み、宴会とブライダルについて疑問点をリストアップする	4時間
第8回	<b>ホテルの実務知識②(宴会とブライダル)</b>  日本のホテルで独特の発展をしてきた宴会部門とブライダル部門について学習します。予習をしてきた使用テキストの内容について疑問を解消しながらポイントを整理します。	次回の授業で使用使用するプリントテキストを読み込み、営業とマーケティングについて疑問点をリストアップする	4時間
第9回	<b>ホテルの実務知識③(営業とマーケティング)</b>  前2回の授業で学んだホテル現場の収益部門を援助・補佐し、企業の経営戦略を具体的に実行する中枢部門である営業・マーケティング部門について学びます。予習をしてきた使用テキストの内容について疑問を解消しながらポイントを整理します。	次回の授業で使用使用するプリントテキストを読み込み、ホテルの管理部門について疑問点をリストアップする	4時間
第10回	<b>ホテルの実務知識④(管理)</b>  営業部門を後方支援する役割の管理部門について、総務人事、施設管理、仕入購買を中心に学びます。予習をしてきた使用テキストの内容について疑問を解消しながらポイントを整理します。	自身で選んだ3つのホテルについて、その事業形態の変遷についてまとめる	4時間
第11回	<b>ホテルの事業形態</b>  ホテル事業には大きく分けて4つの形態があります。それぞれの特徴、長所短所を学び、今後外資系の主要ホテルチェーンと伍してグローバルに生き残るための条件について考えてもらいます。	ホテル会計に関して調べ、特にポイント思われる特殊用語を選び、通常の会計とどこが、どのように違うのかをまとめる	4時間
第12回	<b>ホテル会計と収益管理</b>  ホテルをグローバルレベルで評価するためには、米国のホテル会計の統一制度である「ユニフォームシステム」の理解が不可欠です。その特殊性と有用性を学ぶことにより、ホテルビジネスを経営の視点で見る力を養います。	次回の授業で使用使用するプリントテキストを読み込み、ホテル総支配人の4つのミッションを理解した上で、疑問点をリストアップする	4時間
第13回	<b>総支配人のミッション</b>  ホテルの総支配人がいかに多能で、様々なスキルを身に付ける必要があるかを理解してもらい、ホテル業界を目指す皆さんには総支配人を目標に自らのキャリア形成の道筋を明確にできるよう指導したいと思います。	次回の授業にお招きする外部講師(ホテル総支配人経験者)に聞きたいこと、疑問点等をまとめてくる	4時間
第14回	<b>総支配人の話を聞く(外部講師)</b>  大手ホテルの総支配人を含むマネジメント経験豊富な講師をお招きし、ホテル現場の実態からホテル経営のポイントまで講義していただきます。※講師のご予定の関係で日程が変更になることがあります。	外部講師から出された事後課題について、自分の考えをまとめ、レポートを作成する	4時間
第15回	<b>グループ発表と講義の振り返り</b>  第14回授業の事後課題についてグループで討議し発表する。その後、全15回の授業の総括で締めくくります。	シラバスの到達目標に照らして自身の達成目標と未達目標を明確にする。未達部分については復習し正しく理解し、定期試験に備える	4時間

④

授業科目名	<b>消費者行動論</b>				
担当教員名	国枝よしみ				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社を経て、ホテル、自治体でマーケティング戦略等の経験をもつ教員が担当する。				

### 授業概要

企業が円滑にマーケティング活動を進めるためには、消費者のニーズや行動について十分な理解や的確な分析が必要です。そのため授業では、マーケティングの視点から消費者行動を取り上げ、先行研究より理論の体系的理解を深め、消費者行動の基礎的知識を身につけます。また、消費者はなぜ製品を購入するのか、どのような買い方や使い方をを行うのかなどを理解・分析します。具体的な事例から消費者行動についての基礎的概念・モデル・理論を学習することで、消費者の視点から企業のマーケティング戦略を立案できるようになります。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

#### 具体的内容：

消費者行動の理論や分析方法を学び、マーケティング戦略との関係を知る  
消費者行動の情報処理モデルを理解し、企業がどのように活用しているかを学習する

#### 目標：

企業のマーケティング活動と消費者行動論の関係を理解する  
消費者行動のメカニズムを理解し、企業のマーケティング戦略を立案する

企業のマーケティング戦略を計画、立案できる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。  
授業への参加・発言、プレゼンテーション内容、発表のスキル、テスト、最終レポートで評価する。  
独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への参加および発言	20%	： 授業中の積極的な参加、また、発言を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する
プレゼンテーション	20%	： 独自のルーブリックに基づいて、発表内容、発表のスキルなど5段階で評価する
テスト	20%	： 学習した内容に関する理解度を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
最終レポート	40%	： 独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
青木幸弘	・ 消費者行動の知識	・ 日経文庫	・ 2012年

### 参考文献等

青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司「消費者行動論」有斐閣アルマ

### 履修上の注意・備考・メッセージ

マーケティングの授業を受講していることが望ましい。授業中は、マナーを守り他の学生の迷惑にならないように留意してください。授業への積極的な参加を期待します。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜2限  
場所： 研究室（西館3階）  
備考・注意事項： 上記以外もできるだけ対応しますので、立ち寄ってください

### 授業計画

回数	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>消費者行動とマーケティング</b> 企業は、効果的かつ効率的にマーケティング活動を行うために消費者行動への理解と分析を行います。そこで第1回は消費者行動とは何か、また消費者行動を学ぶ重要性を明らかにするとともにマーケティングとの関係性について解説します。	マーケティングについて復習しておくこと	4時間
第2回	<b>消費者行動の系譜</b> 消費者行動の研究を歴史的に俯瞰します。1950年代から現代までどのような研究がされてきたのかを、事例を紹介しながら考えます。	消費者行動の事例を考えてくること	4時間
第3回	<b>消費者行動先行研究</b>	提示された課題をグループでまとめ次週発表する	4時間

	分析のフレームワーク：消費者行動は多面的かつ多様なため、そのままでは分析することはできません。そのためどのようなフレームワークで分析が可能か視角を解説します。次に日常生活様式から消費行動のメカニズムを考えます。以上のことについて、次週の課題を提示します。		
第4回	<b>消費者の購買行動</b> 課題の発表を行い、それらを踏まえて消費者の購買行動を考えます。 消費者の購買行動：消費者の購買行動における選択、意思決定プロセスを通じて消費行動の分析モデルを解説します。	意思決定プロセスを復習しておくこと	4時間
第5回	<b>消費者行動の変化</b> 消費者行動の変化：消費者を取り巻く環境の変化によって消費も変わってきたことを認識しながら、消費行動分析の3つのアプローチを解説します。インターネットの登場によって大きく変化した消費者行動を考察します	提示された課題を各自まとめ次週発表する	4時間
第6回	<b>消費様式の選択プロセス</b> 課題の発表後、なぜその製品やサービスを購入するのかを考えます。 消費様式の選択プロセス：消費者が購入する製品やサービスは通常特定パターンの消費行為と結びついていることを学習します。また消費プロセスの変容が市場に影響を及ぼすことを考察します。	これまでの学習内容を復習しておくこと	4時間
第7回	<b>購買行動と意思決定</b> 購買行動と意思決定：購買行動のメカニズムを学生の皆さんに身近な製品やサービスの事例を用いて考察します。	これまでの学習内容を復習しておくこと	4時間
第8回	<b>目標と関与</b> 目標と関与：ここでいう目標とは個人の「望ましい状態」のことを指します。具体的な事例を提供しますので、グループで話し合っそのメカニズムについて考えてみてください。	自身の購買行動から関与について考えてくること	4時間
第9回	<b>情報処理の能力</b> 各自の購買行動から関与についてディスカッションします。 購買意思決定プロセス：消費者行動の意思決定プロセスは①問題意識②情報探索③代替案評価④選択・購買⑤購買後の評価といったプロセスをたどるといわれています。実際どのようなことなのか、体験しながら考察します。	これまでの学習の振り返りを行っておくこと	4時間
第10回	<b>情報処理システム</b> 情報処理システム：消費者情報処理理論の考え方に基づき情報処理プロセスにおける記憶や知識の役割を確認しながら製品などに関わる知覚符号化のプロセスを検討します。  これまでの学習内容についてテストを行います	テストでできなかった箇所を復習しておくこと	4時間
第11回	<b>顧客満足とロイヤルティ</b> 顧客満足とロイヤルティ：消費者の購買後の情報処理について、そのメカニズムについて事例をもとに考えます。購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用等を取り扱います。	提示された課題をまとめる	4時間
第12回	<b>消費者行動とブランド</b> 課題についての発表後、ディスカッションを行います。 消費者行動とブランド：ブランド認知についてその分類や役割を解説します。身近な事例をもとに考えます。また、ブランド連想・ブランド態度についてその機能や構造について考察します。	提示された課題をまとめる	4時間
第13回	<b>消費者行動とマーケティング</b> 提示された課題の発表。 消費者行動を踏まえたマーケティング戦略：これまでの学習を活かして、消費者の購買につながるマーケティング戦略を考えてみます。	ある企業のブランドを取り上げそれについて調べまとめる	4時間
第14回	<b>消費者行動とコミュニケーション戦略</b> 消費者行動とコミュニケーション戦略：企業ではどのような戦略がとられているのかケーススタディをします。また、課題について質問します。	選択した企業のブランドの戦略をまとめること	4時間
第15回	<b>プレゼンテーションと講評</b> プレゼンテーションと講評：これまで学んだ消費者行動の諸理論や事例を活かして、企業のマーケティング戦略を分析、発表します。	発表内容を最終レポートとしてまとめる	4時間

授業科目名	<b>ブライダル事業論</b>				
担当教員名	島雅則				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長を務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つとともに、ブライダル業界の動向にも精通。(全15回)				

## 授業概要

ブライダルビジネスは、挙式や披露宴の施設の選択肢の増加とともにその周辺産業も巻き込み、年間2.5兆円(2016年、主要6分野)もの大市場となっています。一方で、結婚観や価値観の多様化、晩婚化、少子化など時代の流れの中、競争激化が同業界自体の様相を変えつつあります。本授業では、婚礼事業のオペレーションやマーケティングの実際や最新の知識を学ぶとともに、ピーター・F・ドラッカーの事業戦略策定の考え方をケーススタディに取り入れ、今の事業の問題点や方向性について幅広く考え議論し、将来の業界への提言としてまとめます。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ブライダル業界に関する知識	ブライダル業界の動向と事業特性について理解できる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ブライダル業界の課題解決に取り組める力	SWOT分析を通じて仮説の設定とその論理的説明ができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		現状分析から課題や問題点の本質を見抜き、検討できる。
2 . DP7. 完遂		与えられた問題解決テーマに関して、提言として論理的に完成させることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末レポート	: 4つの指標(授業理解度、論理性、発想力、好奇心)を用いて、科目独自のルーブリックで評価します。 40%
中期事業計画資料	: 事業としてのブライダルについての自己の考えを整理し、的確に表現できているかを、専門知識の理解も含めて全学ルーブリックで評価します。 30%
プレゼンテーション	: 第15回授業でのグループ発表において、その内容と貢献度を中心に独自のルーブリックを用いて評価・配点します。 10%
小テスト、小レポート	: 授業理解度と論理性について、独自のルーブリックに基づいて3段階で評価します。 20%

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

ゼクシィ(リクルート発行の月刊結婚情報誌)並びにその公式サイトwww.zexy.net、沼上幹著『ブライダル産業〜デフレ下における需要構造分析』(東洋経済新報社 2017年)、ピーター・F・ドラッカー著『創造する経営者』並びに『イノベーションと起業家精神』(ダイヤモンド社 2007年)、藤屋伸二著『ドラッカーから学ぶ多角化戦略』(クロスメディア・パブリッシング 2015年)、【論文】徳江順一郎『ブライダルにおける市場の変化とホスピタリティ』(高崎経済大学論集第54巻第2号 2011年)、河内山潔、石川夕起子『ブライダル企業のケーススタディーワタベウェディング株式会社をケースとして』(関西国際大学研究紀要12巻 2011年)

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
自ら考え、グループワークで考えを共有し、それを整理することの繰り返して独自の事業戦略を構築できることの楽しさを実感してほしいと思います。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日：3限、4限  
場所： 島研究室(西館)  
備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、shima-m@osaka-seikei.ac.jp宛に学籍番号、氏名を記入し送付してください。

## 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<b>オリエンテーション、ブライダルの現場を知る</b>  講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認します。初回はレベルの高い接客スキルが求められるブライダルプランナーの仕事を知ってもらいます。ホスピタリティと感情労働の現場を理解することは、ブライダル事業経営を考える上で大切な礎(いしずえ)となります。	何故ブライダル事業に興味を持ったのかをレポートにまとめ、この授業での自身の到達目標について宣言する	4時間
第2回	<b>日本のブライダル業界の現状</b>	結婚式や結婚披露宴に出席した経験、アルバイトで披露宴での宴会サービスを担当して感じたこと、あるいは身内の経験者の話を聴いて興味を持った出来事やトピックスをレポートにまとめる	4時間

	<p>ブライダル業界の現状と今直面している課題を共有し、皆さんがこれからのこの業界の事業戦略を考えるための足掛かりを提供します。</p>		
第3回	<p><b>日本におけるブライダルビジネスの歴史と変遷</b></p> <p>ブライダルビジネスはいつから始まったのか、その歴史を紐解きながら現状（専門式場からホテルの参入、ブライダルハウスの台頭、神式からチャペル式、シビル式、白無垢・打掛からウェディングドレスへ）と、時代の空気=顧客の期待とリンクしていく「施設」や「スタイル」の変遷を学びます。</p>	<p>グループに分かれ、大手ホテル2施設を選びそれぞれのブライダル部門の商品構成やコンセプト、戦略についてネットや書籍で調べ違いを明確にまとめる（次回授業で発表）</p>	4時間
第4回	<p><b>ホテルのブライダル</b></p> <p>事前課題についてグループ毎の発表後、ホテルのブライダル部門の特徴や位置付けについて学びます。</p>	<p>前回と同じグループで、大手のブライダル専業会社2社を選び企業概要（沿革や事業内容）を調べ、それぞれの違いと特色をまとめる（次回授業で発表）</p>	4時間
第5回	<p><b>専業会社のブライダル</b></p> <p>事前課題についてグループ毎の発表後、異業種からの参入も相次ぎ台頭が著しい「ゲストハウス」が何故短期間で急成長してきたのかを直接競合する「ホテル」との比較の中で検証します。</p>	<p>マーケティングについてネットや書籍等で調べ、今までの自身の知識と理解との違いや気づきを整理しレポートにまとめる</p>	4時間
第6回	<p><b>ブライダルマーケティング</b></p> <p>ブライダルビジネスにおいてマーケティングがいかに重要であるかを理解します。具体的には、「広告周知」→「新規来館」→「決定成約」→「施工打合せ」という流れの中でブライダルマーケティングがどのように機能しているかを学びます。</p>	<p>再度グループに分かれて、第5回授業で見たブライダル専業会社から1社を選び、既存事業の業績を上げるための方策を検討し、レポートにまとめる</p>	4時間
第7回	<p><b>企業の仕事①（事業分析）</b></p> <p>事前課題についてグループ毎の発表後、ピーター・ドラッカーの事業分析の理論と手法を学びます。企業(事業)の目的は何か？を理解し、事業戦略構築のための論理的思考に取り組んでもらいます。</p>	<p>前回取り上げたブライダル専業会社について、潜在的な事業機会は何か？またその事業を実現するための条件をグループでまとめる。</p>	4時間
第8回	<p><b>企業の仕事②（事業機会の発見）</b></p> <p>事前課題についてグループ毎の発表後、潜在的な事業機会の発見のためのドラッカーの手法を学びます。その手法に基づいて各グループの発表内容の妥当性に関してチェックし議論します。</p>	<p>前回と同じブライダル専業会社が、長期的視野で開発取り組むべき新しい事業に関して、グループで議論しその理由とともにレポートにまとめる</p>	4時間
第9回	<p><b>企業の仕事③（新事業の開発）</b></p> <p>事前課題についてグループ毎の発表後、新しい事業を開発すること、すなわちイノベーションについてドラッカーの考え方を学びます。事前課題でグループが出した結論との整合性について議論し、その内容をまとめてもらいます。</p>	<p>業種業界を問わず、企業の事業多角化の事例をネットや書籍で調べ、成功事例と失敗事例を3ケースずつ報告する</p>	4時間
第10回	<p><b>事業の多角化戦略①（事例研究）</b></p> <p>グループでそれぞれの事例を共有し、成功と失敗の理由を考え議論してもらいます。代表的な事例をグループ毎に発表した後、事業多角化のポイントについて講義で学びます。</p>	<p>第7～8回の授業で事業戦略を策定したブライダル専業会社に関して、その多角化戦略に死角はないのか？をグループ毎に再検討し、改善策に関してまとめる</p>	4時間
第11回	<p><b>事業の多角化戦略②（計画・立案）</b></p> <p>事前課題についてグループ毎の発表後、それぞれの具体例を用いてブライダル企業の事業多角化の注意点に関して組織と人事の側面も含めて包括的に考えてもらいます。</p>	<p>第11回目までの授業とグループ中心の授業外ワークを振り返り、学んだこと、反省点そして今後の取り組みに関してまとめ、次回のブライダル会社経営者の特別授業に期待することとともにレポートを作成する</p>	4時間
第12回	<p><b>ブライダル専業会社の経営者の話を聴く</b></p> <p>ブライダルを専業とする企業の経営者を招き、自社の事業経営についてお話ししていただきます。講義後は時間を設け、皆さんからの質問に答えていただいた上で、次回授業で取り組む課題を頂戴します。</p>	<p>外部講師から出された課題について、個人ワークで自身の考えをまとめ次回授業のグループワークと発表に備える(レポートは次回授業終了後に提出)</p>	4時間
第13回	<p><b>グループワーク（発表と事業計画作成の準備）</b></p> <p>前回授業で外部講師から出された課題についてグループで討議し、発表します。最終授業で発表する「中期事業計画」の対象とする企業を決定する。（対象は、第7～11回の授業で取り上げ、分析した企業以外のブライダル専業企業であること）</p>	<p>事業計画を策定するにあたり、前回までの授業で習得した事業多角化の基本的な考え方をもとに各自が試案を作成し、レポートする</p>	4時間
第14回	<p><b>中期事業計画案の作成</b></p> <p>グループで各自の事業案を発表、共有し、グループの計画案を決定する。PC教室に移動し、プレゼンテーション用のパワーポイント資料の作成に取り掛かる。</p>	<p>最終授業でのプレゼンテーション用の資料を完成させ、発表時の役割分担も決定する</p>	4時間
第15回	<p><b>プレゼンテーション、授業の振り返りと総括</b></p> <p>グループ毎に対象として選んだ企業の中期事業戦略案を発表する。その後、全15回の授業の総括で締めくくります。</p>	<p>シラバスの到達目標に照らして、自身の達成目標と未達目標を明確にする。未達部分については復習と今後の継続学習により正しく理解する</p>	4時間

授業科目名	<b>観光マーケティング</b>				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

観光は人々の楽しみに大きく関与するものなので、その期待に応えていくためには、他の一般商品以上にお客様の視点に立ったマーケティングの発想が不可欠である。本講義では、観光ビジネスではどのようなマーケティングが実践されているのかを理解するために、マーケティングの基本的な理論とケーススタディを中心に講義を行う。観光客を受け入れる都市や地域は集客のためにどのような取り組みをしているのかについても分かりやすく紹介する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

マーケティングの基礎理論と観光マーケティングの実践方法の理解

#### 目標：

マーケティングを学ぶ上で必要な理論の理解とそれに対応する観光のケーススタディを通して、実践で発揮する力を付ける。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光動向を把握してもらうことによって、観光地における集客戦略やリピーター率向上のための取り組みについて考察することが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
「試験（小テスト、中間テスト、期末テスト）」

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小テスト・受講態度	20%	： 授業内容から出されるクイズの答えを提出してもらい、平常点として成績に反映する。
中間テスト	40%	： 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
期末テスト	40%	： 次の観点から評価する。1. マーケティングの基礎知識を正しく理解、2. 観光マーケティングのケーススタディを通して、集客戦略やリピーター率向上のための取り組みについてご自身で考察できるのか。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
森下 晶美編著	・ 新版 観光マーケティング入門	・ 同友館	・ 2016年

### 参考文献等

ホスピタリティ・ビジネス研究会訳（Philip Kotler 外2人）『ホスピタリティと観光マーケティング』 東海大学出版部 1997年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜1限（9:00-10:30）  
場所： 研究室（西館2階）  
備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

### 授業計画

回数	内容	事前準備	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション・マーケティングとは</b> 学習内容や評価方法、受講についての注意事項などについて説明したうえで、マーケティング・観光マーケティングとは何かについてQuiz形式で確認します。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回	<b>ホスピタリティと観光のマーケティングについて</b> マーケティングの定義について確認したうえで、ホスピタリティ・ツーリズムのマーケティングの特徴について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、4P, 7P）	4時間
第3回	<b>商品購買と人間ニーズの充足</b> マーケティングは、「お客の思い」を正しく理解するための活動であることを学び、本当のニーズをつかむことが大事であることを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニーズ、ウォンツ）	4時間
第4回	<b>購買意思決定のプロセス</b>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：AIDMA法則、AISAS理論）	4時間

	商品の購買に至る一連の行動について理論と事例を通して理解します。また、購買に影響を与える消費者の特性について学びます。		
第5回	<b>お客とはだれなのか。市場細分化、ポジショニング</b>  消費者を“ある尺度”で共通したグループに分類すると市場細分化についてその理由や基準等について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：セグメンテーション、ターゲット・マーケティング）	4時間
第6回	<b>マーケティング環境分析：SWOT分析</b>  マーケティング環境分析の必要性和ツールとしてのSWOT分析について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：Strength, Weakness, Opportunity, Threat）	4時間
第7回	<b>マーケティング・リサーチ</b>  マーケティング・リサーチの企画・設計の進め方やデータ収集のための尺度・質問文作成における注意点などについて学ぶ。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PDCA、定量的データ、定性的データ）	4時間
第8回	<b>Reviewと中間テスト</b> 現在までの授業内容をまとめた上で、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回	<b>プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント</b>  プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント手法を理解し、プロダクト・ライフサイクルの概念と観光地のライフサイクルにおける特徴や問題点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PPM、プロダクト・ライフサイクル）	4時間
第10回	<b>旅行商品流通チャネル</b>  旅行商品の種類と特徴について理解したうえで、旅行商品の流通チャネルについて理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：パッケージツアー、ホールセール）	4時間
第11回	<b>マーケティングで価格戦略を策定</b>  競争優位の基本戦略を理解し、価格決定方法や競争市場戦略の4つの位置づけについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：スケールメリット、競争市場戦略）	4時間
第12回	<b>ブランドマーケティング</b>  ブランド・イメージの定義やブランド構築のプロセスなどについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ブランド・アイデンティティ、持続性）	4時間
第13回	<b>観光地ブランドと地域づくり</b>  観光地におけるブランド構築や地域づくりにおけるポイントについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：コンセンサス、ディマーケティング）	4時間
第14回	<b>カスタマー・リレーションシップ・マーケティング</b>  CRMの概念やCRMが重視されるようになった背景について理解したうえで、実践事例を通じてその考え方を理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：CRM、データベース・マーケティング）	4時間
第15回	<b>振り返り、まとめ</b> 現在までの授業内容をまとめます。	ノートをまとめる、全体の内容を理解する。	4時間

授業科目名	<b>専門演習1【国観】</b>				
担当教員名	国枝よしみ・中野毅				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国内外航空会社、ホテル、旅行会社、地方自治体等で豊富な実務経験を持つ教員が担当する。（全15回）				

### 授業概要

本演習では、日本が基幹産業の一つとして位置づける「観光」について現状を把握しながら、これまでの研究の流れや観光産業の仕組み、地域の観光振興事業など幅広く学んでいきます。具体的には、フィールド調査や文献研究等を行い、経営学の主要な概念（例えば流通システム、経営組織、マーケティング戦略等）を用いて企業のみならず地域の課題に関する考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、企業や地域における経営者や経営に関わる人材に求められる総合的な課題解決力や思考力を身につけることができます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

観光産業や地域観光について基本的知識を自らで調べて発表し、議論する。  
観光産業の経営の仕組みを解説します  
観光産業の経営の仕組みを学ぶ

#### 目標：

自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。  
観光産業の経営戦略を立案できる

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。

### 学外連携学修

有り（連携先：関空旅博2019事務局）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。  
フィールド調査の参加、プレゼンテーション内容、発表のスキル、テスト、最終レポートで評価する。  
独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

フィールド調査参加	20%	：積極的にフィールド調査に参加し、役割を果たしたかどうかについて、独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
プレゼンテーション	20%	：グループの研究内容の発表内容、発表のスキルなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
テスト	30%	：「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
最終レポート	30%	：プロジェクトテーマに沿って書かれているか、指定の形式に沿って書かれているかについて独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

高橋 一夫、柏木 千春 他 『1からの観光事業論』（碩学舎 2016）  
吉兼 秀夫、国枝 よしみ 他 『地域創造のための観光マネジメント講座』（学芸出版社 2016）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 国枝：金曜2限、中野：金曜3限

場所： 各研究室（西館）

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

### 授業計画

第1回

#### イントロダクション

授業の目的や目標、進め方など前期・後期授業の概要を説明し、卒業論文までのプロセス概要を解説する。また研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行います。観光関連の研究の紹介を行い、どのような課題について研究が行われているかを学ぶ。

図書館等での文献検索方法を復習しておくこと

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<b>講義 観光の現状と産業</b> 現在日本における観光の現状を把握する。観光産業を俯瞰しながら、フィールド調査の対象となる空港、各国観光局、地域の関係性を考え、空港で行われるイベント事業の意義を理解する。	フィールド調査行方際、興味のある観光局、旅行会社について予め調べておくこと	4時間
第3回	<b>観光産業の経営課題 1 (旅行業分野)</b> 旅行会社の仕組みと経営の観点から課題を考察する。旅行会社に関する文献を提示し各グループで輪読し、概要を他チームに次週発表する。	提示された文献を読んでまとめる	4時間
第4回	<b>観光産業の経営課題 2 (文献概要発表)</b> 旅行会社の文献の概要を各チームに分かれて発表する。発表後、講評と旅行会社の経営の課題を解説する。	提示された文献を読んでまとめる	4時間
第5回	<b>フィールド調査事前講義</b> 空港、各国観光局、旅行会社、地域の目指すものや課題を考察する。現地の課題は何か、仮説を立てる。仮説の立て方、検証までの分析方法を学ぶ。	フィールド調査で行う質問等準備をしておく	4時間
第6回	<b>現地フィールド調査</b> 関西国際空港において旅博に参加する。参加を通して、空港、各国観光局、旅行会社、地域の目指すものや課題を考察しながら、仮説と照らし合わせ、どのような結果であったかを考える	現地での体験や調査結果をまとめる	4時間
第7回	<b>フィールド調査振り返り</b> 調査で気づいたことをまとめるための分析方法を学ぶ。公的情報、民間データの使い方等を学び、どのように分析するかを考察する。次週の発表には、何らかのデータを使い客観的な視点を取り入れる。	発表の内容をまとめ、練習しておく	4時間
第8回	<b>調査結果の発表とディスカッション</b> 仮説の検証を行う。各チームが調査結果に基づいた発表を行う。その後、ディスカッションと講評を行う。インターネット関連のオンラインエージェントの文献を提示する。来週までに輪読して発表する	提示された文献を読んでまとめる	4時間
第9回	<b>観光産業の経営課題 3 (オンライン事業分野)</b> インターネット関連のオンラインエージェントの研究の概要を各グループで発表する。ネットエージェントの経営の仕組みを解説する。旅行会社とオンラインエージェントの比較を次週までにまとめる。	提示された課題をまとめる	4時間
第10回	<b>観光産業の経営課題 4 (旅行事業とオンライン事業の比較)</b> 旅行会社とオンラインエージェントの比較を発表する。2つの事業の経営を比較しながら今後の展開予想などを解説する。ホテル・旅館に関する文献紹介と輪読。	提示された文献を読んでまとめる	4時間
第11回	<b>観光産業の経営課題 5 (宿泊事業分野)</b> ホテル・旅館に関する文献の要約を発表する。ホテルの経営の仕組みを解説する。ホテルと旅館を比較して経営の観点からどのような違いがあるかをグループで考察、まとめ次週発表する。	提示された課題をまとめる	4時間
第12回	<b>宿泊事業文献概要発表と文献研究のまとめ</b> ホテルと旅館の比較をまとめ発表する。その後ディスカッションと講評。民泊に関する新聞記事等を提示して、民泊は必要か、必要でないかをまとめて次週発表する。	提示された課題をまとめる	4時間
第13回	<b>講義 観光産業のまとめ</b> 民泊に関する発表を各チームが行う。ディスカッション後、発表の講評と民泊に関する仕組みや課題を解説する。	これまでの学習内容を復習しておく	4時間
第14回	<b>テスト</b> これまでに学習した内容の復習の後、まとめのテストを行う。	質問等ある場合はまとめて次週確認する	4時間
第15回	<b>学習のまとめ</b> 演習全体の総括を行う。 期末レポート課題：各自興味のある分野の文献を参照しながら、観光産業の経営課題についてのレポートをまとめる。レポート作成にあたり研究倫理のもと、著作権と個人情報取り扱いについて再確認をします。	期末レポートを期日までにまとめる	4時間

授業科目名	<b>専門演習2【国観】</b>				
担当教員名	国枝よしみ・中野毅				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国内外航空会社、ホテル、旅行会社、地方自治体等で豊富な実務経験を持つ教員が担当する。（全15回）				

### 授業概要

本演習では、日本が基幹産業の一つとして位置づける「観光」について現状を把握しながら、これまでの研究の流れや観光産業の仕組み、地域の観光振興事業など幅広く学んでいきます。具体的には、フィールド調査や文献研究等を行い、経営学の主要な概念（例えば流通システム、経営組織、マーケティング戦略等）を用いて企業のみならず地域の課題に関する考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、企業や地域における経営者や経営に関わる人材に求められる総合的な課題解決力や思考力を身につけることができます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

観光産業や地域観光について基本的知識を自らで調べて発表し、議論する。

#### 目標：

自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見

自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。

### 学外連携学修

有り（連携先：自治体を予定している）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。  
フィールド調査参加、プレゼンテーション内容、発表のスキル、最終レポートで評価する。  
独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

フィールド調査参加	20%	： 積極的にプロジェクトに参加し、役割を果たしたかどうかについて、独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
プレゼンテーション	30%	： グループの研究成果の発表内容、発表のスキルなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
期末レポート	50%	： 深く内容を掘り下げているか、考察は十分かなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

高橋 一夫、柏木 千春 他 『1からの観光事業論』（碩学舎 2016）  
吉兼 秀夫、国枝 よしみ 他 『地域創造のための観光マネジメント講座』（学芸出版社 2016）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 国枝：金曜2限、中野：金曜3限

場所： 各研究室（西館）

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

### 授業計画

回	内容	前期の授業の復習をしておくこと	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>イントロダクション</b> 授業の目的や目標、進め方など後期授業の概要を説明する。卒業論文までのプロセスを確認しながら、前期で学んだことを振り返る。観光関連の研究の紹介については、前期の学習を除く観光産業、国、都市、自治体など地域を行い、どのような課題について研究が行われているかを学ぶ。また研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについての確認も行います。	前期の授業の復習をしておくこと	4時間
第2回	<b>調査・マーケティングリサーチとは</b> 調査の手法の違いと特性について解説します。卒業論文で調査をする場合に必要となりますので内容を理解して不明な点は必ず質問すること。	学習した内容を復習のこと	4時間

第3回	<b>定性調査</b> インタビュー調査のロールプレイング	学習した内容を復習のこと	4時間
第4回	<b>講義 観光の現状と産業</b> 観光に関するグローバルな視点で現状を把握する。運輸業（航空、鉄道等）の文献の概要を各チームで輪読する。	提示された文献の内容をまとめる	4時間
第5回	<b>観光産業の経営課題6（航空事業分野）</b> 運輸業の文献のまとめを各グループで発表する。航空事業の仕組みを解説する。次週までにレガシィキャリアとLCCを比較して発表する。	提示された課題をまとめる	4時間
第6回	<b>観光産業の経営課題7（航空事業比較）</b> レガシィキャリアとLCCの比較を各チームで発表する。レガシィキャリアとLCCのメリット、デメリットなどをディスカッションする。鉄道に関する文献を提示するので来週までにまとめを行う。	提示された文献の内容をまとめる	4時間
第7回	<b>観光産業の経営課題8（鉄道事業分野）</b> 鉄道の文献のまとめと発表を各グループで行う。講評の後、鉄道事業の解説をする。鉄道事業の特徴や、多様なサービスに着目する。その後国や広域自治体等の仕組みを講義する。	関心のある自治体を選び質問内容を考えておく	4時間
第8回	<b>フィールドワーク事前学習</b> 自治体の仕組みを解説する。その後予め設定した自治体への観光の取り組みに関してヒアリング調査を計画する。どのようなことを質問すればよいかを考え準備し、アポイントを取っておく。	フィールドワークの準備をしておくこと	4時間
第9回	<b>フィールドワーク</b> 各グループに分かれて、ヒアリング調査に行く。（観光課の他、商工労働課、農林水産課なども可能）。調査内容をまとめ次週発表する。	フィールドワークの内容をまとめておく	4時間
第10回	<b>フィールドワーク事後学習</b> フィールドワークの結果を各チームに分かれて発表する。発表後ディスカッションし、地域のニーズや課題は何かを話し合う。	興味ある観光地を選び予め調べておく	4時間
第11回	<b>地域観光（観光振興）</b> 国内における観光地の観光振興の仕組みを解説する。観光地に関する文献を輪読する。次週までに概要をまとめる	提示された課題の内容をまとめる	4時間
第12回	<b>地域観光（文献のまとめ）</b> 観光地の文献のまとめを各チームに分かれて発表する。その後、国内の観光振興の事例研究について講義。各チームが観光振興についてある地域を選択し、その地域の取り組みをまとめ次週発表する。	提示された文献の内容をまとめる	4時間
第13回	<b>地域観光（事例研究）</b> 地域の観光振興について発表する。その後ディスカッションし、どのような点がすぐれているか等話しあう。海外の観光地についての文献を輪読し、次週までに要約を理解し、次週発表する。	テーマパークの役割、地域への波及効果を調べておく	4時間
第14回	<b>地域観光（テーマパーク）</b> 事例として、テーマパークを取り上げ、地域に及ぼす経済効果を考える。	これまでの学習内容を復習、まとめておく	4時間
第15回	<b>学習のまとめ</b> 演習全体の総括を行う。 期末レポート課題：各自興味のある分野の文献を参照しながら、観光産業の経営課題についてのレポートをまとめる。レポート作成にあたり研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについて再確認をします。	期末レポートを期日までにまとめる	4時間